族院議員に選ばる君は春雄の長男にして明治三十年七月十六日を以て生れ大正九年榮爵被仰付同十四年明治大學法科を卒業す家族は弟武雄（大四、三生）あり妹名津（明三三、二一生）は千葉縣人秋元三左衛門の樂子となり叔父二郎（文久三、二一生）は其妻を伴ひ分家し妹國（大元、九生）は兵庫縣人松原保太郎に嫁し叔母勢以子（文久二、二生）は靜岡縣士族江川英文の母たり（東京市淺谷區青葉町九）

參照＝伊丹二郎、江川英文の項

伊丹眞次郎　東邦電力㈱計算課長　東京府在籍

妻　倭　明三四、七生、京都、柴田彌兵衛三女

男　孝　昭五、八生

君は佐賀縣人伊丹彌太郎の二男にして明治二十六年二月十日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す大正七年東京高等商業學校を卒業し現時東邦電力會社計算課長たり家族は長女孝子（昭二、四生）あり（東京市牛込區市谷臺町五電四谷七七九）

伊丹直三　大阪製作所㈱專務取締役　大阪府在籍

妻　直　明二八、七生、大阪、鳥飼武佑二女

男　晧　大一五、四生

女　淑子　大七、一生

君は德島縣人伊丹熊太郎の三男にして明治十六年二月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す現時大阪製作所專務取締役たり家族は尙三女立（大一〇、三生）あり妹キヨ（明二八、二生）は愛媛縣人黑川榮一に嫁せり（大阪市東成區中道元町一ノ四九電國東三五）

伊丹彦次郎　窓の梅酒造㈱監査役　佐賀縣在籍

男　一郎　明三二、一生

男　文二　明四一、二生

君は佐賀縣士族福島儀六の二男にして慶應三年十二月を以て生れ同縣士族伊丹文右衛門の養子となり明治二十二年分れて一家を創立す現時商記會社の重役にして義に唐津銀行唐津窯業會社佐賀紡績會社の重役たりし事あり二女スミ（明二四、五生）は佐賀縣人八木清太郎に三女トキ（同二六、九生）は同縣人武富龍次郎に四女トヨ（同三〇、一生）は東京府士族鈴木祥技に五女フテ（同三四、一生）は兵庫縣人石谷長五郎三男金次郎に六女トメ（同三六、七生）は同縣人永井長造孫成夫に七女シツ子（同三八、七生）は京都府人鹿田重厚に嫁し八女芳子（同四二、一生）は佐賀縣人福島安太郎の養子となれり（佐賀市道祖元町五六電三一）

參照＝八木清太郎※大石忠一※高島基江の項

伊丹政吉　正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第三十八旅團長、德島縣在籍

妻　ツギ　明三〇、八生、德島、泰地谷藏二女

君は明治十六年二月二日を以て生る同三十六年陸軍士官學校を卒業して三十七年少尉に任じ昭和八年同少將に累進す第十六師團司令部附福知山歩兵第二十聯隊長近衛歩兵第四聯隊長東京陸軍幼年學校長等に歴補し昭和九年歩兵第三十八旅團長に補せらる（朝鮮成興北道羅南陸軍官舍電四六）

伊丹松雄　從三位勳二等功四級、陸軍中將、大東水電㈱取締役、東京府士族　明二五、七生、福岡、內田定槌長女

男　親雄　大二、三生

君は鹿兒島縣士族伊丹親恒の長男にして明治八年九月二十二日を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十年陸軍歩兵少尉に任じ爾來累進して大正十三年陸軍中將に陞る其間明治三十五年陸軍參謀本部參謀長軍事參議官副官元帥副官陸軍大學校教官南米北米英國各國駐在大使館附武官參謀本部第二都長第九師團長等に歴補し昭和二年豫備役に編入せらる昭和四年大東水電會社取締役に舉げらる家族は尙三女政子（昭四、三生）姉久良（慶應二、二生）あり長女智（明三六、一一生）は鹿兒島縣人市來半次郎に嫁せり（東京市世田谷區池尻町三六六電世田谷二歪二一）

參照＝※井上克巳の項

伊丹政吉　正四位勳二等、海軍中將　東京府士族

妻　キミ　明二四、一二生、鹿兒島、士、迫水周一長女

男　引一　明四四、四生

君は鹿兒島縣士族伊地知弘一の長男にして明治十四年六月を以て生れ同二十八年家督を相續す同三十五年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任じ昭和六年十二月海軍中將に累進す其間海軍大學校を卒業し海軍軍令部參謀横須賀鎭守府參謀長門副長洲崎特務艦長旅順要港部參謀長海軍省軍需局第一課長川內山城各艦長に歴補し爾來吳鎭守府參謀長第二遣外艦隊司令官海軍軍令部出仕を經て昭和六年三月大湊要港部司令官に補せられしも現時閑地に在り家族は尙三男信雄（大七、一生）二女芳子（同一一、一生）七男昭（昭二、一〇生）八男英雄（同四、一生）あり（東京市中野區西町九電中野五一一八）

伊地知峻　薩摩製絲㈱代表取締役　鹿兒島縣士族

妻　アイ　明三、九生、鹿兒島、士、若松金十郎長女

男　太郎　明二一、一生

婿　萬年青　明三二、一二生、長男太郎妻、兵庫、臼井源藏姪

男　三郎　明二七、九生

婿　はる　明三六、五生、二男三郎妻、靜岡、進士喜代太長女

女　シゲ　明四二、七生

女　多賀　明四四、一〇生

君は鹿兒島縣士族伊地知愬兵衛の長男にして安政六年八月を以て生れ明治九年家督を相續す現時薩摩製絲會社代表取締役にして義に鹿兒島電氣軌道會社取締役たりし事あり家族は尙五男正雄（大五、二生）孫恭子（同一一、九生、長男太郎長女）同育子（同一五、二生、同二女）同福子（昭二、八生、同三女）あり長女ミキ（明三三、三生）は東京府士族安藤則光に三女ナヲ（同三八、一〇生）は宮崎縣士族神戸政一長男政郎に妹コト（同三、一一生）は鹿兒島縣士族汾陽光宏に嫁せり（鹿兒島市冷水町二三七電五一三）

參照＝安藤則光、進士喜代太の項

伊地知純正　早稻田大學教授、商學部勤務　宮崎縣在籍

妻　守子　明三〇年生、鹿兒島、第一高女出身

男　英央　昭三年生

女　純子　大六年生、青山女學院在學

君は宮崎縣人にして明治十七年六月十七日を以て生る同四十年早稻田大學商科を卒業し翌年ジャパンタイムス社記者となり大いに健筆を揮ふ同四十二年早稻田大學講師に轉じ大正三年同教授に進み今日に至る明治四十三年より大正二年に至る迄又大正八年より九年に亘る間英米佛に留學し更に昭和七年學術視察のため歐米に出張す讀書旅行を趣味とす家族は尙女唐子（大九年生、青山女學院在學）同章子（昭五年生）あり（東京市杉並區高圓寺七ノ八九五）

伊地知壯一　中島飛行機會社員、東京工場勤務　東京府在籍

妻　雅樂子　明一三、九生、鹿兒島、故貴族院議員黑岡帶刀長女

母　セイ　明四一、一生、東京、士、湊山雅喜長女、府立第三高女出身

君は舊鹿兒島藩士伊地知貞馨二男先代壯熊の長男にして明治三十四年三月四日を以て生れ昭和六年家督を相續す先代壯熊は夙に米國に遊學し鐵道技師遞信省御用掛帝國鐵道廳技師鐵道院技師を經て實業界に入り小倉鐵道會社々長日田鐵道會社專務取締役たりし人なり君は昭和二年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業し現時中島飛行機會社員たり家族は尙弟壯二郎（明四〇、一生）同妻正代子（大二、四生、東京、西村榮藏三女）甥博（昭八、一〇生、弟壯二郎長男）妹國子（大六、一二生）あり叔母ヒロ（慶應二、七生）は鹿兒島縣士族伊地知虎彦兒故海軍中將彦次郎の未亡人なりA七九九（東京市杉並區荻窪二ノ二二）

參照＝伊地知虎彦、湊山雅喜の項

伊地知精　從五位、男爵　東京府華族

母　ミキ　明一四、三生、侯爵、西鄕從德妹

當家は先代幸介より襲る幸介は舊鹿兒島藩士にして夙に軍籍に入り累進して陸軍中將に陞る日清戰役には砲兵中佐として出征し功四級を賜はり日露戰役には滿洲軍第三軍參謀長旅順要塞司令官として偉勳を奏し功二級を賜はり明治四十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる後東京灣要塞司令官第十一師團長等に歴補せり君は其長男にして明治四十年三月二十五日を以て生れ大正六年家督を相續し爵位仰付けらる姉梅子（明二五、三生）は子爵小川武次に同百合子（同二六、六生）は東京府士族莊田達彌に同花子（同二九、五生）は稻垣鐵郎に嫁せり（東京市中野區住吉町三六電四谷三九九六）

參照＝侯爵西鄕從德、子爵小川武次、莊田達彌※公爵岩倉具榮※侯爵西鄕吉之助※伯爵小松從志子爵稻葉順通※子爵內藤頼補※子爵松平直諤※男爵鍋島直明※男爵古河虎之助※西鄕豐二の項

伊地知虎彦　液化炭酸㈱社長、日滿亞麻紡織、太洋海運各㈱取締役、鹿兒島縣士族

母　ヨト　天保一〇、一二生、鹿兒島、士、高崎五郎右衛門三女

妻　良　明二四、六生、高知、士、仙石貫長女

清　明四三、二生、京大經濟學部在學

君は故海軍中將伊地知彦次郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十七年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入る後之を辭し現に液化炭酸會社長にして又前記會社の重役たり家族は尙亡兄彦次郎妻ヒロ（慶應二、七生、鹿兒島、伊地知莊一叔母）あり（東京市麻布區材木町二二電青山六四三四）

參照＝伊地知壯一※石原雅二郎の項

伊地知正興　正五位、伯爵　鹿兒島縣華族

母　ヒロ　明一一、二生、鹿兒島、田尻源左衛門五女

當家は正三位正治より顧る正治は舊鹿兒島藩士にして夙に尊王の大義を唱道し戊辰の役藩兵を率ゐて幕軍を鳥羽伏見に擊破し長驅して東北各地に轉戰し悉く之に徇ふ維新後鹿兒島藩權大參事中議官大議官左院議長參議一等侍講修史局總裁宮中顧問官等に歴任し明治十七年勳功に依り華族に列し伯爵を授けらる長男正一郎其後を享け嗣で弟正輔に讓る君は先代正輔の二男にして正治の孫なり明治四十年五月二日を以て生れ大正十二年家督を相續し爵位仰付けらる家族は尙妹操子（明四四、二生）伯父正一郎（同二、一一生、從五位）あり（鹿兒島市平之町）

伊地知光朗　從四位勳五等、京都府多額納稅者　地家主、京都府士族

妻　きく　明二一、五生、滋賀、矢野平四郎長女

男　光一　大二、一生

君は京都府士族伊地知光定の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名經二郎を改む同四十一年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し地家主たり京都府多額納稅者にして直接國稅三千二十七圓を納む義に地方技師に任じ京都府工場監督官たりし事あり家族は尙三女多賀子（大一二、一〇生）四女光子（昭二、一生）弟宗邦（明二二、一生）同濱五郎（同二五、四生）同妻千代（同三三、八生、滋賀、矢野平四郎五女）及其二男一女あり弟正三郎（同一八、三生）は分家し二女朗子（明四一、一二生）は佐賀縣人草場榮喜長男幸雄に妹獸（同二九、九生）は大阪府人武內進三に同延子（同三二、一二生）は三重縣人西塚泰順に長女喜枝子（同三九、七生）は奈良縣人塚原伸光に嫁せりA二二〇九（京都市左京區岡崎法勝寺町電上一五四九）

參照＝草場榮喜※新田昌炎の項

伊豆富人　正六位、衆議院議員（熊本縣選出）　東京府在籍

妻　ツル　明二四、一二生、熊本、岡田政太郎妹

男　一郎　大五、一一生、武藏高校在學

女　節子　大八、一一生、三輪田高女在學

君は熊本縣人伊豆權哉の弟にして明治二十一年九月二十日を以て生れ昭和七年十二月分れて一家を創立す大正四年早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し後九州日々新聞社記者東京朝日新聞社記者となり又義に遞信大臣秘書官に任ず昭和七年熊本縣第二區より推されて衆議院議員に當選し國民同盟所屬たり（東京市麻布區廣尾町二電高輪三〇六九）

伊豆凡夫

正五位勳三等功三級、陸軍少將、富國徴兵保險(五)常務取締役、東京府在籍

妻　ふみと　明一二、二生、故海軍造兵總監前田亨三女

男　忍　明二九、七生

婦　得　明三四、七生、長男忍妻、山梨、加賀美喜男妹

君は福岡縣人伊豆文十郎の二男にして元治元年一月二十五日を以て生れ明治三十三年分れて一家を創立す同十九年陸軍歩兵少尉に任ぜられ累進して陸軍少將に陞任す其間參謀本部々員陸軍大學校教官等に歷補し日露の役に第一師團參謀として功あり功三級に敍せらる現時退役して前記會社の重役たり家族は尙孫信義(大一三、六生、長男忍長男)同久美子(昭六、八生、同長女)あり長女妙子(明三三、三生)は福岡縣人芳賀重三に嫁し二男克巳(同三七、一二生)は東京府人前田安貞の死跡を相續せりA一二九一(東京市品川區西品川三ノ八四二電高輪四八)

伊手衡

正五位勳四等、賞勳局書記官、宮城縣士族

妻　たれ　明二九、二生、宮城、士族、佐藤喜一郎二女

男　健一　大五、七生、東京高校在學

女　多惠　大七、六生、櫻蔭高女在學

君は宮城縣士族菅井貞行の二男にして明治二十二年五月を以て生れ同二十七年本家の家督を相續す夙に東京帝國大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來埼玉縣屬福島縣及警視廳各警視六本木警察署長等に歷任し大正十二年賞勳局書記官に任ぜられ今日に及ぶ家族は尙二女佐和(大一二、四生)あり妹潔(明三二、三生)は兵庫縣人柳田靜則に嫁せり(東京市中野區大和町一五五電四谷四七一六)

伊東愛吉

横濱正金銀行(株)人事課長、東京府在籍

妻　三重　明三〇、三生、東京、豊川順彌妹雙葉高女出身

君は舊薩摩藩士伊東數の四男にして同祐吉の兄なり明治十六年六月を以て生れ大正元年兄祐夫方より分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し横濱正金銀行に入り爾來東京上海孟買倫敦各支店詰天津支店支配人外國課長となり昭和九年同行人事課長兼外國課役に轉ぜられ以て今日に及ぶA三七四(東京市本郷區駒込上富士前町九三電大塚四八七七)

伊東郁二

愛知縣多額納稅者、衣浦銀行(株)常務取締役、酒造業、愛知縣在籍

妻　早苗　明三二、一〇生、東京、大賓陣二女

男　基夫　大一〇、一二生

君は岐阜縣人矢橋德次郎の二男にして明治二十八年八月二十二日を以て生れ大正九年先代早苗の入夫となり家督を相續す同八年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し酒造業を營む傍に銀行會社の重役にして直接國稅三千三百二十三圓を納め愛知縣多額納稅者たり家族は尙長女美江(大一〇、一生)二男康夫(同一二、三生)二女君枝(同一五、九生)三男崇夫(昭五、八生)あり(愛知縣知多郡龜崎町電二六〇)

參照‖大賓陣※男爵石河光遐の項

伊東一二

明治製菓(株)取締役、東京府士族

男　一助　明三〇、一一生

女　東海　明三〇、一二生

男　安彦　明三四、八生

女　菊江　明三七、一一生

女　義子　明三四、七生

治　大三、七生

君は東京府士族伊藤祐敬の二男にして慶應三年七月十三日を以て生る現時明治製菓會社取締役たり家族は尙男一助、二生、現戸主)あり(東京市大森區田蛇谷字東二郎丸※男爵高橋新二の項

伊東岩太郎

伊東琺瑯(株)代表取締役、琺瑯器製造業大阪府在籍

父　岩次郎　慶應二、六生、現戸主

母　きぬ　明二、一二生、和歌山、伊藤朝次郎叔母

妻　カノ　明二八、一〇生、大阪、今井五郎右衛門二女

男　英太郎　大一〇、三生

君は和歌山縣人伊東岩次郎の長男にして明治二十二年四月五日を以て生る前記伊東琺瑯器會社代表取締役にして現に琺瑯器製造業を營む家族は尙二男好男(大一四、三生)三男正雄(昭三、二生)四男一雄(同五、六生)弟誠次郎(明四二、五生)あり妹たる(同三八、二生)は大阪府人高木喜太郎長男喜藏に嫁せりA二二九九(大阪市西成區粉濱東通三ノ七七電住吉二二五九)

參照‖高木喜太郎の項

伊東市太郎

地家主、東京府在籍

妻　イセ　明八、五生、群馬、川村富藏二女

男　隆太郎　明二五、三生

君は東京府人先代市太郎の長男にして明治四年七月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名誠太郎を改め襲名す地家主たり五女つる(明三七、八生)は東京府人關口安五郎に六女美(同三九、八生)は同府人深山小兵衛二男二郎に嫁せりA三三七(東京市城東區亀戸町三ノ一七五電墨田三〇九九)

伊東榮信

從五位勳六等、檢事、所檢事兼熊本地方裁判所檢事、京都府在籍

妻　照子　明三二、七生、京都淑德高女出身

女　美榮子　大九、九生、八代高女在學

男　邦彦　大一一、一一生

君は京都府人にして明治二十二年四月を以て生る大正六年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同九年檢事に任ぜられ京都岡山各地方裁判所檢事を經て同十一年臺灣總督府法院判官に轉じ同十五年再び檢事に任じ田川小倉川内各區裁判所等に檢事を歷補現時前記の官職に在り(熊本縣八代郡八代町八代區裁判所檢事局内)

伊東延吉

從四位勳三等、文部省思想局長、愛知縣在籍

父　祐吉　文久二、一〇生、現戸主

母　たね　明三、五生、愛知、石黒邦兵衛長女

妻　周子　明三二、五生、岐阜、馬淵銳太郎二女、三重縣立高女出身

男　一　大一四、一生

君は愛知縣人伊東祐吉の長男にして明治二十四年五月を以て生る大正四年文官高等試驗に合格し翌五年東京帝國大學法科大學法律科を卒業す爾來岩手縣警視同理事官文部事務官文部省參事官文部大臣祕書官文部書記官文部省學生部長等に歷任し現に文部省思想局長たり家族は尙長女彩(大九、二生)二女彬(同一一、二生)の外弟秀雄(明三五、六生)同妻晴(同三九、五生、愛知醫學博士多田學三郎三女)及其一男弟俊夫(同三七、八生)同雄造(同四二、一二生)あり姉ふさ(同二〇、一生)は愛知縣人醫學博士三原吉裕に妹みは(同二八、七生)は醫學士榊原韓一に同信(同三一、二生)は醫學博士天木順吉に同いく(同三二、一〇生)は工學士高橋惟康に嫁し叔父季雄(同六、三生)は分家せり(東京市麻布區宮村町一〇ノ一六電赤坂五一四)

參照‖天木順吉、馬淵銳太郎の項

伊東脩

金物商、京都府在籍

母　シカ　慶應三、七生、京都、伊藤平兵衛二女

君は京都府人伊東幸之助の五男にして明治三十九年一月十六日を以て生れ大正十年家督を相續す同十五年同志社專門學校高等商學部を卒業し現時金物商を營む姉裕子(明三四、六生)は同夫謹三郎(同三二、五生、京都中野市右衛門三郎)と共に其一男一女を伴ひ分家せりA一五六九(京都市下京區枳殼馬場通間ノ町東入電下五五四)

伊東嘉太郎

鹿島銀行(株)常務取締役、鹿島酒造、鹿島肥料、濱延結商會各(株)監査役、佐賀縣在籍

妻　キマ　明七、一〇生、養父安太郎三女

男　忠平　明四四、一〇生

養子　正太郎　明三六、二生、佐賀、伊東都吉長男

君は佐賀縣人一ノ瀬熊藏の長男にして明治三年十月を以て生れ先代安太郎の養子となり大正七年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして兼に肥前商會の鑑査役たりA一一五(佐賀縣藤津郡鹿島村)

伊東九郎

正五位、子爵、東京電燈會社員、舊備中岡田藩

伊東久米藏

動六等、工學博士、商工省工業品規格統一調査委員、日本シロトエン自動車販賣(株)重役、東京衡機製造所賣代表社員、伊東工業事務所長、機械製作業、福岡縣士族

妻　トキ　明一七、三生、鹿兒島、故深川助九郎長女

信　大六、一生、福井、金子直三男

君は福岡縣士族伊東朋の長男にして明治六年三月十六日を以て生れ同八年家督を相續す同三十一年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正四年工學博士の學位を授けらる兼に三菱造船會社長筈造船所技師同神戸造船所副長内燃機製造所長等に歷任し明治四十四年より大正七年造船造機業視察スチームタービン、デイーゼル機關其他の内燃機關並飛行機及潜水艦製造研究の爲め前後四回渡歐し三菱内燃機會社の創立に盡す所渉からず大正八年創立と同時に同社常務取締役に舉げらる同十一年退社し伊東工業事務所を設け蒸氣タービン機關其他機械工業一般の設計鑑定工事監督及び顧問の業務に從事し傍ら商工省工業品規格統一調査委員し傍ら商工省工業品規格統一調査委員東京衡機製造所代表社員其他前記會社の重役たりA三〇〇(東京市麹町區丸ノ内二ノ六東九號館伊東工業事務所電丸ノ内一九二四)

伊東才三郎

海苔商、東京府在籍

母　たき　明二〇、六生、東京、平澤作太郎三女

君は東京府人先代伊東才三郎の長男にして明治四十二年八月を以て生れ昭和七年家督を相續襲名す父榮を承けて現に海苔商を營む家族は尙弟榮一(明四四、六生)同元夫(大五、八生)同勇(同一〇、五生)同茂(同一三、四生)妹妙子(同一一、六生)同美沙子(昭三、三生)亡伯父妻ヨシ(明一三、一二生)ありA六八八B七〇(東京市大森區大森七ノ三三八電大森六一八)

伊東榮

伊東胡蝶園、御園化粧品本舗、東京府在籍

參照‖※鄽口高次※本山彦一の項

伊東啓次郎

和歌山商工會議所顧問、金物商、和歌山縣在籍

妻　春惠　明二三、一生、和歌山、茂田幸枝華母

養子　雄三郎　明四五、五生、和歌山、伊東松之助三男

君は和歌山縣人伊東啓助の長男にして明治二年九月を以て生れ同十六年家督を相續す伊東啓本店と稱し金物商を營み現時和歌山商工會議所顧問たり妹ぬい(明六、二生)は和歌山縣人岩橋種補に同のぶ(同一二、七生)は同縣人島田久次郎二男梅次郎に嫁せり(和歌山市寄合町一七電一五一)

伊東亨吉

江島屋、倉庫業、東京府在籍

母　ハン　明一三、八生、東京、薩摩治兵衛姉

妻　勝子　大三、九生、東京、中西一郎長女

男　トーマスアキラ　昭七、五生

君は東京府人伊東泰二郎の二男にして明治四十三年十月八日を以て生れ大正十五年祖父茂右衛門の後を襲ひ家督を相續す江島屋と稱し倉庫業を營む家族は尙叔父忠郎(明二五、一〇生)叔母なつ(大五、七生)あり同はた(明四四、四生)は分家せり(東京市大森區北千束町一六四)

參照‖薩摩治兵衛※千坂智次郎の項

伊東才三郎

海苔商、東京府在籍

母　たき　明二〇、六生、東京、平澤作太郎三女

君は東京府人先代伊東才三郎の長男にして明治四十二年八月を以て生れ昭和七年家督を相續襲名す父榮を承けて現に海苔商を營む家族は尙弟榮一(明四四、六生)同元夫(大五、八生)同勇(同一〇、五生)同茂(同一三、四生)妹妙子(同一一、六生)同美沙子(昭三、三生)亡伯父妻ヨシ(明一三、一二生)ありA六八八B七〇(東京市大森區大森七ノ三三八電大森六一八)

伊東榮

伊東胡蝶園、御園化粧品本舗、東京府在籍

母 かう 明一八、三生、醫學博士、山本誠一姉

妻 雅代 大二、八生、東京、古屋惣八長女御茶の水高女出身

當家は舊佐賀藩に醫道を以て仕へたる家柄なり曾祖父贈從四位玄朴は夙に醫方を修め本邦種痘の嚆矢者を以て顯る先々代榮御園白粉を創始して又名あり先代榮隈米を漫遊し化粧品に對する新智識を得て歸朝し鋭意家業の發展に努め斯界に雄飛し功に依り綬褒章を賜はる君は其の二男にして明治三十九年七月三十日を以て生れ昭和四年家督を相續し前名修保を改め襲名す昭和六年慶應義塾大學經濟學部を卒業し家業御園化粧品商を營み伊東胡蝶園と稱す運動音樂文藝寫眞等に趣味あり家族は尙長女淳子(昭九、三生)妹美代(大二、一〇生、鄰心女子學院出身)弟蕊保(同四、一〇生、慶大在學)同尙保(同六、七生、慶應普通部在學)同孝保(同九、五生、同上校在學)同吉保(同一二、一生)あり妹八重(明四二、三生、雙葉高女出身)は鹿兒島縣人床次竹二郎二男德二に叔母タマ(同一一、一〇生)は群馬縣士族石川彦太に同と(同二〇、三生)は醫學博士望月寛一に嫁せりA一九二六B五六八(東京市麻布區本村町一四五電高輪五二七二)

參照‖床次竹二郎、古屋惣八の項

伊東貞興

從四位勳五等、日本ペイント㈱取締役、東京府在籍

妻 まさ 明一三、三生、東京、石橋政一長女

養子 慶藏 明三四、八生、亡長女なみ夫、東京、奥村嘉平三男

女 みつ子 明四五、五生、川村女學院出身

君は東京府人伊東正太郎の二男にして明治元年十月二十四日を以て生れ大正九年兄鄰治郎方より分れて一家を創立す明治三十年東京帝國大學工科大學を卒業し同三十四年英獨に留學す爾來大阪高等工業學校教授大阪工業試驗場長京都帝國大學理工科大學講師大阪砲兵工廠技術顧問等を經て大正七年日本ペイント會社に技師長として入り現時取締役たり家族は尙孫良興(昭八、二生、養子慶藏長男)ありA一三八(東京市芝區高輪南町三〇電高輪九一〇)

伊東三省

從四位、日本ペイント㈱取締役、東京府在籍

妻 す ゑ 明一八、五生、神奈川、横山彌之助養母

男 義郎 大一一、四生

女 美代子 大三、四生

利寧子 大七、九生

君は長野縣人伊東養伯の三男にして明治六年八月を以て生れ大正五年兄養德方より分れて一家を創立す現時君は故樞密顧問官伯爵伊東巳代治の三男にして伯爵伊東太郎の弟子爵伊東九郎の兄なり明治十九年三月十六日を以て生れ大正十年分て一家を創立す先是明治四十五年早稲田大學政治經濟學科を卒業し現時東京電燈會社常務監査役たる外商記各會社の重役東京築地活版製造所顧問たり家族は尙長女よれ(大一四、一一生)あり(東京市本郷區駒込林町三一電小石川四三九〇)

參照‖伯爵伊東太郎、子爵伊東九郎、市島德厚※男爵高橋新二

伊東四郎

東京府在籍

男 秀雄 大六、八、一生

女 綾子 大元、八生

君は東京府士族伊東元祐の四男にして明治十一年八月二十七日を以て生れ同四十一年第五郎方より分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し夙に日本勸業銀行に入り出納課長を經て預金課長となり現時同行參事たり兼た日本勸業證券會社取締役たりしことありA三三〇(東京市目黒區洗足町一三四〇電荏原二三二九)

伊東三郎

東京電燈、東電電氣商品、大和毛織各㈱常務㈱監査役、東京築地活版製造所㈱顧問、東京府在籍

妻 ミネ 明三三、六生、新潟、市島德厚妹

男 巳之吉 大一一、八生

君は故樞密顧問官伯爵伊東巳代治の三男にして伯爵伊東太郎の弟子爵伊東九郎の兄なり明治十九年三月十六日を以て生れ大正十年分て一家を創立す先是明治四十五年早稲田大學政治經濟學科を卒業し現時東京電燈會社常務監査役たる外商記各會社の重役東京築地活版製造所顧問たり家族は尙長女よれ(大一四、一一生)あり(東京市本郷區駒込林町三一電小石川四三九〇)

參照‖伯爵伊東太郎、子爵伊東九郎、市島德厚※男爵高橋新二

伊東二郎丸

從三位、子爵、貴族院議員、東京府華族

妻 登世 明二七、九生、東京、士、原六郎三女、學習院女學部出身

男 英麿 大三、一生

女 敦子 大五、五生

當家は先代祐麿より顯る祐麿は舊鹿兒島藩士にして維新の際王事に勤め明治三年海軍少佐に任じ累進して海軍中將に陞る其間東海鎮守府司令長官軍務局長兵學校長等に歴補し明治十七年勳功に依り華族に列し子爵を授けらる後元老院議員に歴任す君は其二男にして伯爵伊東靖祐の從兄なり明治十六年八月二十九日を以て生れ同三十九年學習院を卒業し日本製鋼所に入り在英二年歸朝後高砂商工銀行取締役に擧げらる大正十二年貴族院議員に當選し現に其任に在り研究會に屬し夙に同十四年海軍參與官に任ぜらる昭和五年陸軍政務次官に任ぜられ同六年若槻第二次內閣の下に重任せり家族は尙二男隆麿(大六、一一生)二女美知子(同一〇、九生)あり姉美代子(明一五、五生)は愛媛縣人古谷重綱兄久綱の未亡人たり(東京市芝區車町四二電高輪七九三)

參照‖伯爵伊東靖祐※子爵板倉勝朝※男爵高橋新二※伊東一二※北村重昌※原邦造の項

伊東治郎

愛知縣多額納稅者、貿商、愛知縣在籍

妻 ちよ 明五、一〇生、愛知、足立九八郎二女

女 正治 大二、二生

女 やす子 明四二、一生

女 あや 明四三、四生

女 ユリ 大六、七生

君は愛知縣人伊東米作の長男にして明治十一年二月を以て生れ同四十三年家督を相續す貿商を營み愛知縣多額納稅者にして直接國稅三千七十圓を納む業に豊橋米穀取引所豊橋電化工業豊橋電氣豊橋電氣軌道各會社重役に擧げらる家族は尙三男喜久夫(大八、一生)四女ふみ(同一〇、八生)五女きみ子(同一三、八生)四男久夫

(昭二、八生)六女瑠璃子(同四、六生)あり妹とと(明一八、八生)弟豊治(同二三、七生)は各分家し妹よね(同二六、八生)は靜岡縣人村越一に嫁せり(豊橋市靈町三〇電二一七七)

參照‖淡石黒俊夫の項

伊東俊吉

金融業、東京府在籍

君は東京府人伊藤金治の二男にして同歳太郎の弟なり明治三十一年十二月一日を以て生れ昭和七年兄歳太郎方より分れて一家を創立す現時金融業を營むA五五三B一三九(東京市小石川區白山前町六六)

參照‖伊東歳太郎の項

伊東信一

名古屋商工會議所議員、伊東信商店㊟代表社員、愛知縣在籍、織物製造業

妻 あや 明一九、九生、中西司馬長女、伊東商店㊟代表社員

君は愛知縣士族伊東春五郎の二男にして明治八年十二月を以て生れ大正二年兄繁九方より分れて一家を創立す明治三十三年東京外國語學校西語科を卒業し織物製造業を營み伊東信商店代表社員にして推されて名古屋商工會議所議員たりA八五八(名古屋市中區鐵砲町二ノ二電本局五二・二一三・二八七)

伊東淳吉

從四位勳三等、朝鮮總督府判事、京城地方法院長、青森縣在籍

妻 きみ 明二〇、一二生、渡邊銀治長女

男 高麗夫 明四二、九生

君は青森縣人伊東直藏の二男にして明治十年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十三年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十一年判事に任じ函館區裁判所判事を經て同四十二年統監府判事に任じ次で朝鮮總督府判事となり爾來公州地方法院京城地方法院同覆審法院高等法院各判事に歴補し昭和四年京城覆審法院部長となり同五年現職に陞る家族は尙長女亮子(大一二、九生)二女順子(同一三、一一生)あり(京城府西小門町官舍電光四二二)

伊東信藏

知多商工會議所議員、三河屋伊東商店㊟代表社員、酒醬油味噌商、愛知縣在籍

妻 たね 弘化四、九生、愛知、小栗喜七四女

母 女 明二四、四生、愛知、鳥山傳兵衛長女

男 昌 大元、一〇生、東京帝大農科在學

君は愛知縣人先代信藏の長男伊東猛次郎の養兄にして明治十八年十一月を以て生れ同二十三年家督を相續し同二十七日を以て生れ同二十年第五郎方より分れて一家を創立す明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十四年第五郎方より分れて一家を創立す明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十四年第五郎方より分れて一家を創立す明治三十三年東京外國語學校西語科を卒業し織物製造業を營み伊東信商店代表社員にして推されて名古屋商工會議所議員たりA八五八(名古屋市中區鐵砲町二ノ二電本局五二・二一三・二八七)

伊東淳吉

從四位勳三等、朝鮮總督府判事、京城地方法院長、青森縣在籍

妻 きみ 明二〇、一二生、渡邊銀治長女

男 高麗夫 明四二、九生

君は青森縣人伊東直藏の二男にして明治十年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十三年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十一年判事に任じ函館區裁判所判事を經て同四十二年統監府判事に任じ次で朝鮮總督府判事となり爾來公州地方法院京城地方法院同覆審法院高等法院各判事に歴補し昭和四年京城覆審法院部長となり同五年現職に陞る家族は尙長女亮子(大一二、九生)二女順子(同一三、一一生)あり(京城府西小門町官舍電光四二二)

伊東深水

日本畫家、東京府在籍

父 半三郎 文久元、一生、先代喜兵衛三男、現戸主

妻 好 明二七、三生、東京、永井政治長女

男 正一 大九、二生

君は東京府人伊東半三郎の三男にして明治三十一年二月四日を以て生る日本畫家たり素性畫材あり幼にして繪木清方の門に入り十五歳の時選畫會に入選し次いで文展帝展に出品して悉く入選し畫名愈著はる「穢敷の女」「十六の母」「乳搾る家」「指輪」「おしろい」「雲下り」「秋晴」等の一作毎に屢望を深め或ひは特選に擧げられ美術院賞を授けられ浮世繪系統に於ける有數の作家たるに至る現時深水畫塾を率ゆ古器を愛玩し釣魚を好み特に清元を能くす家族は尙二男滿(大一〇、九生)ありA三六四(東京市大森區池上本町一一一電池上二二二)

伊東祐淳

從五位、子爵、舊日向飫肥藩

母 經子 明一九、七生、子爵、松平康春姉

當家は藤原鎌足の男不比等の末裔にして其子武智麿より十代を經て駿河守時信に至り伊豆伊東庄に住するを以て伊東を姓とす後五世左衛門尉祐經の男祐時日向國飫肥の地頭となる十一代の孫民部大夫祐兵豊臣氏に隨て同社相談役たり家族は尙庶子秀(大一三、九生、生母、石川、東とみ)あり二女ゆり子(明二八、一生)は

伊東祐賢

從五位、子爵、舊日向飫肥藩

妻 すみ 明三八、四生

君は富山縣人伊東祐明の長男にして明治二年一月を以て生れ同二十四年養弟祐寛の後を享け家督を相續す同四十一年衆議院議員に當選し現時小川温泉會社長を經て同社相談役たり家族は尙庶子秀(大一三、九生、生母、石川、東とみ)あり二女ゆり子(明二八、一生)は

すそれより十代を經て先々代祐鴻に至り明治十七年子爵を授けらる先代祐弘は其長男にして明治二十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し歐米を漫遊する事二年貴族院議員に擧げらる君は祐弘の長男にして明治四十年九月三十日を以て生れ昭和六年家督を相續し同七年襲爵被仰付現時京都帝國大學經濟學部に在學す長男を趣味とす姉綾子(明三八、七生)は海軍中將飯田久恒長男日本大學教授照彦に嫁し叔母泰子(明二二、三生)は子爵吉田良銓の母たり(東京市赤坂區一ツ木町八〇電青山五八三二)

參照‖子爵松平康春、子爵吉田良銓、飯田久恒※侯爵松平康昌※子爵松平頼和※子爵森清※市島德厚の項

伊東祐夫

日向興業銀行㊟頭取、東京府士族

母 民 嘉永三、二生、鹿兒島、堀薙四郎五女

妻 シン 明一六、七生、鹿兒島、遠藤淵養女

男 祐光 大三、一二生

君は東京府士族伊東數の長男にして伊東愛吉同祐吉の兄なり明治六年十一月十六日を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十三年札幌農學校を卒業し日本勸業銀行に入り鑑定役となり次で佐賀藩本高知各支店長を經て後職を辭し現時日向興業銀行頭取たり二女綱(明四三、八生)は佐賀縣人井手秀雄に嫁し弟泰彦(同八、一生)は東京府士族銀倉直の養子となれり(宮崎市淀川町四一)

參照‖伊東愛吉、伊東祐吉の項

伊東祐吉

小川温泉㊟相談役、富山縣在籍

妻 すみ 明一一、二生、宮山、鳥坂助之助妹

男 禮三 明三八、四生

君は富山縣人伊東祐明の長男にして明治二年一月を以て生れ同二十四年養弟祐寛の後を享け家督を相續す同四十一年衆議院議員に當選し現時小川温泉會社長を經て同社相談役たり家族は尙庶子秀(大一三、九生、生母、石川、東とみ)あり二女ゆり子(明二八、一生)は

富山縣人伊東文三に嫁し庶子豊子（大一二、七生、生母、石川、東とみ）は石川縣人烏餘喜に弟與三次（明五、二生）は富山縣人米澤實に各養子となれりA一二一〇（富山縣下新川郡泊町電一七）

参照‖米澤與三次の項

伊東祐彦

妻　つる　明四二、一生、工學博士、伊東忠太二男

養子　祐信

正三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學名譽教授、靜岡、福岡縣在籍

君は舊米澤藩士伊東祐順の長男にして伯爵平田榮二並に平田昇の從兄なり慶應元年八月十七日を以て生れ前名熊次を改め昭和四年帝國大學醫科大學を卒業し同二十八年福岡縣立病院小兒科部長となり同三十三年福岡縣技師に轉任同三十四年歐米各國に出張同三十七年歸朝後京都帝國大學醫科大學教授同附屬醫院長九州帝國大學醫科大學長等に歴任し同三十九年醫學博士の學位を受く昭和二年同大學名譽教授に擧げられ同六年十一月紺綬褒章を授けらる養子薫（明三〇、五生、弟村井三雄藏二女）は山形縣人萩原國長男蔵に同昌子（同四三、九生、弟村井三雄藏六女）は新潟縣人結城幸一に嫁し弟三雄藏（同二、一一生）は同縣人村井せいの養子となれりA三八七（福岡市薬研町九電一三〇四）

参照‖伯爵平田榮二、伊東忠太然長岡隈一郎の項

伊東太平

養母　ゑい　慶應元、五生、大阪府在籍

妻　むろ　明一三、一生、長女

養子　辰雄　明三七、一〇生、二女

婿　清　明四二、四生、長崎縣多額納税者、藥剤師

君は長崎縣人山本儀兵衛の二男にして明治十二年五月十日を以て生れ先代太平の養子となり大正五年家督を相續し襲名して商名を改む米穀商を營む傍ら堂島米穀取引所正米商取引員たり家族は尚孫一郎（昭六

大阪堂島米穀取引所取引員、米穀商、大阪府在籍

長崎商工會議所議員、長崎縣多額納税者、藥剤師

明二三、四生、長崎、高谷太惣治長女

男　清　明四二、一二生

女　トミ子　大七、一二生

君は長崎縣人伊東辰三郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す藥剤師にして現時藥種商を營み縣下の多額納税者に列し直接國税千九百七十九圓を納め推されて長崎商工會議所議員たり繼母はつ（文久三、七生、兵庫、瓦谷秀治郎姉）叔父仙蔵（明三〇、二生）は共に分家し姉ミヤ（同一〇、九生）妹リュウ（同二〇、一〇生）同ミツヨ（同三三、一生）弟萬次郎（同三六、七生）は其家籍に入れり（長崎市鍛冶屋町乙二九電八五一・二九四四）

伊東忠太

妻　千代子　明一四、一生、子爵中牟田武信叔母

養子　祐基　明三九、一〇生

男　祐信　明四二、一生

正三位勳二等、工學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、早稲田大學教授、帝室博物館評議員、貴族院議員、山形縣士族

君は舊米澤藩士伊東祐順の二男にして伯爵平田榮二平田昇の從兄なり慶應三年十月を以て生れ大正六年兄祐彦の養子となり昭和四年家督を相續す先是明治二十五年帝國大學工科大學造家學科を卒業し同三十一年造神宮技師兼内務技師に任じ同三十二年東京帝國大學工科大學助教授を兼ぬ同三十四年工學博士の學位を受け翌年建築學研究の爲め支那印度土耳古に留學す歸朝後同三十八年東京帝國大學工科大學教授に任ぜられ現時帝國學士院會員東京帝國大學名譽教授に擧げられ早稲田大學教授にして營繕管財局顧問を兼ぬ趣味として飲酒に長ず（東京市本郷區駒込西片町一〇とノ八電小石川一〇五〇）

参照‖伯爵平田榮二、子爵中牟田武信、伊東祐彦、

三生、養子辰雄長男）ありA一三九〇B三八六（大阪市北區西堀川町三〇電北國二八二八・二三八四）

伊東太郎

母　阿八重　安政五、七生、兵庫、惠宗猛長女叔母

妻　ちか　明二三、一〇生、東京、西川忠幸

男　治正　大二、九生

女　たち子　大三、九生、女子學習院出身

みや子　大五、九生、女子學習院出身

君は故樞密顧問官伯爵伊東巳代治の長男にして伯爵平田榮二並に平田昇の從兄なり父巳代治は長崎縣人伊東善平の三男にして安政四年五月九日を以て生れ夙に英佛語を學び又蘭學を修め明治六年兵庫縣課官となるや當時の縣令故伊藤博文の知遇を得て内務一等屬に任ぜられ爾來太政官權少書記官參事院參議官太政官大書記官總理大臣祕書官樞密院書記官長内閣書記官長農商務大臣樞密顧問官等國家重要の職に有りて政界に隠然重きを爲せり明治二十七八年動功に依り華族に列し男爵を授けられ日露事件の功に依り子爵に大正十一年更に伯爵に陞され昭和九年二月病を得て薨去せらる君は明治十三年一月二十三日を以て生れ昭和九年家督を相續し襲爵仰付けらる明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し海軍中主計に任じ後主盥官を經て宮内事務官となり昭和八年主馬寮自動車課長に任ぜられ次で宮内省御用掛仰付けられ今日に至る家族は尚三女善子（大一〇、一一生、女子學習院在學）四女淑子（同一五六生、同上校在學）二男治次（昭三、一二生、學習院在學）の外弟四郎（明二二、一一生、正六位勳五等、陸軍歩兵少佐）同妻富子（同三六、一一生、東京、陸軍大將山梨半造二女）及其子女弟次郎（同二六、九生、會社員二五、八生、學習院女學部出身）同重一郎（同四〇、一生）あり妹ミチ（同美（同三三、六生、生母、東京、池田よし、出身校同上）は貴族院議員齋藤安雄長男驥之助に何れも嫁し弟二郎（同一七、七生）は東京府人伊東久實の養子となり同三郎（同一九、三生）は分家し同五郎（同二四、八生、早大商科出身）は大阪府人中村慮吉長女貞子の婿養子となり同九郎（同三二、一生）は亡叔父子爵伊東二郎

伊東武

母　エイ　明三三、一生、静岡、中村陸平二女

妻　こう　大一〇、八生

男　要　大一〇、八生

君は靜岡縣人伊東要藏の二男にして明治二十六年一月三十一日を以て生る先代要藏は夙に慶應義塾を卒業し同塾及大阪商業講習所に教鞭を執りしも後實業界に入り濱松鐵道會社々長として敏腕の聞えあり後第二富士電力濱松瓦斯第一火災海上保險富士瓦斯紡績富士電力等の各會社の重役として信望篤く縣下より推されて衆議院議員に當選する事二回日獨事件の功に依り勳四等に叙せらる君は先代の跡を承け昭和九年家督を相續す現時濱松鐵道會社取締役及び濱松委托會社監査役たり家族は尚二男正夫（大一三、一一生）三男基夫（同一五一〇生）二女範子（昭八、五生）の外弟希八郎（明三八、一生、慶大專門部出身）同豊治（同三九、九生、滿鐵社員、農學士）同平市（同四一、七生、横濱火災海上保險會社員、法學士）同正九郎（大元、九生、第一製藥會社員、千葉醫大藥學科出身）あり妹みる（明二九、九生、女子英學塾出身）は富山縣人木内直に同道（同三四、一生、山脇高女出身）は富山縣人有岡政次郎に同乙女（同四三、二生、自由學園出身）は神奈川縣人加藤平次郎長男健太郎に嫁し弟彌六（同三一、一二生、慶應義塾出身）は分家せり（靜岡縣引佐郡中川村）

参照‖中村陸平の項

伊東武治郎

三上㊟取締役、日本樟藥㊟常任監査役、兵庫縣士族

妻　秀子　明三二、一一生、東京、山本榮男長女

男　達雄　昭六、二生

君は兵庫縣士族三上登爲二男にして明治二十八年一月十一日を以て生れ先代父市の養子となり大正六年家督を相續す現時三上會社取締役たる外前記會社の重役

の死跡を相續し當主たり（東京市麹町區永田町二ノ一七電銀座五八〇〇）

参照‖子爵伊東九郎、伊東三郎、西川忠幸※男爵原口悌※齋藤馨之助※山梨半造の項

伊東

母　エイ　明三三、一生、静岡、中村陸平二女

妻　こう　大一〇、八生

男　要　大一〇、八生

君は靜岡縣人伊東要藏の二男にして明治二十六年一月三十一日を以て生る先代要藏は夙に慶應義塾を卒業し同塾及大阪商業講習所に教鞭を執りしも後實業界に入り濱松鐵道會社々長として敏腕の聞えあり後第二富士電力濱松瓦斯第一火災海上保險富士瓦斯紡績富士電力等の各會社の重役として信望篤く縣下より推されて衆議院議員に當選する事二回日獨事件の功に依り勳四等に叙せらる君は先代の跡を承け昭和九年家督を相續す現時濱松鐵道會社取締役及び濱松委托會社監査役たり家族は尚二男正夫（大一三、一一生）三男基夫（同一五一〇生）二女範子（昭八、五生）の外弟希八郎（明三八、一生、慶大專門部出身）同豊治（同三九、九生、滿鐵社員、農學士）同平市（同四一、七生、横濱火災海上保險會社員、法學士）同正九郎（大元、九生、第一製藥會社員、千葉醫大藥學科出身）あり妹みる（明二九、九生、女子英學塾出身）は富山縣人木内直に同道（同三四、一生、山脇高女出身）は富山縣人有岡政次郎に同乙女（同四三、二生、自由學園出身）は神奈川縣人加藤平次郎長男健太郎に嫁し弟彌六（同三一、一二生、慶應義塾出身）は分家せり（靜岡縣引佐郡中川村）

参照‖中村陸平の項

たり家族は尚長女三代子（大九、一二生）二女千榮（同一二、一一生）三女八榮子（同一五、九生）ありA三八三（神戸市神戸區山本町三ノ一電長合四四七三）

伊東辰太郎

妻　マサヲ　明二三、四生、長崎、高谷太惣治長女

男　清　明四二、一二生

女　トミ子　大七、一二生

君は長崎縣人伊東辰三郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す藥剤師にして現時藥種商を營み縣下の多額納税者に列し直接國税千九百七十九圓を納め推されて長崎商工會議所議員たり繼母はつ（文久三、七生、兵庫、瓦谷秀治郎姉）叔父仙蔵（明三〇、二生）は共に分家し姉ミヤ（同一〇、九生）妹リュウ（同二〇、一〇生）同ミツヨ（同三三、一生）弟萬次郎（同三六、七生）は其家籍に入れり（長崎市鍛冶屋町乙二九電八五一・二九四四）

長崎商工會議所議員、長崎縣多額納税者、藥剤師

伊東忠太

妻　千代子　明一四、一生、子爵中牟田武信叔母

養子　祐基　明三九、一〇生

男　祐信　明四二、一生

正三位勳二等、工學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、早稲田大學教授、帝室博物館評議員、貴族院議員、山形縣士族

君は舊米澤藩士伊東祐順の二男にして伯爵平田榮二平田昇の從兄なり慶應三年十月を以て生れ大正六年兄祐彦の養子となり昭和四年家督を相續す先是明治二十五年帝國大學工科大學造家學科を卒業し同三十一年造神宮技師兼内務技師に任じ同三十二年東京帝國大學工科大學助教授を兼ぬ同三十四年工學博士の學位を受け翌年建築學研究の爲め支那印度土耳古に留學す歸朝後同三十八年東京帝國大學工科大學教授に任ぜられ現時帝國學士院會員東京帝國大學名譽教授に擧げられ早稲田大學教授にして營繕管財局顧問を兼ぬ趣味として飲酒に長ず（東京市本郷區駒込西片町一〇とノ八電小石川一〇五〇）

参照‖伯爵平田榮二、子爵中牟田武信、伊東祐彦、

伊東恒次

妻　アイ　明九、三生、大阪、中島彌七四女

男　二郎　明三六、一二生

男　四郎　明四一、一〇生

女　恒子　大三、六生

竹中商店㊟監査役、大阪府士族

君は東京府人伊東金治の長男にして同俊吉の兄なり明治二十一年三月二十六日を以て生れ大正十五年家督を相續す家主として知らる家族は尚三男餘三（大八、一一生）二女よし子（同一二、五生）弟三郎助（明三七、五生）妹ふく江（同四二、九生）妹くに子（同四五二生）あり（東京市小石川區表町一〇九）

参照‖伊東俊吉の項

伊東歳太郎

母　いち　明二五、二生、埼玉、岩井右衛門妹

妻　しち　大五、一生

男　壽一　大正十一年生

君は東京府人伊東金治の長男にして同俊吉の兄なり明治二十一年三月二十六日を以て生れ大正十五年家督を相續す家主として知らる家族は尚三男餘三（大八、一一生）二女よし子（同一二、五生）弟三郎助（明三七、五生）妹ふく江（同四二、九生）妹くに子（同四五二生）あり（東京市小石川區表町一〇九）

参照‖伊東俊吉の項

家主、東京府在籍

慶應二、八生、東京、高尾權左衛門長女

伊東富太郎

妻　喜久　明八、九生、養父充親長女、女子師範出身

女　喜代榮　明三〇、七生、亡養子幾太妻

從五位勳六等、前大阪合同運送㊟常務取締役、兵庫縣士族

君は兵庫縣人鷲尾清藏の二男にして明治三年九月を以て生れ先代充親の養子となり同四十三年家督を相續す同四十八年鐵道省副參事に進みし夙に鐵道界に入り勤續三十八年鐵道省を辭し現時之を辭し閑地に在り漢書謠

曲に趣味あり家族は尚孫子（大九、一一生、亡養子幾太長女）あり（兵庫縣武庫郡御影町柳九〇〇電四七五六）

伊東豊重

妻　品江　明二六、九生、東京、士、木村慈三女

男　正己　大六、一一生

女　禮子　大四、一〇生

芝浦電氣工業㊟專務取締役、東京府在籍

君は長崎縣士族伊東義豊の二男にして明治十四年十月二十三日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同年東京高等商業學校を卒業し同四十三年東京電燈會社に入り果進して主事となり中部營業所營業課長に就任す現時芝浦電氣工業會社專務取締役たり家族は尚二男昌平（大八、一〇生）三男新造（同一二、一〇生）二女朝子（昭四、一一生）ありA一三四（東京市杉並區東田町一ノ一八電荻窪二五一四）

伊東虎夫

妻　操　明二九、一生、東京、須藤茂兵衛二女

男　壽一　大五、一生

君は東京府人伊東卓夫の長男にして明治二十五年九月十二日を以て生れ昭和九年家督を相續す夙に明治學院高等部及立教大學商科を卒業し外遊數回現時美濃津商店代表社員にして運動具商を營む曾祖父竹溪翁は儒者として知られ父卓夫は同志社及同人社に學び明治十五年運動具商を創始し美濃津商店を經營し東京商業會議所議員運動具商組合顧問に擧げらる君は趣味としてスキー登山ヨットゴルフ等あり家族は尚長女眞理（大一一、三生、光鹽女學校在學）二女和（同一二、八生）三女銅（同一五、一生）四女滿（昭四、五生）五女美樹（同八、二生）妹當（明三九、四生）弟鑑夫（同四二、八生）同豊夫（同四三、一二生）あり妹慶（同二八、一二生）は三重縣士族小西功長男正道に嫁し弟親夫（同四一六生）は分家兄伊東修信の死跡を相續せり（東京市本郷區本郷五ノ一〇電小石川八四五）

伊東秀之介

相談役、川崎貯蓄銀行㊟頭取、鎌倉銀行㊟神奈川縣在籍

養子　榮美子　大四、一生、東京、川崎肇長女

君は東京府人川崎八右衛門の弟同守之助同大次郎の甥にして明治二十一年九月二十六日を以て生れ同二十九年先代ナヲの養子となり家督を相續す同四十五年早稲田大學政治經濟學科を卒業し現時川崎貯蓄銀行頭取の外前肥銀行會社の要職にあり養孫正雄（大五、五生、東京、小森元吉四男）は東京府人伊東ナヲ養子糸の養子となれりA七四三〇（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町佐助谷六四五電一〇七）

參照＝川崎大次郎、川崎肇、川崎八右衛門、川崎守之助※川崎甲子男※川崎友之介※河合鉄二※成田儀六の項

伊東房太郎

伊東房商店、銅鐵商
母　コヤク　明一五、六生、筒井嘉藏六女
大阪府在籍

君は大阪府人伊東房吉の孫同三三郎の長男にして明治三十七年九月二十五日を以て生れ昭和五年前戸主房吉の跡を承けて家督を相續す現に銅鐵商を營み伊東房商店督榮主たり家族は尚弟惠三（明三九、七生）同歌治（同四四、九生）及姉ヨネ（同三三、四生）あり（大阪市西區立賣堀北ノ二ノ二五電話新町三七九）

伊東平兵衛

京都府多額納稅者、金物並伸銅商
京都府在籍
妻　サヲ　明二二、二生、京都、辻卯之助長女
男　平　二
女　貞子　大一一、二生
女　幸枝　明四四、一生
大四、一生

君は京都府人伊東幸之助の長男にして明治十八年四月を以て生れ先代テルの養子となり大正十年家督を相續し前名平三郎を改む金物並伸銅商を營み京都府多額納稅者に列す家族は尚四女美代子（大九、三生）五女章子（同一五、五生）ありA二〇五一（京都市下京區上枳殼馬場河原町西入電話下五五四）

伊東鋒太郎

地主
東京府在籍
妻　登美　明二二、七生、埼玉、松岡三五郎妹

養子　武二　明三七、一〇生、長女久美子夫、鹿兒島、萬移直清二男
女　久美子　大三、三生、養子武二妻
女　扶美子　大五、一二生

當家の祖は元三河國牛久保町に住せる舊家にして曾祖父喜右衛門別に江戸に質商を開始し大黑屋と號し先代喜助に至り之れを廢し土地經營を業とす君は其長男にして明治十六年九月十八日を以て生れ昭和八年家督を相續す夙に慶應義塾を卒業し先代の業を繼ぐ家族は尚孫運（昭七、八生、養子武二長男）同朗美（同八、一二生、養女扶美子次男）ありA五七三（東京市豊島區目白町四ノ五〇電大塚三六二二）

伊東政喜

從四位勳三等功五級、陸軍中將、砲兵監、大分縣在籍
妻　ヒサ　明二一、一〇生、東京、士、小田仲章二女、千代田高女出身
養子　兵次　昭六、六生、富山、相原兵太郎二男

君は明治十四年九月七日を以て生る同三十六年陸軍士官學校を卒業し砲兵少尉に任じ昭和九年陸軍中將に累進す其間陸軍省軍務局砲兵課長同兵務課長近衛野砲兵聯隊長砲兵監部々員野砲兵第一旅團長陸軍野戰砲兵學校教育部長同野戰砲兵學校長等に歷補し現時砲兵監たり曩に大正七八年歐米に出張す長女美代子（明四一、六生、千葉高女出身）は富山縣人鐵道局副參事相原兵太郎に嫁せりA一六〇（東京市麴町區代官町教育總監部砲兵監部內）

伊東靖祐

正四位、伯爵、陸軍三等主計、日本勸業銀行奈良支店長
東京府華族
妻　いさを　明三七、三生、男爵中村謙一妹、女子學習院出身
男　建祐　昭八、一生

當家は先代祐亨より翻る祐亭は舊鹿兒島藩士にして夙に米國に航し海軍術を修め明治四年海軍大尉に任じ同三十一年海軍大將に累進し那で元帥府に列せらる日清の役には聯合艦隊司令長官として黃海の戰に偉勳を樹て功に依り同二十八年華族に列し子爵を授けらる日露の役には軍令部長として勳功あり功一級を賜はり同四十年伯爵に陞さる君は其長男にして子爵伊東二郎丸の

從弟なり明治二十七年十一月二十二日を以て生れ大正三年襲爵被仰付同十年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時日本勸業銀行奈良支店長たり家族は尚長女壽子（大一三、一生）二女順子（昭二、九生）三女雅子（同五、一生）あり姑延（明二五、六生）は男爵高橋新二の母たり（奈良市高畑町七六九電四〇六）

參照＝子爵伊東二郎丸、男爵高橋新二、男爵中村謙一※慶松勝左衛門※兒玉國雄※島安次郎※森村謙三の項

伊東祐吉

帝國製糖㈱常務取締役兼東京出張所支配人、中央製糖㈱取締役、北海道製糖㈱監査役、東京府士族
妻　須賀子　明三一、七生、宮崎、日高保三郎女
男　宏彌　大一一、八生

君は東京府士族現戸主伊東祐夫同愛吉の弟にして明治二十年一月十四日を以て生る大正二年東京高等商業學校專攻部を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尚二女節子（大一〇、三生）二男祐英（同一三、一二生）三女道子（昭二、一生）ありA九一三（東京市澁谷區代々木富ケ谷町一四四一電四谷二五八四）

參照＝伊東愛吉、伊東祐夫の項

伊東吉彦

東京市深川區會議員
東京府士族
父　吉五郎　安政六、一二生、現戸主
妻　美千子　明三四、七生、宮崎、兒玉半兵衛長女
男　恒彦　大一四、七生

君は東京府士族伊東吉五郎の長男にして明治二十二年三月二十六日を以て生る大正三年慶應義塾大學法律科を卒業し三菱合資會社に入り同十一年三菱海上火災保險會社に轉じ京都出張所長たりしも後職を辭す現時深川區より推されて同區會議員たり家族は尚亡伯父幸平妻ヨシ（安政三、一二生、佐賀、士、森茂樹二女）あり妹ヒロエ（明二六、三生）は長崎縣人山口喜智郎に嫁せり（東京市深川區東陽町一ノ五電本所五三一九）

伊東義節

從四位、男爵、昭芳閣主
東京府華族
母　滿里子

當家は先代義五郎より家名を揚ぐ義五郎は舊信州松代藩士にして明治十四年海軍少尉に任じ後海軍中將に累進す其間佛國公使館附數島艦長横須賀鎮守府艦政部長竹敷要港部司令官等に歷補し同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に推さる君は其二男にして伊東亮一の從弟なり明治三十三年三月二十五日を以て生れ大正八年襲爵被仰付同十四年東京帝國大學法學部政治學科を卒業す現時昭芳閣と稱し園藝業を營む家族は尚庶子美知子（昭二、一一生、生母、靜岡、小林よし）同幸子（同五、九生、生母、同上）同壽子（同六、一一生、生母、同上）妹文子（明四四、八生）あり姉櫻子（同二二、九生）は佛國海軍中佐マルセル・アンリ・ルヴィエに同不二子（同二六、二生）は子爵武者小路公共に同清子（同二八、一生）は子爵本野盛一に妹千代子（同三五、一二生）は東京府人宮本恒市に嫁せり（東京市世田谷區世田谷二ノ一二四五電世田谷三七九）

參照＝子爵武者小路公共、子爵本野盛一、伊東亮一※赤堀研吉の項

伊東米治郎

正六位、前ジャパンタイムス社長
神奈川縣在籍
妻　ケイ　明二、一〇生、愛媛、伊東貞明叔母
男　英夫　明二八、六生
婿　綾子　明三六、一二生、長男英夫妻、男爵細川忠督妹

君は愛媛縣人伊東喜白の二男にして文久元年十二月を以て生れ明治十二年家督を相續す夙に日本郵船會社に入り横濱上海倫敦各支店長を經て同社專務取締役督榮部社長に累進し昨で同社長に擧げらる大正十三年之を辭し昭和元年ジャパンタイムスに入り社長たること四年同五年一月之を辭す長女美代子（明三〇、一一生）は林學博士鎗木德二郎理學博士外飯雄に二女薫子（同三三五生）は故理學博士飯島魁長男俊太郎に三女千枝子（同三六、六生）は前肥魁二男壯次郎に嫁し二男武夫（同三八、四生）は分家せり（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町小町五四三電二二三四）

參照＝男爵細川忠督※男爵阿蘇惟孝※男爵澤村武雄※床次竹二郎の項

伊東隆太郎

伊東質店、質代表社員、質商
東京府在籍

伊東亮一

資產家
東京府在籍
母　さた　慶應三、一生、東京、小山元貞二女
妻　靜江　明二六、九生、東京、利光鶴松長女
男　宏一郎　大一一、二生
女　百合子　大八、六生
母　イセ　明八、五生、群馬、川村富藏二女
妻　生子　明二七、二生、東京、河上市太郎妹
男　敬太郎　大一一、三生
女　はま子　大六、一〇生

君は東京府人伊東市太郎の長男にして明治二十五年三月十一日を以て生る質商を營み現に伊東質店代表社員たり家族は尚三女八重子（大九、八生）四女愛子（同一一、一一生）あり妹つる（明三七、八生）は同府人深山小兵衛に嫁せり（東京市城東區龜戸町三ノ一七五電墨田三〇九九）

參照＝伊東市太郎、關口安五郎、深山小兵衛の項

伊東靜祐

正六位、勳五等、東京高等工藝學校教授、東京府在籍
妻　みゑ　明三三、八生、東京、大江太長女
男　通雄　昭五、九生

君は東京府人伊東善右衛門の四男にして明治二十年十二月二十二日を以て生れ大正七年兄善吉方より分れて一家を創立す明治四十二年東京高等工業學校圖案科を卒業し同四十四年同校助教授に任ぜられ大正三年東京美術學校助教授に轉じ同九年英佛獨米各國に留學を命ぜられ歸朝後同十一年東京高等工藝學校教授に任ぜられ現在に至る家族は尚長女愛子（大一五、七生）三男律夫（昭八、二生）あり（東京市荏原區中延町一一八一）

伊東和歌

彌和歌、料理業
東京府在籍
妻　泰治　明三六、八生、養子ふく夫、長野村澤牧太郎二男
養子　ふく　明四一、八生、養子泰治妻、千葉宮崎伊三郎二女
養子　新作　明四〇、六生、養子歌子夫、埼玉大久保彌四郎二男
養子　歌子　明四三、四生、養子新作妻、東京長谷見万作庶子

君は東京府人伊藤喜八の四女にして明治十年一月二十八日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す彌和歌と稱し料理業を營む家族は尚孫亨江（昭七、一生、養子泰治長女）同里江子（同九、一生、養子新作長女）ありA五七四B一四六（東京市城東區龜戸町三ノ五一電墨田一九四五）

伊藤伊之助

服部商事㈱監査役、伊藤伊雲代表社員、愛知縣在籍
妻　みゑ　明一一、五生、遠川九平二女
男　信一　明三二、二生、服部商事㈱專務取締役
婿　清　明三九、一一生、長男信一妻、愛知、白井淺治郎二女
男　順之助　明三三、五生
幸　明四三、一二生、二男順之助妻、滋賀、波木屋鎌吉郎二女
女　てる　明四二、九生
男　三千三　明四四、三生
男　正二　大二、一一生
女　千代子　大六、二生

君は岐阜縣人國立幸助の四男にして慶應元年三月を以

て生れ先代せいの養子となり明治十六年家督を相續す現時前記會社の重役にして義に名古屋米穀取引所取締役たり家族は倘七男四朗（大四、二生）孫妙子（昭四、一二生、二男順之助長女）あり長女婦美（明二七、七生）は愛知縣人石田鐵八郎に嫁せりA二七三（名古屋市西區園井町一ノ一〇電本局三二一一）

伊藤伊八　愛知縣多額納税者　愛知縣在籍

母　ちゑ　嘉永六、八生、愛知、高橋佐兵衛長女
妻　すゑの　明二二、五生、岐阜、野田宅次郎妹
男　釵一　明三六、一生、法學士
婦　秀子　明四二、九生、長男釵一妻、愛知　岡本鐘之助妹

君は愛知縣人先代伊八の長男にして明治十年四月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名伊三郎を改む壯年時代紙商を營みしが大正十三年廢業す現に直接國税千八百七十圓を納め愛知縣多額納税者たり和歌雅樂香道等に趣味を有し忠成又只聽と號す和歌に於ては中央歌道會幹事雅樂に於ては雅樂保存會幹事並に名古屋東照宮雅樂部取締役香道は家元蜂谷家維持會々長として中京雅界に重をなす家族は倘二男芳雄（大四、一生、慶大豫科在學）三男勇（同七、八生、愛知一中在學）二女鎮子（同一四、二生）孫巖（昭五、一生、長男釵一長男）同幹彥（同八、九生、同二男）あり妹てる（明一二、五生）は愛知縣人伊藤直吉長男直太郎に同こと（同一四、一一生）は同縣人武內富次郎長男東太郎に嫁し同れい（同二二、三生）は分家せり（名古屋市西區西萬町一ノ九電本局二四三五）
參照＝岡本鐘之助の項

伊藤礒治郎　古着商　大阪府在籍

妻　キクヱ　明二、九生、大阪、士、青木豊藏長女
男　礒太郎　明二五、八生
婦　政枝　明二七、一一生、長男礒太郎妻、奈良、豊原富藏三女
女　美代　明三九、一生
女　登代　明四五、一生

君は大阪府人伊藤作馬の二男にして明治五年十一月十八日を以て生れ同四十四年前名忠治を改む弟礒十郎方より分れて一家を創立す古着商を營む家族は倘孫礒五郎（大八、一〇生、長男礒太郎長男）同暢子（同一四、六生、同二女）同礒雄（昭四、一生、同三男）あり二男礒之助（明三〇、六生）同妻ヨシ（同三五、三生、奈良、中村喜助三女）は其二女を伴ひ二女千代（同三二、二生）同夫太一郎（同二八、一生、大阪、河村太郎二男）は共に其一女を伴ひ各々分家せりA六七九（大阪市南區大寶寺西之町三二電南五〇五）

伊藤一郎　正四位、男爵、貴族院議員　東京府華族

妻　久米　明三一、三生、陸軍砲兵大佐小野田健二郎長女
男　圭一　大六、七生

當家は先代圭介より家名を揚ぐ圭介は舊名古屋藩士にして夙に蘭學を修め長ずるに及び植物金石の採集に努め安政五年名古屋に一大藥園を開設して旭園と稱す時いで藩の洋學教授を命ぜられ遂に幕府に召されて藩書調所掛となる明治の初年大學に出仕し理學部員外教授に同十四年東京大學教授に任じ理學博士の學位を受け本邦植物學界の耆宿として同三十四年華族に列し男爵を授けらる君は其後を享く君實は東京府人伊藤恭四郎の二男にして明治二十一年三月二十六日を以て生れ同三十四年先代圭介の養子となり家督を相續し襲爵す大正二年東京帝國大學工科大學冶金學科を卒業し三菱合資會社に入り生野銀山に勤務し尋いで同社大阪製煉所副長に擧げられ後同所長に進みて退く義に三菱鑛業會社參事たり家族は倘二男誠（大九、四生）長女澄子（大一三、四生）三男裕（大一五、五生）あり妹靜枝（明三三、一〇生）は東京府人櫻井安右衛門に嫁せりA五二七（東京市淀橋區下落合一ノ三三〇電落合長崎二〇二）
參照＝櫻井安右衛門の項

伊藤市四郎　從四位勳四等、陸軍教授、陸軍砲工學校教官、愛知縣在籍

妻　シツ　明二六、五生
男　利治　大一三、二生
女　津奈子　大一一、八生

君は愛知縣人伊藤新左衛門の四男にして明治十二年二月九日を以て生る同三十九年京都帝國大學理工科大學製造化學科を卒業し一時愛知セメント會社に在りしも同四十一年一月陸軍砲工學校化學教官となり同二月陸軍教授に任ぜられ今日に至る（東京市牛込區矢來町五四電牛込四三六九）

伊藤岩次郎　伊藤岩商店(名)代表社員、洋反物商　大阪府在籍

妻　カツ　明三〇、四生、大阪、藤井甚兵衛三女
男　米太郎　大一〇、一二生
女　光子　大四、四生

君は和歌山縣人中村常七の四男にして明治十六年八月十九日を以て生れ同四十四年先代イクの入夫となり家督を相續す同四十年神戸高等商業學校を卒業し洋反物商を營み傍ら伊藤岩商店代表社員たり家族は倘三女德子（大九、四生）四女善子（同一五、九生）あり（大阪市東區東町三ノ一一電長本町九五）
參照＝藤井甚兵衛※澤野定七※桃谷幹次郎※桃谷順一の項

伊藤英三　住友銀行(株)大塚支店長　福岡縣士族

父　景直　安政三、五生、現戸主

君は福岡縣士族伊藤景直の三男にして明治二十五年九月十一日を以て生れ大正三年東京高等商業學校を卒業し住友銀行に入り白山支店長を經て現時大塚支店長たり家族は倘亡兄貞一妻フミ（明二六、一生、東京、西義克妹）あり讀書を趣味とすA一三七（東京市本鄉區駒込林町二〇二電小石川二一八七）

伊藤英三　住友銀行(株)四條支店長　三重縣在籍

母　たり　慶應元、五生、三重、中川才次四女
妻　田鶴　明二九、一二生、愛知、服部英次二女
男　英一郎　大一〇、一〇生
女　和子　大八、一一生

君は三重縣人伊藤半七の長男にして明治二十五年二月十二日を以て生れ昭和二年家督を相續す現時住友銀行四條支店長たり家族は倘二男健二郎（大一二、九生）三女久子（同一五、一一生）四女保子（昭三、一二生）ありA一五八（京都市左京區岡崎入江町電上九六一）

伊藤英三郎　日本銀行(株)新潟支店長　兵庫縣在籍

妻　千代　明二八、一生、靜岡、鈴木島吉長女
男　英雄　大五、五生

君は兵庫縣人伊藤英一の二男にして伊藤長次郎同長藏の甥なり明治二十二年十月を以て生れ昭和三年兄孝次方より分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に日本銀行に入り累進して營業局調査役となり次で松江支店長となり傍ら松江市商工會議所顧問たりしも後轉じて新潟支店長となり今日に至る運動に趣味を有す家族は倘三男時雄（大九、一生）あり二男島夫（同七、三生）は前記鈴木島吉の養子となれり（新潟市上大川前通日本銀行支店氣附）
參照＝伊藤長次郎、伊藤長藏、鈴木島吉※子爵大岡忠綱※松代安太郎の項

伊藤榮一　新潟縣會議員、農業　新潟縣在籍

母　ヤス　慶應二、一生、新潟、長谷川兵太妹
妻　キヨ　明二八、九生、新潟、廣川利兵衛長女
男　達也　昭三、三生
女　和子　大五、九生

君は新潟縣人伊藤庄午郎の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ同四十年祖父榮三郎の後を承け家督を相續す農を業とし現時新潟縣會議員にして資産家として知られ嘗に縣下の多額納税者に列し同縣參事會員たりしことあり妹ヤウ（明二二、一〇生）は同縣人代議士佐藤與一に同ミヨ（同二八、四生）は同縣人吉田弘策に同テイ（同三〇、六生）は同縣人清水小太郎に同ケイ（同三五、三生）は同縣人齒澤桂藏に嫁し弟恒二（同二四、九生）は同縣人相馬一郎長男武の養子となれりA四五〇（新潟縣西蒲原郡和納村電二）
參照＝佐藤與一の項

伊藤乙次郎　從三位勳一等功四級、海軍中將、神戸製鋼所(株)相談役、義勇財團海防義會理事長、東京府士族

妻　靜江　明一二、一二生、海軍中將加茂嚴三妹
養子　達三郎　明四二、八生、東京、守屋伍造三男

君は愛知縣士族伊藤久敬の男にして慶應二年十月二十六日を以て生れ明治二十一年家督を相續す夙に海軍に志し同十九年海軍兵學校同二十四年海軍大學校を卒業す大正四年海軍中將に累進し同九年豫備役に編入さる其間鳥海武藏比叡各航海長海軍省軍務局軍事課員並臨時海軍建築部員海軍省軍務局課員常備艦隊副官淺間艦長獨逸大使館附水路部長佐世保鎭守府參謀長佐世保呉各海軍工廠長高等捕獲審檢所評定官海軍技術本部長海軍將官會議議員等に歷補す現時前記會社の相談役海防義會理事長たりA二二七（東京市麻布區櫻田町五〇電青山六三九五）
參照＝※飯田嘉六※堤正義※藤井市三郎の項

伊藤香藏　船源、材木商　愛知縣在籍

君は愛知縣人伊藤源助の二男にして明治三十九年十二月十八日を以て生れ昭和七年先代兄源助の後を承け家督を相續す船源と稱し家業材木商を營み今日に至る叔母あさ（明一七、一生）は愛知縣人長崎忠右衛門の養母たりA一〇二八B七三（名古屋市西區木挽町二ノ一七電本局七〇七）
參照＝長崎忠右衛門の項

伊藤甲子之助　內海紡織(株)取締役　三重縣在籍

妻　あい　明二七、四生、養父傳七四女
男　彌太郎　大七、七生

君は東京府人脇田久三郎の四男伊藤傳七の養弟にして明治二十一年十月を以て生れ先代伊藤傳七の養子となり大正八年分れて一家を創立す明治四十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し現時前記會社の重役たり家族は倘長女文子（大九、九生）二男準二（同一一、三生）三男陸三（同一三、二生）二女幸子（同一五、二生）あり（和歌山市島崎町二八電一七四九）

伊藤勝藏　辯護士　東京府在籍

妻　和子　明二四、九生、福島、小野隆平妹
女　園子　大六、九生、府立第二高女在學

君は東京府人先代五郎治の長男にして明治十八年二月二十三日を以て生れ大正七年家督を相續す先是大正三年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士たり義に東京市會議員本鄉區會議員たりし事あり家族は倘二女孝子（大一〇、三生、府立第二高女在學）あり弟潔（明三四、八生）は分家せり（東京市本鄉區湯島切通坂町二七電小石川一九七五）

伊藤勝藏　朝日堂、朝日堂クラブ商事各(株)取締役、大阪府在籍

養父　貞七　明五、五生、現戸主
妻　茂子　明三一、一〇生、養父貞七二女
男　伸一　大一一、二生
女　英子　大六、三生

君は和歌山縣人松尾常楠の五男同正助の弟にして明治二十五年三月を以て生れ伊藤貞七の養子となる現時前記各會社の重役たりA二七五（大阪市東區南久寶寺町四ノ四）
參照＝伊藤貞七、松尾正助の項

伊藤勝太郎　伊東屋(株)社長、文房具商　東京府在籍

妻　喜代　明九、一二生、東京、露木權兵衛三女
養子　義孝　明二七、三生、長女よね夫、鳥取　田邊武平二男
女　よね　明三四、五生、養子義孝妻
女　眞江　大二、一二生
女　純江　大五、一一生

君は東京府人伊藤勝次郎の長男にして明治八年十二月二日を以て生れ同十六年家督を相續す文房具商を營み株式會社伊東屋を經營す家族は倘廣子（大一四、五生、養子義孝長女）同恒男（昭三、八生、同長男）同高之（同七、九生、同二男）あり二女清子（明三六、一〇生）は東京府人大住喜右衛門長男精一に嫁し弟德治（同一一、一〇生）は同妻しゅん（同一四、一〇生、東京、露木權兵衛五女）及其三子を伴ひ分家せりA二一二〇（東京市赤坂區福吉町一電青山三七三四）
參照＝大住喜右衛門の項

伊藤粂吉　日本理髪器具、東京理器製作所各㈱社長、醫師、大阪府在籍

妻 ヒサ　慶應三、六生、大阪、於勢勘右衛門長女
男 源次　明三〇、四生
婦 みさ　明三三、一二生、二男源次妻、京都、石田幸太郎長女
女 タカ子　明三五、八生
男 勝三　明三七、一一生、法學士

君は東京府人伊藤仙藏の二男にして慶應三年六月を以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す醫師にして現時日本理髪器具東京理器各會社の社長たり曩に高橋組日本理器理容品製作所の重役たりしことあり家族は尚孫江(大一一、三生、二男源次長女)同豊子(同一四、九生、同二女)同常子(昭二、三生、同三女)同文子(同四、五生、同四女)あり三男定次郎(明三二、二生)は同妻英子(同三五、八生、大阪、福井茂兵衛二女)及其二子を伴ひて分家し養子ハナ(同一三、七生、大阪、泉トキ私生子)は大阪府人井上種次郎に嫁せり(大阪市南區南綿屋町一八ノ三電南一二一五)

伊藤粂吉　地主　東京府在籍

母 とよ　元治元、三生、東京、篠淺右衛門長女
妻 サキ　明二四、四生、東京、河田源吉長女
男 忠雄　大五、七生
女 善江　大三、一一生

君は東京府人伊藤五郎吉の長男にして明治十八年十一月十二日を以て生れ大正三年家督を相續す地主として知らる家族は尚三男邦彦(大九、一一生)四男秋次(同一一、一〇生)三女喜見子(同一三、一〇生)七男潮(昭五、五生)弟錠二郎(明二五、一一生)同妻はな(同三五、一一生、東京、金谷壽之助姪)及其子女あり弟定吉(同二二、一一生)同寅之助(同三三、七生)は各分家し妹いく(同二九、一二生)は神奈川縣人山崎道太郎長男儀兵衛に同きん(同三七、九生)は東京府人川合熊次郎三男安三に嫁せりA九七一(東京市杉並區高圓寺一ノ九一〇)

伊藤粂吉　從四位勳四等、臺灣總督府法院檢察官、高等法院檢察官　東京府在籍

妻 光子　明二六、二生、神奈川、士、鼓包美妹
男 正彦　大四、五生
女 露子　大二、七生
女 節子　大八、一生

君は靜岡縣人伊藤丈吉の四男にして明治十九年八月を以て生れ先代安五郎の養子となり同二十六年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正元年東京區裁同地方裁判所檢事に任じ後臺灣總督府事務官臺中警務部長臺南内務部長臺灣總督府稅關長に歷任し同府事務官となり昭和五年臺灣總督府高等法院檢察官に任ぜられ今日に至る曩に同四年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尚二男道彦(大一〇、四生)三男和彦(同一一、四生)三女英子(同一四、三生)四男信彦(昭二、六生)四女秀子(同四、六生)あり養母ふさ(元治元、一〇生、東京、伊奈熊吉妹)は其の二女を伴ひ分家せり(臺北市千歳町二ノ三七)
參照=※米澤政次郎の項

伊藤龜太郎　北海道多額納稅者、土木建築請負業、北海道在籍

妻 デン　明三、一生、新潟、宮島市右衛門長女
男 豊次　明二六、六生
婦 辰　明三一、一二生、長男豊次妻、岡山、西一夫姉
男 和夫　明三三、一生
婦 タカ　明三六、一〇生、四男和夫妻、岡山、西一夫妹

君は新潟縣人伊藤豊松の長男にして文久三年十二月を以て生れ明治二十年家督を相續す土木建築請負業を營み現に北海道多額納稅者にして直接國稅一萬一千九百十九圓を納む家族は尚孫澄子(大一三、四生、長男豊次長女)同義郎(同一五、一二生、同長男)同敦子(昭四、八生、同二女)同俊夫(同二、七生、四男和夫長男)同満智(同四、三生、同長女)あり長女イト(明二二、八生)は新潟縣人大谷牛次郎四男廣次郎に嫁せり(札幌市北五條西八ノ一)

伊藤紀兵衛　高山商店㈱社長、日本生命保險㈱監査役、朝鮮銀行㈱監事、伊藤紀㈴代表社員、三重縣在籍

妻 さた　慶應二、一〇生、岐阜、渡邊佐左衛門五女
孫 興作　大一〇、五生、亡長男勝藏二男
女 ふみ　明四一、七生、桑名高女出身
明 愼藏　明四三、一一生、慶大在學

君は三重縣人伊藤織右衛門の二男にして文久三年三月を以て生れ明治十年分れて一家を創立す夙に投機市場に活躍し今日の富を致せり現時前記會社の重役にして朝鮮銀行監事たり曩に北勢電氣會社取締役たりし事あり長女よね(明二四、九生、京都府立高女出身)は三重縣人伊藤紀三郎二男啓次郎に二女つね(同二六、七生出身校同上)は愛知縣人堀田理右衛門三男廣之に三女ます(同二九、一二生)は岐阜縣人野原七雄弟法學士陸男に四女ちか(同三四、一二生、桑名高女出身)は元岐阜縣多額納稅者商學士淺沼定之助に嫁し二男織衛(同二八、六生)五男直吉(同四〇、四生)は各分家し三男捨吉(同三六、七生、理學士)は岐阜縣人渡邊みねの養子となれり(三重縣桑名郡桑名町電三二一)
參照=野原七雄の項

伊藤喜七　糸喜商店㈱取締役、太物商　愛知縣在籍

男 喜三郎　明三一、九生、糸喜商店㈱監査役
婦 柔　同三六、一二生、二男喜三郎妻、平岩信親長女
男 庄三郎　明四三、一生

君は岐阜縣人伊藤紋平の二男にして安政五年二月を以て生れ明治十九年分れて一家を創立し商名孫次郎を改む太物商を營み糸喜商店取締役たり家族は尚孫秀雄(大一一、一二生、二男喜三郎二男)同由喜(昭二、一生、同二女)同喜久(同四、一〇、生、同三女)あり(名古屋市中區鐵砲町六八電中二〇〇一)

伊藤喜十郎　日本債券㈱社長、伊藤喜商店、金庫及事務用品商、大阪府在籍

男 善之助　明一四、二生

伊藤家は先代善兵衛岐阜縣より大阪に出で一家を創立せしに始まる先代善兵衛商才に富み兩替店を營み株式取引所仲買を兼ね漸次産を增し當家今日の基礎を築けり君は大阪府人小野十右衛門の六男にして安政二年三月を以て生れ先代善兵衛の養子となり明治二十八年家督を相續す夙に東京竹内製金庫の關西方面に於ける特約販賣を引受け今日に及べり其他内外各種の斬新なる事務用品の代理權を占め一流の實業家として知られ大正十五年發明者保護奬勵の廉を以て賞勳局より銀盃一組を下賜せられ曩に大阪市會議員大阪商業會議所議員に選ばれ現時日本債券會社社長たり養妹つね(文久二、一二生)は大阪府人藤岡米三郎に同さく(明九、九生)は京都府士族麻田托孤長男農夫也に嫁せりA二〇九八B四八六(大阪市東區平野町二ノ一七電本局三二一四)
參照=伊藤善之助の項

伊藤吉次郎　堺商工會議所議員、大日本セルロイド㈱常務取締役、高雄酒精、ローヤルセルロイド、三國セルロイド各㈱取締役、富士寫眞フイルム㈱監査役、大阪府在籍

妻 ミキ　明三四、八生、愛知、水口庄藏二女、愛知淑德高女出身

君は愛知縣人伊藤萬藏の兄にして明治二十二年五月十五日を以て生れ後分れて一家を創立す大正元年東京高等商業學校專攻部を卒業し三井物產會社に入り横濱里昂神戸各支店長に勤務し大正九年大日本セルロイド會社に入社し同社歐洲駐在員販賣係長等を經て昭和四年同社取締役に就任傍ら前掲會社の重役を兼ぬ現時堺商工會議所議員たりA九〇二(大阪府泉北郡濱寺町船尾七〇〇ノ一八電濱寺三二八)
參照=伊藤萬藏の項

伊藤吉也　元松坂屋㈱營繕係長　東京府在籍

妻 きく　明二〇、九生、東京、木村權四郎二女
男 進　明四三、五生、松坂屋社員、早大商學部出身
女 米子　大四、七生、第二高女出身、家政學院在學
女 澄江　大七、一二生

君は岐阜縣人多代治兵衛の二男にして明治八年四月十日を以て生れ同十六年伊藤家を再興す松坂屋營繕係長として知られ同會社より商事研究のため渡米二回に及び曩に誠工舍監査役に擧げらる家族は尚五女節子(大一三、二生)六女千惠子(昭三、一生)あり長女ふき子(明四五、三生、東洋高女出身)は東京府人松坂屋社員慶大出身久須木家榮一に嫁せりA四五〇(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町極樂寺一〇九電一一八)

伊藤喬介　三菱鑛業㈱朝鮮鑛業所長　廣島縣在籍

妻 ツノ　明二七、一二生、廣島、近藤民次郎姉
男 隆介　明四五、六生
女 ヨシ　大四、五生

君は廣島縣人伊藤作次郎の二男にして同藤三の甥に當る明治十六年一月を以て生れ大正八年兄釜藏方より分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學理工科大學採鑛冶金科を卒業し三菱鑛業會社參事槇峰尾去澤各鑛山長たりしが現時同會社朝鮮鑛業所長にして曩に秋田鐵道會社取締役を兼ぬ家族は尚二男昌介(大八、一一生)三男展介(同一〇、一一生)二女キヨ(同一三、一一生)あり(京城府古市町一九電本局二三〇三)

伊藤清　横河橋梁製作所㈱取締役兼大阪工場長、東京府在籍

妻 和壽子　明三四、三生、東京、稻山傳太郎三女

君は東京府士族伊藤達三の弟にして明治二十年二月二日を以て生れ昭和四年同府人伊藤ス丶の死跡を相續す大正二年東京帝國大學工科大學土木學科を卒業し神戸市役所水道部に勤務し後横濱市技師に轉じ土木局第一道路課長を經て同局長たりしも後辭して現時横河橋梁製作所取締役兼大阪工場長たりA一二六(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋電蘆屋四〇六三)
參照=伊藤達三、稻山傳太郎の項

伊藤清　東京染織㈱取締役　東京府在籍

妻 ふき　明九、三生、愛知、淺野松藏長女
男 清行　明三八、八生、松屋ビル經營主、青山學院高等學部出身
婦 幸子　長男清行妻、福島、酒井庄吉二女
女 正千代　大元、八生、九段精華高女出身

君は福岡縣人濱地武助の長男にして文久二年六月五日を以て生れ先代かなの養子となり明治三十年家督を相續す松屋と稱し呉服商たりしが現時東京染織會社の重役にして曩に松屋ビル經營主たりし事あり二女光千代(明三五、一一生、府立第一高女出身)は東京府人三井物產桑港支店次長渡邊誠治郎に四女千鶴子(同四三、二生、九段精華高女出身)は福岡縣人福井英雄長男文理科大學助教授英一郎に嫁せり(東京市日本橋區兜町二ノ四一松屋ビル内電茅場町五三三〇)
參照=福井英雄の項

伊藤金五郎　地主　東京府在籍

妻 ふみ　明一六、四生、東京、矢島德左衛門二女
男 八五郎　明四〇、三生
婦 はる　明四四、三生、長男八五郎妻、東京、榎本榮太郎長女
男 瀧藏　大二、八生

君は東京府人關根萬次郎の三男にして明治十二年五月六日を以て生れ同三十三年先代鍋五郎の養子となり同三十七年家督を相續す地主たり家族は尚四男菊藏(大四、一〇生)五男重三郎(同六、六生)孫朝子(昭八、四生、二男八五郎長女)叔父秀五郎(安政二、七生)あり長女たけ(明三四、五生)同夫倉吉(同二七、二生、東京、戸井田紋太郎二男)は共に分家せりA五六八(東京市杉並區高圓寺六ノ七〇九)

伊藤金左衛門　東京府會議員、地主　東京府在籍

妻 たか　明二〇、二生、東京、清水忠七妹
男 虎次　大四、五生

君は東京府人伊藤春吉の二男にして明治十八年十二月十七日を以て生れ同十九年家督を相續す地主として知られ東京府會議員に選ばれ現に其任にあり曩に中野町會議員同町長に擧げらる家族は尚三男邦夫(大一〇、一生)四男清(大一四、一一生)伯父金五郎(天保一四、七生)あり長女千枝(明四三、一生)は東京府人内山清七長男清一郎に嫁せりA四六四(東京市中野區神明町四三電中野二二三三)

伊藤金次　大正鑛業㈱取締役兼經理部長、寶珠山鑛業㈴社員、福岡縣在籍

養父傳右衛門　萬延元、一一生、現戸主
妻　ツヤ　明二九、一生、佐賀、深川忠次長女、三輪田高女出身
男　剛平　大一〇、三生

君は福岡縣人日高波吉の三男にして伊藤秀三郎の養兄なり明治二十二年三月を以て生れ同三十四年現戸主傳右衛門の養子となる大正二年明治大學法科を卒業し現時大正鑛業會社取締役兼經理部長たる外前記會社の重役たり曩に博多コースター會社取締役社長たりし事あり家族は尚長女眞里子（大一五、八生）あり養子八郎（明三六、八生、父波吉八男）は分家せり（福岡縣遠賀郡中間町電四〇）

伊藤金太郎

地主
東京府在籍
安政五、一生、東京、岩崎龜吉長女
母　つな　明一八、一〇生、東京、本橋定次郎五女
妻　とり　明三二、四生、長女きみ夫、岡山大谷勝太郎三男
養子　茂樹　明三七、一〇生、養子茂樹妻
女　きみ　大四、四生
女　文子　大四、四生

君は東京府人伊藤銀藏の長男にして明治十四年五月十八日を以て生れ大正十三年家督を相續す現に地主たり家族は尚七女松江（大一四、一二生）八女富子（昭三、五生）孫譲一（同四、九生、養子茂樹長男）同朝子（同八、一生、同長女）あり三女なか（明四一、六生）は東京府人藤井龍五郎に四女靜枝（同四四、四生）は同府人加藤繁に嫁すA三九二（東京市中野區大和町三四）

伊藤金太郎

家主
東京府在籍
妻　けん　明一八、四生、東京、榎本仙太郎二女
男　茂基　大二、九生

君は東京府人伊藤新太郎の長男にして明治十四年七月十八日を以て生れ同二十年家督を相續す家主たり家族は尚二男光夫（大七、六生）あり二女登喜（明四二、一一生）は東京府人飯田平五郎長男叔彦に嫁せりA三五〇（東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ五九四電四谷一一七二）

伊藤金太郎

豐倉屋本店、米商
愛知縣在籍
養祖父金次郎二女　明二〇、八生、養祖父金次郎五女
妻　ツヤ　明四三、三生、養祖父金次郎五女
男　清彦　明四三、一生

君は愛知縣人富田幸吉の三男同康一の叔父にして明治生れ昭和七年先代金次郎の養子となり同九年家督を相續し前名信三を改め襲名す四十一年七月十六日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名信三を改め襲名すA四二八（名古屋市中區豐倉屋本店と稱し米商を營むA四二八下日置町七八電南一〇八三）

伊藤銀三

男　銀平　大九、三生
女　幸　大四、一二生
女　千賀子　大六、六生

君は北海道人牧野元藏の弟にして伊藤勇吉の義兄なり明治二十三年一月を以て生れ大阪府人伊藤豹三郎の養子となり大正六年分れて一家を創立す有價證券賣買業を營み大阪株式取引所取引員にして傍ら前記會社の重役たり家族は尚三女露惠子（大一三、五B二八九（大阪市東區石町二ノ二二電東一九）

伊藤邦太郎

伊藤商店㊞代表取締役、須々庄㊞大阪株式取引所取引員、有價證券賣買業、大阪府在籍
洋傘雜貨商、金融業
愛知縣在籍
母　ちの　慶應三、一二生、愛知、木全伊右衛門二女
妻　かねよ　明二三、一二生、愛知、六鹿市兵衛門二女
男　銳太郎　明四三、六生、享榮商業出身
男　正治　大二、一生、名古屋工廠勤務、愛知商業出身

君は愛知縣人伊藤銳忠の長男にして明治十七年四月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に名古屋市立商業學校速成科及補習科を卒業し洋傘雜貨商及金融業を營み傍ら日華生命京都火災兩保險會社代理店を兼ぬ家族は尚三男豐秀（大四、四生、名古屋高商在學）四男義裕（同六、五生）長女八重子（同九、五生）二女節子（同一二、五生）あり弟康吉（明二三、一一生）妹しん（同二五四生）弟清吉（同三二、五生）妹ちよ（同三九、七生）は各分家せり（名古屋市南區熱田旗屋町二九一電南一七六五）

伊藤金太郎

豐倉屋本店、米商
愛知縣在籍
養祖父金次郎二女　明二〇、八生、養祖父金次郎五女
妻　ツヤ　明四三、三生、養祖父金次郎五女
男　清彦　明四三、一生

君は愛知縣人富田幸吉の三男同康一の叔父にして明治生れ昭和七年先代金次郎の養子となり同九年家督を相續し前名信三を改め襲名す四十一年七月十六日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名信三を改め襲名すA四二八（名古屋市中區豐倉屋本店と稱し米商を營むA四二八下日置町七八電南一〇八三）

伊藤銀三

男　銀平　大九、三生
女　幸　大四、一二生
女　千賀子　大六、六生

君は北海道人牧野元藏の弟にして伊藤勇吉の義兄なり明治二十三年一月を以て生れ大阪府人伊藤豹三郎の養子となり大正六年分れて一家を創立す有價證券賣買業を營み大阪株式取引所取引員にして傍ら前記會社の重役たり家族は尚三女露惠子（大一三、五B二八九（大阪市東區石町二ノ二二電東一九）

伊藤邦太郎

伊藤商店㊞代表取締役、須々庄㊞大阪株式取引所取引員、有價證券賣買業、大阪府在籍
洋傘雜貨商、金融業
愛知縣在籍
母　ちの　慶應三、一二生、愛知、木全伊右衛門二女
妻　かねよ　明二三、一二生、愛知、六鹿市兵衛門二女
男　銳太郎　明四三、六生、享榮商業出身
男　正治　大二、一生、名古屋工廠勤務、愛知商業出身

君は愛知縣人伊藤銳忠の長男にして明治十七年四月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に名古屋市立商業學校速成科及補習科を卒業し洋傘雜貨商及金融業を營み傍ら日華生命京都火災兩保險會社代理店を兼ぬ家族は尚三男豐秀（大四、四生、名古屋高商在學）四男義裕（同六、五生）長女八重子（同九、五生）二女節子（同一二、五生）あり弟康吉（明二三、一一生）妹しん（同二五四生）弟清吉（同三二、五生）妹ちよ（同三九、七生）は各分家せり（名古屋市南區熱田旗屋町二九一電南一七六五）

（※印は姻族關係）

妻　富子　明四二、五生、東京、高橋泰藏長女
男　肇　昭七、一二生

君は東京府人伊藤利助の長男にして明治三十七年一月二十一日を以て生れ昭和八年家督を相續す地主たり家族は尚弟順（明四一、四生）妹照子（同四四、三生）同昌子（大四、七生）ありA八八五（東京市中野區沼袋南二ノ一七五電中野四五三〇）

伊藤賢三

正四位勳二等、軍醫總監
東京府士族
妻　道子　明二三、八生、東京、水原漸二女
男　衛　明四四、二生

君は神奈川縣士族伊藤賢吉の長男にして明治十三年二月十三日を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し陸軍に入り同四十一年陸軍二等軍醫に任じ昭和八年軍醫總監に累進す後待命被仰付現時豫備役たり其間陸軍省醫務局衛生課長東京第一衛戍病院長關東軍々醫部長等に歷補す家族は尚三男賢雄（大四、一二生）あり長女艶子（明四二、一〇生）東京府立第二高女出身）は東京府人宍戸圓三郎長男正元に嫁せり（東京市杉並區高圓寺七ノ九〇七電中野三六七）

參照＝水原漸の項

伊藤憲郎

從五位勳六等、朝鮮總督府檢事、京城覆審法院檢事、青森縣在籍
父　昇太　文久三、六生、現戸主、公證人
母　キサ　明七、一一生、小池清藤女
妻　直子　明三二、一生、新潟、今井時太郎二女、函館高女出身
男　洋　大一五、八生

君は青森縣人伊藤昇太の長男にして明治二十五年十二月を以て生る大正七年東京帝國大學法科を卒業し直に朝鮮總督府司法官試補となり同九年同判事に任ぜらる爾來光州地方法院井邑支廳京城海州各地方法院京城覆審法院各判事に歷補し昭和二年朝鮮總督府檢事に轉じ平壤覆審法院兼高等法院檢事朝鮮總督府事務官等を經て現時前記の官職に在り家族は尚長女京子（大九、二生）二女文子（同一一、三生）三男洽（昭四、六生）弟久元（明三二、一生）同昇弼（同三六、一二生）あり妹美代枝（同二八、一二生）は福井縣人工學士和田欽二に同文枝（同三〇、一〇生）は青森縣人福田晉三郎二男海軍中佐貞三郎に同芳枝（同三九、五生）は東京府人新義州電氣會社勤務村上明雄に同春枝（同四三、四生）は北海道人醫學博士八田俊之に同雪枝（大元、一一生）は青森縣人醫學士佐藤熙一に嫁し同壽枝（同四、二生）は東京府人陸軍醫務局衛生課長東京帝國大學理工科大學製造化學科を卒業し現時伊藤醋酸製造主にして前記會社の重役たり家族は尚三男博勝（大六、七生）四男高勝（同一三、一〇生）あり（大阪市北區新喜多町番外二九電東五一二）

參照＝伊藤佐助、千宗室宗伊藤晴一の項

伊藤源助

馬來護謨公司㊞取締役
岩手縣在籍
母　りよ　明一四、八生、岩手、宮森利右衛門養母
妻　なを　明二五、一生、埼玉、高木金之助三女
男　茂　大一四、一生

君は岩手縣人伊藤多助の長男にして明治二十六年十月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時前記會社の重役にして曩に伊藤商行代表取締役たりし事あり家族は尚長女和子（大一一、二生）二女新子（同一二、一一生）弟俊次（明三五、九生）同妻タキ（同四四、二生、岩手、加藤勝之助妹）及其一子弟俊夫（同四三、八生）同四郎（大三、一一生）あり妹マチ（同三〇、五生）は岩手縣人菊地純貞弟武雄に同ツマ（同三九、九生）は山形縣人大木源作三男祐三に嫁せり（東京市小石川區大塚仲町四一にノ一五電大塚一一二四）

伊藤源之助

一源商店㊞代表社員、一源製館所製館業、東京府在籍
妻　キミ　信妹
男　源太郎　明三七、一生
婦　夏子　明四〇、一生、長男源太郎妻、山梨、佐藤姉吉四女
男　駒吉　明三九、七生
女　米　大三、六生

君は北海道人渡邊兵三郎の五男にして明治十二年十月二日を以て生れ先代源之助の養子となり大正十二年家督を譲り襲名す一源商店代表社員にして曩に東京製館を營む合名會社一源商店代表社員にして曩に東京製館組合長たり家族は尚五男兵吉（大四、一生）九男基（同一二、一生）十男佐内（昭四、一生）孫知子（同七、五生）長男源太郎長女（同綾子（同九、一生、同二女）姨妹伊和子（明四五、四生）同みさ子（大三、九生）姨弟源藏（同六、七生）姨妹ふさ子（同八、一二生）あり同イサ（明四一、一一生）は東京府人根本忠明に嫁せりA一五七（東京市南島區寺島町三ノ三七電墨田三〇〇六）

伊藤源之助

アサヒ蓄音器㊞常務取締役、昭和起業㊞取締役、愛知縣士族
養父　爲蕙　慶應二、二生、現戸主
妻　富美　明三三、一二生、養父爲蕙三女、愛知縣立第一高女出身
男　信彦　大一四、七生

君は愛知縣人加藤富三郎の三男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十年現戸主の養子となる同五年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し明治銀行に入りしが後之を辭し現時前記各會社の重役たり家族は尚長女久子（大一〇、二生）あり（名古屋市樟木町二ノ二電東一一五四）

參照＝伊藤爲蕙の項

伊藤小三郎

山七、鍋釜鑄物商
愛知縣在籍
妻　りやう　明二、三生、愛知、西川佐助長女

（※印は姻族關係）

參照＝※木全由三郎の項

伊藤熊之助

足利銀行員
東京府士族
妻　要　明三五、五生、元衆議院議員河野正義養子
男　龍一郎　昭三、六生

君は東京府士族伊藤恕一の二男にして明治二十九年八月二十五日を以て生れ昭和三年家督を相續す大正十二年早稻田大學法學部英法科を卒業し足利銀行に入り現時總務部に勤務す家族は尚長女薫（大一五、一一生）二女園子（昭四、一一生）三女みど里（同六、七生）四女二葉（同八、一生）弟鉅彦（明三四、一〇生、萬年社東京支店勤務、中央大學出身）同一彦（同三六、二生、不動貯金銀行員、慶大高等部出身）妹朝子（同四〇、三生、東京女學館出身）同壽惠子（同四二、二生、出身校同上）あり伯母かね（同八、六生）は東京府人窪田惠鉉に妹壽美子（同三九、三生、東京女學館出身）は長野縣人町田貫一郎長男三菱銀行員經濟學士一郎に嫁し弟秀雄（同三二、二生、陸軍省航空本部勤務）同妻須惠子（同四三九生、三重、下村豊順五女）は分家せりA二七二（東京市牛込區南榎町二九電牛込七六三）

參照＝河野正義の項

伊藤奎二

工學博士、東洋電機製造㊞嘱託、丸ビル伊藤奎二事務所
東京府士族
妻　朝子　明三二、八生、東京、鳳秀太郎長女

君は東京府士族伊藤鼎の二男にして現戸主伊藤武男の弟に當る明治二十年七月を以て生る同四十一年東京高等工業學校電氣科を卒業し後工學博士の學位を受け現時伊藤奎二事務所を經營し傍ら文部省及び東洋電機製造會社の囑託たり家族は尚長女桃子（大一〇、二生）ありA三五三（東京市大森區田園調布三ノ八九電田園調布二二四）

參照＝伊藤武男、鳳秀太郎※小平儀平※與謝野寛の項

伊藤慶一

地主
東京府在籍
母　ヨシ　明四一、二生、東京、井川忠次郎妹

男　純一　明三〇、一二生、正八位、陸軍輜重兵少尉
婿　ひき　明四〇、三生、二男純一妻、愛知大麻純一長女

君は愛知縣人伊藤久八の長男にして慶應元年七月を以て生れ明治四十二年家督を相續す屋號を山七と稱し鍋釜雜物商を營む家族は尙孫みさ（昭四、一〇生、二男純一二女）あり二女あい（明二六、一二生）は愛知縣人名和松次郎長男繁に嫁し弟孫一（同一〇、四生）同妻れい（同一五、一生、愛知、猪子善兵衛妹）は共に其子女を伴ひ分家せり（愛知縣西春日井郡新川町土器野新田八七二電新川七）

伊藤五朗

繼母　まさ　日本郵船會社神戸支店員
妻　きぬ江　兵庫縣在籍慶應元、八生、兵庫、荒井短近二女
明三〇、四生、兵庫、横山保太郎

君は兵庫縣人伊藤秀吉の三男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十四年家督を相續す現に日本郵船會社神戸支店員にして資產家たり家族は尙長女員子（大一一、三生）二女允子（昭四、一〇生）弟利雄（明二六、九生）同妻敏子（同三七、四生、靜岡、岡本嘉三郎二女）及其三子の外妹志津子（同四〇、三生）あり A一五八六（兵庫縣武庫郡良元村鹿鹽枡塚三〇電寶塚三一三）
參照＝横山保太郎※川本市太郎※横山淺吉※米澤彌次郎の項

伊藤孝一

伊藤殖產㈲代表社員、家主
妻　かね　愛知縣在籍
私生子
男　慶吉　大二、一生
女　慶子　大四、一生

君は愛知縣人伊藤榮二郎の庶子にして明治二十五年四月を以て生れ同三十四年家督を相續す家主にして現に伊藤殖產會社を主宰す家族は尙二女靜子（大九、四生）二男英二（同一一、五生）三女なか（同一四、五生）四女都留子（昭三、五生）五女和子（同五、九生）及弟鎭之助（明三三、四生）あり嫡母あい（同三、一一生、愛知、竹田銀太郎妹）は分家せり A一二三五（名古屋市中區下前津町一四電南二八一八）
參照＝竹田銀太郎※神野三郎の項

伊藤孝次

從四位勳二等、海軍造機中將、海軍艦政本部出仕、東京府在籍
妻　ふき　明二五、五生、東京、士、山縣俊妹
男　夏生　大九、五生

君は京都府人伊藤正信の四男にして明治十一年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十六年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同年海軍中技士に任ぜられ昭和四年海軍造機中將に累進す其間英國駐在吳海軍工廠造機部々員海軍省出仕吳海軍工廠廣支廠造機部々員横須賀工廠造機部々員海軍省出仕兼海軍機關學校教官佐世保海軍工廠造機部長海軍艦政本部造船監督官兼造兵監督官海軍艦政本部臨時艦船建造部長廣海軍工廠長等に歷補し昭和五年十二月海軍技術研究所長兼海軍技術會議々員今日に及ぶ妹春（明一七、三生）は靜岡縣人島崎廉平に嫁せり（東京市澁谷區松濤町八三電青山二五〇四）

伊藤幸太郎

大同貿易㈱取締役會長、伊藤忠商㈱監査役、伊藤忠㈲無限責任社員、滋賀縣在籍
母　とき　明四、一二生、滋賀、伊藤忠兵衛姉、現戸主
妻　敏子　明三五、八生、京都、堀江義三郎二女
男　一二　大一二、一二生

君は滋賀縣人伊藤忠次郎の長男にして明治二十八年六月を以て生る養に綿糸商を營みしも現時前記會社の重役たり家族は尙二男八郎（大一四、八生）三男金太（昭二、五生）長女鈴子（同四、一〇生）あり A一五五〇（兵庫縣武庫郡住吉村古寺四八九電御影四〇三）
參照＝伊藤忠兵衛※伊藤忠三※松村滿雄の項

伊藤孝太良

大同貿易㈱取締役會長、伊藤忠商㈱監査役、滋賀縣在籍
母　とき　明四、一二生、滋賀、伊藤忠兵衛姉、現戸主
妻　敏子　明三五、八生、京都、堀江義三郎二女
男　一二　大一二、一二生

君は滋賀縣人伊藤忠次郎の長男にして明治二十八年六月を以て生る養に綿糸商を營みしも現時前記會社の重役たり家族は尙二男八郎（大一四、八生）三男金太（昭二、五生）長女鈴子（同四、一〇生）あり A一五五〇（兵庫縣武庫郡住吉村古寺四八九電御影四〇三）
參照＝伊藤忠兵衛※伊藤忠三※松村滿雄の項

伊藤浩藏

公證人　千葉縣士族
妻　こはる　明一八、一一生、長野、川島五郎長女
男　陽介　明四一、二生、辯護士、法學士
女　すま　大元、一二生
女　ゆか　大五、七生

君は千葉縣士族伊藤安親の三男にして明治八年一月二十七日を以て生る同二十九年東京法學院英語法學科を卒業し夙に判事に任官し爾來三十三年間官職にあり退官して現時公證人たり家族は尙兄彌門（明五、八生、現戸主）同妻なみゑ（同二〇、一〇生、長野、福澤伊與太郎長女）及其四子女あり長女ちか（明四三、六生）は長野縣人井出雁三に嫁春（同四〇、三生）は茨城縣人叶野健治に嫁せり A五〇七（東京市京橋區銀座二ノ三ノ四電京橋二二七六）

伊藤耕作

南洋貿易、日本商事、日露商運、東海商業㈱取締役、川越紡績㈱監査役、大分縣士族
養父　仙太郎　明五、四生、大分、野上想八二男現戸主
養母　ケサ　明五、一一生、先代重世長女
妻　八重　明八、八生、東京、江崎禮三長女
男　欣一　明二九、八生
婿　富美　明三五、七生、福井幸次郎四女
男　悅雄　明四〇、一二生
男　悅三　明四二、五生

君は東京府人伊藤莊次郎の長男にして明治三年六月十八日を以て生る同二十五年早稻田大學の前身東京專門學校邦語法律科を卒業し實業界に入り現時千住吾妻汽船會社監査役にして兼に東都染料製造會社重役たり家族は尙孫喜美子（昭二、一生、長男欣一長女）同已嗣（同六、一生、同長男）あり長女贅（明三二、一〇生）は東京府人長島四郎に妹その（同五、三生）は同府士族坂井辨に同利子（同一五、二生）は同府人岡田好樹二男克に同深雪（同二三、三生）は同府人高畠儁長男昭に嫁せり（東京市牛込區東五軒町四二）

伊藤三五郎

雜貨商　東京府在籍
養母　かつ　明八、七生、東京、橋本平三郎長女
妻　たか　明三〇、三生、東京、伊藤福五郎長女
男　博　昭三、三生
女　君子　大八、九生

君は東京府人鴨下德次郎の弟にして明治二十八年六月三十日を以て生れ大正七年先代福五郎の養子となり同十三年家督を相續す現時雜貨商を營む家族は尙妹ヌイ（明四五、六生）あり A三一七九（東京市杉並區高圓寺七ノ一〇〇三電中野四五五一）

伊藤三藏

地主　東京府在籍
妻　かま　慶應二、九生、養父米次郎長女
男　宗太郎　明二一、四生
婿　とめ　明二二、一二生、二男宗太郎妻、東京、蘆川幸藏四女
男　哀子雄　明四四、一生
孫　光雄　大二、二生、二男宗太郎長男

君は東京府人古庄吉之丞の二男にして元治元年一月十二日を以て生れ明治十三年同府人先代米次郎の養子となり同十六年家督を相續す地主たり二女やす（明二三、一〇生）同夫金之助（同一九、一生、東京、蘆川佐助三男）は其一子を伴ひ六男謙吾（同三七、七生）同妻年子（同四二、一生、千葉、大木茂助長女）は共に各分家し三女きん（同二六、三生）は東京府人前島平五郎孫鎌太郎に四女ふく（同四〇、一二生）は同府人前島孝作に嫁し三男倉藏（同二九、二生）は同府人鈴木昭寬に五男米藏（同三四、二生）は同府人松見兼吉に各養子となれり A三九六（東京市荒川區日暮里三ノ一〇四四）

伊藤次郎左衛門

名古屋商工會議所顧問、名古屋製陶所㈱社長、愛知時計電機、日本貯蓄生命保險、福壽火災保險、名古屋取締役、千年殖產、山東窯業各㈱取締役、千代田毛織、愛知銀行、中央信託、日本無線電信、千歲興業、日本㈱監査役、樂部、愛知縣在籍、名古屋倶樂部、坂屋中央放送局各㈱監査役、日本工業倶樂部、愛知縣在籍

妻　貞子　明三三、六生、神奈川、石川久姉
男　達郎　昭三、一生

君は大分縣人野上想八の五男にして明治二十年十月を以て生れ同三十九年實兄仙太郎の養子となる大正五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し夙に南洋貿易會社に入り取締役兼支配人に擧げられ次で同會社專務取締役たりしも現時取締役にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女普子（大一四、三生）の外一子あり A一〇四六（東京市大森區雪ヶ谷町五二五電荏原三七七八）

伊藤琴三

東京府多額納稅者、やまと工業㈱監査役、伊藤榮工場主、染物業
東京府在籍
妻　ふき　明三、五生、東京、士、長野長十郎長女、跡見女學校出身
明二一、四生、長女まつ夫、岐阜上野源左衛門弟、元東京高工助教授、東京工場懇話會理事、汽罐協會理事、蔵前工業會館㈱監査役、東京高工出身
養子　一郎　明二九、九生、養子一郎妻、跡見女學校出身
女　ます　大八、三生、養子一郎長女
孫　和子

君は神奈川縣士族伊藤銓一郎の弟にして慶應二年十二月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す染物業を營み伊藤榮工場を經營しやまと工業㈱監査役たり兼ねて東京府多額納稅者に列す義に大日本織物協會理事たりし事あり家族は尙孫代々喜（大一〇、一生、養子一郎二女）同嗣喜（昭三、五生、同三女）あり二女富美（明三〇、九生、跡見女學校出身）は其外祖父長野長十郎の養子となれり A三二〇五三B四六八三（東京市麹町區上二番町一電九段三二七三）

伊藤佐助

ひのや、製竹酢醸造元　大阪府在籍
妻　と　く　明一四、九生、兵庫、矢野武一妹
男　祐勝　明四四、九生
女　延　大二、一二生
女　節　大四、六生
女　俊　大七、五生

君は大阪府人先代佐助の長男にして伊藤源次郎の兄なり明治三年二月を以て生れ同三十年家督相續と共に前名龜三郎を改め襲名すひのやと稱し製竹酢醸造元として知られ養に大阪市會議員大阪商工會議所議員伊藤硫曹製造場會社監査役たり二女由喜（明四三、八生）は岡山縣人藤本次平五男寡代太に嫁し姉りん（慶應二、四生）は大阪府人伊藤晴一の母たり A二三三〇B九九（大阪市南區久左衛門町二三一電南三二九）
參照＝伊藤源次郎、伊藤晴一の項

伊藤佐平

養母　はる　愛知縣多額納稅者、地家主
安政四、七生、愛知、加藤半兵衛二女
妻　りやう　明三、一一生、養父佐平長女
明一七、一一生、長女よね夫、愛知、大橋義次甥、愛知醫專出身、醫師
養子　六太郎　明二四、三生、養子六太郎妻
女　よね　明三一、一生、二男宗太郎長男

君は愛知縣人山田貫之助の弟にして明治元年五月を以て生れ先代佐平の養子となり大正二年家督を相續し前名時四郎を改め襲名す地家主にして愛知縣多額納稅者に列し直接國稅二千五十五圓を納む（名古屋市西區東萬町二ノ一〇電本局一五二）
參照＝※森川準之助の項

伊藤才一

伊藤鐵工所、鐵工業　大阪府在籍
妻　なを　明一五、一生、岐阜、高橋重助長女
男　利一　明三五、五生
女　しず子　明四〇、九生
男　忠一　明四三、三生
男　正一　大元、八生

君は岐阜縣人西松儀藏の四男にして明治十年十月を以て生れ先代利兵衛の養子となり同四十三年家督を相續す伊藤鐵工所と稱し鐵工業を營む家族は尙五男繁（大二、一二生）四、二生）六男勝一（同一四、一〇生、長男利一長男）は福井縣人宮下仁右衛門四男乙五郎の養子となれり A五九七（大阪市港區八幡屋大通三ノ七五電西一五六九）

伊藤次郎

養母　かつ　明八、八生、東京、江崎禮三長女
男　欣一　明二九、八生
婿　富美　明三五、七生、福井幸次郎四女
男　悅雄　明四〇、一二生
男　悅三　明四二、五生

君は東京府人伊藤莊次郎の長男にして明治三年六月十八日を以て生る同二十五年早稻田大學の前身東京專門學校邦語法律科を卒業し實業界に入り現時千住吾妻汽船會社監査役にして兼に東都染料製造會社重役たり家族は尙孫喜美子（昭二、一生、長男欣一長女）同已嗣（同六、一生、同長男）あり長女贅（明三二、一〇生）は東京府人長島四郎に妹その（同五、三生）は同府士族坂井辨に同利子（同一五、二生）は同府人岡田好樹二男克に同深雪（同二三、三生）は同府人高畠儁長男昭に嫁せり（東京市牛込區東五軒町四二）

伊藤三五郎

雜貨商　東京府在籍
養母　かつ　明八、七生、東京、橋本平三郎長女
妻　たか　明三〇、三生、東京、伊藤福五郎長女
男　博　昭三、三生
女　君子　大八、九生

君は東京府人鴨下德次郎の弟にして明治二十八年六月三十日を以て生れ大正七年先代福五郎の養子となり同十三年家督を相續す現時雜貨商を營む家族は尙妹ヌイ（明四五、六生）あり A三一七九（東京市杉並區高圓寺七ノ一〇〇三電中野四五五一）

伊藤三藏

地主　東京府在籍
妻　かま　慶應二、九生、養父米次郎長女
男　宗太郎　明二一、四生
婿　とめ　明二二、一二生、二男宗太郎妻、東京、蘆川幸藏四女
男　哀子雄　明四四、一生
孫　光雄　大二、二生、二男宗太郎長男

君は東京府人古庄吉之丞の二男にして元治元年一月十二日を以て生れ明治十三年同府人先代米次郎の養子となり同十六年家督を相續す地主たり二女やす（明二三、一〇生）同夫金之助（同一九、一生、東京、蘆川佐助三男）は其一子を伴ひ六男謙吾（同三七、七生）同妻年子（同四二、一生、千葉、大木茂助長女）は共に各分家し三女きん（同二六、三生）は東京府人前島平五郎孫鎌太郎に四女ふく（同四〇、一二生）は同府人前島孝作に嫁し三男倉藏（同二九、二生）は同府人鈴木昭寬に五男米藏（同三四、二生）は同府人松見兼吉に各養子となれり A三九六（東京市荒川區日暮里三ノ一〇四四）

伊藤次郎左衛門

名古屋商工會議所顧問、名古屋製陶所㈱社長、愛知時計電機、日本貯蓄生命保險、福壽火災保險、名古屋取締役、千年殖產、山東窯業各㈱取締役、千代田毛織、愛知銀行、中央信託、日本無線電信、千歲興業、日本㈱監査役、樂部、愛知縣在籍、名古屋倶樂部、坂屋中央放送局各㈱監査役、日本工業倶樂部、愛知縣在籍

（※印は姻族關係）

母　みつ　安政三、一一生、愛知、岡谷惣助叔母
男　松之助　明三五、七生
女　鐐　大二、一〇生、愛知縣立第一高女出身
女　好　大七、一〇生、愛知縣立第一高女出身

伊藤家は舊織田信長の家臣なりしも十數代前織田家を退身して名古屋城下に定着し吳服渡世を始ゐ是れ當家伊藤松坂屋の鑑觴なり爾來數百年漸次家業の大を爲し十二代先代次郎左衛門に至る先代次郎左衛門家業を繼承し兼に貴族院議員名古屋商業會議所會頭に選ばれ後退隱し治助と改名し餘世を京都鹿苑仙翁寺に送れり君は其四男にして明治十一年五月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名守松を改め襲名す夙に愛知商業學校を卒業し松坂屋を主宰し傍ら前揚諸銀行會社の重役を兼ね推されて名古屋商工會議所顧問たり謠曲圓藝を好む家族は尙熊子（輝彦（大一二）、一二生、生母、大阪、川橋千代子）同百合子（同一五、七生、生母同上）同鶴彦（昭三、五生、生母同上）あり二男銑次郎（明三七、一〇生）三男鈴三郎（同三八、一〇生）は各其妻を伴ひ分家し長女鈴（同三六、一〇生、愛知縣立第一高女出身）は子爵交野政邇に二女鉉（同四一、七生、出身校同上）は京都府人柏原孫左衛門に嫁せりA二九六三五（名古屋市西區茶屋町三ノ三）**電本局九二〇九三**

參照‖子爵交野政邇、伊藤銑次郎、伊藤鈴三郎、伊藤松之助、岡谷惣助、柏原孫左衛門※伊藤利彦※小川傳兵衛※岡谷喜三郎※北川宗三郎※若林昌之助の項

伊藤治一

莫大小商　愛知縣在籍

妻　いさ　明二七、一〇生、三重、松田平八姉
男　鋼一　明四三、一一生
男　庄次郎　明四四、一一生

君は愛知縣人服部治郎七の男にして明治十八年三月一日を以て生れ同四十三年先代シナの入夫となり家督を相續す莫大小商を營む家族は尙五男道治（大一四、六生）あり三男直光（同二、一一生）は愛知縣人伊藤庄八に養子せりA二八〇B一一七（名古屋市東區鶴重町電東三〇七五）

伊藤治郎助

花卷溫泉旅館監査役、金融業　岩手縣在籍

妻　タカ　明二二、一一生、岩手、小田島升太郎長女
男　喜助　明四二、四生
男　仁助　大三、二生

君は岩手縣多額納稅者先代故伊藤治郎助の長男にして明治七年十月十三日を以て生れ昭和六年家督を相續し前名治兵衛を改め襲名す現時金融業を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙七女ソノ（大一四、六生）四男悅勝（昭四、九生）あり長女ヨシ（明二八、一二生）同夫二郎（同二七、四生、岩手、一井倉藏二男）は其三子女を伴ひ弟吉治（同一八、九生）同妻ヨシ（同二四、八生、岩手、三浦長兵衛二女）は一女を伴ひ各分家し二女ヒサ（同三〇、一〇生）は岩手縣人吉田文助長男文一郎に三女クリ（同三四、六生）は同縣人高橋源喜次に五女ヤス（同三九、一生、縣立盛岡高女出身）は同縣人內川喜一郎に六女ミネ（同四四、四生）は福島縣人門馬眞次郎に妹ヨト（同九、一一生）は岩手縣人平野理助養子仁太郎に同イト（同一三、三生）は同縣人柴田重松に同サイシゲ（同二三、二生）は同縣人笠原文太郎長男彌兵衛に同（同一五、九生）は同縣人澤藤彌四郎長男彌吉に嫁せり（岩手縣和賀郡黑澤尻町）

伊藤茂造

地主　東京府在籍

母　さく　文久三、九生東京、中村金右衛門二女
妻　房　明二八、一生、東京、大島克巳妹
女　元枝　大八、七生

君は東京府人伊藤三藏の二男にして明治二十六年七月十三日を以て生れ大正十五年家督を相續す現時地主たり家族は尙二女妙子（大一〇、五生）あり妹ふみ（明三八、一一生）は神奈川縣人石川子之助に嫁せりA六五三（東京市淺谷區長谷川町一）

伊藤周次郎

正五位勳三等功五級、陸軍少將、陸軍航空本部技術部長　福島縣在籍

母　ムメ　文久元、一一生、福島、安西與兵衛長女
妻　タケ　明二六、一〇生、福島、小松四郎治四女
男　雅夫　大七、六生
女　文子　大二、一生
女　道子　大四、三生

君は福島縣人伊藤石之介の二男にして明治十五年十一月二十六日を以て生れ昭和六年兄市之介より分れて一家を創立す同三十六年陸軍士官學校を卒業し翌年砲兵少尉に任じ次で中尉に進む大正二年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同十五年航空兵大佐に累進す同年陸軍航空本部々員特許局技師を命ぜられ昭和七年陸軍少將に昇任し現時航空本部技術部長たり（東京市杉並區上荻窪九四一電荻窪三七〇五）

參照‖※藤井利譽の項

伊藤重五郎

左德、左官業　東京府在籍

繼母　とみ　明二、六生、東京、淺田てい二女
妻　ツル　明二四、一生、東京、山岸德太郎四女
男　德太郎　明四四、三生
女　泰　大七、六生

君は東京府人伊藤德次郎の二男にして明治十八年四月十五日を以て生れ大正三年家督を相續す左德と稱し左官業を營む義に麻布區會議員たり事あり家族は尙二男友夫（大五、五生）四男秀三（同一一、一生）五男達夫（同一三、二生）三女孝（昭五、三生）あり長女しづ（大三、三生）は東京府人深川東一郎に妹たき（明二四、一生）は同府人高山亮三に嫁し弟廣治（同三八、五生）は分家し同嘉雄（同四四、一二生）は同府人淺田いちの養子となれり（東京市麻布區森元町一ノ二二一電青山七六五九）

伊藤重三郎

從四位勳四等、朝鮮總督府判事、釜山地方法院菁州支廳判事　愛知縣在籍

妻　すゝ子　明二一、五生、愛知、加藤重三郎長女
男　俊夫　明四一、二生
男　重雄　明四三、一一生
男　誠　大二、一二生

君は愛知縣人伊藤利三郎の長男にして明治十五年六月を以て生れ昭和五年家督を相續す先是明治三十五年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格し同三十八年判事に任じ岐阜地方名古屋地方同區福井地方同區各裁判所判事を經て大正五年朝鮮總督府判事に任じ爾來光州地方法院大邱覆審法院各判事新義州平壤各地方法院部長を經て昭和二年京城覆審法院部長に轉じ次で光州地方法院木浦支廳判事となり現時釜山地方法院菁州支廳判事たり家族は尙長女元子（大一〇、一生）五男男（同一四、九生）あり叔父長太郎（安政六、五生）は分家し姉やす（明七、二生）は愛知縣人五島幸治郎に嫁せり（朝鮮慶尙南道晉州邑樓町一九五官舍）

伊藤重次

東北帝國大學法文學部講師、辯護士、東京府士族

妻　芳江　明三六、一一生、埼玉、加藤直法長女
男　陽二郎　昭六、一〇生

君は舊勢州長島藩士伊藤重の長男にして明治二十二年九月六日を以て生れ同三十年家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し更に大學院に學ぶ現時辯護士を開業し諸會社に法律顧問たる傍ら東北帝國大學法文學部講師たり嘗に英國に留學しバリストルの稱號を受く家族は尙長女碧子（昭三、五生）二女曉子（同四、七生）三男重遙（同八、三生）ありA二三九（東京市芝區白金今里町七七電高輪一〇一〇）

參照‖加藤直法の項

伊藤重次郎

正五位勳五等、朝鮮總督府技師、農林局林業課長、山形縣士族

妻　ふさ　明二三、一一生、山形、士、相浦繁太二女
男　嘉夫　大二、六生
女　節子　大四、二生
女　周子　大五、七生

君は山形縣人堀尾金彌の二男にして明治十六年九月十二日を以て生れ先代嘉猷の養子となり大正三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し爾來林務技手山林技師朝鮮總督府營林廠技師同營林署技師等に歷任し昭和六年歐米各國を視察同年朝鮮總督府技師に進み山林部林產課長兼營林課長を經て現時農林局林業課長たり家族は尙三男秀雄（大九、一一生）四男新吾（同一一、一生）五男悌夫（同一三、一生）あり二男重郎（同七、一一生）は秋田縣人江口隆興の養子となれり（京城府朝鮮總督府農林局內）

伊藤重兵衛

美濃重商店、酒造業　愛知縣在籍

妻　しゅん　明三六、七生、愛知、大木重右衛門養子
男　重治　大一五、五生

君は愛知縣人先代重兵衛の四男にして明治三十五年家督を相續し前名寅次郎を改め月を以て生れ大正十年家督を相續す現時地主たり家族は尙二女妙子（大一〇、五生）あり妹ふみ（明三八、一一生）は神奈川縣人石川子之助に嫁せりA六五二日を以て生れ先代嘉猷の養子となり大正三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し爾來林務技手山林技師朝鮮總督府營林廠技師同營林署技師等に歷任し昭和六年歐米各國を視察同年朝鮮總督府技師に進み山林部林產課長兼營林課長を經て現時農林局林業課長たり家族は尙三男秀雄（大九、一一生）四男新吾（同一一、一生）五男悌夫（同一三、一生）あり二男重郎（同七、一一生）は秋田縣人江口隆興の養子となれり（京城府朝鮮總督府農林局內）

伊藤重兵衛

地主　東京府在籍

母　ゆう　安政三、一生、東京、今井繼道二女
妻　うた　明一八、一生、東京、石田春太郎

君は東京府人先代伊藤重兵衛の長男にして明治九年十一月を以て生れ大正五年家督を相續し前名錄太郎を改め襲名す地主たり家族は尙養子明子（大九、一一生）東京、保坂京三郎孫）あり妹けい（明二二、一〇生）は同夫讓（同二四、七生、東京、淡島費受郎二男）及其三子と共に分家せりA一九九二（東京市本郷區駒込西片町一〇）**電小石川三九四六**

參照‖※淡島嘉兵衛※淡島智藏の項

伊藤重郎

南國產業株監査役、臺灣製糖株東京出張所總務部長、東京府士族

妻　みち　明治一九、一生、東京、林要三姉
男　修吉　大三、六生

君は東京府人伊藤重光の長男にして明治十二年三月十五日を以て生れ大正八年家督を相續す夙に實業界に入り南國產業會社監査役を兼ね現時臺灣製糖會社東京出張所總務部長たり家族は尙二男眞吉（大五、二生）四男悌吉（同九、一生）長女婦美子（同一一、一生）六男浩吉（同一五、五生）ありA三一二（東京市芝區白金三光町六五**電高輪五一七八**）

伊藤銑次郎

伊藤銀行、松坂屋合資取締役、伊藤產業合資社員、大阪府在籍

妻　充子　明四二、四生、子爵相良頼綱三女

君は愛知縣人伊藤次郎左衛門の二男にして同松之助の弟鈴三郎の兄なり明治三十七年十月八日を以て生れ昭和五年分別れて一家を創立し大阪府に轉籍す現時伊藤銀行松坂屋各會社の取締役にして伊藤產業合名會社の社員たりA一二七八八（大阪府豐能郡南豐島村原田二**電岡町七〇五**）

參照‖子爵相良頼綱、伊藤次郎左衛門、伊藤鈴三郎

伊藤述史

從四位勳三等、特命全權公使、波蘭國駐劄、愛媛縣在籍

母　ツネ　安政二、九生、愛媛、佐藤篤次長女
妻　アンドレー　リモージュ　明二八、七生、佛國、クロード長女
男　義一　大一〇、五生

君は愛媛縣人伊藤述冲の長男にして明治十八年八月を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十二年東京高等商業學校專攻部を卒業し外交官及領事官試驗に合格す同年領事官補となり爾來外交官補大使館三等書記官同二等書記官外務事務官公使館一等書記官大使館一等書記に歷任し昭和二年大使館參事官となり伊國瑞西支那佛國等に在勤し大使館參事官國際聯盟帝國事務局次長を經て昭和八年十一月特命全權公使に任じ波蘭國駐劄を命ぜられ今日に及ぶ同六七年開催の國際聯盟第十二回第十三回會議同臨時會議に帝國代表者代理を被仰付弟强兵（明二一、三生）は分家し同龍郎（同二五、五生）は滋賀縣人中島松太郎の養子となれり（在波蘭國日本公使館內）

伊藤惇一郎　新潟縣多額納稅者、農業
新潟縣在籍
母　ヒサ　嘉永五、四生、新潟、鳥倉慎雄三女
男　恕夫　明三一、六生、早大法科出身
婦　テツ　明三四、一生、長男恕夫妻、新潟本間新作孫
君は新潟縣人伊藤利藤太の長男にして明治六年九月を以て生れ同二十四年家督を相續す祖業を承けて農業を營み直接國稅千六百五十三圓を納め縣下の多額納稅者たり義に縣會議員に擧げらる家族は尙孫周（大一二、一生、長男恕夫二女）同行（同一四、九生、同長男）同巷（昭三、一生、同二男）あり妹ヤイ（明九、二生）は新潟縣人藤田節吉に同ムツ（同一八、一〇生）は同縣人五十嵐茂藏に嫁し弟丑二郎（同一〇、一二生）は分家し同巳三郎（同一四、七生）は新潟縣人中野久衛の養子となれり（新潟縣西蒲原郡赤塚村）
參照＝五十嵐茂藏、藤田節吉、本間新作の項

伊藤庄次郎　愛知縣多額納稅者、家主
愛知縣在籍
庶子　博　明三六、一生、生母、愛知、加藤とめ
婦　安子　明三八、九生、庶子博妻、岐阜、大野米吉三女
庶子　央郎　大二、三生、生母、愛知、加藤とめ
君は愛知縣人太田傳六の長男にして元治元年七月を以て生れ明治三十一年先代つうの入夫となり家督を相續す現時家主にして愛知縣多額納稅者に列し直接國稅千三百四十六圓を納む家族は尙孫武雄（大一五、一一生庶子博長男）同女子（昭三、三生、同長女）同朝子（同五、一二生、同二女）同逸子（同八、一〇生、同三女）あり庶子正稔（明三七、五生）は其生母愛知縣人加藤とめの養子となれりA二〇五二（名古屋市中區花園町一四電本局二二八一）

伊藤庄助　家主
大阪府在籍
男　庄三郎　明三四、七生
婦　ふみ　明三五、二生、長男庄三郎妻、大阪、小石圭三二女
君は大阪府人山田嘉助の三男にして明治十一年二月一日を以て生れ同三十二年先代庄助の養子となり翌年家督相續と共に前名市治郎を改め襲名す家族は尙孫龍太郎（昭三、二生、長男庄三郎長男）ありA四七九（大阪市東區元伊勢町七七〇電東五六五八）

伊藤庄八　柏屋本店賣代表社員、小間物貴金屬商、愛知縣在籍
明三二、一一生、岐阜、平瀨市兵衛妹
大二、一一生、愛知、伊藤治一三男
妻　あい　明一九、一生、新潟、田中博長女
養子　直光　大二、一一生、大阪、內田平吉次男
君は愛知縣人齋田庄左衛門の二男にして明治十四年一月を以て生れ先代庄八の養子となり同三十九年家督を相續す前名十四一を改め襲名す小間物貴金屬商を營み柏屋本店代表社員たりA九六四（名古屋市中區南伏見町二ノ三九電本局三三）

伊藤庄兵衛　京都府多額納稅者、精米業
京都府在籍
母　貞　明五、六生、京都、中路儀左衛門長女
婦　ふさ　明三二、七生、京都、奥田治四郎四女
君は京都府人先代庄兵衛の長男藤井市之助の甥にして明治三十年七月を以て生れ大正九年家督を相續し前名英吉を改め襲名す精米業を營み直接國稅二千二百二十八圓を納め京都府多額納稅者に列す家族は尙長女文子（大一四、二生）二男政夫（昭三、一二生）叔母母ヌ（安政四、九生）弟益次郎（明三九、四生）同妻奈津（同四三、七生、京都、黑田卯三郎四女）同德三郎（同四一生）あり叔父治三郎（同一九、四生）は同妻てる（同二一、四生、東京、戶田氏貞長女）と共に分家せり（京都市東山區柳原野本町十丁目西裏電話園一四五七）
參照＝奥田治四郎、藤井市之助、井上利助、田中忠雄の項

伊藤信愛　南洋眞珠㈱常務取締役、三菱資總務課副長、長野縣在籍
妻　喜和　明三四、五生、東京、依田耕一妹
君は長野縣人先代伊藤久藏の長男にして明治二十三年七月二十八日を以て生れ大正三年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業現時三菱合資會社總務課副長にして傍ら南洋眞珠會社常務取締役たり家族は尙長女安子（大一四、六生）二女治子（昭二、三生）三女道子（同五、七生）四女逢子（同七、一〇生）弟和雄（明二六、二生、横濱正金銀行倫敦支店副長、法學士）同妻玉（同三一、三生、東京、中澤彥吉長女）あり（神奈川縣逗子町新宿電逗子五〇六）

伊藤眞雄　從四位勳四等、神戶高等商業學校長、新潟縣士族
繼母　シメヲ　安政六、九生、新潟、富樫敬助姉
妻　イク　明一九、一生、新潟、田中博長女
男　眞誠　明三八、一二生、大阪商大出身
男　英雄　大二、二生、高知高校在學
君は新潟縣士族伊藤男松の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し大阪高等商業學校教授となり大正元年より同四年まで英獨佛國に留學更に昭和元年歐米各國を巡遊し同二年歸朝大阪商科大學教授を經て現に神戶高等商業學校長たり（兵庫縣明石郡垂水町西垂水電垂水子四四一）
參照＝田中博の項

伊藤新次郎　大阪府多額納稅者、伊藤新商店㈱代表社員、洋反物商、大阪府在籍
妻　フミ　明二二、一〇生、京都、遠藤九右衛門姉
男　泰太郎　大三、一〇生
養子　巖　明三八、四生、長女たか子夫、神戶、上山與作二男
女　たか子　明四五、一生、養子巖妻、樟蔭高女出身
君は大阪府人伊藤九兵衛の叔父にして明治十七年十月を以て生れ同二十八年亡兄新次郎の家督を相續し前名松次郎を改め襲名す洋反物商を營み伊藤新商店代表社員にして大阪府多額納稅者たり謠曲を趣味とす家族は尙二男忠藏（大七、二生）孫芳子（昭九、三生、養子巖長女）ありA八五〇七（大阪市東區本町三ノ二四電局本町六〇一）
參照＝伊藤九兵衛、遠藤九右衛門、岩本義子、中村正格の項

伊藤助太郎　大君鑛業㈱取締役、若松炭礦㈱清算人、宮城縣在籍
妻　とら　慶應三、三生、宮城、佐呆東吉長女
君は宮城縣人伊藤吉藏の長男にして安政六年三月を以て生れ明治二十六年家督を相續す夙に檢事に任じ後辯護士となり勞佐一（明一三、二生、亡姉さく男）は分家し養子ハヤ（同四〇、六生、分家甥佐一長女）は千葉縣人鈴木莊之助孫正男に嫁せり（東京市本郷區駒込吉祥寺町二〇電小石川四七八五）

伊藤祐祥　鹿兒島縣農工銀行、日本水電各㈱取締役、薩摩製絲㈱監査役
妻　トメ　鹿兒島縣士族
養子　信夫　明六、一生、鹿兒島、松元思齋叔母
君は鹿兒島縣士族伊藤祐德の二男にして元治元年四月を以て生れ明治三十年家督を相續す現に前記銀行會社の重役にして義に北九州住宅土地會社重役たり家族は尙孫祐輔（大五、三生、養子信夫長男）同ノリ（同一〇五生、同長女）同順子（同一五、六生、同二女）あり妹マツ（明八、四生）は鹿兒島縣士族川俣國愛に同ツネ（同一一、一一生）は同縣人志賀眞一郎長男龜彥に嫁せり（鹿兒島縣出水郡出水町電六九）

伊藤鈴三郎　三綿商店㈱取締役、伊藤銀行、松坂屋各㈱監査役、東京府在籍
妻　實子　大正四、一〇生、貴族院議員濱口儀兵衛二女、變藥高女出身
君は愛知縣人實業家伊藤次郎左衛門の三男にして同松之助同鉄次郎の弟なり明治三十八年十一月十六日を以て生れ昭和六年分れて一家を創立す同四年慶應義塾大學經濟科を卒業後直ちに倫敦大學に遊び滯英三年兄松之助夫妻と歐米各地巡遊後歸朝し現時三綿商店取締役の外伊藤銀行松坂屋各監査役たり晉樂に趣味を有すA一七二三（東京市芝區白金三光町五〇二電高輪六〇一一）
參照＝伊藤次郎、左衛門、伊藤鉄次郎、伊藤松之助、濱口儀兵衛※子爵交野政憲※男爵東久世秀雄

※岡本男五※柏原孫左衛門※濱口四郎※濱口擔の項

伊藤清右衛門　仁壽堂本店、薰香線香商大阪府在籍
妻　サダ　明二六、五生、大阪、枯駿猶次郎長女
男　秀三郎　大三、一二生
君は大阪府人先代清右衛門の長男にして明治二十二年十二月二十八日を以て生れ大正十五年家督相續と共に前名清三を改め襲名す仁壽堂本店と稱し薰香線香商を營む家族は尙二男泰（大五、九生）あり姉ゆき（明一二、三生）は大阪府人伊藤章三の母たりA三六四五B四一五（大阪市南區心齋橋二ノ六八電南三七一）

伊藤清次郎　大阪市北區會議員、綿布絨既製品商、大阪府在籍
妻　八重野　明二八、一生、大阪、內田平吉妹
男　武雄　明四三、五生、長男武雄妻、大阪
婦　靜子　大元、一二生、長女廣瀨敬治長女
男　清　大元、九生
君は大阪府人伊藤春次郎の二男にして明治十六年十二月十九日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す綿布絨既製品商を營み推されて北區會議員となる家族は尙三男修（大七、二生）四男渡（同九、七生）五男正（同一二、二生）長女和代（昭二、三生）二女春子（同八、五生）ありA一二〇五B三〇〇（大阪市北區富田町四一電北四八一七）

伊藤清助　愛知縣多額納稅者、藤清商店、石油商、愛知縣在籍
父　清十郎　嘉永三、一生
妻　きよ　明二六、八生、三重、伊藤市三郎妹
男　清三郎　大一五、二生
女　芳子　大二、七生
女　喜美子　大三、九生
女　伊都子　大五、四生
君は愛知縣人先代清助の三男にして明治十年九月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名鍵之助を改め襲名す藤清と稱し石油商を營み愛知縣多額納稅者に列し直接國稅千四百三十四圓を納む義に大日本石油鑛業會社の重役たり家族は尙五女貞子（大一一、七生）七女幸子（昭二、四生）及亡弟鈴吉妻ひさ（明二一、一一生、愛知、松田清七妹）及其子女あり妹ゑい（同二〇、九生）は愛知縣人大島和助長男和吉郎に嫁し同てる子（同二四、五生）は分家し姪敏子（大三、二生、亡弟鈴吉二女）は三重縣人鷲野寅吉の養子となれり（名古屋市西區大船町二九電西一五一）

伊藤誠哉　正四位勳三等、農學博士、北海道帝國大學教授、兼北海道廳技師、附屬植物園長、農事試驗場勤務
新潟縣士族
母　ミシ　安政四、一一生、新潟、士、奥田深太長女
妻　年　明二三、七生、新潟、鈴木昌平妹日本女大出身
男　信夫　大三、一〇生
女　恭　大四、一〇生
女　春　大六、一生
君は新潟縣士族伊藤均二の長男にして明治十六年八月七日を以て生れ後家督を相續す同四十一年東北帝國大學農科大學植物病理學科を卒業し等で同大學助教授に任ぜられ爾來北海道廳技師を兼ぬ北海道帝國大學農學部教授に任じ植物園長となり今日に至る大正八年農學博士の學位を授けられ義に植物學研究の爲英米佛各國に留學を命ぜらるる家族は尙二男直夫（大八、六生）三女正（同一〇、六生）四女淳（同一五、一一生）あり姉ウメノ（明八、三生）は新潟縣人遠山昌太郎に同チヨノ（同一三、一二生）は同縣士族栗原健吾弟九十九に嫁せり（札幌市北二條西一〇電六六四）

伊藤精七　東京商工會議所議員、東共立無盡、堤方製作所各㈱社長、日本エタニットパイプ、滿洲セメント各㈱取締役、日本漁業㈱監査役、伊藤精七商店、輸出纖維商
妻　チヨ　明二一、一生、北海道、畑田彙吉長女
女　アイ子　大二、二生、東京女學館出身

君は千葉縣人伊藤喜一郎の三男にして明治二十一年一月八日を以て生れ大正十三年兄喜三方より分れて一家を創立す伊藤精七商店と稱し輪田鐵詰商を營み現時東京共立無盡會社堤方製作所各社長にして日本エタニウトパイプ滿洲セメント各會社取締役日本漁業會社鑑査役を兼ね東京商工會議所議員に擧げらる昭和四年より五年に掛け米英佛獨各國を視察す識書ゴルフ角力等に趣味を有すA一五六〇B三〇八、(自宅)東京市芝區芝公園二十二號地四電芝一五六一(店舗)京橋區京橋二ノ三ノ九電京橋三九八)

伊藤千太郎

東洋倉庫㈱監査役、眼鏡印肝油製造元、大阪府士族
明二七、五生、大阪、鎰谷松治郎長女
妻　いと　清　大八、七生
男

君は大阪府士族先代千太郎の長男にして明治二十三年三月十四日を以て生れ昭和四年家督を相續し前名憲藏を改め襲名す眼鏡印肝油製造元として知らる傍ら前記會社の重役たり家族は尙二女歌子(大一三、三生)三女七三子(昭四、七生)の外弟正太郎(大一三、一生)同清五郎(昭三、八生)妹雪子(大一五、一生)あり(大阪市東區道修町三ノ二四電本局二八八二)

伊藤千里

濱本屋商店㈱監査役、愛知縣在籍
養母　かの　元治元、五生、現戸主、愛知、古田孫三郎二女
妻　ふゆ　明三二、一生、愛知、伊藤彦八二女
男　彦一　大八、九生

君は愛知縣人外山常太郎の三男にして明治二十六年十二月を以て生れ大正八年現戸主かのの養子となる同五年早稻田大學を卒業し製材業を營み傍ら株式會社濱木屋商店社長の外前記會社の重役たり家族は尙二男甲子太(大一三、六生)長女和子(昭二、七生)あり妹あき(明三五、九生)は愛知縣人高松俊英二男務に嫁せり(名古屋市西區木挽町四ノ一五電本局三三七九)

伊藤善太郎

四日市自動車㈱取締役、四日市銀行、四日市倉庫運輸各㈱監査役、三重縣在籍
妻　ま　明二五、一二生、三重、淺井平七二女
男　良平　大三、六生
女　久子　大二、四生
　　美和子　大五、一〇生

君は三重縣人伊藤平太郎の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十九年東京高等商業學校を卒業し大正十四年三月四日市銀行より歐米金融事情視察の爲め外遊を命ぜられ英國倫敦に渡航數ケ月間同地に滯在視察研究を爲し又英國各都市を經て翌年歸朝せり現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙四女米子(大一〇、一生)四男康平(同一一、五生)五男欣平(同一三、五生)六男英雄(同一五、九生)あり(四日市市濱田一八九二電六三四)

伊藤善之助

日本債券㈱取締役、伊藤善商店、金庫及事務用品商、大阪府在籍
父　喜十郎　安政二、三生、現戸主
妻　キク　明二〇、一二生、京都、鳥居榮太郎妹
男　善雄　大四、一〇生
女　初子　明四〇、三生、樟蔭高女出身
女　信代　大三、四生、樟蔭高女在學

君は大阪府人伊藤喜十郎の長男にして明治十四年二月を以て生る同二十九年大阪高等商業學校別科を卒業し父を扶けて金庫販賣に從事し轉に歐米各國を巡遊し金庫及事務用品を研究歸朝しタイムレコーダー歐文タイプライター計算器等の代理販賣權を獲得し伊藤善商店と稱し該品の販賣を營み傍ら前記會社の取締役たり趣味に謠曲あり家族は尙四男順藏(大一〇、五生)五男弘(同一二、一生)六男安正(昭二、五生)七男七郎(昭五、一二生)ありA三三五(大阪市東區平野町二ノ一七電本局三二四)

参照‖伊藤喜十郎の項

伊藤宗二

銅鑛商
東京府在籍
妻　てる　明一九、九生、東京、岩崎彌三郎三女
男　俊太郎　大六、一生

女　貞　明四二、七生
女　君　明四三、一二生

君は愛知縣人伊藤清吉の二男にして明治十五年十一月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す銅鑛商を營む家族は尙二男豊弘(大八、一生)三女かつ子(同一〇、六生)三男鐵之助(同一四、一〇生)五女弘子(昭二、九生)ありA二八二五B六一二(東京市京橋區寶町一ノ一ノ一電京橋三八)

伊藤太助

家主
兵庫縣在籍
妻　かき　明六、九生、愛知、奥島庄七長女
男　太一郎　明三〇、五生
　　喜美枝　明三五、一一生、長男太一郎妻、愛知、渡邊直吉二女
婿

君は愛知縣人先代太助の長男にして慶應三年十一月二十三日を以て生れ明治三十八年家督を相續し大正十五年前名幾太郎を改め襲名す家族は尙孫幾太郎(大一四、九生、長男太一郎長男)同芳藏(昭三、一生同二男)同喜久藏(同四、一〇生、同三男)同武彦(同七、四生、同四男)あり弟治郎吉(明一二、一生)は同妻よき(同一六、九生、愛知、戸田松次郎妹)及其一子と共に分家せりA四六三(名古屋市東區東本重町三ノ一四電東一五〇二)

伊藤太郎

南滿洲鐵㈱參事、經濟調査會委員第三部主査兼鐵路總局勤務
愛知縣在籍
母　つね　明六、一生、靜岡、山田喜平妹
妻　一枝　明三四、一一生、愛知、佐藤善六長女
男　正彦　大一二、五生

君は愛知縣人伊藤與一の長男にして明治二十六年三月二十二日を以て生れ同四十年三月家督を相續す大正七年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業後南滿洲鐵道會社に入り參事に進む現に同社經濟調査會第三部主査にして鐵路總局運輸處貨物科長たり家族は尙妹きと(明三八、一二生)あり姉織絹(明二四、一生)は愛知縣人中村正司に嫁し弟次郎(同二九、一生)同史郎(同三三、二一生)叔父勇(同一四、三生)は各分家せり(大連市晴明臺五九)

伊藤太郎兵衛

丸千醬油㈱專務取締役
新潟縣在籍
父　德太郎　安政三、九生、現戸主
繼母　サト　慶應三、四生、新潟、細野光祐大叔母
妻　ミウ　明二三、六生、新潟、高澤岩彌五女
女　雪江　明四二、一二生

君は新潟縣人伊藤德太郎の長男にして明治十一年十二月を以て生る現に丸千醬油會社專務取締役たり家族は尙弟和輔(明二八、五生、新潟、花井讓七郎妹)及其一子弟隆吉(同三三、九生)同妻ミヨ(同四三、四生、新潟、菅原誠一妹)弟新九郎(同三五、七生)あり同孝三郎(同一九、八生)同妻こう(同二六、一生、埼玉、泰名鎭次郎妹)は其二子を伴ひ弟莊之助(同二六、一生)は同妻須磨(同三五、九生、新潟、土、昆田讓一姉)を伴ひ各分家し妹ブン(同三七、一生)は新潟縣人遠藤博に嫁せり(新潟縣北蒲原郡黑川村)

参照‖細野光祐の項

伊藤隆男

ラブ商事㈱取締役、朝日堂クラブ商事㈱監査役
大阪府在籍
妻　幸子　明三六、四生、養父貞七四女
男　昌一　大一二、一〇生

君は大阪府人生田捨治郎の二男にして明治三十年十一月を以て生れ伊藤貞七の養子となり大正十三年分れて一家を創立す現時株式會社賣生堂取締役にして前記各會社の重役たり養に株式會社賣生堂常務取締役たり家族は尙長女淑子(昭三、一二生)三男信三(同六、八生)四男宏(同九、一二生)ありA三一八(大阪市南區順慶町通一ノ一五電船場三一三七)

参照‖伊藤貞七の項

伊藤琢磨

日本皮革、日本製靴各㈱取締役會長、東京府在籍
妻　テイ　明一四、九生、山口、士、諫早清輝縁妹
男　勇二　明三九、四生
女　喜美子　明三七、八生、九段精華高女出身
男　七郎　明四四、一生

君は東京府人先代彌太郎の長男にして明治二十年三月十八日を以て生れ昭和六年家督を相續す地主たり家族は尙三男昌敏(大五、四生)二女富美子(同一二、一一生)四男清泰(昭三、二生)四女順子(同一七、四生)の外弟新吉(明二五、八生)同妻セイ(同二七、七生、新潟田邊忠作二女)及其子女ありA四〇四(東京市在原區下神明町三三〇)

伊藤竹次郎

地主
東京府在籍
妻　なか　明四二、四生、茨城、直江廣吉三女
男　一男　明四四、五生
女　隆治　大二、一〇生
　　壽子　大八、三生

君は東京府人先代彌太郎の長男にして明治二十年三月十八日を以て生れ昭和六年家督を相續す地主たり家族は尙三男昌敏(大五、四生)二女富美子(同一二、一一生)四男清泰(昭三、二生)四女順子(同一七、四生)の外弟新吉(明二五、八生)同妻セイ(同二七、七生、新潟田邊忠作二女)及其子女ありA四〇四(東京市在原區下神明町三三〇)

伊藤竹之助

大阪商工會議所議員、伊藤忠商事㈱專務取締役、大阪製麻、日華紡織、興人、新毛織、東洋毛織、新興紡績、東洋毛織、豊國土地、糸紡績㈱取締役、伊藤忠㈱監査役、各㈱取締役、呉羽紡績㈱監査役、毛織商
滋賀縣在籍
妻　ふき　明二五、九生、養母とき長女
男　英吉　明四四、六生、神戸商大出身
男　順吉　大三、三生、京大在學

君は福井縣人逸見勘兵衛の二男逸見省三の弟にして明治十六年七月を以て生れ伊藤とときの養子となり大正三年分れて一家を創立す毛織商を營み現に伊藤忠商事會社專務取締役たる外前記諸會社の重役にして大阪商工會議所議員に擧げられまた日本綿絲商組合聯合會委員長日本綿織物輸出振興組合委員長日本綿織物對印輸出組合理事長商工省臨時產業合理局輸出綿織物染色業改善委員會委員大阪三品取引所人絹部取引員組合委員長等の要職に推さるA三一四七(兵庫縣武庫郡住吉村電御影三一〇三)

参照‖逸見省三の項

伊藤武夫

正五位勳六等、林學博士、三重高等農林學校教授、新潟縣士族
父　龜之助　安政五、二生、現戸主
母　ヨシ　慶應二、三生、新潟、士、中村大造三女
妻　公子　明三〇、三生、東京、三宅長策三女
男　正泰　大八、二生

君は新潟縣士族伊藤龜之助の二男にして明治二十年三月を以て生る大正二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し同大學講師となり同十年米佛瑞各國に留學し同十一年三重高等農林學校教授に任じ現在に及ぶ同九年林學博士の學位を授けらる家族は尙長女三重子(大一〇、二生)二女まり子(同一三、一一生)三女かよ子(同一五、一一生)四女禮子(昭三、一一生)五女濱子(同五、一一生)の外兄成章(明一八、五生)同妻ケン(同二三、四生、新潟、士、關源太郎妹)及其子女弟正治(同三一、三生)同妻純枝(同四〇、九生、長野、士、木下尙江養子)弟藏(同三九、一二生)妹シゲ(同三六、七生)あり同ヒテ(同二二、九生)は新潟縣人森川丑松弟三樹に同ノブ(同二五、二生)は石川縣人陸軍少將堀又幸に同セイ(同二八、一〇生)は石川縣人陸軍少將堀又幸に同セイ(同三三、八生)は新潟縣人丸山一雄に嫁せり(津市乙部町三七四)

参照‖淡柳川勝二の項

伊藤竹之助

從五位勳六等、京都高等蠶絲學校教授、山口縣在籍
父　伊太郎　嘉永三、一二生、現戸主
繼母　コメ　安政四、六生、山口、田中辰之允母
妻　ふき　明四四、六生、京大在學
男　英吉　明四四、一生
男　順吉　大三、三生、京大在學

君は福井縣人逸見勘兵衛の二男逸見省三の弟にして明治十六年七月を以て生れ伊藤とときの養子となり大正三年分れて一家を創立す毛織商を營み現に伊藤忠商事會社專務取締役たる外前記諸會社の重役にして大阪商工

男 義郎 大一〇、九生

君は山口縣人伊藤伊太郎の二男にして明治二十六年十二月を以て生る大正七年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同九年盛岡高等農林學校教授に任ぜられ現時前記の職にあり大正十四年獨米墺各國に留學し昭和三年歸朝す家族は尙長女多惠子(大一二、三生)二女倫子(同一五、一一生、山口、大庭文治郎二女)及其二女亡兄伊右衛門妻ツネ(同二三、七生、山口、村川豊之助五女)あり姉キク(同一六、八生)は山口縣人唐重晋三郎に同トモ(同二三、一生)は藤本宗右衛門に妹ヤス(同二八、一二生)は同縣人定光傳十郎長男梁に同マキチヨコ(同三四、七生)は同縣人吉川林太郎四男新助に嫁し同(同三六、四生)は同縣人島本與三郎の養子となれり(京都市上京區北野紅梅町三三電西陣一六五)

伊藤武男

三井物産㈱紐育支店生絲部長
東京府士族
男 延男 大九、一〇生

伊藤家は代々儒を以て舊伊豫國松山藩主久松家に仕へ初代より十六代を經て先代鼎に至る鼎夙に實業界に入り川越鐵道森永製菓萬歳生命保險等各會社の重役として知られたり君は其長男にして明治十八年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十一年東京高等商業學校を卒業し直に三井物産會社に入り紐育支店勤務となり現時同支店生絲部長たり鞠躬に趣味を有す家族は尙二男守男(大一三、一〇生)弟奎二(明二〇、七生)及其妻子あり(在紐育三井物産會社支店內「留守宅」東京市赤坂區新坂町四二小室方)

參照＝伊藤奎二の項

伊藤武雄

正五位勳六等、第四高等學校教授
東京府士族
父 武一郎 慶應三、八生、現戶主
母 せん 明六、九生、神奈川、士、齊藤久藏二女
婦 雪鋒 明三六、七生、石川、古田貞次郎二女、石川縣立第一高女出身
男 洋一 大一二、四生

君は東京府士族伊藤武一郎の長男にして明治二十八年四月九日を以て生る大正七年東京帝國大學文學部獨文科を卒業し翌年第四高等學校教授に任ぜられ現在に至る昭和三年獨墺伊各國に留學し同四年歸朝す家族は尙長女百合(大一一、一生)二男卿二(昭二、七生)二女やなぎ(同五、一二生)妹紀子(大四、一生)あり同君代(明四〇、一〇生)は靜岡縣人矢部平三郎二男忠に嫁せり(金澤市下胡桃町四)

伊藤武彦

正五位勳四等、滋賀縣知事
岐阜縣在籍
明三〇、五生、貴族院議員三橋彌
長女、女子學習院出身
雄 大一五、六生

君は岐阜縣人伊藤伊八郎の三男にして現戶主武文の弟なり明治二十四年十一月二十日を以て生る大正三年文官高等試驗に合格し同四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す後內務省に入り富山縣警視千葉縣市原郡長朝鮮總督部書記官內務省參事官內務書記官等に歷任し警保局土木局衛生局各課長を經て岐阜縣知事に任じ昭和七年滋賀縣知事に轉じ今日に至る大正十三年歐米に出張す著書に「國立公園法解說」あり(大津市東浦官舍電八)

參照＝伊藤武文、三橋彌※馬場信三の項

伊藤武文

醫師
岐阜縣在籍
妻 きみゑ 明一九、一一生、岐阜、菱田尙一妹
男 一郎 明四二、一〇生

君は岐阜縣人伊藤伊八郎の二男にして明治十八年十月十五日を以て生れ昭和五年家督を相續す明治三十九年愛知醫學專門學校を卒業す醫師たり家族は尙二男武夫(大八、一一生)二女文子(同一〇、五生)三女萬龜子(同一三、一〇生)三男爾雄(同一五、六生)四男德雄(生年月同上)弟武彦(明二四、一一生)及其妻子あり妹敏子(同二二、五)は岐阜縣小作官馬場信三に同千代子(同三一、四生)は同縣人爾井高等工業學校教授安井豊吉に嫁せりA四七七(名古屋市中區根津町一四電本局四〇二三)

參照＝伊藤武彦、馬場信三の項

伊藤忠孝

東邦火災保險㈱營業課長
愛知縣在籍
母 いつ 明三、八生、島根、士、伊藤周三郎長女
妻 禮 明三八、五生、岐阜、守屋孫八妹
男 孝彦 大一五、九生

君は愛知縣人伊藤義平の長男にして明治二十九年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す同十年京都帝國大學經濟學部を卒業し東邦火災保險會社に入社後會計課長を經て現時營業課長たり家族は尙長女菊野(昭六、一生)弟善孝(明三四、一二生)同妻喜與(同四四、四生、愛知、近藤本男妹)妹千代(大元、一〇生)あり姉よし(明二六、七生)は長崎縣人田代榮重に妹保子(同三二、一生)は愛知縣人藤善六に同愛子(同四〇、六生)は愛知縣人森致由に嫁せりA七一二(東京市赤坂區青山北町六ノ四二電青山五〇七三)

參照＝田代榮重の項

伊藤正

丸正莫大小製作所㈱代表社員、莫大小製造業、大阪府在籍
母 セイ 元治元、六生、大阪、山中新五郎長女
妻 松代 明二六、一二生、奈良、中野政次郎二女
男 正太郎 大六、三生
女 きみ子 大三、八生

君は大阪府人伊藤正次郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正十一年家督を相續す莫大小製造業を營み丸正莫大小製作所代表社員たり家族は尙二女千代(大九、二一生)あり弟正吾(明四〇、二生)は大阪府人小西ヤナの養子となれり(大阪市東淀川區豊崎西通二ノ三電北四六一)

伊藤辰雄

從五位勳六等、神戶高等商船學校教授、東京府士族
母 千代 明四、七生、東京、士、森允明長女
妻 豊 明三、一生、茨城、士、橋本正壽三女、府立第二高女出身
男 功一 昭三、一〇生

君は東京府士族にして明治二十五年七月を以て生る大正五年十月商船學校航海科を卒業し同九年神戶高等商

船學校教授に任ぜられ現在に至る家族は尙長女恭子(大一五、三生)二女明子(昭七、三生)弟喜九男(大三、一生、姬路高等學校在學)あり(兵庫縣武庫郡本庄村字西青木一三五)

伊藤達三

三菱重工業㈱、西村漁業㈱各㈱取締役、三菱製鐵、東京府士族
妻 しゅう 明二六、一生、群馬、小林桂助妹
男 達夫 大七、九生

伊藤家は舊山口藩主毛利家に仕へ舊幕時代には郡奉行を勤めし家柄なり君は先代石介の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し翌三十八年三菱合資會社造船部に入り同年造船技術研究の爲英國ビツカース造船會社に入社研究する事四年餘同四十二年歸朝して三菱長崎造船所技師となり三菱造船會社と改稱せられし後營業課長となり後同社常務取締役となり三菱造船會社が三菱重工業と改稱せられし後引き續き常務取締役の要職にあり其他前記各會社の重役に擧げられ今日に至る家族は尙弟健雄(明三三、四生、工學士)あり同清(同二〇、二生、工學士)は叔父伊藤欽亮の家督を相續せりA四一六三(東京市小石川區原町一二六電大塚四五一一・四一六三)

參照＝伊藤清、小林桂助の項

伊藤爲憲

家主
愛知縣士族
妻 すゞ 慶應三、五生、養父長保長女
養子 源之助 明二一、一生

君は愛知縣人山田八郎の二男にして慶應二年二月一日を以て生れ明治二十七年先代すゞの入夫となり家督を相續す家主たりA五〇六(名古屋市東區橦木町一ノ一電東七七五)

參照＝伊藤源之助の項

伊藤忠二

莫大小商
大阪府在籍
妻 ハル 明二四、四生、大阪、松崎和平二女

君は愛知縣人伊藤甚右衛門の三男にして明治十九年十二月五日を以て生れ大正七年兄芳一方より分れて一家を創立す莫大小商を營むA五二一B二一七(大阪市西區阿波座上通三ノ五一電新町一一二五)

伊藤忠三

妻 こう 明一、六生、群馬、小林桂助妹
男 謙三 高女出身
婦 冬 明三一、一一生、長男謙三妻、京都、南江政一三女
男 明四一、一二生、長男謙三妻、京都、南江政一三女

君は滋賀縣人山本佐右衛門の二男にして明治四年一月を以て生れ故伊藤忠兵衛の養子となり同三十七年養弟忠兵衛方より分れて一家を創立す現に丸紅商店取締役會長たる外前記諸會社の重役たり謠曲に趣味あり彙に彦根高等商業學校創設に際し寄附せし廉により紺綬褒章を授けらる家族は尙孫美千代(昭四、一〇生、長男科を卒業し北海道廳技手となり同三十七年同技師に任じ大正七年港灣課長に補し河川課長を兼ね現時北海道廳技師たり家族は尙三男長三(大八、二生)三女やす(同一〇、七生)四女ふみ(同一三、一生)四男長介(同一五、一一生)の外弟長(明二一、二生)同妻都(同二九二生、山形、佐藤桂太郎五女)及其一子弟長二(同二八一二生)同妻マツ(同三七、一生、北海道、市川勝一妹)及其二男二女あり長男は(同四五、五生)は埼玉縣人竹內松五郎長男帝室林野局札幌支局勤務一雄に妹とみ(同二六、一生)は爾井縣人榮西左衛門養弟彌八に嫁せり(札幌市北一條西六丁目道廳官舍內電一八三七)

伊藤忠兵衛

母 やゑ 嘉永元、一二生、滋賀、藤野惣左衛門長女
妻 千代 明二五、一〇生、奈良、永田藤兵衛姉
男 恭一 大三、五生
女 絹 大五、六生

君は滋賀縣人先代忠兵衛の長男にして明治十九年六月名す昊服太物商として知られ傍ら商場諸會社の重役たり昭和二年紺綬褒章を授けらる家族は尙二男廣二(大七、九生)三女妙子(同九、一一生)あり長女美代(明四五、一二生)は東京府人松村龍雄長男滿雄に嫁し姉と

き(明四一、二生)は滋賀縣人伊藤孝太良の母にして同こう(同八、六生)は同夫忠三(同四、一生)と共に分家せりA六〇一九(兵庫縣武庫郡住吉村雨之神電御影二三七五)

參照＝伊藤孝太良、伊藤忠三、松村滿雄の項

伊藤長右衛門

從四位勳三等功五級、陸軍步兵中將、北海道廳技師、土木部勤務
爾井縣在籍
妻 とし 明一八、養姉、貞信、一二生、新潟、士、瀨尾
男 長明 明四三、七生
男 長次 大三、二生
女 なつ 大五、七生

君は爾井縣人先代長右衛門の長男にして明治八年九月十三日を以て生れ同四十二年家督を相續し前名長市を改め襲名す同三十五年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し北海道廳技手となり同三十七年同技師に任じ大正七年港灣課長に補し河川課長を兼ね現時北海道廳技師たり家族は尙三男長三(大八、二生)三女やす(同一〇、七生)四女ふみ(同一三、一生)四男長介(同一五、一一生)の外弟長(明二一、二生)同妻都(同二九二生、山形、佐藤桂太郎五女)及其一子弟長二(同二八一二生)同妻マツ(同三七、一生、北海道、市川勝一妹)及其二男二女あり長男は(同四五、五生)は埼玉縣人竹內松五郎長男帝室林野局札幌支局勤務一雄に妹とみ(同二六、一生)は爾井縣人榮西左衛門養弟彌八に嫁せり(札幌市北一條西六丁目道廳官舍內電一八三七)

伊藤長三郎

小川長、砂糖及肥料商
埼玉縣在籍
母 マス 明一八、二生、埼玉、橋本三九郎長女
妻 桂子 大二、六生、埼玉、加藤恒吉長女

君は故埼玉縣人多額納稅者伊藤長三郎の長男にして明治三十八年十月を以て生れ昭和六年家督を相續し前名貞次郎を改め襲名す小川長と稱し祖業砂糖肥料商を營み養に川越商工會評議員に選ばる家族は尙弟庸之助(明四二、二生)あり姉ちよ(同三五、一一生、川越高女出身)は埼玉縣人栗原達三郎に妹美智子(大元、一二生、出身校同上)は東京府人松岡直治郎長男彦一に嫁

せりA二三九一B三〇八(川越市高澤町電四・五)
参照＝橋本三九郎、松岡直治郎の項

伊藤長次郎

妻　ゑい　明三七、一生、長男太郎妻、山形奈良村正則三女
男　熊三　明三八、九生
男　貞彦　明四〇、九生
婦　繁子　明四一、五生、新潟、渡邊逸作二女
男　勇次郎　明四一、一二生
男　健藏　明四一、一二生

君は兵庫縣人先代長次郎の長男にして伊藤英三郎の叔父なり明治六年四月を以て生れ同二十八年家督を相續し前名熊藏を改め襲名す同二十六年日本法律學校を卒業し現に三十八銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり同三十七年兵庫縣多額納稅者として貴族院議員に推さる曩に日本捻染日出紡織各會社の重役たりしことあり家族は尙孫乾一(大一五、六生、長男熊三長男)同茂子(昭四、一二生、同長女)あり長女靜(明三二、一〇生)は子爵大岡忠綱に姉とき(元治元、二生)は兵庫縣人伊藤英一に嫁し染長藏(同二〇、一〇生)も亦同妻モト(同三〇、二生、東京、熊倉與作二女)を伴ひ分家し同正五郎(明二一、二生)も亦分家せり(兵庫縣印南郡伊保町今市八一電曾根五二)
参照＝子爵大岡忠綱、男爵阪谷芳郎、伊藤英三郎、伊藤長藏、大西虎之介※男爵中村貫之※坂田耐二※鈴木仁十郎※橋本龍一の項

伊藤長兵衛

母　ヒロ　七ふくや、藥種商
妻　フミ　慶應三、一一生、伊藤新七長女
男　正次郎　明三二、九生、兵庫、神澤慶藏長女
婦　大七、一生

伊藤家は代々大阪に住し藥種商を營み曾祖父安右衛門幕末以來家運興隆に力め今日の基礎をなせり君は先代長兵衛の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名德太郎を改め襲名す組織を繼ぎ七ふくやと稱し藥に大阪府多額納稅者に列す家族は尙二男榮治郎(大一二、一生)二女やゑ(昭三、四生)あり妹キミ(明二八、三生、夕陽丘高女出身)は分家し同悅(同三六、七生)は大阪府人松本清三郎に嫁せりA一〇五一三B九二四(大阪市南區高津町二ノ六電商七二九)

伊藤長兵衛

養子　孝三　丸紅商店、日東捺染、若林製絲場各㊞取締役、滋賀縣在籍
妻　君　明三八、九生、二女君夫、東京、中村芳三郎三男
女　孝三妻　明四二、三生、養子孝三妻

若林又右衛門の弟にして明治元年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名長次郎を改め襲名す現時丸紅商店取締役の重役たり榮生絲、陽中央水電、日伯拓殖、昭和毛織、紡績山陽中央證券、各㊞監査役、共保生命保險各㊞監査役、地産無限責任社員、伊藤土木、兵庫縣在籍

伊藤長兵衛

養子　孝三　君は滋賀縣人若林又右衛門の次男にして明治元年十一月を以て生れ先代長兵衛の養子となり同二十六年家督を相續し前名長次郎を改め襲名す現時丸紅商店取締役の重役たり榮生絲、陽中央水電、日伯拓殖、昭和毛織、紡績山陽中央證券、各㊞監査役、共保生命保險各㊞監査役、地産無限責任社員、伊藤土木、兵庫縣在籍
妻　君　明三〇、七生、法學士
婦　總子　明三四、九生、長男熊三妻、男爵阪谷芳郎五女
男　勇次郎　明三五、七生
男　健藏　明四一、一二生

君は兵庫縣人先代長次郎の長男にして伊藤英三郎の叔父なり明治六年四月を以て生れ同二十八年家督を相續し前名熊藏を改め襲名す同二十六年日本法律學校を卒業し現に三十八銀行頭取たる外前記銀行會社の重役たり同三十七年兵庫縣多額納稅者として貴族院議員に推さる曩に日本捻染日出紡織各會社の重役たりしことあり家族は尙孫乾一(大一五、六生、長男熊三長男)同茂子(昭四、一二生、同長女)あり長女靜(明三二、一〇生)は兵庫縣人伊藤英一に嫁し染長藏(同二〇、一〇生)も亦同妻モト(同三〇、二生、東京、熊倉與作二女)を伴ひ分家し同正五郎(明二一、二生)も亦分家せり(兵庫縣印南郡伊保町今市八一電曾根五二)
参照＝子爵大岡忠綱、男爵阪谷芳郎、伊藤英三郎、伊藤長藏、大西虎之介※男爵中村貫之※坂田耐二※鈴木仁十郎※橋本龍一の項

伊藤長兵衛

母　ヒロ　七ふくや、藥種商
妻　フミ　慶應三、一一生、伊藤新七長女
男　正次郎　明三二、九生、兵庫、神澤慶藏長女
婦　大七、一生

伊藤家は代々大阪に住し藥種商を營み曾祖父安右衛門幕末以來家運興隆に力め今日の基礎をなせり君は先代長兵衛の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名德太郎を改め襲名す組織を繼ぎ七ふくやと稱し藥に大阪府多額納稅者に列す家族は尙二男榮治郎(大一二、一生)二女やゑ(昭三、四生)あり妹キミ(明二八、三生、夕陽丘高女出身)は分家し同悅(同三六、七生)は大阪府人松本清三郎に嫁せりA一〇五一三B九二四(大阪市南區高津町二ノ六電商七二九)

伊藤長兵衛

養子　孝三　丸紅商店、日東捺染、若林製絲場各㊞取締役、滋賀縣在籍
妻　君　明三八、九生、二女君夫、東京、中村芳三郎三男
女　孝三妻　明四二、三生、養子孝三妻

若林又右衛門の弟にして明治元年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名長次郎を改め襲名す現時丸紅商店取締役の重役たり榮生絲、陽中央水電、日伯拓殖、昭和毛織、紡績山陽中央證券、各㊞監査役、共保生命保險各㊞監査役、地産無限責任社員、伊藤土木、兵庫縣在籍

伊藤常次郎

妻　はる　明二九、一〇生、愛知、佐藤與兵衛姉
男　基一　明四四、四生
女　麻子　明四一、九生
　　慰子　大三、一二生

君は愛知縣人伊藤常七の二男にして明治十四年一月を以て生れ同二十九年姪千代の後を承け家督を相續し前名萬作を改め萬常紙店と稱し紙商を營む藝に縣下の多額納稅者たり現時名古屋商工會議所議員にして洋紙合同販賣會社取締役を兼ぬ家族は尙三男卓正(大六、六生)四男節郎(同八、一一生)あり長女嘉子(明三九、八生)は同夫重成(同三二、七生、愛知、山田與曾右衛門二男)と共に分家せりA五一九七(名古屋市西區下長者町二ノ一五電本下局一一九一)

伊藤常次郎

妻　はる　明二九、一〇生、愛知、佐藤與兵衛姉
男　基一　明四四、四生
女　麻子　明四一、九生
　　慰子　大三、一二生

君は愛知縣人伊藤常七の二男にして明治十四年一月を以て生れ同二十九年姪千代の後を承け家督を相續し前名萬作を改め萬常紙店と稱し紙商を營む藝に縣下の多額納稅者たり現時名古屋商工會議所議員にして洋紙合同販賣會社取締役を兼ぬ家族は尙三男卓正(大六、六生)四男節郎(同八、一一生)あり長女嘉子(明三九、八生)は同夫重成(同三二、七生、愛知、山田與曾右衛門二男)と共に分家せりA五一九七(名古屋市西區下長者町二ノ一五電本下局一一九一)

伊藤常次郎

妻　はる　明二九、一〇生、愛知、佐藤與兵衛姉
男　基一　明四四、四生
女　麻子　明四一、九生
　　慰子　大三、一二生

君は愛知縣人伊藤常七の二男にして明治十四年一月を以て生れ同二十九年姪千代の後を承け家督を相續し前名萬作を改め萬常紙店と稱し紙商を營む藝に縣下の多額納稅者たり現時名古屋商工會議所議員にして洋紙合同販賣會社取締役を兼ぬ家族は尙三男卓正(大六、六生)四男節郎(同八、一一生)あり長女嘉子(明三九、八生)は同夫重成(同三二、七生、愛知、山田與曾右衛門二男)と共に分家せりA五一九七(名古屋市西區下長者町二ノ一五電本下局一一九一)

伊藤常七

妻　いそ　明一九、一〇生、愛知、佐藤與兵衛姉
男　豐太郎　明四四、四生
女　麻子　明四一、九生
　　慰子　大三、一二生

君は愛知縣人伊藤常七の二男にして明治十四年一月を以て生れ同二十九年姪千代の後を承け家督を相續し前名萬作を改め萬常紙店と稱し紙商を營む藝に縣下の多額納稅者たり現時名古屋商工會議所議員、洋紙合同販賣㊞取締役、萬常紙店㊞代表社員、愛知縣在籍

伊藤常七

妻　いそ　明一九、一〇生、愛知、佐藤與兵衛姉
男　豐太郎　明四四、四生
女　麻子　明四一、九生
　　慰子　大三、一二生

君は愛知縣人伊藤常七の二男にして明治十四年一月を以て生れ同二十九年姪千代の後を承け家督を相續し前名萬作を改め萬常紙店と稱し紙商を營む藝に縣下の多額納稅者たり現時名古屋商工會議所議員、洋紙合同販賣㊞取締役、萬常紙店㊞代表社員、愛知縣在籍

伊藤貞五郎

妻　菊代　明三六、一二生、兵庫、第一神戸高女出身

君は愛媛縣人にして明治二十一年十二月一日を以て生る少年時代より新聞雜誌寄稿家となり大正三年神戸新聞社に入社す爾來外交部長通信部長政治部長を歷任し昭和四年四月推されて神戸市會議員に當選し市參事會員に擧げられ同八年四月再選現に市參事會員たる外兵庫縣教育會代議員神戸市教育會幹事兵庫縣都市研究會常任幹事にして又神戸昭政新聞を主宰す(神戸市湊區湊川町四ノ一八電湊川二八八九)

伊藤貞次

母　タカ　從六位、廣島市長三女　安政元、七生、新潟、渡邊半四郎明三四、七生
男　太郎

出身)は東京府人保坂巳三治二男巳三次に三女泰子(同三九、五生)は同府人古市嘉治郎に嫁せりA一四一一B三八六(東京市日本橋區横山町一〇ノ四電浪花二〇〇)
参照＝保坂巳三治の項

伊藤常七

妻　いそ　明一九、一〇生、愛知、佐藤與兵衛姉
男　豐太郎　明四四、四生
女　麻子　明四一、九生
　　慰子　大三、一二生

君は愛知縣人伊藤常七の二男にして明治十四年一月を以て生れ同二十九年姪千代の後を承け家督を相續し前名萬作を改め萬常紙店と稱し紙商を營む藝に縣下の多額納稅者たり現時名古屋商工會議所議員、洋紙合同販賣㊞取締役、萬常紙店㊞代表社員、愛知縣在籍

伊藤貞次

母　タカ　從六位、廣島市長三女　安政元、七生、新潟、渡邊半四郎明三四、七生
男　太郎　明三七、一生、長男太郎妻、山形奈良村正則三女
男　貞彦　明四〇、九生
男　榮　明四一、五生、新潟、渡邊逸作二女

君は新潟縣人伊藤東藏の長男にして明治十一年一月十七日を以て生れ同二十九年家督を相續し同三十八年早稻田大學專門部法律科を卒業し北海道鹽農商務省富山縣各屬に歷任し富山宮城山形各縣理事官を經て函館區助役となり後區制廢止に依り函館市助役に就職大正十五年廣島市助役に轉じ昭和五年同市長となり現在に及ぶ(廣島市水主町一一〇電二二一三)

伊藤貞七

母　ヒロ　七ふくや、藥種商
妻　ます　大阪府在籍
女　明七、九生、大阪、竹井市兵衛三女

養子　勝藏　明二五、三生

君は大阪府人伊藤榮翁の長男にして明治五年五月十九日を以て生れ同三十七年家督を相續し前名萬吉を改む化粧品商を營み朝日堂社長たり四女幸子は同夫隆男及其一子と共に分家せりA一七二九(大阪市住吉區晴明通二ノ三九電天下茶屋三四二〇)
参照＝伊藤勝藏、伊藤隆男の項

伊藤貞藏

養母　ツル　久留米商工會議所副會頭、久留米合同運送㊞社長、南久留米運送㊞取締役、門司鹽局鳥栖運輸事務所指定運送組合副組長、福岡縣士族
妻　フサノ　明三〇、三生、伊藤重光三女
女　繁子　大二、一生
女　貞子　大五、六生
　　久子　大八、一生

君は福岡縣人富松茂一郎の二男にして明治十八年一月を以て生れ同四十二年先代モヽヨの入夫となり家督を相續す現時前記各會社の重役にして久留米商工會議所副會頭たり藝に同商工會議所常議員たりしことあり養妹靜子(明三九、七生)は福岡縣人大石郁貞に嫁せりA三〇六(久留米市京町電二二八)

伊藤悌造

妻　壽見　旭硝產、田附商店各㊞取締役、九令綿布㊞監査役、滋賀縣在籍
男　清一　明二七、四生、滋賀、田附舞太郎叔母
女　和子　大一〇、一〇生
　　大五、五生

君は滋賀縣人伊藤清兵衛の二男にして明治十八年八月を以て生れ同二十年家督を相續す現時旭硝產會社取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙四女つた(大九、一生)三男輝雄(同一三、八生)五男昭(昭二、一二生)六女壽清子(同五、九生)あり五女光子(同三、一二生)あり家族は尙三女A二一二九(大阪市住吉區住吉町八五五ノ九電任吉二二〇三)

伊藤徹太郎

妻　とめ　製材業、東京府在籍
男　壽之助　明二三、一生、靜岡、石丸桂次郎二女
　　房江　大元、八生
女　よし子　明四三、三生
　　大四、一生

君は靜岡縣人伊藤七平次の二男にして明治十九年十月五日を以て生る製材業を營み資產家たり家族は尙三女しづ子(大九、一生)あり八四〇B三二一(東京市深川區木場三ノ一二ノ一電本所三三〇八)

伊藤傳右衛門

養子　金次　動四等、嘉穗銀行、嘉穗貯蓄銀行各㊞頭取、大正鑛業、平安工作所各㊞社長、十七銀行、豐中製絲、浦濟無盡、大分セメント、九州產業セメント土地㊞監査役、伊藤㊞代表社員、福岡縣在籍
妻　君　明三二、三生
女　君　明三九、六生

君は福岡縣人伊藤傳平の長男にして萬延元年十一月二十六日を以て生れ明治三十二年家督を相續し前名榮治郎を改め襲名す現時伊藤メリヤス三重織布三岐鐵道志摩電氣鐵道各社長の外前揭諸會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして會社取締役たりしことあり明治三十七年衆議院議員に選ばれ日露戰役の功に依り勳四等に從せらる庶子シヅコ(明三二、六生、生母、福岡、栗田キヨ)は其夫秀三郎(同二六、一一生)と共に養妹スガ(同二四、一二生、福岡、伊藤儁三長女)は其夫壽一(同一七、四生、福岡瓜生光太郎二男)及其一子と共に養子ツネ(同六、八生、福岡、湯川就二女)は各分家し妹ハツエ(同二八、七生)も分家し男爵山澤靜一叔父鐵五郎を迎ふ(福岡縣嘉穗郡幸袋町三〇〇電飯塚二二〇)
参照＝男爵山澤靜一、伊藤金次、伊藤秀三郎の項

伊藤傳左衛門

妻　なつ　地主、東京府在籍
男　金次郎　明四、五生、東京、村田庄右衛門二女
婦　タケ　明三五、二生
　　明三八、加藤千代松妹
　　東京、一一生、二男金次郎妻

君は東京府人伊藤作次郎の四男にして明治十二年一月二十六日を以て生れ同三十八年家督を相續す地主たり二女はる(明三三、三生)は東京府人板倉幸五郎に三女まつ(同三八、二生)は同府人渡邊伊子吉二男隆治に嫁し弟吉五郎(同一七、一生)は分家せりA三六九(東京市杉並區高圓寺七ノ九〇八)

伊藤傳七

養母　まさ　三重縣多額納稅者、伊藤メリヤス三重織布、志摩電氣鐵道、三岐鐵道各㊞社長、三重紡績、三重縣農會長、日產工業、東洋紡績、日工銀行、合同電氣、合同瓦斯、東洋毛織、紡績、裕豐各㊞取締役、昭和レヨン㊞監査役、三重縣在籍
妻　きみ　安政三、六生、三重、鈴木廉平二女
男　一郎　明一六、三生、養父傳七二女
　　せき　明四三、六生
女　てる　大二、七生
　　みち　大七、六生

君は三重縣人伊藤傳平の長男同甲子之助の養兄にして明治十一年十一月を以て生れ先代傳七の養子となり大正十三年家督を相續し前名榮治郎を改め襲名す現時伊藤メリヤス三重織布三岐鐵道志摩電氣鐵道各社長の外前揭諸會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅三千七百四十四圓を納む長女けい(明三五、二生、愛知淑德高女出身)は三重縣人鈴木五郎に二女ふき(同三九、六生)は岐阜縣人三輪信吉に養妹てい(同二四、一生)は三重縣人伊藤知郎に嫁せり(名古屋市東

區武平町二ノ一九電東一七八)
参照‖伊藤甲子之助※佐藤明治郎の項

伊藤傳兵衛（長野縣參事會員、上田商工會議所會頭、伊藤商會、上田瓦斯各㈱社長、長野縣在籍）

妻 松濤 明一一、八生、長野、山極寛姉
男 啓次 明四〇、二生、慶應義塾出身
男 明四一、九生、二男啓次妻、長野
婦 とき 木内四郎五女、日本女大出身

君は長野縣人先代傳兵衛の長男にして明治元年一月二十日を以て生れ同三十一年家督を相續し前名啓次郎を改め襲名す現時伊藤商會上田瓦斯各會社長にして上田商工會議所會頭及長野縣參事會員に推さる彙に上田市會議長都市計劃長野地方委員會委員たり二女あい（明三二、一生）は同夫得衛（同二七、一〇生、長野、柳澤公平二男）と共に養子昇一（同一九、六生、亡長女すみ夫、長野、清水龍太郎弟）は其子女を伴ひ各分家せりA三三六一（上田市鹿匠町電四〇九）
参照‖※木内五助※田中周衛※田中穂積の項

伊藤東一郎（陸軍歩兵中尉、岐阜縣會副議長、農業、岐阜縣在籍、岐阜、日比野銳吉妹）

妻 鉦 明三三、九生
男 一郎 明四二、五生、長男一郎妻、岐阜
婦 八千代 大場守妹 大二、八生
女 百合子

君は岐阜縣人伊藤東太夫の長男にして明治十二年十二月を以て生れ大正六年家督を相續す農業を營み推されて岐阜縣會副議長に選ばる彙に同參事會員たりし事あり家族は尚孫茂夫（昭五、三生、長男一郎二男）たり同昭二（同二、一生、同長男）は岐阜縣人中村新八の養子となれり（岐阜縣海津郡石津村電六）

伊藤東兵衛（中東商店、化粧品雜貨卸商、愛知縣在籍）

母 すう 明一七、一一生、祖父東兵衛三女

君は岐阜縣人先代東兵衛の二男にして明治四十三年六月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名謙一を改め襲名す中東商店と稱し化粧品並雜貨卸商を營む姉たね子（明三八、四生）は分家せりA六四四B二八二（名古屋市中區鐵砲町一ノ一七電中一二八六）

伊藤藤市（彌生石油店㈱監査役、安藤商店㈱代表社員、蠟油脂香料一般輸出入商、大阪府在籍）

妻 ミツ 明一三、一生、愛知、水野時三郎叔母
養子 重郎 明二八、七生、長女昭夫、愛知、松永藤十郎弟
女 昭 明三三、一〇生、養子重郎妻

君は岐阜縣人伊藤仙八の二男にして明治八年二月二十日を以て生れ兄市太郎方より分れて一家を創立す現時蠟油脂香料一般輸出入商を營み傍ら彌生石油店監査役安藤商店代表社員たり家族は尚孫和子（大一一、三生、養子重郎長女）同順子（同一二、七生、同長男）ありA八九七（大阪市東區南本町一、四、七生、同長男二女）同一郎（大阪市東區鐵砲町三ノ一七電船場四九二二）

伊藤藤治郎（宮川モスリン㈱取締役、殖産㈱無限責任社員、大阪染工㈱社員、大阪府在籍）

妻 萬亀 明二二、一一生、大阪、伊藤萬助妹
女 しま 明四五、二生
女 千代 大二、六生

君は大阪府人大谷藤四郎の二男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十四年伊藤萬亀の入夫となり家督を相續す現時宮川モスリン會社長たる外前記會社の重役たりA二〇一二〇（大阪市東區道修町五ノ五電一七六九）
参照‖伊藤萬助大谷藤四郎※伊藤豊四郎※伊藤萬治郎※伊藤良三※高田久右衛門※和田常七の項

伊藤時郎（牧原、酒類商、東京府在籍）

父 木治郎 明四、一一生、現戸主
母 ひさ 明一〇、八生、千葉、中山文次郎妹
妻 賀要 明三六、一二生、東京、川名鐵右衛門妹
男 吉郎 大一四、五生

君は東京府人伊藤木治郎の二男にして明治三十二年十一月二十三日を以て生る牧原と稱し酒類商を營む家族は尚長女正惠（昭二、三生）二女宣子（同五、六生）三女登久子（同八、六生）妹條子（明四〇、一生）同夫茂雄（同四〇、一生、千葉、吉岡銀藏四男）及其一子弟和三郎（同四三、七生）妹尾子（大五、一一生）あり弟木四郎は東京府人中島きみの養子となれりA三九八B一九一（東京市淀橋區淀橋六四一電四谷一八六一）

伊藤德兵衛（温泉タイムス社長兼主筆、大分縣在籍）

妻 たか 明四〇、二生、茨城、鈴木三平二女
養子 通雄 明三三、三生、先代德兵衛四男、大分
婦 キミエ 明三五、八生、養子通雄妻、大分三引金平妹

君は大分縣人先代德兵衛の長男にして明治十四年九月を以て生れ大正九年家督を相續し前名恕一を改め襲名す夙に明倫義塾を卒業し新聞界に入り通稱文也として知られ現に温泉タイムス社長兼主筆たり家族は尚長女俊枝（昭五、三生）孫允子（大一三、一〇生、養子通雄、長女）あり（別府市本町五二四電一二〇三）

伊藤篤三（共榮商事㈱常務取締役、共榮商店在籍）

妻 けい 明二〇、一一生、松本吉太郎長女
男 久内 大五、一二生

君は兵庫縣人伊藤久倭治の二男にして明治十八年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す現時共榮商事會社の常務取締役たり家族は尚二男篤（大九、一生）二女和子（同一二、九生）四男順治（昭五、一一生）ありA七八三（神戸市須磨區横木町電須磨一〇四二）

伊藤利子（家主、大阪府在籍）

君は大阪府人伊藤久七郎の長女にして大正四年一月を以て生れ同五年家督を相續す家主たりA六九九六（兵庫縣武庫郡精道村芦屋電芦屋二〇六三）

伊藤利彦（日本貯蓄銀行積金課長、愛知縣在籍）

母 ちよう 明七、三生、愛知、岡谷惣助姉
妻 房子 明三八、九生、京都、福田市十郎叔母
男 喜一郎 昭四、四生

伊藤家は名古屋土着の地主にして十四代を閲せる舊家にして代々里正の役を勤め苗字帶刀を許されたる家柄なり君は先代由太郎の二男にして明治三十二年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す夙に慶應大學經濟學部を卒業す現時前記の職にあり家族は尚長女綱子（大一五、四生）弟道（明三七、四生）妹待子（大五、九生）あり

参照‖岡谷惣助※伊藤次郎左衛門※小川傳兵衛※岡谷喜三郎※北川宗三郎※若林昌之助の項

伊藤豊明（東山堂、小間物文房具商、東京府在籍）

妻 コト 明一九、一生、東京、井出武太郎二女
養子 梅 大六、二生、東京、中村益藏四女

君は東京府人伊藤太平の長男にして明治十年七月七日を以て生れ同十九年家督を相續す東山堂と稱し小間物文房具商を營むA二七八B一二六（東京市日本橋區堀留町一ノ七ノ四電浪花一二四六）

伊藤豊四郎（大日本紡績㈱東京出張所課長、殖産㈱無限責任社員、大阪染工㈱社員、大阪府在籍）

妻 治子 明三八、八生、京都、國井藤兵衛長女
男 忠雄 昭四、三生

君は大阪府人伊藤萬助の四男にして明治三十一年一月二十七日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す同七年大阪高等商業學校を經て同十年東京高等商業學校專攻部卒業後大日本紡績會社に入社し本社より名古屋及上海出張を命ぜられ現時東京出張所課長として勤務す傍ら殖産會社並大阪染工會社の各社員たり家族は尚長女初子（昭二、一生）二女澄子（同六、一一生）ありA八二六七（大阪市東區德井町二ノ一〇電東三七八一）
参照‖伊藤萬助※伊藤萬治郎※伊藤良三※伊藤藤治郎※高田久右衛門の項

伊藤豊次郎（鹿ノ子商、京都府在籍）

養子 定次郎 明二四、一生、京都、小田萬次郎二男
婦 年 明三三、八生、養子忠次郎妻、京都、内海伍一郎妹
庶子 光子 大六、一〇生、生母、京都、大石いよ

君は京都府人先代卯八の長男にして明治二年四月六日を以て生れ同三十二年家督を相續す鹿ノ子商を營む家族は尚孫和子（大一〇、七生、養子忠次郎長女）同文子（同一四、一二生、同二女）あり妹シヲ（明一四、二生）は京都府人藤本晉次郎明淺次郎に嫁せりA三三二（京都市下京區柳馬場松原下ル電下三七六）

伊藤豊次郎（助川セメント㈱專務取締役、電力㈱取締役、東京府在籍）

妻 しげ 明一五、九生、戸谷米吉長女
男 長次 明三〇、一一生
男 幹 明四二、一〇生
女 美津子 明四五、四生

君は烏根縣人伊藤喜久右衛門の二男にして明治二年四月を以て生れ先代來三郎の養子となり同九年家督を相續す現時助川セメント會社專務取締役の外前記會社の重役たり家族は尚五男陽三（大四、三生）六男鈴藏（同七、一二生）五女鳩子（同一五、二生）あり長女竹野（明三二、四生）は烏根縣人伊藤啓一郎長男鄕造に二女梅野（同三六、一生）は同縣人吉田弘重に嫁し三男穣（同三八、一二生）は分家せり（東京市四谷區坂町一一九）

伊藤直吉（刀劍商、東京府在籍）

君は千葉縣人伊藤清治の弟にして元治元年八月五日を以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す刀劍商を營み今日に至る（東京市芝區新橋二ノ八電銀座二四一八）

伊藤仁吉（從四位勳三等、福島高等商業學校長、福島商工會議所顧問、福島縣士族）

養父 武壽 明元、一生、現戸主
養母 ヤヲ 明一〇、九生、福島、士、野地菊司妹
妻 トメ 明二五、一一生、神奈川、平沼亮三妹
男 宗文 大七、六生

君は福島縣人佐藤嘉藏の二男にして明治十八年三月を以て生れ同四十二年伊藤武壽の養子となり同四十年第一高等學校卒業同四十三年文官高等試驗合格翌年東京帝國大學法科を卒業し農商務屬となり山形縣試補富山埼玉山梨各縣理事官等を經て大正七年文部省參事官學會會員文部書記官兼文部省參事官に任ぜられ同十五年東京帝國大學書記官兼文部書記官に轉じ昭和二年前記の職に就任し傍ら推されて福島商工會議所顧問となり現在に至る此間大正八年支那に同十年より十一年に亘り歐米各國に出張を命ぜらる養妹玲（明三六、五生、福島、白石酉三六女）は福島縣人松本忠雄に嫁せりA一三二（福島縣信夫郡清水村森合西養山官舍電四七六）
参照‖平沼亮三※海老塚明※横田九十九の項

伊藤仁太郎（痴遊）（衆議院議員、東京府選出）、東京市會議員、講演及著述業、東京府在籍）

男 光夫 明四一、六生
男 昭 明四四、二生
婦 しげ 大二、一一生、青山金四郎妹
女 素 大三、二生

君は福井縣人井上八之助の長男にして慶應三年二月十五日を以て横濱に生れ先代伊助の養子となり明治二十六年家督を相續す夙に板垣退助の率ゐたる自由黨志士として知られ特に幕末維新以來の幾多國士の經歷に精しく其講演家として風格群を拔き號を痴遊と稱す國政刷新の志厚く講演及著述を業とす現時東京府より推されて衆議院議員たるの外又東京市會議員たり彙に東京府會議員及び淺草區會議員たりし事あり著述は「西郷南洲」「木戸孝允」「大久保利通」等の傳記を首め「快傑傳」「明治裏面史」等世に行はれ又近年痴遊全集三十卷の出版あり大正十一年北米視察に赴き翌年歸朝し昭和三年歐洲を巡遊す其外支那滿洲に屢々歴遊す養子勇子（明三一、一生、神奈川、岡田時一妹）は東京府人金指紋太郎長男謹一郎に嫁せりA一三〇（東京市淀橋區下落合二ノ八一〇電大塚三五五〇）

伊藤信成（酒田商工會議所理事、山形縣士族）

男 信一 明三一、四生
男 邦雄 明三六、三生、專修大學出身
男 信哉 明三九、一生
男 正吾 大元、一二生、慶大法學部在學

君は山形縣人遠田兵左衛門の三男にして慶應二年八月を以て生れ伊藤武久の養子となり明治二十九年先代養弟半次の後を承け家督を繼ぐ現時酒田商工會議所理事たり家族は尚六男順治（大四、一一生、東京高等工學校在學）養弟健三（明一九、一一生）同妻マツ（同

二四、三生）あり長女せい（同二八、三生、酒田高女出身）は山形縣人青木佐市三男晋三郎に三女たけ（同四三、一生、出身校同上）は同縣人矢澤吉治二男次郎に嫁し養弟良治（明二五、二生）は同縣人伊藤直吉の養子となれり（酒田市酒田商工會議所）

伊藤轍　福島縣多額納稅者、郡山合同銀行本店、肥料各株取締役、伊藤農園經營主、農業、福島縣在籍

繼母　ちき　明一三、四生、茨城、田中省三長女

妻　貞　明三七、一生、福島、士、山田一長女

男　備文　大一三、一二生

君は福島縣人伊藤彌の二男にして明治三十一年六月を以て生れ大正七年家督を相續す伊藤農園を經營し農を業とす傍ら簡記銀行會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅千八百五十一圓を納む家族は尙長女彌子（昭四、一二生）妹乙女（明三三、五生）尙富貴（同四二、五生）第四三男（同四三、七生）妹綾女子（同四五、六生）第三鷹（大二、八生）妹菊子（同三、一一生）亡叔父豊吉妻セイ（明二六、一二生、福島、濱田貞藏二女）あり養兄善造（同一七、六生、福島、渡邊篤次郎二男）は其五子を伴ひ叔父彌四郎（同三、三生）は同妻テイ（同九、三生、福島、遊佐八三郎妹）及其二子を伴ひ叔父衆三（同五、一生）は同妻セン（同八、九生、福島、松本善助長女）及其九子を伴ひ各分家し弟又（同三四、一二生）も亦分家し姉信夫（同二七、一〇生）は栃木縣人村山金平に同三重（同二九、六生）は神奈川縣人吉田寡三郎に妹三九嬢（同三九、三生）は福島縣人鍛源三に同千惠子（同四一、一生）は宮城縣人渡邊又四郎養子勘六に嫁せり（福島縣安達郡本宮町仲雲三五「農園事務所及別莊」同本宮町蛇の鼻電三六）

參照‖村山金平の項

伊藤八郎　大正鐵業㈱取締役、伊藤㈱無限責任社員、福岡縣在籍

妻　蓮子　明四〇、一二生、宮崎、佐々木芳照二女

男　傳一　大一五、九生

君は福岡縣人日高波吉の八男にして明治三十六年八月十六日を以て生れ伊藤金次の養子となり大正十四年養祖父傳右衛門方より分れて一家を創立す現時伊藤合名會社の無限責任社員にして前記大正鐵業會社の取締役を兼ぬ家族は尙長女尙子（昭三、三生）二女靖子（同五、一生）三女幹子（同六、八生）二男傳治（同八、六生）あり A七八五（福岡市平尾町章場電五三二〇）

參照‖伊藤傳右衛門※伊藤八郎※伊藤秀三郎の項

伊藤初太郎　愛知縣多額納稅者、家主

妻　つが　明五、九生、愛知、渡邊六右衛門二女

男　太郎　明三四、七生

婦　わか　明四〇、八生、長男太郎妻、愛知谷口茂三郎三女

男　旭　明三七、八生

男　光　明四二、七生

男　春三　大二、四生

君は愛知縣人伊藤重次郎の長男にして明治五年八月十三日を以て生れ同二十九年家督を相續す家主にして直接國稅千六百圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫恒子（昭七、一二生）は愛知縣人伊藤嘉保に嫁し四男五郎（同四〇、九生）は岡山縣人小松原隆三の養子となれり（名古屋市東區宮町二ノ一六電東六三四二）

伊藤晴一　伊藤硫黃曹達製造場、日本合成化學工業各㈱取締役、大阪府在籍

母　りん　慶應二、四生、大阪、伊藤佐助姉

君は大阪府人伊藤辰次郎の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同二十二年家督を相續す現時伊藤硫黃曹達製造場取締役の外前記會社の重役たり曩に日本玖馬貿易商會の重役たりし事あり A四八七（大阪市住吉區阪南町西一ノ二五電天下茶屋三六〇一）

參照‖伊藤佐助※伊藤源次郎の項

伊藤半三郎　二俣銀行、中遠製材、遠州秋葉自動車、天龍川製絲各㈱取締役、遠州製茶、二俣製氷冷藏各㈱監査役

妻　はつゑ　明二五、二生、和歌山、玉置齋次郎長女

男　半左衛門　明三二、九生、周智農林學校出身

婦　みさを　明三四、一二生、長男半左衛門妻、靜岡、鈴木且三郎長女、濱松市立高女出身

女　小はる　大二、三生

君は靜岡縣人伊藤半左衛門の長男にして元治元年二月を以て生れ明治二十三年弟昌平の後を襲ひ家督を相續し前名半平治を改む現時二俣銀行取締役たる外前記各會社の重役にして其他公職にあり養に天龍川銀行平山銀行二俣倉庫會社等の重役廣瀨村長たりしことあり家族は尙孫信夫（大一五、四生、長男半左衛門長男）同和夫（昭三、一生、同二男）あり三女いわ（明二九、六生）は靜岡縣人增田良雄に妹ゑ（同九、九生）は同縣人伊藤角太郎養子源十に同みや（同一九、三生）は同縣人中村多平治二男瀧三郎に嫁し二男忠三郎（同三五、九生、國大出身）は同縣人內山基雄に弟昌平（同一二、一一生）は同縣人小林喜八に同和三郎（同一四、一二生）は同縣人伊藤當治郎に各養子となり同吉平（同一六、一二生）は分家せり（靜岡縣磐田郡廣瀨村）

伊藤秀雄　協同土地㈱監査役、大阪三品取引所取引員、大阪府在籍

妻　はつの　明一六、一一生、岐阜、田代竹治長女

男　秀逸　明三九、八生

婦　多滿　大元、一〇生、長男秀逸妻、大阪森下春造長女

男　英逸　明四五、二生

男　秀三　大二、一二生

女　光子　大四、一一生

女　壽美　大六、一〇生

君は愛知縣人伊藤源內の長男にして明治九年八月二十七日を以て生れ同十二年家督を相續し後尙名源助を改む現時大阪三品取引所一部二部人絹部取引員綿絲部組合委員長商議員會副會長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫雅子（昭九、一生、長男秀逸長女）あり長女菊江（明四三、一生）は大阪府人豊澤儀三郎長男義一郎に嫁せり A六五〇〇B三〇〇〇（大阪市東區北久太郎町三ノ三四電船場九六一）

參照‖豊澤儀三郎、森下春造の項

伊藤季三　貿商　大阪府在籍

妻　サメ　明一三、八生、吉村善五郎四女

男　識一　明三八、三生

女　林子　大五、八生

君は大阪府人加納久三郎の二男にして明治十一年五月十五日を以て生れ同四十五年弟伊藤喜三郎方より分れて一家を創立す貿商を營む A五四六B九七（大阪市港區九條通二ノ六四三ノ八電西三九六）

伊藤秀三郎　伊藤㈱業務執行社員、大正鐵業㈱監査役、福岡縣在籍

妻　シズヨ　明三五、六生、養父傳右衛門庶子生母、栗田キヨ

男　傳之祐　大九、一一生

女　史子　大七、一一生

君は兵庫縣人堀井次郎九郎の三男にして明治二十六年十一月を以て生れ福岡縣人伊藤傳右衛門の養子となり大正九年分れて一家を創立す同五年神戸高等商業學校を卒業し伊藤家關係事業に携り現に伊藤合名會社業務執行社員たり家族は尙二男良次郎（大二二、一生）三男康彦（同一四、四生）二女凡子（昭二、一〇生）の外四男祥也五男申吉三女忠子あり（福岡縣嘉穗郡幸袋町電飯塚二〇）

參照‖伊藤傳右衛門※伊藤金次※伊藤八郎の項

伊藤博精　正四位、公爵、貴族院議員、掌典　東京府華族

妻　福　明三七、二生、東京、高橋是福二女

男　博雅　昭四、一一生

當家は先々代從一位大勳位博文より顧る博文は舊山口藩士にして維新の元勳政府の柱石として明治天皇の御信任深く內閣を組織し總理大臣たること四回其他樞密院議長貴族院議長韓國統監等の顯職に歷任し其間帝國憲法を起草し天津下關二條約を締結し又立憲政友會を組織して政黨內閣の基礎を築けり明治十七年華族に列し伯爵を授けられ同二十八年侯爵に陞同四十年公爵に陞さる先代博邦其後を享く夙に學習院に學び獨逸に留學す歸朝後宮內省に入り式部次長主馬頭式部長官に歷任し貴族院議員となり後日本銀行監事を兼ね日獨文化協會生活改善同盟會補公會廉布區教育會各會長般島保勝會總裁として公共の爲に盡す君は先代博邦の長男にして明治三十二年五月三日を以て生れ昭和六年家督を相續し爵位被仰付先是大正十一年東京農業大學を卒業し現時貴族院議員にして掌典をも兼ぬ家族は尙長女邦子（昭三、二生）亡叔父豊吉妻セイ（明二六、一二生、福島、濱田貞藏二女）あり養兄善造（同一七、六生、福島、渡邊篤次郎二男）は其五子を伴ひ叔父彌四郎（同三、三生）は同妻テイ（同九、三生、福島、遊佐八三郎妹）及其二子を伴ひ叔父衆三（同五、一生）は同妻セン（同八、九生、福島、松本善助長女）及其九子を伴ひ各分家し弟又（同三四、一二生）も亦分家し姉信夫（同二七、一〇生）は栃木縣人村山金平に同三重（同二九、六生）は神奈川縣人吉田寡三郎に妹三九嬢（同三九、三生）は福島縣人鍛源三に同千惠子（同四一、一生）は宮城縣人渡邊又四郎養子勘六に嫁せり（福島縣安達郡本宮町仲雲三五「農園事務所及別莊」同本宮町蛇の鼻電三六）

參照‖村山金平の項

伊藤廣治　會下山館、貸室業　兵庫縣在籍

妻　芳枝　明一二、一一生、兵庫、櫻井露子養母

男　廣　大二、八生

女　郁子　大三、一一生

君は兵庫縣人伊藤松次郎の男にして明治二十年十一月十五日を以て生れ大正十五年家督を相續す會下山館と稱し貸室業を營む家族は尙弟宗三郎（大二一、五生）あり神戸市兵庫區會下山町二ノ一七電湊川四三二四）

伊藤弘　正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務　京都府在籍

妻　こと　明二七、五生、大阪、落合孝三郎長女

男　福松　明三一、九生

女　トク　明二五、三生

君は大阪府人伊藤武兵衛の長男にして文久元年一月を以て生れ明治十四年家督を相續す現時袋物商を營む大阪府多額納稅者に列し直接國稅六千七十三圓を納む長女ツタ（明二九、七生）は大阪府人池田松太郎に三女サク（同三三、一二生）は同府人蒲田利兵衛長男利郎に妹ミネ（元治元、一〇生）は同府人高岡庄七に同スエ（同一四、一一五、一〇生）は同府人高岡庄七に同ユエ（同一四、一一生、靜岡、內山政吉姪

妻　はつゑ　明二五、二生、和歌山、玉置齋次郎妹

君は京都府人伊藤卓次の二男にして明治十八年七月を以て生れ大正十四年兄秀方より分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學醫學を卒業し大正四年陸軍三等軍醫に任ぜられ同年京都帝國大學醫科大學助教授に任じ同八年獨逸に留學し同十一年同大學教授に陞り現に醫學部に勤務す曩に醫學博士の學位を授けらる命に依り昭和九年歐米に出張す（京都市左京區吉田神樂岡町八電上六〇八）

伊藤武七郎　東京府會副議長、東京市參事會員　地主、東京府在籍

妻　しげり　明二八、一〇生、愛知、松平とみゑ養母

男　武　昭三、一生

君は東京府人伊藤受勝の二男にして明治元年六月四日を以て生れ大正六年家督を相續す地主にして現に推されて東京府會副議長にして同市參事會員たり家族は尙三女貞子（大九、一一生）五女常子（同一二、六生）六女和子（同一四、一一生）四男八郎（昭四、二生）九女治子（同六、一一生）五男幸七郎（同八、一〇生）妹八代（明一八、六生）あり弟大一郎（同三、一二生）同妻とわ（同一〇、八生、東京、中村茂七長女）は其子女を伴ひ分家し弟武男（同二二、四生）も亦分家し妹つき（同一〇、四生）は神奈川縣人飯島喜助に嫁せり A二四八八（東京市荏原區下神明町三五〇電園高輪三三七八）

伊藤武助　大阪府多額納稅者、袋物商　大阪府在籍

嫡母　すま　文久、三生、大阪、藤村松之助長女

妻　芳　明二五、三生

男　福松　明三一、九生

君は大阪府人伊藤武兵衛の長男にして文久元年一月を以て生れ明治十四年家督を相續す現時袋物商を營む大阪府多額納稅者に列し直接國稅六千七十三圓を納む長女ツタ（明二九、七生）は大阪府人池田松太郎に三女サク（同三三、一二生）は同府人蒲田利兵衛長男利郎に妹ミネ（元治元、一〇生）は同府人高岡庄七に同イト（明五、一〇生）は同府人高岡庄七に同スエ（同一四、一一

生）は同府人小西嘉兵衛に嫁し同タマ（同三、一生）は同府人和藥嘉兵衛に嫁し同ヒイに三男榮三郎（同三六、六生）は同府人和藥嘉兵衛に嫁貞一（同四四、五生、亡弟竹松長男）は大阪府人松田トメに各養子となり二男鶴治（同二七、四生）は分家し弟龜藏（同八、一〇生）同妻ナラウノ（同一六、三生、大阪、宮崎伊助四女）も亦其二子を伴ひ分家し妹トメ（同一七、二生）は亡弟竹松の家籍に入れり（大阪市東區唐物町三ノ四二電船場二二〇八）

參照‖伊藤福松、大藤庄兵衛の項

伊藤福平

青森縣多額納稅者、釀造業
青森縣在籍
明二一、一〇生、青森、阿部宗藏
妻　タカ
養子　憲次
明三〇、六生、養子テル夫、亡父福平五男
養子ゝテル
明三〇、一生、養子憲次妻、青森、西村勘次郎三女

君は青森縣人先代福平の三男にして明治十三年十一月を以て生れ昭和五年家督を相續し前名吉五郎を改め襲名す釀造業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅千百六十五圓を納む先代福平は上北銀行青森貯蓄銀行等の重役に擧げらる家族は尙孫ノリ（大一三、七生、養子憲次長女）同正男（昭五三生、同長男）の外從弟信四郎（明三三、二生、青森、伊藤萬之助四男）同妻とみ（同四〇、八生、青森、泉山恒松三女）及其一男一女あり（青森縣上北郡野邊地町）

伊藤福松

家主
大阪府在籍
妻　シヅ
明一六、六生、奈良、松村德治郎妹
養子　忠一
明四四、一〇生、亡弟忠次郎長男
養子　政吉
明四二、七生、庶子月若夫、奈良
庶子　月若
大六、二生、養子政吉妻、生母、揉井ミノ

君は大阪府人伊藤其吉の三男にして明治八年七月十八日を以て生れ同十九年先代源次郎の後を承け家督を相續す現時家主たり家族は尙長女月滿（大一五、一〇生）あり姉トラ（元治元、五生）は大阪府人大野市松に嫁し亡弟忠次郎四女）は其一子を伴ひ分家せりA六三五（大阪市住吉區松虫二ノ三七）

伊藤福松

袋物商
大阪府在籍
父　武助
文久元、一生、現戸主
妻　ヨシ
明三〇、二生、大阪、岡村祐太郎二女
次
大七、六生

君は大阪府人伊藤武助の長男にして明治二十五年三月を以て生る袋物商を營む家族は尙三男健一（大九、七生）長女幸子（昭二、三生）ありA七八二（大阪市東區唐物町三ノ三五電船場二二〇八）

參照‖伊藤武助の項

伊藤房次郎

魚下問屋、致新膏本舗、藥種商、藥劑師、山口縣在籍
母　カメ
明一一、一二生、山口、河野龜太郎四女

當家は稀に見る舊家にして古へより家系連綿として傳ふ即ち嘉祐年間（七百年前）祖先長門國目代として下向せしに始まり十三代宗右衛門興玄慶長十年三月此地に藥師を開業し龜屋と號す爾來代々祖業を繼承す先代房次郎は初代下關市長にして又下關商工會議所初代會頭に就任し德望家として令名あり君は其孫にして同保太郎の長男なり明治三十年一月を以て生れ同四十年祖父房次郎の後を承け家督を相續し前名彥介を改め襲名す實に二十一代目なり大正十年熊本藥學專門學校を卒業し藥劑師に合格して現時祖業藥種業を營み致新膏本舗として直接國稅二千八百九十六圓を納む史籍繙讀を趣味とす家族は尙克尤（明三六、七生、藥劑師、熊本藥專出身）あり（下關市西之端二九電九）

伊藤文吉

あんどや、漆器雜雪洞商
大阪府在籍
母　やす
明九、一〇生、奈良、松田廣吉二女

君は大阪府人佐藤梅吉の三男にして明治四十一年八月三日を以て生れ昭和七年家督を相續すあんどやと稱し漆器雜雪洞商を營む家族は尙長女ヤスエ（昭七、七生）弟安治郎（明四四、一〇生）妹梅子（大三、一二生）ありA四九一（大阪市南區高津四番丁七三電南七五六二）

伊藤福松

新潟縣多額納稅者、新潟興業貯蓄銀行、新潟銀行各㊞取締役
新潟縣在籍
母　眞砂
明九、八生、新潟、村山吉治二女
妻　竹子
明三五、四生、東京、米澤益二郎姉
男　吉彥
昭二、九生

君は新潟縣人先代文治の二男にして明治二十九年十二月を以て生れ同三十六年家督を相續し前名吉五郎を改め襲名す現時前記各銀行の重役にして縣下の多額納稅者に列し同地方に重きをなし直接國稅一萬七千七百四十五圓を納む家族は尙二男良二（昭四、二生）三男淑郎（同五、二生）弟威夫（明三四、四生）同妻ヒデ（同三八、一〇生、新潟、服部正儁四女）及其二子あり叔父九郎太（同一二、二生）同妻シン（同二二、五生、新潟、飯塚知信姉）は其一女を伴ひ分家し叔父成治（同一五、六生）同妻俊子（同二三、一〇生、東京、吉岡育長女）も亦其子女を伴ひ分家し叔母テイ（同二〇、一〇生）は新潟縣人村山吉治二男龜一郎に同八代重（同二二、七生）は同縣人齋藤喜十郎養子庫四郎に嫁し弟吉夫（同三六、一二生）は同縣人宮崎悌治の養子となれり（新潟縣中蒲原郡横越村）

參照‖飯塚知信、齋藤庫四郎、宮崎悌治、村山龜一郎の項

伊藤文吉

正四位勳三等、男爵、貴族院議員、横濱鐵道、日本鐵業、各㊞社長、日本產業、北海道興業、日本產業、太石油、東亞興業、工立製作所、中央土木、大阪鐵工、帝國鑛業、帝國鑛泉、日本產業護謨、大灣鐵工所、日本產業、各㊞取締役、自動車製造、合同土地、各㊞監査役
東京府華族
大三一生、從五位、東大法學部獨法科在學
男　俊夫
大四、二生、女子學習院出身
女　可世子
大五、三生、女子學習院出身
女　喜美子
大六、七生、女子學習院在學
女　博子

君は山口縣人木田幾三郎の長男にして男爵清水康春の

大叔父なり明治十八年十二月を以て生れ公爵伊藤博精先々代博文の養子となり同三十九年分れて一家を創立す同四十二年故公爵博文の偉功に依り特に華族に列し男爵を授けらる同四十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し山林事務官內閣總理大臣祕書官特許局事務官等に歷任す同四十三年英國に渡航し大正六年特派財政經濟委員として米國に派遣せらる後貴業界に入り現時前記諸會社の重役にして同七年貴族院議員に當選し現に其任に在り家族は尙二男和夫（大八、六生、學習院中等科在學）四女道子（同一〇、一生、女子學習院在學）ありA八八九三（東京市芝區三田小山町二七電三田一六〇〇）

參照‖公爵伊藤博精、滋子爵末松春彥、滋高橋是繩、男爵清水康春、滋瀧川儀作、滋永富謙一の項

伊藤文壽

日立製作所建築事務課長、辨理士
長野縣在籍
妻　ミサカ
明三〇、一一生、長野、原健藏妹
男　巖
大一五、八生
女　久
大八、一生

君は長野縣人伊藤代次郎の四男にして明治二十五年三月を以て生れ昭和七年分れて一家を創立す先是大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業同年日立製作所に入り現に同所庶務課長たり家族は尙三男敬（昭三、一一生）四男登（同六、八生）あり（東京市小石川區高田老松町三八電牛込五二四九）

伊藤平左衛門

神社佛閣建築請負業
愛知縣在籍
養母　てる
明一〇、九生、愛知、宮田松三郎三女
妻　保子
明三三、八生、先代平左衛門二女
名古屋市立第一高女出身
男　要太郎
大一一、一一生

當家は藤祖平左衛門慶長十五年建築業を創めてより代々愛塔伽藍社殿の建築に從事し三百二十餘年連綿相傳へて君に至る君實は同族伊藤滿作の二男にして明治二十八年四月を以て生れ大正十一年十代平左衛門の二女先代保子の入夫となり家督を相續し前名次郎を改め十一代平左衛門を襲名す夙に名古屋高等工業學校建築科を卒業し佛教美術研究の爲朝鮮支那暹羅印度錫蘭を巡歷す家業神社佛閣の建築請負業を營み全國に於ける著名なる社寺にして君が祖先の手に成らざるもの尠く現在有名なる宮殿にして君が作に係るもの亦頗る多し家族は尙二男延男（大一四、三生）ありA四二一B一七一（名古屋市中區松重町一〇電南二二二）

伊藤平治郎

三重織布㊞常務取締役、平田製絹三重織道各㊞取締役、浴布商
三重縣在籍
明一二、六生、三重、士、進士信俊六女
ます
明四〇、四生
彥之丞
明三六、一一生
男　うた
明四二、一〇生
女　祐
明四五、二生
男　天
明四五、二生
男　眞三
大六、三生
女　ともゑ

君は三重縣人天白文智の三男にして明治十三年五月を以て生れ先代平治郎の養子となり同三十七年家督を相續し前名憲彥を改め襲名す現時浴布商を營み傍ら三重織布會社常務取締役の外前記各會社の重役たり長女みち（明三五、三生）は三重縣人大塚義一に嫁せり（三重縣三重郡富洲原町電三二）

伊藤平三

京都取引所、京都織物各㊞監査役
西陣織物業、京都府在籍
妻　芳枝
長女　慶應三、七生、京都、川合清兵衛
男　爲治郎
明二六、一生
男　泰造
明三〇、三生
男　龜
明四〇、五生、二男泰造妻、京都
締　嘉與
河合嘉三郎二女

君は京都府人若松伊兵衛の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治二十六年伊藤芳枝の入夫となり家督を相續す西陣織物業を營み現時前記各會社の重役にして織に京都商工會議所議員同府多額納稅者たり家族は尙孫瑠璃子（大一一、九生、長男爲治郎長女）同朗（同一四、四生、同長男）同恒（昭二、五生、同二男）あり長女ライ（明二三、六生）同夫俊二（同一四、六生、京都、飯室伊長衛二男）は其子女を伴ひ分家せりA一八五八（京都市中京區室町通押小路下ル電本局二七九）

參照‖滋荒川傳七の項

伊藤平藏

平山堂、骨董商
神奈川縣在籍
妻　クヲ
明八、三生、東京、北條五郎兵衛三女
養子　義三郎
明二八、五生、長女松夫、東京、加藤得貿三男
女　松
明三四、一生、養子義三郎妻、府立第三高女出身

君は東京府人伊藤太平の長男にして明治四年十月三日を以て生れ大正十三年家督を相續す平山堂と稱し骨董商を營む藏に東京府會議員に擧げらる家族は尙孫東伍（大九、一一生、養子義三郎長男）同百合子（同一三、六生、同長女）同群二（昭二、一生、同二男）同右吉（同四、二生、同三男）の外亡弟祐親妻カノ（明一五、二生、神奈川、齋藤七郎姉）及其二男一女ありA一二八〇B三〇三（東京市四谷區尾張町一電長四谷三〇〇〇）

伊藤勉一

東洋製菓㊞常務取締役兼技師長
東京府在籍
繼母　てつ
安政四、八生、神奈川、小川豐吉妹
妻　みわ
明一八、五生、東京、原又吉二女
男　快一
大八、一二生

君は神奈川縣人伊藤常藏の長男にして明治十一年四月三日を以て生れ大正十年家督を相續す現時東洋製菓會社常務取締役兼技師長たり妹スヾ（明二八、六生）は長野縣人藤澤宅雄に嫁せりA一一五（東京市大森區新井宿一ノ二三七〇電大森一三四八）

伊藤槙次郎

從五位勳六等、選信技師兼選信技師、選信省電氣局勤務
神奈川縣在籍
妻　聽子
明三三、一一生、宮城、大泉林之丞長女
男　毅一
昭二、二生

君は宮城縣人伊藤文平の長男にして明治二十八年二月を以て生れ同四十年家督を相續す大正七年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し同八年選信技師兼選信局技師に任ぜらる現時電氣局に勤務す謠曲弓道に趣味を有す家族は尙長女紀子（大九、二生、鎌倉高女在學）二女晶子（同一一、九生）三女照子（同一三、五生）あり（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪下千度小路電鎌倉一三〇〇）

伊藤正德　無線時事通信社長　茨城縣士族

妻　あい　明二五、六生、東京、池谷善藏三女

男　正巖　大一一、一〇生

君は茨城縣士族伊藤博の長男にして明治二十二年十月を以て生れ同二十七年家督を相續す大正二年慶應義塾理財科を卒業し時事新報社に入り同社特派員として久しく歐洲に在りて各國の政治經濟事情を研究報道し歸朝後拔擢せられ同社の樞機に參じ取締役兼編輯局長に擧げらる現時無線時事通信社を主宰し之が社長たり家族は尙叔父功（明八、四生）同妻はた（同一一、六生、茨城、岩瀧初太郎姪）及其子女あり養子操（同四二、三生、東京、池谷福太郎妹）は東京府人木村喜八郎に嫁し弟德治（同二五、一〇生）同妻きん（同三四、三生、東京、池谷善藏五女）は其二子を伴ひ分家せりA一三九（東京市品川區大井金子町六二二三電大森一三二〇）

伊藤政五郎　地主　東京府在籍

養父　德次郎　嘉永二、七生、東京、岡本宇兵衛二男

妻　うた　明一〇、一生、養父德次郎長女

婿　キヨ　明三三、九生、亡長男櫻左衛門妻

孫　文夫　東京、高橋大助長女　大一二、二生、亡長男櫻左衛門長男

孫　正治　大元、八生

君は東京府人伊藤治左衛門の長男にして明治九年十月三十一日を以て生れ先代伊藤德次郎の養子となり大正六年家督を相續す地主たり家族は尙五男靖（大四、一二生）六男五郎（同七、八生）孫利子（同一四、一生、亡長男櫻左衛門長女）同妙子（同一五、一一生、同二女）同秀（昭四、一二生、同二男）同伸子（同六、一〇生、同三女）あり長女美江（明三七、一〇生）は東京府人梅田富三郎に二女乙女（同四三、二生）は同府人小美濃文太郎に嫁し三男孝（同四〇、八生）は分家せりA二九一（東京市中野區南沼袋二ノ一三八電中野二一九二）

伊藤昌庸　正五位勳四等、東京市教育局長　東京府在籍

妻　きさらぎ　明二六、二生、靜岡、中村文郎長女

男　敬　大二、三生

女　靜子　大七、七生

君は山形縣人伊藤寛愈の二男にして明治十三年六月二十日を以て生れ兄大三郎方より分れて一家を創立す同三十七年東京高等師範學校英語專修科を卒業し同四十四年更に同校研究科を卒業し同年文官高等試驗に合格し埼玉縣屬同理事官新潟縣理事官同視學官島根廣島京都各府縣警察部長に歷任し大分縣書記官內務部長福島縣知事に任官し同七年退官す昭和四年東京市教育局長に就任し今日に至る家族は尙二男重信（大四、五生）二女松枝（同一一、四生）三男昌秀（同一四、七生）あり（東京市芝區芝公園內二三東京市教育局內）

伊藤益五郎　地主　東京府在籍

妻　せき　明一〇、一〇生、東京、峰岸八太郎長女

男　原　明三八、六生

婿　芳子　大二、七生、長男原妻、東京、勝田孟矩二女

女　幸子　大三、一〇生

君は東京府人伊藤菊太郎の長男にして明治五年四月十二日を以て生れ同三十八年家督を相續す地主たり長女てい（明三二、一二生）は東京府人平沼善藏に二女たみ（明三五、一二生）は同府人烏崎武治に妹てう（同二〇、二生）は埼玉縣人宮木寛助に嫁し弟茂造（同二五、三生）は東京府人高木貞助長女タイの入夫となり妹すつ（同一七、五生）は其二子女を伴ひ分家せりA五三七（東京市中野區南沼袋二ノ八四電中野二一六七）

伊藤益次郎　製菓及販賣業　愛知縣在籍

妻　むら　明二八、三生、愛知、加藤錚一郎妹

男　豊次　大一一、一〇生

君は愛知縣人伊藤清次郎の二男にして明治二十年二月十九日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時菓子商を營む家族は尙二女貴美子（大一三、一一生）三男遵夫（昭三、三生）四男文雄（同五、六生）三女弘子（同七、九生）あり長女米子（大二、三生）は愛知縣人阿部要次郎に嫁せりA一一二七B三六〇（名古屋市中區北一色深井一一七電西五四六）

伊藤亦次郎　地主　東京府在籍

妻　多川　明一三、二生、東京、伊藤初三郎長女

男　眞一　明三二、四生

婿　ヤエ　明三五、七生、東京、尾寄幸次郎妹

男　榮作　明四三、三生

君は東京府人石井岩次郎の弟にして明治八年七月十八日を以て生れ先代初三郎の養子となり昭和七年家督を相續す現時地主たり家族は尙孫文雄（大一二、九生、長男眞一長男）同正雄（同一三、一〇生、同二男）同武雄（昭七、八生、同四男）ありA三五六（東京市荒川區三河島四ノ三一五四）

伊藤松之助　名古屋商工會議所常議員、松坂屋伊藤銀行各㊫社長、千歲殖產、愛知物產組各㊫取締役、八勝倶樂部㊫監査役、愛知縣在籍

父　次郎左衛門　明一一、五生、現戸主

妻　靜子　明四二、三生、侯爵佐竹義春妹

男　洋太郎　昭七、七生

君は愛知縣人伊藤次郎左衛門の長男にして同銃次郎同鈴三郎の兄に當る明治三十五年七月五日を以て生る現時松坂屋並に伊藤銀行社長の外前記各會社の取役にして推されて名古屋商工會議所常議員たり家族は尙長女多喜（昭五、七生）二男千次郎（同八、一〇生）ありA五四九七〇（名古屋市西區茶屋町三ノ三電本局九三）

參照‖侯爵佐竹義春、伊藤次郎左衛門、伊藤銃次郎

伊藤鈴三郎※子爵佐竹義勝※男爵島津忠彥の項

伊藤萬治郎　伊藤萬商店㊫常務取締役、和歌山染工㊫取締役、殖產㊫代表社員　大阪府在籍

妻　カナ　明二〇、八生、兵庫、山口竹治郎妹

男　太一郎　明四四、九生

男　伸雄　大三、六生

君は大阪府人伊藤萬助の弟にして同良三同豐四郎の兄なり明治十六年三月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す現時前記伊藤萬商店常務取締役祇產合名會社代表社員の外前記會社の重役たり家族は尙三男廉三（大四、九生）四男達郎（同六、一生）五男良（同七、一二生）六男五郎（同八、一生）ありA三五三三（兵庫縣武庫郡住吉村池床一五三六ノ三電御影二四五三）

參照‖伊藤豐四郎、伊藤萬助、伊藤良三、山口竹治郎※伊藤藤治郎※上田寧※高田久右衛門の項

伊藤萬助　大阪府多額納稅者、伊藤萬商店㊫社長、大日本紡績、納定染工、和歌山染工、宮川モスリン、日本レヨン各㊫監査役、伊藤㊫代表社員、羽州屋洋反物商　大阪府在籍

母　しな　明一六、六生、滋賀、塚本助右衛門二女

妻　きぬ　明四〇、一一生、經濟學士

男　芳郎　明四四、一一生、甲南高女出身

女　靜子

君は大阪府人先代萬助の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正八年家督を相續し商名卯三郎を改め襲名す洋反物商を營み大阪府多額納稅者に列す現時伊藤萬商店社長の外前記各會社の重役たり書畫及骨董を愛玩す弟萬次郎（明一六、三生）同良三（同二六、一二生）同豐四郎（同三一、一生）は各分家し妹萬龜（同二二、一一生）も亦分家して大谷藤治郎を迎へ同ます（同一九、三生）は大阪府人高田久右衛門に嫁せりA九五七二五（大阪市東區安土町四ノ四六電長堀本町八一）

參照‖伊藤豐四郎、伊藤萬治郎、伊藤良三、伊藤藤治郎、高田久右衛門の項

伊藤萬藏　資產家　愛知縣在籍

母　はま　嘉永六、一〇生、愛知、廣江治平長女

妻　しづ　明三〇、六生、岐阜、淺田清造四女

男　寛　大八、一〇生

女　恒子　大六、一生

君は愛知縣人先代萬藏の三男にして明治二十三年二月を以て生れ大正十四年家督を相續し襲名して前名光太郎を改む資產家にして義に尾張電氣軌道會社の重役たりしことあり家族は尙二男富三（大一三、一〇生）兄萬藏郎（明元、一生）同吉次郎（同二二、五生）は各分家せりA八六〇（名古屋市西區鹽町四ノ一五電長西一六六）

參照‖伊藤吉次郎※社本一の項

伊藤萬太郎　正四位勳四等、第一生命保險（五）常任監査役、愛知縣在籍

妻　くめ　明一一、一生、長野、柳田かつ三女

男　智　大元、八生

女　元　大二、九生、御茶の水高女出身

君は愛知縣人佐藤伍兵衛の長男にして明治三十三年六月二十三日を以て生れ先代さきの養子となり後家督を相續す第一高等學校を經て同三十一年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し同三十四年農商務省より保險事業調査の爲め獨逸に派遣せらる同三十七年歸朝後農商務省技師に任じ保險事業監督事務に從事し大正六年保險課長に補せらる同十年官を辭し第一生命保險相互會社常任監査役に就任し現に其任に在り明治四十二年六月墺國ウキーン市に開催せられたる第六回保險學國際會議に帝國政府を代表し出席せり旅行を趣味とす長女信子（明四一、八生、三輪田高女出身）は男爵木越專八に同多津（同二五、一生）は子爵加納久朗に同歌子（同三一、二生）は宮中顧問官長崎省吾長男守一に大叔母榮（萬延元、九生）は男爵安東貞雄先代自美に嫁し叔父義雄（明二〇、五生、陸軍砲兵大佐）同妻阿栗（同二八、八生、東京、佐野晉太郎從妹）叔父文雄（同二七、七生、正六位、神戸高等商船學校生徒主事）同妻俊（同三四、一生、福岡、內田富吉長女）は何れも其子女を伴ひて分家せり（東京市豐島區目白町四ノ四三電大塚三四九五）

參照‖子爵加納久朗、男爵安東貞雄、男爵木越專八

伊藤道夫　日本畫夜銀行員　東京府士族

母　操　明一五、一一生、東京、士、杉山四五郎妹

妻　笑　明四二、七生、東京、山口佐助二女

男　信　昭八、九生

伊藤家は舊信州松本藩に仕へたる家柄にして曾祖父祐英蕃末攘夷論を唱へ國事に奔走して芝高輪東禪寺に於て外人を斬り屠腹せり先代常夫は鐵道省に職を奉じ監督局監理課長同技術部長等に歷任し又內務技師を兼ぬ倫敦に於ける萬國鐵道會議に日本政府首席委員として參列し後官を辭し富士山鐵道會社專務取締役に擧げらる君は其長男にして明治三十六年一月二十日を以て生れ後家督を相續す松本高等學校を經て昭和五年東京帝國大學經濟學部商業學科を卒業し直ちに日本畫夜銀行に入り現時同行淺草支店員たり家族は尙弟和夫（大元、八生）妹郁子（同六、八生）同和子（同八、五生）あり

伊藤萬太郎　從四位勳四等、名古屋高等工業學校教授、愛知縣在籍

妻　美代　明二三、一〇生、東京、士、峰尾勝春三女

男　秀雄　明四四、一一生

君は愛知縣人伊藤鋼次郎の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學工科大學造兵科を卒業し現時名古屋高等工業學校教授にして機械科長たり家族は尙二男富雄（大九、六生）三男芳雄（同一〇、一〇生）ありA一四七（名古屋市中區北山町二ノ四九電南六二）

參照‖※三浦勝の項

妻　暉子　明二五、九生、　父敏雄二女
、男　雅夫　大六、一〇生
女　嘉子　大三、一生

君は愛知縣人伊藤龍比虎の弟村瀬健次郎の養嗣にして明治十九年十一月を以て生れ先代敏雄の養子となり大正五年家督を相續す先是明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士となり今日に及ぶ現時前記會社の社長にして義に名古屋市會及愛知縣會各議員關ヶ原炭礦西郊土地新名古屋土地各會社重役に擧げらる家族は尙二男博之(大八、八生)三男準三(昭四、九生)三女美那子(同六、八生)あり(名古屋市中區岩井町九電南一八一)

参照＝村瀬健次郎の項

伊藤滿之助

壽賀野、割烹業
東京府在籍

妻　いし　明三二、一一生、群馬、竹島庄五郎五女
男　滿壽雄　大一五、一一生

君は東京府人伊藤藤吉の四男にして明治三十年一月十日を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す壽賀野と稱し割烹業を營むA七三七B三〇八(東京市淺草區馬道町三ノ一二電淺草八一三一)

伊藤皆次郎

東議院議員(德島縣選出)、里浦商事㈱社長、德島縣在籍

君は德島縣人伊藤鐵太郎の長男にして明治二十年五月を以て生る德島縣立師範學校を卒業し村立里浦尋常高等小學校及町立板西尋常高等小學校訓導に任ぜらる後推されて里浦村會議員德島縣會議員土地賃貸價格調査委員家屋稅調査委員等となり又屋々里浦村長に選ばれ傍ら里浦青年團長同耕地整理組合長粟津耕地整理組合長たり現時里浦商事會社長にして昭和七年德島縣より選ばれて衆議院議員に當選し現に立憲政友會所屬たり(德島縣板野郡里浦村)

伊藤茂七

三星工業、第二東洋曹達、湯崎溫泉、文理土地、保谷曹達各㈱監査役、伊藤茂㊞代表社員
大阪府在籍

妻　ゑい　明七、五生、養父茂兵衛長女
男　茂雄　明三七、二生

婦　玲　明三八、八生、二男茂雄妻、大阪高島光俊六女
女　千惠子　大四、一二生、市立高等東女學校出身

當家は先代茂兵衛奈良より大阪に出で砂糖商を營み今日の基礎を成せるに始まる君は奈良縣人當廳屈藏の弟にして明治三年十月を以て生れ先代茂兵衛の養子となり同三十年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫茂登子(昭五、一生、二男茂雄長女)あり三女貴代子(明三〇、六生)は同夫富二郎(同二四、四生、炭礦會社取締役共同物產會社監査役、林學士)と共に奈良、柳田松之祐二男、正八位、陸軍歩兵中尉、沖縄A三九五(大阪市東區南本町二電船場五四一)

伊藤百世

正五位勳五等、內務技師、新潟土木出張所長、島根縣士族
明二六、八生、富谷萬之助三女
妻　ゼン　大一五、五生
男　國男　大六、一生
女　利子　大六、一生

君は島根縣士族伊藤治の二男にして明治二十一年四月を以て生れ大正十一年兄敏の後を承け家督を相續す同二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し同六年內務技師に任じ仙臺土木出張所に勤務昭和九年四月新潟土木出張所長を命ぜられ現在に至る同十二年英獨米各國に出張せり家族は尙二女賀子(大一〇、二生)三女秀子(昭五、一生)あり(新潟市白山浦一丁目新潟土木出張所內)

伊藤盛次

正五位勳六等、京都高等蠶絲學校教授、東京府在籍
明二八、一生、東京、故伊藤滋跡見女學校出身
妻　久江　大七、一生
男　芳一
姉

君は東京府人伊藤芳郎の二男にして明治二十一年一月二十五日を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十五年東京帝國大學農學科を卒業し東京農業大學講師鹿兒島高等農林學校講師を經て大正八年京都高等蠶絲學校教授に任ぜられ現在に至る同十二年英獨米各國に留學し同十五年歸朝す家族は尙二男實(大九、三生)長女明子(大一三、四生)二女禮子(昭三、八生)三男俊郎(同六、四生)弟金吾(明二九、一二生)あり(京都市上京區北野白梅町三六電西陣七四〇)

参照＝※綱富正男※牧野良三※柳澤彰の項

伊藤八十吉

前川屋總本店、材木商
東京府在籍
妻　とせ　明二一、一生、東京、齋藤福右衛門妹
男　米次郎　明二九、五生
婦　貞子　明三四、一生、二男米次郎妻、神奈川、鈴木庄三郎長女
男　英三郎　明三一、一〇生
男　輝雄　明四二、二生
女　靜枝　明四五、三生

君は東京府人橋本三右衛門の二男にして慶應二年九月を以て生れ明治十七年伊藤貞吉の養子となり後家督を相續す材木商を營み前川屋總本店と稱す家族は尙孫幸子(大一一、一一生、二男米次郎長女)同敏子(昭二、三生、同三女)同久子(同五、四生、同四女)あり四男隆(明三四、七生)は東京府人井上金之助長女光子の婿養子となり五男誠之助(同三七、三生)は同府人土井鐐島鐸三の養子となれり

伊藤彌三郎

伊藤釦店㊞代表社員、釦商
東京府在籍
妻　ムメ　明一八、七生、東京、大宮萬吉三女
男　文平　大元、九生、東京商大出身

君は東京府人伊藤定七の二男にして明治八年二月二十七日を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す釦商を營み伊藤釦店代表社員たり二女はな(明三八、九生)は栃木縣人杉田邦次弟庚子郎に嫁せり(東京市本所區龜澤町一ノ一〇電本所二二七)

伊藤安吉

正三位勳二等、男爵、海軍造機少將、東京府華族
妻　登喜　明一八、九生、故宮中顧問官吉田要作長女、華族女學校出身

男　俊雄　明三三、八生、正五位、東京帝國大學農學部農藝化學教室勤務、農學士
婦　美津子　明四四、四生、長男俊雄妻、高千穗學校長川田鐵彌三女、三輪田高女出身
男　橘雄　明四一、三生、東京中央放送局技術部勤務
男　秀樹　明四三、八生、東京帝大工學部在學

當家は先代喬吉より顯る喬吉は舊鳥羽藩士にして明治二年海軍操練所に出仕し同四年海軍少佐に任じ海軍中將に累進す其間海軍兵學校長横須賀造船所長艦同鎮守府次官艦政局長海軍參謀部長海軍省第二局長海軍次官等に歷任し後貴族院議員に擧げられ日清戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治六年五月十四日を以て生れ大正十年襲爵す明治三十二年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同年海軍造船中技士に任じ大正八年海軍造機少將に陞任す其間英佛米滯在造船監督官蘭鶴海軍工廠造機部長海軍省艦政局第三課長横須賀海軍工廠造機部長等に歷補し後豫備役に入る夙に貴族院議員に選ばれたり二男增彌(明三六、一〇生、從五位、海軍造船大尉、横須賀海軍工廠勤務、工學士)は侯爵廣幡忠隆の養嗣子となり其長女信子(大二、八生)を娶れり(東京市品川區北品川三ノ二三一電高輪六二二)

参照＝侯爵廣幡忠隆、川田鐵彌※伯爵大谷光暢※伯爵兒玉秀雄※男爵森村市左衛門※相澤埙の項

伊藤保雄

地主
東京府在籍
明八、七生、東京、岩崎茂右衛門養女
母　むめ
妻　トク　明三四、一生、東京、小島彌太郎長女
男　覺郎　昭三、四生

君は東京府人伊藤保治の長男にして明治二十九年三月二十日を以て生れ大正三年家督を相續す地主にして資產家たり家族は尙二男申二(昭七、六生)長女亞子(大一一、一二生)二女宣子(同一三、一二生)ありA四二七(東京市瀧野川區西ヶ原町一〇三電王子九七七)

伊藤保賢

家主
東京府在籍
明一五、一生、東京、伊藤清一郎姉
妻　ぎん　大二、六生
男　安純　大三、一〇生
女　慶子　大九、一生

君は東京府人先代安太郎の二男にして明治二十一年十月九日を以て生れ同四十三年家督を相續す現時家主たり家族は尙三女愛子(大七、一〇生)五女純子(同一二生)七女裕子(同六、一一生)六女瑞子(昭三、一生)同妻ヤエ(同三九、五生、東京、小池米次郎三女)及其三子同重吉(同三二、一一生)同妻ウメノ(同一八、二生、長野、篠原作市長女)あり姉鈴々(同一三、一〇生、長男兒玉秀雄妻)弟次郎(明三〇、一〇生)

伊藤保平

西宮市會議長、西宮酒造㈱社長、西宮銀行㈱監査役、兵庫縣在籍
慶應二、五生、兵庫、永井增吉妹
長女　明二五、一〇生、大阪、川原儀六
妻　松枝　大七、一二生
男　章吉　大四、五生
女　美代　大四、五生

君は兵庫縣人岡佐平治の二男にして明治十五年八月を以て生れ先代米藏の養子となり同四十五年家督を相續す同三十九年慶應義塾理財科を卒業し現に西宮市會議長たり家族は尙二女喜代(大九、五生)三男精三(同一四、九生)ありA二〇一〇(西宮市鞍掛町七六電四七)

伊藤祐弐

從五位、名古屋高等商業學校生徒主事㊞教授、愛知縣在籍
母　やす　文久三、八生
妻　照　明一五、九生、醫師
男　一郎　明四一、六生、千葉醫大在學
男　政雄　大元、一一生、東京帝大文學部在學

君は明治十二年五月を以て生る同四十一年七月東京帝國大學文科大學哲學科を卒業す同年九月東京淑德高等女學校教諭翌四十二年一月同校教頭大正六年三月愛知縣立第一中學校教諭兼舍監となり同九年七月東海中學校長に就任同十四年九月名古屋高等商業學校教授に任ぜられ昭和三年十月同校生徒主事㊞教授に任じ現在に至る昭和九年四月教化功勞者として財團法人中央教化團體聯合會長齋藤實子爵より表彰さる(名古屋市西區豎三ツ藏一ノ一〇電本局三五〇六)

伊藤豐

藝備銀行㈱取締役、昭和土地㈱監査役、廣島縣在籍
妻　富子　明三二、一生、香川、岩佐椿坪長女
男　得平　大一〇、二生

君は元福山藩士高尾貫之の八男にして明治十八年十月を以て生れ伊藤修平の養子となり同三十六年家督を相續す夙に韓國平安農工銀行に入り大正七年聘せられて尾道第六十六銀行支配人となる大正九年藝備銀行合併成立と同時に福山支店長に任ぜられ次で營業部長に進み現に同行取締役にして總務部長を兼攝し尙前記會社の重役を兼ぬ義に播電鐵道昭和土地會社取締役たりしことあり家族は尙長女愛子(大一二、三生)二女永子(同一四、二生)三男智之(昭二、一生)あり二男光信(大一三、五生)は實家相續の爲め實兄高尾義城の養子となれり(廣島市庚午町五三〇ノ一八電一一三七)

伊藤與三郎

三井物產㈱倫敦支店長
東京府在籍
妻　志保子　明三五、九生、侯爵佐佐木行忠妹
男　芳雄　大一二、四生

君は三重縣人伊藤辰次郎の弟にして明治二十年十二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治三十八年名古屋商業學校を卒業し三井物產會社に入り本店營業部倫敦大阪各支店詰シドニー漢堡各支店長木村部長兼小樽支店長を經て昭和九年二月同社倫敦支店長となり今日に及ぶ家族は長女文子(大一一、三生)あり(倫敦三井物產會社支店內)

参照＝侯爵佐々木行忠※子爵西尾忠方の項

伊藤由五郎　精華化學工業種油製造業、伊藤由商店、藥種貿易商、大阪府在籍
明二六、九生、大阪、谷村長次郎長女
妻　タマ
男　英夫
女　美代子
大元、一二生
大六、六生
君は大阪府人澤藤榮治の三男にして明治三十七年三月五日を以て生れ先代タマの入夫となり同四十四年家督を相續し前名末松を改む伊藤由商店と稱して藥種貿易商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙三女千代(大一〇、八生)二男一彌(同一四、三生)三男證司(昭三、一一生)あり(大阪市東區道修町三ノ九電本局二八七)

伊藤由四郎　地主　東京府在籍
明三一、六生、東京、西島喜右衛門繼子
妻　くめ
男　英武
大八、一生
君は東京府人伊藤金五郎の四男にして明治三十年十二月二十九日を以て生れ大正三年家督を相續す地主たり家族は尙二男武雄(大一三、一生)長女澄江(昭五、一〇生)三男正博(同八、一生)ありA七八四(東京市豐島區西巢鴨四ノ二四)

伊藤芳太郎　資產家　京都府在籍
安政三、一生、京都、木村吉右衛門三女
母　てる
妻　梅能
明二八、七生、京都、士、中川敬造長女
明三七、五生、長女濱子夫、福井小林新五兵衛三男
明四三、一生、養子忠雄妻
女　濱子
明四四、七生
女　ゆき尾
大三、三生
君は京都府人伊藤芳太郎の二男にして明治十八年十一月十四日を以て生れ大正六年家督を相續し前名義一郎を改め襲名す資產家たり家族は尙孫利朗(昭七、二生養子忠雄長男)あり弟良之輔(明二四、七生)は分家せりA四〇六(京都市右京區花園伊町電西障二一五)

伊藤義彥　從四位勳四等、山口縣田布施高等女學校長兼教諭、山口縣士族
母　ヤチヨ　天保一四、六生、山口、士、吉田葛磨長女
妻　イチ　明一七、九生、大分、士、出田小三郎二女、從七位
男　邦彥　明四一、一〇生、銀行員、經濟學士
婦　數子　大三、一二生、二男邦彥妻、男爵山根成一妹
君は山口藩士伊藤常槌の長男にして慶應二年一月を以て生れ明治三十一年家督を相續す夙に東京高等師範學校を卒業し爾來教育界に在り中學校長高等女學校長師範學校長等に歷任し昭和五年職を辭し鄕里に歸栖せしも同年更に田布施高等女學校長に推され同校教諭を兼ぬ家族は尙三男元彥(大四、一二生)四男政彥(同八、三生)五男健彥(同一〇、一〇生)あり長女ミチ(明二八、七生)は愛媛縣士族法學士西村曉に嫁せり(山口縣熊毛郡田布施町)
參照‖男爵山根成一次男爵松村弘之次田中直通の項

伊藤米治郎　大阪府多額納稅者、日本帽子㈱社長、伊藤米商店㈱代表取締役、帽子商、大阪府在籍
明一六、一生、兵庫、山口和三郎長女
妻　よし　大三、九生
男　彥次郎
君は大阪府人伊藤友吉の二男にして明治十年五月を以て生れ同十六年先代ヒサの養子となり家督を相續す帽子商を營み同府多額納稅者に列し直接國稅五千四百六十一圓を納む伊藤米商店代表取締役の外日本帽子會社長大阪朝日同業組合長たり家族は尙四女里子(大九、三生)あり(大阪市東區瓦町五ノ三七電本局二五二「店舗」同市東區備後町四ノ四二電日本町二六三)

伊藤利三郎　從五位勳三等、海軍大佐、海軍省電信課長兼軍令部課長
東京府在籍
妻　しげ　明二六、八生、東京、栖原源次郎長女、實踐高女出身
男　敬介　大六、五生、麻布中學在學
女　敏子　大三、一二生、調布高女出身
女　京子　大七、九生、調布高女在學
君は東京府人伊藤金五郎の長男にして明治十八年一月十九日を以て生れ明治三十六年家督を相續す明治四十年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ後昭和四年海軍大佐に累進す其間阿蘇運用長扶桑運用長軍令部出仕兼水雷學校教官海軍大學校教官等に歷任し昭和四年現職に補せられ同八年兼軍令部課長に補せらる曩に日獨戰役に從軍し又國際聯盟陸海空軍問題常設諮問委員會帝國海軍代表隨員被仰付佛瑞兩國に駐在す家族は尙二男幸吉(大一三、一一生)ありA一五二(東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ四八五電田園調布四三〇)

伊藤龍太郎　伊勢龍陶器店、陶器商　東京府在籍
文久二、五生、東京、西山庄吉三女
養母　たつ
男　半一郎　大五、三生
君は東京府人神谷寗市の四男にして明治十九年一月を以て生れ先代龍太郎の養子となり大正十二年家督相續と共に前名春吉を改め襲名す陶器商を營み伊勢龍陶器店と稱すA四五四(東京市日本橋區人形町三ノ二ノ二電漢花七一四)

伊藤良三　伊藤萬商店㈱取締役、殖產㈱代表社員、大阪府染工賣社員　大阪府在籍
妻　千代子
男　泰三　大一三、五生
君は大阪府人伊藤萬助の弟にして同萬治郎の弟同豐四郎の兄なり明治二十六年十二月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す同年大阪高等商業學校を卒業し現時伊藤萬商店取締役にして殖產合名會社代表社員の外大阪染工合資會社の社員たり曩に羽州會社代表社員たり家族は尙二女繁子(大一一、八生)二男直三(同一五、四生)三女道子(昭四、二生)三男寗久三(同六、一生)四男昭三(同七、一二生)ありA二〇七八七(大阪市東區南本町四ノ五五電船場二七〇九)
參照‖伊藤豐四郎、伊藤萬治郎、伊藤萬助次男青木忠次郎次男赤松茂次男伊藤治郎次男杉山小兵衛次男高田久右衛門の項

伊藤良治　東京上野松坂屋地階食堂、愛信堂菓子商、東京府在籍
妻　キン　明三九、九生、神奈川、中原友藏姉
男　榮一　昭二、二生
君は東京府人伊藤正次郎の長男にして明治三十三年八月十五日を以て生れ大正十三年家督を相續す愛信堂の屋號を以て菓子商を營み傍ら東京上野松坂屋地階食堂を經營す義太夫を趣味とす家族は尙弟弘(大五、二生、南洋興發會社員、慶應義塾商工學校出身)ありA四〇(明三〇、一一生)は陸家伊藤氏を再興し養妹花(同三六、二生、東京、小泉留吉長女)は東京府人高橋あかの養子となれりA三四二B一七八(東京市下谷區長者町二ノ八電下谷六〇三四)

伊藤林藏　資產家、地家主　東京府在籍
妻　やす　明元、七生、東京、岡田鋳三郎姉
男　治郎右衛門　明三四、一生
婦　ヨシ　明三五、三生、長男治郎右衛門妻、神奈川、市野正三郎三女
君は東京府人伊藤直吉の長男にして明治八年十月五日を以て生れ同四十五年家督を相續す地家主として知られる家族は尙孫惠章(昭二、七生、長男治郎右衛門長男)同幸子(同六、五生、同長女)同晴康(同九、一生、同二男)あり二男伊之助(明一六、七生)は分家し長女いく(同三九、一〇生)は埼玉縣人石川秋之助弟與四郎に二女みよ(同四四、一生)は東京府人渡邊八十吉長男八左衛門に嫁せりA三三八(東京市澁谷區下通四ノ一三電高輪二三〇〇)
參照‖淡木村利太郎の項

伊藤綠良　正七位、陸軍敎授、陸軍砲工學校敎官、岐阜縣在籍
明一四、二生、岐阜、伊藤律太郎長女
母　きみ　明四一、一生、和歌山、士、安井義之助長女
妻　芳子　昭五、九生
男　律男
君は岐阜縣人先代律太郎の長男にして明治三十三年十一月二十六日を以て生れ昭和三年家督を相續す大正十四年東京帝國大學文學部獨文科を卒業す現時陸軍敎授にして陸軍砲工學校敎官たり家族は尙弟良香(明三八、一〇生)ありA三〇〇(東京市小石川區駕籠町二三四電大塚一一五七)

伊臣眞　資產家　東京府士族
妻　しめの　明二〇、一生、兵庫、士、近藤靜郎妹、跡見女學校出身
男　第一郎　明四一、四生、產業組合中央金庫勤務、經濟學士
女　春枝　大六、四生、御茶の水高女在學
君は舊宇和島藩士伊臣忠一の二男にして明治十年三月一日を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十一年日本大學法科を卒業し安田保善社に入り理事に進み東京火災保險帝國製麻他數會社の重役に就任しも大正九年之を辭し歐米を漫遊す文才に長じ尾崎紅葉に師事し紫葉と號す小說脚本數種の著作あり家族は尙二男次郎(大七、一〇生、學習院中等科在學)あり長女櫻子(同四、〇、四生、九段精華高女出身)は長野縣人赤羽雄一二男川崎第百銀行員經濟學士保正に二女翠子(同四三、六生、出身校同上)は廣島縣人二階堂三郎左衛門長男日本紙業會社員經濟學士速雄に嫁せり(東京市牛込區若宮町一一電牛込四一六一)
參照‖赤羽雄一、近藤靜郎、二階堂三郎左衛門の項

伊野部恒吉　高知市會議員、高知商業工業所議員、大高鑛業㈱取締役、酒造業、高知縣在籍
明元、一二生、高知、伊野部德平孫
明三四、一生、高知、西川春吉二女
大一二、九生
君は高知縣多額納稅者伊野部吉次郎の長男にして明治二十九年七月を以て生れ後家督を相續す大正六年早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し現に酒造業を營み傍ら大高鑛業會社重役に列し又推されて高知市會議員同商工會議所議員たり家族は尙二男健二(大一四、一二生)三男淳吉(昭三、二生)あり(高知市通町九〇電二七二)

伊能泰治　從五位勳六等、日本製鐵㈱技師　群馬縣在籍
安政四、五生、群馬、高橋市五郎二女
養母　とら　明二八、一二生、群馬、黑岩佐太夫長女
妻　がう
君は群馬縣人關嘉三郎の弟にして明治二十二年五月を以て生れ同四十二年同縣人伊能とらの養子となる大正六年京都帝國大學工科大學工業化學科を卒業し同七年製鐵所技手となり同十年技師に任じ昭和三年在外研究員を命ぜらる同九年日本製鐵會社の創立せらるゝや同社に聘せられ今日に至る家族は尙三女政子(大一五、八生)四女文子(昭五、六生)五女弘子(同七、一一生)養兄八平(明一四、九生、現戶主)同妻たね(同一六、六生、群馬、關善平三女)及其子女あり養姉せう(同九、九生)同夫耕三(同一一、一生、群馬、伊能國雄弟)は共に其子女を伴ひ分家し長女貞子(大七、一二生)は其養子となり養弟芳雄(明三一、二生、東北帝大理學部及東京帝大法學部出身)は分家せり(八幡市日本製鐵會社八幡製鐵所內)

伊庭勝彌　住友信託㈱東京支店副長　滋賀縣在籍
妻　文子　明三一、一二生、東京、川田豐吉長女、女子學習院出身
君は滋賀縣人伊庭貞剛の五男にして同六郎の兄なり明治二十二年八月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す父貞剛は住友家總理事住友銀行監査役として財界に知らる君夙に曉星中學校を經て慶應義塾大學部政治科を出で直に住友銀行に入り同六年紐育コロンビア大學に學び同九年歐洲經由各國を歷訪歸朝す昭和二年住友銀行京都支店長代理より轉じて住友信託會社に入り東京支店副長となるA一四四(東京市澁谷區南平臺町四六電青山六二九)
參照‖川田豐吉次男野悌二次森村茂樹の項

伊庭菊次郎　勳六等、梅花女子專門學校長　京都府在籍
妻　鑒江　明一五、一生、長野、士、大久保義制二女
男　敏雄　明四四、八生
女　壽子　明四一、二生

女　千代子　明四二、八生

君は京都府人奥輝太郎の三男にして明治六年五月十三日を以て生れ後先代ミェの養子となり同三十一年家督を相續す夙に同志社大學並に東京高等師範學校を卒業し同四十四年以來梅花女子專門學校長として現在に至り其間私立中等學校協會理事大阪私學聯盟常任理事日本組合基督教會派宗教々育調査員等の名譽職を兼ぬ昭和三年御大典に際し社會功勞者として勳六等に敍せられ同四年六月六日　陛下大阪行幸の際侍從御差遣尚教育に努めよとの有難き御諚を賜ふ同年日本私學協會理事としてゼネヴァの世界第三教育會議に私學全權として出席會參りて歐米各國を巡遊宗教及教育を視察す近著に「千雲の歐米」あり（大阪府豐能郡熊野田村電三〇五）

伊庭彰一

從五位勳四等、田中車輛工場㊟支配人、東京府士族

明三〇、一二生、岐阜、清水晉吉二女

妻　じよう

男　彰一　成昭五、二生

君は北海道士族伊庭豊長の長男にして明治二十年十二月二十六日を以て生れ同二十三年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來鐵道院參事補同副參事神戸東京各鐵道局庶務課長同教習所長に任補し大正十四年米獨各國へ出張を命ぜられ歸朝後鐵道局參事となり門司鐵道局運輸課長東京鐵道局運輸課長を經て昭和四年鐵道書記官に任ぜられ大臣官房現業調査課長に進みしも後退官し現時田中車輛工場支配人たりA二〇八（兵庫縣武庫郡精道村鷹屋字伊勢溝田五四五電芦屋四〇一七）

伊原五郎兵衛

妻　きぬ

男　暾　大六、四生

女　明一九、一生、長野、福澤岩夫二女

君は長野縣人先代五郎兵衛の三男にして明治十三年十月を以て生れ同三十九年家督を相續し尚名恒次を改め襲名す同年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し同時に銚子鐵道松本電氣鐵道會社長の外前記銀行諸會社の重役たり養河鐵道伊原鐵道東部電力東北電氣鹽原電車武州鐵道兩總電氣各會社の重役たりしことあり曾て郷里より推されて衆議院議員に當選す長女千春（明四一、一〇生、亡）は東京女大出身）も亦他に嫁し弟二三男（明二三、一一生）同妻たけ（同二九、一一生、杉並區上井草町一四四八電荻窪二四一三）

伊原全郎

妻　マス

男　一郎　大五、八生

女　綾　大二、一〇生

女　幸子　大四、二生

君は新潟縣人伊原六郎の長男にして明治十九年三月二日を以て生れ昭和四年家督を相續す夙に明治四十三年早稲田大學商科を卒業し現に東京動產火災保險會社常務取締役東神火災保險會社監査役たり家族は尚三男翠三（大九、一〇生）三女惠子（同一一、一二生）ありA一二八〇（東京市牛込區市谷加賀町二ノ三三電牛込六二三五）

伊原貞敏

母　こたま

男　貞雄　昭八、五生

君は東京府人伊原貞次郎の長男にして明治十九年三月を以て生れ大正九年家督を相續す同八年早稲田大學理工科機械工學科を卒業し新潟鐵工所に入社す同九年早稲田大學助教授に轉じ昭和五年教授に進み歐米各國へ留學す先是同四年工學博士の學位を授けられ現に理工學部勤務たり家族は尚長女晶子（大一五、九生）二女晴子（昭四、一生）あり（東京市牛込區原町三ノ五三）

伊原平之助

妻　シェ

男　俊一　大一三、一生

女　横濱正金銀行㊟北平支店支配人　島根縣在籍　明二八、二生、島根、野津熊市四二女

君は島根縣人伊原良之助の二男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十一年兄正之助方より分れて一家を創立す明治四十三年東京外國語學校支那語科を卒業し横濱正金銀行に入りスラバヤ支店副支配人牛莊支店副支配人同支配人等を經て本店勤務となり昭和九年同行北平支店支配人に就任す家族は尚長女和子（大一一、一生）あり（中華民國北平東交民巷横濱正金銀行支店內）

伊原木藻平

妻　ヒサノ

養子　光子　大三、七生、廣島、重滿勘藏孫

君は岡山縣人先代藻平の長男にして慶應二年二月七日を以て生れ明治三十六年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す現時岡山商工會議所顧問に推され株式會社天滿屋取締役社長たる外前記銀行會社の重役にして岡山縣多額納稅者に列し直接國稅一萬三千四百三十六圓を納む（岡山市西中山下九一電二七三二）

伊夫伎準一

妻　英

男　一雄　大九、七生、學習院在學

女　貞子　大八、一生、女子學習院在學

君は滋賀縣人伊夫伎寡內の四男にして明治十一年四月を以て生れ大正四年兄治郎一方より分れて一家を創立

す明治三十六年早稲田大學英語政治科を卒業し同三十七年文官高等試驗に合格農商務省に入り山林事務官となり同四十四年七月宮內省に轉任し現時帝室會計審査局審査官兼宮內事務官たり家族は尚二女久子（大一一、一生）三女文子（同一二、四生）二男英郎（同一四、七生）あり（東京市牛込區市谷佐內町三七電牛込六七四）

伊吹震

妻　壽美子

男　光　昭四、一〇生

當家は代々長崎市袋町に住し初め呉服店を營み伊吹屋と稱す君の父は先代チウの養嗣子藤山雷太にして母は中村藤十郎長女タネなり明治二十一年八月を以て生れ同三十八年家督を相續す第一高等學校を經て東京帝國大學工科大學に學び後更に法科大學に轉じ經濟學科を卒業す爾來實業界に入り現時前記諸會社の重役たり家族は尚長女和子（大一二、一〇生）二女慶子（同一五、二生）二男雄（昭七、六生）姉ウタ（明一八、二生）ありA四一二九（東京市麻布區廣尾町一七電目黒高輪六〇六一）

參照＝藤山雷太の項

伊吹傳四郎

妻　タミ

男　正太郎　明三六、七生、伊吹商店加工部長

婿　益子　明四四、二生、同志社大學在學

男　英次郎　明九、一生、京都、伊吹平助妹

君は京都府人佐々木彌助の長男にして伊吹豊次郎の養弟同安五郎の養兄なり明治九年十二月を以て生れ前名恒治郎を改め伊吹傳右衛門の養子となり大正六年養兄平助方より分家す現時株式會社伊吹商店專務取締役伊吹合名會社無限責任社員にして傍ら京都中央市場倉庫㊟專務取締役、京都中央市場倉庫㊟取締役、伊吹㊟無限責任社員、京都府在籍

伊吹豊次郎

妻　みつ

男　保次郎　明三九、一〇生

女　勝子　明四三、一一生

君は京都府人伊吹傳右衛門の二男同安五郎の兄同傳四郎の養兄にして明治四年十月を以て生れ大正六年兄平助方より分れて一家を創立す呉服太物商を營み現時伊吹商店代表取締役兼大阪支店長の外前記會社の重役たり長女シナ（明三二、二生）三男孝三郎（同四一、二生）は大阪府人中野嘉七養子歌利に嫁し二女ヨシ（同三四、三生）三男孝三郎（同四一、九生）は各分家せりA一一五三（京都市下京區佛光寺西洞院西入ル電下三五一五）

參照＝伊吹傳四郎、伊吹平助、伊吹安五郎、平尾貫二、櫛原喜兵衛の項

伊吹平助

妻　トハ

男　健太郎　明三八、七生、長男

婿　初枝　明四五、三生、同志社大學在學

男　彦次郎　明一一、五生、京都、深見伊作長女

君は京都府人先代平助の長男にして伊吹傳四郎の養弟なり明治元年五月を以て生れ同三十年家督を相續し前名彦太郎を改め襲名す呉服太物問屋業を營み伊吹合名會社を主宰し傍ら前記會社の重役に擧げらる義に京都府多額納稅者たりしことあり家族は尚孫和子（昭四、一生）あり

伊吹安五郎

妻　ふい

養子　利喜三　明四一、四生、養子峰子夫、滋賀西田利七弟

養子　峰子　大三、六生、養子利喜三妻、京都伊吹文治郎二女

君は京都府人伊吹傳右衛門の四男同豊次郎の弟同傳四郎の養弟にして明治十一年三月三十一日を以て生れ同二十九年兄平助方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役たりA二一五（京都市下京區綾小路新町西入ル電下三五四九）

參照＝伊吹傳四郎、伊吹豊次郎、伊吹平助の項

伊部榮治

妻　しけを

男　英　大一〇、七生

女　子　大六、六生

君は福井縣人伊部庄兵衛の二男にして明治十五年二月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正三年判事に任じ爾來小倉區行橋區金澤地方同區七尾區函館地方札幌地方各裁判所判事札幌控訴院判事金澤區裁判所監督判事兼同地方裁判所判事等に歷補し現時前記の職に在り家族は尚二女加壽子（大一四、三生）三女榮子（昭四、五生）ありA一五五（石川縣鹿島郡七尾町字府中電五六〇）

伊部源次郎　羅紗商　滋賀縣在籍
妻　なゝみ　明二八、六生、滋賀、池田勘四郎二女
君は滋賀縣人伊部リウの私生子にして明治二十三年二月十一日を以て生れ同三十一年先代作太郎の後を承け家督を相續す羅紗商を營む弟友三（明三二、二生）は分家せりA六八二（「小賣部」大阪市東區谷町二ノ九電東三九一四・六九八二「卸部」同東區大手通電東六九八三）

伊部貞吉　正五位勳六等、工學博士、營繕管財局技師、工務部勤務　東京府在籍
妻　春野　登志子　明二八、一一生、東京、岩佐松太郎長女、日本女大附屬高女出身
女　大七、四生
君は東京府人伊部廣容の五男にして明治二十五年三月を以て生れ大正五年兄廣一方より分れて一家を創立す同年東京帝國大學工科大學建築工學科を卒業し陸軍技手同技師營繕廳技師內務技師帝都復興院技師復興局技師等に歷任し昭和四年營繕管財局技師に任ぜられ今日に至る曩に建築學研究の爲歐米各國に出張し昭和四年工學博士の學位を授けらる家族は尙二女智子（大一一、四生）三女順子（同一五、一生）あり（東京市豊島區目白町四ノ六三）

伊與田新太郎　三河屋、貿商　大阪府士族
妻　たき　明四、二生、大阪、氏原菊松姉
男　房次郎　明二八、一一生
　　明三三、一一生、長男房次郎妻、
婦　カヌ　大阪、柏木傳二郎長女
君は舊近江膳所藩士族伊與田五兵衛の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十六年家督を相續す三男正夫（明四一、八生）は大阪府士族古市信一郎に四男二郎（大五、八生）は神奈川縣人石野センに各養子となり養子米子（明二七、一〇生）曩に京都、福井庄次郎五女）は滋賀縣人金元鶴吉長男又次郎に嫁し姉ユキ（嘉永六、一〇生）は大阪府人生田嘉助の母たり（大阪市浪速區南坂町一五〇電浪三四三〇）
參照＝生田嘉助の項

伊良波長清　沖繩縣士族
男　長齡　明三〇、九生
婦　ウト　明三三、四生、二男長齡妻、沖繩、金城順盛二女
男　長群　明三三、三生
婦　オミト　明三七、二生、三男長群妻、沖繩、古濱興善三女
君は沖繩縣士族伊良波長齡の二男にして明治六年三月十三日を以て生れ同二十六年分れて一家を創立し金融業を營む直接國稅百十六圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫猛（大一三、一生、二男長齡長男）同啓（昭三、五生、同二男）同清（大一四、八生、三男長群長男）同光（昭四、八生、同二女）同ヨシ（同七、一〇生、同三女）あり（那覇市下泉町二ノ七六）

伊禮肇　衆議院議員（沖繩縣選出）、辯護士　沖繩縣在籍
妻母　マカト　明九、一一生、沖繩、崎間次良二女
男　正雄　明二八、二生、崎間マカト私生子
女　大一一、一生
女　雪子　大七、一一生
君は沖繩縣人伊禮昆正の二男にして明治二十六年十月十三日を以て出大正十五年兄正之方より分れて一家を創立す凡に京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し沖繩縣屬に任ぜられしも後之を辭し辯護士を開業す衆議院議員に當選する事三回にして現に國民同盟に屬す曩に沖繩縣會議員北谷村長等に擧げらる家族は尙三女菊子（大一三、一一生）四女房子（同一五、一〇生）五女公子（昭四、二生）あり（那覇市若狹町）

亥角喜藏　從四位勳三等、海軍少將、攻玉社中學校長、攻玉社商業學校長　東京府在籍
妻　ナミ　明二一、七生、福岡、士、淺川安親妹
君は京都府人亥角常吉の二男にして明治十三年九月二十三日を以て出大正十五年兄仲藏方より分れて一家を創立す明治三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少將に累進す其間河內艦長皇族附武官軍事參議官副官練習艦除勞手御大禮觀艦式御召艦榛名各艦長橫須賀海軍人事部長兼橫須賀鎭守府人事長に歷任し後豫備役となり現時攻玉社中學校長同商業學校長として育英の事に從ふ（神奈川縣高座郡藤澤町鵠沼二三八二）

射延一郎　第一銀行員　兵庫縣在籍
妻　はる　明三三、六生、兵庫、藤原常次長女
君は兵庫縣人射延久吉の二男にして明治三十二年八月二十八日を以て生れ大正六年家督を相續す現時第一銀行員たり家族は尙弟治郎（明三五、七生）妹知惠（同四二、二生）ありA四二三（神戸市神戸區山本通五ノ二七電元町二二〇二）

射場本吉兵衛　酒醬油商　兵庫縣在籍
母　きさ　安政元、六生、愛知、渡邊彌吉長女
妻　とみ　明二四、四生、兵庫、吉川久次郎長女
男　隆造　大一五、一生
女　みね　大五、一一生
君は愛知縣人射場本彌三郎の五男にして明治二十二年七月十五日を以て生る酒醬油商を營む家族は尙三女美代子（大一二、一生）三男隆造（同一五、一生）四女千鶴子（昭三、八生）兄忠兵衛（明一九、七生）姪花子（同四二、七生、亡兄孫三郎庶子）あり叔父久吉（安政二、一二生）同妻マツ（明二、九生、愛媛、士、大江國敎叔母）は分家し兄金平（同二一七、四生）は前記叔父久吉の養子となれりA四二八（大阪市港區四條通二ノ二三一電西一五五）

猪井銀兵衛　地主、兵庫縣在籍
妻　フサ　文久三、八生、兵庫、丹治惣左衛門長女
養子　政七　明一七、八生、長女サヨ夫、兵庫森本平次郎二男
女　サヨ　明一九、九生、養子政七妻
女　ツル　明二三、四生
孫　繁雄　明四二、一一生、養子政七長男

君は兵庫縣人先代銀兵衛の長男にして文久元年三月を以て生れ明治三十一年家督相續と共に前名虎松を改め襲名す現時地主たり家族は尙孫昇（大八、二生、養子政七二男）あり三女チヨ（明二六、一一生）は兵庫縣人前田茂七郎に嫁し四女トメ（同三一、七生）同夫富一（同二九、一生、兵庫、前田小左衛門三男）は分家し弟峯松（同五、七生）は兵庫縣人增田專左衛門の養子となれり（神戸市須磨區天神町三ノ八四電須磨一二五〇）

猪飼九兵衛　丸赤醬油㈱代表取締役、大鐵百貨店㈱專務取締役、播津貯蓄銀行㈱、筆面土地各㈱取締役、日本タンカー㈱監査役、日本放送協會關西支部理事　大阪府在籍
妻　トク　明二一、三生、大阪、貴田治兵衛妹
男　永太郎　明四一、一二生、丸赤醬油會社取締役、關西大學出身
男　釣之助　明四四、四生、關西大學在學
男　和夫　大元、一一生、大阪高商在學
女　本　大五、八生、聖心女學院出身
君は大阪府人猪飼德兵衛の長男にして明治十五年四月を以て生れ先代九兵衛の養子となり同三十五年家督を相續と共に前名九十郎を改め襲名す現時丸赤醬油會社代表取締役大鐵百貨店專務取締役たる外播津貯蓄銀行神國火災保險笹面土地日本タンカー各會社の重役にして日本放送協會關西支部理事たり曩に日清火災海上保險壽生命保險各會社の重役たりしことあり叔母エイ（慶應二、一生）は大阪府人岩本五兵衛の母たりA八八一（西宮市壽町五〇電八六〇）

猪飼史郎　正八位、陸軍一等軍醫、國光製藥各㈱社長、中外護謨㈱取締役、大阪藥學專門學校監事、藥材商、大阪府在籍
母　春江　安政四、一〇生、三重、小林治郎吉養子
妻　フミ　明二一、三生、大阪、益山嘉兵衛妹
女　綾子　明四四、四生
女　佐紀子　大四、五生
君は大阪府人先代史郎の二男にして明治十五年十月を以て生れ同三十四年兄史郎の後を承けて家督を相續し前名公臣を改め襲名す同三十七年金澤醫學專門學校藥學科を卒業し製藥販賣業を營み現時猪飼商事會社の重役にして大阪藥學專門學校監事たり家族は尙兄謙太郎（明一二、一生）あり妹キミ（同一七、一〇生）は山口縣士族中原國之助長男英一に同靜江（同二二、八生）は大阪府人鹽野長次郎に嫁せり（大阪市西區江戸堀南通二ノ二八電土佐堀七九八）

猪飼正一　東邦電力會社員　愛知縣在籍
母　とく　明一三、三生、愛知、近藤吉右衛門三女
妻　とし　明四一、六生、愛知、渡邊久三郎二女
君は大阪府人先代米治郎の長男にして明治三十三年二月を以て生れ同四十四年家督を繼ぎ前名米三郎を改め襲名す同三十七年金澤醫學專門學校藥學科を卒業し現時前記會社の重役滋賀縣信用組合聯合會專務理事たり曩に滋賀縣人石屋劇場中央鐵業各會社監査役に擧げらる家族は尙弟勘三郎（明一四、三生、豫備陸軍一等軍醫）同妻近（同二一、一生、滋賀、榎市次郎三女）は其三子を伴ひ分家せり（滋賀縣滋賀郡伊香立村電五）

猪飼米治郎　メリヤス商　大阪府在籍
母　はる　明一〇、二生、滋賀、吉田いよ二女
妻　とく　明三七、四生、大阪、山本直四郎三女
男　昭一朗　昭三、一一生
君は大阪府人先代米治郎の長男にして明治三十三年二月を以て生れ同四十四年家督を繼ぎ前名米三郎を改め襲名す同三十四年早稻田大學法律科を卒業し現時前記會社の重役滋賀縣信用組合聯合會專務理事たり曩に滋賀縣農工銀行監査役に擧げらる家族は尙孫道夫（昭七、四生、長男昌一長男）あり弟勘三郎（明一四、三生、豫備陸軍一等軍醫）同妻近（同二一、一生、滋賀、榎市次郎三女）は其三子を伴ひ分家せり（滋賀縣滋賀郡伊香立村電五）

猪飼清六　江若鐵道㈱取締役、滋賀縣信用組合聯合會專務理事、滋賀縣在籍
妻　ウタ　明一九、一一生、滋賀、榎綾次郎妹
男　昌一　明三八、一一生、橫濱護謨製造會社員、經濟學士
婦　弘子　明四三、九生、長男昌一妻、滋賀石黑信彥妹
男　醇二　明四二、一二生、古河電氣工業會社員、工學士
女　絢　大二、二生
君は滋賀縣人先代清六の長男にして明治十一年四月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名寅之介を改め襲名す同三十四年早稻田大學法律科を卒業し現時前記會社の重役滋賀縣信用組合聯合會專務理事たり曩に滋賀縣人石屋劇場中央鐵業各會社監査役に擧げらる家族は尙孫道夫（昭七、四生、長男昌一長男）あり弟勘三郎（明一四、三生、豫備陸軍一等軍醫）同妻近（同二一、一生、滋賀、榎市次郎三女）は其三子を伴ひ分家せり（滋賀縣滋賀郡伊香立村電五）

猪熊貞治　從四位勳四等、逓信省貯金局長　神奈川縣在籍
妻　浪　明三一、九生、大阪、士、尾島峰義二女、市岡高女出身
男　貞固　大一二、一〇生
君は神奈川縣人猪熊元之助の弟石井恒夫の兄なり明治十九年九月十日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來營繕貯金局事務官補逓信局副事務官簡易保險局事務官等に歷任し大正十年同局書記官となり監督課長業務課長を經て簡易保險局書記官兼逓信省事務官樺太廳通信事務官簡易保險局監督課長逓信書記官兼逓信監察官大臣官房保健課長簡易保險局理事業務課長等に任補し昭和七年貯金局長に任ぜられ現在に至る家族は尙長女規子（大九、三生、三輪田高官軍事參議官副官練習艦除勞手御大禮觀艦式御召艦榛名各艦長橫須賀海軍人事部長兼橫須賀鎭守府人事長に歷任し後豫備役となり現時攻玉社中學校長同商業學校長として育英の事に從ふ（神奈川縣高座郡藤澤町鵠沼二三八二）

女在學)三女明子(同一四、一〇生)あり(東京市小石川區中富坂町一一電小石川一八〇三)
参照＝猪熊元之助、石井恒夫の項

猪熊元之助

地主　神奈川縣在籍
妻　イソ　明七、一〇生、神奈川、福住九藏養叔母
男　董吉　明三二、八生、東京府農工銀行員
婿　しづ子　明四三、一〇生、長男董吉妻、神奈川、吉川佳五郎五女
男　信二　明三四、一一生
男　泰三　明三七、八生
男　四郎　明三九、一一生、第一生命保險會社員
男　謙吉　明四一、一二生
養子　敏子　明四五、二生、神奈川、增田知藏三女
男　正元　大元、七生

君は神奈川縣人猪熊綱吉の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治三十七年家督を相續す地主にして兼に神奈川縣農工銀行鎌倉銀行の重役たりしことあり家族は尙妹テイ(明一四、七生)あり長女マス(同三〇、八生)は神奈川縣人長谷川健二に妹トヨ(同一六、一二生)は東京府士族五味保に嫁し弟貞治(同一九、九生)は分家し同隆三(同一一、一一生)同妻セイ(同一八、一一生、東京、正木僑三姉)も亦其子女を伴ひ分家し弟保夫(同二三、八生)は東京府人田村岸三の養子となり同恒夫(同二八、一一生)は元川崎市長石井泰助の養子となり當主たり(神奈川縣鎌倉郡川上村鶴戸塚二四)
参照＝猪熊貞治、石井恒夫の項

猪子止戈之助

正三位勳二等、醫學博士、京都帝國大學名譽教授、京都府士族
男　一到　明二四、四生
婿　チヨ　明三〇、一〇生、長男一到妻、石川、士、河合幾次養子

君は兵庫縣士族猪子清の長男にして萬延元年四月を以て生れ明治十六年家督を相續す同十五年東京大學醫學部を卒業し東京府立醫學校一等教諭に任じ爾來京都府立療院長第三高等中學校教授京都帝國大學醫科大學教授等に歷任し後京都帝國大學名譽教授に推され現在に至る兼に醫學博士の學位を授けらる家族は尙孫のぶ(大一一、一二生、長男一到長女)同敏(同一三、一〇生、同二女)同昭(昭三、一生、同三女)同久(同五、六生、同四女)あり長女むめ(明一七、一二生)は醫學博士藤浪鑑に二女婿美(同二一、四生)は工學博士今村新吉に妹にて(文久三、四生)は分家せり(京都市堺町三條上ル電本局二六五一)
参照＝今村新吉、河合幾次、藤浪鑑の項

猪瀬美計

三菱銀行㊟本店計理係長　東京府在籍
妻　巷　明三七、四生、東京、飯塚篤之助三女
男　博　昭二、一生

君は東京府人猪瀬計之助の長男にして明治二十九年十一月二十七日を以て生れ昭和八年家督を相續す先是大正七年早稻田大學商科を卒業して三菱銀行に入り累進して現に經理課計理係長の職に在り家族は尙弟貞雄(明四四、七生)叔母みつ(安政四、五生)あり(東京市下谷區南稻荷町三三電下谷五六三二)

猪田岩藏

滋賀縣多額納稅者、滋賀縣農工銀行㊟頭取、農業、滋賀縣在籍
妻　みを　明七、一生、滋賀、貴族院議員吉田羊次郎妹
男　英三　明三四、一一生、日本電線製造會社員、早大政治經濟學部出身
婿　壽賀子　明四一、七生、三男英三妻、東京、菅原恒豈二女、雙葉高女出身

君は滋賀縣人猪田五兵衛の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十六年家督を相續す農業を營み滋賀縣多額納稅者に列し直接國稅四千七百四十二圓を納む兼に滋賀縣農會長に選ばれ現時滋賀縣農工銀行頭取たり家族は尙孫江平(昭六、九生、三男英三長男)あり長女しげ(明三六、三生、京都女子高等專門學校出身)は滋賀縣人近江信託會社專務取締役上原海老四郎妻子一三に三女節(同三八、二生)出身校同上は兵庫縣人日本ペイント會社長小畑源之助長男禮に四女愛(同四三、七生、彥根高女出身)は三重縣人宮野長次郎長男成一郎に妹ふさ(同二〇、三生)は滋賀縣人大橋太郎兵衛に嫁し姉わゐ(同五、一生)同夫清助(元治元、六生)は其一子を伴ひ分家し弟仁藏(明一三、七生)同妻キヌ(同二〇、五生、滋賀、上原平兵衛長女)も亦共に分家せり(滋賀縣神崎郡北五箇莊村電愛知川六五)
参照＝上原海老四郎、小畑源之助、菅原恒豈※子爵梅園篤彥の項

猪田喜三郎

綿布商　東京府在籍
妻　佳枝　明二一、三生、滋賀、士、米山延次郎長女
男　無一　明四二、五生
養子　末松　明三一、一〇生、長女積夫、滋賀吉岡宇右衛門弟
女　積　明三九、一〇生、養子末松妻
男　仁一　明四五、一生
女　信子　大五、二生
女　俊子　大七、七生
女　南奈子　大八、一一生

君は東京府人先代喜三郎の長男にして明治十二年九月二十五日を以て生れ大正三年家督を相續し前名喜一郎を改め襲名す綿布商を營む家族は尙三男智一(大四、一生)四男四一(同六、四生)五男悟一(同一二、六生)六男陸一(同一四、二生)孫昭三(昭三、三生、養子末松長男)同利祐(同五、二生、同二男)同綉司(同八、八生、同四男)弟喜二郎(明二三、二生)同妻のふ(同三一、一生、滋賀、澤田仁兵衛二女)及其五子女同喜五郎(同三一、三生)同妻すて(同三八、二生、滋賀、中西竹次郎二女)及其二子同喜六郎(同三四、三生)同妻ウヱ(同四〇、一二生、東京、平岡靜三郎長女)及其二女あり妹たね(同一七、五生)は東京府人竹內正一に嫁せりA四七六B八七(東京市日本橋區橋町二ノ六電浪花六六四〇)
参照＝竹內正一の項

猪田尙宏

質商　東京府在籍
祖母　なつ　明一九、七生、東京、山岸重兵衛妹

母　千代　明三九、四生、東京、關谷彌兵衛二女

君は東京府人猪田佐兵衛の長男にして昭和四年二月を以て生れ昭和八年家督を相續す質商を營む家族は尙弟昇(昭六、六生)叔父男佐武(明四四、一〇生)ありA四〇二(東京市芝區新橋四ノ三二ノ一電芝二五五一)

猪野鹿次

正五位勳四等、飯塚市長　福岡縣士族
妻　利　明二一、一一生、福岡、宮川武行二女
男　忠雄　明四二、四生
男　泰雄　明四四、三生
男　耕吉　大二、一生
女　益榮　大四、六生
女　道子　大八、三生

君は福岡縣士族猪野昌の長男にして明治十二年九月七日を以て生れ同十三年家督を相續す夙に官界に入り同三十五年福岡縣屬となり同縣築上郡長同三井郡長筑紫郡長等に歷任し日本赤十字社福岡支部主事となり飯塚町長を經て昭和七年飯塚市長に就任し今日に至る家族は尙四男貼遺(大六、五生)五男隆平(同一〇、一二生)四女秀子(同一二、一生)五女壽子(同一三、六生)六男又太郎(昭三、一生)あり長女八重(明四〇、九生)は福岡縣人飯永茂に姉サヨ(同八、九生)は同縣人伊藤猛松弟巳之吉に嫁せり(飯塚市役所內)

猪野毛利榮

從五位、衆議院議員(福井縣選出)日本大學理事、福井縣在籍
父　利右衛門　安政五、九生、現戶主
母　ヨシ　慶應二、一生、福井、齋藤開作二女
妻　とみ　明二八、三生、福井、長谷川喜平太二女、一生
女　すみ　大三、一生、府立第二高女及青山學院高等科出身
女　利子　大五、一生、淑德高女出身、青山學院高等科在學

君は福井縣人猪野毛利右衛門の長男にして明治十九年一月を以て生る同四十四年日本大學法科を卒業し二六新聞記者顧天中學校教諭日本大學常議員經國社長等に擧げられ現時日本大學理事たり大正十三年以來衆議院議員に當選すること三回に及び現に其の任にあり立憲政友會所屬にして再度院內外幹事に擧げられ鈴木喜三郎政友會總裁に擧げらるゝや總裁祕書を命ぜられ引續き今日に至る兼に司法大臣祕書官內務大臣祕書官に任ぜられ又支那西比利亞及蒙古各地を視察す家族は尙女昌子(大九、三生)四女義子(同一二、三生)五女範子(昭四、九生)あり長女みさを(同三一、八生)は福井縣人松本新之助に二女あり(同三四、七生)は同縣人石塚半に嫁し弟清(同二八、八生)は同縣人久保捨吉に同實(同三七、二生)は兵庫縣人大阪府人加島品三に同登(同四一、一二生)は東京市四谷區北伊賀町二齋藤泰成に各養子となれり(東京市四谷區八電局四谷五三六〇)

猪原敬勝

正五位勳五等、檢事、金澤地方裁判所檢事兼金澤區裁判所檢事　愛媛縣士族
妻　朝香　明三一、三生、岡山、山口義太郎長女
男　勝典　昭三、一一生

君は舊宇和島藩士猪原常四郎の長男にして明治二十年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す同三年東京帝國大學法律學科を卒業し檢事に任じ山口地方裁判所檢事下關區大分地方兼任同區裁判所檢事に歷補し現時金澤地方裁判所檢事兼金澤區裁判所檢事たり家族は尙長女富子(大一一、九生)二女貴子(同一五、一生)三女榮子(昭六、八生)あり姉シゲ(明一八、九生)は愛媛縣立今治高等女學校長桑江夢鳳に嫁せり(金澤市小將町二番丁四電三八一六)

猪原貞雄

湯ヶ原會館㊟取締役、大森ホテル主、旅館業、岡山縣在籍
妻　孝　明二一、一二生、東京、北村宇平長女
男　春雄　明四三、四生、南滿洲鐵道會社員慶大出身
男　義雄　大三、八生、慶大在學
女　百合子　大六、八生、雙葉高女在學

君は岡山縣人猪原光太郎の長男にして明治八年八月を以て生れ大正十年家督を相續す旅館業を營み大森ホテルの經營者にして傍ら前記會社の重役たり謠曲を好み觀世會理事たり家族は尙三男恒雄(大九、七生、慶應義塾菩提部在學)ありA一七〇B一四〇(東京市大森區新井宿二ノ五一五電大森一〇三六・三六六一)

猪原誠之

昭和銀行㊟靜岡縣在籍
養父　德太郎　安政三、一〇生、現戶主
養母　きぬ　文久元、七生、靜岡、士、多田鵬十郎姉
妻　糸　明三六、五生、靜岡、平田藤平四女

君は靜岡縣人神谷常松の三男にして明治三十一年九月を以て生れ大正二年猪原德太郎の養子となる同十一年慶應義塾理財科を卒業し豐國銀行に入りしが同行の昭和銀行に合併せらるゝや昭和銀行に轉じ同行目白買籠町各支店長を經て現時島之內支店長たり家族は尙長女淑(昭四、一生)あり養叔母なを(文久二、四生)は分家せり(兵庫縣武庫郡精道村三條南垣內)

猪間信一郎

正五位勳五等、遞信局書記官、熊本遞信局海軍部長兼門司地方海員審判所長、京都府在籍
父　信義　文久二、八生、現戶主
母　かん　明元、九生、京都、森本太右衛門長女
妻　京　明三一、八生、東京、戶塚環海三女

君は京都府人猪間信義の長男にして明治二十一年十二月を以て生る同四十四年東京高等商業學校を卒業大正三年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業直に遞信局書記となり爾來通信事務官補通信事務官兼地方海員審判所理事官遞信省臨時調査局事務官兼戰時船舶管理局事務官遞信局副事務官兼遞信書記官遞信局事務官兼遞信書記官札幌遞信局海事部長兼函館地方海員審判所長遞信事務官兼任高等商船學校教授等に任補し昭和四年遞信局書記官熊本遞信局海事部長兼門司地方海員審判所長となり今日に至る大正十五年及び昭和二年臺府國際聯盟總會第七回及第八回會議に帝國代表陪員を命ぜられ同二年和蘭に出張し同三年歸朝す家族は尙長女淑子(大九、一生)二女道子

(同一二、一〇生)あり叔母マサ(明三、一生)は京都府人倉橋亮に嫁せり(門司市清見町一ノ二二四八電二一一九〇)
参照‖※小田部胤康の項

猪股洪清

法學博士、明治大學教授、日本觀光協會監事、辯護士、辯理士
東京府在籍
妻　葛吉　明一一、九生、山梨、向井定七二女、山梨高女出身
男　清　明四一、一〇生、法學士

君は山梨縣人猪股清五郎の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十六年明治大學を卒業し辯護士並に辨理士を開業す大正十年司法大臣より破產管財人を命ぜられ同年農商務大臣より辨理士會設立委員に選任され昭和二年司法大臣より强制執行並に競賣に關する法律改正調査委員を命ぜらる傍ら明治大學教授として商法講座を擔任し又日本觀光會社監査役の職にあり大正十三年法學博士の學位を授けられ昭和三年東京辯護士會長に擧げらる「商法研究」「株式會社本質論」「日本商法總論」「會社法講義案」等の著あり弟正清(明二〇、一生、辯護士)同妻まつ江(同二四、一生、山梨、小林盛定二女)は其三女を伴ひ分家せりA二一八〇(東京市京橋區銀座西二ノ三ノ一電京橋一〇六六)

猪股謙二郎

秋田縣在籍
母　ハマ　明二九、一二生、秋田、石田豊三郎三女
妻　ユキ　大九、三生
男　陽三　從五位、衆議院議員(秋田縣選出)
元治元、六生、秋田、金子保長女

君は秋田縣人猪股業三の弟にして明治二十二年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に秋田縣立本荘中學校を卒業し秋田縣石澤村農會長同縣由利郡農會長同種牛馬區長同木炭同業組合長同縣農會議員同縣會議員同縣參事會員同縣由利郡石澤村長同縣畜產組合代議員等の職に就き昭和五年以來衆議院議員に當選すること二回嘗て文部大臣祕書官たり家族は尙三男晃三(大一二、二生)四男純三(同一四、三生)弟修二郎(明二六、七生)同妻ミチ(同二五、一二生、秋田、加賀谷圓右衛門妹)及其子女あり(秋田縣由利郡石澤村)

猪股槇之助

黑羽銀行㊫頭取、下野酒造㊫社長、東野鐵道㊫取締役、帝國造林㊫監査役、栃木縣在籍
妻　ナツ　明八、一生、栃木、植村鉛太郎妹
男　政雄　明三九、五生
女　アキ　明三〇、八生
男　遠　明四一、八生
男　伍郎　明四四、四生

君は栃木縣人猪股三五郎の長男にして明治元年九月を以て生れ同十一年家督を相續す現時黑羽銀行頭取下野酒造會社長の外前記各會社の重役たり家族は尙六男武平(大七、八生)あり三女イト(明三二、一二生)は愛知縣人上杉直吉に妹テツ(同一三、八生)は栃木縣人植竹三右衛門長男熊次郎に叔母ハナ(慶應三、一二生)は同縣人君島五郎に同ハナ(明五、四生)は同縣人阿久津寅之助に嫁し弟喜三郎(同一〇、六生)は分家せり(栃木縣那須郡川西町)
参照‖梳竹熊次郎、君島五郎の項

猪股孫八

小樽商工會議所常議員、小樽取引所理事、倉庫業、北海道在籍
妻　キヨ　明三一年一月二十五日を以て生る夙に小樽高等商業學校を卒業し現に小樽商工會議所常議員小樽取引所理事にして倉庫業を營み赤ローダリークラブ會員たり(小樽市山上町一四電一八九、一九九)

猪俣一郎

正五位、前臺灣總督府事務官
福岡縣在籍
母　トキ　明七年生
妻　幸子　明三八年生、東京、後藤和佐二長女

君は新潟縣人猪俣爲治の長男にして明治三十二年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す先是同十年文官高等試驗に合格し同十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す臺灣總督府地方警視に任じ臺中州警務部警務課長となり更に同府事務官に任じ警務局理蕃課長臺中州警察部長警林所庶務課長殖產局特產課長農務課長等に歷補し昭和九年退職す(福岡市平尾三九三)

猪俣治六

從四位勳三等、檢事、福岡地方裁判所檢事正、群馬縣在籍
妻　みさ　安政五、四生
躬室　明二〇、七生、埼玉、山田嘉十郎長女
男　勝人　明四四、六生
女　淑子　大三、五生

君は新潟縣人吉川忠作の長男にして明治十四年七月を以て生れ同三十年猪俣七次郎の養子となり後家督を相續す同三十六年東京法學院を卒業し翌三十七年判檢事登用試驗に合格司法官試補となり同三十九年檢事に任じ土浦區裁判所檢事に補せらる爾來東京區東同地方長野地方同區各裁判所東京控訴院檢事東京區裁判所上席檢事兼同地方裁判所檢事千葉新潟各地方裁判所檢事正を經て昭和五年福岡地方裁判所檢事正となり今日に至る家族は尙三男三郎(大六、八生)三女孝子(同九、一一生)四女幸子(同一三、三生)あり(福岡市土手町三官舍電三〇三)

猪俣昌滅(ヨシ)

從五位勳三等、ジャパン・ツーリスト・ビューロー囑託
神奈川縣在籍
養母　とみ　慶應元、七生、兵庫、大野肅清長女
男　昌彦　大五、六生

君は東京府人浦川篤の三男にして明治二十年三月を以て生れ先代昌武の養子となり大正八年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學機械工學科を卒業し鐵道院技手同技師を經て大正九年鐵道技師に任じ經理局兼工作局勤務に補せられ同十一年米國に出張し復興局囑託となり昭和三年歐米出張を兼ねジュネーヴ第十一回國際勞働會議政府代表隨員を命ぜらる養に工作局工場課勤務たりしも昭和六年退官しジャパン・ツーリスト・ビューロー囑託となり紐育に在勤す家族は尙二女千枝(大一一、五生)あり長女美枝(大元、一一生)は東京府人高橋辰次郎二男武二に嫁せり(留守宅)横濱市神奈川區松ケ丘町七九電本局四二五〇)
参照‖高橋辰次郎の項

猪俣真造

都市住宅㊫代表取締役、キノマタ商店、貿易商、東京府在籍

繼母　しつ　明元、一生、東京、小島九兵衛養妹
妻　マツ　明二五、一一生、北海道、中川喜三郎三女
男　興一　大六、一二生

當家は往昔武藏七黨として知られたる猪俣黨の後裔に當り中祖は相州金目村に出づ夙に江戸に出で諸大名の口入元締の御用を營む先代吉平砲兵工廠御用達選信省御用達を始め次で印刷業に從事し後貿易商を營み二葉屋商店を經營し又都市住宅會社代表取締役たり君は其長男にして猪俣泰作の養弟なり明治十八年三月十九日を以て生れ昭和七年家督を相續す先是米國ブラウン大學を卒業し現時貿易商サノマタ商店を經營し又都市住宅會社代表取締役たり家族は尙亡弟守治妻美知(明二九、六生、東京、桑原信雄二女)及其子女弟四郎(同三九、二生)同謙造(同四〇、四生)同六郎(同四二、一生)あり姉政子(同一五、七生)は分家養子泰作に妹愛子(同一九、四生)は理學博士谷津直秀(同三四、三生、聖心女子學院出身)は神奈川縣人清水彌三松長男豐太郎に同美江(同三五、九生、出身校同上)は東京府人井上克巳弟敏夫に同香代(同三七、四生、出身校同上)は同府人小泉吉道に嫁せりA三三二(東京市四谷區元町六四電四谷四三三八)
参照‖井上克巳、猪俣泰作、谷津直秀の項

猪俣泰作

二葉屋㊫取締役社長
東京府在籍
妻　政子　明一五、七生、養父吉平三女
男　秀一　明三〇、一〇生、二葉屋㊫取締役
青山學院高等科出身、長男秀一妻、靜岡、露木聰三二女
婿　久　明三八、一一生、
男　讓二　大二、一二生
女　緣　大四、一生、雙葉高女出身
妙　大八、九生

君は大分縣人南一郎平の三男にして同英一の伯父猪俣眞造の養兄なり明治四年五月二十二日を以て生れ東京府人猪俣吉平の養子となり同三十九年分れて一家を創立す先是京都同志社及早稻田大學卒業後養父吉平創立の二葉屋商店に入り合資組織となるや業務執行社員となり更に株式組織に變更するに及び常務取締役に就任し後養父吉平の後を襲ひ同社長となりて專ら同社の經營に任ず明治三十四年以來歐米を巡遊する事前後六回に及ぶ家族は尙三男隆信(大六、一〇生)孫光子(昭二、一一生、長男秀一長女)同篤子(同五、一二生、同二女)あり長女滿(明三二、三生、御茶の水高女出身)は第八高等學校教授理學士横濱取引所支配人法學士石川助五郎に二女綾(同三四、三生、聖心女子學院出身)は神奈川縣人清水彌三郎二〇生、佛英和高女出身)は第八高等學校教授理學士河野卯三郎に三女百合(同三七、一〇生、雙葉高女出身)は神奈川縣人辯護士法學士山田盛に四女恭(同四〇生、出身校同上)は同縣人石川清右衛門五男工學士四生、出身校同上)は同縣人石川清右衛門五男工學士文壽に五女章(同四四、二生、出身校同上)は尋川縣人玉置常太郎二男實に嫁せり(東京市四谷區東信濃町一〇電長四谷五四八九)
参照‖猪俣眞造、石川助五郎、石川清右衛門、南英一‖※井上克巳‖※佐々木清磨‖※谷津直秀の項

猪俣安造

樟太銀行、板谷商船㊫監査役、漁業、北海道在籍
妻　たつ　明二〇、五生、貴族院議員板谷宮吉妹
男　安之丞　明四四、二生
女　美惠　明四二、六生

君は北海道人猪俣榮吉の長男にして明治十八年八月を以て生れ同三十四年祖父安之丞の後を承け家督を相續す漁業を營み傍ら前記銀行會社の重役に擧げらる養に北海道多額納稅者たり妹キノ(明二二、五生)は分家せり(北海道余市郡余市町)
参照‖板谷宮吉‖※板谷順助の項

猪村鎌吉

愛知縣莫大小同業組合長、莫大小製造卸商、愛知縣在籍
妻　ふみ　明一二、八生、愛知、今村房次郎三女
男　清一　明四〇、一生
女　とき　明三七、一〇生
男　英三　大三、八生

君は愛知縣人猪村平七の長男にして明治七年四月を以て生れ同二十二年家督を相續す莫大小卸商を營み現時愛知縣莫大小組合長たり蘭に名古屋商工會議所議員に擧げられ農商貯蓄銀行愛知農商銀行昭和硫產鈴木魚問屋等の重役たりしことあり家族は尙女愛子(昭四、九生)弟光之助(明一六、二生)同妻かつ(同二五、五生、愛知、織田とり二女)及其子女あり長女ひで(同三一、一〇生)は同夫英二(同二四、六生、愛知、竹內穗十郎二男)と共に分家す次女すゑ子(同四二、八生)は愛知縣人竹內政次弟醫學博士信行に嫁せり(名古屋市南區熱田中瀨町一一八電南二〇四〇)

鑄谷正輔

川崎造船所㊫專務取締役、川崎汽船、靜狩金山、寶野ゴルフ倶樂部各㊫取締役、川崎車輛、オリエンタルホテル各㊫監査役、山下汽船㊫相談役、山口縣在籍
妻　正　明治二四、四生、東京、佐藤正藏長女
女　夫佐子　大五、二生
女　睦子　大六、三生

君は山口縣人鑄谷彌太郎の長男にして明治十三年三月を以て生れ大正二年家督を相續す現時川崎造船所專務取締役の外前記各會社の重役たり養に北海道鐵業會社長福島炭礦會社專務取締役內外編物會社相談役等に擧げらる妹ユキ(明二七、三生)は分家せりA五七二(神戸市神戸區山本通四ノ一一一電長甚合三一五〇)

飯井政太郎

家主
兵庫縣在籍
妻　さき　明三〇、八生、兵庫、飯井佐吉四女
男　哲雄　大二、四生
女　清子　大六、一二生

君は京都府人森川利兵衛の弟にして明治十五年九月十八日を以て生れ大正三年飯井つやの入夫となり家督を相續す家族は尙四男昇造(大四、一二生)二女富美代(大一〇、九生)五男政博(昭六、一〇生)ありA五一一(尼ケ崎市別所村)

飯泉鈴吉

地主
東京府在籍
妻　テツ　明一五、九生、東京、野村鎌吉長女
男　政雄　明三七、六生
婿　田鶴　明四二、五生、長男政雄妻、東京高橋傳右衛門二女

男　光雄　大元、一二生
男　敬次郎　大三、一二生
女　トキ　大六、二生

君は東京府人飯泉由五郎の三男にして明治十一年九月十四日を以て生れ大正七年家督を相續す地主たり家族は尙孫晴彬(昭九、二生)あり二男榮吉(明三九、一二生)三男定雄(同四三、九生)は分家し長女きよ(同四一八生)は東京府人君島爲吉長男敬太郎に餘せりA三一九(東京市荏原區戸越三九一)

飯泉幹太

不二興業㈱常任監査役
東京府在籍

妻　ヤス　明一五、四生、香川、三宅繁造長女
男　一郎　明四一、四生
男　三郎　大三、一生

君は東京府人飯泉傳一の三男にして明治六年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學法科大學を卒業し朝鮮銀行に入り逐次累進して國庫課長兼秘書役となり人事部長を兼任す現時不二興業會社常任監査役たり家族は尙三男五郎(大六、九生)庶子七郎(同一二、一生、生母、香川、齋藤シゲ)あり兄康郎(元治元、八生)は其一女を伴ひ分家し長女玉江(明三四、七生)は靜岡縣人小栗捨藏に二女富美(同三五、一〇生)は大分縣人堤永市養弟正元に四女喜美(同三八、九生)は千葉縣人藤江恒藏長男信に五女壽々枝(同四〇三生)は大阪府人多賀秀敏弟秀孝に六女南美(同四三、二生)は茨城縣人飯島かう養子政義に嫁よし(同二六、九生)は東京府人河野通隆に嫁し庶子壽美(大一四、一生)は其生母香川縣人齋藤シゲの養子となれり(京城府惠化洞七一)

參照＝多賀秀敏の項

飯尾一二

同興紡織㈱社長、杉村倉庫㈱監査役、奈良縣士族

父　明央　嘉永二、九生、奈良、士、平尾正磨二男
妻　イヲ　明一〇、三生、奈良、士、青木政一郎長女

君は大阪府士族飯尾明央の長男にして明治四年一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治二十年大阪高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり蘊に大阪合同紡績會社專務取締役大阪商工會議所議員に擧げらる家族は尙弟精一(明一五、一二生)同妻キク(同二〇、二生、奈良、士、青木賢吾妹)及其子女あり妹ユキ(同一〇、一生)は大阪府人爾井豊次郎に同マス(同一二、五生)は前記青木賢吾に嫁せり(奈良縣生駒郡郡山町電二〇六)

飯尾次郎三郎

婿　菊榮
孫　秀一
男　外具五郎　明四三、六生
女　可親　大五、一生
男　雄六郎　大三、九生

君は石川縣士族飯尾次郎松の長男にして明治三年五月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時尾小屋水力電氣會社長たる外前記諸會社の重役たり蘊に帝國結束會社專務取締役金澤市會議員同參事會員金澤市助役同市長金澤商業會議所特別議員たりし事あり家族は尙七男金七郎(大八、一一生)あり長女しづ(明三六、二生)は石川縣人駒井象吉に二女操(同四一、三生)は同縣人柚木重三に三女俊子(大元、二二生)は字佐見秀太郎弟富壽に妹豊(明一〇、六生)は同縣人彌村多三郎に同しげ(同一六、一生)は同縣人井上三次郎三男與次郎に同薫(同二一、一一生)は同縣人加藤千代松に嫁し三男龍三郎(同三三、九生)は同妻きよ(同三七、八生、東京、根岸光邦姉)と共に其一子を伴ひ弟次三郎(同八、二生)は同妻篤(同二一、八生、石川、士、山本重太郎三女)と共に其子女を伴ひ各分家し同松太郎(同一二、一生)も亦分家せり(金澤市下本多町三番丁三ノ二電二四七)

參照＝宇佐見秀太郎の項

飯國重之助

出雲製鐵㈱取締役、アカシヤ、樂器商、島根縣在籍

妻　富貴子　明三二、一一生、岡山、矢野浪治孫
男　敏夫　大一五、一二生

君は島根縣人先代德三郎の三男にして明治二十一年十二月を以て生る大正六年京都帝國大學法科大學を卒業しアカシヤと稱し樂器商を營み傍ら前記會社の重役たり蘊に興國物產會社專務取締役たりしことあり家族は尙長女貴世子(大九、一生)二女美世子(同一二、六生)三女登世子(同一四、一生)兄善市(明六、一生、現戸主)同妻キノ(同一二、三生、島根、吉田民藏長女)及其養子あり同恒市(同一五、三生)同妻キクノ(同二一、二生、島根、原友市孫)は其二子を伴ひ分家せり(大阪市東區安土町三ノ一四電本町五七四)

飯倉清右衛門

酒造業
千葉縣在籍

妻　とみ　明五、一〇生、茨城、松田福太郎妹
男　孟夫　明二五、九生
婦　とじ　明三〇、一〇生、長男孟夫妻、千葉、山本八三郎長女
男　節榮　明三二、五生

君は千葉縣人先代清右衛門の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治七年家督を相續し襲名す酒造業を營み蘊に千葉縣多額納稅者たり家族は尙孫衛(大一五、一生、長男孟夫二男)あり長女くら(明二一、一〇生)は千葉縣人實業家宇井孝三に三女から(同三〇、四生)は同縣人豊田米吉長男篤之助に嫁し二男憲亮(同二七、一〇生)同妻あさ(同三四、六生、千葉、諏訪寛妹)は其二子を伴ひ分家せり(千葉縣匝瑳郡共和村)

參照＝宇井孝三の項

飯倉文甫

正四位勳三等、朝鮮總督府遞信局技師、工務課長、千葉縣在籍

妻　ヒロ　明二〇、四生、新潟、相澤敏太郎二女
男　昭一郎　昭二、一二生
女　田鶴子　明四五、三生
女　倫子　大三、八生

君は千葉縣人飯倉都太郎の二男にして明治十七年一月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し通信技師兼遞信管理局技師遞信局技師兼臨時電信電話建設局技師に歷任

其間札幌遞信管理局工務部電話課長臨時電信電話建設局大阪出張所市外線路課長等を經て大正十一年朝鮮總督府遞信局技師に任じ現時工務課長たり昭和二年歐米各國に出張す家族は尙三女せつ子(大一〇、六生)四女ケイ(同一四、二生)あり妹愛(明二八、一生)は東京府人工藤得三に同菊(同三二、九生)は千葉縣人小久保用之助長男利一郎に同ひさ(同三八、四生)は靜岡縣人片山靜市三男國孝に嫁し弟貞造(同九、一一生)は千葉縣人飯倉庄左衛門の死跡を相續せり(京城府大和町三丁目遞信局官舍)

飯倉平兵衛

富山縣賣藥同業組合組長、深澤漁業、國際製藥各㈱取締役
富山縣在籍

養母　モト　安政元、一生、富山、伊藤國藏長女
妻　ちか　明二五、九生、富山、稻垣利直長女
男　近平　大六、一生

君は富山縣人野村長右衛門の二男にして明治九年十月を以て生れ先代平兵衛の養子となり同四十四年家督を相續し前名龜次郎を改め襲名す現時富山賣藥同業組合長にして前記各會社の重役たり大正八年富山縣會議員に當選し昭和三年富山縣會議長として御大典の際御賜饌の榮に浴す同四年國際製藥會社の臺國支店設置の用を帶びて臺國及び北米合衆國を巡遊し歸朝す弟保(明二九、四生、金澤醫大出身)同妻綾(同三三、九生富山、馬場象次郎二女)は其一子を伴ひ分家せり(富山縣上新川郡大廣田村)

參照＝野村長右衛門淡酒井喜一の項

飯澤高

正五位勳五等、檢事、東京控訴院檢事、宮城縣士族

母　てふ　安政三、一二生、宮城、和田織部長女
妻　みさ　明三二、三生、宮城、鈴木富太郎三女、白石高女出身
男　進　大一二、二生

君は宮城縣士族飯澤亨の二男にして明治二十三年一月十六日を以て生れ大正三年兄復二の後を承け家督を相續す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任じ大阪地方兼同區綱島地方兼同區米澤區秋田地方兼同區宇都宮地方兼同區横濱地方各裁判所檢事に歷補し昭和六年現職東京控訴院檢事に轉ず讀書を趣味とす家族は尙長女なみ子(大一五、八生)二女おき子(昭六、八生)あり(東京市本郷區向ヶ岡彌生町三ほ一ノ二〇)

參照＝※鈴木菊藏の項

飯島永太郎

田中鐵藥㈱社員
東京府在籍

妻　ヨネ　明一一、一生、北海道、米山市松二女
男　永一　明三七、一生
婦　友　明四三、一一生、長男永一妻、靜岡、高島孝之助妹
男　高島孝之助の弟にして明治八年十一月二十日を以て生れ同十七年家督を相續す夙に實產家として顯はる家族は尙孫町子(昭五、七生、長男永一長女)同爵子(同七、八生、同二女)あり二男永彌(明三九、三生)は同妻すみ(同四四、一生、靜岡高林兵衛妹)と共に分家し三男永三(同四二、一二生)は米山勝美の家跡を相續し養子久子(同三四、一生、東京市麻布區市兵衛町二ノ五六)は其二子を伴ひ分家せりA三三三

飯島勝

富士電氣機械製造會社員、工學士
東京府在籍

妻　榮子　明八、七生、山口、遊佐義亮二女
男　玲子　明四三、九生、東京、肥田晉市二女

君は北海道人飯島字八の二男同千代彌の弟にして明治八年十一月二十日を以て生れ同十七年家督を相續す夙に實產家として顯はる家族は尙孫町子(昭五、七生、長男永一妻、靜岡、高島孝之助妹)同爵子(同七、八生、同二女)あり二男永彌(明三九、三生)は同妻すみ(同四四、一生、靜岡高林兵衛妹)と共に分家し三男永三(同四二、一二生)は米山勝美の家跡を相續し養子久子(同三四、一生、東京市麻布區市兵衛町二ノ五六)

飯島勝藏

章文社、印刷業
東京府在籍

妻　さと　明二九、八生、千葉、小沼清一郎妹
男　平造　大四、三生

君は東京府人先代純介の二男にして明治三十六年九月三十日を以て生れ昭和六年家督を相續す昭和二年東京帝國大學工學部機械科を卒業し現時前記會社員たり家族は尙弟博(明四〇、一〇生、商工省勤務、工學士)同正(大元、八生)あり姉靖子(明三一、四生、聖心女子學院出身)は和歌山縣人久間保一に嫁せり(東京市品川區北品川六ノ三四五電高輪三五)

飯島勝

富士電氣機械製造會社員、工學士
東京府在籍

妻　榮子　明八、七生、山口、遊佐義亮二女
男　玲子　明四三、九生、東京、肥田晉市二女

君は東京府人先代純介の二男にして明治三十六年九月三十日を以て生れ昭和六年家督を相續す昭和二年東京帝國大學工學部機械科を卒業し現時前記會社員たり家族は尙弟博(明四〇、一〇生、商工省勤務、工學士)同正(大元、八生)あり姉靖子(明三一、四生、聖心女子學院出身)は和歌山縣人久間保一に嫁せり(東京市品川區北品川六ノ三四五電高輪三五)

飯島幸吉

天麩羅料理業
東京府在籍

妻　みち　明三五、五生、東京、別府倉吉六女
男　幸雄　大一五、八生

君は埼玉縣人飯島保五郎の二男にして明治十九年五月四日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す天麩羅料理業を營む家族は尙二女矣子(大一三、一〇生)養子秀雄(大六、七生、東京、石川春吉二男)三女伊都子(昭三、九生)四女禮子(同五、八生)五女多美江(同八七生)ありA三四〇B一九一(東京市淺草區田原町二ノ一一電淺草三七七四)

飯島茂

正四位勳二等功三級、陸軍々醫總監、東京府在籍

妻　いく　明二三、一二生、東京、故久保田安太郎二女
男　豊男　大六、九生
女　睦子　大三、二生、共立女子專門學校出身

君は山梨縣人飯島邦寧の長男にして明治元年七月十二日を以て生れ昭和六年長男精一方より分れて一家を創立す明治二十一年千葉縣立醫學校を卒業し同二十七年陸軍三等軍醫に任じ日清日露日獨の各戰役に從ひ大正十三年陸軍々醫總監に陞進す其間第六第二各師團軍醫部々長第三師團野戰病院長横須賀名古屋各衛戍病院長第十八第十五各師團軍醫部長陸軍省醫務局醫事課長關東軍々醫長陸軍々醫學校長等に歷補し同十五年豫備役編入仰付けらる家族は尙四男誠(大八、一〇生)八女順子(同一三、六生)あり五女富美(明四四、一〇生、實踐女學校出身)は東京府士族陸軍二等軍醫鈴木弘治に嫁せり(東京市世田谷區深澤町四ノ一四五電四谷二四四二)

飯島島太郎　上田温泉電軌、若林醸造各㈱取締役、長野縣在籍

妻　かつ　明一九、六生、長野、佐藤杏六二女

男　杏榮　明四三、九生

女　益惠　大元、九生

　　惠子　明四五、六生、長野、平林與惣次姪

養子　梅子　大五、九生、長野、平林與惣次姪

養子　かほる

君は長野縣人飯島猪作の三男にして明治十五年十一月を以て生れ大正十一年兄榮作の後を承け家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚三男喜八郎（大六四生）二女富貴子（同八、七生）三女千鶴子（同一〇、七生）四女千惠子（同一三、一〇生）四男久生（同一五、九生）五女八千代（昭四、二生）亡兄榮作妻しう（明九、三生、長野、佐藤杏六長女）あり（長野縣小縣郡川邊村）

飯島正一　長野縣多額納税者、八十二銀行㈱常務取締役、信濃電氣、梓川電力各㈱取締役、越窒素肥料㈱監査役、長野縣在籍

母　すて　元治元、一〇生、長野、士、藤田蟲尾姉

妻　かう　明二八、一生、長野、上條信妹

　　庶子　正久　大一四、九生、生母、長野、飯島トラ

君は長野縣人飯島正治の長男にして明治二十一年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十四年早稲田大學商科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして直接國税五百九十四圓を納め長野縣多額納税者たり家族は尚庶子愛子（大一一、一一生、生母、長野、飯島トラ）同忠子（同一三、一生、生母同上）あり妻妹ふき（明二八、七生）は東京府人中澤義一に嫁せり（長野市妻科一一一四）

参照＝淡丸山盛雄の項

飯島象太郎　正五位勳六等、第五高等學校教授、茨城縣在籍

父　重威　明二、九生、現戸主

母　ふみ　明元、三生、茨城、折笠賞之助二女

妻　リエ　明二四、七生、熊本、士、本田亦彦妹

君は茨城縣人飯島重威の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ大正六年京都帝國大學文科大學哲學科を卒業し八尾中學校教諭を經て第五高等學校教授に任じ今日に至る家族は尚長女ゆき（大一〇、一生）二男恒次郎（同一二、三生）三男陽三（昭二、五生）弟重雄（明四二、三生）妹德（大四、九生）及亡叔父剛毅の二子あり（熊本市黒髪町）

飯島新三郎　上田商工會議所議員、上田瓦斯㈱取締役、長野縣在籍

妻　まつじ　明一八、七生、長野、磯貝啓治三女

男　忠雄　明四一、三生

女　ひさ　明四三、二生

男　春三　明四五、三生

君は長野縣人飯島才治の二男にして明治十二年十二月を以て生れ同二十九年兄定治郎方より分れて一家を創立す現時上田瓦斯會社取締役たり養に上田商工會議所常議員に推されたる事あり家族は尚三男安雄（大四、四生）四男榮次（同六、二生）二女千惠子（同一三、八生）あり姉いち（明九、一一生）は群馬縣人市川源五郎に嫁し弟一二（同一八、一生）榮弟藤治郎（同二八、九生、長野、池田藤助二女）同三七、一生、長野、池田藤作二男）同妻美都（同三七、一生、長野、池田藤助二女）は各其子女を伴ひ分家し弟保三郎（同一五、六生）も亦分家し長女ひさ（同四三、二生）は東京府人本井健吉長男功に嫁せり（上田市松尾町電二六〇）

参照＝本井健吉の項

飯島忠夫　正四位勳三等、文學博士、學習院教授、國學院大學教授、長野縣士族

妻　瑞穂　明二六、四生、高知、士、宮地直一妹

男　和夫　明三八、一一生、慶大經濟學部出身

婿　はつ　大二、二生、長男和夫妻、東京、東福寺正雄長女

男　恒夫　明四二、一生、理學士

男　治夫　明四四、一〇生、第一高等學校理科出身

君は長野縣士族飯島勝名の長男にして明治八年二月を以て生れ同十二年家督を相續す養に學習院中等科長たりしが現時同院教授にして國學院大學教授を兼ぬ家族は尚四男文夫（大四、一生、北海道帝大工學部豫科在學）孫孝夫（昭九、四生、長男和夫長男）あり長女まさ（明三二、九生）は長野縣士族窪田潔に二女ふみ（同三四、一二生）は愛知縣士族石井清彦に嫁せり（東京市小石川區高田豊川町三七）

参照＝宮地直一※宮地數千木の項

飯島常嘉　神奈川縣多額納税者、成和商會㈱社長、神奈川縣在籍

妻　フサ　明一六、四生、東京、吉田寡助二女

男　保之助　大六、四生

君は滋賀縣人飯島榮助の長男にして明治十二年三月を以て生れ同十八年家督を相續し前名榮太郎を改む現時成和商會社長にして神奈川縣多額納税者に列し直接國税千十三圓を納む家族は尚四男鷗（大九、四生）あり長女君（明四二、一二生）は神奈川縣人飯島多勢の養子となり養子こう（同四〇、一生、東京、橋本助次郎長女）は其一女を伴ひ分家せり（横濱市磯子區磯子町一六八七電長者町五〇二七）

飯島幡司　大阪朝日新聞論説委員、兵庫縣在籍

妻　正代　明三〇、六生、東京、日比野正路姉

男　一秋　大四、九生

君は大阪府人飯島稅の養子にして明治二十一年五月を以て生れ同三十八年兄佃太郎の後を受け家督を相續す大正二年東京高等商業學校專攻部を卒業し神戸商科大學教授となる現時大阪朝日新聞論説委員にして養に海洋社代表取締役大阪鐵工所專務取締役日本汽船會社常務取締役横濱鐵工所取締役等に擧げらる「經濟學原論」「金融經濟講義」等の著述あり家族は尚二女糸子（大一二、三生）三女華子（同一五、二生）あり㈱三四四（西宮市外夙川雲井橋北電西宮一二一五）

飯島道脩　從五位勳六等、第七高等學校造士館教授、東京府士族

母　わか　安政六、一一生、東京、酒巻興徹長女

妻　マサ　明二六、二生、靜岡、三浦渡世平四女

男　明郎　大一二、一生

女　和　大七、一二生、鹿兒島縣立第二高女在學

君は東京府士族飯島貞菴の長男にして酒巻芳男の弟なり明治十六年六月七日を以て生れ同三十年家督を相續す同三十七年東京外國語學校獨語本科を卒業し陸軍教授に任ぜらる大正十一年富山藥學專門學校教授に轉じ現時第七高等學校造士館教授たり昭和三年獨國に留學す家族は尚二女光（大九、一二生）二男哲郎（昭六、一生）三男中郎（同九、四生）あり妹友枝（明二七、一生）は鹿兒島縣人太田直に叔母光澤（元治元、九生）は東京府人平塚定二郎に嫁せり（鹿兒島市長田町一五五）

参照＝酒巻芳男、平塚定二郎の項

飯島光　大日本麥酒㈱吾妻橋工場長、愛知縣在籍

妻　ツギ　明一九、三生、東京、田村岩次郎妹

男　秀雄　大四、三生

君は埼玉縣人飯島熊藏の二男にして明治十三年九月を以て生れ大正十三年兄英三方より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直ちに大日本麥酒會社に入社同四十三年獨逸に留學ベルリン醸造試驗場にて麥酒醸造業を研究す大正二年歸朝し大日本麥酒會社名古屋工場長を經て現時吾妻橋工場長たり㈱四三〇（東京市本所區向島須崎町一七九電墨田二〇七七）

参照＝※樂原帝藏の項

飯島元太郎　東野鐵道㈱取締役、東亞耐火工業㈱取締役、栃木縣在籍

妻　イクノ　明三三、五生

男　榮二　明四一、一二生

才吉　明四一、一二生

君は栃木縣人飯島元兵衛の長男にして明治七年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時前記各會社の重役にして養に東野鐵道會社當務取締役たりしことあり家族は尚孫喬太郎（大一二、一生、長男榮二長男）あり妹榮ヤイ（明三〇、一二生）は栃木縣人興野信隆に嫁し弟元次郎（同七、七生）同妻キン（同一二、八生、栃木増田新七妹同德之助（同一一、三生）同妻ミヲ（同一八、四生、栃木、松本德太郎二女）は其子女を伴ひ分家し姉カネ（同五、六生）も亦分家せり（栃木縣那須郡川西町）

参照＝増田新七※増田力松の項

飯田愛三　質商、大阪府在籍

妻　カヨ　明二一、三生、奈良、福尾平一郎妹

男　平太郎　明四五、二生

女　道子　大二、一〇生

君は大阪府人飯田平三郎の長男にして明治十八年二月七日を以て生れ同四十年家督を相續す質商を營む家族は尚二男亮三（大六、三生）あり弟昌治（明二四、四生）は分家せり㈱五九二（大阪市西區松島町一ノ二七電西二〇九六）

飯田延太郎　從三位勳二等功四級、海軍中將、東京府在籍

父　竹次　嘉永元、一〇生

妻　スヾ　長女、東京、山本保次郎

君は德島縣人飯田竹次の長男にして明治八年二月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間海軍大學校を卒業し樹來海軍教育本部々員兼海軍大學校教官第二課逐隊司令海軍教育本部出仕英國駐在薩摩筑紫摩耆妻艦島長門各艦長軍令部出仕佐世保防備隊司令第二水雷戰隊司令官水雷學校長馬公要港部司令官海軍々令部出仕肇鶴要港部司令官佐世保鎮守府司令長官第二艦隊司令長官等に歷補し昭和六年三月豫備役に編入せらる長女マヌ子（明一六、四生、愛媛、平田國長女）あり（東京市大森區北千束町六二六電蒲原二二一八）

飯田延太郎　從三位勳二等功四級、東京府在籍

妻　とり　明二五、六生

君は千葉縣人飯田由藏の三男にして明治二十二年三月二十九日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す笹屋と稱し白米商を營む㈱三二四B九五（東京市向島區吾嬬町東一ノ八八電墨田三二四）

妻　ちよ　明二一、一一生、東京、加治嘉太郎妹

男　久一郎　明四二、九生、有隣生命保險㈱取締役、南滿洲太興㈱社員、法學士

男　延二郎　明四四、四生、經濟學士

君は羅岡縣人飯田久助の長男にして明治六年五月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十一年中央大學を卒業し翌三十二年辯護士試驗に合格し原嘉道法律事務所に入り後獨立開業す同四十三年辯護士を廢業して玄洋社に入り政界及鑛山に關係し同四十四年北海道炭山を三井鑛山會社に次で大正四年美唄炭山を三菱合名會社に各賣却して巨利を博し實業界に入り現時北海道採炭中日實業各會社の監査役にして南滿洲太興會社代表取締役たり養に有隣生命保險會社社長たりし事ありA八三一三（東京市麹町區三番町九電九段二〇九）

飯田晉吉　笹屋、白米商、東京府在籍

妻　とり　明二五、六生

君は千葉縣人飯田由藏の三男にして明治二十二年三月二十九日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す笹屋と稱し白米商を營むA三二四B九五（東京市向島區吾嬬町東一ノ八八電墨田三二四）

飯田嘉六　正五位勳六等、遞信技師兼遞信局技師、農林技師、靜岡縣在籍

父　庸雄　安政四、三生

母　さと　安政六、二生、靜岡、竹村茂正長女

妻　壽賀子　明三〇、一一生、靜岡、賀茂殿雄二女

君は靜岡縣人飯田庸雄の六男にして明治二十五年二月二十二日を以て生る大正五年東京帝國大學工科大學船用機關學科を卒業し神戸製鋼所に入社し同七年横濱船渠會社に轉ず同十年之を辭し遞信局技師に任じ東京遞信局に勤務し次で遞信技師兼遞信局技師となり管船局勤務を命ぜられ昭和八年更に農林技師を兼任し水產局に勤務し今日に至る養に商船學校教授を兼ぬ家族は尚兄完雄（明九、八生、現戸主）同妻みよ（同一六、一二生、農學博士、大獄了姉）及其子女兄英作（同一一、九生、聖路加國際病院皮膚科長）同妻毬（同二二、四生、東京、後藤昌平姉）及其子女あり姪琴代（同三八、一一生、東京、加治嘉太郎次男、南滿洲太興㈱社員、法學士）

生、兄充雄長女）は東京府人尾崎康一に嫁せり（東京市目黒區大岡山七八電碑原三〇一一）

飯田覺兵衛　金融業　大阪府在籍

妻　ならへ　明一二、四生、養父覺兵衛三女
男　彌次郎　明三八、一二生
婦　ヒナヲ　明四二、三生、二男彌次郎妻、大阪、藍田彦晴姉
男　覺三　大元、一〇生
女　ウノ　大四、一一生

君は大阪府人吉田清兵衛の三男にして明治十一年九月二十日を以て生れ同三十五年先代覺兵衛の養子となり大正六年家督を相續し前名實造を改め襲名す現時金融業を營む家族は尙孫博子（昭三、一一生、同二男彌次郎長女）同八重子（同七、五生、同二女）ありA五九八（大阪市南區鍛冶屋町七電南六三二七）

飯田喜六　醬麩粉製造業　東京府在籍

妻　くら　明二〇、五生、東京、鈴木林之助四女
男　榮二郎　大二、一一生
女　正子　大七、一生

君は東京府人飯田又右衛門の三男にして明治十八年十一月四日を以て生れ昭和三年兄又右衛門方より分れて一家を創立す醬麩粉製造業を營む家族は尙二男貞五郎（大九、六生）二女チヱ（同一〇、六生）三男八郎（昭三、三生）ありA五〇〇B二〇四（東京市中野區本町通三ノ三六電四谷八七三）

參照‖飯田又右衛門の項

飯田金治郎　地主　東京府在籍

妻　はま　明一七、九生、東京、醍醐半三郎三女
男　喜一　明三七、一一生
婦　さだ　明三八、一〇生、長男喜一妻、東京、飯田平三郎長女
女　雪子　大五、三生

君は東京府人飯田寅松の二男にして明治十六年十月十八日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり家族は尙五男貞五郎（大一〇、八生）二女峰子（同一五、七生）孫金治（昭三、五生、長男喜一長男）同千繪子（同六、二生、同長女）ありA三九二（東京市王子區上十條町一五〇五）

飯田九州雄

養母　せつ　正五位勳四等、神戸稅關長、會計財局書記官、會計局神戸出張所長、岡山縣在籍
養父三、一一生、長野、河西健次長女
妻　つや　明三一、七生、飯田耕作三女

君は福岡縣人久保田嘉吉の三男にして明治二十年二月を以て生れ同三十五年飯田せつの養子となり大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏省に入り稅關長となり營繕管財局神戸出張所長を兼任す義に倫敦國際會議に參列の全權委員陪員及び印度に於ける日印通商問題商議の爲の帝國代表委員代理を被仰付家族は尙長女富士子（大九、三生）養伯母環（明元、九生、岡山、太田原宗平妹）あり（神戸市神戸區中山手通二稅關官舍電葺合二四〇〇）

飯田國榮　神奈川縣多額納稅者、飯田屋商店　神奈川縣在籍

土木建築請負業並材木商

妻　國吉　明三七、四生
養子重左衛門　明二五、三生、二女ナミ夫、神奈川、松崎平藏弟
女　ナミ　明二、四生、養子重左衛門妻
男　正太郎　大元、八生

君は神奈川縣人飯田國信の長男にして慶應二年七月を以て生れ大正十三年家督を相續す土木建築業並材木商を營み飯田屋商店と號す直接國稅千三百九十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙六男典太郎（大四、一〇生）ありA家せり（横濱市神奈川區子安町二九八四電本局三八一四）

飯田慶一郎

妻　霜夜　明一六、一二生、岡山、宮島晉姉
男　慶之助　大九、一一生

君は岡山縣士族飯田謙造の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正四年家督を相續す先是明治四十年關西大學專門部法科を卒業し現時昭和銀行大阪支店次長にして蘊に近江銀行庶務部長心得たり家族は尙長女芳子（大一一、七生）ありA二九四（大阪府豐能郡豐中町新免二三六ノ二）

飯田慶三　高島屋飯田㈱出資社員、高島屋㈱大阪支店雜貨部長、京都府在籍

母　チヨ　明四、七生、叔父飯田新七二女

君は京都府人飯田忠三郎の二男にして同新七同政之助同藤二郎の甥新太郎同直次郎の從弟なり明治三十三年四月を以て生れ昭和三年家督を相續す先代忠三郎は夙に高島屋呉服店に勤務し取締役に擧げられ同店の發展に盡瘁せり君も亦大正十五年慶應大學法學部を卒業後同店に入り高島屋飯田合名會社出資社員にして現時高島屋大阪支店雜貨部長たり家族は尙弟紀造（明三六、二生、早大專門部出身）あり姉トシ（同二五、九生、清水谷高女出身）は從兄直次郎に同サダ（同三〇、九生、出身校同上）は大阪府人祭原邦太郎に妹悅（同三八、五生、出身校同上）は同府人山中直七長男直一に嫁し同淑子（同四三、七生）は叔父政之助の養子となりA一八四六（大阪市天王寺區北河堀町電天王寺九四三）

參照‖飯田新七、飯田新太郎、飯田藤二郎、飯田直次郎、飯田政之助、祭原邦太郎、山中直一※西村穗太郎※鮎川義介※日比谷祐藏※田村駒治郎※豐田喜一郎の項

飯田五郎　賣藥家　東京府在籍

妻　モト　明三五、八生、東京、黑岩留三郎養母
男　五平　大一三、四生

君は埼玉縣人飯田繁次郎の二男にして明治十七年九月十日を以て生れ同三十八年姪こう方より分れて一家を創立す蘊に自轉車製造業を營みしも現時之を廢業す家族は尙二女てる（大一〇、六生）三女宮子（昭二、三生）三男昭義（同四、一二生）ありA三八六（東京市城東區龜戸町五ノ三四電墨田二九一一）

飯田光吉　名古屋商工會議所議員、巴商會、寶藥業、愛知縣在籍

妻　しん　明二七、六生、三重、伊藤勝次郎長女
養子　市三　明四一、二生、愛知、川津喜六養弟
婦　ふさ　大二、二生、養子市三妻、三重、伊藤三郎長女

君は愛知縣人川津要道の三男飯田鉦七の養弟にして明治十七年十一月を以て生れ同縣人飯田藤七の養子となり同四十年分れて一家を創立す巴商會と稱し寶藥業を營む蘊に中外醫藥會社取締役たりA九四八B三〇八（名古屋市東區京町三ノ一八電東一五三七）

飯田耕一　正八位勳六等、陸軍工兵中尉、臺灣鐵工所㈱代表取締役、山口縣士族

妻　ハル　明一六、四生、山口、乃木精一妹
男　嘉雄　大元、八生
女　嘉代　大四、四生

君は山口縣士族飯田豊の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十五年東京高等工業學校機械科を卒業し夙に軍籍に入り陸軍工兵中尉に陞り現時株式會社臺灣鐵工所代表取締役にして蘊に大成化學工業岩手粘土各會社重役たり曾て鹽業視察の爲大正六年及同十四年再度布哇へ出張し又同十三年より翌年に亘り瓜哇並に歐米各國を視察す長女キク子（明三九、二生）は山口縣人一柳眞雄に二女浪枝（同四一、一一生）は同縣人佐々木迪に嫁せり（高雄市入船町一ノ一三）

飯田耕吉郎　大阪府多額納稅者、地主　大阪府在籍

父　富四郎　元治元、一生
母　リヨ　明四、二生、大阪、原定吉妹
妻　朝野　明二六、一二生、大阪、中野檜三郎二女
女　勝子　大五、一生
女　榮子　大八、三生

君は大阪府人飯田富四郎の長男同義清の兄にして明治二十三年三月を以て生れ大正十五年家督を相續す地主にして直接國稅六千六百四十五圓を納め大阪府多額納稅者たり家族は尙三女夏子（大一四、七生）あり妹ヒサヱ（明三九、一生）は奈良縣人木村熊治郎二男誠一に同キクヱ（同二七、一〇生）は大阪府人楠尙藏に嫁せり（大阪市東成區鶴橋南之町三ノ二七七電天王寺五二三一）

參照‖飯田義清、木村熊治郎、楠尙藏の項

飯田佐次兵衛　總武運輸倉庫㈱社長、㈱造藥、千葉縣在籍

妻　みや　慶應三、一〇生、千葉、岩井孝之助長女
男　泰一郎　明二三、一二生、現戸主
婦　千代　明二八、四生、長男泰一郎妻、千葉、向後助太郎四女
男　良雄　明三六、六生、二男良雄妻、千葉能勢鐵之助四女
婦　とく　明四二、七生
男　勝俊　大阪府人飯田恭翁の長男にして慶應三年二月を以て生れ家督を相續し大正十三年隱退す釀造業を營み傍ら前記各會社の重役にして蘊に丸三釀造會社長千葉合同銀行九十九里電氣鐵道各會社重役たり家族は尙孫泰代（大七、七生、長男泰一郎二女）同喜美（同九、四生、同三女）同敏一（同一一、一生、同長男）同武（同一四、七生、同二男）同智子（昭二、八生、同四女）同全（同五、一生、同五女）同リヨ（大一二、二生、二男良雄長女）同年子（同一三、九生、同二女）同陽一（昭三、一生、同長男）同泰敏（同四、八生、同二男）叔父佐四郎（喜永五、四生）あり長女とう（明三六、三生）は栃木縣士族樋口博に妹津禰（同一九、八生）は栃木縣人渡邊三彥に嫁し四男實（同四〇、一〇生）は千葉縣人山本力藏の養子となり弟信二（同一〇、九生）は東京府人秋葉大子の入夫となり大助と改め同良三郎（同一三、三生）も亦千葉縣人深田けいの入夫となれり（千葉縣海上郡旭町）

參照‖秋葉大助の項

飯田才藏　地主　大阪府在籍

妻　アヤ　明元、二生、大阪、豐原森之助姉
孫　森　明三三、一〇生

君は德島縣人安藝美万造の三男にして安政三年二月十八日を以て生れ飯田アヤの入夫となり明治十四年家督を相續す地主たり長女勝子（明三二、一一生）は同夫藤七（同三三、一二生、大阪、岸上佐一郎五男）と共に其子女を伴ひ分家し孫英子（同三七、九生、離緣養子森之助長女）も亦分家せりA三八七（大阪市東淀川區三津屋中町三ノ五一電北六三九一）

參照‖飯田森の項

飯田定助　飯田商店㈱社長　大阪府在籍

妻　ラク　明一三、八生、大阪、柴田常七長女
男　健之祐　明三一、三生
婦　德江　明三四、三生、兵庫、田中德松妹
女　錦子　明四二、六生
男　吉之助　明四五、六生
男　博之助　大三、九生

君は大阪府人飯田定七の二男にして元治元年一月十九日を以て生れ明治四年家督を相續す現時前記飯田商店社長たり家族は尙孫純之助（大一三、八生、長男健之祐長男）同安子（昭三、三生、同長女）ありA一七八（大阪府豐能郡池田町電一一〇）

飯田貞固　正五位勳三等、陸軍少將、陸軍騎兵學校長、新潟縣在籍

母　サダ　安政三、三生、新潟、關定平妹
妻　アヱ　明二四、一生、新潟、脇屋亮作妹
男　貞喜　大五、七生

君は新潟縣人飯田貞一の長男にして明治十七年二月を以て生れ明治三十六年家督を相續す同三十八年陸軍士官學校を卒業し同年騎兵少尉に任じ昭和八年陸軍少將に累進す其間陸軍大臣祕書官伊國大使館附武官陸軍大學校兵學教官參謀海軍大學校教官近衛騎兵聯隊長陸軍省高級副官騎兵第三旅團長等に歷補し昭和九年陸軍騎兵學校長に補せらる家族は尙三女フミ子（大一一、八生）あり二女ヨシ（同二、八生）は伯爵奥保夫長男保城に嫁せり（東京市世田谷區北澤町四ノ三七三）

參照‖伯爵奥保夫の項

飯田次郎　ヤダヤ回漕店、運送業　東京府在籍

養父　李治　元治元、一〇生
養母　やす　明一〇、六生、福田德兵衛二女

妻　ヨシコ　明二七、三生、養父杢治長女
男　榮一　大一五、五生

君は舊幕臣佐伯義次郎の二男にして明治二十年五月六日を以て生れ東京府人飯田杢治の養子となり大正五年分れて一家を創立す東京府立第四中學校の出身にして夙に實業に志し船舶回漕業村山商店に入り等で同店東京出張所長に擧げられ事業の發展に努力す後獨立して筏回漕の業を創め順次發展して今日に至る推されて東京筏回漕業組合長京濱筏回漕業副組長の職にあり家族は尙二女しん子（大一二、九生）あり（東京市京橋區月島東河岸一ノ三電京橋四三四一）

飯田茂勝

保倉川電氣㈱社長、志久見川電力㈱取締役、新潟縣在籍

妻　マサ　明一四、二生、新潟、內山豊八長女
嫡　須壽　明三七、一生、亡長男茂雄妻、北海道、村山雄吉二女
孫　茂吉　昭二、一二生、亡長男茂雄長男
男　茂次　明三六、七生
男　愈吉　大二、七生

君は新潟縣人本山健治の三男にして明治九年六月を以て生れ故先代茂三郎の養子となり同十五年家督を相續す同二十八年慶應義塾正科を卒業し現時保倉川電氣會社社長志久見川電力會社取締役たり家族は尙五男讓五郎（大五、四生）三女美加（同七、一一生）あり長女キヱ（明三〇、一二生）は東京府人小川政次に二女シサ（同三九、二生）は新潟縣人布施實長男惣衛に嫁せり（新潟縣東頸城郡大島村）

飯田繁治

前東和護謨㈱監査役、東京府在籍

妻　つね　明二七、五生、東京、原田いち姉
男　繁三　大一五、六生

君は東京府人本橋浩兵衛の四男にして明治十六年二月一日を以て生れ同十九年先代重兵衛の養子となり昭和七年家督を相續す蘇に東和護謨會社監査役たりしも現時之を辭して閑地にあり家族は尙二男庸夫（昭五、一〇生）あり人四五三（東京市淺橋區柏木一ノ一〇五）

飯田靜次郎

正五位勳六等、長崎高等商業學校教授、福岡縣士族

妻　千代子　明七、九生、佐賀、杉谷幸俊二女
妻　ちよ　明二九、二生、京都、星野元彦三女

君は福島縣人星野彦三郎の二男にして明治十五年二月を以て生れ叔父篤之進の養子となり同三十八年家督を相續す同四十四年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し大正八年長崎高等商業學校教授に任ぜられ現在に至る同十三年英米獨各國に留學し同十五年歸朝す（長崎市西山町電三五九四）

飯田壽一

土木建築請負業、飯田組

妻　サイ　明二四、四生、熊本、森本平太郎三女
男　平藏　大七、二生
女　テル　明四四、七生

君は熊本縣人飯田平五郎の二男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す飯田組と稱し土木建築請負業を營む蘇に熊本縣多額納稅者たり家族は尙二男壽平（大八、一生）三女壽々子（昭二、一〇生）あり（熊本市北新坪井町二〇電五六一）

飯田壽作

西宮酒造會社員、兵庫縣在籍

母　あさ　明元、一一生、大阪、鹽川仁三郎妹
妻　好　明二八、八生、兵庫、藪內與八郎長女、第一神戸高女出身
男　壽祥　大一四、一二生

君は兵庫縣人先代壽作の長男にして明治十八年十二月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治四十五年大阪高等商業學校を卒業し現時西宮酒造會社員たり家族は尙長女登司（大九、九生）二女綾子（同一二、六生）三女淳（昭四、四生）あり人二五六（西宮市松原町四七電五〇五）

飯田鉦吉

名古屋製藥㈱取締役、伊勢藤藥種商

妻　ちよ　明三九、一一生、陸軍三等藥劑官、愛知縣製藥振興會、愛知藥專會各理事、名古屋製藥會社顧問、藥學士
男　博　長男博妻、愛知、水野增次郎長女
嫡　元　長女幸子夫、豊家、（旧姓野村）
養子　松樹　明四一、一〇生、養子松樹妻
女　幸　大三、九生、岐阜藥專在學
男　章夫　大三、九生、岐阜藥專在學

君は愛知縣人飯田藤七の長男にして明治十三年八月を以て生れ後ち家督を相續す同三十八年以來遺業を繼承し伊勢藤と稱し藥品洋酒香料の卸賣を營み傍ら機關紙「マルト商報」を刊行して同業者間に於ける通信販賣の魁を爲し現時前記會社の重役たる外名古屋藥種業組合長たり讀書旅行親劇に趣味を有す家族は尙四女日出子（大九、一生、愛知縣立第一高女在學）三男達郎（同一〇、三生）五女芳子（同一三、一生）六女愛子（同一四、九生）孫香代子（昭七年生、長男博長女）あり養弟光吉（明一七、一一生）は分家し三女奈美子（大五、八生）は其養子となれり人一〇〇六B二六五（名古屋市東區京町三ノ一〇電東一九八〇）

参照＝飯田光吉の項

飯田信三

愛知縣多額納稅者、御納屋、料理業、愛知縣在籍

妻　やゑ　明一七、七生、愛知、大口喜助四女

君は愛知縣人飯田文藏の二男にして明治十六年十月一日を以て生れ分れて一家を創立す御納屋と稱し料理業を營み愛知縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千五十一圓を納む（名古屋市東區西魚町三ノ一〇電東三二〇〇）

飯田新一

飯田㈱社員、東京府在籍

母　もよ　明八、三生、東京、石渡仁十郎孫
男　國三　大五、一〇生
女　はる　大三、三生

君は東京府飯田國太郎の長男同正次の兄にして明治二

二十六年一月一日を以て生れ大正十三年家督を相續す現時飯田合名會社社員たり家族は尙弟正次（明三〇、三生）の外弟久兵衛（同四一、八生）妹しげ（大五、二生）弟武（同九、二生）ありA二七五（東京市深川區白河町二ノ一七電本所二三五六）

参照＝飯田正次の項

飯田新七

男　新太郎　明一七、六生

當家は其祖新七天保七年江州高島より出でゝ呉服商を始め高島屋と稱す君は先代新七の弟にして安政六年十月を以て生れ明治二十一年家督相續と共に前名鐵三郎を改め襲名す飯田家の四代目に當り夙に祖業を繼ぎ益々業務を擴張し支店を東京大阪横濱神戸天津里昂倫敦南洋等に設け內外國博覽會共進會に出品し受賞の數多し明治二十一年以來海防費獻納及實業に精勵の廉を以て黃綬褒章紫綬褒章紺綬褒章及飾版を賜ひ同三十五年勳六等瑞寶章を授けられ大正十三年正六位に敍せらる昭和八年獨逸赤十字名譽二等勳章受領又教育上の功勞により帝國教育會の表彰を受く其他公共事業に盡瘁貢獻したる處勸から予現時株式會社高島屋社長其他前記諸會社の重役にして京都商工會議所顧問京都府教育會副會長等に擧げられ京都府多額納稅者として重きをなす明治二十二年支那欧米各國の商況を視察し留る事一年得る所甚だ多し三女二十子（明三四、一生、京都府立第一高女出身）は靜岡縣人豊田佐吉長男喜一郎に女邦子（同二九、三生）は京都府人岸本裕に同章子（同三六、七生）は大阪府人田村駒治郎先代駒治郎の養子となり三男新三郎（同二七、四生、早大商科出身）は同妻八重（同三三、二生、京都、谷口知平姉）と共に四男憲造（同二九、一〇生）は同妻和子（同三八、八生、京都、熊谷信吉五女）と共に六男功（同三五、九生）は同妻富子（京都寺村助右衛門二女）と共に各分家し尙同族に弟政之助（文久三、一二生）同藤二郎（明二、一二生）亡養弟忠三郎長男慶三（同三三、四生）亡弟太三郎養子虎雄（同三五、一生）亡兄新兵衛長男直次郎（同一七、六生）ありA一二二五二（京都市東山區本町二十一丁目電祇園一四〇〇・一四〇一）

参照＝飯田慶三、飯田新太郎、飯田直次郎、飯田政之助、田村駒治郎、谷口知平、大西村總太郎、寺村助右衛門、豊田喜一郎の項

飯田新太郎

高島屋㈱取締役、高島屋飯田㈱監査役、京都府在籍

父　新七　安政六、一〇生、現戸主
妻　チヱ　明二六、一一生、奈良、安川新次郎二女
男　鐵太郎　大四、九生、武藏高校在學

君は京都府人飯田新七の長男同藤二郎同政之助の弟同慶三同直次郎の從兄にして明治十七年六月を以て生る同四十二年早稻田大學商科を卒業し現時高島屋高島屋飯田各會社の重役たり家族は尙二男鈆次郎（大九、五生）二女みち子（同一二、七生）ありA三五三（東京市芝區高輪南町三〇電高輪一二六〇）

参照＝飯田慶三、飯田新太郎、飯田直次郎、飯田藤二郎、飯田政之助、田村駒治郎、谷口知平、比谷祐藏、祭原邦太郎、山中直一、山中直七、田村駒治郎、豊田喜一郎の項

飯田助夫

横濱市會議員、神奈川縣農工銀行㈱監査役、神奈川縣在籍

妻　チヨ　明一二、四生、神奈川、川邊長彌妹
男　助丸　明四〇、一一生
男　猛丸　明四三、二生
男　政郎　明四五、五生
女　ノブ　大三、七生

君は神奈川縣人飯田助太夫の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す農業を營み昭和九年横濱市會議員に再選せられ民政黨横濱支部筆頭總務に就任し別に神奈川縣農工銀行監査役たり蘇に神奈川縣會議員に擧げられしことあり家族は尙五男午郎（大七、五生）六男醉郎（明一〇、三生）妹ヒロ（明一二、八生）弟九一（同二五、一〇生）及其子女あり長女ソヨ（同三七、八生）は大阪府人鞏房寡勝に嫁せり（横濱市神奈川區北綱島町一二六一）

飯田精太郎

從三位勳三等、男爵、山口縣華族

母　マサ　文久三、六生、山口、士、井上品之助二女
妻　タツ子　尙綱高女出身
男　俊武　明二五、五生、新潟、川岡守三養子
女　英子　大二、六生、東京帝大理學部在學
女　淑子　大六、一生、府立第三高女高等科在學
女　和子　大七、一一生、女子學習院在學

當家は先代俊助より顯る俊助は舊山口藩士にして夙に軍籍に入り累進して陸軍中將に陞る其間歩兵第十五第二十各聯隊長第十一旅團長第一師團長等に歷補し明治四十年日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治十七年九月八日を以て生れ大正三年襲爵被仰付明治四十年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し臨時年臺灣工事部技師を經て同四十三年鐵道院技師に任ぜられ爾來矢口發電所主任電氣課電力掛長となり大正九年歐米に出張し歸朝後新橋電力事務所長東京電氣事務所長東京鐵道局電氣課長電氣局電力課長同電化課長等に歷補し電氣局長に陞り昭和九年六月之を辭す目下閑地に在り親世流謠曲庭球ゴルフに趣味あり家族は尙四女靖子（大一一、六生、女子學習院在學）五女伊津子（昭四、五生）弟雄亮（明二八、四生）同妻ハル（同三八、三生、山口、坂直衛長女）及其二子あり同祥二郎（同二一、八生）同妻精子（同二七、一生、男爵三好順介姉）は其子女を伴ひ同仙三（同二四、三生）同妻フミ（同三〇、八生、山口、彌益龍之助二女）も亦其子女を伴ひ各分家し妹サタ（同二六、五生）は東京府士族梶井恒二男貞吉に同八重（同三〇、六生）は山口縣人郡司恭雄に嫁し弟了藏（同三三、五生）は愛知縣人深津乙雄の養子となれり（東京市目黑區駒場町七七一電青山八三五）

参照＝男爵三好順介、梶井貞吉の項

飯田惣三郎

地主、東京府在籍

妻　いし　明一四、一生、東京、淺倉繁太郎妹　明二九、七生、長女きよ夫、東京一杉平五郎七男
養子　秀治　明三六、三生、養子秀治妻
女　きよ　大四、六生
女　靜子　大七、四生
女　光子

君は東京府人飯田長太郎の長男にして明治七年八月三日を以て生れ同二十二年家督を相續す地主として知らる家族は尙孫惣一郎(大一二、五生、養子秀治長男)同はる江(昭三、一二生、同長女)同孝男(同七、一一生、同三男)あり三女いよ(明四四、五生)は東京府人一杉平四郎二男勝巳に嫁せりA四一一(東京市杉並區天沼一ノ一四九)

參照＝淺倉繁太郎※森居久藏の項

飯田高央　金融業　東京府在籍

母　つた　明一六、一〇生、東京、宮崎庄太郎二女
妻　トシ　明四二、六生、東京、山口萬五郎三女

君は東京府人飯田宇兵衛の長男にして明治四十年九月十八日を以て生れ大正三年家督を相續す金融業を營む家族は尙長女園子(昭五、八生)二女典子(同八、八生)弟昌央(明四四、一一生)あり叔母いく(同二〇、四生)は東京府人秋田儀兵衛に嫁せりA七〇七(東京市板橋區板橋町八ノ二一三六電板橋四一七)

飯田武也

妻　マツ　明三六、四生
男　豊　明四三、一〇生、長男豊妻、東京
婿　道　林政次郎長女　明四〇、八生
男　泰　大元、一一生、三男泰妻、東京、
婿　元　櫛口太吉長女　明四四、一〇生
男　敬

第三十六銀行、十七銀行、多摩製紙各㊣取締役、第三銀行、正隆銀行、日本畜夜銀行各㊣監査役、安田同族會參與、東京府在籍

君は山口縣士族飯田鳶信の弟にして明治二年十二月十一日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す現時安田同族會參與にして前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫克巳(昭五、一〇生、長男豊長男)同秋子(同八、九生、三男泰長女)あり(東京市世田谷區上北澤町三ノ一一一九)

飯田猛　明治銀行㊣取締役　大分縣在籍

妻　シヅ　明二七、五生、大分、溝部正孝姉
男　明男　女子美術學校出身　大一五、一二生

君は大分縣人飯田長三郎の四男にして明治二十四年七月を以て生れ昭和六年分れて一家を創立す大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し明治銀行に入り支配人を經て現時取締役たり家族は尙長女美惠(大一〇、一生)三女京子(同五、九生)あり A二五八(名古屋市中區山脇町四ノ三一ノ二電南三四二八)

飯田民丸　氣仙沼水力電氣㊣取締役、醫師　新潟縣在籍

妻　かよ　明一五、三生、宮城、山口啓之助二女
養子　權三郎　明三三、六生、養子きよ夫、山形佐藤權吉三男
養子　きよ　明三六、六生、養子權三郎妻、宮城、山口啓之助孫

君は新潟縣士族黑田多仲の二男にして明治五年九月を以て生れ先代幸吉の養子となり同三十一年家督を相續す醫師にして傍ら現時前記會社の重役たり家族は尙孫禮子(昭三、一一生、養子權三郎長女)あり養妹ゴロサク(明一〇、一二生)は新潟縣人佐々木成一に嫁し同高(同三一、七生)は同縣人横山六太郎の養子となれり(宮城縣本吉郡氣仙沼町)

飯田忠右衛門　質商　兵庫縣在籍

妻　こと　明一一、三生、兵庫、古林利助妹
男　義雄　法學士　明七、五生、日本毛織會社員、
男　貞夫　明四〇、五生、神戸商大出身

飯田常次郎　晒染色業　大阪府在籍

妻　末野　明一七、八生、奈良、久保與吉長女
男　淺太郎　明三七、五生
婿　マサエ　長女　明四三、一生、大阪、上田政次郎
女　春子　明四五、四生
女　セツ子　大三、一一生

君は大阪府人飯田淺次郎の二男にして明治十一年二月二十三日を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す晒染色業たり家族は尙孫常俊(昭七、九生、長男淺太郎長男)あり長女壽々(明三四、一〇生)は分家し二女ツネ(同四〇、二生)は大阪府人飯田彌兵衛に嫁せりA九

女　房子　明四二、一一生、縣立第一神戸高女出身
男　秀雄　大二、三生
女　禮子　大四、八生、縣立第二神戸高女出身

君は兵庫縣人先代忠右衛門の長男にして明治四年四月を以て生れ後家督を相續し商名鶴太郎を改め襲名し昭和四年家督を長男武雄に讓り分れて一家を創立す質商を營む家族は尙五男信夫(大六、一一生)あり(神戸市湊東區楠町二ノ六八電元町一八三二)

飯田恒次郎　正四位勳三等、陸軍中將　奈良縣在籍

男　太郎　大三、一生、東大文學部在學
女　鐵子　明四四、一〇生

君は奈良縣人飯田龍作の二男にして明治十一年一月を以て生る同十九年先代慈法の死跡を相續す同三十五年陸軍士官學校を卒業し整年輜重兵少尉に任じ更に陸軍大學校を卒業し累進して昭和八年陸軍中將に陞り待命被仰付現時豫備役たり其間日露戰役に出征し參謀本部々員第十二師團參謀肯島守備軍參謀輜重兵監部々員自動車隊第一師團參謀輜重兵第四大隊長陸軍自動車學校長等に歷補す家族は尙二男勇記(大八、三生)あり長女文子(明四三、六生)は長野縣人佐々木周吉長男通敏に嫁し三男正(大一一、一生)は東京府人小野惡正の養子となれり(東京市世田谷區赤堤町一ノ二二六)

飯田直次郎　高島屋㊣專務取締役、高島屋飯田㊣取締役、高島屋飯田㊣無限責任社員、京都府在籍

妻　ヤス　明三八、一生、養父太三郎四女神奈川縣立高女出身

君は奈良縣士族佐瀧歷雄の三男にして明治三十五年一月八日を以て生れ先代太三郎の養子となり昭和二年家督を相續す大正十四年京都帝國大學法學部佛法科を卒業し三井銀行に入り昭和七年辭して株式會社高島屋に入り現在に至る家族は尙長女京子(昭四、三生)二女鳥子(同六、八生)三女晋子(同八、三生)あり A七五八(大阪市住吉區帝塚山中三ノ六〇電住吉三一五五)

參照＝※飯田慶三※飯田新七※飯田藤二郎※飯田直次郎※飯田政之助の項

飯田藤二郎　高島屋社員　物㊣取締役、高島屋、帝國製麻各㊣監査役、高島屋飯田㊣無限責任社員、京都府在籍

妻　百代　明二二、一生、東京、士、富田誠一長女、日本女大英文科出身
男　東一　明三四、一一生、高島屋飯田會社員、經濟學士
婿　篤子　明四一、五生、長男東一妻、宮崎財部貫秀長女出身
男　洋二　明三六、一二生、日本航空輸送會社員、工學士
男　英三　明四一、二生、伊藤忠商事會社員早大經濟學部出身

君は京都府人二世飯田新七の四男にして同新七同政之助の弟同慶三同直次郎同新太郎の叔父なり明治二年十一月四日を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す夙に再度に亘り歐米各國を巡遊し織物貿易を視察し同三十四年飯田合名會社東京支店支配人となり後飯田株式會社に就任す現時高島屋飯田株式會社取締役社長高島屋呉服店帝國製麻會社其の營業を繼ぐに及び擧げられて同社專務取締役住江織物各會社重役として知らる觀世流謠曲に趣味あり家族は尙四男五郎(大七、四生、學習院中等科在學)六女喜代子(同一三、七生、女子學習院在學)孫直一(昭五、一二生、長男東一長男)同華子(同七、二生、同長女)あり長女美代(明二六、一〇生、御茶の水高女出身)は山口縣士族工學士鮎川義介に二女ヨリ(同三〇、三生、出身校同上)は東京府人日比谷祐藏に三女はま(同三一、一〇生、出身校同上)は滋賀縣人塚本文治郎に四女宮(同三八、一生、出身校同上)は岐阜縣人勝野博三弟經濟學士廉吉に五女百合子(同四二、一一生、出身校同上)は東京府人加賀豊三郎長男經濟學士謹一郎に嫁せりA四七〇〇(東京市神田區駿河臺四ノ一一)

參照＝鮎川義介、飯田慶三、飯田新七、飯田新太郎、飯田直次郎、飯田政之助、加賀豊三郎、勝野博三、日比谷祐藏※祭原邦太郎※田村駒治郎※西村總太郎※山中直一※山中喜一郎※豊田喜一郎※鮎川義介※祭原邦太郎※田村駒治郎※豊田喜一郎※日比谷祐藏※山中直一※山中直七の項

飯田藤吉　生魚問屋業　兵庫縣在籍

妻　てい　明二三、一〇生
男　榮藏　明二六、一一生、二男榮藏妻、兵庫、新興三郎姉
婿　まさゑ　明三〇、四生
女　と　明三七、一生
男　辰雄　大元、八生、二男榮藏長男
孫　榮一　大七、二生、二男榮藏長女
孫　田鶴子

君は兵庫縣人飯田榮三郎の長男にして明治二年八月十六日を以て生れ同二十八年家督を相續す生魚問屋業を營む家族は尙孫修(大四、二生、二男榮藏)同萬龜子(同一〇、三生、同二女)あり三男太郎(明三四、二生)は分家し妹たつ(同一一、一生)同夫一馬(同八、四生、兵庫、山中强弟)は其二男三女を伴ひ亦分家せり(兵庫縣武庫郡本庄村深江三五二電吉屋二九七〇)

飯田藤吉　生魚問屋業　兵庫縣在籍

慶應三、九生、兵庫、田中治平長女

君は兵庫縣人飯田榮三郎の長男にして明治二年八月十六日を以て生れ同二十八年家督を相續す生魚問屋業を營む家族は尙孫修(大四、二生、二男榮藏)同萬龜子(同一〇、三生、同二女)あり三男太郎(明三四、二生)は分家し妹たつ(同一一、一生)同夫一馬(同八、四生、兵庫、山中强弟)は其二男三女を伴ひ亦分家せり(兵庫縣武庫郡本庄村深江三五二電吉屋二九七〇)

飯田貞雄　高島屋社員　物㊣取締役、高島屋、帝國製麻各㊣監査役、高島屋飯田㊣無限責任社員、京都府在籍

養母　シナ　明一〇、一一生、飯田新兵衛長女神奈川縣立高女出身

君は京都府人飯田慶三の弟にして明治二年十二月十一日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す現時安田同族會參與にして前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫克巳(昭五、一〇生、長男豊長男)同秋子(同八、九生、三男泰長女)あり(東京市世田谷區上北澤町三ノ一一一九)

飯田直次郎

妻　ヤス　明三八、一生、養父太三郎四女神奈川縣立高女出身
男　東一　明三四、一一生、高島屋飯田會社員、經濟學士
婿　篤子　明四一、五生、長男東一妻、宮崎財部貫秀長女出身
男　洋二　明三六、一二生、日本航空輸送會社員、工學士
男　英三　明四一、二生、伊藤忠商事會社員早大經濟學部出身

君は京都府人二世飯田新七の四男にして同新七同政之助の弟同慶三同直次郎同新太郎の叔父なり明治二年十一月四日を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す夙に再度に亘り歐米各國を巡遊し織物貿易を視察し同三十四年飯田合名會社東京支店支配人となり後飯田株式會社に就任す現時高島屋飯田株式會社取締役社長高島屋呉服店帝國製麻會社其の營業を繼ぐに及び擧げられて同社專務取締役住江織物各會社重役として知らる觀世流謠曲に趣味あり家族は尙四男五郎(大七、四生、學習院中等科在學)六女喜代子(同一三、七生、女子學習院在學)孫直一(昭五、一二生、長男東一長男)同華子(同七、二生、同長女)あり長女美代(明二六、一〇生、御茶の水高女出身)は山口縣士族工學士鮎川義介に二女ヨリ(同三〇、三生、出身校同上)は東京府人日比谷祐藏に三女はま(同三一、一〇生、出身校同上)は滋賀縣人塚本文治郎に四女宮(同三八、一生、出身校同上)は岐阜縣人勝野博三弟經濟學士廉吉に五女百合子(同四二、一一生、出身校同上)は東京府人加賀豊三郎長男經濟學士謹一郎に嫁せりA四七〇〇(東京市神田區駿河臺四ノ一一)

參照＝鮎川義介、飯田慶三、飯田新七、飯田新太郎、飯田直次郎、飯田政之助、加賀豊三郎、勝野博三、日比谷祐藏※祭原邦太郎※田村駒治郎※西村總太郎※山中直一※山中直七の項

飯田濱五郎　飯田屋本店、米穀酒類問屋業　神奈川縣在籍

養父　勘次郎　嘉永六、八生
妻　ミヨ　明一三、五生、神奈川、石川清房長女
男　泰雄　大五、六生、輜重兵少尉、東京商大專門部出身
男　義雄　明三九、三生、歩兵少尉
男　恒雄　明四二、三生、慶大經濟學部出身

君は神奈川縣人加藤善四郎の二男にして明治九年八月を以て生れ先代勘次郎の養子となり大正四年家督を相續す飯田屋本店と稱し米穀酒類問屋業を營む蘆に米穀委託倉庫會社取締役たり妹キヨ(明三〇、四生)は其一子を伴ひ分家せり(横濱市中區長者町九ノ一四二電長者町四一六)

飯田久恒

妻　たまき　正四位勳二等功四級、海軍中將、海軍恤會副會長、在郷軍人會本部審議員、東京府士族　明七、一〇生、錦鶏間祇候畑良太郎妹

男　照夫　明三〇、八生、日本大學教授、法學士

婦　綏子　明三八、七生、長男照夫妻、子僧伊東純淳姉

君は東京府士族飯田久徴の長男にして明治二年十月十日を以て生れ同十九年家督を相續す夙に海軍兵學校に入り海軍少尉に任じ巡洋艦「海軍中將」となり大正十三年豫備役に編入さる其間日露戰爭に參加して聯合艦隊參謀となり國來新高笠置吾妻離隊各艦長第三艦隊參謀長英國大使館附武官第二艦隊司令官馬公要港部司令官に歴補す家族は尚孫暢子(昭六、八生、長男照夫長女)同和子(同八ノ四生、同二女)ありA一三六(東京市牛込區袋町八電牛込二一七四)

參照＝子僧伊東純淳、畑良太郎の項

飯田博亮

母　かく　青柳、菓子商　東京府在籍

明二一、一一生、千葉、足立峰吉長女

君は東京府人飯田島吉の二男にして大正四年一月十日を以て生れ昭和八年家督を相續す夙に日本大學第三中學を卒業し父の遺業たる青柳菓子店を繼承して之を營む家族は尚姉正子(大元、九生、文雅高女出身)妹貞子(同七、一生、同上校在學)同登美枝(同一一、四生)弟繁夫(同一三、二生)ありA一〇六四B七〇(東京市芝區田村町二ノ一三電銀座一六六九)

飯田福次郎

家主　東京府在籍

妻　美津　明元、一一生、京都、福田重助養妹

養子　淑　明四三、七生、京都、飯田忠三郎四女、同志社女子專門部出身

君は京都府人二世飯田新七の二男にして當主新七の弟同藤二郎の兄同直次郎同新太郎の叔父同慶三の養伯父なり文久三年十二月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す現時京都工業會社長の外前記會社の重役たり養に京都市會議員同商工會議所常議員に擧げられ又京都織物西陣撚絲再整高島屋飯田各會社の重役たりしことありA三二一三(京都市上京區室町出水上ル電西陣五八六)

參照＝飯田慶三、飯田新七、飯田新太郎、飯田藤二郎、飯田直次郎、福田重助※鮎川義介※勝野博三※桑原邦太郎※田村駒治郎※豊田喜一郎※西村總太郎※日比谷祐藏※細辻伊兵衛※矢代仁兵衛※山中直一※山中直七の項

飯田平吉

公證人　東京府在籍

妻　たか　文久三、一一生、東京、士、天野信之姉

女　由紀　明一五、一一生

孫　智子　大四、八生、離縁養子雪雄長女

君は東京府人杉浦榮海の三男にして安政三年一月八日を以て生れ先代祭助の養子となり家督を相續す明治九年より同二十九年に至る間行政司法の官廳に奉職し退官後公證人となり今日に至るA四七一(東京市日本橋區通三ノ七ノ五電日本橋二九〇五)

飯田正次

飯田代表社員　東京府在籍

妻　とく　明三二、九生、東京、石渡仁十郎二女

君は東京府人飯田國太郎の二男にして現戸主同新一の弟なり明治三十年三月二十五日を以て生る資産家にして現に飯田合名會社代表社員たりA一二五〇(東京市深川區白河町二ノ一七ノ一電本所二三五六)

參照＝飯田新一の項

飯田政之助

京都工業㈱社長、高島屋飯田㈱無限責任社員、京都府在籍

妻　美津　明元、一一生、京都、福田重助養妹

淑　明四三、七生、京都、飯田忠三郎四女、同志社女子專門部出身

君は京都府人二世飯田新七の二男にして當主新七の弟同藤二郎の兄同直次郎同新太郎の叔父同慶三の養伯父なり文久三年十二月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す現時京都工業會社長の外前記會社の重役たり養に京都市會議員同商工會議所常議員に擧げられ又京都織物西陣撚絲再整高島屋飯田各會社の重役たりしことありA三二一三(京都市上京區室町出水上ル電西陣五八六)

參照＝飯田慶三、飯田新七、飯田新太郎、飯田藤二郎、飯田直次郎、福田重助※鮎川義介※勝野博三※桑原邦太郎※田村駒治郎※豊田喜一郎※西村總太郎※日比谷祐藏※細辻伊兵衛※矢代仁兵衛※山中直一※山中直七の項

飯田益雄

正五位勳四等、判事、直方區裁判所判事、東京府在籍　明二〇、六生、茨城、士、清水虎吉長女

君は栃木縣人飯田菊五郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ飯田マサの養子となり同十年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任じ新潟區兼同地方宇都宮千葉甲府高崎熊谷各區東京區兼同地方濱松松戸越ケ谷新發田下妻掛川各區裁判所判事に歴補し昭和四年武雄區裁判所判事に補せられ次で直方區裁判所判事に轉じ今日に至る(直方市新町直方區裁判所官舎)

飯田又右衛門

東京中野銀行㈱取締役、油又商店味噌醬麩粉製造業、東京府在籍

妻　ソブ　明六、四生、埼玉、中野熊吉二女

君は東京府人先代又右衛門の長男同喜六の兄にして明治四年十一月二十日を以て生れ同二十九年家督を相續し前名新太郎を改め襲名す油又商店と稱し味噌醬麩粉製造業を營み傍ら東京中野銀行取締役たり妹チカ(明一五、一一生)は埼玉縣人三上八十八長男義太郎に同スエ(同二二、一生)は東京府人村田繁次郎に同トメ(同二四、一一生)は神奈川縣人高田平兵衛弟貞三に嫁

せりA一三二二B二三〇(東京市中野區本町通三ノ二七電四谷二七五)

參照＝飯田喜六の項

飯田松次郎

中川屋、漬物商、地主　東京府在籍

男　東吉　明三二、六生

男　松之助　明四四、一生

富士雄　大元、八生

君は東京府人飯田吉平の二男にして明治六年二月を以て生れ同二十七年家督を相續す地主にして中川屋と稱し漬物商を營みて知らる家族は尚七男新三(大四、四生)あり三男吉兵衛(明四一、八生)は分家し長女八重(同四二、一一生)は東京府人山田いちの養子となれりA二〇九六(東京市神田區須田町一ノ一八ノ三電神田八六九)

飯田森

三和銀行員　大阪府在籍

祖父　才藏　安政三、二生、現戸主

妻　千代　明三七、一生、大阪、行俊藤三郎四女

男　才之助　昭三、六生

君は德島縣人飯田才藏の孫にして明治三十三年十月二十五日を以て生る三和銀行員たり家族は尚三女喜子(昭五、六生)四女國子(同八、六生)あり二女愛子(大一五、八生)は大阪府人豊原森之助の養子となれりA一〇二九(大阪市東淀川區十三西元町一三〇電北二四一一)

參照＝飯田才藏の項

飯田紋治郎

岡永、醬油商　東京府在籍

妻　なつ　明三二、一二生、東京、大坪嘉助妹

男　壽一　大一一、一一生

飯田家は世々江戸に定住せる商家にして先々代新助深川松村河岸に於て油商を營み油新と稱し諸藩の御用商を勤め今日の基礎を築く君は先代永吉の三男にして明治十四年十一月十一日を以て生れ大正十三年家督を相續す夙に私立中央商業學校に學ぶ現に岡永と稱し醤油商を營みて知らる家族は尚二男博(大一三、五生)三男保(同一五、七生)四男勳(昭三、三生)五男厚(同六、七生)六男亮(同八、四生)弟耕作(明三九、九生)同修(同四三、五生)あり妹つね(同三二、八生)は東京府人荒井市右衛門に嫁し弟茂三郎(同三五、九生)妹ぎん(同三四、一生、日本橋高女出身)は各分家せりA一二六(東京市日本橋區馬喰町二ノ一〇電浪花六四〇八)

飯田勇四郎

山形屋、呉服商　愛知縣在籍

母　勢津　安政四、一生、愛知、櫻井淺七長女

妻　せい　明二九、二生、愛知、飯田彌左衛門五女

男　惠造　大三、八生

君は愛知縣人飯田喜三郎の二男にして明治十九年四月二十九日を以て生る山形屋と稱し呉服商を營む家族は尚二女滿智子(大一〇、七生)二男英二(同一五、九生)三男達也(昭四、七生)姪さかゑ(明四五、二生、現戸主)榮妹きし(同二三、九生)姪富子(大九、三生)同貞子(同一一、一一生)同保子(同一四、一一生)同富美枝(昭四、七生)姉和哥(明一二、三生)弟東一(同二八、一生)同妻しげゑ(同三七、三生、愛知、今枝元治郎二女)及其一子ありA三九七(名古屋市中區榮町四ノ三電東二三七一)

飯田安次郎

和歌山捺染、田村駒商店各㈱監査役、大阪府在籍

妻　シヅ　明二二、三生、京都、士、小菅慶太郎長女

君は大阪府人飯田辰三郎の弟にして明治十七年三月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現時田村駒商店及和歌山捺染會社の監査役たり(兵庫縣武庫郡本山村電御影三六五四)

飯田雄三

金澤醫療器械㈱代表取締役、北國製紙㈱專務取締役、金澤酒洗㈱取締役、石川縣在籍

妻　その　明二四、一生、石川、小林庄太郎妹

男　正雄　明四一、九生

男　友雄　明四四、五生

行雄　大二、四生

君は石川縣人飯田藤右衛門の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正二年家督を相續す現時金澤醫療器械會社代表取締役の外前記各會社の重役たり家族は尚四男秀雄(大八、七生)あり妹マスは神奈川縣人福田喜太郎に嫁せり(金澤市五賓町一一一電一八〇)

參照＝福田喜太郎の項

飯田ヨシエ

地主　大阪府在籍

母　イノ　明七、八生、大阪、中井清吉妹

夫　治房　明三三、二生、奈良、島岡憲治弟現戸主

男　治美　昭二、一二生

君は大阪府人飯田重次郎の長女にして明治四十一年十月九日を以て生る地主たり家族は尚二男彰(昭四、五生)長女啓子(同六、一〇生)ありA三一五(大阪市東成區鶴橋南元町三ノ三〇四)

飯田義昭

地主　東京府在籍

妻　せき　明三〇、二生、東京、飯田仙太郎四女

男　登　大九、三生

女　いち　大七、一二生

君は東京府人先代林藏の長男にして明治二十一年二月二十八日を以て生れ昭和三年家督を相續す地主たり家族は尚二女トシ子(大一四、五生)三女京子(同一五、一一生)三男幸雄(昭三、一一生)四男榮一(同五、九生)四女鈴子(同七、七生)五女美代子(同九、四生)ありA五三一(東京市世田谷區北澤三ノ九九八)

飯田治義

貴產家　大阪府在籍

妻　カウ　明三六、六生、大阪、原定吉三女

男　治　大一四、一二生

君は大阪府人飯田富四郎の二男同耕吉郎の弟にして明治三十二年三月七日を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す貴產家たり家族は尚長女美子(大一三、一一生)二男薫(昭四、一生)ありA四七八(大阪市東區船橋

町七六電南五〇八三)
参照＝飯田耕吉郎の項

飯田龍一　資産家　東京府士族
當家は先代義一より家名を揚ぐ義一は舊山口藩士にして明治の初年より三井家に入り其の經營に依る諸銀行會社の重役として同家の一元老たり父邦彦は舊佐賀藩士古賀寅生の弟にして當家に入り養父を助けて亦實業界に雄飛せり君は其長男にして大正元年十一月十五日を以て生れ同十三年祖父義一の後を承け家督を相續す資産家として知られ現に九州帝國大學農學部に在學す家族は尚妹衣子(大五、九生)あり姉清子(明四二、一生)は山口縣人門田豊熊二男正男に同淑子(同四三、二四、四生)は元特命全權大使埴原正直に嫁せりA三〇九二(東京市麻布區櫻田町一〇電青山六〇六七)
参照＝埴原正直の項

飯高喜幾　伊勢喜酒店、酒類商　東京府在籍
妻　きくの　明二二、二生、山梨、武川藤次郎二女
男　秀太郎　明四三、二生
女　まさ　大二、六生
女　もと　大四、五生
　　タマ　大六、一生
君は山梨縣人飯高林兵衛の三男にして明治十五年四月二日を以て生れ同四十二年兄神太郎方より分れて一家を創立す伊勢喜酒店と稱し酒類商を營む家族は尚三男喜三郎(大九、一一生)四男幾藏(同一)四、九生)五男寡雄(昭二、九生)七女玉惠(同四、一二生)八女みち(同六、九生)九女てる子(同八、一二生)あり長女とよ(明四四、七生)は分家せりA四五四B八七(東京市麻布區谷町三一電赤坂一三〇二)

飯塚安喜雄　從五位勳六等、陸軍技師、陸軍技術研究所技師兼農林技師、群馬縣在籍
祖母　じよう　嘉永二、一生、群馬、飯塚晋次郎長女
父　安治　明元、三生、現戸主
妻　かをる　明二三、一一生、群馬、鈴木宜行長女
男　萬夫　大七、四生
女　ふき　大八、一一生
君は群馬縣人飯塚安治の長男にして明治二十一年十月を以て生る大正三年東京帝國大學農科大學獸醫學科を卒業し爾來農商務省囑託農商務技手を經て獸疫調査所技師兼農林技師に任ぜられ今日に至る義に佛獨墺各國に出張を命ぜらる家族は尚三女喜子(大一一、六生)二男也安(同一四、三生)三男三喜(昭三、六生)弟雅夫(明三七、一一生)同妹三四、五生)同妻トキ(同三六、五生、群馬、村上賢一二女)あり叔母かく(同二一、七生)は前記群馬縣人村上賢一に嫁せり(東京市豊島區雜司ケ谷町六ノ八六八電大塚四〇〇六)

飯塚兼吉　地主　東京府在籍
妻　タケ　明二四、一〇生、東京、水野弁吉二女
男　廣吉　明四三、八生
男　八郎　大元、一二生
女　とし　大六、九生
君は東京府人先代勝五郎の長男にして明治十七年一月十二日を以て生れ大正十年家督を相續す地主たり家族は尚三男忠男(大四、七生)四男陽洪(同九、一〇生)五男盛吉(同一二、四生)六男昌吾(同一五、四生)弟善太郎(明二七、一生)同妻やゑ(同三三、八生、千葉、小泉源藏三女)及び其子女弟角藏(同三〇、一二生)同妻トリ(同三七、三生、東京、水野弁吉四女)及び其子女妹ヨシ(同一九、六生)あり(東京市中野區仲町三〇)

飯塚喜四郎　東京帝國大學醫學部齒科技工主任　丸ビル飯塚齒科醫院長、齒科醫師　栃木縣在籍
妻　一子　昭三、七生、靜岡、田島成陰姉
男　一郎　昭三、一生
君は栃木縣人飯塚政藏の三男にして明治二十一年四月を以て生る大正二年東京齒科醫學專門學校を卒業し現時東京帝國大學醫學部齒科技工主任にして又丸ビル飯塚齒科醫院長たり家族は尚長女喜美子(大一四、九生)二男二郎(昭九、七生)兄徹(明一八、二生、現戸主)同妻カツ(同二二、三生、山口、平岡源一妹)及び其子女弟四郎(同二五、六生)同妻勝(同三一、七生、栃木、屋代興市妹)及其一子弟藤吾(同三二、六生)あり(東京市品川區五反田六ノ四五九、「營業所」麹町區丸ノ内丸ビル六階電丸ノ内一〇五三)

飯塚菊太郎　馬頭町長、烏山銀行㊟取締役　栃木縣士族
父　善三郎　嘉永五、一〇生
繼母　フジ　明四、九生、栃木、辻三郎二女
妻　シン　明二〇、一生、栃木、飯塚彌平姉
男　直一　大六、一〇生
女　トシ　大元、八生、跡見女學校出身
女　チカ　大三、三生、跡見女學校出身
君は栃木縣士族飯塚善三郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す現時烏山銀行㊟取締役にして馬頭町長に推さる家族は尚二男貞夫(大九、七生)弟喜代松(明二一、一生)同妻雪(同三三、一生、茨城、士、安島强妹)同愛造(同二七、三生)あり再從妹ヲカ(同三七、一一生)は栃木縣人大森勝之助二男藤次郎に嫁せりA三七六(栃木縣那須郡馬頭町電二八)
参照＝淡小倉喜一淡鈴木良一淡渡邊盛作の項

飯塚九一郎　地主　東京府在籍
祖母　カツ　明九、九生、東京、伊藤紋太郎長女
母　きん　明三二、四生、東京、小池金太郎妹
君は東京府人先代惣内の長男にして大正八年十月三十一日を以て生れ昭和七年家督を相續す地主たり家族は尚弟喜重(大一〇、九生)同敏郎(同一二、五生)同英雄(同一四、五生)同稔(昭二、一生)同牧男(同五、九生)叔母ふさ(明三五、六生)叔父松之助(同三九、八生)叔母ゆき(同四三、八生)叔父龜治(大四、八生)あり(東京市中野區上町一六電中野六一〇)

飯塚啓　從三位勳三等、理學博士、東京科學博物館動物學部長、群馬縣在籍

男　浩二　明三九、四生
男　松三　明四二、一生
君は群馬縣人飯塚孝七の長男にして明治元年六月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十年東京帝國大學理科大學動物學科を卒業し第六高等學校教授東京帝國大學助教授學習院教授等に歴任し後官を辭す現時東京科學博物館動物學部長の職にあり同四十三年理學博士の學位を授けらる家族は尚四男良士(大四、八生)六男廣(同一一、四生)七男善治(同一三、三生)あり長女せつ(明四四、二生)は北海道帝國大學助教授岡本剛に嫁し弟廣(同二三、八生)同妻トミ(同三八、二生、神奈川、大井秀治郎六女)は分家せりA一五一(東京市澁谷區南平臺町四六電青山三七〇七)

飯塚祇吉　從六位、前大阪商船㊟參事　群馬縣在籍
妻　花子　明三一、四生、山口、林義三郎二女
男　祇元　大八、八生
女　淑子　大五、九生
君は群馬縣人飯塚吉之丞の長男にして明治十七年一月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業臺灣總督府事務官として在職數年後大阪商船會社に入り仁川大連各支店長を經て昭和四年同社參事に擧げられしも現時閑地に在り義に仁川及大連商工會議所議員たりし事あり家族は尚二女惠美子(昭四、二生)弟英一(明三五、三生)同妻君子(同四〇、二生、群馬、大島茂三郎孫)及其一子あり(兵庫縣武庫郡精道村廣屋晴美園一一號)

飯塚茂　大倉スマトラ農場㊟專務取締役兼事業地長、南和公司㊟取締役兼支配人、南和合同、南成公司、南造公司各㊟取締役、栃木縣在籍
父　茂十郎　明三、八生、現戸主
繼母　アサ　明六、八生、栃木、片山藤三郎妹
妻　艷子　明三一、五生、貴族院議員加藤政之助五女
君は栃木縣人飯塚茂十郎の長男にして明治二十二年七月を以て生る大正四年慶應義塾大學部法科を卒業し南洋に在留する事十四年現時前記各會社の重役たり柔道五段の技あり家族は尚二女淑子(昭四、九生)弟由雄(明三六、八生)あり同滿明(同三一、九生)は他家の養子となり妹ヒサ(同二九、二生)同寅藏に同ナヲ(同二四、一生)は滋賀縣人川崎文之助郎に嫁せり(東京市品川區五反田六ノ一九一電高輪七八七七)
参照＝加藤政之助淡金澤多三郎淡永瀧松之輔淡坂西利八郎の項

飯塚善三郎　地主　東京府在籍
祖母　あさ　文久三、七生、東京、飯塚由次郎姉
君は東京府人飯塚春之助の三男にして明治四十三年四月四日を以て生れ大正十五年先代庄三郎の養子となり家督を相續す地主にして資産家たり家族は尚妹弘子(大一〇、九生)同功子(同一二、一二生)叔父與四郎(明二八、九生)同妻らん(同三六、六生、靜岡、野田高女出身)あり三女むめ(明三八、三生)は茨城縣人青山やす惣作妹)及其二男二女あり(東京市牛込區横寺町七電牛込五九二)
参照＝飯塚春之助、飯塚由次郎の項

飯塚宗次郎　石材問屋業　東京府在籍
妻　ます　明二一、一二生、東京、内藤文次郎長女
男　浩吉　大一〇、六生
養子　四郎　明三三、一一生、長女きん夫、福島、萩原英一叔父
女　きん　明四〇、一生、養子四郎妻、三輪田高女出身
女　とき　明四二、六生、精華高女出身
　　芳子　大七、九生
當家は東京市中野區に於ける舊家にして累代農を營み傍ら德川家に馬糧を納め同區屈指の資産家たり君は先代惣兵衛の長男にして明治十五年十二月十五日を以て生れ同三十六年家督を相續す現時石材問屋業を營む養に東京中野運送會社々長たりしことあり家族は尚三男彰次(大一三、一一生)五女トシ子(同一五、五生)孫晴一(昭五、七生、養子四郎長男)同和昌(同七、六生、同二男)あり妹ヨシ(明一八、三生)同夫八衛一郎(明三、一〇生、東京、松井正治郎弟)は其一男一女を伴ひ分家し母やほ(弘化二、三生、東京、川本勘六三女)は其の家籍に入れりA八六〇(東京市中野區本町通四ノ一電中野二四三九)

飯塚惣八　地主　東京府士族
妻　りん　明七、七生、東京、中島五兵衛長女
男　晏弘　明二九、七生
婦　キチ　明三四、五生、長男晏弘妻、東京宮崎勇之助五女
女　スミ子　大二、三生
君は東京府人飯塚惣次郎の長男にして明治三年九月一日を以て生れ同二十五年家督を相續し前名金太郎を改む地主たり家族は尚孫遜(大一一、七生、長男晏弘長男)同治(昭二、五生、同二男男操(同八、五生、同三男)あり三女むめ(明三八、三生)は茨城縣人青山やす長男武雄に四女ユキ(同四〇、五生)は東京府人中居清次郎長男治重に嫁し二女シン(同二七、八生)は同府人關口文雄の母たりA六九一(東京市中野區上町一六電中野二五三七)
参照＝關口文雄の項

飯塚德造　永峰セルロイド工業㊟監査役、飯塚商店㊟代表社員、東京府在籍
妻　ひさ　明一〇、一一生、千葉、宮本長吉妹
養子　辨次郎　明三〇、五生、千葉、宮本長吉甥
君は東京府人飯塚豊七の長男にして明治八年八月十一日を以て生れ後一家を創立す現に合名會社飯塚商店代表社員にして永峰セルロイド工業會社監査役たり家族は尚養孫賢三(大八、五生、千葉、宮本長吉孫)あり(東京市日本橋區鮫洲町三ノ一電濱花一五六〇)

飯塚篤之助　資産家　東京府在籍
母　乃婦　慶應元、一生、東京、堀田生次郎妹
妻　むめ　明二四、五生、東京、梅村忠藏二女
女　郁　大三、七生

君は東京府人飯塚永六の長男にして明治二十年十月四日を以て生れ大正七年家督を相續す養産家たり家族は尙妹富（明二三、一〇生）弟美之吉（同二六、一生）同妻壻子（同三七、一二生、東京、長塚治兵衛二女）及其一子妹ゆう（同二八、七生）あり妹恭（同三七、四生）は東京府人猪瀬計之助長男美計に嫁せりA八〇〇（東京市下谷區上野櫻木町三六電下谷一八九〇）

飯塚知信

職業　アイ
妻　貞子
男　知義　大一一、一〇生
女　慶子　大五、四生
女　温子　大七、二生
女　好子　大八、二生

君は新潟縣人飯塚彌一郎の二男にして村山龜一郎の從弟なり明治二十五年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す同七年早稻田大學政治經濟科を卒業し農を業とし前記銀行會社の重役に擧げられ直接國稅二千百五十二圓を納め縣下の多額納稅者たり昭和三年新潟縣より選ばれ衆議院議員に當選す襲に紺綬褒章を賜ふ家族は尙四女規子（大一五、三生）二男建吉（昭二、七生）あり姉愛子（明一六、七生）は新潟縣人增田克治の母にして同シン（同二二、五生）は同縣人伊藤文吉叔父九郎太に嫁し叔父善作（文久三、一二生）は同縣人澁谷權之助の養子となれり（新潟縣刈羽郡高田村）

參照＝伊藤文吉、關矢孫一の項

高田村長、新潟縣多額納稅者、柏崎銀行取締役、百三十九銀行、柏崎瓦斯取締役、倉業、新潟縣在籍

飯塚春太郎

妻　リウ
養子　癸巳三

明治二六、七生、二女ナカ夫、群馬下城連三二男、東京高工出身

衆議院議員（群馬縣選出）、群馬縣多額納稅者、兩毛整織會社長、織物業、立憲民政黨顧問、群馬縣在籍

女　ナカ　明三二、三生、養子癸巳三妻

君は群馬縣人飯塚二葉の長男にして慶應元年一月十日を以て生れ明治十五年家督を相續す風に東京法學院英語法科を卒業し機業を營み傍ら兩毛整織會社長に擧げられ直接國稅千六百二十九圓を納め縣下の多額納稅者に列す襲に群馬縣會議員に選ばれ桐生織物同業組合長及同顧問に擧げられ又渡良瀨水電日本絹織等各會社の重役に就任す大正九年以來衆議院議員に當選する事五回立憲民政黨に屬し現に同黨顧問たり曾て再度歐洲各國支那印度南洋方面を視察し又實業續勵の廉により綠綬褒章を賜はる家族は尙孫秀子（大一一、一生、養子癸巳三長女）同將尊（同一三、四生、同長男）同憲（昭二、一生、同二女）同勝美（同五、一生、同二男）あり弟宇麻志（明五、九生）は同妻トメ（同一一、六生、群馬、斉部忠吉郎五女）及其子女を伴ひ同運男（同一七、三生）は同妻政江（同二五、一生、群馬、吉田儀平七女）及其四男を伴ひ各分家し同八彦（同一二、六、六生）は栃木縣人木村ハルの入夫となり長女つや（同三一、一生）は群馬縣人田村吉之助に姉カツ（文久二、二生）は同縣人毒馬市五郎長男德次郎に妹シヤ（明元、五生）は同縣人周東友吉二男嘉吉に同タネ（同七、一一生）は同縣人新井澤次郎三男福太郎に嫁せり（群馬縣山田郡廣澤村）

飯塚春之助

妻　八重
男　仁太郎　明一七、五生
婦　家壽子　二女　きよ子　大元、一二生

三河屋、濁酒製造業及食堂經營主、東京府在籍

君は東京府人鈴木榮藏の長男にして明治十一年三月二十三日を以て生れ同三十八年飯塚八重の入夫となり家督を相續す三河屋と稱し濁酒製造業及食堂を經營す家族は尙五男宗司（大六、一一生）四女ひさ子（同九、二生）七男太郎（昭二、五生）あり三男善三郎（明四三、四生）は東京府人飯塚庄三郎の養子となり四男英夫（大三、一二生）は同府人西川きんの死跡を相續せりA五三〇B二一五（東京市牛込區横寺町七電牛込一一三三）

參照＝飯塚善三郎の項

明治三八、一〇生
婦　鶴子
男　修二　大三、六生
女　さち子　大六、九生

君は兵庫縣人飯沼剛明の長男にして明治十年九月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十五年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に勤務し後轉じて大正海上火災保險會社に入り取締役兼支配人に擧げられ現に專務取締役にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙三男琴（大五、八生）孫爛介（昭四、七生、長男進長男）弟壽（明二四、五生）同妻三香（同三三、一〇生、兵庫、西脇凱香姉）及其二子七弟明妻澄（同二八、一二生、東京、吹田順助妹）及其二子あり長女とし子（同四〇、七生）は東京府人小松岩彥長男清彥に嫁せりA四二二八（兵庫縣武庫郡本山村野寄六八一電御影二八三〇）

參照＝吹田順助の項

飯塚文市

妻　リヨウ
男　幸一　明四〇、六生、長男幸一妻、廣島山中周次郎二女
婦　延子

石見實業㈱社長、石見實業新聞社長、島根縣士族（研溪）平田正表長女

明一一、七生、島根、士、故

明三四、一〇生、藥學士

飯塚家は舊石州津和野藩に禮式師範を以て仕へたる家柄なり君は山口縣人故渡邊鶴松の三男にして明治十年十月十七日を以て生れ先代正居の養子となり昭和四年家督を相續す現時石見實業會社社長にして襲に島根縣會議員美濃郡會議員益田町商工會頭等に擧げられし事あり又石見實業新聞及記念圖書館モーターサイレンを自立經營し朝鮮蔚山に飯塚經營部を設置又三千浦築港埋築を完成す家族は尙孫道正（昭五、一生、長男幸一長男）同幸子（同七、一生、同長女）あり長女絢子（明三七、七生、女子商業出身）は愛媛縣人工學士矢野雅雄に二女二三子（同四一、五生、日本女大出身）は長野縣人陸軍少將鹿澤義夫二男法學士滋に嫁せりA六〇〇B二〇〇（島根縣美濃郡益田町庚申洞耕釣莊電益一一）

飯塚彌太郎

妻　はな
姉　大元、八生
男　正治郎　大七、二生
女　千代子

青木商店、靴類商、東京府在籍

君は東京府人青木彌三郎の長男にして明治元年十月二十日を以て生れ後飯塚忠藏の養子となり同三十四年分れて一家を創立す青木商店と稱して靴類商を營む家族は尙二男孝三郎（大五、一生）三男義之助（同八、九生）四男榮藏（同一〇、五生）ありA八二一B七九（東京市日本橋區小傳馬町三ノ五ノ九電濱花三四八八）

飯塚陽平

妻　冬
女　秀代

從五位勳六等、學習院教授、茨城縣在籍

明一六年生、茨城、淺沼廣道二女

明三九年生、仙臺市立第二高女出身

君は茨城縣人にして明治六年四月十五日を以て生る同二十八年先進學院を卒業し爾來正則英語學校講師長野中學校教員中央大學國學院大學各講師大連マチユリ

ア・デリー・ニュース社編纂員日本大學講師第二高等學校教授東北帝國大學講師を經て大正十四年學習院教授に任じ今日に至る同八年英語及英文學研究の爲英米に留學す（東京市板橋區練馬南町二ノ三七一九）

飯塚由次郎

酒類商、東京府在籍
男　友一郎　明二七、一一生、隆文館㈱取締役、法學士、辯護士
婦　雪枝　明三三、二生、長男友一郎妻、東京、鹿島清兵衛二女
婦　くに　文學博士坪內雄藏養子、成女高女出身
男　生四郎　明四〇、三生
婦　雪枝　明四四、一二生、四男生四郎妻、東京、島田辰太郎長女

君は東京府人飯塚仁兵衛の二男にして明治四年十二月を以て生れ同二十三年家督を相續す酒類商を營む家族は尙孫五郎藏（大一〇、六生、長男友一郎長男）同やなぎ（同一一、六生、同長女）同登喜子（昭八、三生、四男生四郎長女）弟茂五郎（明一六、七生）あり長女美鶴（同三七、二生）は東京府士族水野錦香長男錦治郎に二女鉦（同四一、七生）は同府人西川國彥に養妹小ひさ（同五、一一生、東京、高木和助長女）は同府人佐藤興三郎に嫁し四女秀子（大二、二生）は千葉縣人長谷川とよの養子となり姉あさ（文久三、七生）は東京府人飯塚善三郎の祖母たりA八七六（東京市神田區元久右衛門町一ノ一電淺草六八八〇）

參照＝飯塚善三郎、坪內雄藏の項

飯塚林藏

地主、東京府在籍
妻　カネ　明二二、八生、東京、水野斧吉長女
男　正雄　大一四、二生
女　駒子　大八、一生

君は東京府人先代林藏の三男にして明治十七年三月五日を以て生れ大正十一年家督を相續し前名丈太郎を改め襲名す地主たり家族は尙四女テル（大一一、一生）五女ミつ子（昭四、八生）ありA三〇一（東京市中野區本町通三ノ二四）

飯沼一省

從五位勳六等、埼玉縣知事、鴻島縣在籍

君は鴻島縣人にして明治二十五年二月を以て生れ大正六年東京帝國大學法律學科を卒業す同年內務屬となり關從靜岡縣志太郡長靜岡縣理事官兼錢道書記官兼復興局書記官內務書記官兼神宮主事兼復興事務局書記官等を歷任し其間神社局總務課長復興事務局庶務課長等に歷補次で內務書記官に任じ大臣官房都市計畫課長を經て昭和九年七月埼玉縣知事に就任す（浦和市浦和町埼玉縣知事官舍）

飯沼喜一郎

母　津禰　明二八、一二生、飯沼本家㈱專務取締役
男　喜久藏　明二九、三生、長男喜久藏妻、千葉、能勢鬼一妹
婦　雄　弘化三、五生、千葉、京增傳次郎二女

君は千葉縣人飯沼治右衛門の長男にして元治元年三月を以て生れ明治十四年家督を相續す酒造業を營み株式會社飯沼本家を經營し其社長として知られ直接國稅六百二十二圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三男展（大五、四生）孫喜重（同八、一生、長男喜久藏長男）同糸子（同一三、五生、同長女）同藤子（同一五、七生、同二女）あり長女くに（明二三、八生）同夫定次（同二〇、二生、千葉、野平要作二男）は其二子と共に弟松之進（同一五、二生）同妻ます（同二五、六生、千葉、加藤新五郎長女）は其二子と共に各分家し養子せつ（同一一、六生、千葉、土屋幾之助長女）は千葉縣人小澤三藏に嫁せり四女ちか（同四三、一生）は同縣人宮島芳兵衛に妹しの（同三、一生）は同縣人鈴木忠兵衛三男林藏に嫁せり（千葉縣印旛郡酒々井町）

飯沼剛一

父　剛明　大正海上火災保險㈱專務取締役、日本ホルベージ㈱取締役
妻　キク　明一八、二生、東京、出倉九石衛門長女

天保一四、一一生、千葉、川口市藏二男、兵庫縣在籍

飯沼武作

妻　さく　明一一、六生、岐阜、奥田四良久二女
男　堯治　明三四、九生
婦　豐子　明四一、一生、二男堯治妻、岐阜渡部塚次郎二女
女　昌子　明四一、一生
女　豐子　大二、一生
女　欽子　大六、一〇生

名古屋株式取引所取引員、岐阜縣在籍

君は岐阜縣人先代武作の二男にして明治五年七月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名悌吉を改め襲名す名古屋株式取引所短期取引員にして養に名古屋殖產會社取締役に擧げられる家族は尙六男武夫（大一二、三生）孫俊雄（昭四、七生、二男堯治長男）あり三男甲子郎（明三六、一二生）は岐阜縣人奥田加代の死跡を相續せりA二三五九B五九五（名古屋市東區田代町岩谷四〇電東七四〇一）

飯野逸平

父　忠常　安政三、一一生
妻　イヨ　明二八、五生、東京、高羽靈次妹

日本陶器㈱專務取締役、森村組㈱顧問、愛媛縣士族

男　進　明四八、一〇生
婦　鶴子　明四一、八生、長男進妻、京都、喜多村隆重妹

君は兵庫縣人飯沼剛明の長男にして明治十年九月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十五年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に勤務し後轉じて大正海上火災保險會社に入り取締役兼支配人に擧げられ現に專務取締役にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙三男琴（大五、八生）孫爛介（昭四、七生、長男進長男）弟壽（明二四、五生）同妻三香（同三三、一〇生、兵庫、西脇凱香姉）及其二子七弟明妻澄（同二八、一二生、東京、吹田順助妹）及其二子あり長女とし子（同四〇、七生）は東京府人小松岩彥長男清彥に嫁せりA四二二八（兵庫縣武庫郡本山村野寄六八一電御影二八三〇）

參照＝吹田順助の項

女　千代子　大七、二生
女　益子　大八、一二生

君は愛媛縣士族飯野忠常の長男にして明治十七年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す夙に宇和島中學校を卒業し同三十七年森村組に入り累進して同社取締役に擧げられ現時日本陶器會社事務取締役森村組顧問たり弟憲治(明二五、三生)は愛媛縣士族村崎陳久の養子となり叔母ユウ(嘉永四、一一生)は前記村崎陳久に姉富江(明一三、七生)は同縣人宮崎誠義に嫁せりA六八八九(名古屋市東區德川町二ノ七電東五一八九)

參照‖高羽憲次、高羽惣兵衛、宗宮本史の項

飯野喜四郎

妻　ヨメ　埼玉縣參事會員、大宮合同運送、岩槻合同運送、運送相互保證各㊞取締役、武州鐵道運送浦和合同運送各㊞代表社員、埼玉縣在籍
男　浩次　明二、七生、埼玉、武蔵七三郎妹
婿　時子　明二五、四生、三菱商事會社伯林支店長、法學士
　　脇田勇長女　明三六、八生、二男浩次妻、東京

君は埼玉縣人飯野吉之丞の長男にして明治元年六月を以て生れ同十八年家督を相續す現時前記會社の重役たる外鐵道省上野運送事務管内指定運送取扱人會長にし明治二十七年以來埼玉縣會議員に選ばれ現に同縣參事會員たりし事あり家族は尚孫繁(大一三、七生、二男浩次長男)同國雄(昭五、三生、同三男)あり二女美(明三〇、五生)は埼玉縣人銑鐵共同販賣會社支配人桃木長治に四女千代(同三八、三生)は同縣人警視廳技師工學士石井桂に嫁せり(埼玉縣南埼玉郡綾瀬村電五)

飯野三一

二幸㊞監査役、三越㊞本店營業部長、東京府士族
妻　てう　明一九、三生、群馬、飯塚卯平長女
男　弘　明三九、七生、三井物產會社員、慶大經濟學部出身
男　匡　明四一、二生、三井銀行員、慶大經濟學部出身
男　誠　明四四、八生、三越社員

男　薫　大二、一一生、慶大經濟學部在學
當家は舊高崎藩主大河内家に仕へたる家柄なり君は先代飯野歸一の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十年家督を相續す少年時三越の前身越後屋呉服店桐生出張所の店員となり後本店に勤務し現時三越本店營業部次長兼販賣部長にして株式會社二幸監査役たり家族は尚弟信一(明一六、一二生)同妻たか(同二七、一卯平妹)及其二男一女あり三男豐(同四二、一〇生、三井生命保險會社員、慶大出身)は不動貯蓄銀行取締役柳井信治の養子となり弟栗郎(同一四、八生、群馬、高橋藤吉三女)は同一五、八生、群馬、飯塚卯平妹)同妻チヨ(同一五、其子女を伴ひ分家せりA七三五(東京市麻布區宮村町四二電青山七〇九四)

參照‖柳井信治の項

飯野寅吉

妻　ハル　飯能商事、飯野汽船各㊞代表取締役、運送及土木請負業
男　英一　明一六、四生、大阪、近藤常吉五女
女　ヌイ　明三六、一二生
男　雄二　明四一、五生
男　豪三　明四三、二生
女　ハナ　明四五、一生
女　惠美　大六、五生

君は福岡縣人飯野長五郎の長男にして慶應元年二月を以て生れ明治十年家督を相續す現時運送及土木請負業を營み傍ら前記各會社の重役たり養子イト(明三五、七生、大阪、飯野熊吉長女)は鹿兒島縣人侯野健輔に嫁せり(京都府加佐郡中舞鶴町上八丁目電舞二五)

飯村五郎

正八位、陸軍三等主計、衆議院議員(茨城縣選出)、辯護士
妻　慶應三、現戸主
繼母　はま　明一三、一〇生、茨城　飯野茂吉二女
妻　き系い　明二三、一三生、養父忠七長女
男　大吉　大六、一二生
女　禮子　大三、五生

君は茨城縣人飯野茂吉の二男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十三年飯村忠七の養子となる大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士を開業す大正十三年以來衆議院議員に當選すること四回現に其任に在り無所屬たり養に列國議會同盟會議に參列し歐米各國を視察す家族は尚二男大造(大一〇、三生)三男大平(同一二、七生)あり養妹きん(明二九、九生)は茨城縣人沼尻柳四郎に嫁せり(東京市淀橋區東大久保二ノ二一六電四谷七〇一三)

飯村俊二

昭和會業㊞取締役、新潟電力㊞常務監査役、新潟縣在籍
妻　ソウ　明四、一〇生、新潟、中野欽治養姉
男　俊雄　明三〇、三生、中野組㊞取締役、早大出身
婿　ミツ　明三八、三生、長男俊雄妻、新潟漆山順治三女
男　叔雄　明三七、二生
女　フミ　明四〇、一生
男　豊雄　明四三、一二生

君は新潟縣人飯村惟治の二男にして明治六年十一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同二十七年東京專門學校文科を卒業し現時前記各會社の重役たり養に新潟電氣證券會社取締役たり事あり家族は尚孫レイ(大一三、六生、長男俊雄長女)あり妹チウ(明一四、七生)は新潟縣人吉田次郎に嫁せり(新潟市白山浦一丁目電四八)

參照‖中野欽治の項

飯村保三

母　とみ　正五位勳五等、醫學博士、防疫官內務省衛生局勤務、東京府在籍
妻　フミ　明二五、一一生、神奈川、三堀爲吉長女、横濱高女卒身
男　富士郎　大八、四生
女　靜子　大四、八生、三輪田高女出身
女　美保子　大六、一生

君は茨城縣人飯村幸祐の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同二十八年家督を相續す同三十六年醫術開業試驗に合格し足利病院の主任となる同三十八年醫視廳檢疫委員に任じ後同檢疫醫千葉縣檢疫委員神奈川縣警察醫關東都督府醫務囑託青森縣技師同衛生課長靜岡縣技師同衛生課長防疫官兼靜岡縣技師を經て大正九年防疫官專任となり內務省衛生局勤務を命ぜられ傍ら宮內省防疫事務囑託を受け今日に及ぶ同十二年新嘉坡にて開催の第五回熱帶醫學會及國際腳氣會議日本代表として出席す同十五年外務省囑託となり南米に出張次で內務省より歐洲各國へ出張を命ぜられ昭和二年歸朝す同四年論文提出に依り醫學博士の學位を受く著書に「水道關係」「消毒方法關係」の二種あり家族は尚二男武郎(大一〇、一〇生)あり姉きく(明七、四生)は東京府人板橋春三郎の未亡人たりA一六三(東京市淀橋區西大久保三ノ五一電四谷五一九一)

飯室照次

妻　津名　資產家　明二九、九生、兵庫、花房敎三女

君は京都府人醫師飯室省三の二男にして同明治郎の從弟なり明治四十四年一月四日を以て生れ昭和八年家督を相續す現時京都帝國大學に在學す資產家たり家族は弟三郎右衛門(大元、一〇生、大阪醫科醫專在學)同四郎右衛門(生年月同上、關西學院在學)妹攝(大九、一〇生、金蘭高女在學)あり(兵庫縣武庫郡瓦木村高木三六七電西宮一一六六)

飯盛里安

妻　ユク　理學博士、理化學研究所主任研究員、東京府士族
男　武夫　明二二、九生、養父挺造二女
男　明五、三生

君は石川縣士族加藤里信の弟にして明治十八年十月を以て生れ後先代挺造の養子となり大正五年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し後理學博士の學位を授與せられ現時理化學研究所主任研究員たり家族は尚二男昌三(大五、九生)四男健造(同一二、八生)二女昭(昭三、二生)あり長女晴(大三、三生)は東京府人尾島碩宥長男碩心に嫁し三男宏は父の生家加藤家の家籍に入る(東京市豊島區巣鴨一ノ一〇三、大塚六二一一)

參照‖尾島碩宥の項

飯森梅男

母　ふさ　火藥工業、中外投資、日本導火線日本雷管製造各㊞取締役、大日本レザー、日本針布、日本蓆弾製造、朝日レザー、南滿火工品各㊞監査役、日本火藥製造㊞支配人
妻　道子　石川縣士族
男　正康　明二七、一〇生、東京、坪野平太郎長女
女　義子　大九、七生
男　大四、九生
女　大五、一二生

君は石川縣士族飯森則正の二男にして明治十六年二月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時日本火藥製造會社支配人の外前記諸會社の重役たり家族は尚二男義眞(大二二、二生)三男忠康(同一五、一生)三女則子(昭四、一一生)ありA六三六(東京市淀橋區下落合二ノ六二五電大塚三八六七)

飯山三治

妻　ミヨ　臨港倉庫㊞監査役、四十物商
男　三作　新潟縣在籍
姉　ハナ　明一二、六生、養父勝吉長女
孫　ミツイ　明三三、五生
女　ミツ　明三六、八生、長男三作妻、新潟平石量平長女
孫　明三〇、一二生、亡養子寅次郎妻
孫　大八、九生、亡養子寅次郎長女

君は新潟縣人片野平治の三男にして明治七年十月を以て生れ後飯山家の養子となり同三十八年養弟勝吉方より分れて一家を創立す四十物商を營み現時前揭各會社の重役にして直接國稅千三百十五圓を納め縣下の多額納稅者たり養に新潟商工會議所議員に選ばる家族は尚孫繁三(大六、二生、亡養子寅次郎長男)同三吉(同一四、一二生、長男三作長男)あり二女マス(明三五、一三生)二女イシ(同三七、七生)は新潟縣人星野元一に三女ハル(同三九、五生)は新潟縣人安倍邦男に嫁せり(新潟市上大川前通七番町電六二五)

飯山助三郎

資產家　東京府在籍
父　福太郎　明三二、八生、東京、久保井銀次郎長女
妻　しま　敬太郎　大一五、一二生

當家は東京市大森區池上町土着の農家なり君は飯山福太郎の長男にして明治二十七年十一月を以て生る資產家たり家族は尚長女政子(大一二、一〇生)二女博子(昭三、一一生)あり弟源之助(明三三、二生)同次郎(同四一、二生)は各分家せりA三八〇(東京市品川區北品川宿二ノ一四)

家城尚由

十二銀行㊞常務取締役、富山縣士族、豪灘地所建物㊞取締役
母　モト　安政六、一生、東京、士、堀重里伯母
妻　シケ　明二四、七生、富山、水野庄逸叔母
男　尚忠　明三八、一二生
男　三郎　明四三、一二生
女　操　大元、一二生

君は富山縣士族家城尚政の長男にして明治十三年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十八年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し後十二銀行に入り取締役兼總務部長を經て現時常務取締役に就任し傍ら臺灣地所建物會社取締役たり家族は尚男穣四郎(大四、一〇生)三女トキ子(同九、一一生)あり五男慶五郎(同一二、八生)は富山縣人細川ソノに弟次郎(明一六、七生)同妻ミドリ(同二一、五生、富山、士、高島直介長女)は其の二子を伴ひ同意之介(同二一、一二生)同妻貞(同三三、二生、富山、奥野兵藏孫)は其二女を伴ひ各分家し妹サダ(同二五、一生)は富山縣人大松直重に同ノブ(同二七、一二生)は東京府人永山友に嫁せり(富山市星井町二二九)

參照‖堀重里の項

家村末熊

正五位勳五等、營林局事務官、熊本營林局庶務課長、鹿兒島縣在籍
父　半太郎　嘉永二、七生
母　タメ　嘉永四、六生、鹿兒島、安樂新助三女

妻　キヌ　明三一、五生、宮崎、山本祐安長女

君は鹿兒島縣人家村半太郎の五男にして明治二十三年五月を以て生る大正四年同大學法科大學政治經濟學科を卒業し翌年文官高等試驗に合格爾來農商務屬山林事務官稲山林事務官營林局事務官營林事務官等に歷任し現時前記の官職にあり曩に歐米各國に出張を命ぜらる家族は尚長女昌子（大一〇、七生）兄盛吉（明一二、四生）同妻まつ（同二四、一二生、千葉、大多和敏夫姉）兄吉次郎（同一七、一生）同妻ヒヤ（同二七、九生、鹿兒島、土器屋勳妹）及其子女の外亡兄陳吉妻ナエ（同二五、一二生、鹿兒島、福山茂吉八女）及其一子あり（熊本市京屋本町一七電一六一三）

庵谷　忱（マコト）

妻　つねよ　明二三、三生、長野、黒河内芳造長女

磐　大六、一一生、成城學園在學

君は岡山縣人庵谷彌太郎の二男にして明治八年十二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十三年支那に留學し同三十五年外務省參謀本部の囑託に依り滿洲及山東省に於て特別任務に從事し引續き日露戰役に從軍す獨來滿洲にありて實業界に入り現に奉天商工會議所會頭の要職にある外前掲諸銀行會社の重役たり曩に關東廳より功勞を表彰せられ昭和二年の御大典には滿洲に於ける產業功勞者として銀杯を賜はる同六年の滿洲事變には關東軍々司令官の囑託に依り奉天市政公署總務課長として同國人の信頼を一身に集め以て滿洲建國の創業に貢献する所尠からず同九年三月滿洲國皇帝の卽位式には南滿洲在住邦人の民間唯一代表者として其盛典に招かる名利に恬淡自ら求むる所なく事業を其趣味として滿洲實業界の重鎭たり家族は尚三女靜枝（大九、二生）あり長女澄子（同二、一〇生）は山口縣人南滿洲鐵道會社員法學士村上國平に嫁せり（奉天市琴平町一〇電二六二七）

筏井　甚作

妻　國　明四三、一二生

男　甚一　明四五、一生、昭和汽船社員、大阪高工出身

女　壽　明四三、八生、甲南高女出身

男　智夫　大二、六生、關大在學

男　三郎　大三、一〇生

君は富山縣人筏井儀四郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十三年先代祖父甚造の後を承け家督を相續す夙に憲應義塾大學部理財科を卒業し曩に中越汽船社長たり乘馬園藝書畫彫刻園芸テニス辯畫等多趣味なり家族は尚四男芳助（大七、七生）二女美世（同九、八生）叔祖母やい（弘化三、五生、曾祖父甚左衛門二女）あり叔母さと（明一六、五生）同夫多吉（同一二、七生、富山、石黒賢太郎弟）は其子女を伴ひ分家し同とみ（同一七、八生）は石川縣人北豊吉に嫁せり（富山縣射水郡二塚村）

參照‖子爵一柳末幸の項

筏井　壽夫

昭和商船㊟代表取締役、東亞エナメル㊟取締役、富山縣在籍

妻　智惠子　明二一、二生、子爵一柳末幸大叔母

男　壬子一　明四五、一生、昭和汽船社員、大阪高工出身

女　壽　明四三、八生、東京、黒田善太郎妹、東京女學館出身

男　俊夫　大六、九生

君は群馬縣人生明米太郎の長男にして明治十八年三月を以て生れ同三十二年家督を相續す同四十三年東京高等商業學校を同四十五年同校專攻部を各卒業し計理士となり大正三年川崎銀行に入り同行淺草富澤町京都各支店長を經て昭和二年川崎信託會社常務取締役となり同四年十月同社常務を辭し取締役となり現時川崎定德合資會社調査役の外前記各會社の重役に擧げられ今日に至る家族は尚二男實（大九、五生）長女富美子（昭二、一一生）あり A八〇七（東京市品川區五反田六ノ一九一電高輪三六〇五）

參照‖黒田善太郎淡橋本直一の項

生悅住　ヒデ

賣藥家　兵庫縣在籍

養子　義秀　明四〇、一一生、京都、長藤義明長男

君は兵庫縣人生悅住八兵衛の三女にして明治四年十二月を以て生れ同三十五年妹ツルの後を承けて家督を相續す賣藥家たり妹ツル（明九、二生）は鳥取縣人新田近藏長男儀一に嫁せり A三四六（神戸市須磨區若宮町一ノ一七電須磨三〇）

男　信一　明三九、一〇生

男　慶四郎　明四四、七生

男　正吾　大二、六生

女　直江　大四、七生

女　登美子　大六、九生

君は大阪府人碇伊三郎の長男にして明治十一年四月を以て生れ同十四年家督を相續す金屬品製造業を營む家族は尚六男守六（大八、一〇生）八男領八（同一五、八生）孫泰江（昭八、一生、長男鎭一長女）あり三男義三（明四二、七生）は大阪府人高瀨芳三の養子となれり A二四四六B三三四（大阪市東區和泉町一ノ二八電東一四二）

生明市太郎

妻　愛　明二七、八生、東京、黒田善太郎妹、東京女學館出身

男　俊夫　大六、九生

君は群馬縣人生明米太郎の長男にして明治十八年三月を以て生れ同三十二年家督を相續す同四十三年東京高等商業學校を同四十五年同校專攻部を各卒業し計理士となり大正三年川崎銀行に入り同行淺草富澤町京都各支店長を經て昭和二年川崎信託會社常務取締役となり同四年十月同社常務を辭し現時川崎定德合資會社調査役の外前記各會社の重役に擧げられ今日に至る家族は尚二男實（大九、五生）長女富美子（昭二、一一生）あり A八〇七（東京市品川區五反田六ノ一九一電高輪三六〇五）

參照‖黒田善太郎淡橋本直一の項

生垣　賢造

伊那電氣鐵道㊟常務取締役、松諏鐵道兩總電氣㊟、鐵道電氣證券各㊟取締役、長野縣在籍

妻　ゐよ　明二四、九生、石川、大間忠作長女

男　正信　大元、一一生

女　淑子　大七、一生

君は石川縣人生垣五右衛門の二男にして明治十三年七月を以て生れ大正三年兄耕八方より分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し現に伊那電氣鐵道會社常務取締役たる外前掲諸會社の重役を兼ぬ家族は尚二男讓信（大四、八生）三男賢（同一〇、四生）四男浩（同一三、四生）五男要（昭二、二生）二女美和子（同四、八生）あり（長野縣上伊那郡赤穗村）

參照‖※吉國文吉の項

生駒　勇

正五位勳四等、日本電業、八王子瓦斯各㊟取締役、東京府在籍

妻　繁　明一五、五生、東京、士、和田屯長女

男　政明　明三七、一二生

女　春子　明三六、一生

女　文子　明四五、一生

君は東京府人生駒平太夫の長男にして明治四年七月を以て生れ同十五年叔父政美の後を承け家督を相續す同三十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し鐵道技師鐵道國有準備局技師水力調査局技師等に歷任し大正二年退官現時前記諸會社の重役にして曩に京濱電力會社取締役たり A四一四（東京市品川區五反田六一六電高輪三二九一）

參照‖※和田弘の項

生駒　宇吉

生駒奈良漬本店、漬物商

養母　ミキ　慶應二、九生、京都、八木茂七三女

妻　ミチ　明二六、一二生、京都、和田立次郎三女

長男　善次郎　大七、六生

庶子　善雄　明四三、五生、現戸主、生母、大阪、生駒ツル

庶子　壽美子　明四四、一〇生、生母、大阪、生駒ツル

庶子　千代子　大二、五生、生母、大阪、生駒ツル

君は和歌山縣人小原重助の二男にして明治十九年五月を以て生れ生駒ミキの養子となる現時漬物商を營み生駒奈良漬本店と稱す A三〇五B一五二（大阪市西區江戸堀下通一ノ四五電土佐堀二三四）

生駒勘左衛門

笹屋、家主　大阪府在籍

妻　季子　明二九、一〇生、先々代勘左衛庶子

男　高夫　昭二、一生

女　昌子　大六、九生

君は大阪府人貴志彌右衛門の弟にして明治二十一年三月を以て生れ大正四年先代季子の入夫となり當家第十一代家督を相續し尚名彌三郎を改む夙に大正四年早稲田大學商學部を卒業し笹屋と稱し舊家として知られ現時家主たり A一三〇一（大阪市北區老松町三ノ六五電北五六八）

參照‖貴志彌右衛門の項

生駒吉之助

生駒商店㊟取締役、時計商

妻　フデ　明二四、一二生、養父權七次女

久代　大二、六生

女　つみ江　大五、三生

君は福岡縣人芳村貞右衛門の次男にして生駒權七の養子となり大正九年分れて一家を創立す先是明治四十一年早稲田大學商科を卒業し時計貴金屬商を營み現に生駒商店取締役たり昭和四年五月米國ダラス市に開催されたる第二十回國際ロータリー大會に出席す家族は尚三女知津子（大九、四生）四女みや子（同一〇、一二生）五女陽子（昭二、一二生）あり A三八九（兵庫縣武庫郡御影町郡家電御影三一九二）

參照‖生駒齋吉、生駒權七の項

生駒　源藏

家主　大阪府在籍

妻　ミチ　明一一、一生、大阪、南治好姉

男　泰治　明三三、七生

婿　圭　岩田種吉二女　明四〇、七生、二男泰治妻、兵庫

女　知香枝　大二、四生

生駒家は先々代タカ和歌山縣の素封家生駒慶三郎方より分れて一家を創立し夫源藏を迎へて質商を營みたるに創まる君は同地の舊家吉田庄右衛門の二男にして明治七年五月を以て生れ先代源藏の養子となり同二十九年家督相續と共に襲名して前名辰補を改む祖業を廢し現時家主たり家族は尚孫巷一（昭五、四生、二男泰治長男）同素子（同六、八生、同長女）あり長女奈良惠（明二七、三生）は和歌山縣人南方茂兵衛長男秀雄に嫁し三男俊夫（大七、一生）は外嚴南治好の養子となれり A七〇一（大阪市住吉區帝塚山西四ノ二六電住吉二五〇八）

生駒　權七

生駒商店㊟代表取締役、時計裝身具商、兵庫縣在籍

妻　久子　明三八、七生、大阪、前川良藏三女、大阪府立清水谷高女出身

祖母　コマ　元治元、二生、大阪、赤松與兵衛先々代與兵衛二女

男　一夫　昭三、一生

當家の祖は奈良縣生駒村より出づ代々刀劍商を營み明治四年曾祖父權右衛門に至り時計商を兼營し今日に至る君は生駒林四郎の長男にして生駒齋吉同吉之助の養男なり明治三十一年八月を以て生れ大正十一年祖父權七の後を承け家督を相續し前名林之助を改め襲名す府立北野中學校を經て神戸高等商業學校に學び同九年卒業後專ら生駒商店を經營し同業者間に名あり家族は尚長女俊子（大一五、五生）あり弟弘三郎（明三三、一二生、神戸高商出身）同勝三郎（同三八、三生、慶大出身）は各分家し妹ミサ（同三六、一二生、神戸高女出身）は日本生命保險社員神戸一郎に嫁せり A二三七三（大阪市東區平野町二ノ三電本局八四五）

參照‖赤松與兵衛、生駒吉之助、生駒齋吉※赤松小一郎※大谷宗貳の項

生駒　齋吉

生駒商店㊟取締役、南鶴崎土地㊟監査役、時計商、大阪府在籍

妻　レイ　明三二、三生、養父權七女
男　健一　大一〇、四生
女　鈴江　明四二、一〇生
女　なつ子　大四、六生

君は大阪府人末野五兵衛の三男にして同齊兵衛の弟生駒權七の養叔父同吉之助の養兄なり明治十九年九月十四日を以て生れ同四十二年生駒家の養子となり大正九年分家して一家を創立す先是明治四十年大阪高等商業學校を卒業し時計銀器裝身具商を營み現に生駒商店取締役にして南福崎土地會社監査役を兼ぬ家族は尙女壽子（昭六、一生）ありA一九一六（大阪市東區平野町二ノ三〇ノ一電話本局九〇一・八四五）

參照＝生駒權七、生駒吉之助、末野齊兵衛の項

生駒重彦

妻　トヨ　明一四、一〇生、福井、土方兵次郎長女
男　重幸　明四〇、一二生
男　利子　明四五、二生、長男重幸妻、伯爵奥保矢長女
婿　照子　大二、九生、女子學習院出身

君は福井縣士族生駒才次郎の二男にして明治九年十月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す先是明治三十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現に名古屋商工會議所常議員日本放送協會本部理事にして燒津水產銀行取締役の外前記各會社の重役たり蘭に明治銀行頭取日本夢酒鑛泉櫻夢酒各會社の重役たりしことあり家族は尙三男靜馬（大七、八生）あり七女幸子（明四二、一〇生）は福井縣士族山田カメの家督を相續し弟文彦（同一五、一二生）は同縣士族山田初彌の養子となり妹トヨ（同一八、三生）は同縣人藤龜彦長男安雄に嫁せりA八二七四（名古屋市東區鍋屋上野南山三二七六ノ六六六電東三二四「別宅」東京市牛込區若松町一〇二電牛込三三〇七）

名古屋商工會議所常議員、燒津水產銀行、堀川土地、名港土地、國民新聞社、名古屋ホテル、東陽倉庫各株取締役、名古屋土地興業取締役、古屋土地興業取締役、福島電燈各株監査役、福井縣在籍合同瓦斯株監査役、日本放送協會本部理事及東海支部監事

生駒高常

父　八十郎　從四位勳三等、拓務省管理局長
母　うた　安政五、八生、愛媛、士、池内金吉兄
妻　和子　慶應元、八生、祖父如獄長女
男　高康　明二八、四生、兵庫、田艇吉四女
男　大一五、二生　大阪府立清水谷高女出身

君は兵庫縣士族生駒八十郎の長男にして明治二十二年七月を以て生れ大正十年家督を相續す同二年東京帝國大學法科を卒業尋で文官高等試驗に合格し專賣局書記兼大藏屬警視廳警視岡山縣理事官臺灣總督府事務官兼同參事官內務局事務課長同總督祕書官官房文書課長兼調査課長臺中州知事等に歷任し昭和四年拓務省管理局長に任ぜらるる華に歐米各國及モロッコに出張し更に昭和八年朝鮮關東州及滿洲各國に出張を命ぜらる姉豐子（明二〇、三生）は司法大臣小原直に嫁せり（東京市世田谷區玉川奥澤町二ノ五九七電高輪八二八四）

參照＝小原直、田艇吉※田昌※小谷哲※吉田平吾※大木彝雄の項

生駒萬治

妻　ならゑ　明一六、八生、和歌山、木田定三郎三女
男　肇　明三九、七生、文部省勤務、法學士
女　文子　明四二、四生、御茶の水高女出身
男　進　明四五、六生

君は三重縣人生駒憲藏の二男にして慶應三年一月を以て生れ明治十年兄定市の後を承け家督を相續す同二十一年三重縣疇常師範學校を卒へ同縣河田郡高等小學校を卒へ同縣士族山田初彌の養子となり同二十五年高等師範學校理學科を卒業し同校助教授に任じ同教授に進み同三十一年獨逸に留學し歸朝後同校教授兼教諭となり大正二年文部省督學官に轉じ現時佐賀高等學校長たり家族は尙三男勇（大五、一生）四男巍（同七、一二生）五男治（同一二、六生）あり（佐賀市赤松町西堀鎗官舍電二九五）

從三位勳二等、佐賀高等學校長三重縣在籍

生駒道孝

養父　光男　明四〇、五生、從五位
當家は藤原時平の遠裔生駒雅樂頭親正の後なり親正初め豐臣氏に屬し功あり讃州高松十八萬五千石に封ぜらる其子孫に至り羽後矢島一萬二千石に貶せらる侯爵池田宣政四代前慶政四男親忠入りて之を繼ぐ先代光男は親忠の三男にして子爵池田政時の男に當り先々代兄慶男の後を承く君は先代光男の叔從父道顯の庶子にして明治四十五年一月を以て生れ昭和五年先代光男の養子となり家督を相續し襲爵被仰付家族は尙妹正枝（大四、八生）同良子（同七、一〇生）養伯母鐵子（明三五、四生）養叔母喜代（大元、一〇生）あり（東京市下谷區竹町一）

從五位男爵東京府華族

參照＝子爵池田政時の項

生澤元造

養子　盛　明二五、七生、鹿兒島、山元治吉四男

君は大阪府人生澤六次郎の長男にして元治元年二月を以て生れ先代平次郎の養子となり明治四年家督を相續す現に金融業を營む家族は尙孫元次（大六、一一生、養子盛長男）同景好（大一一、六生、同二男）同儀造（同一四、一生、同三男）ありA二四八（大阪市西區南堀江町二ノ一三電櫻川一九八二）

金融業　大阪府在籍

生駒榮三

妻　久榮　明二六、一生、兵庫、垂井庄助長女
男　榮一　大八、一生

君は大阪府人現戸主五郎兵衛生島賢三の弟にして明治二十四年九月を以て生る丸五と稱し漆器商を營む家族は尙長女喜久子（大一一、七生）二男二郎（同一三、二生）ありA一四九六（大阪市東區唐物町三ノ二〇電船場二〇五五）

參照＝生島五郎兵衛、生島賢三の項

生島榮三

丸五、漆器商　大阪府在籍

生島賢三

丸五、漆器商　大阪府在籍

妻　うた　明二四、五生、兵庫、上野重吉二女
男　賢司　大七、三生

君は大阪府人生島五郎兵衛の弟同榮三の兄にして明治二十二年十月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す丸五と稱し漆器商を營む（大阪市東區唐物町三ノ二〇電船場二〇五五）

參照＝生島榮三、生島五郎兵衛の項

生島五三郎

妻　きと　明八、一二生、兵庫、安國幸左衛門姉
男　敏治　明二九、一一生、檢事、東大出身
婿　博子　明三六、二生、長男敏治妻、愛知伊藤由太郎二女
男　治　明三七、九生、東京美術學校出身
女　智惠葉　明四四、一生、兵庫縣立高女出身
女　民子　大二、三生、甲南高女出身

生島家は神戸市草分の舊家なり君は大阪府人辻元松五郎の弟にして生島五郎兵衛の養兄なり明治元年二月を以て生れ先代みのの養子となり同二十七年家督を相續し前名竹五郎を五三郎と改む松屋と稱し地家主にして養に縣下の多額納稅者たり家族は尙孫五三治（大一四、九生、長男敏治長男）あり二女喜美代（明三五、一生、神戸市立高女出身）は大阪府人芝川榮助長男榮一に四女美保子（同四一、七生、兵庫縣立高女出身）は兵庫縣人山邑英一郎に嫁し三女利子（同三六、四生、神戸市立高女出身）は同矢健兒（同三二、三生、兵庫、岩田爲治郎二男）と共に其一子を伴ひ分家せり（神戸市灘區岩屋二七二ノ三電御影二八二四）

松屋、地家主　兵庫縣在籍

生島五郎兵衛

妻　隆一　明二七、一一生
婿　るい子　明三八、三生、長男隆一妻、兵庫大原萬四郎長女
養子　敏雄　明二七、八生、長女文子夫、兵庫山路久治郎弟
女　文子　明三二、二生、養子敏雄妻、神戸高女出身
男　勝次　明三一、一生、法學士
婿　キヌ　明三八、四生、二男勝次妻、奈良藤井治郎惠門姪
男　嘉藏　明三六、六生、高松高商出身
男　泰藏　明四二、一二生

當家は古くより神戸市に住し醸造を業とせし同地草分の舊家にして赤貧產家として知らる君は兵庫縣人上西文右衛門の二男にして生島五三郎の養弟なり明治元年十七年四月を以て生れ先代五郎兵衛の養子となり同二十七年家督を相續し襲名して前名百太郎を改む現時家主にして直接國稅一萬七千六百五十九圓を納め兵庫縣多額納稅者たり家族は尙孫伸茂（大一三、一生、長男隆一長男）同るり子（昭三、六生、同長女）同美喜雄（同二、一生、養子敏雄長男）同貴久二（同四、六生、同二男）同三七（同四、一二生、二男勝次長女）あり養母みの（文政元、一一生、兵庫、生島五兵衛二女）は邸家生島家を再興せりA一二四九五（神戸市神戸區榮町二ノ七三電三宮二一七八）

參照＝生島五三郎※亀田利三郎※山邑英一郎の項

生島五郎兵衛

母　ゑい　嘉永四、一生、先々代五郎兵衛長女
妻　きみ　明二三、四生、大阪、宇治重兵衛二女
男　五郎　大七、二生
女　政江　明四四、四生

君は大阪府人先代五郎兵衛の長男にして生島賢三同榮三の兄なり明治十七年六月を以て生れ大正九年家督を相續し前名政治郎を改め襲名す養に丸五と稱し漆器商を營みしも之を弟賢三及榮三に讓り直接國稅五千七百三十一圓を納め大阪府多額納稅者に列す家主として知らる家族は尙二女滿喜子（大一五、一生）四男正夫（昭二、一〇生）弟參次郎（明一八、九生）あり（大阪市天王寺區石ヶ辻町一〇五電南五二九三）

大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍

參照＝生島賢三、生島榮三、生島五郎兵衛二女の項

生島莊三

養母　ふく　萬延元、二生、埼玉、關根八右衛門二女
養子　敏雄　明三六、八生、養父政養五女、東京、錦秋高女出身
妻　久　大二、六生
男　政一　大二、六生

君は埼玉縣人會田善治の四男にして明治十七年三月十五日を以て生れ先代政養の養子となり大正六年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し東京石川島造船所に入る大正三年之を辭し逓信技手兼逓信局技手に任じ尋で逓信局技師となり商船學校教授を兼ぬ同十年逓信技師となり現に管船局勤務にして逓信局技師農林技師を共に兼ぬ大正十三年英國米各國に又昭和四年ロンドン　再度出張を命ぜらる家族は尙二男義治（大八、一生）長女可惠子（同一一、一〇生）三男廣三郎（同一五、五生）二女美惠子（昭五、八生）ありA一四九九（埼玉縣北足立郡草加町電一五一）

正五位勳五等、逓信技師兼逓信局技師農林技師、管船局勤務　埼玉縣在籍

生島

妻　シヅ　明一七、一生、福岡、士、川庄到二女
男　新夫　明四〇、七生
男　靜夫　明四四、八生
女　節　大二、九生
女　繁子　大七、七生

君は福岡縣士族生島新作の長男にして明治十三年一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同年東京高等商業學校を卒業し現時三井鑛山會社代表取締役にして前記

三井鑛山株代表取締役、三鑛商店株取締役、昭粉販賣株監査役　福岡縣士族

生駒

妻　レイ　明三二、三生、養父權七女
男　健一　大一〇、四生
女　鈴江　明四二、一〇生
女　なつ子　大四、六生

君は大阪府人末野五兵衛の三男にして同齊兵衛の弟生駒權七の養叔父同吉之助の養兄なり明治十九年九月十四日を以て生れ同四十二年生駒家の養子となり大正九年分家して一家を創立す先是明治四十年大阪高等商業學校を卒業し時計銀器裝身具商を營み現に生駒商店取締役にして南福崎土地會社監査役を兼ぬ家族は尙女壽子（昭六、一生）ありA一九一六（大阪市東區平野町二ノ三〇ノ一電話本局九〇一・八四五）

參照＝生駒權七、生駒吉之助、末野齊兵衛の項

生駒重彦

妻　トヨ　明一四、一〇生、福井、土方兵次郎長女
男　重幸　明四〇、一二生
婿　利子　明四五、二生、長男重幸妻、伯爵奥保矢長女
女　照子　大二、九生、女子學習院出身

君は福井縣士族生駒才次郎の二男にして明治九年十月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す先是明治三十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現に名古屋商工會議所常議員日本放送協會本部理事にして燒津水產銀行取締役の外前記各會社の重役たり蘭に明治銀行頭取日本夢酒鑛泉櫻夢酒各會社の重役たりしことあり家族は尙三男靜馬（大七、八生）あり七女幸子（明四二、一〇生）は福井縣士族山田カメの家督を相續し弟文彦（同一五、一二生）は同縣士族山田初彌の養子となり妹トヨ（同一八、三生）は同縣人藤龜彦長男安雄に嫁せりA八二七四（名古屋市東區鍋屋上野南山三二七六ノ六六六電東三二四「別宅」東京市牛込區若松町一〇二電牛込三三〇七）

名古屋商工會議所常議員、燒津水產銀行、堀川土地、名港土地、國民新聞社、名古屋ホテル、東陽倉庫各株取締役、名古屋土地興業取締役、古屋土地興業取締役、福島電燈各株監査役、福井縣在籍合同瓦斯株監査役、日本放送協會本部理事及東海支部監事

生駒高常

父　八十郎　從四位勳三等、拓務省管理局長
母　うた　安政五、八生、愛媛、士、池内金吉兄
妻　和子　慶應元、八生、祖父如獄長女
男　高康　明二八、四生、兵庫、田艇吉四女
男　大一五、二生　大阪府立清水谷高女出身

君は兵庫縣士族生駒八十郎の長男にして明治二十二年七月を以て生れ大正十年家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業尋で文官高等試驗に合格し專賣局書記兼大藏屬警視廳警視岡山縣理事官臺灣總督府事務官兼同參事官內務局事務課長同總督祕書官官房文書課長兼調査課長臺中州知事等に歷任し昭和四年拓務省管理局長に任ぜらるる華に歐米各國及モロッコに出張し更に昭和八年朝鮮關東州及滿洲各國に出張を命ぜらる姉豐子（明二〇、三生）は司法大臣小原直に嫁せり（東京市世田谷區玉川奥澤町二ノ五九七電高輪八二八四）

從三位勳二等、佐賀高等學校長三重縣在籍

參照＝小原直、田艇吉※田昌※小谷哲※吉田平吾※大木彝雄の項

生駒萬治

妻　ならゑ　明一六、八生、和歌山、木田定三郎三女
男　肇　明三九、七生、文部省勤務、法學士
女　文子　明四二、四生、御茶の水高女出身
男　進　明四五、六生

君は三重縣人生駒憲藏の二男にして慶應三年一月を以て生れ明治十年兄定市の後を承け家督を相續す同二十一年三重縣疇常師範學校を卒へ同縣河田郡高等小學校を卒へ同縣士族山田初彌の養子となり同二十五年高等師範學校理學科を卒業し同校助教授に任じ同教授に進み同三十一年獨逸に留學し歸朝後同校教授兼教諭となり大正二年文部省督學官に轉じ現時佐賀高等學校長たり家族は尙三男勇（大五、一生）四男巍（同七、一二生）五男治（同一二、六生）あり（佐賀市赤松町西堀鎗官舍電二九五）

從三位勳二等、佐賀高等學校長三重縣在籍

生駒道孝

養父　光男　明四〇、五生、從五位
當家は藤原時平の遠裔生駒雅樂頭親正の後なり親正初め豐臣氏に屬し功あり讃州高松十八萬五千石に封ぜらる其子孫に至り羽後矢島一萬二千石に貶せらる侯爵池田宣政四代前慶政四男親忠入りて之を繼ぐ先代光男は親忠の三男にして子爵池田政時の男に當り先々代兄慶男の後を承く君は先代光男の叔從父道顯の庶子にして明治四十五年一月を以て生れ昭和五年先代光男の養子となり家督を相續し襲爵被仰付家族は尙妹正枝（大四、八生）同良子（同七、一〇生）養伯母鐵子（明三五、四生）養叔母喜代（大元、一〇生）あり（東京市下谷區竹町一）

從五位男爵東京府華族

參照＝子爵池田政時の項

生澤元造

養子　盛　明二五、七生、鹿兒島、山元治吉四男

君は大阪府人生澤六次郎の長男にして元治元年二月を以て生れ先代平次郎の養子となり明治四年家督を相續す現に金融業を營む家族は尙孫元次（大六、一一生、養子盛長男）同景好（大一一、六生、同二男）同儀造（同一四、一生、同三男）ありA二四八（大阪市西區南堀江町二ノ一三電櫻川一九八二）

金融業　大阪府在籍

生島榮三

妻　久榮　明二六、一生、兵庫、垂井庄助長女
男　榮一　大八、一生

君は大阪府人現戸主五郎兵衛生島賢三の弟にして明治二十四年九月を以て生る丸五と稱し漆器商を營む家族は尙長女喜久子（大一一、七生）二男二郎（同一三、二生）ありA一四九六（大阪市東區唐物町三ノ二〇電船場二〇五五）

參照＝生島五郎兵衛、生島賢三の項

生島克明

家主、資產家　東京府士族

生島賢三

丸五、漆器商　大阪府在籍

妻　うた　明二四、五生、兵庫、上野重吉二女
男　賢司　大七、三生

君は大阪府人生島五郎兵衛の弟同榮三の兄にして明治二十二年十月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す丸五と稱し漆器商を營む（大阪市東區唐物町三ノ二〇電船場二〇五五）

參照＝生島榮三、生島五郎兵衛の項

生島五三郎

妻　きと　明八、一二生、兵庫、安國幸左衛門姉
男　敏治　明二九、一一生、檢事、東大出身
婿　博子　明三六、二生、長男敏治妻、愛知伊藤由太郎二女
男　治　明三七、九生、東京美術學校出身
女　智惠葉　明四四、一生、兵庫縣立高女出身
女　民子　大二、三生、甲南高女出身

生島家は神戸市草分の舊家なり君は大阪府人辻元松五郎の弟にして生島五郎兵衛の養兄なり明治元年二月を以て生れ先代みのの養子となり同二十七年家督を相續し前名竹五郎を五三郎と改む松屋と稱し地家主にして養に縣下の多額納稅者たり家族は尙孫五三治（大一四、九生、長男敏治長男）あり二女喜美代（明三五、一生、神戸市立高女出身）は大阪府人芝川榮助長男榮一に四女美保子（同四一、七生、兵庫縣立高女出身）は兵庫縣人山邑英一郎に嫁し三女利子（同三六、四生、神戸市立高女出身）は同矢健兒（同三二、三生、兵庫、岩田爲治郎二男）と共に其一子を伴ひ分家せり（神戸市灘區岩屋二七二ノ三電御影二八二四）

松屋、地家主　兵庫縣在籍

生島五郎兵衛

妻　隆一　明二七、一一生
婿　るい子　明三八、三生、長男隆一妻、兵庫大原萬四郎長女
養子　敏雄　明二七、八生、長女文子夫、兵庫山路久治郎弟
女　文子　明三二、二生、養子敏雄妻、神戸高女出身
男　勝次　明三一、一生、法學士
婿　キヌ　明三八、四生、二男勝次妻、奈良藤井治郎惠門姪
男　嘉藏　明三六、六生、高松高商出身
男　泰藏　明四二、一二生

當家は古くより神戸市に住し醸造を業とせし同地草分の舊家にして赤貧產家として知らる君は兵庫縣人上西文右衛門の二男にして生島五三郎の養弟なり明治元年十七年四月を以て生れ先代五郎兵衛の養子となり同二十七年家督を相續し襲名して前名百太郎を改む現時家主にして直接國稅一萬七千六百五十九圓を納め兵庫縣多額納稅者たり家族は尙孫伸茂（大一三、一生、長男隆一長男）同るり子（昭三、六生、同長女）同美喜雄（同二、一生、養子敏雄長男）同貴久二（同四、六生、同二男）同三七（同四、一二生、二男勝次長女）あり養母みの（文政元、一一生、兵庫、生島五兵衛二女）は邸家生島家を再興せりA一二四九五（神戸市神戸區榮町二ノ七三電三宮二一七八）

參照＝生島五三郎※亀田利三郎※山邑英一郎の項

生島五郎兵衛

母　ゑい　嘉永四、一生、先々代五郎兵衛長女
妻　きみ　明二三、四生、大阪、宇治重兵衛二女
男　五郎　大七、二生
女　政江　明四四、四生

君は大阪府人先代五郎兵衛の長男にして生島賢三同榮三の兄なり明治十七年六月を以て生れ大正九年家督を相續し前名政治郎を改め襲名す養に丸五と稱し漆器商を營みしも之を弟賢三及榮三に讓り直接國稅五千七百三十一圓を納め大阪府多額納稅者に列す家主として知らる家族は尙二女滿喜子（大一五、一生）四男正夫（昭二、一〇生）弟參次郎（明一八、九生）あり（大阪市天王寺區石ヶ辻町一〇五電南五二九三）

大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍

參照＝生島賢三、生島榮三、生島五郎兵衛二女の項

生島莊三

養母　ふく　萬延元、二生、埼玉、關根八右衛門二女
養子　敏雄　明三六、八生、養父政養五女、東京、錦秋高女出身
妻　久　大二、六生
男　政一　大二、六生

君は埼玉縣人會田善治の四男にして明治十七年三月十五日を以て生れ先代政養の養子となり大正六年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し東京石川島造船所に入る大正三年之を辭し逓信技手兼逓信局技手に任じ尋で逓信局技師となり商船學校教授を兼ぬ同十年逓信技師となり現に管船局勤務にして逓信局技師農林技師を共に兼ぬ大正十三年英國米各國に又昭和四年ロンドン　再度出張を命ぜらる家族は尙二男義治（大八、一生）長女可惠子（同一一、一〇生）三男廣三郎（同一五、五生）二女美惠子（昭五、八生）ありA一四九九（埼玉縣北足立郡草加町電一五一）

正五位勳五等、逓信技師兼逓信局技師農林技師、管船局勤務　埼玉縣在籍

生島

妻　シヅ　明一七、一生、福岡、士、川庄到二女
男　新夫　明四〇、七生
男　靜夫　明四四、八生
女　節　大二、九生
女　繁子　大七、七生

君は福岡縣士族生島新作の長男にして明治十三年一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同年東京高等商業學校を卒業し現時三井鑛山會社代表取締役にして前記

三井鑛山株代表取締役、三鑛商店株取締役、昭粉販賣株監査役　福岡縣士族

各會社の重役を兼ぬ義に三井鐵山會社商務部長たり家族は尙四男壽榮夫(大一二、三生)五女澄子(同一五、一一生)あり長女喜久子(明四二、一〇生)は他に嫁し妹トミ(同一五、三生)は栃木縣人廣川銀次郎弟金三郎に嫁せりA二四二三(東京市澁谷區羽澤町六二電青山三八一六)

生島藤藏　兵庫縣多額納稅者、生島商店㊞代表社員、帽子商、兵庫縣在籍

母　くに　安政六、一〇生、兵庫、竹谷卯兵衛二女

妻　たね　明二二、六生、兵庫、金澤正三姉

女　藤根子　大八、二生、縣立第一神戸高女在學

當家は松屋と稱し生島五郎兵衛に出づ古くより代々神戸に住し同地生粹の土着人なり君は先代藤吉の長男にして明治十七年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す夙に兵庫縣立神戸商業學校を經て關西大學商業部を卒業夫で早稻田大學政治經濟學科を卒業す後ち神戸裁判所調停委員を命ぜられ傍ら各私立學校及教育會等の教育事業に理事として盡瘁し現に帽子商を營み合名會社生島商店代表社員にして直接國稅千六百四十六圓を納め縣下の多額納稅者に列す讀書を以て趣味とす家族は尙二女藤久根(大一三、一〇生)弟廣治郎(明三〇、七生、神戸商業大學教授、商學士)同妻文子(同四〇、六生、兵庫、小林勝之二女)ありA一〇四一神戸市神戸區元町一ノ二一九電元町二二五九「別宅」神戸區山本通四ノ九九ノ九電葺合二四九八)

生島與平　資產家　京都府在籍

妻　勝　明一三、一生、大阪、中島清七長女

男　遼一　明三七、九生

女　悅子　明四〇、一生

女　笑子　明四三、六生

男　正夫　大元、一二生

君は大阪府人安田源三の三男にして明治九年五月を以て生れ同十三年姉エヲの跡を襲ひ家督を相續す同二十九年大阪高等商業學校を卒業す資產家にして囊に日新電氣用北電氣公司山陽無煙炭礦用北電氣企業各會社の重役たり家族は尙三男國雄(大五、一二生)あり(京都市左京區南禪寺草川町三六電上二〇八四)

生島利三　三菱銀行㊞參事、永代橋支店長　東京府士族

妻　ヤス　明二四、六生、東京、野村彦太郎妹

男　正德　大七、六生

君は東京府士族生島一德の三男にして現戸主克明の叔父なり明治十七年十二月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し三菱銀行に入り參事に擢され深川支店長を經て永代橋支店長に就任以て今日に及ぶA九一一(東京市本郷區駒込東片町一三五電小石川一八六二)

參照‖生島克明※野村專次の項

生田嘉助　淡路屋、質商　大阪府在籍

母　ユキ　嘉永六、一〇生、大阪、士、伊與田新太郎姉

妻　ハル　明一八、二生、大阪、井上晉五郎三女

男　源太郎　明四一、二生、大阪市立天王寺商業出身

婿　朝子　明四五、二生、長男源太郎妻、大阪府立清水谷高女出身

男　嘉藏　大二、六生、大阪商大高商部在學

君は大阪府人先代嘉助の長男にして明治十三年一月を以て生れ同三十三年家督を相續す淡路屋と稱し質商を營む家族は尙三男宏三(大八、二生)あり弟信一郎(明一九、一二生)同妻キミ(同二四、一二生、京都、藤原種藏長女)は分家せりA三二七〇B七三七(大阪市南區高津八幡町一電南一〇二五)

參照‖伊與田新太郎の項

生田耕藏　資產家　大阪府在籍

祖母　リム　安政四、一二生、新潟、山本藤九郎二女

母　ヤエ　明一六、一生、新潟、時岡春臺妻

君は舊高知藩醫生田保之の長男にして明治三年六月を以て生れ先代宣夫の養子となり家督を相續す同二十二年慶應義塾を卒業し日本銀行に入り同行檢査役調査役小樽支店長國庫局長等に歷任し又英米兩國に留學す後同行を辭し豐國銀行頭取となり現時昭和銀行頭取其他前記要職にあり趣味廣汎圍碁將棋に秀で釣魚園藝養鶏亦堂に入る家族は尙孫晴子(昭八、九生、二男秀之長女、あり長女初子(明三七、一生、三輪田高女出身)

り同志を糾合し麥酒釀造事業を企て自ら斯業の先進國たる獨逸に留學釀造學を專攻し更に之が經營取實の實情に就き普く歐洲諸國を視察の上歸朝泡麥酒會社を創立し明治三十九年に至り札幌惠比壽の二社と合併して大日本麥酒會社の創立と同時に其常務取締役に擧げらる本邦麥酒釀造界の先覺者として知られ又先代耕一は我國古典文學の研究者にして且つ邦樂曉通家として名あり就中箏曲及鼓に關しては自ら一家の風をなし其著「萬葉略類樂鈔」「碩鼠漫筆」「上枕葉詞總覽」「萬葉集雜語雜調攷」「鼓筒之鑑定」等あり箏曲に關する替手を新作し須藤明石雲雀飛燕等の譜大曲の寄せ組變彈を編し又鼓笄百餘筒を藏しその鑑定鑑に蒐集家として知られたり君は其長男にして大正三年八月を以て生れ昭和八年家督を相續す現時關西學院に在學す家族は尙姉キク(明四四、六生、梅花高女出身)同貴代(大元、八生、大手前高女出身)弟早苗(同五、六生、甲南高校在學)あり姉キミ(明四一、五生)は兵庫縣人岩井勝次郎二男雄二郎に嫁せり(大阪府三島郡吹田町電吹田三〇)

參照‖岩井勝次郎の項

生田定之　勳六等、昭和銀行㊞頭取、東京銀行集會所副會長、東京手形交換所理事、交詢社常議員、東京府士族

男　一之　明三四、三生、三井銀行員、經濟學士

婿　典子　明四一、七生、長男一之妻、海軍大臣大角岑生長女、東京學館出身

男　秀之　明三八、一一生、慶應義塾大學大學院在學

婿　綸子　明四二、一〇生、二男秀之妻、東京、最賀亮輔二女

女　文子　大四、三生、三輪田高女出身

君は舊高知藩醫生田保之の長男にして明治三年六月を以て生れ先代宣夫の養子となり家督を相續す同二十二年慶應義塾を卒業し日本銀行に入り同行檢査役調査役小樽支店長國庫局長等に歷任し又英米兩國に留學す後同行を辭し豐國銀行頭取となり現時昭和銀行頭取其他前記要職にあり趣味廣汎圍碁將棋に秀で釣魚園藝養鶏亦堂に入る家族は尙孫晴子(昭八、九生、二男秀之長女、あり長女初子(明三七、一生、三輪田高女出身)

は岡山縣人矢野恒太長男農學士一郎に二女糸子(同四三、八生、出身校同上)は岡山縣人高吉加兔代養子友夫に嫁せりA四三九二(東京市牛込區市谷加賀町二ノ一四電牛込一六八九)

參照‖大角岑生、矢野恒太の項

生田治助　家主　愛知縣在籍

妻　錫子　文久二、八生、愛知、西川萬次郎妹

養母　たに　明一四、二生、愛知、西川萬次郎長女

養子　俊一　大六、一二生、養弟治信長男

君は愛知縣人鹽飯善三郎の長男にして明治九年六月三日を以て生れ先代治助の養子となり同三十年家督を相續して前名金治郎を改め營名す家主たり囊に名古屋製綿會社常務取締役たりしことあり養弟治信(明二三、六生、一誠社監査役)同妻ヲミ(同二八、一二生、愛知岡田良右衛門長女)は其一女を伴ひ分家し庶子やす子(同四四、七生、生母、愛知、士、藤井冬子)も亦分家せりA一九八(名古屋市東區神樂町三ノ一〇五電東一一〇六)

參照‖岡田良右衛門※岡田德右衛門※佐藤明治郎※杉本新左衛門の項

生田武夫　從五位勳六等、簡易保險局書記官　兼遞信書記官、遞信省簡易保險局規畫課長、東京府士族

父　武四郎　文久二、三生、現戸主

母　きと　慶應三、一二生、靜岡、鈴木さわ二女

妻　ひで　明三二、五生、東京、宮堀茂妹

男　武正　大一三、九生

君は明治三十年三月を以て濱松市に生る大正五年遞信官吏練習所行政科を卒業し同七年文官高等試驗に合格す爾來爲替貯金局書記を經て同九年簡易保險局事務官に任ぜられ同局契約計理支拂庶務各課長に歷補し現時簡易保險局書記官兼遞信書記官にして規畫課長たり囊に英米二ケ國へ出張せり家族は尙二男健治郎(昭二、六生)三男勝也(同七、一生)あり(東京市世田谷區駒澤一七、五生、福岡、士、古賀生三弟)は同妻シゲノ(明

生田友次郎　正五位勳四等、判事、安濃津地方裁判所判事兼安濃津區裁判所判事　富山縣在籍

妻　スヱ　明一三、二生、養父清堅二女

男　和夫　明四三、六生

女　ふみ子　明四一、五生

女　すみ子　大二、九生

女　大七、六生

君は富山縣士族故市川伯清の弟にして明治八年十二月を以て生れ同三十七年生田清堅の養子となり分れて一家を創立す同年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十年判事に任じ爾來幹同區四日市區各橫濱區同地方栃木宇都宮各區福井地方同區四日市區各裁判所判事肇新潟地方裁判所新發田支部々長一宮區本郷區千葉地方各裁判所判事福井區裁判所監督判事等に歷任し昭和三年十月前記現職に轉ず家族は尙二男秀夫(大五、二生)あり(津市玉置町一八八七)

參照‖※柘植咲五郎の項

生田和平　衆議院議員㊞取締役、阿南鐵道㊞顧問、製絲業、德島縣在籍

妻　レヅヨ　明一三、六生、德島、湯島虎四郎長女

男　宏一　明三八、九生、縣立德島中學出身

女　道子　明四三、二生、縣立德島高女及神戸女學院出身

男　俊雄　明四五、五生、早稻田高等學院在學

君は德島縣人先代和平の長男にして明治十年四月二十六日を以て生れ同三十六年家督を相續し前名彦右衛門を改め製絲業を營み傍ら東生社取締役阿南鐵道會社顧問たり嘗て德島水力電氣阿波共同製絲阿南鐵道各會社長及德島縣會議員に舉げられ又大正六年以來衆議院議員に當選する事四回に及び現に立憲政友會所屬たり長女幾代(明三四、一二生)は德島縣人新井幸一に嫁し弟二女登美子(同三六、九生)は同縣人阿部邦一に嫁し弟政右衛門(同一三、六生)同妻トヨノ(同一七、一生、德島、湯淺虎四郎二女)は其子女を伴ひ養弟六郎(同一九、二生、德島、林照太郎妹)及び其子女を伴ひ各分家せり(東京市澁谷區原宿三ノ二九一電國青山四五〇〇)

生谷源次郎　家主　大阪府在籍

妻　カル　明二三、一生、大阪、植林德兵衛妹

女　籌子　明四四、五生

君は大阪府人生谷勘兵衛の長男にして明治十九年九月十四日を以て生れ大正七年家督を相續す家主たり四女美津子(大八、一〇生)は分家叔父彌太郎の死跡を相續し母ヤス(文久三、一生、大阪、天野重次郎伯母)及弟熊次郎(明三二、七生)は其家籍に入り同彌太郎(同二八、六生)は分家せりA一〇五四(大阪市住吉區天神ノ森二ノ四三電天下茶屋二四三七)

生津和太郎　從三位勳三等、判事、熊本地方裁判所長、群馬縣在籍

妻　りい　明一一、一生、養父利一郎孫

男　長生　明三七、一〇生

婿　敏子　明四〇、三生、二男長生妻、岩手吾妻貞藏長女

女　ノブエ　明四三、一二生

男　日和生　大三、一〇生

君は群馬縣人林民三郎の長男にして明治六年九月を以て生れ先代利市郎の養子となり同二十一年家督を相續す同二十七年東京專門學校を卒業し判檢事登用試驗に合格し同二十九年判事に任じ爾來宇都宮地方福江區長崎地方同區各裁判所判事宮城控訴院判事石卷區仙臺區小倉區各裁判所判事福岡地方小倉支部々長宮崎盛岡各地方裁判所長に歷補し大分地方裁判所長を經て現時熊本地方裁判所長たり(熊本市原町二丁目官舍電熊本五五七)

生野熊一(シヤウノ)　正五位勳五等、遞信技師㊞遞信局技師、管船局勤務、愛媛縣士族

妻　ハル　明三五、二生、大分、後藤寅生二女

男　晉朗　大一〇、一二生

君は愛媛縣人長頭春馬の三男にして明治二十三年六月

三十日を以て生れ大正三年同縣士族生野りつの養子となる同五年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し直ちに遞信技手となり同七年技師に任じ昭和二年關東廳海務局技師に轉じ海務局長に補せらる後遞信局技師東京遞信局海事部勤務となり同六年前記の官職に任じ今日に至る同五年英國に出張を命ぜらる家族は尚長女夏子(昭三、六生)養兄彦三(明二、二生、現戸主)同妻マス(同五、一生、愛媛、福井ワサ私生子)及其一子ありA養姉イシ(同九、二生)は愛媛縣人阿部芳三郎に嫁せり(東京市世田谷區赤堤町一ノ二三四)

生野源太郎　正五位勳四等、鐵道書記官、運輸局配車課長、大分縣在籍

養母　カス　明五、一生、養祖父多馬喜二女
妻　初惠　明二八、四生、大分、工藤和多八長女
男　安雄　大三、八生
女　くみ子　大八、八生

君は山口縣人岡田甚五郎の三男にして明治二十一年十月を以て生れ先代カスの養子となり大正三年家督を相續す同四年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し在學中文官高等試驗に合格す同年鐵道院書記となり總裁官房に勤務し爾來品川汐留各驛助役鐵道院參事補同副參事仙臺鐵道局運輸課庶務掛長同旅客掛長等を補任し遞信局事務官兼任を命ぜられ大正十二年在外研究員として米英各國に出張す歸朝後鐵道局參事に任じ名古屋鐵道局名古屋運輸事務所長仙臺鐵道局運輸課長名古屋鐵道局運輸課長を經て昭和六年鐵道書記官に任ぜられ運輸局總務課長を經て同七年運輸局配車課長となり今日に及ぶ家族は尚三男三郎(大一〇、八生)四男幸吉(同一三、五生)二女ふじ子(昭三、一生)あり(東京市中野區櫻山町七電**中野四二九四**)

生野昇　前横濱新港倉庫㈱鑑査役

妻　スエ　明二七、一〇生、佐賀、士、山崎秀三郎妹
男　健　大二、三生

君は佐賀縣士族生野孝俊の三男にして明治十四年四月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す先是同三十八年東京高等商業學校を卒業し夙に實業界に入り横濱船渠會社常務取締役に就任し次で横濱新港倉庫會社鑑査役たりしも現時其職を辭す家族は尚一〇生)三男直(同一〇、八生)長女美枝子(昭五、二生)ありA三七一(東京市大森區山王一ノ二六七四電**大森七六九**)

生野(シヤウノ)閏六　京濱電氣鐵道㈱取締役社長、湘南電氣鐵道㈱專務取締役、大分縣在籍

母　トリ　安政四、一二生、長女
妻　シゲ　明一七、一一生、良純長女
男　專吉　大二、九生
女　千惠　明四〇、六生
女　輩子　大五、三生

君は大分縣人生野米藏の長男にして明治十一年二月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十五年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し鐵道技師東京鐵道局運輸課長となり名古屋市電氣局長臺灣總督府交通局總長東京市電氣局長等に歷任し養に佛獨英米に留學を命ぜられ又歐洲各國へ出張せし事あり現時前記會社の重役たり三女美代子(明四五、六生)は鐵道局副參事法學士馬場敏英に嫁せりA一六七六(東京市中野區上町一電**四谷五四五八**)

參照＝田原長純の項

生水(シヤウズ)乙松　正五位勳四等、檢事、中村區裁判所檢事兼高知地方裁判所中村支部檢事、石川縣在籍

妻　しす　明二三、三生、石川、士、堀俊明
男　正　大五、五生

君は石川縣人生水久左衛門の六男にして明治十二年二月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同四十二年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十五年赤倉合市濱ぜられ爾來大津京都大阪各地方裁判所等の檢事に歷補現時田下關各區裁判所及名寄區裁判所等の檢事たり家族は尚長女由(大一〇、一二生)二女晴(同一二、一二生)あり(高知縣幡多郡中村町中村區裁判所檢事局內)

幾高龜二　金融業、家主、大阪府在籍

養母　シマ　慶應三、二生、大阪、士、高野正二女
妻　トミ　明二二、二生、養父鶴松二女
男　敏博　大元、一二生
男　吉博　大三、一生

君は靜岡縣人大畑忠五郎の二男にして明治十七年八月二日を以て生れ同四十三年幾高鶴松の養子となる養父鶴松夙に羊皮直輸入商を營みしも後之を廢し金融業に轉ず君其後を承け家主として知られ金融業を營む養妹ウノ(明二四、五生)は東京府人池田彦三郎に養叔母エイ(元治元、一二生)は大阪府人畑忠得に嫁し養妹ヒサ(明三一、四生)は同府士族高野義雄の養子となり養伯母コト(安政四、二生)は同府人千阪リヤウの死跡を相續し養妹ツル(明二八、一一生)は同夫熊治郎(同一九、六生、岐阜、稻見友七三男)と共に分家せりA八五六B一八七(大阪市東區粉川町一二**電東二七八三**)

幾村種三郎　和洋食料品製造輸出入業、大阪府在籍

父　幾三郎　萬延元、四生
母　かつ　明六、一二生、榮田金助二女

君は大阪府人幾村幾三郎の長男にして明治三十年六月十五日を以て生れ昭和四年家督を相續す夙に大阪大倉商業學校を卒業して家業を繼承し現に和洋食料品製造輸出入を業として斯界に盛名を博す趣味に謠曲長唄あり家族は尚長女キヌ(大九、一一生)ありA九七一B五三四(大阪市西區新町通二ノ五八電**新町五二一**)

池文一　從七位、長岡商工會議所理事、新潟縣在籍

妻　望　明二三、六生、愛媛、士、菱田中行三女、松山高女出身
男　典記　大四、一一生
女　カズ　大二、一一生、長岡高女出身

君は新潟縣人池知丸の二男にして明治十五年二月を以て生れ大正十年兄幸丸方より分れて一家を創立す明治三十六年新潟師範學校を卒業し關東都督府屬新潟縣屬中魚沼郡長等を經て現に長岡商工會議所理事たり家族

は尚二男知政(大七、九生)あり(長岡市觀光院町九一四電**五三八**)

池井啓次　從五位勳六等、鐵道書記官、大臣官房現業調査課長、東京府在籍

妻　ツヤ　明二三、一〇生、山口、河村忠一妹

君は北海道人池井太助の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す同七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業文官高等試驗に合格鐵道院書記鐵道局副參事鐵道省事務官に歷任し在外研究員として米獨各國に出張し昭和三年第十一回國際勞働總會に政府代表隨員として出張す同四年鐵道局參事に轉任門司鐵道局經理課長に補せられ次いで大阪鐵道局經理課長を經て昭和八年東京鐵道局經理課長を命ぜられ同九年八月鐵道書記官に任ぜられ大臣官房現業調査課長を命ぜられ今日に至る家族は尚二女百合枝(大九、一生)あり(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ九〇二電**四谷五四八〇**)

池內覺太郎　從五位勳五等、判事、奈良地方裁判所判事兼奈良區裁判所判事、大阪府在籍

妻　イツ　明二三、八生、大阪、谷藤久左衛門三女
男　次郎　大一二、一一生

君は明治二十二年六月を以て生れ同四十五年關西大學法律科を卒業し大正六年判檢事登用試驗並辯護士試驗に合格す同八年檢事に任ぜられ大阪浦和各地方松本區京都奈良高松各地方裁判所檢事に歷補同十五年判事に轉じ大津地方裁判所を經て現時奈良地方兼同區裁判所判事の職に在り家族は尚長女ミツ子(昭三、一生)あり(奈良市川上突抜町一八)

池內源吉　白山殖產、阪堺電鐵各㈱取締役、大阪府在籍

妻　はつ　明一一、一生、大阪、福本倚助二女
男　清一　明三四、七生
男　貞子　明四一、三生、長男清一妻、大阪德山千吉二女
婦　正枝　大三、一生
女

君は大阪府人池田治兵衛の二男にして明治四年八月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役たり家族は尚孫宏(昭八、一二生、長男清一長男)あり二男喜次(明三七、一生)は大阪府人山田嘉助の養子となり長女春枝(同四三、一一生)は大阪市西成區原次郎吉養子和七郎に嫁せりA一一六(大阪市西成區津守町四一四)

參照＝出原次郎吉の項

池內傳之助　從四位勳四等、專賣局技師、東京地方專賣局鑑定課長、高知縣在籍

母　安　文久元、三生、高知、井上彌助長女
妻　英猪　明二四、一一生、高知、田內儀之助孫、高知縣立第一高女出身
男　好幸　明四四、七生、東京帝大理學部在學
男　政幸　大三、三生、高知高校在學

君は高知縣人池內金治の長男にして明治十四年二月を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十一年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し專賣局技手となり同四十四年技師に進む爾來鹿兒島試驗場長高槻支局技術課長淺草支局鑑定課長東京大阪廣島各地方專賣局鑑定課長を歷補昭和二年再び東京地方專賣局鑑定課長に補せられ今日に至る滿米各國に出張を命ぜらる姉丑惠(明一二、一一生)は高知縣人高村楠馬二男搭井に妹峯世(同三一、六生)は同縣人田中武猪に嫁し弟太郎吉(同一八、九生)は同縣人松本岩の養子となり亡弟鹿次妻弘枝(同二八、一生、高知、松村壽之吉二女)は其子女を伴ひ分家す(東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ七一八)

池內弘次　家主、京都府在籍

妻　靜尾　明二六、六生、京都、谷村宗馬太妹
男　潤吉　大二、一生

君は三重縣人岩間多吉の弟にして明治十六年六月一日を以て生れ同四十五年先代龍寶の養子となり大正四年家督を相續し前名政吉を改む家主たり家族は尚二男龍造(大一〇、一二生)長女一子(同一四、二生)三男秀夫(同一五、八生)二女喜久子(昭七、六生)ありA六五〇

(京都市上京區黑門通中立賣下ル)

池內宏　從四位勳三等、文學博士、東京帝國大學教授、文學部勤務、東京府在籍

妻　直　明二三、一二生、兵庫、士、櫻井勉三女
男　一　大九、五生
女　志壽子　大二、四生
女　舒子　大四、八生

君は京都府人池內基の長男にして明治十一年九月を以て生れ安政の大獄に連座せる幕末勤王の志士祖父大學の後を嗣ぐ同三十七年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大正二年同大學講師となり同四年助教授に任ぜられ同十年文學博士の學位を受く現時同大學教授にして文學部勤務たり(東京市麹町區麹町五ノ七ノ二)

池內松太郎　地家主、大阪府在籍

妻　ツタ　明二九、七生、大阪、伊藤武助長女
男　英太郎　大五、一生

君は大阪府人池內ヨネの私生子にして明治二十六年二月を以て生れ同二十九年先代スミの死跡を相續す地家主たり家族は尚二男貞次郎(大六、四生)ありA六八四(大阪市西區北堀江通六ノ一六電**新町一九九五**)

池內與惣吉　池內商店賣代表社員、銅鐵商、滋賀縣在籍

祖父　文右衛門
養母　テル　弘化三、三生
妻　ヨシ　明一〇、九生、北海道、大田實二女
男　嘉照　大一五、一二生
男　潤吉　大二、一生

君は滋賀縣人吉澤龜吉の二男にして明治三十五年八月を以て生れ同縣人池內與惣吉の養子となり大正十五年家督を相續し前名萬治郎を改め襲名す銅鐵商を營み現に池內商店代表社員たり家族は尚長女節子(昭四、二生)養弟榮吉(大六、一二生)あり(札幌市南一條西二ノ一八)

池內善雄　正五位勳四等、臺灣總督府法院判官、高等法院上告部判官、兵庫縣在籍

妻　ひさの　明二三、一生、兵庫、荒木慶次郎妹　大七、三生
男　雄一　明四四、一〇生
女　幸　大三、一二生
女　千代　大七、六生

君は兵庫縣人池内宗太郎の四男尾上作兵衛の弟にして明治十六年九月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す翌四十四年京都帝國大學法科大學を卒業し大正二年判事に任じ爾來京都地方裁判所部長神戸高等商業學校嘱託神戸區檢同地方各裁判所判事大阪控訴院判事等に歴補し昭和三年大阪地方裁判所部長同八年大審院判事次で臺灣總督府法院判官に任ぜられ高等法院上告部判官に補せられ今日に至る家族は尚二男正次（大一二、一生）三女洋子（同一五、一〇生）三男秀男（昭五、五生）あり（臺北市書院町臺灣總督府高等法院内）

参照＝尾上作兵衛の項

池ノ内一郎

正五位勳五等、判事、樺太地方裁判所部長、埼玉縣在籍

妻　松枝　明二四、三生、埼玉、士、青羽延妹
男　陸二　大七、六生

君は埼玉縣人池ノ内鐘輔の長男にして明治十七年二月を以て生れ昭和五年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任じ爾來宇都宮區栃木區長岡區各裁判所判事千葉地方裁判所八日市場支部判事兼八日市場區裁判所判事木更津區裁判所判事兼千葉地方裁判所木更津支部判事川越區豊原區各裁判所判事に歴補し樺太地方裁判所判事を經て現時同裁判所部長たり家族は尚三男繁（大一〇、五生）あり（樺太豊原郡豊原町地方裁判所内）

池尾時二

從七位勳五等、雑軍二等主計、池尾洋行、スワン印紙下輸出業、大阪府在籍

妻　ラク　明一一、三生、大阪、中邑熊次郎長女
男　弘一　明四一、三生
女　いく　明三七、六生、府立市岡高女出身
男　守二　明四三、二生
男　英三　大二、五生
女　千代子　大四、二生
女　美　大七、六生

君は大阪府人池尾元吉の弟にして明治五年六月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す同二十六年大阪高等商業學校を卒業し同三十三年メリヤス商を創め現に池尾洋行と稱し靴下輸出業を營みて知らる尚日露戰役に從軍し勲五等に敍せらる長女美代（明三四、八生、大阪府人春元楢次長男重彦に嫁せりA二〇〇〇B三二一（大阪市西區新町通四ノ八四電新町一二〇一）

参照＝池尾元吉の項

池尾元吉

靴下製造業　大阪府在籍

妻　義一　明三〇、一一生、大阪商業出身
男　静　明三六、五生、長男義一妻、大阪和井田久吉三女
婦　信次　明三三、一一生
男　美知　明四二、四生
女　美　明四二、四生

君は大阪府人池尾雲平の長男同時二の兄にして明治元年五月を以て生れ同十三年家督を相續す靴下製造業を營む趣味＝謡曲鼓仕舞あり家族は尚孫泰子（昭六、二生）長男義一長女）あり妹かく（明一五、八生）は大阪府人宗得當七長男恒三郎に同紋（同二二、一生）は同府人高田與兵衛二男眞豊に嫁せりA七四八（大阪市西區新町南通五ノ八電新町二一七八）

参照＝池尾時二並半田實之助の項

池尾芳藏

日本電力、黒部鐵道、因幡水力電氣、共同火力發電各社長、日電發送電代表取締役、山陽水力電氣代表取締役、關西電力各社代表取締役、日本拓業、箱根登山鐵道、大阪ビルディング各社取締役、滋賀縣、武藏中央電氣軌道各社相談役

妻　八重子　明二〇、一生、大阪商業出身
男　清　明四二、六生
女　大元、八生
女　正子　大三、一生
男　毅　大三、一生

君は滋賀縣人池尾與兵衛の長男にして明治十一年三月

を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し一時官界に在りも後實業界に入り現時前記諸會社の重役たり家族は尚甥廣（明三六、八生、亡弟末吉長男）あり二女茂子（大元、八生）は東京府人藤山雷太二男勝彦に嫁せりA一三四五〇（大阪市天王寺區上之宮町六七電東三二三〇）

参照＝藤山雷太の項

池貝勝男

池貝鐵工所※社長、池貝同族妾無限責任社員、千葉縣在籍

母　こと　明九、四生、千葉、士、高橋久米次妹

當家はもと備州加知山藩主酒井家の世臣なり先代庄太郎は夙に實業に志し東京に出で池貝鐵工所を創立し工作機械内燃機關高級輪轉機等の製作に從事し本邦工業界の恩人として知られ昭和九年其功に依り從六位に敍せらる君は其の二男にして同杉二の養弟同秀雄の從弟なり明治三十八年六月を以て生れ昭和九年家督を相續す父業を繼ぎ現時前記各會社の重役たり家族は尚姉とき（明三七、二生、香蘭女學校出身）弟三郎（同四二、一生、池貝同族會社員）同守郎（同四三、二生）同五郎（同四四、三生）あり姉けい（同二六、一二生）同夫杉二（同一一、八生、東京、曾我部次八郎二男）は其一子を伴ひ分家し姉やゑ（同二九、四生）は東京府人本城重之に同美雄（同三五、九生）は同府人今井三吉に各養子となり姉きぬ（同三一、五生）は外國高橋久米次長男光一に嫁せりA八五〇五（東京市芝區三田四國町二二電三田四〇三）

参照＝池貝杉二、池貝秀雄の項

池貝杉二

池貝鐵工所※專務取締役、山本商會、大滿洲忽布蓼酒各※取締役　東京府在籍

妻　けい　明二六、二生、養弟勝男姉
男　正一　大三、一生
女　照子　大八、一生

君は愛和縣人曾我部次八郎の二男にして池貝秀雄の養從兄なり明治十八年十一月を以て生れ池貝庄太郎の養子となり大正七年分れて一家を創立す明治三十二年東京高等工業學校機械科を卒業し池貝鐵工所專務取締役

の外前記各會社の重役にして義にモータボート商會監査役たりし事あり家族は尚二男次郎（大五、三生）三男三雄（同一一、二生）四男孝（同一二、一一生）あり（東京市品川區五反田五ノ六〇電高輪二八八九）

参照＝池貝勝男、池貝秀雄※今井三吉の項

池貝秀雄

池貝鐵工所※社員　東京府在籍

母　喜代　明一四、九生、東京、士、保田鶴次郎長女
妻　田鶴子　明四五、二生、東京、大住喜右衛門二女、東京女學館出身

君は舊安房加知山藩の世臣たりし池貝家の當主勝男の從兄同杉二の養從弟にして現池貝鐵工所創立當初よりの功勞者たる先代喜四郎の長男なり明治三十五年五月を以て生れ昭和八年家督を相續す同三年慶應大學經濟學部を卒業し現時池貝鐵工所の社員たり家族は尚長女美代子（昭八、二生）弟忠雄（明四二、六生、慶應義塾高等部出身、池貝鐵工所社員）妹喜代子（大元、八生、雙葉高女出身）あり妹幹子（明三八、八生、聖心女子學院出身）は東京府人古谷孝一に嫁し弟俊雄（同四一、四生、慶應義塾高等部出身）は同府人保田保の養子となれり（東京市品川區北品川六ノ三九四電高輪七五一）

参照＝池貝勝男、池貝杉二、大住喜右衛門の項

池垣定三郎

京都府多額納稅者、染呉服商　京都府在籍

妻　ハナ　明二〇、一一生、京都、海老池太兵衛妹
男　定太郎　大二、二生
女　きと　大五、一生

君は京都府人池垣定治郎の長男にして明治十三年三月を以て生れ昭和四年家督を相續す家業を繼承し染呉服商を營む京都府多額納稅者に列し直接國稅九千九十七圓を納む家族は尚三女好子（大九、一〇生）四女延子（同一四、六生）三男定治（昭三、四生、妹きぬ（明一八、九生）同夫嘉一郎（同一六、五生、京都、澤村豊吉二男）及其子女弟貞之助（同二五、一〇生）同妻あい（同三五、一〇生、京都、寺石喜三郎二女）及其二女あり妹ユタ（同二三、一二生）は京都府人高橋倭之助に姪靜枝は大阪府人南樟一郎長男吉彦に同久子は京都府人鳥村與三郎長男孫太郎に嫁せり（京都市下京區楊梅烏丸西入横諏訪町三〇二電下一五二三）

池垣文治郎

絲屋、墨皆業　京都府在籍

母　イト　明一三、一二生、大阪、野間榮治郎女
妻　泰子　大二、六生、京都、松平喜之助四女

君は京都府人先代文治郎の長男にして明治四十四年八月を以て生れ昭和六年家督を相續し前名廣三郎を改め傳名す絲屋と稱し悉皆業を營む伯母ちゑ（元治元、一〇生）は分家せりA六三八B二一四（京都市中京區軍屋町通御池下ル電本局四三七一）

池墻與一郎

大日本製氷※取締役、九州製作所※監査役、黄藍商會※代表社員、鳥取縣在籍

母　とま　明元、一一生、鳥取、牧卯八郎弘化四、一一生、長女
妻　カクヤ　明三一、八生、長崎、中山文樹妹
男　猶介　明四三、七生、長男猶介妻、福井郁子
婦　郁子　明四四、一〇生、長男猶介妻、東京、渡邊喜一姉草間秀雄長女

君は鳥取縣人先代要四郎の長男にして明治五年四月を以て生れ同八年家督を相續す現時前記各會社の重役にして養に門司市會議長同市商工會議所副會頭たりし事あり家族は尚孫亮一（昭四、一二生）あり長女露子（明四四、一〇生）は熊本縣人美川三郎に嫁せり（門司市室町四ノ一九一九電三四一）

参照＝宗根本仙三郎の項

池上愛太郎

岡山縣多額納稅者、呉海産工業※取締役、農業、岡山縣在籍

妻　いの　明一四、一〇生、岡山、前原儀太郎長女
男　武　明三三、一生、長男武妻、岡山、明三七、二生、長男武妻、岡山、
婦　松代　廣市嘉太郎三女
男　章　明三五、七生
婦　さかゑ　明三九、三生、二男章妻、岡山、永轄堵太郎二女
男　吉夫　明三八、一生
男　和雪　明四四、五生
女　子　大三、一生

君は岡山縣人池上嘉三の長男にして明治十年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十三年第三高等學校醫學部を卒業し岡山長崎各醫學專門學校助教授同教授支那北京醫科大學教授に歴任し現時岡山醫科大學助教授にして勅任官を以て待遇せらる昭和三年獨米墺各國に留學す家族は尚長女志津子（昭五、八生）あり（岡

池上桂輔

日清軒、甘栗商　東京府在籍

妻　あい　明一五、一生、岐阜、加藤惣三郎長女
男　健太郎　明三〇、六生
婦　ナヲ　明三三、九生、長男健太郎妻、栃木、三村丈七四女
男　廣助　明三一、九生
婦　つる　明三四、一〇生、二男廣助妻、東京、渡邊喜一姉

君は東京府人池上萬次郎の四男にして明治五年六月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す日清軒と稱し甘栗商を營む二女きく（明三四、一〇生）は神奈川縣人西山清爺昌一に嫁せりA六〇一B一六五（東京市日本橋區藥研堀町四六電濱花二七五〇）

池上馨一

從四位勳五等、岡山醫科大學助教授、岡山縣在籍

母　惠以　安政元、一一生、岡山、堀井重兵衛二女
妻　房子　明二四、三生、岡山、士、澤原源治二女
男　晴　昭二、四生

君は岡山縣人池上嘉三の長男にして明治十年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十三年第三高等學校醫學部を卒業し岡山長崎各醫學專門學校助教授同教授支那北京醫科大學教授に歴任し現時岡山醫科大學助教授にして勅任官を以て待遇せらる昭和三年獨米墺各國に留學す家族は尚長女志津子（昭五、八生）あり（岡

山市六番町）

池上五郎　從四位勳四等、醫學博士、熊本醫科大學教授、附屬醫院長、三重縣在籍

養父　延次郎　慶應元、一生、現戸主
養母　よしえ　明二三、七生、東京、士、笹岡一
妻　京　實長女　大三、七生
男　柳一　明四五、五生
女　みね　大六、一二生
女　喜久

君は三重縣人池上柳莊の五男にして明治十六年十月を以て生れ池上延次郎の養子となる明治四十年京都帝國大學醫科大學を卒業し現時熊本醫科大學教授にして附屬醫院長の任にあり大正十三年歐米に留學し尚昭和七年歐米各國に出張を命ぜらるる藥に醫學博士の學位を授與せらる（熊本市東子飼町七六電一七八七）

池上幸健　正五位勳四等、警視廳技師、獄醫課長、神奈川縣在籍

母　はる　文久三、一生、東京、石黒芳藏長女
妻　正子　明二四、二生、東京、渡邊悌姉
男　宗治　大五、一二生

君は神奈川縣人池上幸操の長男にして明治十年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學農科大學獸醫學科を卒業同年警視廳屠畜檢査技師に任ぜられ大正二年警視廳技師となる現時獄醫課長たり家族は尚弟幸顯（明四一、二生）あり長女常子（大三、一二生）は東京府人吉田勘右衛門三男誠一に嫁せり（川崎市池上新田一七六電一六六八）

參照＝吉田勘右衛門の項

池上作三　池上病院、醫師、岡山縣在籍

妻　代　明二二、四生、養兄愛太郎妹
男　光　明四四、四生
女　秋子　大二、一〇生
女　あさ子　大五、七生

君は山口縣士族佐藤信彥の三男にして明治二十年六月を以て生れ同四十四年池上莊次郎の養子となる現時東京帝國大學醫學科大學を卒業し醫を開業し池上病院と稱す養に東京醫學專門學校教授たり家族は尚二男順（大一〇、七生）ありA一〇一六（東京市豐島區西巢鴨三ノ七六一電大塚一二三四）

參照＝池上愛太郎の項

池上秀歆（國三郎）　邦畫家、東京府在籍

妻　トヨ　明六、一二生、山口、大岡力妹
養子　秀一　大一二、一生、東京、阿部川龜吉
孫

君は長野縣人池上庄八の二男にして明治七年十月を以て生れ同四十一年兄熊太郎方より分れて一家を創立す夙に斯界の巨匠故荒木寛畝の門に學び秀畝と號し邦畫界の大家として知られ傳神洞畫塾を主宰し帝國美術院展覽會審査員に擧げらるゝ事數回昭和八年更に同展審査員に推さるA一八七一（東京市下谷區谷中清水町一二電下谷三六四〇）

參照＝※玉木懿夫の項

池上勢平　岡山縣農工銀行㊣取締役、岡山縣士族

妻　淺野　明六、一一生、養父益三三女
養子　春雄　明二八、一〇生、岡山、内田彌太郎三男
嫁　清子　明三六、八生、養子春雄妻、岡山池上富太郎姪

君は岡山縣人内田泰雄の二男にして明治四年三月を以て生れ先代益三の養子となり同三十三年家督を相續す現時前記銀行の重役にして藝に第一合同山陽商業各銀行西備倉庫倉敷紡績各會社重役たり事あり家族は尚孫淳一（大九、一〇生、養子泰雄長男）同田鶴江（同一三、三生、同長女）同益郎（同一五、一生、同二男）あり（岡山縣吉備郡總社町電二八）

池上長右衛門　岡山縣多額納稅者、岡山縣農工銀行、中國信託各㊣取締役、醫油醸造藥、岡山縣在籍

母　麻須　慶應三、二生、祖父長右衛門長女
妻　松野　明二五、六生、養父益三三女

男　英吉　大六、七生

君は岡山縣人山坂甚太郎の弟にして明治二十年十月を以て生れ先代長右衛門の養子となり後家督を相續し前名仙二郎を改め襲名す同四十四年早稻田大學商學科を卒業し家藥醫油醸造藥を繼承し直接國稅九百二圓を納め岡山縣多額納稅者に列し又岡山縣農工銀行及中國信託會社取締役に擧げらるる家族は尚二女廣子（大一〇、四生）三女千枝（同一二、八生）四女朝子（同一四、一二生）二男昇（昭五、二生）繼子穣一（大元、一一生）あり叔母林（明一一、六生）同夫繁（慶應三、八生、岡山、守屋乾三弟）は共に分家し亡養叔母美知私生子龜尾（同二三、三生）は其家籍に入れり（岡山縣上房郡高梁町電一一）

池上時三郎　をぐら昆布、昆布商、大阪府在籍

妻　ヲトエ　明二七、七生、奈良、谷口榮三郎妹
男　種一　明四〇、一生
男　惠　明四三、六生、三男種一妻、兵庫中島意知二女
嫁　一惠

君は大阪府人池上龜太郎の二男にして明治四年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す昆布商を營む家族は尚三女ミツエ（大一二、二生）四女三代子（同一三、一二生）孫富子（昭六、三生、三男種一長女）同孝夫（同九、七生、同長男）あり弟角藏（明一三、七生）同悅次（同一九、六生）は各分家し妹しな（同二二、八生）は兵庫縣人池上幾八の養子となれりA六三〇B一五七（大阪市南區難波新地三番ノ三〇電南六二三〇）

池上德三郎　池上商店、履物卸商、大阪府在籍

妻　かね　明二二、三生、大阪、楠本茂助妹
男　修一　明四五、四生
男　輝夫　大三、八生

君は大阪府人池上萬太郎の三男にして明治十七年三月を以て生れ同四十三年兄萬太郎方より分れて一家を創立す同三十六年大阪高等商業學校を卒業し履物卸商を營む家族は尚二女壽子（大九、六生）三男遠治（同一一、一生）四男達治（同一二、五生）三女和子（同一四、一〇生）あり長女敏子（明四三、一一生）は大阪府人山田清

二郎弟松太郎に養子よね（同三六、一〇生）は同府人萬谷德松に妹とよ（同二四、一一生）は同府人伴井喜右衛門三男榮三郎に嫁せりA二五二B一五四（大阪市西區靱中通一ノ一〇電土佐堀九七二）

參照＝萬谷德松、山田清二郎の項

池川大次郎　大阪市助役、大阪府在籍

養子　清　明四三、三生、愛媛、池川龜太郎三男

君は愛媛縣人池川藤一郎の三男にして明治四年十二月を以て生れ同二十四年兄龜太郎方より分れて一家を創立す夙に大阪市吏員となり大正三年大阪市主事經理課長に任じ同五年大阪市西區長同十三年大阪市理事庶務部長を經て昭和七年二月大阪市助役となり現在に至るA四九八（大阪府北河内郡友呂岐村）

池川信俊　朝鮮銀行東京支店員、愛媛縣士族

母　タケ　文久二、七生、愛媛、德田健八三女
妻　直　昭二、八生、生母、岡山、仁平ツル
庶子

君は愛媛縣人池川弘隆の長男にして明治二十五年六月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學商業學科を卒業し佐賀炭礦會社取締役を經て朝鮮銀行に入り東京支店員たりしも後辭せり家族は尚養兄温廉（明六、六生、愛媛、十、笹井眞澄二男、現戸主）及其子女姉キヨウ（同二九、五生）あり姪房子（同三九、七生、養兄温廉長女）は愛媛縣人岩崎政德に嫁せり（東京市本郷區森川町一二二）

池下守清　從五位勳五等、工業試驗所技師、大阪工業試驗所第五部長、和歌山縣在籍

妻　喜代　明二七、六生、和歌山、小澤又一郎長女
男　守一　大七、二生
女　敏子　大四、八生

君は和歌山縣人池下丈之助の長男にして明治十七年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年大阪高等工業學校鉛用機關科を卒業し同四十一年同校助教授に任じ大正七年教授に進む同年商工省工業試驗所技師に轉じ現に大阪工業試驗所第五部長にして化學工業用材料及び諸裝置の試驗研究に從事し且一般化學工業界の設備改善の質疑應答指導等を擔任し商工省花蘭檢査所の嘱託技師を兼務す家族は尚二男清二（大八、六生）三男和男（同一一、六生）二女智子（同一四、七生）三女陽子（昭三、五生）四女昌子（同七、六生）あり（大阪府三島郡新田村下新田一ノ五）

池島勘治郎　味淋製造藥、大阪府在籍

妻　茂子　明三三、五生、大阪、吉田長七孫
男　敏生　大一〇、一二生

君は大阪府人池島勘治郎の孫にして明治三十年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す同時に前名敬三を改め襲名す味淋製造藥を營む家族は尚長女みち（大九、四生）二男邦生（同一三、四生）三男幹生（昭二、三生）四男彊（同四、八生）ありA一九四五（大阪市南區南炭屋町四九ノ一電南九一八）

池島三省　南千住製作所、吾嬬製鋼所㊣取締役、日本鑄鋼㊣常任監査役、東京府在籍

妻　ふで　明九、一生、養父半藏長女
男　清　明三四、五生
嫁　富美子　明五五、九生、長男清妻、北海道
婿　髭原辰男　姉九生、長男清妻、北海道

君は東京府人鶴森龜藏の叔父にして明治三十八年八月を以て生れ先代半藏の養子となり同三十九年家督を相續す現時南千住製作所取締役の外前記各會社の重役たり家族は尚孫三代子（大二一、一生、長男清長女）同熙（同一三、一〇生、同長男）同美沙子（昭四、二生、同三女）ありA一七一（東京市牛込區矢來町一一四）

參照＝鶴森龜藏の項

池島新太郎　前第一銀行㊣長府支店支配人、山口縣在籍

妻　イマ　明二三、一生、山口、池田國藏長女
男　奎吉　大元、一一生、山口高校在學
男　廣吉　大三、一二生、山口高校在學

君は大阪府人池島久藏の長男にして明治四年四月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十九年大阪高等工業學校鉛用機關科を卒業し同四十一年同校助教授に任じ大正七年教授に進む同年商工省工業試驗所技師に轉じ現に大阪工業試驗所第五部長にして化學工業用材料及び諸裝置の試驗研究に從事し且一般化學工業界の設備改善の質疑應答指導等を擔任し商工省花蘭檢査所の嘱託技師を兼務す家族は尚二男清二（大八、六生）三男和男（同一一、六生）二女智子（同一四、七生）三女陽子（昭三、五生）四女昌子（同七、六生）あり（大阪府三島郡新田村下新田一ノ五）

池島勘治郎　味淋製造藥、大阪府在籍

妻　茂子　明三三、五生、大阪、吉田長七孫
男　敏生　大一〇、一二生

君は大阪府人池島勘治郎の孫にして明治三十年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す同時に前名敬三を改め襲名す味淋製造藥を營む家族は尚長女みち（大九、四生）二男邦生（同一三、四生）三男幹生（昭二、三生）四男彊（同四、八生）ありA一九四五（大阪市南區南炭屋町四九ノ一電南九一八）

池島三省　南千住製作所、吾嬬製鋼所㊣取締役、日本鑄鋼㊣常任監査役、東京府在籍

妻　ふで　明九、一生、養父半藏長女
男　清　明三四、五生
男　富美子　明五五、九生、長男清妻、北海道
嫁　髭原辰男　姉九生、長男清妻、北海道

君は東京府人鶴森龜藏の叔父にして明治三十八年八月を以て生れ先代半藏の養子となり同三十九年家督を相續す現時南千住製作所取締役の外前記各會社の重役たり家族は尚孫三代子（大二一、一生、長男清長女）同熙（同一三、一〇生、同長男）同美沙子（昭四、二生、同三女）ありA一七一（東京市牛込區矢來町一一四）

參照＝鶴森龜藏の項

池島新太郎　前第一銀行㊣長府支店支配人、山口縣在籍

妻　イマ　明二三、一生、山口、池田國藏長女
男　奎吉　大元、一一生、山口高校在學
男　廣吉　大三、一二生、山口高校在學

君は大阪府人池島久藏の長男にして明治四年四月を以

て生れ同三十九年家督を相續す藏に第一銀行長府支店支配人たり家族は尚五男勇吉（大六、一〇生）六男貞吉（同九、九生）七男厚吉（同一二、九生）長女末（同一五、三生）あり弟誠三（明一七、三生）は一子を伴ひ分家せり（山口市上字野令二九三五）

池尻基房　正三位、子爵、府社高津宮社司舊公卿家、大二、七生、子爵梅小路定行三男、學習院高等科在學

養子　實　大五、五生、生母、大阪、角南よね
庶子　千代子

當家は内大臣清閑寺共房の次男權大納言共孝の後なり共孝別に一家を創立し家名を池尻と稱す夫より八代を經て先代知房に至り明治十七年子爵を授けらる君其後を享く君實は宗家伯爵清閑寺經房の弟にして男爵津守通秀の養叔父なり明治九年二月を以て生れ同二十二年先代知房の死跡を相續し前名熙吉を改め襲爵被仰付學習院高等科に學び明治四十五年以來大阪市飯座高津宮の社司たり（大阪市天王寺區逢坂上ノ町九二）

參照＝伯爵清閑寺經房、子爵梅小路定行、男爵津守通秀※伯爵鷲尾隆信※有馬市藏の項

池添馬吉　地主、東京府在籍

妻　すゞ　明一六、九生、鴨下銀次郎長女
男　秀夫　大三、八生
女　壽美　明四一、一一生
春　枝　大二、三生

君は東京府人池添卯太郎の二男にして明治十年三月を以て生れ同四十二年兄馬太郎方より分れて一家を創立す藝に江戸川兄弟折紙場を經營し後之を廢す地主たり家族は尚四男勝夫（大六、三生）六女房江（同九、七生）あり三女千惠（明四三、九生）は東京府人宮城福太郎に嫁せりA五四四（東京市淀橋區下落合四ノ二一二三電大塚三〇四七）

池園哲太郎　東京市主事、東京市淀橋區長、福岡縣士族

母　ソノ　萬延元、三生、福岡、富永長平二女

妻　弘代　明三〇、六生、京都、田村辨妹、
男　津田英學塾出身
　　悦太郎　昭三、一生

君は福岡縣士族池閑諏の長男にして明治二十一年九月を以て生れ同二十五年家督を相續す同四十四年三月立教大學文科卒業大正五年八月北米合衆國に留學同七年七月コロンビヤ大學文科を同八年七月ゼネラル神學院及ニューヨーク大學文科を各卒業「マスター・オブ・アーツ」「バチエラー・オブ・デビニチー」「マスター・オブ・ベダゴジー」の各學位を授與せらる歸朝後慶應義塾大學教授となり次で東京市社會教育課長東京市淺草區長に歷任し現職に轉ず曩に井荻町會議員たり著書に「青年と語る」「青年日本の建設」「新興支那を觀る」等あり哲軒と號し書を能くす趣味として旅行讀書乘馬大らを好む基督教を信ず家族は尙長女和子（大一一、一生）二女惠子（同一三、五生）三女光子（同一四、一一生）あり（東京市杉並區荻窪二ノ一〇四電荻窪二三五六）

參照＝田村鉾※菊池英彦の項

池田愛吉

家具商
東京府在籍

妻　てる　明四〇、二生、埼玉、庄森彦四郎
男　豊　明四四、一生
女　寡代　大二、三生
　　ゆき　大四、七生

君は福井縣人池田久左衛門の五男にして明治四年一月を以て生れ同三十九年兄久左衛門方より分れて一家を創立す家具商を營む家族は尙長男清（大六、八生）四女あり長女マサ（明四二、四生）は東京府人江森秋に嫁せりA二八六B一五一（東京市日本橋區江戸橋二ノ三ノ三電日本橋一八八八）

池田章

妻　とう　從七位勳六等、陸軍二等軍醫、靜岡縣參事會員、三島町會議長、靜岡縣醫師會理事、病院經營、藥剤師、靜岡縣在籍
男　晉　明二三、一生、靜岡、藤掛正雄妹
　　すゑ　明三三、一〇生
婦　明三八、二生、長男晉妻、靜岡、勝間兵吉六女

男　信　明三七、一一生
男　央　明三九、一一生
女　正子　大二、六生

君は靜岡縣人池田彦三郎の長男にして明治七年七月を以て生れ後改名し同三十九年家督を相續す同三十年第一高等學校醫學部を卒業し明治三十七八年の戰役に陸軍二等軍醫として出征す池田醫院と稱し醫を開業し傍ら靜岡縣病院取締役三島製紙會社監査役にして推されて靜岡縣參事會員三島町會議長たり養に靜岡製氷冷藏會議長たり家族は尙五男玄（大七、五生）六男裕（同一〇、六生）七男且（同一三、一生）四女公江（昭二、一生）孫貞子（大一三、二生、長男晉長女）同矩子（同一五、九生、同二女）同弘（昭三、四生、同長男）同功（同五、七生、同二男）あり長女愛子（明三五、八生）は靜岡縣人大井潤に二女道子（同四〇、一一生）は同縣人山本秀夫に妹きわ（同一二、一一生）は東京府人兩角秀世に嫁し弟太一（同一二、六生）は同妻さよ（同一四、一一生、靜岡、岩瀨喜三郎二女）と共に其三子を伴ひ叔父太治郎（安政五、五生）は同妻きう（同四、三生、靜岡、長田清八長女）と共に其一子を伴ひ各分家し從弟時（明二二、三生、叔父太治郎長男）は靜岡縣人田代いくの入夫となれり（靜岡縣田方郡三島町電二二三）

池田明篤

昭和銀行㈱四谷支店長
岡山縣士族

妻　謙　明二九、九生、岡山、水田富太郎四女

男　義　大一二、一一生

君は岡山縣士族池田明弼の三男にして明治二十四年八月を以て生れ同三十年家督を相續す大正五年明治大學商科を卒業し直ちに近江銀行に入り昭和三年昭和銀行に轉じ鮫込支店長を經て現時四谷支店長たり家族は尙二女温子（大一〇、四生、三輪田高女在學）四女順子（昭二、九生）五女怜子（同四、三生）あり姉揚（明一六、九生）は同山縣士族日置保彦に嫁せり（東京市中野區住吉町一〇）

參照＝日置保彦、水田富太郎の項

池田淺次郎

土木建築請負業
東京府在籍

男　明四、八生、千葉、中村源三郎二女
妻　加藤枚　明二八、二生、高知、中村岩馬妹
男　穣　大一〇、一〇生

君は東京府人森田銀次郎の三男にして明治二十四年一月を以て生れ同府人池田四郎作の養子となり大正九年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙長女朝子（大一二、九生）二女壽子（同一四、一二生）三男照（昭五、五生）三女貞子（同九、三生）あり（東京市大森區新井宿六ノ六一〇電大森三三一）

池田伊三郎

文房具商
東京府在籍

妻　ゆき　元治元、六生、大阪、山田豐兵衛妹
婦　しげ　明二三、三生、亡二男伊太郎妻、東京、安田悦三妹
孫　伊喜雄　昭四、五生、亡二男伊太郎長男
男　萬次郎　明二三、一〇生
婦　てる　明二八、一〇生、四男萬次郎妻、靜岡、森延長女
男　茂　明三二、一生
婦　たつ　明三七、一生、五男茂妻、千葉、野山善作姪
孫　一郎　大三、六生、四男萬次郎長男
孫　きみ　大四、二生、亡二男伊太郎長女
孫　靜子　大五、七生、四男萬次郎長女
孫　スマ子　大七、九生、四男萬次郎二女

君は大阪府人にして文久三年一月を以て生れ明治十二年先代かねの養子となり同十七年家督を相續す文房具商を營む家族は尙孫品子（大一一、九生、亡二男伊太郎五女）同伊代子（同一四、八生、同六女）同榮三（同一四、四生、四男萬次郎三男）同朝男（昭二、九生、同四男）同守（大一三、九生、五男茂長男）同今子（同一五、一生、同長女）同民子（昭七、一二生、同二女）あり二女かね（明二九、五生）は千葉縣人根本虎雄に三女マキ（同三四、二生）は神奈川縣人足立濱吉長男久吉に嫁せりA七八〇（東京市深川區西町三五電本所五六二）

池田浅次郎

染物業
京都府在籍

妻　加藤枚　明二八、二生、高知、中村岩馬妹
男　穣　大一〇、一〇生

君は東京府人森田銀次郎の三男にして明治二十四年一月を以て生れ同府人池田四郎作の養子となり大正九年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙長女朝子（大一二、九生）二女壽子（同一四、一二生）三男照（昭五、五生）三女貞子（同九、三生）あり（東京市大森區新井宿六ノ六一〇電大森三三一）

池田伊三郎

染物業
京都府在籍

妻　しま　明四、八生、千葉、中村源三郎二女
女　正子　明二八、二生、高知、中村岩馬妹
孫　伊喜雄　昭四、五生、亡二男伊太郎長男
男　萬次郎　明二三、一〇生
婦　てる　明二八、一〇生、四男萬次郎妻、靜岡、森延長女
男　茂　明三二、一生
婦　たつ　明三七、一生、五男茂妻、千葉、野山善作姪
孫　一郎　大三、六生、四男萬次郎長男
孫　きみ　大四、二生、亡二男伊太郎長女
孫　靜子　大五、七生、四男萬次郎長女
孫　スマ子　大七、九生、四男萬次郎二女

君は大阪府人にして文久三年一月を以て生れ明治十二年先代かねの養子となり同十七年家督を相續す文房具商を營む家族は尙孫品子（大一一、九生、亡二男伊太郎五女）同伊代子（同一四、八生、同六女）同榮三（同一四、四生、四男萬次郎三男）同朝男（昭二、九生、同四男）同守（大一三、九生、五男茂長男）同今子（同一五、一生、同長女）同民子（昭七、一二生、同二女）あり二女かね（明二九、五生）は千葉縣人根本虎雄に三女マキ（同三四、二生）は神奈川縣人足立濱吉長男久吉に嫁せりA七八〇（東京市深川區西町三五電本所五六二）

妻　スカ　明一九、一一生、京都、山本莊二郎二女
男　俊一郎　明四二、二生
　　忠次　明四五、三生

君は京都府人西村忠左衛門の長男にして明治十三年九月二十一日を以て生れ昭和四年先代ナツの養子となり家督を相續す染物業を營む家族は尙三男喜三（大七、二生）三女康子（同九、三生）四男鐵彌（同一二、三生）あり長女春子（明四〇、一生）は京都府人小北榮夫に嫁せりA五一五（京都市上京區西堀川通一條上ル電西陣一一三四）

池田一良

長野縣多額納稅者、屠物商
長野縣在籍

母　むめ　安政四、九生、長野、安藤林右衛門長女
妻　とと　明一〇、六生、長野、丑山伊一郎妹
男　乙平　大一〇、三生
女　淑子　大七、三生

君は長野縣人池田清之助の長男にして明治十五年六月を以て生れ同三十四年家督を相續す屠物商を營み直接國稅四百九十五圓を納め縣下の多額納稅者たり長女操（明四〇、三生）は其夫與一（同三五、九生、長野、伊藤健次郎二男）と共に一男一女を伴ひ分家し未亡人にして姉いせ（明九、一〇生）は神奈川縣人石川時次に嫁し妹とよ（同二一、一生）は長野縣人坂田多七の養子となり次で同縣人山岸又次郎に嫁し弟政信（同一六、一二生）は分家し同博（同三一、五生）は分家亡弟勝利の死跡を相續せり（長野市字木二四三電一三三三「店舗」同市綠町一四一五電九〇四）

池田岩三郎

正四位勳二等功五級、海軍中將、藤永田造船所社員、廣島縣在籍

妻　千代　明三四、一〇生、三菱商事會社員慶大法學部出身
男　一郎　明四〇、七生、長男一郎妻、兵庫神田祺一郎妹
婦　寡美子

君は舊廣島藩士池田辰之助の三男にして明治七年八月を以て生れ同三十四年兄勝太郎方より分れて一家を創立す同二十九年海軍機關學校を卒業し同三十一年海軍少機關士に任じ大正十三年海軍中將に累進す其間三笠分隊長として日露戰役に參加し功あり功五級金鵄勳章を賜ふ爾來造船監督官横須賀海軍工廠造機部員兼機關學校教官海軍大學校教官兼教育本部々員海軍省機關部々員第一艦隊兼聯合艦隊機關長教育本部第三部長海軍省機關學校長佐世保海軍工廠長海軍省軍需局長等に歷任し昭和四年豫備役被仰付現時藤永田造船所社員たり家族は尙孫富喜代（昭八、九生、長男一郎長女）あり長女順子（明三八、一生）は東京府人足立一良（銅鐵商東京商大田身）に嫁せり（東京市牛込區市谷河田町一一）

參照＝神田祺一郎の項

池田榮三郎

土木建築請負業
大阪府在籍

妻　アイ　明二、一二生、大阪、川崎藤兵衛長女
　　美子　明二七、七生、大阪、佐々木たま子
婦　ハナ　私生子
　　眞太郎　明三二、六生、養子眞太郎妻、大阪、澤田德二良三女

君は大阪府人河杉定次郎の弟にして元治元年九月を以て生れ先代彌兵衛の養子となり明治二十三年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙庶子三郎（大一一、一〇生、生母、大阪、加藤マキ）孫芙美（同一〇、一二生、同長男）同美代（同一三、一生、同三女）同稔（同一四、一二生、同長男）同眞昭（同四、七生、同三男）同春夫（同六、四生、同四男）同眞勝（同八、九生、同五男）あり三男榮（明三四、九生）同妻ウノ（同三六、四生、大阪古崎喜八郎三女）は其一子を伴ひ四男榮次（同三五、一二生）同妻豐子（同三七、五生、大阪、杉平吉妹）は其一女を伴ひ六男新治（同三八、八生）同妻靜（同三七、三生、大阪、田中眞次郎長女）は其一男一女と共に孫壽（大九、二生、養子眞太郎長女）は各分家し庶子信太郎（同四〇、一二生）も亦分家せり（大阪市西區阿波座四番町七電新町七〇五）

參照＝※古崎晉次郎の項

池田嘉吉

御木本眞珠店支配人
兵庫縣在籍

妻　うの　嘉永三、三生、兵庫、土井小市郎二女
　　よう子　明一九、七生、三重、御木本幸吉三女
男　正男　大六、二生、東京高師附屬中學在學
女　信子　明四三、一〇生、御茶の水高女出身、英國倫敦留學中

當家は代々兵庫縣三木町に住し土地の門閥家たり君は先代譲太郎の二男にして明治九年十月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直に第一銀行に入り本店勤務同三十九年仁川支店支配人次席同四十一年元山支店支配人同四十四年蘇信支店支配人に歷任し同四十四年御木本眞珠店に入り大正二年歐米漫遊商業視察を終へて歸朝し同店支配人となり現在に及ぶ同十二年並に昭和三年兩度商用を帶びて歐米を漫遊す長女愛子（明四一、三生、御茶の水高女出身）は東京府士族林曙長男醫學士曙に三女文子（大元、一一生、東京音樂學校出身）は東京府人朝吹常吉長男英一に嫁し弟喜藏（明一七、九生）同妻ひさ子（同二九、一二生、兵庫、玉置綱藏二女）は共に分家せりA一八七（東京市澁谷區大山町二一電青山二五）

參照＝朝吹常吉、林曙、御木本幸吉※武藤梢太郎※西川虎吉の項

池田嘉六

從四位勳三等、前鐵道省建設局長
東京府在籍

妻　榮　明四二、一一生、石川、安原信義三女
　　英雄　大一〇、二生
　　美代子　大四、九生、府立第五高女出身
女　寡母　大一〇、一〇生

君は埼玉縣人池田萬藏の六男にして明治十五年五月五日を以て生れ同三十八年兄豐作方より分れて一家を創立す同三十八年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し帝國鐵道廳技手となり同年鐵道院技師に任ぜられ大正十二年歐米に出張を命ぜらる東京建設事務所長道設局計畫課長を經て鐵道技師に轉じ昭和六年鐵道省建設局長に任ぜられ同九年八月之を辭す家族は尙二男俊雄（大一三、一生）あり（東京市豐島區巣鴨三ノ二八電大塚二四〇五）

池田確二　正五位勳五等、判事、東京地方裁判所部長、佐賀縣在籍

母　ヤス　明元、七生、佐賀、秋山清市妹

妻　鉦子　明三五、六生、東京、矢部康二女

男　諦　昭五、一生

君は佐賀縣人池田虎一郎の長男にして明治二十年七月を以て生れ同三十五年家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し司法官試補となり同五年判事に任じ爾來東京地方兼東京區浦和地方兼浦和區浦和地方東京地方兼東京區各裁判所判事東京控訴院判事千葉地方裁判所部長東京控訴院判事等に歴補し昭和五年東京地方裁判所部長となり同七年同地方裁判所豫審判事となる同九年遣外法官として海外に出張を命ぜられ同年同地方裁判所長に補せらる亡弟研三妻貞子（明三六、三生、山口、士、鹽田世綱妹）は其子女を伴ひ分家し妹八重子（同三六、二生、山脇高女出身）は滋賀縣人福島松長男治一郎に叔母ヒサ（同八、一一生）は佐賀縣人古賀久助に嫁せり（東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ四八一）

參照＝福地國松の項

池田克一　從五位勳五等、司法書記官兼檢事、大臣官房調査課長、刑事局勤務、靜岡縣士族

父　忠　嘉永三、九生、現戸主

妻　須賀　明三四、九生、法學博士、末弘嚴太郎妹

男　靖　昭四、六生

君は靜岡縣士族池田忠一の三男にして同宏の弟なり明治二十六年五月二十五日を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同八年檢事に任じ爾來東京地方兼同區裁判所檢事を經て同十五年司法書記官を兼任し行刑局に勤務し昭和二年司法書記官專任となり刑事局兼行刑局勤務となり現時前記の官職に在り家族は尙長女豊子（大九、一〇生）二女弘子（同一三、四生）あり（東京市杉並區井荻一ノ一五七電荻窪二二八三）

參照＝池田宏、末弘嚴太郎淡長壽吉の項

池田勝三郎　正五位勳四等、東京鐵道局長、新潟縣在籍

妻　ヤス　明二八、一生、新潟、二宮順忠七女

男　康平　大一二、二生

女　テイ　大六、七生

君は新潟縣人池田虎治郎の四男にして同正平同文藏の弟なり明治十八年十月十日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大正二年文官高等試驗に合格す同三年東京帝國大學法科大學を卒業し鐵道院副參事同參事鐵道書記官に任じ同十二年歐米各國へ出張を命ぜられ又倫敦に於て第十回萬國鐵道會議開催に當り委員として參列仰付けられ昭和二年東北帝國大學講師となり同四年鐵道監察官に任ぜられ翌年東北帝大講師囑託を辭し爾來鐵道省經理局購買第二課長兼倉庫課長大臣官房現調査課長を經て昭和八年名古屋鐵道局長に任ぜられ同九年八月東京鐵道局長に轉任す家族は尙二女トシ（大一三、一生）二男裕治（昭七、五生）あり（東京市麹町區丸ノ内一丁目東京鐵道局内）

參照＝池田正平、池田文藏※廣川和一※鷲尾健治の項

池田勝吉　從三位、男爵、池田侯爵家分家

妻　覺子　明一一、六生、伯爵上杉憲章妹

男　正廣　明三七、一生、從五位

婿　昌子　明四三、八生、二男正廣妻、長崎澤山精八郎孫

庶子　利子　大二、九生、生母、東京、鴨野てう

庶子　吉彰　大三、一一生、生母、東京、鴨野てう

庶子　與利子　大六、六生、生母、東京、鴨野てう

君は舊岡山藩主從一位池田茂政の長男侯爵池田宣政の大叔父にして明治七年八月十二日を以て生れ同十二年宗家より分れて一家を起し特旨を以て華族に列し同十七年男爵を授けらる家族は尙庶子吉慶（大九、九生、生母、東京、鴨野てう）同條敬（同一二、一一生、生母同上）同矩子（昭三、四生、生母同上）同規（同五、一一生、生母同上）同光利（同九、一生、生母同上）同生、二男正廣（長男）あり長女武子（明二七、二生）は子爵久世廣武叔父廣英に二女鄰子（同一八、四生）は東京府人澁澤正雄に養子信子（同一七、九生、侯爵池田宣政大叔母）は兵庫縣人佐々木新晉に嫁し四女良子（同四一、一〇生）は岡山縣士族池田經三郎の養子となれり（東京市荏原區戸越町六五三）

參照＝侯爵池田宣政、伯爵上杉憲章、澁澤正雄※侯爵細川護立※伯爵龜井玆常※伯爵烏丸光大※伯爵中川久任※子爵池田政保※子爵上杉勝昭※子爵大給近孝※子爵高辻宜麿※子爵細川立興※子爵松平忠壽※子爵松平直幹※子爵六條有直※男爵林權助の項

池田龜三郎　三菱鑛業㈱常務取締役、中島鑛業㈱別炭鑛鐵道、九州炭礦汽船、三菱石油、内幌炭礦鐵道、飯塚鑛業各㈱取締役、山形縣在籍

妻　よし

男　泰雄　明三〇、一生、三重、松本卯吉養子、東京府立第三高女出身　大八、一生

君は山形縣人池田龜藏の六男にして明治十七年五月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し三菱鑛業會社に入り累進して昭和二年取締役技術部技師長となり同三年同社常務取締役に就任し傍ら前記各會社の重役として知らるる大正十五年歐米各國を視察す家族は尙長女節子（昭二、九生）あり（東京市中野區住吉町二〇電二九三二）

池田勘藏　大阪府多額納稅者、池田組、土木建築請負業、大阪府在籍

妻　しる　明三一、三生、大阪、安東熊吉五女

男　勘三郎　大四、八生

君は大阪府人先代勘藏の二男にして明治二十六年四月二十二日を以て生れ大正十三年家督を相續し前名勘治郎を改め襲名す直接國稅六千九百圓を納め大阪府多額納稅者にして池田組と稱し土木建築請負業を營む昭和三年三月より一ヶ年間歐米各國を巡遊し主に土木建築事業の實際を研究して歸朝す園藝音樂園菲に趣味を有す（大阪市北區曾根崎新地三ノ一三電北一一五七・一五〇七）

池田菊苗　正三位勳二等、理學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、理化學研究所員、東京府在籍

妻　貞　明六、二生、石川、士、岡田耕三女

男　醇一　明二六、一一生

婿　英　明二八、一二生、長男醇一妻、福岡、本間英麿養妹

女　さき　明三五、一〇生

男　眞吾　明三八、五生

男　兼六　明四〇、二生

君は鹿兒島縣士族池田春苗の二男にして元治元年十月を以て生れ明治五年分れて一家を創立す同二十二年東京帝國大學理科大學を卒業し大學院に入り次で高等師範學校教授東京帝國大學理科大學助教授等を歴任し同三十二年獨逸に留學を命ぜらるる歸朝後同大學教授となり同三十五年理學博士の學位を受け後退職し現時名譽教授の稱號を賜る曩に帝國學士院會員に列す家族は尙孫さえ（大一〇、四生、長男醇一長女）同いつ（同一三、一二生、同二女）あり長女ふき（明二八、一一生）は大阪府人鮫島實三郎に嫁せり（東京市荏原區戸越町一三四三電荏原二九一四）

參照＝鮫島實三郎、本間英麿の項

池田清　從四位勳三等、朝鮮總督府警務局長、朝鮮總督府警察官講習所長、寶物古跡名勝天然記念物保存會委員、鹿兒島縣士族

妻　與志　從四位勳三等、朝鮮總督府警務局長、朝鮮總督府警察官講習所長、寶物古跡名勝天然記念物保存會委員、鹿兒島縣士族

男　美佐子　明二四、八生、鹿兒島、士、岡本眞一長女　大六、一生

君は鹿兒島縣士族池田直助の長男にして明治十八年二月を以て生れ同四十五年家督を相續す大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格し警視廳警部同警視を經て同十一年岐阜縣書記官に任じ警察部長に補せらる爾來內務書記官神社局第一課長京都大阪各府書記官警察部長兵庫縣書記官內務部長及び內務省神社局長に歴任し昭和六年爾記の官職に轉じ今日に至る家族は尙姉タヱ（慶應元、一一生）弟實志（明二五、一一生）同妻スマ（同二六、一〇生、鹿兒島、海江田伸太郎長女）及其子女あり（京城府倭城臺町官舍電本局一〇六五）

池田清秋　勳八等、東京市會議員、辯護士、東京府在籍

妻　むら　明二二、九生、千葉、渡邊泰彬妹

男　千葉縣人池田秋藏の二男にして明治十二年九月十日を以て生れ後改名し大正四年兄元吉方より分れて一家を創立す夙に辯護士を開業し推されて東京市會議員たり尙趣味として登山、菊作りありA三〇三（東京市麹町區下六番町一三電九段七一三）

池田清就　從四位、子爵、陸軍三等主計、横濱正金銀行上海支店員

妻　謙子　明四〇、四生、侯爵池田仲博二女

當家は舊鳥取藩主左近衛少將池田光仲の三男河內守潛定の後なり清定父の遺封中二萬石を分與され因州若櫻の城主となる夫より八代を經て先代德定に至り戊辰の役鳥羽伏見に戰つて功あり明治七年子爵を授けらる君は其三男にして明治三十一年九月十六日を以て生れ同四十三年襲爵す學習院高等科を經て大正十二年京都帝國大學經濟學部を卒業し横濱正金銀行に入り同行大阪支店を經て現時同行上海支店に在勤す家族は尙長女喜代子（昭二、一生）二女澄子（同四、五生）あり姉環子（明九、七生）は東京府士族日野英治に同敬子（同一三、一〇生）は子爵井上正鑑先代正言に同鶴子（同一三、八生）は東京府士族池田悦吉に同智加子（同一九、一一生）は鳥取縣士族山田四郎に嫁せり（留守宅「東京市澁谷區原宿一ノ二六六池田侯爵方電青山二八二」）

參照＝侯爵池田仲博、子爵井上正鑑※伯爵大木喜福※伯爵勝芳孝※伯爵南部利英※子爵水野忠歆の項

池田金太郎　天金、天麩羅料理業、東京府在籍

母　乃婿　元治元、九生、東京、平野喜三郎妹

妻　しま　明二一、四生、東京、安西德太郎妹

男　延太郎　大二、三生

男　彌三郎　大三、一二生

君は東京府人池田鉸三郎の長男にして明治十七年一月を以て生れ同三十二年家督を相續す代々天金と稱し天麩羅の老舗として普く食通間に知られ其の名噴々たり家族は尙妹せい（明二五、四生）あり長女初（明四〇、一二生）は東京府人岡部傳次郎に嫁し弟銀次郎（同一八、九生、劇作家、號大伍、早大文科出身）は分家せりA三四〇六B六三三（東京市京橋區銀座西五ノ五ノ一電銀座一七〇八）

參照＝安西德太郎の項

池田九郎　從五位勳六等、檢事、竹田區裁判所兼支部檢事、廣島縣在籍

妻　アヤ　明二九、一二生、熊本、士、片山算長女、熊本大江高女出身

女　エミ　大八年生、竹田高女在學

君は廣島縣人にして明治二十五年三月二十四日を以て生る大正五年京都帝國大學法科大學を卒業し辯護士となり同九年檢事に任ず爾來札幌地方小樽岩見澤熊本直方各區裁判所檢事に歴任し現時竹田區裁判所兼支部檢事たり家族は尙二女二男子（大一一年生、竹田高女在學）及四女一男あり（大分縣直入郡竹田町竹田區裁判所內）

池田邦松　金物問屋業、大阪府在籍

妻　ツト　明一四、五生、大阪、木村和助二女

養子　信治　明二四、二生、養子イト夫、兵庫安本久平三男

養子　イト　明三〇、五生、養子信治妻、大阪木村和助四女

君は愛知縣人中島理助の四男にして明治九年十一月二十九日を以て生れ同三十一年先代キンの養子となり家督を相續す現時金物問屋業を營む家族は尙孫娶之助（大六、四生、養子信治長男）同貞二郎（同八、一生、同二男）同榮三（同九、一二生、同三男）同和夫（同一二五生、同四男）同美代子（同一四、一一生、同長女）同彰造（昭四、七生、同五男）同浩藏（同六、九生、同六男）ありA四六九（大阪市西區新町通四ノ一〇ノ一電新町一六九六）

池田軍袈裟　鹿兒島縣多額納稅者、油屋、海產物商、鹿兒島縣在籍

妻　ミツ　明一五、九生、鹿兒島、矢野佐兵衛長女

男　勝榮　明三六、六生
婦　シゲ　明四二、一二生、長男勝榮妻、鹿兒島、御手洗岩吉二女
男　義雄　明四四、一一生
女　ヒデ子　大七、二生

君は鹿兒島縣人池田盛左衛門の長男にして明治十年十月を以て生れ大正七年家督を相續す油屋と稱し海產物業を營み現に鹿兒島縣多額納稅者にして直接國稅九百四十九圓を納む家族は尙三男勝男（大一〇、二生）四男盛秋（昭二、四生）孫盛文（同五、五生、長男勝榮長男）あり長女ハナ（明四〇、三生）は同縣人崎崎吉兵衛に二女レイ（同四二、八生）は同縣人坂本三袈裟の養子となり弟勝次（明二三、一二生）同妻ツヨ（同二七、八生、鹿兒島、横山十太郎長女）は其子女を伴ひ弟勝義（同二七九生）は同妻オキサ（同三四、九生、鹿兒島、黑木正義二女）と共に分家せり（鹿兒島縣肝屬郡內之浦村電七）

池田敬八

從三位勳二等、衆議院議員（三重縣選出）、東京府在籍

妻　けい　明三、八生、養父房明長女
養子　修之助　明三七、一生、廣島、井上貫津五男
女　た　久　明四二、五生

君は三重縣人赤坂敬二の六男にして明治七年七月を以て生れ先代房明の養子となり大正五年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格同三十五年專賣局事務官次いで煙草專賣局書記官に任ぜられ專賣局參事となり此の間米國に差遣せられ官房監督課長監理課長に就任す大正六年內閣印刷局長に任ぜられ後再度歐米に出張す退官後鄕黨より推されて衆議院議員に當選すること三回現に立憲民政黨所屬たり詩書琴及劍道に趣味ありA一五四（東京市小石川區駕籠町二一（電入塚四五〇）

池田健藏

池田國、茶商
東京府在籍

妻　はん　明一四、三生、東京、內田由兵衛
男　正之助　明四四、三生
女　千重子　大元、一一生
女　富貴子　大七、一生

君は東京府人小島新八の三男にして明治十八年三月を以て生れ同四十一年同府八池田萬藏の養子となり分れて一家を創立す池田國と稱して茶商を營み資產家たりA四八〇B一六七（東京市京橋區銀座一ノ三ノ一電京橋四七八八）

池田源太郎

岩川醸造、米吉殖產各㊫取締役、鹿兒島縣十族代表社員

妻　ミツ　明九、三生、鹿兒島、抽木クマ母
男　亨　明二八、一一生
男　博　明四〇、六生
男　力　明四二、一一生、早稻田大學商科在學
女　郁子　大六、八生、東京、山脇高女家政科在學

君は鹿兒島縣士族池田源五右衛門の長男にして明治五年七月を以て生る同七年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫幹子（大九、一生、長男亨長女）同正（同一一、四生、同長男）、あり長女ツル（明二八、五生）は鹿兒島縣人濱田毅に嫁せり（鹿兒島縣噯崎郡末吉町電八）

池田五六

日本自動車、アスファルト孔劑、笛吹水電、有樂商事各㊫取締役
山梨縣在籍

妻　ゑい　明二七、五生、愛知、神谷しづ姉
男　昭一　昭四、一生

君は山梨縣人池田宇右衛門の四男にして明治八年十一月を以て生る夙に山梨縣師範學校を卒業し同二十九年渡米同三十二年より紐育コロンビヤ大學に四ケ年間遊學し其後在米日本人會に幹事として招聘せられ又桑港に於て發行せる「新世界新聞」社長となり在米二十四年に及ぶ歸朝後三ッ引商事笛吹水電各會社の重役に推され現時前記會社の重役たり家族は尙亡男長男正一（大三、一生、現戸主）同母すけの（明一八、一生、山梨、山枝長次郎二女）及其弟妹あり男滿義（同一九、四生、亡兄喜市朗二男）同妻としゑ（同二五、二生、山梨、窪田喜作妹）は分家し男保作（同三二、四生、亡兄喜市朗男）は其養子となり姪松次（同二二、一二生、同二女）は山梨縣人窪田守衣二男武重に同しけり（同二八、六生、同三女）は神奈川縣人芳澤隆利に嫁せり（東京市麻布區笄町一四二電麻青山三九五八）

池田耕三

正八位勳六等、陸軍步兵少尉、大日本防禦㊫參與、會計課長
岐阜縣在籍

妻　つたお　明一八、五生、岐阜、末松三郎長女
男　耕一郎　大二、一一生
女　温子　大七、四生、大手前高等女學校在學

池田家は美濃國々幣大社南宮神社舊社僧五大坊十如院の家なり君は先代實の長男にして明治十五年八月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十三年大阪商業學校を卒業し一年志願兵として入隊日露役に從軍す後尼崎紡績會社に入り同社の攝津紡績會社と合併し大日本紡績會社と改稱の後も引續き勤務し現時其參與にして會計課長たり家族は尙姉年尾（明一〇、九生）あり長女澄子（同四〇、八生）は滋賀縣人福永政治郎二男文三郎に二女敏子（同四二、五生、大手前高女出身）は兵庫縣人小川榮太郎長男榮男に三女三枝子（同四四、八生、金蘭高等女學校出身）は京都府人木村俊三長男一郎に嫁せりA七七一（大阪府豐能郡豊中町若松二電岡町一一七）

參照＝小川榮太郎、福永政治郎の項

池田治郎吉

文房堂毛筆出資社員、文房具洋畫材料商、東京府在籍

祖母　チエ　嘉永五、九生、東京、富藤長衛長女
繼母　英　明二五、六生、東京、椿市太郎長女

君は東京府人先代治郎吉の長男池田富次郎の養嗣にして大正四年八月を以て生れ昭和三年家督を相續し前名喜一を改め襲名す現に遺業たる文房具洋畫材料商を營み文房堂の名著聞す家族は尙弟善次（大一二、二生）あり叔父滿次（明二五、九生）同妻はる（同三三、三生、東京、曾田爲次郎長女）も亦分家せりA二八八（東京市中野區桃園町一一電中野四〇四七）

參照＝池田富次郎の項

池田繁治

正五位勳四等、辯護士
新潟縣在籍

父　榮作　安政三、一二生、現戸主
繼母　シモ　明八、四生、新潟、古川寅吉長女
妻　年子　明三〇、二生、愛知、正木尙常三女
男　愿　大六、四生、高知高校在學

君は新潟縣人池田榮作の長男にして明治十八年一月を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す山形縣西村山郡長山形群馬愛知各縣理事官愛知縣事務官北海道廳書記官に歷任し次で北海道廳學務部長高知縣書記官和歌山縣書記官を經て昭和六年福島縣書記官に任じ同縣內務部長に補せられ後退官す現時辯護士たり家族は尙二男和（大八、三生）三男重（同一〇、三生）四男淑（同一二、二生）長女東子（同一四、三生）五男昭（昭二、六生）あり妹コウ（明二〇、八生）は新潟縣人小山喜太郎從弟宇太郎に同コマ（同二六、一一生）は同縣人關谷代作弟只五郎に同きよ（同三四、二生）は東京府人石田賢太郎に嫁し弟豊一郎（同三二、四生）同義信（同三七、七生）同信一（同三九、四生）同寛（同四三、八生）は各分家せり（東京市板橋區志村西臺町八二電練馬北町三七）

池田繁太郎

內外出版印刷㊫監査役、立命館理事、辯護士、京都府在籍

妻　マキ　明一一、一一生、京都、佐伯ツネ姉
養子　繁　大三、四生、島根、今岡吉藏三男

君は島根縣人今岡臺八の四男にして明治十八年十一月を以て生れ先代幸太郎の養子となり大正十四年家督を相續す明治三十八年立命館大學を卒業し辯護士となり京都市に開業して今日に至る又現時立命館理事にして前記會社の重役たり養父幸太郎（文久三、六生、島根、山根興一郎兄）同妻リキ（明一二、一二生、島根、森山兵之助長女）は其子女を伴ひ分家し養子たつ子（同四二四生、井川イヨ私生子）は京都府人今村眞二に嫁せりA六九七（京都市中京區寺町通丸太町下ル電上二六四七）

池田鎭男

三井銀行㊫孟買支店員
東京府士族

妻　たけ　明一一、四生、東京、士、蓮見鉀之助長女
男　貞　明四三、一二生、新潟、近藤光之妹
男　靖　昭八、一二生

君は東京府士族池田圓男の長男にして明治三十三年二月十六日を以て生れ昭和六年家督を相續す大正十四年慶應義塾大學經濟學部を卒業し直ちに三井銀行に入り現時同行孟買支店に在勤す家族は尙長女眞子（昭五、一〇生）二女禮子（同七、一生）あり（留守宅「東京市澁谷區神山町一六）

池田七郎兵衛

福井縣會議員、福井縣多額納稅者農業、福井縣在籍

妻　淑子　明二七、二生、福井、齋木小太郎養子
男　泰士　明四三、一生
女　紀子　大六、三生

君は福井縣人先代七郎兵衛の三男にして明治十五年六月を以て生れ大正二年家督を相續し前名千代三を改め襲名す農を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅六百九十圓を納む福井縣會議員に選ばるゝ事數回現時其の職に在り義に同議長に推されたる事あり又第九十一銀行頭取白山水力大正電氣各會社取締役たり事あり家族は尙二男紀典（大五、一生）三男左內（同八、一生）淳二（同一五、六生）あり

池田叡二

正五位勳四等、判事、廣島區裁判所監督判事、新潟縣在籍

妻　シカ　明四三、六生
女、同志社女學校出身
男　博　明四〇、六生

君は新潟縣人池田吉一郎の二男にして明治十四年九月二十五日を以て生る同四十年卒業し同年司法官試補として福井地方裁判所詰となり同四十二年判事に任じ爾來石卷區仙臺區同地方大河原區神戸地方同區大阪區同地方堺區大阪區同地方丸亀區に歷補し大正十五年大津地方裁判所部長に轉じ現時廣島區裁判所監督判事たり家族は尙長女和歌子（大九、三生）四男信孚（同一三、一一生）兄九思（明七、七生、現戸主）同妻カネ（同六、九生、新潟、遠間惣治妹）あり（廣島市東平塚町三二四電二〇九二）

池田十三郎

從三位勳二等、資產家
東京府在籍

妻　とき　明一三、九生、東京、岡本眞一妹
男　秀夫　明三三、三生、驛合紙器會社員、慶大經濟學部出身
婿　千代子　明四四、八生、長男秀夫妻、東京豐田四郎二女
男　勝三　明三七、八生、大阪醫大出身
婿　菊枝　明四二、一一生、三男勝三妻、愛知、池田兵吾妹
男　五郎　明四二、一一生、東京帝大法學部英法科在學
男　六郎　大二、二生、早大在學

君は長崎縣士族池田陽雲の四男にして明治三年八月三日を以て生れ叔父玄泰の養子となり大正七年家督を相續す明治二十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し縣下の多額納稅者にして直接國稅六百九十圓を納む福井縣會議員に選ばるゝ事數回現時其職に就任し大正六年退官同十二年日本染料會社取締役社長に推されたる事あり又第九十一銀行頭取白山水力大正電氣各會社取締役たり事あり家族は尙二男泰民（同一二、三生）六男花子（大九、三生）孫豐和（昭五、九生、長男秀夫長男）同泰昭（同八、一一生、同二男）ありA一八二（東京市荏原區中延町一一〇六）

池田正平

新潟貯蓄銀行㊫常務取締役、第四銀行、新潟信託各㊫取締役、二葉社㊫監査役、新潟縣在籍

妻　ヨネ　明一一、二生、新潟、大倉悌二二女
男　健二　明三九、八生
女　セイ　明四四、一一生
女　クニ　大四、三生
女　ミチ　大八、四生

君は新潟縣人先代虎治郎の長男にして同文藏同勝三郎の兄なり明治七年一月を以て生れ大正二年家督を相續す夙に實業界に入り現に新潟貯蓄銀行常務取締役の外前記銀行會社の重役たり曾て龜田町長新潟縣會議員たりし事あり曩に實業視察の爲印度に渡航す家族は尙四男謙三（大一二、一一生）あり二女カツ（明三二、七生）は三重縣人堀末鎌三に三女ツネ（同三五、八生）は東京府人小柳成男に妹タミ（同一六、三生）は醫學博士廣川和

一に嫁せり(新潟縣中蒲原郡亀田町電二六三一)
参照＝池田勝三郎、池田文藏、廣川和一の項

池田省三　共同護謨㈱監査役　東京府在籍
妻　とみ　明三五、一一生、富山、米田大四郎四女
男　俊一　大一三、三生
君は舊米澤藩國老池田成章の四男にして同成彬の弟同成功の叔父なり明治二十三年十二月八日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す夙に第八高等學校工科を出で實業界に投じ現時共同護謨會社監査役たり曩に富士商會取締役を兼ぬ家族は尚長女愛子(大一〇、一〇生)二女信子(昭三、七生)あり(東京市澁谷區神山町二〇電青山三四八八)
参照＝池田成彬、池田成功※岩崎隆彌※加藤武男※本間利雄の項

池田讓次　従四位勳三等、營繕管財局技師、工務課長、東京府在籍
妻　あや　明二二、一一生、兵庫、喜多德三郎長女
男　崇夫　大二、二生、東京府立第八中出身
女　響子　明四五、一生
君は東京府人池田德潤の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同二十七年家督を相續す同四十年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し同年大藏省臨時建築部技手に任じ次で同技師に任ぜられ大正十四年營繕管財局技師となり現時工務課長の職に在り姉長子(明九、三生)は佐賀縣士族光岡正行弟正彰に嫁せり(東京市品川區南品川六ノ一四六六電高輪七六四四)

池田信　正五位勳六等、内務技師、東京土木出張所勤務、山形縣在籍
母　岩　天保一四、八生、山形、菅原長八長女
妻　イト　明二〇、一〇生、東京、萩原三圭三女
君は山形縣人池田興七の三男にして明治十八年一月を以て生る大正三年京都帝國大學工科大學土木工學科を卒業し同六年内務技師に任ぜられ東京土木出張所に勤務し現に其職に在り家族は尚姉松(明元、三生)其養子二郎(同三一、九生、山形、津田喜久治二男、現戸主)同妻良惠(同三四、五生、山形、小南富太長女)及其子女あり(東京市品川區上大崎一ノ四七八)

池田信太郎　中國信託㈱取締役　岡山縣在籍
妻　龜代　明二二、一一生、岡山、池田廉三妹
男　恭助　明四四、五生
男　省三　大二、四生
女　すみ　大六、九生
君は岡山縣人池田千代太郎の二男にして明治九年五月を以て生れ同二十四年家督を相續す同三十五年早稲田大學邦語行政科を卒業し岡山縣農工銀行取締役支配人たる家族は尚四男晉平(大四、三生)五男文吉(同一〇、一生)あり二女美江(明三九、九生)は岡山縣人科治武雄に妹あやの(同一二、一二生)は同縣人友金幸次郎に嫁し弟友吉(同一四、七生)は分家せり(岡山市内山下七六七(同三一、九生、山形、津田喜久治二男、現戸主)同妻良惠(同三四、五生、山形、小南富太長女)及其子女あり(東京市品川區上大崎一ノ四七八)

池田眞次郎　従五位、男爵　東京府華族
母　ひさ　安政三、一二生、長野、横關利兵衛二女
妻　きぬ　明四一、八生、埼玉、齋藤平作妹
男　治平　明四五、一生、帝國海上火災社員
男　及　明四四、二生、安田貯蓄銀行員、經濟學士
女　僖　大八、二生、成城學園女學部在學
君は長野縣人池田助四郎の長男にして明治十年一月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十六年明治大學法科を卒業し現時安田保善社參事にして兼て前記各銀行會社の重役たり長女和(明四三、一〇生、縣立德島高女卒)は德島縣人穂島縣議勤務三橋則雄に嫁せりA八六七(東京市澁谷區千駄ヶ谷一ノ五六二電青山七八四三)

池田眞秸　栃木農商銀行㈱專務取締役、同波濱道㈱代表取締役、四國銀行㈱取締役、東京建物、南海水力電氣各㈱監査役、安田保善社㈱參事、長野縣在籍
妻　ひさ　安政三、一二生、長野、横關利兵衛二女
男　治平　明四一、八生、埼玉、齋藤平作妹
男　及　明四五、一生、帝國海上火災社員
女　僖　明四四、二生、安田貯蓄銀行員、經濟學士
君は長野縣人池田助四郎の長男にして明治十年一月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十六年明治大學法科を卒業し現時安田保善社參事にして兼て前記各銀行會社の重役たり長女和(明四三、一〇生、縣立德島高女卒)は德島縣人穂島縣議勤務三橋則雄に嫁せりA八六七(東京市澁谷區千駄ヶ谷一ノ五六二電青山七八四三)

母　房　明一四、七生、男爵沖貞男姉
當家は先々代謙齋より家名を揚ぐ謙齋は元越後の人にして醫學博士入澤達吉の叔父なり夙に江戸に出でゝ緒方洪庵の門に學び後幕臣池田秀眞の養嗣子となり其家を繼ぐ明治三年普國に留學し歸朝後陸軍々醫監となり謝來三等侍醫東京醫學校長東京大學醫學部總理一等侍醫宮内省侍醫局長陸軍一等軍醫正宮中顧問官等に歷任し醫學博士の學位を得同三十一年華族に列し男爵を授けらる先々代秀男は其長男にして獨逸に留學しドクトルの學位を受け陸軍一等軍醫に進み勳六等に叙せられ又獨逸國皇帝より勳四等勳章を贈らる君は其二男にして先代秀一の弟なり明治四十三年七月三日を以て生れ昭和五年家督を相續し襲爵被仰付現時北海道帝國大學農學部に在學中なり家族は尚妹正子(明四五、一生)叔父充四郎(同二一、二生、陸軍騎兵中尉)同妻初惠(同三四、一一生、千葉、齋藤萬壽雄妹)及其二男二女同友五郎(同二二、三生、法學士)同妻雪(同二六、一生、子爵岡澤精一妹)及其一男二女あり姉佐和子(同三八、一〇生)は愛知縣人醫學博士佐藤久に叔母要子(同二六、三生)は醫學博士高崎廉忠に同清子(同二六、四生)は新潟縣人竹山成美兄法學士祐卜に同美惠子(同四〇、七生、女子學習院出身)は醫學博士若林宏に嫁し叔父次郎(同一一、五生)は其妻子を伴ひ子爵阿部信準の養子となり信明と改名し當主にして兄秀一(同三六、一二生)同妻ミツ(同四四、六生、新潟、笹川製袋三郎三女)叔父廣之(同二七、一一生)同駿三(同三六、九生)は各分家し同菊男(同三一、九生)は東京府人米倉松の入夫となれりA一一五四(東京市杉並區西田町一ノ三一電荻窪二〇七七)
参照＝子爵安部信明、子爵岡澤精一、男爵沖貞男、入澤達吉、佐藤久、齋藤萬壽雄※子爵海江田幸吉※川崎拾三の項

池田進午　東京火災保險㈱社員　東京府在籍
妻　順　明四五、六生、富山、木津正治二女
君は東京府人池田茂の二男にして明治三十九年四月二十日を以て生れ昭和八年家督を相續す昭和四年早稲田大學經濟科を卒業直に東京火災保險會社に入社し現時

營業課勤務にして資産家たり家族は尚長女悦子(昭八一一生)弟武彌(明四五、四生)同茂美(同四四、一生)あり(東京市豐島區鶴巻五ノ一一五二電大塚六九五)
参照＝木津正治の項

池田新三郎　札幌市會議員、北海道造營㈱監査役、北海道在籍
妻　チヨ　明二六、一生、北海道、大橋恒三郎長女、札幌高女出身
男　一郎　大五、四生
君は福岡縣人池田新次郎の二男にして明治十九年十一月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして義に推されて北海道會議員札幌市會議員札幌商工會議所議員たりし事あり家族は尚長女幸子(大一一、六生)二女道子(同一四、七生)あり姉コト(明一四、九生)は福岡縣人安河内藤太に嫁せり(札幌市北十條東ノ一五三)
参照＝安河内藤太の項

池田新兵衛　従七位勳七等、京都府多額納稅者、上賀茂郵便局長、鞍馬電鐵㈱相談役、京都府在籍
妻　とく　明一九、四生、京都、森田佐兵衛二女
男　新八　明四四、三生
男　新吾　大二、四生
君は京都府人先代新兵衛の長男にして明治十二年一月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名新吉郎を改め襲名す現時京都上賀茂郵便局長にして傍ら前記會社の相談役に擧げられ京都府多額納稅者に列す男次郎(大二、六生)は他家に養子となれりA二八二五(京都市上京區上賀茂池殿町一一電上一〇九八)

池田季苗　正四位勳三等、前臺灣總督府技師、京都府士族
妻　ます　明二二、一二生、兵庫、富岡嘉則長女
男　季文　明四四、七生
女　節　大四、三生
女　延子　大七、七生
君は京都府士族池田秋苗の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十九年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し同四十年鹿兒島縣農業技師に任じ臺灣總督府土木部技師土木局土木課長を經て大正九年歐米各國に出張を命ぜらる後臺灣總督府技師交通局技師道路灣課長たりしも現時閑地に在り家族は尚二男弘(大一二、二生)三女幸子(同一五、一生)あり弟完次(明一九、一二生)同妻とら(同二〇、四生、福井、紙上吉太姉)は其子女を伴ひ分家し妹梢(同二七、六生)は滋賀縣士族中島達也に嫁せり(臺北市東門町一八三ノ一三電四二三四)

池田鈴之助　池田商店㈱取締役　東京府在籍
妻　辰　明二五、一二生、神奈川、吉田平吉長女
女　初代　大二、九生
男　正一　大三、九生
君は東京府人池田鈴之助の長男にして明治十八年七月十八日を以て生れ大正八年家督を相續し襲名して前名金太郎を改む現時池田商店の取締役たり家族は尚二男光二(大八、一生)三女玉枝(同一五、五生)ありA二六一(東京市日本橋區濱町二ノ三九電濱花一七八)

池田成功　池田農園㈱取締役　東京府士族
父　成彬　慶應三、七生、現戸主
君は三井合名會社常務理事池田成彬の長男同省三の甥にして明治三十五年五月三十一日を以て生る現に池田農園會社取締役たり(自宅)東京市麻布區永坂町一電赤坂〇二七五「別宅」神奈川縣中郡大磯町小磯玉城ケ谷電大磯二〇)
参照＝池田成彬、池田省三※岩崎隆彌※加藤武男※本間利雄の項

池田成彬　三井㈱常務理事、三井信託㈱代表取締役、三井銀行㈱取締役、日本銀行㈱參與、交詢社理事　東京府士族
妻　艷　明一五、四生、東京、士、中上川彦次郎長女、學習院女學部出身
男　成功　明三五、五生
男　潔　明三六、一〇生、慶應義塾大學高等部講師、英國劍橋大學出身
男　豊　明四一、九生、東京海上火災保險會社勤務、英國劍橋大學出身
當家は舊米澤藩に仕へ五十騎組に屬したる譜代の臣なり三代目を丈八と稱し同藩士香坂新右衛門三男成章を養子となす成章卽ち君の父なり君は其の長男にして慶應三年七月十六日を以て生れ前名を改め大正元年家督を相續す明治二十一年慶應義塾を卒業し更に米國に航してハーバード大學に學び傍ら米國銀行業を研究しパチエラーオヴ・アーツの稱號を得て同二十八年歸朝直に時事新報に入社更に三井銀行に入り早川千吉郎の統率の下に恪勤精勵中上川彦次郎の拔擢を受け足利支店長に擧げらる同三十一年歐米に派遣せられて銀行業を視察し同三十二年歸朝と共に本店に入り營業部次長同部長に進み同四十二年同行の組織大改革に際し常務取締役に推さる爾來其筆頭として我財界の覇權を掌握し大戰後の世界的パニック襲來に際し克く快刀亂麻縱横の技を振ふ昭和四年更に海外を視察し米國及獨逸に於ける金融コンツエルンの統制力に就き究むる處あり三井コンツエルン今日の整備君に負ふところ多し大正十三年三井信託會社の創立せらるゝや擧げられて代表取締役に就任し現時三井合名會社常務理事たる外前揚の要職に在り推されて交詢社理事たり養に東京手形交換所理事長東京銀行集會所理事たり趣味として書畫骨董園藝を愛好し湘南に農園を經營す家族は尚妹つき(明二一、一一生)あり長女敏子(同三八、一生、雙葉高女出身)は男爵岩崎久彌二男隆彌に妹なみ(同一一、七、五生)は栃木縣人加藤武男に同ヤエ(同一〇、五生)は山形縣人本間利雄に嫁し弟省三(同二三、一二生)は分家せりA三七八八三(東京市麻布區永坂町一電赤坂二七五)
参照＝池田成功、池田省三、岩崎隆彌、加藤武男、中上川次郎吉、本間利雄※中上川三郎治※藤原義江の項

池田藏六　東洋葉煙草㈱社長　東京府在籍
妻　暢江　明二四、九生、岡山、山本仲助二女
男　光長　大三、三生
君は東京府人池田保光の五男にして同清の弟なり明治十八年十二月を以て生れ大正八年男徹三方より分れて

一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試驗に合格專賣局書記より同參事に陞り見付三田尻德島岡山各地方專賣局長事業部長煙草課長臺灣總督府專賣局長等を經て昭和五年臺灣總督府財務局長たりしが現時之を辭し東洋藥煙草會社長たり家族は尙二男有道(大七、一生)二女千代子(同九、二生)三男達雄(同一一、七生)三女幸子(昭四、九生)あり四男修(大一四、三生)は東京府人池田滿壽の養子となれりA二五四(東京市本郷區駒込曙町一五電大塚六〇九三)

池田立基

妻　照　明二五、八生、東京、增田里勢姪
男　公基　大四、三生
女　鶴龜子　大元、一二生

君は東京府人成田立學の二男にして明治十五年三月二十七日を以て生れ先代覺善の養子となり大正三年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學佛文科を卒業し陸軍教授に任じ後之を辭し現時南部の職に在りて佛關西語雜誌主幹たり家族は尙二男閃其(大六、九生)三男裕基(同一二、三生)四男久基(昭五、一生)あり長女千鶴子(明四三、一〇生)は東京府人齋藤嶺洲に嫁せりA一一一(東京市本郷區湯島兩門町二講安寺內電下谷二一八〇)

池田保

池田商事㈱代表取締役
兵庫縣在籍
嘉永六、二生、岡山、中邑菊三郎長女
祖母　まつ　明五、五生、大阪、笠島源七長女
母　ナツ　明三六、七生、兵庫、奥山春枝長女
妻　一枝　昭二、六生
男　淳一

君は大阪府人池田廉三郎の長男にして明治三十二年四月を以て生れ昭和八年家督を相續す同人に神戸高等商業學校を卒業し現時池田商事會社代表取締役たり家族は尙長女清子(大一四、一〇生)妹登美子(明三九、二生、神戸高女出身)あり(兵庫縣武庫郡本山村)

池田忠次郎

雜穀商
東京府在籍
養母　イク　明九、二生、養祖父忠次郎長女
妻　ふみ　明二八、二生、養父忠次郎六女
男　喜光　昭二、八生

君は東京府人平本春吉の三男にして明治二十七年一月昭和二年同府人池田イクの養子となり同名文三郎を改む現時雜穀商を營み養家たり家族は尙長女せい(大九、一生)二女同四年家督を相續し同年廟名文三郎を改む現時雜穀商を營み資產家たり家族は尙長女せい(大九、一生)二女きみ子(同一二、二生)二男文雄(昭八、八生)ありA五二三B一一三(東京市日本橋區江戸橋二ノ九電日本橋一〇五七)

池田忠藏

長岡商工會議所常議員、新潟縣多額納稅者、銀行各㈱監査役、長岡貯蓄銀行、新潟縣在籍
妻　マツ　明九、一生、新潟、小林文平三女
男　忠松　明三四、一二生、三井物產會社員東京商大出身
男　博　明四二、一〇生、二男忠松妻、新潟、廣川貞吉二女
女　つね　明三七、一生、長岡高女出身
男　忠三郎　明四一、一生、慶應大學出身
男　忠四郎　大二、二生
女　八重　大四、九生

當家は維新前までは微々たる一商人に過ぎざりしが先代忠藏の努力精勵に因りて家運頓に隆昌に赴けり君は其の長男にして明治六年四月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名忠次郎を改め襲名す夙に祖業を繼ぎたつみ屋と稱し呉服商を營み傍ら割記各銀行の重役にして直接國稅一千五百九十七圓を納め縣下の多額納稅者たり又長岡商工會議所常議員に擧げらる嘗に青島洋行取締役たりしことあり家族は尙孫素(昭四、一〇生、二男忠松長女)あり長女千代(明二七、三生、長岡高女出身)は東京府人三島良藏に姉ハル(同元、一生)は新潟縣人奉日覺應に嫁し弟忠介(同一二、三生)同妻カネ(同一六、一一生、新潟、坪井カウ養子)は其の二子を伴ひ分家せり(長岡市本町二ノ九三二電三三八三七〇)

參照‖三島良藏の項

池田長太郎

池田産婦人科醫院、醫師
大阪府士族
母　アサ　安政五、二生、香川、士、國分米太姉
妻　佳　明四四、三生、兵庫、士、品友淳一妹
男　武雄　明四五、三生

君は大阪府士族池田秀造の長男にして明治十二年八月七日を以て生れ同三十年家督を相續す醫師にして池田產婦人科醫院を經營す家族は尙二男恒夫(大四、一生)三男正巳(同六、一生)五男四郎(同九、一一生)長女豐子(同一二、七生)あり妹千代(明二五、一生)は香川縣人川田德二郎長男清に嫁せりA三二五(大阪市西區西道頓堀五ノ一〇電櫻川二〇四九)

池田鎭藏

資產家
東京府在籍
母　やそ　明七、九生、東京、横山伊右衛門二女
妻　ふさ　明三三、一〇生、東京、石鍋圭三三女
男　博作　昭二、九生

君は東京府人池田金藏の長男にして明治二十八年二月三日を以て生れ昭和九年家督を相續す資產家たり家族は尙長女貞子(大一〇、二生)三女久(同一三、一生)二男圭助(昭四、九生)三男和義(同六、八生)四男晴男(同八、八生)妹はな(明二九、一〇生)同壽惠(同四四、一一生)同正巳(同三八、三生)あり弟巴(明三一、一一生)は東京府人板倉友吉に同秀(同三五、一〇生)は同府人佐藤忠吉に各養子となれり(東京市淺草區柴久町九八電淺草二五五九)

池田貞治

北海道銀行㈱常任監査役、北海道商工銀行㈱監査役、山形縣在籍
妻　モト　明二一、七生、北海道、木山七右衛門長女
男　英三郎　大六、五生
女　稔子　大三、一〇生

君は山形縣人池田清內の四男にして明治七年二月を以て生れ同三十八年兄寅治方より分れて一家を創立す現時北海道銀行常任監査役北海道商工銀行監査役たり家族は尙四男彥四郎(同九、三生)五男芳五郎(同一一、二生)六男淳六郎(同一三、四生)あり二男泰次郎(明四〇、一〇生)は北海道人安田マサの死跡を相續せり(小樽市緑町五ノ二一)

池田鐵太郎

池田商店資社員
愛媛縣在籍
妻　悌子　明四一、六生、愛媛、栗田敬治郎妹
男　康一　昭二、六生

君は愛媛縣人池田貫兵衛の孫にして明治三十三年一月を以て生れ同四十年家督を相續す現時池田商店出資社員たり先代貫兵衛は神戸電燈會社長兵庫六十五銀行頭取阪鶴鐵道會社取締役として顯はる家族は尙二男光雄(昭四、七生)長女妙子(同六、一生)二女千惠子(同八、一一生)ありA三七五六(兵庫縣武庫郡精道村三條安ノ山三二〇電宵屋三一九四)

參照‖栗田敬治郎の項

池田東太郎

東京瓦斯會社員
山梨縣在籍
祖母　てる　安政六、四生、山梨、小野元兵衛妹
母　うら　明一八、二生、山梨、風間久高妹

池田家の先代甚一は夙に實業界に入り東京商業銀行常務取締役其他諸會社の重役に擧げらる君は其長男にして明治三十七年十一月を以て生れ昭和三年家督を相續す翌年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時東京瓦斯會社員たり家族は尙弟嵩(明四一、六生、會社員、立大經濟學部出身)妹泰子(同四四、二生、甲府高女出身)弟有道(大元、八生、會社員)妹寛和(同三、五生)弟武久(同六、七生)妹ふみ(同八、八生)同達子(同一三、一〇生)あり妹百千(明三九、一一生)は他に嫁し大叔父峰太郎(文久元、二生)同妻リウ(明三、四生、栃木渡邊鐵彌妹)は其一子を伴ひ分家せりA二二五(東京市豐島區池袋一ノ七七七電大塚二九六三)

池田藤兵衛

菱屋、裁縫用品商
東京府在籍
妻　延子　明二七、二生、東京、關根庫光二女

族は尙四男彥四郎(同九、三生)五男芳五郎(同一一、二生)六男淳六郎(同一三、四生)あり二男泰次郎(明四〇、一〇生)は北海道人安田マサの死跡を相續せり(小樽市緑町五ノ二一)

池田鐵太郎

池田商店資社員
愛媛縣在籍
妻　悌子　明四一、六生、愛媛、栗田敬治郎妹
男　康一　昭二、六生

君は愛媛縣人池田貫兵衛の孫にして明治三十三年一月を以て生れ同四十年家督を相續す現時池田商店出資社員たり先代貫兵衛は神戸電燈會社長兵庫六十五銀行頭取阪鶴鐵道會社取締役として顯はる家族は尙二男光雄(昭四、七生)長女妙子(同六、一生)二女千惠子(同八、一一生)ありA三七五六(兵庫縣武庫郡精道村三條安ノ山三二〇電宵屋三一九四)

參照‖栗田敬治郎の項

池田東太郎

東京瓦斯會社員
山梨縣在籍
祖母　てる　安政六、四生、山梨、小野元兵衛妹
母　うら　明一八、二生、山梨、風間久高妹

池田家の先代甚一は夙に實業界に入り東京商業銀行常務取締役其他諸會社の重役に擧げらる君は其長男にして明治三十七年十一月を以て生れ昭和三年家督を相續す翌年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時東京瓦斯會社員たり家族は尙弟嵩(明四一、六生、會社員、立大經濟學部出身)妹泰子(同四四、二生、甲府高女出身)弟有道(大元、八生、會社員)妹寛和(同三、五生)弟武久(同六、七生)妹ふみ(同八、八生)同達子(同一三、一〇生)あり妹百千(明三九、一一生)は他に嫁し大叔父峰太郎(文久元、二生)同妻リウ(明三、四生、栃木渡邊鐵彌妹)は其一子を伴ひ分家せりA二二五(東京市豐島區池袋一ノ七七七電大塚二九六三)

池田藤兵衛

菱屋、裁縫用品商
東京府在籍
妻　延子　明二七、二生、東京、關根庫光二女

池田藤彌

山形縣多額納稅者、出羽銀行㈱頭取、酒田新聞社長、農業
山形縣士族
大四、九生、生母、山形、前田まきえ

君は東京府人先代藤兵衛の三男にして明治二十五年五月二十一日を以て生れ大正十家家督を相續し後襲名して前名松太郎を改む菱屋と稱し裁縫用品商を營む家族は尙長女孝子(大一一、七生)二女慶子(同一三、二生)叔母フサ(慶應元、一一生)ありA四三九B八七(東京市日本橋區大傳馬町三ノ二七電淺花九四三)

池田藤彌

山形縣多額納稅者、出羽銀行㈱頭取、酒田新聞社長、農業
山形縣士族
大四、九生、生母、山形、前田まきえ

君は山形縣士族池田藤八郎の長男にして明治二十年七月を以て生れ同四十四年家督を相續す農業を營み酒田新聞社長にして傍ら出羽銀行頭取を兼ね直接國稅二千八百五十圓を納め山形縣多額納稅者たり家族は尙庶子泰雄(大八、七生、生母、山形、前田まきえ)同婦雄(同一〇、一一生、生母同上)あり弟文次(明二一、一二生)は分家し妹ふづ(同三〇、七生)同豊(同三二、四生)同當(同三四、六生)同つねを(同三七、七生)は共に其家籍に入れり(酒田市本町電一)

池田德藏

池田商店㈱代表取締役、羅紗並洋服商、大阪府在籍
妻　世衣　明五、二生、奈良、箕輪クニ妹
男　孝藏　明二九、一〇生、大阪、大川長三郎二女
女　英子　大一四、五生
女　常代　大六、八生

君は大阪府人左海辰三郎の五男にして明治二十七年三月七日を以て生れ先代英太郎の養子となり昭和四年家督を相續す羅紗並洋服商を營みて知られ現に池田商店代表取締役に擧げらる家族は尙三女節子(大一二、二生)二男弘(同三、一二生)弟英二(大六、九生、父辰三郎庶子、生母、滋賀、上野せい)同英三(同一四、一生、同庶子、生母同上)ありA一一六〇九(大阪市東區高麗橋三ノ四電本局一〇七七・五一一九)

參照‖淡加藤正次郎の項

池田富次郎

文房堂㈱代表社員
東京府在籍
妻　スミ　明二〇、一二生、養父應誠二女
男　時三　大二、七生
女　五十子　大八、一二生

君は新潟縣人伊藤爲藏の弟池田治郎吉の養叔父にして明治十九年四月を以て生れ池田應誠の養子となり大正七年分れて一家を創立す現時文房堂合名會社代表社員として知らる家族は尙二男豊治(大五、一生)二女ソノ(同一四、一〇生)あり(東京市中野區桃園町一九電中野四三四一)

參照‖池田治郎吉の項

池田寅一

アルミニウム器具製造業
大阪府在籍
妻　倍子　明三三、八生、大阪、中田九一長女

君は大阪府人池田澤藏の長男にして明治二十九年十月を以て生れ大正八年祖父卯之助の後を承けて家督を相續す同七年神戸高等商業學校を卒業し組業たるアルミニウム器具製造業を營み今日に至る家族は尙長女泰子(昭四、二生)あり弟二朗(明三二、一一生)妹房子(同三七、二生、夕陽丘高女出身)は各分家し同イシ(同三一、一〇生)は大阪府人池田萬太郎に弟秀太郎(同三六、一生)は同府人丸井ハルに各養子となれりA一五三B三五四(大阪市浪速區稻荷町一ノ九九三電櫻川二九〇)

參照‖中田九一の項

池田寅二郎

從三位勳二等、法學博士、判事、大審院部長、佐賀縣士族
妻　貞子　明二二、一生、長崎、士、田邊輝雄妹
男　專一郎　明四三、一四生、ハルビン・セメント會社員、工學士
男　正亮　明四四、一二生、東大法學部英法科在學

君は佐賀縣士族池田專助の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十八年判事に任

じ東京地方裁判所判事に補せられ爾來東京地方裁判所部長司法省參事官兼檢事東京地方裁判所檢事司法省參事官大審院檢事司法省民事局長等を經て昭和三年判事に任じ大審院部長となり今日に至る大正七年法學博士の學位を受け同二年歐米各國に同六年支那に同九年米國に各出張を命ぜらる家族は尙四男弘（大五、六生、成蹊高等學校在學）二女惠津子（同一〇、九生）五男功（同一三、三生）弟又四郎（明一五、一一生）同妻スヾ（同三三、二生、佐賀、士、富岡初三四女）あり長女倫津子（大二、九生）は橫濱正金銀行員法學士馬場義臣に妹ハツ（明二〇、四生）は醫學博士於保乙彥に同サタ（同二二、四生）は佐賀縣士族元臺灣總督府殖產局長內田隆に同スミ（同二四、二生）は東京府士族前大藏省銀行局長大久保偵次に同タマ（同二九、二生）は佐賀縣人久原伊八長男國際運輸會社ハルビン支社員研吾に嫁せりA二五八（東京市赤坂區丹後町一電五九〇六）

參照＝於保乙彥、大久保偵次、田邊輝雄※吉松駿一の項

池田仲誠

從三位、子爵
舊因州鹿奴藩

妻　妙子　明二三、五生、伯爵松平直富從妹
　　跡見女學校出身
男　仲親　大三、一二生、學習院初等科在學
女　良子　明四一、九生、女子學習院出身
女　誠子　明四二、八生、女子學習院出身
女　壽榮子　明四四、二生、女子學習院出身
女　和子　大七、六生

當家は鳥取藩主左近衞少將池田光仲の二男壹岐守仲澄の後なり仲澄別に一家を起し因州鹿奴三萬石を領す後九代を經て先代源に至り明治十七年子爵を授けらる君は源の長男にして子爵津輕益男の兄に當り明治十五年十月二十七日を以て生れ同三十六年家督を相續し襲爵被仰付家族は尙四男仲貴（大一一、四生、學習院在學）五女弘子（同一二、九生、女子學習院在學）五男仲澂（同一五、八生、學習院初等科在學）あり長男仲憲（明四五、四生）二男仲明（大二、九生）は各分家し妹鐵子（明一七、七生）は子爵戶田忠庸に同民子（同二〇、七生）は伯爵松平直富に同辰子（同二五、一生）は男爵島津健之助に嫁し弟益男（同二九、一二生）は故子爵津輕類橋の養子となり當主たり（東京市蒲田區羽田本町二二六）

參照＝伯爵松平直富、子爵津輕益男、子爵戶田忠庸※公爵德大寺公弘※子爵小笠原長生※男爵安藤直義※渡邊直達の項

池田仲博

從二位勳二等、侯爵、貴族院議員
退役陸軍步兵中尉、橫濱正金銀行
監查役、舊鳥取藩

男　德眞　明三七、六生、正五位
婦　美知子　明四〇、六生、二男德眞妻、子爵朽木綱博先代綱貞二女

當家は源經基五世の孫右馬允池田泰政の後胤紀伊守信輝の後なり其子輝政關ヶ原役德川氏に屬し功あり姬路五十二萬石を領す其次男左衞門督忠繼家康の外孫たる故を以て別に一家を建て備前國を賜はる之當家の祖なり後二代光仲の時因伯二州三十二萬五千石に移封せられ鳥取に在城すそれより十二代を經て先代輝知に至り明治十七年侯爵を授けられ君其の後を承く君實は故公爵德川慶喜の五男にして當主慶光の伯父なり男爵德川誠の兄伯爵勝芳孝の伯父男爵德川喜翰伯爵大木喜福の叔父に當る明治十年八月二十八日を以て生れ先代輝知の養子となり同二十三年襲爵被仰付夙に陸軍に入り同三十二年陸軍步兵少尉に任じ同中尉に進む同三十五年以來貴族院議員にして現時橫濱正金銀行監查役たり銃獵寫眞に趣味を有し又謠曲に親しむ家族は尙孫百合子（昭八、一〇生、二男德眞長女）あり長女幹子（明三五、一二生）は伯爵德川宗敬に二女謙子（同四〇、四生）は子爵池田淸就に三女靜子（同四一、八生）は侯爵西鄕從德長男從吾に四女溫子（同四三、二生）は子爵水野忠款に養妹嚴子（同一八、八生）は伯爵南部利英先代利淳に嫁し三男博久（同三八、一一生）は故子爵朽木綱貞の養子となり綱博と改名し當主にして四男博正（同四四、一〇生）も亦男爵荒尾家を相續し當主たりA一三五〇八（東京市澁谷區原宿三ノ二六六電青山二八二一）

參照＝公爵德川慶光、侯爵西鄕從德、伯爵大木喜福、伯爵勝芳孝、伯爵德川宗敬、伯爵南部利英、子爵池田淸就、子爵朽木綱博、子爵水野忠款、男爵荒尾博正、男爵德川喜翰、男爵德川誠※侯爵四條隆愛※子爵大河內輝耕※男爵松平齋光※神野金之助の項

池田長康

正四位勳四等、男爵
舊岡山藩國老

妻　錄　明一八、三生、岡山、士、池田佐與姉

當家は世々岡山藩の國老にして二萬五千石を領す先々代無適齋維新の際功あり先代長準に至り明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を繼ぐ君實は故貴族院議員千坂高雅の六男にして同智次郎同洋三郎の弟なり明治十六年七月二十四日を以て生れ先代長準の養子となり大正二年襲爵仰付けらる明治四十四年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し貴族院議員に擧げられ山城銀行頭取桑船銀行萩電燈會社各取締役たりしも現時閑地に在り（東京市赤坂區靑山南町二ノ六電靑山四一〇）

參照＝千坂智次郎、千坂洋三郎の項

池田仁左衞門

綿布商
大阪府在籍

妻　フデ　明二〇、五生、養父仁左衞門長女
男　三郞　明四一、三生
男　五郞　大三、四生
女　鈴　大五、九生

君は大阪府人宮本利右衞門の弟にして明治十四年四月を以て生れ先代仁左衞門の養子となり大正五年家督を相續し前名熊三郞を改め襲名す明治三十八年慶應義塾理財科を卒業し綿布商を營むA三五二一（大阪市東區淡路町四ノ五三電本局二三三二）

參照＝宮本利右衞門※谷新助の項

池田宣政

從四位、侯爵、貴族院議員
舊岡山藩

妻　富貴子　明四一、一〇生、男爵津輕承靖姉
　　女子學習院出身
男　隆政　大一五、一〇生

當家は源經基五代の孫右馬允池田泰政の後胤紀伊守信輝の後なり信輝織豊二氏に仕へて功あり其子參議輝政關ヶ原役後德川氏に屬し大功を樹て播州姬路五十二萬石を領す長子武藏守利隆家を繼ぐ其子左近衞少將光政に至り因伯二州三十二萬石に移り後更に岡山三十一萬

五千二百石に轉封せられ學を勸め農を興し治績大に擧がれり後九代章政支藩より入つて宗家を繼ぎ維新の際王事に勤勞し後華族銀行頭取日本鐵道會社重役等に擧げられ明治十七年侯爵を授けらる君は先々代詮政の三男にして先代禎政の弟なり明治三十七年七月一日を以て生れ大正九年家督を繼ぎ前名政鈞を改め襲爵被仰付夙に學習院高等科一年を修了現時貴族院議員たり家族は尙大々叔母千代子（慶應元、七生）あり姉博子（明二二、一生）は侯爵細川護立に同錄子（同二五、一生、學習院女學部出身）は伯爵烏丸光大に同溫子（同二五、一二生）は子爵六條有直に大叔母恒子（同一三、一〇生）は子爵堀河康文先代護麿に嫁し兄政銀（同三二、一生）は子爵池田政保の養子となり大叔父勝吉（同七、八生）は分家して男爵を授けらる（東京市芝區高輪南町六〇電高輪八八六・一九九三）

參照＝侯爵細川護立、伯爵烏丸光大、子爵池田政保、子爵六條有直、男爵池田勝吉、男爵津輕承靖の項

池田濱

資產家
東京府士族

君は東京府士族池田政良の四女にして明治二十四年六月を以て生れ同三十三年姉惠以の後を承け家督を相續す資產家たり公共奉仕の志に篤く斡旋奔走献替の勞尠からざるものありA三〇三（東京市麻布區狸穴町二〇電赤坂一四三八）

池田秀雄

從四位勳三等、衆議院議員（佐賀縣選出）、佐賀縣在籍

妻　やへ　明二五、七生、宮城、田代進四郎三女
男　健　大五、八生
女　貞　大七、八生

君は佐賀縣人池田轍の三男にして同淳の弟なり明治十三年二月を以て生れ大正七年兄晢夫方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格す東京朝日新聞政治部記者たりしも官界に入りて拓殖局書記官長野縣廣島縣各理事官宮城縣視學官岐阜縣警察部長外務事務官兼內務書記官宮城縣內務部長秋田縣知事朝鮮總督府殖產局長等に補任せしも昭和六年末之れを辭し京城日報社長に擧げられ同七年鄕里佐賀縣より推されて衆議院議員に當選す立憲民政黨所屬たり（東京市目黑區上目黑四ノ二一二二電靑山五〇一三）

參照＝※小島勇之助の項

池田秀太郎

敦賀二十五銀行(株)監查役
福井縣在籍

妻　たつ　明一七、一生、福井、山口周治妹
男　秀一　明二〇、九生
婦　こなみ　明二五、三生、長男秀一妻、京都上林太左衞門三女
男　正宣　明三四、一一生
婦　康子　明四〇、四生、五男正宣妻、福井杉崎坦三女
孫　園子　大七、八生、長男秀一長女

君は福井縣人先代秀太郎の弟にして慶應元年一月を以て生れ明治三十一年家督を相續し前名晉次郞を改め襲名す現時前記銀行の重役にして嚢に若狹銀行取締役を兼ぬ家族は尙孫秀雄（大四、九生、長男秀一長男）同昇（同一一、二生、長男秀一二男）同石子（同一五、六生、同二女）同濱子（昭五、五生、同三女）同玲子（同三、二生、五男正宣長女）同和夫（同四、四生、同長男）あり二男元治郎（明二四、二生）三男嘉忠（同二六、六生）は各分家せり（福井縣遠敷郡雲濱村）

池田宏

正四位勳三等、京都帝國大學法學部講師、大阪商科大學講師、財團法人東京市政調査會理事
東京府士族

父　忠一　嘉永三、九生、現戶主
母　すま　文久元、一二生、靜岡、士、堀田鑑妹
妻　民子　明二五、一〇生、北海道、但馬八木識二女
男　善長　明四二、八生
男　庸德　明四四、七生
女　說子　大三、二生
女　達子　大五、九生

君は東京府士族池田忠一の長男にして明治十四年七月を以て生る同三十八年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し內務省に出仕し爾來地方廳の事務官を經て本省書記官となり大正二年倫敦に開かれし國際道路會議に參列被仰付歸朝後道路都市計畫等法制の調查立案の事に當り內務監察官社會局長等に歷任す又東京市助役たりし事あるも大正大震災の際社會局長官に任ぜられ帝都復興院理事を兼ね又震災救護事務局長の事務を行ふ後京都府及神奈川縣に知事たり昭和九年帝都復興事業に關して功勞尠からざるの故を以て旭日中綬章を授けらる家族は尙三男惟標（大八、五生）三女中子（同一五、七生）五男充之（昭三、八生）弟錫（明二三、八生、內務技師）同克（同二六、五生、司法書記官、司法省刑事局勤務）あり妹鍊（同一九、八生）は靜岡縣立富士高等女學校長鈴木惣作に同ふく（同三〇、三生）は靜岡縣人辯護士棒村專一に嫁せりA一六〇（東京市澁谷區原宿二ノ一七〇電靑山一六四二）

參照＝池田克の項

池田博知

正五位、男爵、岐阜縣海津中學校教諭、舊岡山藩國老

妻　秋　明四〇、一〇生、岐阜、高野治一妹
男　博正　昭二、一生

當家は世々岡山藩の國老にして相傳へて先々代聽濤齋に至る先代博愛は同藩士池田敬負の長男にして入りて當家を繼ぎ明治三十九年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治三十一年二月を以て生れ昭和二年家督を相續し襲爵仰付けらる大正十一年靑山學院高等科を卒業し現時岐阜縣海津中學校教諭たり家族は尙長女和子（昭三、一一生）二女恭子（同九、四生）あり姉滿喜子（明二八、三生）は東京府人蜂須賀豊隆に嫁し弟博直（同三三、一二生）は同府人日野環子の養子となり叔父雄太郎（慶應元、九生）は分家せり（岐阜縣海津郡今尾町字今尾三二〇一高野治一方）

池田房之進

北大島電氣(株)社長、岡山電業(株)專務取締役、東豐電氣(株)取締役
岡山縣在籍

妻　政子　明三三、一生、岡山、池上龜十郎長女、東京女子美術學校出身
男　一吉　明四一、一〇生

君は岡山縣人河田與八の三男にして明治十六年六月を以て生れ後池田榮吉の養子となり大正九年家督を相續す現時北大島電氣會社長たる外岡山電業會社專務取締

役東豊電氣會社取締役たり養に新見電氣會社重役たりし事あり長女安子(明四四、七生、津田英學塾出身)は岡山縣人醫學士池上章に嫁せり(岡山市榮町電二一五九)

池田文一郎

母　キヤ
妹　アツコ　明三二、一生、秋田、近伊左衛門
男　恭彦　大六、七生
女　綾子　大八、二生

君は秋田縣人池田文太郎の長男にして同穀治松浦千代松の甥なり明治二十六年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續す農業を營み秋田縣多額納稅者に列し直接國稅二萬四千九百八十圓を納む傍ら前記會社の重役にして推されて高梨村長たり養に秋田林產會社長仙北銀行專務取締役たりし事あり家族は尙二女俊子(同一〇、一生)三女邦子(同一一、二生)四女昌子(昭二、六生)の外弟喜藏(明四二、一生)亡叔父純吉郎妻アキ(同二〇、一〇生、秋田、山崎久治長女)及其の子女あり妹ツヤ(同四〇、五生)は秋田縣士族庄司兵藏弟琢藏に叔母セチ(同二一、九生)は同縣人杉田清治に嫁せり(秋田縣仙北郡高梨村)

參照‖池田穀治、庄司兵藏、杉田清治、松浦千代松の項

池田文次

母　ちか　明三四、七生、栃木、木村作次郎三女、宇都宮高女出身
妻　美知子　慶應三、五生、兵庫、石井儀三郎二女
男　博　大一四、一生

君は大阪府人池田德治郎の二男にして明治二十三年十月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時第一製藥會社專務取締役江東製藥會社監査役たり家族は尙長女敏子(大一一、一〇生)二男啓一(同一五、九生)三男正(昭三、九生)四男明(同六、三生)弟啓三(明三〇、七生)同妻歌子(同四一、一生、奈良、上司延武姉)弟四郎(同三九、四生)あり妹富江(同三二、一二生)は東京府人池邊瓢平二男重熾に嫁せり八八四(東京市小石川區大塚仲町四一電大塚九八七)

參照‖池田勝三郎、池田正平、白勢春三の項

池田文藏

妻　ツウ　明二四、一生、新潟、白勢春三長女
男　亨太郎　大八、一〇生
女　ミネ　大五、一二生

君は新潟縣人池田虎治郎の三男にして同正平の弟同勝三郎の兄なり明治十三年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し現時第四銀行東京支店長たり家族は尙二女武子(昭一二、四生)二男成二(同五、七生)三男達三(同七、一一生)ありA一〇六六(東京市麴町區富士見町一ノ一六電九段一七三〇)

參照‖池田勝三郎、池田正平、白勢春三の項

池田正雄

母　きみ　慶應二、五生、大阪、阪上郁兵衛長女
妻　駒　明三七、五生、兵庫、武內利右衛門二女
男　正宏　大一三、一二生

君は大阪府人池田庄兵衛の二男にして明治三十五年五月九日を以て生れ同四十年家督を相續す大正十四年第四師團に一年志願兵として入營陸軍歩兵少尉に任官す地主たり姉京(明二六、一二生)は大阪府人揚井佐兵衛長男清二郎に嫁せりA二四六七(大阪府豊能郡豊中町新免電岡町一六五)

池田正信

母　抄　愛知縣多額納稅者、池田商店、貴金屬美術品商、愛知縣士族
妻　金　明二五、一生、岐阜、林小一郎四女

君は愛知縣人入谷嘉一郎の三男にして同鉾之助の兄なり明治八年九月を以て生れ同三十一年先代正信の養子となり後家督を相續し前名常次郎を改め襲名す現時池田商店と稱し貴金屬美術品商を營み愛知縣多額納稅者にして直接國稅八千百七十圓を納む(名古屋市中區鐵砲町二ノ一四電中一五八)

參照‖入谷鉾之助の項

池田文藏

妻　ツウ　明二四、一生、奈良、上司延武姉)弟四郎
男　亨太郎　大八、一〇生
女　ミネ　大五、一二生

君は新潟縣人池田虎治郎の三男にして同正平の弟同勝三郎の兄なり明治十三年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し現時第四銀行東京支店長たり家族は尙二女武子(昭一二、四生)二男成二(同五、七生)三男達三(同七、一一生)ありA一〇六六(東京市麴町區富士見町一ノ一六電九段一七三〇)

參照‖池田勝三郎、池田正平、白勢春三の項

池田政時

母　八重子　明一六、一一生、子爵京極高修姉
養子　政英　大五、二生、伯爵姉小路公政二男

學習院高等科在學

當家は岡山藩主池田左少將光政三男丹後守輝録より出づ輝録父の封一萬五千石を分與せられ備中生阪の城主となる夫より七代を經先代政禮に至り明治十七年子爵を授けらる君其後を享く君實は宗藩主池田慶政の男にして男爵生駒道孝先代光男の叔父なり明治五年八月二十九日を以て生れ先代政禮の養子となり同四十年襲爵被仰付夙に米國に留學し後第二高等學校を經て東京帝國大學法科大學に學ぶ明治四十四年以來貴族院議員に當選する事四回現に其任に在り研究會に屬す長女長子(明三五、一二生)は大分縣人宮永美世司に二女靜子(同四一、八生、女子學習院出身)は岡山縣人藤岡元行に嫁せり(東京市澁谷區代々木山谷町一一三電四谷五五一一)

參照‖伯爵姉小路公政、子爵京極高修、男爵生駒道孝の項

池田政保

母　銓子　明一二、四生、子爵戸田氏次叔母
養子　政猿　明三二、一生、正五位、侯爵池田宣政兄
婿　愛子　明三八、一二生、養子政猿妻、伯爵戸田氏共孫

當家は岡山藩主左少將池田光政の二男信濃守政言の後なり政言分れて一家を建て二萬五千石を領す衛後備中國鴨方藩主として七代を經て先代章政に至り入つて宗家を繼ぐ君は章政の長男にして元治元年十二月十日を以て生れ明治元年封を襲ぎ同十七年子爵を授けらる寫眞に趣味を有し尺八に堪能なり家族は尙孫篤子(昭二、六生、養子政銀長女)あり(東京市麴町區三番町)

參照‖池田政之の項

池田政之

從五位、男爵
舊岡山藩國老

當家は岡山藩主池田家の一門にして世々同藩の國老として三萬石を領し先々代政和に至る政和戊辰の役藩兵を率ゐて東北の野に戰ひ功あり明治二十四年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる男政佑其後を繼ぎ夙に軍籍に入り陸軍歩兵少佐に累進す君は政佑の長男にして明治四十三年十一月二十一日を以て生れ昭和元年家督を相續し翌二年學習院高等科を卒業し神戸商業大學に在學す家族は尙弟政由(大三、六生)妹英子(同四、八生)同利子(同六、一一生)あり同美代子(同二、三生)は山口縣人三井物產會社社員平田奥一に嫁せり(東京市中野區氷川町二三電中野二三七四)

參照‖侯爵池田宣政、子爵戸田氏次※侯爵細川護立※伯爵鳥丸光大※伯爵中川久任※子爵六條有直※男爵池田勝吉※柴田保の項

池田増太郎

母　マサノ　明二七、二生、廣島、士、森戸郁二女
妻　キタ　明三三、二生
男　増雄　大四、二生
女　ユキ子　大六、一生

君は廣島縣人池田鶴松の長男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に實業界に入り現時名古屋商工會議所議員にして東邦瓦斯證券會社常務取締役たる傍ら前記會社の重役を兼ぬ昭和四年瓦斯事業視察研究の爲め歐洲各國並に米國を巡旅す家族は尙妹キヨウ(明一八、八生)同ミツ(同二六、一〇生)弟元三郎(同三二、二生)叔母トミ(慶應元、一生)あり弟吉次郎(明二九、三生)は同妻富(同三五、三生、鹿兒島、森山藤子姉)及其の子と共に分家し叔父市次郎(同六、三生)も亦分家し妹タカ(同二二、三生)は廣島縣人河村儀一に妹豊子(同三六、五生)は鳥取縣人高畑勘三郎に嫁せりA四四〇二(名古屋市南區松榮町一ノ五四電南三四三三)

參照‖池田穀治、池田勝吉の項

池田萬助

母　まち　明三七、一二生、大阪、神崎與市女
妻　イク　昭五、一生
男　正繁　昭二、一生

君は大阪府人先代萬助の二男にして明治二十七年三月十七日を以て生れ大正八年家督を相續し兩名種次郎を改め襲名す現時大阪棠島米穀取引所取引員にして池萬生鳩精米所主、大阪府在籍(明四、八生、大阪、戸川安兵衛二女)及其の子女あり妹京(明三四、一生)は大阪府人北川淺右衛門弟民藏に嫁し弟義雄(同三九、九生)は分家せりA五五三B七〇(大阪市東區横堀二ノ四三電本局一六七六)

池田萬藏

養母　ちか　明二〇、一一生、東京、石井德次郎妹
妻　袁子　明三一、二生、廣島縣士、森戸郁二女
男　一郎　大九、九生
養子　馨　明三一、二生、長女靜子夫、神奈川、伸戸川二六兄
女　靜子　明四三、一生、養子馨妻、九段精華高女出身
女　さだ子　明四五、七生
女　綾子　大六、一二生
君子　大四、五生

君は埼玉縣人泰勝松五郎の四男にして明治十四年六月二十日を以て生れ先代萬藏の養子となり大正十二年家督を相續し前名庄太郎を改め襲名す萬屋池田園本店と稱し茶並海苔商を營み直接國稅四千七百三十八圓を納め東京府多額納稅者たり家族は尙二男庄次郎(大一二、九生)三男三郎(同一五、五生)孫宏子(昭五、一一生、養子馨長女)同俊一郎(同八、三生、同長男)あり(東京市淺草區高原町二電淺草一〇六四)

參照‖石井德次郎※西澤恭助の項

池田萬太郎

養子　民治郎　明二〇、四生、養子イシ夫、奈良池原忠平五男
養子　イシ　明三一、一〇生、養子民治郎妻、大阪、池田澤藏長女
孫　美代子　大六、三生

君は奈良縣人池原忠平の二男にして明治十年五月十五日を以て生れ大阪府人池田卯之助の養子となり大正元年分れて一家を創立す地家主として知らる家族は尙孫憲之助(大八、四生、養子民治郎長男)同達二(同一〇、二生、同二男)同鈴子(同一二、三生、同二女)同眞(同一四、八生、同三男)同四郎(昭二、三生、同四男)同正弘(同四、一生、同五男)ありA九六二(大阪市天王寺區伶人町四九二五電天王寺二〇七六)

地家主
大阪府在籍

池田保平

母　ちゑ　明一三、八生、靜岡、村越政平長女
妻　はま　大二、五生
男　正太郎　大八、八生
女　美榮子

君は靜岡縣人池田藤七の長男にして明治四年十一月を以て生れ大正元年家督を相續す明治二十五年慶應義塾を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尙二男次郎(大五、四生)あり長女なか(明三八、一二生)は靜岡縣人稻勝清三郎長男正太郎に嫁し弟寛治(同一八、八生)は分家し叔母かめ(慶應元、四生)は同縣人村松貫一の家籍に入れり(靜岡縣磐田郡掛塚町電七)

參照‖稻勝清三郎の項

遠州木材㈱專務取締役、龍西木材㈱取締役、靜岡縣在籍

池田泰親

母　サク　明一九、三生、熊本、岡本定政從妹
養子　史郎　大一三、一一生、熊本、堀田傳一五男
妙　大三、七生、熊本、櫻井守貴女
養子　熊本縣人櫻井勝九郎の三男にして山崎順七の弟なり

正八位勳四等、陸軍歩兵少尉、大谷石材鑛道、中國稻荷山銅柴鑛道天草石材工業㈱社長
熊本縣在籍

り明治六年五月を以て生れ先代泰之の養子となり同二十五年家督を相續す同三十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し一年志願兵として入營陸軍歩兵少尉に任ぜらる祖業農を營みしも後實業界に入り現時前記各會社長たり曩に熊本縣多額納稅者に列し曾て衆議院議員に當選する事二回に及ぶ長女絢子(明三九、八生)は岡山縣人龜山孝一に嫁せり(東京市世田谷區池尻町四一一電世田谷六〇三)

池田勇治郎　肥料商　大阪府在籍

妻　かめ　明元、二生
養子　竹　三　明三五、三生、二女秀子夫、大阪今中仁一弟
女　秀　子　明三七、二生、養子竹三妻

君は大阪府人中井彌七の三男にして文久三年十一月十四日を以て生れ明治二十五年池田牛治郎の養子となり後分家して一家を創立す現時肥料商を營む家族は尚孫靖子(昭四、一一生、養子竹三長女)同敬子(同八、七生、同二女)あり三女幸子(明四〇、九生)は奈良縣人二塚常太郎に嫁せりA七三六(大阪市西區靱上通二ノ三七電土佐堀一六四七)

池田與一郎　帝國製綱㈱代表取締役、綱糸商　靜岡縣在籍

繼母　ヨシ　明一八、一生、東京、中臺與吉妹
妻　よし　明二四、一一生、靜岡、大塚清賢四女
男　與三郎　大五、二生

君は靜岡縣人池田與三郎の長男にして明治十九年七月二十七日を以て生れ昭和七年家督を相續す綱糸商を營み傍ら帝國製綱會社代表取締役たり家族は尚二男迪(大六、七生)四女しづ(同九、三生)三男健三(同一一、五生)四男秀雄(同一五、九生)五男昭(昭二、二生)六男正夫(同四、九生)七男武(同七、一生)の外弟七郎(大八、七生)あり長女久江(明四四、五生)は東京府人横山新一に姉るい(同一七、一生)は靜岡縣人池田邦治に妹とく(同二二、一一生)は東京府人谷合彌七弟周に同八重(同三一、三生)は同府人根本寡兵衛に叔母かね(同元、二生)は鹿兒島縣士族新納謙助に同たか(同一二、一〇生)は神奈川縣人日比谷藤助長男大吉に嫁し叔父定吉(同七、一〇生)は東京府人佐久間正吉先々代に同常次郎(同九、八生)は靜岡縣人池田治平に各養子となりA三六四B一〇〇(東京市日本橋區箱崎町一ノ一電茅場町九五二)

參照‖佐久間正吉の項

池田米次郎　醫師　東京府在籍

男　泰　明二九、六生
男　實　明三五、四生
妻　江　明三七、四生、三男實妻、東京、小谷武次長女
婦　雪　江　明三九、一生、養子泰藏妻、秋田、江畑新之助長女

君は東京府人池田長次郎の二男にして明治二年一月二日を以て生れ明治十五年家督を相續す內科小兒科專門醫師たり家族は尚孫浩子(昭八、一生、三男實長女)あり二女穗野(明三一、一二生)は福岡縣人波多江一彥に四女太代(同三八、九生)は東京府人吉田繁次郎二男收藏に五女珪子(同四〇、一一生)は滋賀縣人北川志郎弟五良に嫁し四男衛(同三七、五生)は千葉縣人原千代子の入夫となりA三一二(東京市京橋區銀座西七ノ二ノ四電銀座七一八)

池田良介　正五位勳六等、南洋廳採礦所技師　南洋廳採礦所長、茨城縣士族

母　しげ　文久元、七生、增田敬義二女
妻　信　子　明二七、三生、林龍長女子
女　大六、五生

君は茨城縣士族池田哲太郎の長男にして明治二十年三月十六日を以て生れ同四十年家督を相續す同四十二年盛岡高等農林學校農學科を卒業し同校助教授日本產業商會燒礦部技師ラサ島燒礦合資會社技師等たりしも大正十一年臨時南洋廳採礦所技師臨時南洋廳採礦所長に轉じ同十二年南洋廳採礦所技師南洋採礦所長となり今日に至る家族は尚二女弘子(大九、二生)弟靜三(明二六、一生)同妻あさ(同三四、六生、初見新四郎四女)及其二子あり弟昇次郎(同三一、九生)同妻はな(同二八、四生、前木七郎八女)は其一女を伴ひ他家に入れり(南洋群島パラオ諸島アンガウル島採礦所內)

池田禮治　秋田縣多額納稅者、秋田銀行、增田水力電氣各㈱取締役、池田㊞代表社員、農業、秋田縣在籍

妻　イヲ　明九、一一生、秋田、江畑宇三郎二女
養子　泰　藏　明三一、九生、秋田、池田文太郎二男
婦　ミサ　明三三、一一生、養子泰藏妻、秋田、江畑新之助長女

君は秋田縣人池田文太郎の弟にして同文一郎の叔父松浦千代松の兄なり明治五年十月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す農を營み現時前記銀行會社の重役たり秋田縣多額納稅者に列し直接國稅千三百五十四圓を納む家族は尚孫穀(大一一、三生、養子泰藏長男)同愛(同一三、八生、同長女)あり(秋田縣仙北郡高梨村)

參照‖池田文一郎、松浦千代松の項

池田和吉　阪神土地建物㈱專務取締役　大阪府在籍

養子　勉　明三三、九生、庶子光枝夫、香川岡內清太三男
庶子　光　枝　明四二、一生、養子勉妻

君は香川縣人池田宇次郎の二男にして明治五年七月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す現時阪神土地建物會社專務取締役たり家族は尚孫孝子(昭四、一〇生、養子勉長女)ありA二一六(堺市大濱北ノ公園地電一〇一四)

池谷精一　五日市鐵道㈱取締役、秋川水力電氣㈱監査役、東京府在籍

妻　サク　明一五、四生、埼玉、横田伊兵衛二女
男　秀　夫　明四三、一生、商學士
女　文　子　明四五、一生

君は東京府人先代精一の長男にして明治十五年十二月を以て生れ大正四年家督を相續し前名新平を改め襲名す現時五日市鐵道會社取締役秋川水力電氣監査役たり家族は尚二男治夫(大五、一〇生)ありA六〇四(東京府西多摩郡小宮村)

池戸宗三郎　池戸宗三郎商店㊞代表社員、高山堂書畫骨董商、大阪府在籍

妻　マツ　明一二、五生、大阪、鶴野イナ妹
男　宗一　明三八、三生

君は大阪府人先代宗三郎の長男にして明治十年四月を

以て生れ同二十八年家督を相續す高山堂と稱し書畫骨董商を營み合名會社池戸宗三郎商店代表社員たり弟六三(明二二、九生)は分家せりA一〇五(大阪市東區今橋三ノ一二電本局六五)

池永榮助　伊萬里銀行㈱頭取、池永㊞代表社員、佐賀縣在籍

妻　あゐ　明二二、二生、和歌山、栗山長兵衛四女
男　榮　二　明四二、五生、慶大經濟學部在學
男　德　治　大元、一一生

君は佐賀縣人先代榮助の長男にして明治十四年九月を以て生れ大正三年家督を相續し前名榮一を改め襲名す現時伊萬里銀行頭取にして池永合名會社代表社員たり曩に西海運輸會社々長を兼ぬ家族は尚三男碩助(大六、一生)四男善郎(同一〇、一生)五男慶吾(同一二、一生)あり長女淺子(明四〇、三生)は大阪府人日本レイヨン會社技師川井眞三郎に嫁せり(佐賀縣西松浦郡伊萬里町電一六)

參照‖※栗山捨三の項

池永五郎兵衛　家主　大阪府在籍

妻　サト　明一〇、一〇生、大阪、杉田源右衛門二女
男　敏　一　明四一、二生
女　君　子　明四五、一生

君は大阪府人先代五郎兵衛の長男にして明治二年十二月二十日を以て生れ大正四年家督を相續し同五年襲名して前名松之助を改む家主として知らる家族は尚三男五郎(大六、三生)四男八郎(同七、七生)あり二女八重野(明三二、二生)は大阪府人大久保義治に三女米子(同三四、一二生)は同府人池永卓郎に四女森惠子は同府人杉田幸太郎に嫁し庶子光晴(大一二、一〇生、生母、大阪、筒井ヒサ)は生母ヒサの家籍に入り弟義治(明二二、一生)は同府人岩國久右衛門の養子となれりA六八一(大阪市西淀川區花川町八六電土佐堀一八三〇)

池永三治　太秦發解㈱社長、京都土地興業㈱取締役、京都府在籍

男　浩　久　大一一、一生

養子　數　男　明三七、一生、女光江夫、大分、井上敏雄弟
女　光　江　明四二、三生、養子數男妻

君は大分縣人池永爲策の三男にして明治十年三月二十四日を以て生れ昭和三年兄隆二方より分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時太秦發解映畫會社々長の外前記會社の重役にして曩に日本活動寫眞日本興業各會社の重役たりし事あり家族は尚孫彰作(昭五、五生、養子數男長男)あり(京都市上京區小山花ノ木町電西陣二三二六)

池永四郎　三菱鑛業㈱參事、技術部副長　東京府在籍

養父　雅之助　慶應三、二生、現戸主
養母　たつ　明三、三生、三重、松本政藏妹
妻　田鶴子　明二八、八生、故文學博士芳賀矢一長女
男　雅　人　大四、四生、八高在學

君は三重縣人乙竹岩造同茂郎の弟にして明治二十一年六月二十二日を以て生れ池永雅之助の養子となる同四十五年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し三菱鑛業會社に入り現に同社參事にして技術部副長たり家族は尚二男英夫(大五、一二生、八高在學)三男三郎(同七、一二生)四男力(同一〇、一〇生)長女二三子(同一二、一〇生)五男久(同一五、五生)二女三四子(昭四、五生)ありA五二八(東京市小石川區大塚坂下町一一四)

參照‖乙竹岩造の項

池永七郎　大阪浦江郵便局長　大阪府在籍

母　ムメ　文久元、六生、大阪、松井藤兵衛二女
妻　チヨノ　明二六、三生、大阪、今西春郎三女
男　昇　大六、一〇生
女　晶　江　大四、一生

君は大阪府人先代七郎兵衛の長男にして明治十五年三月二十八日を以て生れ大正九年家督を相續す現に大阪浦江郵便局長たり家族は尚三男治男(大一〇、一一生)四男禎雄(昭二、二生)二女宏(同五、六生)あり妹鶯枝(明二二、五生)は大阪府人倉持勝次郎に嫁せりA五〇〇(大阪市西淀川區花川町一二九電土佐堀三三四〇)

池永辰次郎　大阪府里郵便局長、大阪鐵管製造所㈱專務取締役、大阪㈱監査役、川口組㈱出資社員、敦化委員會々長、大阪府在籍

父　辰之助　明元、三生、現戸主、大分產業無盡㈱取締役社長
母　ナカ　明二、四生、祖父吉兵衛二女
妻　きく　明三七、三生、兵庫、上村藤四郎妹
男　薰　爾　昭四、一二生

君は大阪府人池永辰之助の長男にして明治三十三年九月二日を以て生れ家業を營みしも現時廢業して大阪不動產無盡會社專務取締役の外前揭各會社の重役にして傍ら所得稅調査委員借地借家調停委員たり家族は尚長女蕙宜子(大一五、三生)妹綾子(明四二、九生)あり養兄泰治(同三一、五生、大阪、中澤猪三郎三男)は大阪府人奥田辰次郎の養子となり庶子よし子(同三六、七生、生母、大阪、高田しん)は分家せりA四五八(大阪市西淀川區花川町一三一電土佐堀三二四五)

池永恒太郎　大阪府多額納稅者、家主　大阪府在籍

妻　スエノ　明二四、五生、大阪、井田惣吉三女
男　吉　郎　大六、一一生

君は大阪府人池永桑松の長男にして明治十一年五月を以て生れ同三十七年家督を相續す家主にして直接國稅六千三百七十六圓を納め大阪府多額納稅者に列す家族は尚二女正子(大一二、一二生)三女幸子(昭四、六生)弟俊一(明二八、一一生)同妻ラク(同三一、五生、大阪、小泉又十郎二女)及其二男二女あり弟熊次郎(同一七、九生)は大阪府人中野イサに同桑松(同二五、四生)は同府人中野耕治に各養子となり妹ヤク(同二〇、一生)は同府人井田惣吉長男爲治郎に嫁せりA五九七九(大阪市此花區玉川町二ノ一九六電土佐堀七五九〇)

池永富三郎　大阪商工會議所常議員、今西商店㈱取締役、大阪㊞業組合聯合會理事、大阪府在籍

妻　富喜　明二五、八生、大阪、野部藤作妻
男　精二　明三〇、一一生、扶桑海上保險會社員、經濟學士
婦　シゲ　同三九、一二生、長男精二妻、愛媛、赤松八十丈妹
男　卓三　明三八、三生、山下汽船會社員、法學士

君は大阪府人池永文治の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治十六年家督を相續す初め門司市に於て石炭商を營みしも後今西林三郎氏に聘せられ同氏經營の今西商店石炭部支配人となり現時其取締役にして大阪實業組合聯合會理事たる外大阪商工會議所常議員に擧げらる趣味として讀書茶の湯を嗜む家族は尙孫俊一（昭三、一生、長男精二長男）あり二女愛子（明二九、一生）は其夫吉之助（同二一、三生、大阪、日野吉助四男）と共に分家し三男三郎（同四四、七生、東京武藏高校出身）も亦分家し三女俊子（同三四、一〇生、樟蔭高女出身）は東京商科大學教授佐藤弘に嫁せり（大阪市住吉區帝塚山中一ノ一二三三電住吉二三三七）

池永秀次郎

池梅商店、建具製作業
母　タキ　明三、四生、大阪、上金源助長女
妻　ヒテ　明二八、一生、大阪、木本利吉長女
女　宇女子　大三、七生

君は大阪府人池永林藏の三男にして明治二十八年三月八日を以て生れ大正二年家督を相續す池梅商店と稱し建具製作業を營む家族は尙弟德三（明三二、一生）同妻ひさゑ（同三三、七生、兵庫、濱田三次妹）及其三男一女弟孝親（同三六、一〇生）同妻あい（同三七、四生、兵庫、濱田增太郎三女）及其二男一女妹道子（同四四、一一生）あり弟松三郎（同三四、一生）は絕家萩田氏を再興せりA一二〇〇（大阪市浪速區河原町二ノ一五〇五電戎二三〇）

池永元治郎

地主
大阪府在籍
妻　せい　明九、九生、兵庫、櫻井伊左衛門二女
男　治雄　明四一、三生
婦　美知子　大元、一〇生、三男治雄妻、大阪杉田定吉孫
男　清　明四五、四生

君は大阪府人池永三郎の長男にして明治七年六月一日を以て生れ同二十三年家督を相續す地主たり家族は尙孫格雄（昭八、七生、三男治雄長男）あり弟治良三郎（明一八、六生）は大阪府人池永リクに同捨吉（同二三、一二生）は同府人大隅芳松に各壽子となり長女好枝（同三三、四生）は同府人中村光明に二女靜子（同三六、七生）三、四生）は同府人吉村延藏長男孝一に妹コト（同九、一生）は同府人中村源次郎長男に同スミ（同一六、一〇生）は兵庫縣人西村正作長男庄右衛門に嫁せりA一〇〇二（大阪市西淀川區野里町一一電土佐堀五七五〇）

池永宥光

從五位勳四等、鑛山監督局技師、鑛山監督局肇大阪鑛山監査局福岡山監督局技師、和歌山縣在籍
妻　やす　明二五、七生、和歌山、松岡秀一郎長女

君は和歌山縣人池永是光の二男にして明治十三年八月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十七年東京高等工業學校機械科を卒業し同四十一年鑛山監督署技手となり鑛務監督官鑛務技師に歷任同十三年鑛山監督局技師に任じ現に前記の職に在り家族は尙弟泰光（明二二、一生、岡山、安藤嘉助妹）及其二男あり姉とく子（同八、八生）は同縣人大野陳に嫁せり（鶴岡市西新町本通一ノ一一〇ノ五）

池長シマ

地主
兵庫縣在籍
夫　廣　大一四、九生、兵庫、池長孟二男

君は兵庫縣人櫻井豊介の二女にして明治三年五月十六日を以て生れ先代池長通に嫁し大正三年家督を相續す地主として知らるA一六〇三（神戸市兵庫區門口町九七電兵庫二一九六）

參照＝池長孟の項

池長孟

兵庫縣多額納稅者、家主
兵庫縣在籍
男　澄　大九、一一生

君は兵庫縣人井上德左衛門の長男にして明治二十四年十一月を以て生れ同三十一年先代吉左衛門の死跡を相續す家主にして直接國稅五千六十六圓を納め兵庫縣多額納稅者たり家族は尙長女淨（大一一、一二生）あり二男廣（同一四、九生）は兵庫縣人池長シマの養子となれり（神戸市兵庫區門口町九七電兵庫二一九六）

參照＝池長シマの項

池野三次郎

盛岡商工會議所常議員、木三商會社長、南部土地株式會社取締役、旭證券株式會社監査役、盛岡信用組合理事、岩手縣在籍
妻　リヨ　明二二、一二生、岩手、中谷他人長女
男　三平　明四四、三生
女　リヤ　大二、三生
女　富久　大六、五生

君は岩手縣人先代三次郎の長男にして明治十五年七月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名三平を改め襲名す現時前記議會社の重役にして盛岡商工會議所常議員に擧げらる大正十年紺綬褒章を授けらる家族は尙二男榮二（大四、三生）三男九平（同九、九生）あり姉イサ（明七、八生）は岩手縣人森九兵衛に嫁し同ヒサ（同一〇、八生）同夫福次郎（同元、一二生、岩手、高橋伊兵衛弟、木三商會監査役）は其三子を伴ひ分家せり（盛岡市肴町六四）

參照＝森九兵衛の項

池野七太郎

地主
兵庫縣在籍
妻　げん　明一〇、九生、兵庫、角野源之介姉
男　保登　明三〇、一〇生
婦　あさゑ　明三八、六生、長男保登妻、兵庫上田太左衛門二女
男　喜一　明三三、七生
婦　キン　明四一、一一生、二男喜一妻、大阪、坂口彦三郎姉
男　源五　明四五、三生

君は兵庫縣人池野七左衛門の長男にして明治十年三月十八日を以て生れ同二十六年家督を相續す地主として知らるる家族は尙孫美惠子（大一四、三生、長男保登長

女）同鄕子（同一五、八生、同二女）同正男（明四、二生、同長男）同美智子（同四、一〇生、二男喜一長女）あり弟重一（明二一、一生）は兵庫縣人小川とくの養子となり長女長子（同三六、三生）は同縣人綱本又三郎に二女夾子（同三八、一生）は同府人村上佐市郎に嫁し四男鶴雄（同四三、一生）は分家せりA四三五（神戸市林田區駒ヶ林町五ノ一五一）

池野成一郎

從三位勳二等、理學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、東京府士族
妻　らく　明七、二生、東京、士、樋口淳秀三女
男　勇一　明二七、一生
男　仁二　明三三、六生
婦　美穗子　明四二、五生、二男仁二妻、東京山口精一二女
男　四郎　明三八、三生

君は東京府士族池野富五郎の長男にして慶應二年五月を以て生れ明治三年家督を相續す同二十三年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し進んで大學院に入り翌年農科大學助教授に任じ同三十九年植物學研究の爲佛獨兩國に留學を命ぜらる同四十二年同大學教授に進み翌年理學博士の學位を受く同四十五年學士院恩賜賞を授けられ昭和二年帝國學士院會員仰付けらる同年教職を退き同大學名譽教授に推さる（東京市澁谷區原宿一ノ八九）

池野藤兵衛

岩手銀行㈱取締役、糸屋呉服店㈱監査役、岩手縣在籍
妻　イマ　明一二、一〇生、岩手、金子祿郎二女
男　豊松　明二七、二生
婦　サカエ　明三三、五生、長男豊松妻、岩手三田道治郎長女
男　健三郎　明三七、一二生
男　金四郎　明三九、六生
男　忠藏　明四一、二生
女　キエ　明四四、四生
女　ヨシ　大二、一生

君は岩手縣人先代藤兵衛の長男にして明治四年八月を以て生れ同三十八年家督を相續し製名して前名金之助を改む現時前記銀行會社の重役にして藝に南部土地會社取締役を兼ね盛岡商工會議所議員に選ばる家族は尙孫蘆（大一〇、八生、長男豊松長女）妹リヤ（明一三、九生）同妻キク（同三四、生）あり二男次郎（同二九、一一生）同妻ヤス（同九生、岩手、佐々木仙助三女）は其二男を伴ひ分家せり（盛岡市東中野新殿町電一六・七〇三）

參照＝佐々木仙助の項

池野谷初五郎

齒科醫師
東京府在籍
父　德太郎　明四、一生、現戸主
母　せん　明一〇、七生、祖父貞司長女
妻　ふく　助三一、一一生、茨城、大西賢之助女
男　博　大一三、六生

君は東京府人池野谷德太郎の長男にして明治三十年二月十六日を以て生る齒科醫師たり家族は尙長女喜久代（大一〇、一生）二女和子（同一一、一生）三男義德（明三六、六生）妹ツヤ（明一三、九生）同妻キク（同三四、一生）二男蓬男（同一五、三生）三女惠子（昭二、一二生）四女雅子（同七、三生）弟義德（明三六、六生）妹八重子（同四三、五生）あり妹文子（同四〇、一二生）は東京府人中山俊夫弟克巳に嫁せりA三〇四（東京市淺草區榮久町一一四電淺草四九八）

池原英治

從五位勳五等、元鐵道技師、新潟縣在籍
妻　ソカ　明二四、一二生、新潟、丸山殿太郎養子
男　武一郎　大九、四生
女　ヒデ　大三、三生
女　フジ　大五、一生
女　カズ　大七、一一生

君は新潟縣人池原鐵之助の二男にして明治二十年八月を以て生れ昭和二年兄祐三方より分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し鐵道院技手となり同技師及鐵道技師に進み大正十二年在外研究員として米獨各國に在留し歸朝後熱海線建設事務所長を經て昭和四年建設局計畫課長に補せられ同八年退官し今日に至る家族は尙二男達（大一一、一二生）五女サダ（昭二、二生）あり（東京市大森區山王一ノ二八六〇電大森一一二三）

池原鹿之助

朝鮮油脂㈱取締役
愛媛縣在籍
妻　志津　明一〇、三生、大阪、山崎豊三郎妹
男　止戈夫　明三七、四生、大阪帝大理學部講師、ペイエラー・オブ・サイエンス、ドクター・オブ・フヰロソヒー

君は愛媛縣士族池原利三郎の二男にして明治四年八月を以て生れ同二十一年分れて一家を創立す同三十年中央大學を卒業し文官高等試驗に及第し奈良縣警事官大阪市助役藤田組理事を歷任し現時朝鮮油脂會社取締役たり嘗に北門銀行頭取日本水道衞生工事會社々長大林帳簿製造所監査役たり事あり家族は尙三男眞三郎（大五、七生、甲南高校在學）四女中（同九、二生、甲南高女在學）あり長女靜枝（明三八、七生、神戸高女出身）は神戸高等工業學校教授武田英吉に二女順（同四一、二生、神戸女學院出身）は神戸商科大學助教授新庄博に三女良（同四三、七生、東京女子大出身）は姫路高校教授久原壽に嫁せり（兵庫縣武庫郡本山村岡本一三五）

池部祐吉

正五位勳五等、營林局技師、東京營林局勤務
石川縣士族
父　淳　安政五、四生、現戸主
母　南津　明二、六生、石川、士、林省三三女
妻　菊枝　明二九、三生、石川、士、楠正道長女
男　豊典　大四、一一生

君は石川縣士族池部淳の長男にして明治十年十月を以て生る同四十四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し樹來林務技手山林技手山林技師營林局技師秋田熊本各營林局造林課長等に歷任昭和五年農林技師を兼任し同七年滿洲及關東州へ出張を命ぜらる現時東京營林局勤務たり家族は尙二男武夫（大八、三生）長女文子（同一〇、二生）二女治久（同一三、五生）三女とみ子（昭二、一一生）弟虎三郎（明三五、一二生）あり妹美喜（同二四、四生）は東京府人島野元太郎に同鈴（同二八、三生）は石川縣人大橋鐵男に同五月（同三三、五生）は岐阜縣人桑原四郎に同美和（同四一、四生）は石川縣人本多政德

に嫁せり(東京市中野區城山町三〇)

池邊稲生　従四位、帝都電鐵㈱副社長、共榮社㈱取締役、鬼怒川水力電氣㈱監査役、東京府在籍

父　飄平　安政四、六生、大分、後藤鹿造弟
母　ミサヲ　慶應元、一生、祖父田村二女
妻　みさを　明二二、七生、茨城、栗原敬恭三女、東京女子高師出身
男　展生　大元、一二生

君は大分縣人池邊飄平の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し北海道廳技師朝鮮總督府技師復興局技師東京市復興事業局長に歷任し後官を辭し現時帝都電鐵會社副社長共榮社取締役鬼怒川水力電氣會社監査役にして兼に東京山手急行電鐵會社常務取締役澁谷急行電鐵會社取締役たりし事あり昭和九年六月帝都復興事業に關し盡力尠らず依つて金杯一個を賜ふ家族は尙二男榮(大四、九生)三男穣(同六、一〇生)四男陽(同九、四生)六男裕(同一四、一二生)長女妙子(昭二二、六生)あり弟晋(明三一、二生)は同妻香壽美(同三八、二生、茨城、野川元衛二女)と共に分家せりA九四九(東京市世田谷區北澤五ノ八〇三電四谷五九〇五)

池邊清　東洋商會資無限責任社員　東京府在籍

妻　ぶん　明三一、九生、山梨、堀内宗作長女

君は東京府人池邊作郎の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す現時東洋商會無限責任社員たり家族は尙弟康彌(明三四、二生)同光雄(明三八、四生)ありA五二四(東京市麻布區宮村町四二電赤坂八九七)

池邊安雄　正五位勳三等、海軍經理學校長、靜岡、高村得之三女　明二五、四生

妻　その　明四四、六生、東京美術學校在學
男　安民
男　正雄　大元、一二生、東京市麻布區宮村町四

君は熊本縣人池邊久平の長男にして明治十四年一月十日を以て生る同四十一年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し海軍中主計に任官昭和四年累進して海軍主計少將に陞る其間海軍經理學校教官佐世保海軍經理部第一課長海軍省所管政府委員横須賀海軍軍需部長横須賀鎮守府主計長等に歷補し現時海軍經理學校長たり日獨戰並に大正三、四年乃至九年戰役に從軍す又曩に歐米各國に出張す家族は尙三男靜雄(大八、一二生)四男興一(同一三、一生、弟久助養子)の外弟久助(明一九、一生、東京、富山桑商船學校出身)同妻結子(同三三、五生、東京、富山桑吉五女)ありA一六〇(東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ四八四電田園調布一〇六六)

池邊龍一　従五位勳四等、共同證券㈱取締役會長、長崎縣在籍　明二六、一〇生、東京、山田慣六女

妻　とき　大四、三生
男　乾治
女

君は長崎縣人池邊政五郎の三男にして明治十四年一月を以て生れ大正十五年兄小六方より分れて一家を創立す明治三十七年東京高等商業學校專攻部を卒業し外交官及領事官試驗に合格し統監府屬となり同四十年領事官補に任ぜられ爾來理事官兼統監府書記官朝鮮總督府書記官同總督秘書官内閣總理大臣秘書官等に歷任し大正八年朝鮮銀行司事に擧げられ東京支店總務課長兼調査部長等を經て東洋拓殖會社理事に就任し後南洋興發海外興業會社監査役たりしも現時共同證券會社の重役たり家族は尙二男龍雄(大六、九生)長女千鶴子(同一三、七生)三男道夫(昭四、七生)あり(東京市澁谷區原宿二七〇電青山四三二九)

池坊專啓　華道家元池坊四十三世、六角堂頂法寺住職、京都府在籍　明二〇、一二生、子爵梅溪通虎叔母

妻　貞子
養子　專威　明三三、九生、伯爵油小路隆成弟

妻　文子　大五、九生、調布高女出身
女　圭子　大三、一一生、調布高女出身

君は熊本縣人池邊久平の長男にして明治十四年一月十日を以て生る同四十一年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し海軍中主計に任官昭和四年累進して海軍主計少將に陞る其間海軍經理學校教官佐世保海軍經理部第一課長海軍省所管政府委員横須賀海軍軍需部長横須賀鎮守府主計長等に歷補し現時海軍經理學校長たり日獨戰並に大正三、四年乃至九年戰役に從軍す又曩に歐米各國に出張す家族は尙三男靜雄(大八、一二生)四男興一(同一三、一生、弟久助養子)の外弟久助(明一九、一生、東京、富山桑商船學校出身)同妻結子(同三三、五生、東京、富山桑吉五女)ありA一六〇(東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ四八四電田園調布一〇六六)

池邊龍一　従五位勳四等、共同證券㈱取締役會長、長崎縣在籍　明二六、一〇生、東京、山田慣六女

妻　とき　大四、三生
男　乾治
女

君は長崎縣人池邊政五郎の三男にして明治十四年一月を以て生れ大正十五年兄小六方より分れて一家を創立す明治三十七年東京高等商業學校專攻部を卒業し外交官及領事官試驗に合格し統監府屬となり同四十年領事官補に任ぜられ爾來理事官兼統監府書記官朝鮮總督府書記官内閣總理大臣秘書官等に歷任し大正八年朝鮮銀行司事に擧げられ東京支店總務課長兼調査部長等を經て東洋拓殖會社理事に就任し後南洋興發海外興業會社監査役たりしも現時共同證券會社の重役たり家族は尙二男龍雄(大六、九生)長女千鶴子(同一三、七生)三男道夫(昭四、七生)あり(東京市澁谷區原宿二七〇電青山四三二九)

池坊專啓　華道家元池坊四十三世、六角堂頂法寺住職、京都府在籍　明二〇、一二生、子爵梅溪通虎叔母

妻　貞子
養子　專威　明三三、九生、伯爵油小路隆成弟

妻　靜子　明三八、一生、養子專威妻、福井山本傳兵衛二女
養子　專威　明三五、一生、調布高女出身

君は故伯爵油小路隆晃長男隆重の二男にして伯爵油小路隆成の叔父なり明治二年五月を以て生れ先代專正の養子となり同四十一年家督を相續す先是前名隆定を改む六角堂頂法寺住職にして華道家元池坊第四十三世を襲ふ家族は尙孫崇子(昭四、四生、養子專威長女)同專永(同八、七生、同長男)ありA八五七三(京都市中京區六角通烏丸東入電本局二八三八)

參照‖伯爵油小路隆成、子爵梅溪通虎、山本傳兵衛

※子爵石井隆臣※子爵八條隆正の項

池松林一　諫早銀行㈱頭取、諫早無盡、長崎製糸各㈱取締役、長崎縣在籍　明二七、一生、長崎、石島好之助長女、東京女子美術學校高學科出身

妻　ヨト
男　林太郎　大一一、一二生
女　モト　大六、二生
女　ヒサ　大八、五生

君は長崎縣人池松佐人の二男にして明治二十二年二月を以て生れ先代ノエの養子となり同三十九年家督を相續す大正七年早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し同十三年歐米各國を視察す昭和四年迄諫早町長在職現時諫早銀行頭取の外前記會社の重役たり家族は尙四女ヒロ(大一〇、一二生)五女チヨ(同一四、一二生)五男久夫(昭二〇、二生)六女セツ(同四、二生)あり(長崎縣北高來郡諫早町乙一〇三電五三)

池見辰次郎　九州興業㈱、九州興産、九州劇場、九州新興各㈱社長、大日本酒類造㈱相談役、福岡消防協會顧問、福岡縣在籍　明九、一生、福岡、世利善五郎長女

妻　ヤイ　明三二、九生、大日本酒類釀造㈱常務取締役
男　茂隆　明三九、一生、大日本製酒㈱取締役
婿　保枝　賀、飛松安之助三女
男　茂　明四三、三生
男　東太郎　大二一、八生
女　トキ　大四、一生

婿　靜子　明三八、一生、養子專威妻、福井山本傳兵衛二女

君は故伯爵油小路隆晃長男隆重の二男にして伯爵油小路隆成の叔父なり明治二年五月を以て生れ先代專正の養子となり同四十一年家督を相續す先是前名隆定を改む六角堂頂法寺住職にして華道家元池坊第四十三世を襲ふ家族は尙孫崇子(昭四、四生、養子專威長女)同專永(同八、七生、同長男)ありA八五七三(京都市中京區六角通烏丸東入電本局二八三八)

參照‖伯爵油小路隆成、子爵梅溪通虎、山本傳兵衛

※子爵石井隆臣※子爵八條隆正の項

池松林一　諫早銀行㈱頭取、諫早無盡、長崎製糸各㈱取締役、長崎縣在籍　明二七、一生、長崎、石島好之助長女、東京女子美術學校高學科出身

妻　ヨト
男　林太郎　大一一、一二生
女　モト　大六、二生
女　ヒサ　大八、五生

君は長崎縣人池松佐人の二男にして明治二十二年二月を以て生れ先代ノエの養子となり同三十九年家督を相續す大正七年早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し同十三年歐米各國を視察す昭和四年迄諫早町長在職現時諫早銀行頭取の外前記會社の重役たり家族は尙四女ヒロ(大一〇、一二生)五女チヨ(同一四、一二生)五男久夫(昭二〇、二生)六女セツ(同四、二生)あり(長崎縣北高來郡諫早町乙一〇三電五三)

池見辰次郎　九州興業㈱、九州興産、九州劇場、九州新興各㈱社長、大日本酒類造㈱相談役、福岡消防協會顧問、福岡縣在籍　明九、一生、福岡、世利善五郎長女

妻　ヤイ　明三二、九生、大日本酒類釀造㈱常務取締役
男　茂隆　明三九、一生、大日本製酒㈱取締役
婿　保枝　賀、飛松安之助三女
男　茂　明四三、三生
男　東太郎　大二一、八生
女　トキ　大四、一生

君は福岡縣人池見茂吉の長男にして明治七年二月を以て生れ大正八年家督を相續す現時九州興産九州劇場九州新興各會社社長たる外前記の職にあり養に福岡市參事會會員福岡市會副議長宮島鹽業會社薄多國技館各取締役福岡印刷會社監査役たり家族は尙五男信隆(大一二、一生)四女千津子(同一三、三生)孫英子(同一四、一生、長男茂隆長女)同隆太郎(同一五、一生、同長男)あり長女タマ(明二六、八生)養妹タツノ(同二五、一生、福岡、本間モム私生子)は各分家し二女茂子(同四二、六生)は御記タツノの養子となり孫酉次郎(大四、六生、離緣養子治雄二男)同時子(同六、二生、同長女)は各福岡縣人池見利夫の家籍に入り亡弟萬吉妻トキ(明一四、四生、福岡、井上治蒼長女)は子女を伴ひ其長男茂次(同三四、一〇生)の家籍に入れりA二二五(福岡市住吉町一五二〇電二四八三)

池見筆三郎　家主　兵庫縣在籍

妻　ひさ　明五、三生、兵庫、澤田文左衛門長女
男　爲太郎　明二四、二生
婿　ゆふ　明二九、六生、長男爲太郎妻、兵庫、大田秀太郎妹

君は兵庫縣人池見治兵衛の長男にして文久二年七月八日を以て生れ明治二十二年家督を相續す家族は尙孫博(大六、一一生、長男爲太郎長男)同正(同二一、一一生、同二男)同功(昭四、二生、同三男)同汪(同七、二生、同四男)あり二男玄次(明二七、二生)三男明(同三二、五生)は分家せり(神戸市湊東區楠町四ノ一二一)

池本武夫　家主　大阪府在籍

養母　ふじ　明七、七生、大阪、藤井健次郎妹
妻　富子　明三六、一生、先々代權右衛門長女

君は大阪府人山内善治郎の四男にして明治二十九年一月二十九日を以て生れ大正十二年先代富子の入夫となり家督を相續す家主たり養妹種子(明三九、一生)は分家せりA一七五三(大阪市北區錦屋町二三電堀川八六四)

參照‖池本種子の項

池本種子　家主　大阪府在籍

夫　義雄　明三四、二生、大阪、小田善治郎五男、現戸主
男　義一　昭五、一生

君は大阪府人池本權右衛門の二女にして明治三十九年一月三十一日を以て生れ大正八年家督を相續す砂糖商を營み傍ら前記一家を創立す家主たり家族は尙長女宏子(昭八、五生)ありA五五二(大阪市北區綿屋町二十四電堀川八六四)

參照‖池本武夫の項

池山銀治郎　三河屋物産、荻田製飴各㈱取締役、砂糖商、愛知縣在籍

繼母　ゑい　慶應二、三生、祖父惣助長女
妻　たい　明一七、三生、愛知、宮田九右衛門三女
男　信重　明三八、一二生
婿　千葉子　明四二、五生、長男信重妻、岐阜
女　産畑弘輔二女
男　さわ　明三三、一〇生
男　一　明四二、九生

君は愛知縣人池山定藏の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正八年家督を相續す家族は尙六男義忠(大七、一二生)孫守義(昭四、四生、長男信重長男)妹シヅ子(明四三、一生)あり同てつ(同三三、九生)は同縣人横山德一に同かぎ(同三八、四生)は同縣人牧野阪次郎に嫁せりA二九四(名古屋市西區西菊井町四一五電西四三四)

砂澤熊三　大垣共立銀行㈱監査役　宮城縣在籍

妻　よしの　明一三、一〇生、宮城、士、熊谷直行妹
男　盛　明三五、一二生、工學士
男　桂二　明三八、六生
孫　明四一、七生、早大出身
孫妻　寺枝　明四一、七生、宮城縣人砂澤有房の三男にして明治五年九月を以て生れ同三十九年兄右門方より分れて一家を創立す現時大垣共立銀行監査役たり(仙臺市越路二〇電一二六五)

參照‖諫早英雄の項

諫早英雄　男爵　舊佐賀藩國老

當家は龍造寺季家の後胤康家の曾孫家晴の後なり家晴宗家龍造寺隆信父子に從ひ功を立て筑後柳川城主たり秀吉討薩の師の先鋒となり奇捷を奏し肥前諫早の地二萬五千餘石を賜ふ嗣子直孝に至り諫早氏と稱しそれより世々佐賀藩の國老として相傳へ第三代茂敬は相馬陣に于保し第十一代茂國は長崎警固の任に當り功あり第十六代一學夙に勤王の志を懷き國事に奔走し佐賀及西南の變に際し鎭撫に努む後貴族院議員となる嗣子家崇獨墺に留學して經濟學を修め歸朝後外務省太政官參事院各御用掛となり貴族院議員に擧げられ明治三十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる長男家興其弟不二雄相繼ぎ君に至る君は不二雄の長男にして大正十一年四月二十六日を以て生れ同十二年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は姉文子(大一〇、四生)あり父不二雄(明三〇、四生、從五位)は分家し大叔母敬子(文久二、一二生)は侯爵菊亭公長の母たり(長崎縣北高來郡諫早町)

參照‖侯爵菊亭公長の項

石井伊三郎　群馬縣多額納稅者、上毛蠶絲㈱取締役、上州銀行㈱監査役、雜穀商、味噌醬油釀造業　群馬縣在籍

男　佐五郎　明三三、五生
男　佐二郎　明七、四生
婿　むつ　明一六、一生、三男佐二郎妻、群馬、横尾照作妹
女　てむ　明一一、七生
孫　壽郎　明三四、三生、長男佐五郎長男
孫妻　八重子　明四二、九生、孫壽郎妻、群馬、神保顯祿五女
孫　錦二　明三六、五生、二女てむ長男
孫妻　寺枝　明四四、二生、孫錦二妻、群馬、塚越藤三郎二女
孫　繁三郎　明三九、六生、三男佐二郎長男
孫　暉治　明四一、一生、三男佐二郎二男
孫　久太郎　大二、八生、三男佐二郎四男
孫　としし　大六、一生、三男佐二郎長女

君は群馬縣人石井庄七の三男にして弘北二年十一月を以て生れ明治二年分れて一家を創立す雜穀商鹽味噌醬油醸造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして群馬縣多額納稅者に列し直接國稅千二百四十八圓を納む家族匡一（明一〇、七生）は絶家小林家を再興し五男延吉（同一四、一二生）は分家し三女てつ（同一九、五生）は群馬縣人佐烏江平長男守に孫千代（同三八、一〇生、長男佐五郎庶子）は東京府人駒林吉造に嫁せり（群馬縣碓氷郡安中町電一〇）

參照＝※古屋清の項

石井磯五郎

地主　東京府在籍

母　いと　弘化二、六生、神奈川、原伊三郎三女

男　慶太郎　明二六、六生、明大政治經濟科出身

婿　榮　明三一、三生、長男遷太郎妻、神奈川、忽滑谷留次郎四女

女　綾子　明四四、七生、三田高女出身

女　幸子　大元、一一生、日ノ出高女出身

女　美津子　大五、五生、日ノ出高女出身

女　千枝子　大八、九生、日ノ出高女在學

君は東京府人石井成彰の長男にして明治六年四月十四日を以て生れ同二十年家督を相續す地主たりA一〇一五（東京市滿田區新宿町四七四電滿田二〇二七）

石井市太郎

井上屋、白米商　東京府在籍

妻　トキ　明一七、八生、神奈川、田中半左衛門長女

男　福藏　大一〇、八生

女　梅子　明四二、六生

女　玉江　大六、八生

君は東京府人石井豊次郎の長男にして明治十二年九月を以て生れ大正元年家督を相續す白米商を營む家族は尙六女立子（大一五、一〇生）あり、A八九一（東京市芝區本芝町三ノ五電高輪三二五八）

石井丑之助

土木建築請負業　東京府在籍

妻　みよ　明二、八生、茨城、金澤民藏妹

男　太郎　明二五、八生

婿　きん　明二九、九生、長男友太郎妻、東京、池田拾四郎三女

女　よし　明四四、二生

君は栃木縣人柳辨藏の二男にして慶應元年十二月二十三日を以て生れ同二十五年茨城縣人石井友義の養子となり大正五年分れて一家を創立す明治十九年專修大學の出身にして現に土木建築請負業を營む家族は尙孫千賀（大一〇、六生、長男友太郎長女）同光子（同一一、八生、同二女）あり二男菊次郎（明二七、一〇生）は同妻きみ（同三一、九生、長野、佐倉由藏長女）及一女子を伴ひ三男治三郎（同二九、五生）は同妻ツガ（同三一、八生、栃木、角田作次郎二女）及其一男を伴ひて分家し四男政四郎（同三〇、一二生）も亦分家し五男勝治（同三五、三生）は同妻都（同三〇、一二生）も亦分家す長女トヨ（同三三、千治郎長女）及其一男を伴ひ分家す長女トヨ（同三三、一二生）は東京府人長田貞三に嫁し六男八郎（同三七、五生）は同府人岡田榮之助の養子となり八男道之助（同四〇、一二生）は同府人豊島かよの家督を相續せりA二〇三（東京市神田區岩本町二六電湯花三〇一二）

石井英橘

正四位勳二等、陸軍中將　東京府士族

妻　長尾　明二五、四生、東京、神村幹男母

男　英太郎　明四三、七生

女　續子　大八、一生

君は和歌山縣士族石井武次郎の二男にして明治十四年十一月三十日を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十五年陸軍士官學校を卒業し工兵少尉に任じ昭和三年少將に進み巢鴨後中將に陞り獨備役被仰付其間東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し陸地測量部三角科長工兵第十大大隊長陸軍科學研究所第一部長陸地測量部長等に歷補す家族は尙二男尙次（大九、七生）あり長女教子（明四二、一一生）は岡山縣人航空兵大尉有森三雄に嫁せり（東京市中野區住吉町四三電中野五二〇七）

石井榮十郎

兵庫縣多額納稅者、金融業　兵庫縣在籍

妻　ちか　明五、六生、兵庫、藤田五郎吉養子

女　文子　明四二、五生

女　靜子　明四三、一〇生

君は栃木縣人柳辨藏の二男にして慶應元年十二月二十三日を以て生れ同二十五年茨城縣人石井友義の養子となり大正五年分れて一家を創立す明治十九年專修大學の出身にして現に土木建築請負業を營む家族は尙孫千賀（大一〇、六生、長男友太郎長女）同光子（同一一、八生、同二女）あり二男菊次郎（明二七、一〇生）は同妻きみ（同三一、九生、長野、佐倉由藏長女）及一女子を伴ひ三男治三郎（同二九、五生）は同妻ツガ（同三一、八生、栃木、角田作次郎二女）及其一男を伴ひて分家し四男政四郎（同三〇、一二生）も亦分家し五男勝治（同三五、三生）は同妻都（同三〇、一二生）も亦分家す長女トヨ（同三三、一二生）は東京府人長田貞三に嫁し六男八郎（同三七、五生）は同府人岡田榮之助の養子となり八男道之助（同四〇、一二生）は同府人豊島かよの家督を相續せりA二〇三（東京市神田區岩本町二六電湯花三〇一二）

石井磯五郎

地主　東京府在籍

母　いと　弘化二、六生、神奈川、原伊三郎三女

男　慶太郎　明二六、六生、明大政治經濟科出身

婿　榮　明三一、三生、長男遷太郎妻、神奈川、忽滑谷留次郎四女

女　綾子　明四四、七生、三田高女出身

女　幸子　大元、一一生、日ノ出高女出身

女　美津子　大五、五生、日ノ出高女出身

女　千枝子　大八、九生、日ノ出高女在學

君は東京府人石井成彰の長男にして明治六年四月十四日を以て生れ同二十年家督を相續す地主たりA一〇一五（東京市滿田區新宿町四七四電滿田二〇二七）

石井市太郎

井上屋、白米商　東京府在籍

妻　トキ　明一七、八生、神奈川、田中半左衛門長女

男　福藏　大一〇、八生

女　梅子　明四二、六生

女　玉江　大六、八生

君は東京府人石井豊次郎の長男にして明治十二年九月を以て生れ大正元年家督を相續す白米商を營む家族は尙六女立子（大一五、一〇生）あり、A八九一（東京市芝區本芝町三ノ五電高輪三二五八）

石井丑之助

土木建築請負業　東京府在籍

妻　みよ　明二、八生、茨城、金澤民藏妹

男　太郎　明二五、八生

婿　きん　明二九、九生、長男友太郎妻、東京、池田拾四郎三女

女　よし　明四四、二生

君は栃木縣人柳辨藏の二男にして慶應元年十二月二十三日を以て生れ同二十五年茨城縣人石井友義の養子となり大正五年分れて一家を創立す明治十九年專修大學の出身にして現に土木建築請負業を營む家族は尙孫千賀（大一〇、六生、長男友太郎長女）同光子（同一一、八生、同二女）あり二男菊次郎（明二七、一〇生）は同妻きみ（同三一、九生、長野、佐倉由藏長女）及一女子を伴ひ三男治三郎（同二九、五生）は同妻ツガ（同三一、八生、栃木、角田作次郎二女）及其一男を伴ひて分家し四男政四郎（同三〇、一二生）も亦分家し五男勝治（同三五、三生）は同妻都（同三〇、一二生）も亦分家す長女トヨ（同三三、一二生）は東京府人長田貞三に嫁し六男八郎（同三七、五生）は同府人岡田榮之助の養子となり八男道之助（同四〇、一二生）は同府人豊島かよの家督を相續せりA二〇三（東京市神田區岩本町二六電湯花三〇一二）

石井榮十郎

兵庫縣多額納稅者、金融業　兵庫縣在籍

妻　ちか　明五、六生、兵庫、藤田五郎吉養子

女　文子　明四二、五生

女　靜子　明四三、一〇生

君は岡山縣士族石井芭の長男にして明治十五年十一月

を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し同四十二年鐵道院技手となり鐵道局技師名古屋鐵道局運輸課庶務掛長同運輸事務所長大阪運輸事務所長仙臺鐵道局運轉課長等を經て昭和四年門司鐵道局運轉課長に補せられ後運輸局運轉課長となり昭和八年之れを酌し現時閑地に在り天正十五年厥米へ出張を命ぜらる家族は尙二男逸（大六、八生）あり（西宮市滿池谷町二六電二六八五）

石井克己

地主　東京府在籍

君は東京府人石井鎌太郎の九男にして明治三十三年六月を以て生れ大正七年兄清秀の後を承け家督を相續す會て割烹業を營み萬清の名を以て知らる地主たり家族は尙兄恒（明二九、六生）亡兄清秀妻シケ（同二〇、七生、東京、原田鳥藏妹）あり兄修（同二七、五生）は分家せりA一五九六（東京市芝區高輪車町三一電高輪一四〇八）

石井兼吉

地主　東京府在籍

妻　さよ　明一五、一二生、東京、山本長太郎四女

男　一郎　明四三、一〇生

女　とし　大三、五生

女　くに子　大六、六生

君は東京府人石井彌市の二男にして明治十三年十二月二十一日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり家族は尙弟濱吉（明一八、四生）同妻たれ（同二六、一〇生、東京、龜井定三郎長女）及其六子あり長女ひさ（同三六、一二生）は東京府人安藤鍋次郎に二女やす（同四〇、八生）は同府人木下傳吉長男勝之助に嫁し弟鐵五郎（同二六、七生）同妻なか（同三四、三生、東京、荒井源次郎三女）は其三子を伴ひ分家せりA五一六（東京市荏原區小山町一〇四電荏原二〇八二）

石井寛三

從五位勳六等、判事、神戸地方裁判所部長、東京府在籍

妻　まさ子　明二九、三生、三重、水谷源七三女

男　彰　大五、九生、神戸一中在學

女　百合子　大六、一一生、兵庫縣立第一高女在學

男　御朗　大八、二生、神戸一中在學

君は東京府人にして明治二十年二月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し更に同四年京都帝國大學法科大學英法科を卒業す同八年檢事に任ぜられ同年判事に轉じ現時神戸地方裁判所部長たり（神戸市灘區大内通五ノ九八）

石井喜四郎

醫師　東京府在籍

妻　しつ　明一六、一一生、養父龜次郎長女

男　富士雄　明四一、四生

女　あや　明四三、四生

男　澄雄　明四五、七生

女　正子　大五、九生

君は埼玉縣人宮本達三郎の弟にして明治十五年十一月六日を以て生れ後石井龜次郎の養子となり大正十一年養弟光雄方より分れて一家を創立す醫師たり長女千代（明四三、四生）は東京府人豊崎植美に嫁せり（東京市淺草區南元町二七電淺草三五四〇）

石井儀助

彌島縣多額納稅者、金融業　彌島縣在籍

妻　ツヤ　明一〇、七生、石井宗助長女

男　久一　大六、七生

君は彌島縣人武田重藏の三男にして明治二十四年六月を以て生れ大正九年先代ツヤの入夫となり家督を相續す金融業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅千四百八十六圓を納む業に三奉銀行取締役たり家族は尙二男晴夫（大九、一生）長女千代（同一一、二生）二女美代（同一三、四生）三女ノブ（同一五、六生）三男宗典（昭一二生）あり（彌島縣田村郡移村）

石井菊次郎

正二位勳一等、子爵、樞密顧問官　東京府華族

妻　たま　明一四、八生、東京、士、樫村正五妹

男　太郎　明三九、五生、從五位

男　建次　明四二、八生

君は千葉縣人大和久龜次郎の弟にして宮島敏夫の叔父なり慶應二年三月を以て生れ先代邦猷の養子となり明治二十六年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學を卒業し公使館三等書記官一等領事公使館二等書記官同一等書記官外務書記官外務省總務局電信課長通商局長外務次官駐佛米各特命全權大使外務大臣等に歷任し同四十四年駐佛米各特命全權大使外務大臣等に歷任し男爵を授けられ日韓併合條約改正等の功に依り華族に列し男爵を授けられ日獨事件の功に依り子爵に陞る大正九年再び特命全權大使として佛國に駐劄し傍ら國際聯盟總會に帝國代表として第一回以來毎回出席し昭和二年軍縮海軍々備縮小會議昭和八年倫敦世界經濟會議等に帝國全權委員として參列す大正五年貴族院議員に勅選せられ爾來其職に在りしが昭和四年樞密顧問官に親任せらる二女かよ（明二七、一一生、學習院女學部出身）は和歌山縣人矢野眞に嫁し三女きよ（明四一、八生、學習院女學部出身）は和歌山縣人久保田貫一郎に嫁せり（東京市澁谷區青葉町一五電青山四五〇）

參照＝白鳥敏夫、矢野眞淡佐久間信淡白鳥庫吉の項

石井絹治郎

大正製藥所、大日本化學工業各㊫社長、東京府藥劑師會、日本藥事協會各會長、東京府在籍

妻　ムメ　明二五、一生、北海道、豊島伊勢松長女

男　郷司　大四、一生

君は香川縣人石井兵吉の三男にして明治二十一年二月を以て生れ同四十二年家督を相續す現に前記各會社の社長にして推されて東京府藥劑師會社剛法人日本藥事協會各會長たり業に大日本製劑會社取締役明治藥學專門學校理事長に擧げらる妹アサ（明一五、四生）は東京府人松村常吉三男善吉に嫁せりA七四〇（東京市小石川區關口町一二三電關牛込四四八一）

參照＝※高木好彦の項

石井清

川崎總本店㊫代表社員、布引礦泉所㊫社長、布引商藥、川崎澱粉所各㊫專務取締役、淡路鐵道、川崎汽船各㊫常任取締役、ミリエンタルホテル㊫常任監査役、兵庫縣士族

妻　なか　明一九、七生、兵庫、安藤重義長女

男　健之助　明四四、一生

女　貞子　明四一、九生

男　康次郎　大二、三生

君は兵庫縣士族石井宮内の長男にして明治十年四月を

以て生れ同二十五年家督を相續す現時川崎總本店代表社員にして前記諸會社の重役たり養に神戸商工會議所議員たりしことあり家族は尙三男文三郎(大四、五生)四男武四郎(同七、五生)あり長女孝子(明三九、一〇生)は外祖父安藤重義の養子となりA三三〇四(神戸市灘區穗井前田一電御影二七七五)

石井清雄　從五位勳六等、第七高等學校造士館教授、三重縣士族

父　茂之邇　萬延元、六生

母　とめ　明元、四生、三重、士、村瀨市之助二女

妻　敎　明三一、一生、三重、福地錢吉長女、三重縣立津高女出身

男　蔚哉　大一一、一生

女　順　大七、一一生

君は三重縣士族石井茂之邇の長男にして明治二十一年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す同五年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し同十年工業試驗所技師に任ぜられ翌年第七高等學校造士館教授に轉じ今日に至る家族は尙二女恭(大九、八生)三女朝(同一四、一〇生)二男濕生あり妹ます(明三八、八生)は三重縣人月根野漠に嫁せり(鹿兒島市長田町二七)

石井金二　地主　東京府在籍

妻　イ子　明三三、五生、東京、豊田仁三郎長女

男　邦房　昭三、七生

女　宣代　大一一、一生

君は東京府人先代鎌次郎の二男にして明治二十八年三月七日を以て生れ大正六年家督を相續す地主たり妹つね(明三三、七生)は同府人巢山友次郎養子忠治に嫁せりA一一一四(東京市荏原區小山町五九電荏原二二六五)

石井錦樹　從五位、神奈川縣書記官、學務部長　東京府在籍

妻　萬龜子　明三七、七生、東京、水野錬太郎二女、女子學習院出身

男　錬一　大一三、一一生

君は茨城縣人石井敬吉の二男同銀彌の弟にして明治三十一年八月一日を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す大正十年交官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法學部英法科を卒業し直に遞信書記兼逓信局來思遞信局事務官内務事務官地方事務官等に歷任し同十四年歐米各國へ出張を命ぜられ昭和二年社會局事務官に任じ同三年國際勞働機關帝國事務所事務官となり壽府岡僅第十一回第十二回第十三回第十四回各國際勞働總會に政府代表委員顧問を命ぜられ昭和八年歸朝同年十七回各總會に政府代表敎授に任じて今日に至り現に初等科長たり今上陛下明治四十一年學習院初等科に御降學あそばさるゝや御卒業まで六ヶ年間主管を命ぜられ次で東京御學問所新設せらるゝや御用掛兼官被仰付大正九年及十年歐米各國に出張す家族は尙姪常代(明三四、九生)同夫三郎(同二六、四生、茨城、秋葉左平太三男、現戸主)及其一子あり姪富子(同四〇、二生)は富山縣人恒田嘉英に嫁せり(東京市澁谷區代々木西原町九九四電四谷三七八〇)

石井銀彌　從五位勳四等、商工省保險部長　茨城縣在籍

母　あい　明五、七生、東京、士、眞野文二妹

妻　アヤ子　明三三、四生、島根、佐藤喜八郎妹

男　光彌　大九、七生、府立四中在學

君は茨城縣人故工學博士石井敬吉の長男にして明治十七年三月を以て生れ後家督を相續す大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業同年文官高等試驗に合格同七年外務事務官會計臨時產業調査局事務官に任じ爾來外務省事務官兼外務事務官兼商務事務官特許局事務官兼商工書記官に任じ保險部損害保險課長命保險課長を經て昭和五年特許局事務官兼商工書記官に任じ保險部損害保險課長を經て昭和八年前記現職に轉ず家族は尙長女美彌子(大一四、一生)弟鈍三(明三六、九生、南滿洲鐵道會社鐵道部計畫係、工學士)同妻齋子(同四一、五生、大阪、士、藤根壽吉長女、大連高女、女子大家政科出身)及其一男弟早苗(同四四、五生、立敎大學商科出身)及父眞三(同六、一一生)あり妹葉月(同二九、八生)は步兵第三十九旅團長陸軍少將鷲津鈔平に同美佐(同三五、九生)は東京府人土肥長三に嫁し弟錦樹(同三一、八生)は其妻と共に分家し叔父悌治(同一九三生)同妻コウ(同二九、一生、東京、松金新次郎長女)は松金家に入れりA一六二(東京市牛込區市谷藥王寺町八三電牛込四五四五)

參照‖石井錦樹、眞野文二※岡喜七郎の項

石井國次　正四位勳三等、學習院敎授、初等科長、茨城縣士族

妻　とも　明一四、二生、茨城、岩本惠藏三女

君は茨城縣士族石井則休の二男にして明治七年十一月を以て生る同三十二年東京高等師範學校文科を卒業し更に同三十四年同校研究科を卒業す同三十五年學習院敎授に任じて今日に至り現に初等科長たり今上陛下明治四十一年學習院初等科に御降學あそばさるゝや御卒業まで六ヶ年間主管を命ぜられ次で東京御學問所新設せらるゝや御用掛兼官被仰付大正九年及十年歐米各國に出張す家族は尙姪常代(明三四、九生)同夫三郎(同二六、四生、茨城、秋葉左平太三男、現戸主)及其一子あり姪富子(同四〇、二生)は富山縣人恒田嘉英に嫁せり(東京市澁谷區代々木西原町九九四電四谷三七八〇)

石井熊夫　倉敷商工會議所會頭、農業、土地常務取締役、岡山電氣軌道㈱取締役、廣島縣在籍

妻　フミ　明二三、二生、藤井德兵衛長女

男　大一郎　明四四、一一生

凌二　大二、一一生

君は廣島縣人石井英太郎の五男にして明治十二年七月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして倉敷商工會議所會頭たり養に三男劫蔵(大一一、七生)長女秀子(同一三、八生)あり(倉敷市倉敷五三九電三五〇)

石井健吾　東京商工會議所議員、第一銀行頭取、東京貯蓄銀行、東京瓦斯信託㈱各取締役、有終會貴族院議員、東京瓦斯會所會頭㈱取締役、東京銀行集會所會頭、東京府在籍

妻　はつ　明一一、二生、先々代政兵衛長女

養子　孝　明一九、五生、養子萬代夫、先々代政兵衛長男

養子　萬代　明二七、三生、養子孝妻、故衆議院議員、角田彦平五女

君は東京府人挑井宣三の五男にして同逢雄の弟なり明治七年六月十六日を以て生れ同三十年先代はつの入夫となり家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し第一銀行に入る現時同行頭取にして前揭各銀行會社の重役として知られ推されて東京商工會議所議員たり家族は尙孫周(大五、八生、養子孝長男)あり養子マツ(明三一、一一生、兄桃井可雄長女)は大分縣人伊與田光男に養子信子(同四二、七生、愛知、伊豆原常藏孫)は東京府人飯塚直義に孫多代子(同四五、五生、養子孝長女)は同府人小田健男子に嫁せりA九九九四(東京市牛込區鷹匠町五電牛込二八〇九)

參照‖※子爵因池公致の項

石井源三郎　紀州屋、白米商　東京府在籍

妻　屋惠　明二四、一〇生、東京、吉田久太郎妹

男　彌太郎　大一三、九生

女　きよ　大五、六生

君は東京府人石井源三郎の二男にして明治十九年四月三日を以て生れ昭和六年家督相續と共に隼名して前名宗之助を改む紀州屋と稱し白米商を營む家族は尙二女千代子(大九、一一生)二男孝次郎(昭四、一二生)弟保雄(明三一、一生)同恒忠(同四〇、一生)妹壽惠(同四二、二生)ありA六五四B三三(東京市京橋區銀座西七ノ五)四電銀座一七二)

石井伍四郎　東京電氣㈱監査役　東京府在籍

男　信太郎　明三一、一生、醫學博士

婿　春　明四〇、一生、長男信太郎妻、東京、古川誠助長女

男　義二郎　明三五、一一生

男　三郎　明四二、三生

男　四郎　明四三、一二生

女　美代子　大三、三生

君は東京府人山崎鑑吉の弟にして慶應元年四月十日を以て生れ先代タイの入夫となり明治二十八年家督を相續す現時東京電氣會社監査役たり家族は尙孫久子(昭九、一生、長男信太郎長女)あり長女キヨ(明二八、一〇生)は東京府人上遠寄三郎二男武治に二女千代(同三三、九生)は神奈川縣人菱沼良雄に嫁せりA一三八八(東京市麻布區我善坊町二〇電赤坂八三八)

參照‖上遠寄三郎の項

石井好三郎　地主　東京府在籍

父　國次郎　萬延元、五生

君は東京府人石井國次郎の二男にして明治二十八年十月三日を以て生れ昭和二年家督を相續す現に地主たり家族は尙弟正雄(明三七、七生)同妻直(同四二、四生東京、伊藤銅吉長女)及其子女ありA一八一三(東京市王子區豊島町一一八八電王子七〇五)

石井孝太郎　麻亭漁網船具商　大阪府在籍

母　あい　明九、二生、大阪、佐野彌兵衛二女

妻　トヨ　明三六、一一生、大阪、高松敬治妹

男　康隆　昭三、三生

石井家は初代多右衛門秋田より京都に出で加州侯の甲冑御用商を營み家號を具足屋と稱し琴で大阪高麗橋に一家を成し兩替商を創め加州侯御用商人たり慶藩後二代目具足屋和助西區薩摩堀に移り最初瀨戸物商を營み後麻亭漁網商に轉ずるに及びて漸次隆盛今日の家產を興す先代孝太郎に至り益々業務を擴張し大阪麻亭商組合長及大阪船具商組合委員長西區會議員等に擧げられしことあり君は其長男にして明治三十一年九月を以て生れ昭和六年家督相續と共に襲名し前名正太郎を改む組合評議員同船具商組合評議員同船具商組合評議員たり家族は尙長女多喜子(大一三、一二生)二男貞二(同五、七生)弟菊三郎(明三八、一生)同信男(同四一、三生)妹君子(同四三、一生)あり姉八重子(同七、一生)は大阪府人春元清一に妹政子(同三四、一生)は同府人山口庄兵衛に嫁せりA一五九(大阪市西區薩摩堀北之町三三電新町七五三)

參照‖高松敬治、山口庄兵衛の項

石井駒次郎　從七位、大垣證券㈱社長、全南殖產㈱代表取締役、磐城炭礦㈱取締役、岐阜縣士族　東京府在籍

妻　はる　明一三、六生、岐阜、士、森忠夫二女

男　國男　明三四、七生

婦　うた　明三九、七生、長男國男妻、岐阜武藤五三三女

男　英男　明四一、一二生

女　須磨　明四三、八生

男　武男　明四五、七生

君は岐阜縣士族坂市太郎の弟にして同隆二同整三の叔父に當る慶應二年九月を以て生れ明治十八年先代たつの養子となり家督を相續す同二十二年東京專門學校英語本科を卒業し現に大垣證券會社長たる外全南殖產會社代表取締役磐城炭礦會社取締役を兼ぬ養に大垣市參事會員に選ばる家族は尙五女志津(大一一、一生)孫洋子(昭四、一生、長男國男長女)あり長女高(明三一、五生)は岐阜縣人矢橋爲吉長男潤二に三女由紀(同四〇、二生)は同縣人鹿野治三郎二男邦彦に嫁せり(大垣市栗屋町五電五二九)

參照‖鹿野治三郎、武藤五三※水野隆三の項

石井權藏　石井組、土木建築請負業　東京府在籍

養母　とよ　慶應元、一生、東京、今西長藏長女

妻　マキ　明二二、九生、東京、米津松造妹

男　敏夫　大四、六生

女　賢子　大二、九生

女　智子　大六、一〇生

君は東京府人久我庄吉の四男にして明治十七年十一月三日を以て生れ先代權藏の養子となり大正二年家督を相續し前名藤吉を改む石井組と稱し土木建築請負業を營む養に東京府多額納稅者たり家族は尙二男達也(大八、五生)三男章雄(同一〇、七生)四男博(同一三、四生)五男徹男(同一五、六生)六男道彌(昭四、七生)あり弟武治(明三二、八生)は分家せりA一〇四三B三八六(東京市神田區三崎町三ノ七五電九段一四八)

參照‖※多田藤吉※森友德兵衛の項

石井三九郎　資產家　東京府在籍

妻　あさ　明一五、一一生、千葉、小島儀兵衛長女
男　光一　明四二、二生
男　三郎　大三、三生

君は東京府人石井三九郎の長男にして明治十年三月三十日を以て生れ同四十五年家督を相續し前名三良を改め襲名す資產家たり家族は倘四男博三(大六、三生)五男照之助(同一〇、一生)弟定四郎(明一八、五生)同妻かつ(同一七、八生)東京、矢部米吉妹)其子妹同政司(同二二、八生)同妻りん(同三二、四生、千葉、高宮勇吉三女)及其子女同六郎(同二五、八生)同妻きみ(同三二、八生、千葉、青木松之助妹)其三男あり長女玉子(同三八、一〇生)は東京府人宮澤精一に二女敏子(同四二、一生)は同府人內田米義に妹壽々(明一五、五生)は同府人鹽田爲五郎に嫁し弟善四郎は分家し叔母つる(慶應二、五生)は東京府士族厚木勝基の母たり

A一一七八(東京市品川區西大崎一ノ三四八電高輪八一二二)

參照＝厚木勝基、鹽田爲五郎の項

石井三郎

妻　やす　明三三、六生、兵庫、松本岡吉養子
庶子　正治　大三、一二生、生母、東京、外山もと

君は茨城縣人石井宗三郎の弟にして明治十三年二月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す中央大學を卒業後銀行業に携はり後ち大藏省囑託となり又狩獵調査委員に擧げらる皇道義會を主宰し大に皇猷の發揚に努め大正九年以來衆議院議員に當選すること四回現に其任にあり昭和七年齊藤內閣成立と共に陸軍參與官に任ぜられ同九年岡田內閣に引續き留任す義に立憲政友會所屬たり西伯利亞及南北滿洲等を遊歷せしことあり(東京市澁谷區千駄ケ谷四ノ六五八電四谷五六六〇)

石井參四郎

妻　なつ　明一四、一〇生、埼玉、關口善太郎長女
男　昌三　明三八、一生

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

婦　采子　明四三、一〇生、四男昌三妻、埼玉、川島倉藏四女
養子　忠四郎　明三四、八生、四女つる夫、埼玉鎌田和一弟
女　つる　明三六、一生、養子忠四郎妻
女　文子　大六、一生

君は埼玉縣人新井又太郎の弟にして安政六年三月を以て生れ先代善兵衛の襲子となり明治十二年家督を相續す農を業とし埼玉縣多額納稅者にして直接國稅千百九十七圓を納む家族は倘六男通雄(大九、五生)孫健一郎(昭四、一生、四男昌三長男)同貞吾(同二、一生、養子忠四郎長男)同竹二(同三、九生、同二男)あり養妹サト(明二一、一生)は同夫延平(慶應元、一〇生、埼玉岡戸孝三二男)と共に其三子を伴ひ分家せり(埼玉郡水深村)

石井壽太郎

從四位勳三等、判事、福島地方裁判所長、岩手縣在籍
妻　ナカ　明二一、三生、岩手、元貴族院議員、衆議院議員平井六右衛門長女
男　義彥　大二、七生、京都帝大法學部在學
郁　大六、三生、青山學院女專在學

君は岩手縣人石井榮吉の二男にして明治十一年二月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十三年明治法律學校を卒業し同三十八年判事に任じ爾來秋田地方裁判所部長宮城控訴院判事山形地方裁判所部長京都地方裁判所部長京都區裁判所判事福島地方裁判所部長宮城部長京都區裁判所監督判事等に歷補し大正十五年高松地方裁判所長となり轉じて現時福島地方裁判所長たり長女榮(明四一、六生、京都府立第一高女出身)は京都府人海軍造兵少佐工學士稻富久雄に嫁し二女憲(明四三、一二生、同志社女專出身)は佐賀縣人判事法學士石井文治に嫁し弟三郎(同三四、一二生)は分家し繼母キハ(同元、一一生、秋田、佐藤伴左衛門四女)妹ヒロ(同二九、二生)同ヒデ(同三三、七生)同マツ(同三六、二生)は共に其家籍に入れり(福島市萬世町一三電二三四)

參照＝※菊池長右衛門の項

石井壽太郎

從四位勳三等、判事、福島地方裁判所長、岩手縣在籍
妻　ナカ　明二一、三生、岩手、元貴族院議員、衆議院議員平井六右衛門長女
男　義彥　大二、七生、京都帝大法學部在學
郁　大六、三生、青山學院女專在學

君は岩手縣人石井榮吉の二男にして明治十一年二月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十三年明治法律學校を卒業し同三十八年判事に任じ爾來秋田地方盛岡地方仙臺地方同區各裁判所判事福島地方裁判所部長宮城控訴院判事山形地方裁判所部長京都地方裁判所部長京都區裁判所監督判事等に歷補し大正十五年高松地方裁判所長となり轉じて現時福島地方裁判所長たり長女榮(明四一、六生、京都府立第一高女出身)は京都府人海軍造兵少佐工學士稻富久雄に嫁し二女憲(明四三、一二生、同志社女專出身)は佐賀縣人判事法學士石井文治に嫁し弟三郎(同三四、一二生)は分家し繼母キハ(同元、一一生、秋田、佐藤伴左衛門四女)妹ヒロ(同二九、二生)同ヒデ(同三三、七生)同マツ(同三六、二生)は共に其家籍に入れり(福島市萬世町一三電二三四)

參照＝※菊池長右衛門の項

石井周逸郎

家主　兵庫縣在籍
妻　す　明一六、三生、大阪、山本治吉三女
男　逸雄　明四五、四生
女　房子　大二、一〇生

君は兵庫縣人石井卯右衛門の長男にして明治六年四月を以て生れ同十九年家督を相續す現時家主たりA七九四B一六(神戸市灘區青谷町四ノ九六〇ノ九電葺合二五八九)

石井恂之助

熱海溫泉土地㈱學務取締役
東京府在籍
妻　ひさ　明三二、五生、大阪、大澤重次郎二女

君は舊廣島藩士石井久太郎の四男にして明治二十年七月二十八日を以て生れ大正十二年兄清磨方より分れて一家を創立す現時熱海溫泉土地會社專務取締役たり家族は倘長女道衛(大一〇、三生)養子基(大一一、一〇生、廣島、松本率久妹)あり(東京市澁谷區幡ケ谷本町二ノ七二〇)

石井淳

石井肛門病院長、醫師
大阪府在籍
妻　じん　明二六、一一生、大阪、黑田新助
男　明　大四、五生
養子　敏　大二、三生、新潟、須田壽雄妹

君は岡山縣人竹內濱太郎の長男にして明治十六年八月四日を以て生れ先代久藏の養子となり大正二年家督を相續す醫師にして現に石井肛門病院を經營し同病院長たり家族は倘長女美代子(大九、五生)養子美枝子(同八、九生、新潟、須田壽雄妹)ありA六七一(大阪市西區江戸堀南通一ノ一三電土佐堀六五八)

石井新藏

資產家
東京府在籍
男　榮次郎　明三二、二生
婦　以登　明三四、九生、二男榮次郎妻、東京、秋元半次郎二女

君は東京府人下川卯之次郎の二男にして慶應元年一月を以て生れ先代新藏の養子となり明治二十四年家督相續と共に襲名す資產家たり家族は倘孫壽久(大一三、一生二男榮次郎長女)ありA二女富美(明三九、一生)は東京府人高山五郎に嫁せりA五五八(東京市下谷區豐

住町一二電下谷六三五五)

石井善一郎

資產家
東京府在籍
母　くま　明七、九生、東京、鈴木安次五女
妻　たき　明三四、一〇生、東京、高田龜次郎三女
男　善二郎　昭九、三生

君は東京府人石井善吉の長男にして明治二十九年四月を以て生れ大正九年家督を相續す同八年慶應義塾理財科を卒業し資產家として知らる家族は倘長女貞香(大一三、一生)二女菊葉(同一五、一一生)あり弟倉司(明三四、一二生)同妻かつ(同三六、二生、京都、木村清兵衛長女)は其二男を伴ひ分家せり(東京市荒川區三河島町四ノ三三八七)

參照＝高田龜次郎の項

石井太吉

石井鐵工所㈱專務取締役兼社長、東洋酸素、伊東瓦斯各㈱取締役
東京府在籍
妻　エイ　明一九、七生、神奈川、關川重吾長女
男　寬　明四一、六生
男　孝　明四四、一生
女　好子　大三、五生
女　靖子　大五、五生
女　厳子　大七、一生

君は神奈川縣人內田峰吉の長男にして明治十三年三月二十一日を以て生れ先代長吉の養子となり同四十一年家督を相續す現時石井鐵工所專務取締役兼社長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ養に箱根水力電氣會社の重役たりし事あり家族は倘三男晃(大九、二生)六女秀子(同一二、八生)あり長女ノブ(明三四、一一生)は分家し東京府人篠原悅朗を入夫に迎へり(東京市澁谷區南平臺四八電青山二九四)

石井泰助

神奈川縣多額納稅者、川崎護謨研究所員、地家主、神奈川縣在籍
妻　スミ　明九、四生、神奈川、本多清助長女
養母　ゑす　明四一、五生、栃木、關根源七妹
男　利夫　大一二、一生

當家は神奈川縣川崎市の舊家にして代々泰助を襲名す先代泰助は再三同町長に推薦され大正十三年市政實施に當り川崎市長に擧げらる君は同縣人猪熊網吉の五男生れ大正九年先代泰助の養子となり明治二十八年十一月二十二日を以て同貞治の弟にして明治二十年家督を相續し前名貞吉と稱し後一家を立て石井を氏とす學部土木學科を卒業現に川崎護謨研究所員にして直接國稅六千二百四十圓を納め縣下の多額納稅者に列し地家主として知らる養叔母はな(明元、二生)は東京府人石井富吉の母たり(川崎市東一ノ一〇電川崎二〇〇六)

參照＝猪熊貞治、石井富吉の項

石井隆臣

從四位勳六等、子爵、陸軍騎兵大尉、陸軍騎兵學校教育部教官
舊公卿家
祖母　辰子　安政三、四生、子爵代角英通大叔母
妻　治子　明三六、五生、先代行昌長女
毅　大一五、二生

當家は參講西洞院時慶の女行子の後なり行子東福門院の上臈となり石井局と稱し後一家を立て石井を氏とす夫より九代を經て先代行昌に至り明治十七年子爵を授けらる君其後を承く君實は伯爵油小路隆成の弟にして明治三十一年九月十三日を以て生れ先代行昌の養子となり大正十二年襲爵被仰付夙に陸軍に入り同九年陸軍騎兵少尉に任ぜられ同十二年同中尉に昭和五年八月大尉に進む養に陸軍騎兵學校附にして現時同校教育部教官たり家族は倘二男行昭(昭三、三生)三男行雄(同五、一生)養妹恒子(大六、七生)あり養大伯母義子(明一二、六生)は子爵慈光寺愛仲の母たり(千葉縣東葛飾郡船橋町九日市一七七一)

參照＝伯爵油小路隆成、子爵慈光寺愛仲、子爵六角英通、※子爵綿小路頼孝、※子爵八條正、※阿部金次郎、※池坊專啓の項

石井龍猪

從五位勳六等、臺灣總督府事務官內務局勸務、佐賀縣在籍
妻　喬子　明三三、二生、東京、村松一造三女
男　民郎　大一五、一生

君は佐賀縣人加藤十四郎の四男にして明治三十年九月

石井隆臣

從四位勳六等、子爵、陸軍騎兵大尉、陸軍騎兵學校教育部教官
舊公卿家
祖母　辰子　安政三、四生、子爵代角英通大叔母
妻　治子　明三六、五生、先代行昌長女
毅　大一五、二生

當家は參講西洞院時慶の女行子の後なり行子東福門院の上臈となり石井局と稱し後一家を立て石井を氏とす夫より九代を經て先代行昌に至り明治十七年子爵を授けらる君其後を承く君實は伯爵油小路隆成の弟にして明治三十一年九月十三日を以て生れ先代行昌の養子となり大正十二年襲爵被仰付夙に陸軍に入り同九年陸軍騎兵少尉に任ぜられ同十二年同中尉に昭和五年八月大尉に進む養に陸軍騎兵學校附にして現時同校教育部教官たり家族は倘二男行昭(昭三、三生)三男行雄(同五、一生)養妹恒子(大六、七生)あり養大伯母義子(明一二、六生)は子爵慈光寺愛仲の母たり(千葉縣東葛飾郡船橋町九日市一七七一)

參照＝伯爵油小路隆成、子爵慈光寺愛仲、子爵六角英通、※子爵綿小路頼孝、※子爵八條正、※阿部金次郎、※池坊專啓の項

石井龍猪

從五位勳六等、臺灣總督府事務官內務局勸務、佐賀縣在籍
妻　喬子　明三三、二生、東京、村松一造三女
男　民郎　大一五、一生

君は佐賀縣人加藤十四郎の四男にして明治三十年九月

石井龍夫

資產家
東京府士族
母　金　明一四、七生、京都、蒲生庄七長女
妻　淑子　昭六、一一生

君は東京府人石井政吉の長男にして明治三十七年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す資產家にして土地の名望家たり家族は倘弟信夫(明四一、九生)同正哉(大元、八生)同榮治(同四、一二生)妹喜美(同六、一一生)同喜代(同九、三生)あり妹千枝(明三九、一生)は東京府人小松晃に嫁せりA四九六(東京市麻布區東町三九電高輪五二一六)

石井恒吉

家主
東京府在籍
妻　さわ　明二五、五生、東京、越部武左衛門二女
男　正雄　明四〇、一〇生
男　文雄　明四〇、一二生、長男正雄妻、東京、堀江勇右衛門長女
婦　以登　明四四、一生、二男榮次郎妻、東京、秋元半次郎二女

君は東京府人下川卯之次郎の二男にして慶應元年一月を以て生れ先代新藏の養子となり明治二十四年家督相續と共に襲名す資產家たり家族は倘孫壽久(大一三、一生二男榮次郎長女)ありA二女富美(明三九、一生)は東京府人高山五郎に嫁せりA五五八(東京市下谷區豐

妻　げん　明一七、二生、千葉、綠川重藏妹
男　康之助　大三、一〇生
君は千葉縣人石井佐七の長男にして元治元年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時梅岡巳之吉商店取締役の外前記各會社の重役にして兼に日本興業會社の常務取締役たり家族は尙三男啓之助(大七、三生)四男專之助(同八、九生)あり姉ふじ(安政四、五生)は分家せりA八七一(東京市日本橋區箱崎町四ノ二八電霧場町九一二)

石井鶴次郎

石井組・土木建築請負業
東京府在籍
妻　ヨネ　明三九、九生、新潟、淺間ミチ養子
養子　專一　明四四、七生、父清八五男
男　武久　昭三、二生
君は東京府人石井清八の二男にして明治十六年十一月族は尙妹正代(大二、二一生)姪千代子(明四五、一生、現戸主)及其妹あり弟英次郎(同一九、一一生)は分家せりA七一二(東京市荒川區尾久町八ノ一三八〇電下谷七九〇二)

石井鶴三

日本美術院同人、春陽會々員、日本水彩畫會々員、日本版畫協會々員、日本山岳會々員、畫家並彫刻家、東京府在籍
妻　美佐　明二一、六生、熊本、福田武太郎長女
君は東京府人石井重賢の三男にして現戸主同柏亭の弟なり明治二十年六月五日を以て生る同四十三年東京美術學校彫刻選科を卒業し現時日本美術院同人春陽會々員にして前記の各會員を兼ね畫並に彫刻を能くす「石井鶴三素描集」「石井鶴三挿繪畫集」の著ありA一三三(東京市板橋區板橋三ノ二六六電板橋九六四)
參照＝石井柏亭の項

石井徹(アキラ)

横濱倉庫㈱社長、大滿洲忽布麥酒㈱代表取締役、鶴見臨港鐵道、横濱新港倉庫各㈱取締役、東京府士族

妻　キヨ　明一二、九生、男爵船越光之丞叔母
女　英子　明四四、三生
女　藤子　大三、六生
當家は靜岡に住せし舊幕臣にして旗本の家柄なり君は先代廣正の長男にして明治三年二月一日を以て生れ大正八年家督を相續す明治二十九年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し日本郵船會社に入り累進して取締役に擧げられ又近海郵船內國通運諸會社の重役となれり次で太平生命保險會社取締役會長となり現時横濱倉庫會社々長の外前記諸會社の重役に就任す長女千代子(明治三六、一生)は京都府人三雲勝次郎に姉ゑい(慶應三、一生)は工學博士甲賀宜政に嫁せり(神奈川縣三浦郡逗子町久木二八四)
參照＝男爵船越光之丞※男爵山縣有光※山中勇の項

石井鐵太郎

陸軍石精米㈱社長、新興人絹、新興毛織各㈱監査役、大阪府在籍
妻　久滿　元治元、一二生、大阪、山田喜六二女
養子　豐太郎　明三四、五生、現戸主
君は大阪府人玉井苦兵衛の長男にして安政六年一月を以て生れ先々代幸次郎の養子となり家督を繼ぎ大正十四年退隱す現時陸石精米會社長にして前記各會社の重役たり嘗に石井同族會社代表社員たり庶子妻子(明三六、二生、生母、黒田やす)は分家し養子隆(同二六、三生、京都、松田三千之助三女)は大阪府人石井滿壽子(同二六、養子末吉に嫁せりA一七〇七(大阪市天王寺區上本町八ノ二電南三五〇五)
參照＝石井豐太郎の項

石井鐵太郎

北海道多額納稅者、海產物商
北海道在籍
養子　吉助　明一四、六生、長女ハル夫、秋田淺利芳之助三男
女　ハル　明二〇、八生、養子吉助妻
孫　鐵雄　明四〇、一生、養子吉助二男
孫　八重子　明四五、七生、養子吉助長女
君は北海道人石井久兵衛の長男にして安政五年一月を以て生れ明治十七年家督を相續す海產物商を營み北海道多額納稅者にして直接國稅二千六百四十三圓を納む(函館市豐川町五七電九一一)

石井傳次郎

資產家
東京府在籍
養子　鐵太郎　明二六、七生、二女八重夫、東京毛刺鍊太郎四男
女　やゑ　明二四、五生、養子鐵太郎妻
女　とめ　明二七、二生
孫　正子　大八、三生、養子鐵太郎長女
君は東京府人井上常吉弟惣左衛門の四男にして萬延元年四月九日を以て生れ先代友治郎の養子となり明治三十二年家督を相續す資產家たり家族は尙孫傳一郎(大一二、四生、養子鐵太郎長男)同文子(同一三、七生、亡養子喜助長女)同傳三郎(昭二、四生、同長男)同梅子(同四、三生、同二女)あり養妹てい(明九、九生)は東京府人能勢爵に嫁せりA五六〇(東京市品川區西大崎町一ノ一二四)

石井藤次郎

石藤商店、羊皮商
東京府在籍
妻　クラ　明一七、八生、神奈川、海老塚俊一姉
男　藤太郎　明四二、九生
婿　フヂ　明四三、一〇生、長男藤太郎妻、秋田、太田吉藏長女
君は東京府人石井仙太郎の三男にして明治十二年十二月十七日を以て生れ同十八年家督を相續す石藤商店と稱し羊皮商を營む二男千次郎(大二、一生)は分家せりA三五五B一二六(東京市本所區東駒形四ノ七電墨田六一九)

石井德久次

正八位勳六等、福岡縣會副議長、鞍手軌道㈱專務取締役、石井產藥㈱代表取締役、筑豐貯蓄銀行、鞍手銀行各㈱取締役、福岡縣在籍
妻　延子　明二七、六生、福岡、神谷豐次郎長女
男　邦太郎　大二、六生
女　多嘉子　大四、一生
君は福岡縣人石井房次の長男にして明治二十年六月を以て生れ明治四十一年大阪高等工業學校應籍科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして福岡縣會副議長に擧げらる家族は尙二男直助(大七、九生)二女津義子(同一〇、三生)三男寬輔(同一二、一生)四男浩輔(同一五、一生)あり(福岡縣鞍手郡若宮村)

石井德次郎

地家主
東京府在籍
妻　千代　明三八、一二生、栃木、星野宗吉姉
男　德保　大一五、四生
當家は果代東京市下谷上根岸に住し代々德次郎を襲名し農の傍ら植木職を業とせしが曾祖父德翁商才あり質業を始め又土地家屋を購入し先代も亦父業を繼ぎ當家の基を成す君は先代德次郎の二男にして明治三十二年一月二十二日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名良輔を改め襲名す大正十二年早稻田大學商科を卒業し現時地家主たり家族は尙三男通雄(昭五、一生)叔母せん(明八、三生)あり母やゑ(同六、三生、東京、邑田兼次郎妹)は分家し姉ゑい(同二八、四生)は東京府人石井とらの養子となり妹秋子(同三三、八生)は西澤金次郎養子工學博士巷助に叔母亥子(同二〇、一一生)は同府人池田萬藏に同きく(同一〇、九生)は同府人竹下龜吉に嫁し二男良一(昭二、三生)は其伯母ゑいの養子となりA五一六〇(東京市下谷區上根岸町一二三電根岸八一一)
參照＝池田萬藏、西澤巷助の項

石井德太郎

越才、米穀商、家主
東京府在籍
安政四、六生、埼玉、常見新助妹
繼母　とり　明四、六生、埼玉、中根得多郎妹
妻　りよ　明四四、二生、埼玉、中根鷲三郎二男
養子　健夫
君は東京府人石井新之丞の長男にして明治四年八月十日を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す屋號を越才と稱し米穀商を營み家主たり弟柳吉(明一五、七生)は分家し同啓藏(同二九、二一生)は東京府人後藤光宗の養子となり妹かつ(同一八、六生)は同府人勝田寗右衛門に同よし(同二七、四生)は熊本縣人松見智雄に嫁せりA六二六(東京市小石川區音羽町四ノ一六電牛込一〇一六)

石井富吉

吹田屋、雜穀麥粉乾物商
東京府在籍
妻　富美　明二五、一二生、神奈川、石井平四郎長女
男　武二　大一〇、二生
君は栃木縣人中島重平の弟にして明治二十一年三月十八日を以て生れ先代富吉の養子となり大正九年家督を相續し前名平十郎を改め襲名す早くより父業を繼ぎ吹田屋と稱し雜穀麥粉乾物商を營む家族は尙男莊三(大二二、六生)四男晴祐(同一四、七生)長女佐和子(昭三、九生)ありA七二六(東京市神田區佐柄木町電昌神田二四五)

石井富造

玉家、粟おとし商
大阪府在籍
母　きし　明六、一一生、大阪、池永周次郎姉
妻　以具　明三三、五生、大阪、菱木ムメ養女
男　登美雄　大一二、三生
女　田鶴子　大七、一生
君は大阪府人石井宋吉の長男にして明治二十六年十一月一日を以て生れ大正十二年家督を相續し玉家と稱し粟おこし商を營む家族は尙四女光子(大一五、一生)五女和子(昭二、九生)あり弟定造(明二九、九生)同妻まきの(同二八、七生、大阪、山田竹次郎養女)は共に分家せりA二五五B一六五(大阪市北區東梅田四電北四七五三)

石井豐七郎

正四位勳二等、判事、長崎控訴院長、栃木縣在籍
母　テル　嘉永四、四生、栃木、石井四郎平姉
妻　しん　明一二、三生、愛知、士、後藤幸平姉
男　千尋　明三七、四生
男　瑞穗　明四一、一〇生
女　磐根　明四四、一〇生
君は栃木縣人石井清造の長男にして明治五年四月月を以て生れ同四十五年家督を相續す同二十八年和佛法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十二年判事に任じ爾來東京區同地方各裁判所判事東京控訴院仙臺地方裁判所宮城控訴院各判事山形福島千葉名古屋福岡京都各地方裁判所長に歷補し大正十五年宮城控訴院長に補せられ昭和三年現官に轉ず家族は尙四男春水(大六、二生)あり妹ヨシ(明二二、一〇生)は山梨縣人松本專治に嫁せり(長崎市八百屋町三三電四四〇)
參照＝井上長政の項

石井豐太郎

陸軍石精米㈱專務取締役
大阪府在籍
養父　鐵太郎　安政六、一生
妻　美枝　明三七、七生、大阪、栃西廣重妹
男　美雄　昭三、五生
小太郎
君は大阪府人玉井豐松の三男にして明治三十四年五月を以て生れ先代鐵太郎の養子となり大正十四年家督を相續す同年中央大學を卒業し現に陸石精米會社專務取締役たり家族は尙長女眉子(大一三、九生)二女光子(同一五、三生)ありA九六九(大阪市天王寺區上本町八ノ二電南三五〇五)
參照＝石井鐵太郎、栃西廣重の項

石井虎松

金融業
大阪府在籍
母　ひさ　明一一、一生、大阪、塚本藤三郎二女
ノブ　明三六、一生、夕陽丘高女出身
君は和歌山縣人大川藤助の三男にして明治五年五月一日を以て生れ先代源助の養子となり同二十年家督を相續す金融業者として著聞し帝國キネマ演藝常務取締役神戸演劇取締役大阪千日前土地建物會社取締役たりし事あり家族は尙孫多美子(昭四、四生、長女ノブ女)あり同美智子(大一四、三生、同上)は和歌山縣人大川チカの養子となりA一一八五(大阪市住吉區聖天下町二ノ一七電天下茶屋二〇二六)

石井寅三

各磨靈光㈱、石井組㈱各社長、土木建築請負業、東京府在籍
男　參三　明一〇、一二生、土木請負業

婦　ハマ　明一七、三生、長男參三妻、東京
男　三四郎　石井善兵衛妹　明三四、六生、長男參三養子、土木建築請負業、經濟學士
婦　鶴子　明四五年生、四男三四郎妻、東京石井彦左衛門長女、戸板女學校出身

當家は遠く天保年間より土木請負業を營み相繼ぎて今日に至る君は東京府人谷戸與兵衛の二男にして安政五年六月を以て生れ先代作平の養子となり明治二十七年家督を相續す現時多摩靈光石井組各會社々長たり曩に東京府會議員に擧げらる二男淳雄（明一二、一〇生、前名波平、元甲府市長、文學士、法學士）五男文治（同三六、五生、都新聞社員、經濟學士）は各分家し長女イチ（同一五、八生）は東京府人中島四郎に三女ヤエ（同一九、一二生）は神奈川縣人島崎忠次に三女將乃（同二三、三生、前名ミツ）は元石川縣知事法學士平賀周に嫁し五女カノ（同三一、一生、實踐女學校出身）は故檢事法學士永田憲雄の未亡人たり A七一九B一一六（東京府北多摩郡狛江村和泉二一七三 電話二七四）

石井仲藏

釣具商　東京府在籍

母　きん　安政五、四生、東京、星野巳志妹
妻　たま　明二四、四生、東京、戸部彌兵衛四女
男　國夫　大七、四生

君は東京府人石井仲藏の二男にして明治十八年六月二十二日を以て生れ大正三年家督を相續し前名勇を改め襲名す釣具商を營む家族は尙二女君子（大一四、一二生）三男康夫（同一二、七生）四男基裕（昭三、三生）弟實（明二四、五生、先代仲藏四男）同妻とり（同三〇、八生、東京、清水いち四女）弟典（同二九、一一生、同五男）及其三女あり A三五〇（東京市本所區東兩國三ノ一 電本所一〇四五）

石井柏亭

（滿吉）　二科會々員、國民美術協會主事、文化學院教授、東京帝國大學講師、洋畫家　東京府在籍

妻　加代　明二五、五生、大阪、佐々木爲助二女、梅花高女出身
男　潤　大一四、三生
女　かをる　大四、五生
女　若葉　大六、一生
三　冬　大七、一二生

君は東京府人石井重賢の長男にして同鶴三の兄なり明治十五年三月二十八日を以て生れ同三十年家督を相續す先代重賢は鼎湖と號し日本畫家たり君は幼少にして畫才顯發し父に就いて日本畫を修め後淺井忠に就きて洋畫を學び柏亭と號す曩に印刷局に奉職し次で中央新聞の挿畫を擔當せしが幾何もなく辭して明治四十三年歐洲に留學し洋畫の研究に沒頭すること三年大正元年歸朝す文展第一回より七回迄毎回出品し優秀の作品を以て廉價を高む大正三年有島生馬及正宗得三郎等と結んで二科會を創設し現に其主腦として知られ前記の職を兼ぬ「滯船」「果樹園の午後」等の傑作あり家族は尙四女ゆたか（大九、一二生）五女はつみ（昭四、一二生）弟貞次（明一七、七生）同妻モヨ（同二六、四生、佐賀、田順平に嫁せり）A二三五（東京市荒川區日暮里渡邊町一〇三五 電下谷六二〇三）
參照＝石井鶴三※佐々木五郎の項

石井兵造

兵庫縣多額納稅者、東播合同銀行㊫頭取、西脇商業銀行㊫取締役、農業、兵庫縣在籍

妻　よし　明七、一一生、兵庫、畑吉平二女
養子　長衛　明二五、一〇生、長女得子夫、奈良、藤岡長二郎二男、工學士
女　得子　明二九、二生、養子長衛妻、神戸親和高女出身
養子　唐子郎　明三三、四生、二女榮子夫、兵庫池田九兵衛弟
女　榮子　明三三、一一生、養子唐子郎妻、神戸親和高女出身

君は兵庫縣人先代兵造の長男にして明治四年四月を以て生る同四十一年家督を相續し前名德次を改め襲名す農を業とし傍ら前記各銀行の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅六千三十二圓を納む家族は尙一二、七生、同二女）同義章（昭三、一〇生、同長男）同和子（大一三、一生、養子唐子郎長女）同德彦（昭六、一〇生、同長男）あり（兵庫縣加東郡福田村大門六九一 電大門三「別邸」神戸市須磨區一谷町三ノ一八 電須磨一九二〇）
參照＝※河合庄九郎の項

石井孫治郎

醬油醸造業　東京府在籍

養子　金一郎　明三四、四生、東京、石井小兵衛弟
婦　昌子　明四一、一〇生、養子金一郎妻、齊藤正七郎長女

君は東京府人石井孫治郎の二男にして慶應三年八月十五日を以て生れ明治四十一年先代兄孫治郎の後を承け家督を相續し前名彌三郎を改め襲名す醬油醸造業を營む義に帝國種苗殖產會社の重役たりしことあり家族は尙亡兄妻くら（明一一、八生、埼玉、齊藤八右衛門妹）孫治（昭四、一〇生、養子金一郎長男）同隆（同七、一二生）あり妹ゆき（明六、一生）は同夫駐七郎（同六、四生、埼玉、野村類治郎弟）に從ひ分家せり A六四一（東京市王子區豐島二三六 電王子一〇〇二）

石井政之助

正五位勳四等、判事、新宮區裁判所判事㊫和歌山地方裁判所新宮支部判事、和歌山縣在籍

父　寛三　萬延元、三生、和歌山、士、阪部六太夫二男、現戸主
母　はまゑ　文久三、七生、祖父寛敏長女
妻　朝惠　明二四、五生、和歌山、鳥居猛太郎妹
男　隆男　明四四、九生
女　和子　明四三、九生
男　秀男　大元、一一生

君は和歌山縣人石井寛三の次男にして明治十四年四月を以て生る同四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し判事に任じ大館區秋田地方兼同區能代區米子區奈良區同地方大阪區須崎區各裁判所判事に歷補し高知地方裁判所中村區裁判所判事兼高知地方裁判所中村支部判事を經て現時前記の職に在り家族は尙三男敏男（大五、五生）四男正夫（同九、一一生）妹國代（明三〇、七生）

あり同文枝（同二〇、一生）は福井縣人伊定彌に同俊枝（同二三、一生）は高知縣人竹谷直彌に同清憲（同二八、四生）は和歌山縣人近藤彌太郎長男男正鈺に同末子（同三三、一〇生）は同縣人宮井久助長男久雄に嫁せり（新宮市新宮區裁判所內）

石井松五郎

福島縣多額納稅者、藥劑師、藥種商、福島縣在籍

妾　三喜　明三四、二生、福島、前代議士鐸木三郎兵衛五女
男　宏　大一〇、一〇生

君は福島縣士族北利尋太郎の二男にして明治二十六年七月七日を以て生れ故新井石鐸（前德持寺貫主）の實弟石井松五郎の養子となり昭和七年家督を相續し前名高好を改め襲名す先是大正二年東北帝國大學醫學專門部藥學科を卒業し父業を繼ぎ藥種商を營み以て今日に及ぶ直接國稅八百一圓を納め縣下の多額納稅者たり讀書を好み書畫を愛玩す家族は尙長女朝子（大一三、九生）二男久（昭一、七生）三男秀（同七、六生）あり（福島市大町二二 電四一五）

石井光雄

日本勤業銀行㊫副總裁　三重縣在籍

妻　ふみを　明二一、三生、三重、士、高松範重二女、京都府立第一高女出身
男　涼　大一〇、四生
女　清　大三、一〇生、實踐高女出身
女　壽　大五、三生、實踐高女出身
女　信子　大七、八生、實踐高女出身

當家は代々三重縣員辨郡阿下喜町に住し豪農たる舊家なり君は石井四郎の長男にして明治十四年二月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し夙に朝鮮銀行に入り後朝鮮殖產銀行理事となり更に日本勤業銀行に轉じ理事に擧げられ昭和二年同行副總裁仰付けられ現に其任にあり家族は尙八女和子（昭二、六生）九女綾子（同五、五生）あり長女あや（明四〇、一生、神奈川縣立高女出身）は東京府人矢野亮一三男康夫に二女英子（同四二、三生、實踐高女出身）は愛知縣人成田次次郎二男の幾治に三女澄子（同四三、八生、出身校同上）は福岡縣人榊龜吉長男憲吉に四女蘭子（大二、一生、出身校同上）は東京府人中野深二男禎介に嫁し弟正雄（明二三、九生）同妻ゆり（同三八、六生、福島、安島重三郎養子）は分家し同威雄（同三三、七生）も亦分家せり（東京市目黑區上目黑一ノ一一〇 電青山六八六八）
參照＝※高原匠の項

石井光次郎

朝日新聞社㊫常務取締役兼東京朝日新聞營業局長兼印刷局長、朝日ビルデング㊫取締役、東京府在籍

妻　久子　明三四、二生、東京、井邊たつ養子
男　公一郎　大一二、一一生

君は福岡縣人石井百次の四男にして明治二十二年八月を以て生れ同三十年兄彙吉の後を承け家督を相續す現時朝日新聞社常務取締役兼東京朝日新聞營業局長印刷局長の外前記會社の重役たり家族は尙長女京（大九、七生、同一四、六生）二男大二郎（同一四、六生）の實弟一〇七月七日を以て生れ同三十年兄彙吉の後を承け家督を相續す現時朝日新聞社常務取締役兼東京朝日新聞營業局長印刷局長の外前記會社の重役たり家族は尙長女京（大九、七生、同一四、六生）二男大二郎（同一四、六生）の實弟一〇七電大森一〇七〇）

石井彌吉

王子煉瓦㊫取締役、土木建築請負業、東京府在籍

妻　ゑい　明一七、五生、東京、吉澤大三郎妹
養子　清三郎　明四〇、三生、三女ふさ夫、東京鈴木吉右衛門弟
女　ふさ　大二、一二生、養子清三郎妻

君は東京府人石井助次郎の長男にして明治十八年五月二十日を以て生れ大正元年家督を相續す土木建築請負業を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男彌助（大一一、一生）あり四女昌子（昭二、六生）は東京府人森みさをの養子となれり A一〇七〇（東京市荒川區尾久町八ノ一四二五 電下谷三〇六七）
參照＝鈴木吉右衛門の項

石井祐齊

前東京手形交換所主事　大分縣在籍

妻　環　明一〇、一一生、愛媛、高山萬助長女
養子　浩次　明二九、五生、大分、林俊久孫
婦　うた　明三五、六生、養子浩次妻、靜岡岩澤丙吉三女

君は大分縣人にして安政六年十一月を以て生れ明治四十四年家督を相續す義に東京手形交換所主事東京銀行集會所貯蓄銀行集會所書記長たりしことあり家族は尙孫恭一（大一三、三生、養子浩次長男）同謙二（同一五、六生、同二男）同節子（昭二、一一生、同長女）同安藝子（同四、一〇生、同二女）弟祐吉（明八、一二生）同妾藝マス（同一五、一生、大分、土屋庄太郎三女）甥一齊（同三五、八生）同妻スエ（同四〇、八生、大分、牧五郎長女）姪トシ（同三八、八生）の外一子あり A三七五（東京市牛込區市谷加賀町二ノ一八 電牛込六四三五）
參照＝岩澤丙吉の項

石井理之助

陶器商　東京府在籍

母　もと　明一一、九生、神奈川、小峯源七姪

君は東京府人石井要次郎の二男にして明治四十一年十二月五日を以て生れ大正十三年家督を相續す陶器商を營む家族は尙姉くら（明三〇、一一生）妹しづ（大二、一〇生）弟定義（同八、九生）同眞作（同一二、四生）あり姉はつ（明三三、八生）は東京府人志村雄吉に同ことし（同三六、六生）は神奈川縣人小峯紋吾に嫁せり（東京市荏原區小山二六 電荏原三四八九）

石井柳助

石井美術店、中央美術各㊫取締役　三柳堂、骨董品商、東京府在籍

妾　ふさの　明二〇、一〇生、岐阜、森儀三郎妹

君は東京府人石井郡吉の甥にして明治二十年十二月十五日を以て生れ昭和二年甥郡吉方より分れて一家を創立す三柳堂と稱し美術骨董商を營み傍ら前記各會社の重役たり（東京市京橋區京橋一ノ四 電日京橋四三）

石井良一

日章火災海上再保險㊫專務取締役、東洋海上火災保險㊫常務取締役、東京府在籍

妻　祐　明二一、五生、東京、士、宮部文臣三女
男　英一郎　明四三、七生
男　良雄　大二、二生、東京帝大在學

石井家は舊幕時代佐渡相川町に住し本陣にして苗字帶刀を許されたる家柄なり君は先代信藏の長男にして明

治九年十月二十六日を以て生れ同二十四年家督を相續す夙に東京海上火災保險會社に入り累進して營業部主任となり同四十三年歐米に航し保險業を視察す大正六年社命に依り東洋海上火災保險會社に轉じ現に常務取締役たる外日章火災海上再保險會社專務取締役たり趣味として謠曲を嗜む家族は尙三男康夫(大一〇、一一生)四男照夫(同七、三生)あり長女千鶴子(明四一、五生、御茶の水高女出身)は千葉縣人吉野傳治二男小倉石油會社員法學士省治に嫁せりA一七三六(東京市小石川區丸山町一九電大塚六三一)

參照＝吉野傳治宮部金吾の項

石井良助

母　いと　從七位、東京帝國大學助教授、法學部勤務、東京府在籍

妻　はる　明七、一生、東京、指田平次郎長女

男　證子　大三、八生、福島、熊谷誠長女

男　良文　昭八、四生

君は德島縣人石井良平の長男にして明治四十年十二月十四日を以て生れ昭和四年家督を相續す同五年東京帝國大學法學部法律學科を卒業し現時同大學助教授にして法學部に勤務す資產家たり家族は尙弟良之助(大元、一二生)ありA一三〇六(東京市麻布區本村町一二七電高輪六五八四)

石井良太郎

母　こと　大森倉庫株式會社取締役、東京府在籍

妻　はる　明九、一一生、東京、金子善十郎二女

男　郎長女　明三二、一一生、東京、鈴木佐太

君は東京府人石井仙之助の長男にして明治二十六年十二月三十日を以て生れ昭和二年家督を相續す現時大森倉庫會社の重役たり家族は尙二女淑代(大一三、一生)三女昌枝(同一五、三生)四女利枝(昭三、一〇生)妹ヨシ(大四、五生)あり妹とよ(明三五、一〇生)は東京府人山根貞一に同フサ(同四〇、二生)は大分縣人平亮に同ヤエ(同四三、二生)は東京府人星野清兵衛二男優治に嫁せりA一七二二(東京市荏原區小山町三二五電荏原二五〇二)

石居四郎

妻　カツヨ　川崎第百銀行株式會社向島支店長、東京府在籍

男　英一郎　明二八、一二生、神奈川、三輪明

女　和子　大七、二生

妹　大四、九生

君は東京府人石居一郎の二男にして明治二十年十二月六日を以て生れ大正九年姪靜子方より分れて一家を創立す明治四十四年早稻田大學商科を卒業し現時川崎第百銀行向島支店長たり家族は尙二女俊子(大一〇、一生)あり(東京市杉並區西高井戸町一ノ九六)

石居四郎平

母　りう　米穀肥料商、滋賀縣在籍

妹　きく　安政元、七生、滋賀、亡大書記長

妹　濱子　明一六、一〇生、滋賀、外村六兵衛長女、京都府立第一高女出身

妹　ミサ　明四四、五生、京都府立第一高女出身

君は滋賀縣人石居四郎平の長男にして明治三十九年一月を以て生れ昭和七年家督を相續す共に前名芳三を改め襲名す代々米穀肥料商を營み來れる豪商にして福井縣敦賀町に支店を設く君は縣立八幡商業學校を經て昭和六年高岡高等商業學校を卒業し家業に從事し敏腕よく業容の展開に努む縣下の資產家たり家族は尙妹綾子(明四〇、一生、京都府立第二高女出身)養兄貞造(同三六、五生、妹綾子夫)及其一女あり妹百合子(同四一、三生、京都府立第二高女出身)は京都府人植田信二郎に嫁せり(滋賀縣阪田郡長濱町船山電長濱一〇)

石射文五郎

妻　こう　鮫川電力株式會社取締役、福島縣在籍

男　猪太郎　明六、一〇生、東京、佐野宗吉長女

男　小五郎　明二〇、二生

婦　ミサ　明二九、九生

女　島　明二七、四生、二男小五郎妻、福島、助川磐四郎妹

女　宮美子　明四一、九生

君は福島縣人石射兵三郎の長男にして文久二年十二月を以て生れ明治十三年家督を相續す現時鮫川電力會社取締役にして養に福島縣農工銀行專務取締役春日銀行九州石炭礦業會社各鑑査役等に就任し縣會議員に擧げられ衆議院議員に當選する事二回に及ぶ家族は尙孫ユミ子(大一三、四生、二男小五郎長女)同美福子(昭三、八生、同三女)あり姉ミヨ(文久元、一二生)は福島縣人松浦勇先代勇彌に嫁せり(福島縣西白河郡白河町)

參照＝助川啓四郎、松浦勇の項

石浦菊次郎

妻　ふみ　日本實業株式會社取締役、大日本製劑、大日本化學工業各株式會社監査役、藥種貿易商、東京府在籍

男　勇太郎　明二、八生、埼玉、名倉周藏二女

婦　三代　明三五、八生

男　馬　明三七、四生、長男勇太郎妻、群馬、小林榮吉長女

君は埼玉縣人高崎伊十郎の二男にして元治元年八月十九日を以て生れ明治十四年先代德三郎の死跡を相續す藥種貿易商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫康全(大一五、一〇生、長男勇太郎長男)同國全(昭三、二生、同二男)同基安(同七、二生、同三男)あり長女ふく(明二四、三生)二女キミ(同三〇、四生)は同夫喜八郎(同二三、四生、埼玉、小引喜藤治三男)と共に各分家し三女フジ(同三八、六生)は東京府人宮川卯一二男武次に嫁せり(東京市京橋區銀座八ノ五日本實藥會社內)

石尾正文

母　壽賀榮　正五位勳六等、藥學博士、衛生技師、東京衛生試驗所勤務、東京府士族

妻　ツギ　慶應三、一〇生、東京、山口蓉昌長女

男　正澄　明三〇、三生、東京、印牧順作三女

君は東京府士族石尾正亨の長男にして明治二十一年十月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正三年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し衛生試驗所技手となり同六年衛生技師に進み同十二年歐米諸國を視察す現時東京衛生試驗所勤務たり曩に藥學博士の學位を授けらる家族は尙三男三郎(大一二、二生)妹寬(明四〇、三生)あり二男邇(大九、一〇生)は東京府人菊池一雄の養子となり妹宗(明三二、七生)は前記菊池一雄に嫁せり(横濱市神奈川區白幡町一一一九五)

石岡繁太郎

妻　ミネ　第一生命保險(五)醫長、醫師、岡山縣士族

男　知年　明四、一一生、長崎、士、高石紀年長女

女　久美子　明三九、六生

女　憲二　明四〇、一〇生

男　明四二、二生

君は岡山縣士族先代定行の長男にして慶應三年八月十三日を以て生れ明治三十三年家督を相續す同二十三年岡山醫學專門學校を卒業し醫を營む現時第一生命保險醫長たり家族は尙弟次郎(明七、一生)あり長女靜(同三二、一生)は岡山縣人經濟學博士東京帝國大學教授本位田祥男に二女濱子(同三三、一二生)は廣島縣人森本政吉に三女鞆子(同三六、九生)は愛知縣人眞野毅に嫁せりA一五九二(東京市大森區新井宿三ノ一三八二電大森三五六)

石賀亮教(スケノリ)

母　修　從四位勳五等、日本製鐵所在籍技師、岡山縣在籍

男　シゲ子　明四三、四生、文學士

女　信子　大六、七生、東京女大在學

君は岡山縣人石賀伊久造の長男にして明治七年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十四年京都帝國大學理工科大學製造化學選科を卒業し同三十九年製鐵所技手となり大正八年技師に任ぜらる昭和九年日本製鐵株式會社と改稱され引續き同社に勤務す家族は尙妹樂(明二三、三生)及一女あり弟茂(同二八、八生)は分家せり(八幡市日本製鐵會社八幡製鐵所內)

石垣倉治

母　りよ　從四位勳三等、臺灣總督府警務局長、山形縣在籍

妻　タニ　安政元、四生、山形、秋葉養六三女

男　鴻太郎　明一八、八生、山形、秋葉養六長女

男　明四四、三生

男　勝三　大二、一一生

女　梅子　大五、一生

君は山形縣人石垣吉藏の三男にして明治十三年七月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格同年警視廳警視に任ぜられ爾來南元町署長本所原庭署長神奈川縣警視福島縣警察部長同縣產業部長香川縣警察部長鹿兒島縣警察部長鹿兒島縣警察部長同縣產業部長野縣書記官同六年同縣知事に任ぜられ同八年現職に轉任す家族は尙四男雄助(大四、一生)五男五良(同六、二生)七男七郎(同九、一生)八男八郎(同一〇、一生)九男九郎(同一四、四生)兄吉藏(明七、二生、山形縣多額納稅者、現戶主)同妻ヨシ(同一〇、九生、山形柏倉惣右衛門二女)及其子女弟清藏(同一九、一二生)同妻しゆん(同二六、一生)及其子女弟修治(同二八、三生)同妻貞美(同三七、一生、山形、阿部貞吉長女)及其子女あり長女タケ(同四二、一二生)は栃木縣人馬島壯に姪てる(同三四、一二生、兄吉藏三女)は山形縣人松澤靖介に嫁し兄吉郎(同一〇、九生)同妻しけ(同一五、九生、山形、西川豐太郎妹)は其子女を伴ひ分家し姪そよの(同二八、八生、兄吉藏長女)も亦分家し弟龍藏(同二六、三生)は山形縣人叶內長兵衛の養子となれり(臺北市臺灣總督府警務局內)

參照＝叶內長兵衛の項

石上多一

母　やす　下總屋、履物問屋業、東京府在籍

妻　弼壽代　明一二、八生、千葉、伊藤置長女

男　篤一　明三六、二生、長野、中村彌平二女

君は東京府人石上多吉の長男にして明治三十五年六月四日を以て生れ昭和九年家督を相續す下總屋と稱し履物問屋業を營む家族は尙長女八重子(大一四、一二生)二女國子(昭二、一二生)ありA六〇九B七〇(東京市港區花川戶四三電淺草四九一)

石上林二郎

父　續藏　日露木材株式會社取締役、士別軌道株式會社役員、玉子製紙株式會社山林第一課長、兵庫縣在籍

妻　具能　安政元、一一生、現戶主

女　明二〇、七生、兵庫、柏木玄吉二女

君は兵庫縣人石上續藏の長男にして明治十年六月を以て生る同三十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產株式會社に入り大阪孟買天津各支店に勤務し大正四年富士製紙會社に轉じ祕書役山林部長となり次で合併後の王子製紙會社山林第一課長に就任し傍ら日露木材會社取締役士別軌道會社監査役を兼ぬ大正九年より十年迄露國へ又歐洲へ各社用を以て出張す「北歐の林業と製紙工業」の著あり弟義三郎(明一五、三生)は兵庫縣人濱中五十の入夫となり同賢逸(同一八、二生)は同縣人遠水常次郎に叔父定藏(安政四、三生)は同縣士族猪子ちかに各養子となり姉きく(明七、一〇生)は同縣人奧田昇平に妹とはき(同二五、七生)は同縣人濱中仁義に叔母よし(慶應二、八生)は福岡縣人蜂谷富次に各嫁せりA二七三(東京市大森區馬込東三ノ七三六電大森三〇七八)

石神豐一

母　八重　石神病院主、大阪府在籍

妻　弼壽代　明三、五生、石神豐民長女

男　篤一　明三〇、八生、英國、ナンニー・ゼームス二女

君は東京府人石上多吉の長男にして明治三十五年六月四日を以て生れ昭和九年家督を相續す下總屋と稱し履物問屋業を營む家族は尙長女八重子(大一四、一二生)二女國子(昭二、一二生)ありA六〇九B七〇(東京市港區花川戶四三電淺草四九一)

石神興八

妻　こう　地主、東京府在籍

妹　明一三、一生、東京、石井與四郎

男　德太郎　明四〇、三生

女　絢子　大五、八生

女　輝子　大七、一二生

君は兵庫縣人石上續藏の長男にして明治十年六月を以て生る同三十八年東京高等商業學校を卒業し三井物產株式會社に入り大阪孟買天津各支店に勤務し大正四年富士製紙會社に轉じ祕書役山林部長となり次で合併後の王子製紙會社山林第一課長に就任し傍ら日露木材會社取締役士別軌道會社監査役を兼ぬ大正九年より十年迄露國へ又歐洲へ各社用を以て出張す「北歐の林業と製紙工業」の著あり弟義三郎(明一五、三生)は兵庫縣人濱中五十の入夫となり同賢逸(同一八、二生)は同縣人遠水常次郎に叔父定藏(安政四、三生)は同縣士族猪子ちかに各養子となり姉きく(明七、一〇生)は同縣人奧田昇平に妹とはき(同二五、七生)は同縣人濱中仁義に叔母よし(慶應二、八生)は福岡縣人蜂谷富次に各嫁せりA二七三(東京市大森區馬込東三ノ七三六電大森三〇七八)

明四〇、四生、長男德太郎妻、東京、大禁利右衛門妹
大二、七生

婦　喜美子

男　錄造

君は東京府人朱代興八の長男にして明治六年二月十二日を以て生れ大正七年家督を相續し前名芳次郎を改め傳名す現時地主たりA八四一（東京市王子區堀船町二ノ一七一電王子二〇一四）

参照＝石井與四郎の項

石川明

従五位勳五等、検事、名古屋控訴院検事、神奈川縣在籍
嘉永六、六生、神奈川、小坂傳右衛門長女

養母　ネ

妻　カネ

明二九、五生、養父五郎三郎養子
神奈川、石川重雄孫

君は神奈川縣人白井茂三郎の三男にして明治二十三年一月を以て生れ先代五郎三郎の養子となり大正六年家督を相續す同五年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同七年檢事に任じ爾來編局地方金岡區若松區遠野區名古屋區金同地方各裁判所檢事名古屋地方裁判所檢事兼名古屋區裁判所檢事等に歷補し富山地方裁判所檢事兼富山區裁判所檢事を經て現時名古屋控訴院檢事たり（名古屋市東區新出來町一ノ一四）

石川淺次郎

河津川水力電氣社長、中川金庫伊豆製氷冷藏、伊豆水電各社取締役、靜岡縣在籍
明六、一一生、靜岡、大和濱千尋

妻　八百

妹　明三四、七生、靜岡、今井錦造二男

養子　朝秀　明四〇、三生、養子朝秀妻、靜岡平山和一長女

婦　都　明二七、三生

女　錦子

君は靜岡縣人石川與十郎の長男にして明治三年一月を以て生れ同二十四年家督を相續す同年慶應義塾を卒業し現時河津川水力電氣會社長にして傍ら中川金庫伊豆製氷冷藏伊豆水電各社の重役たり家族は尙孫淺子（大一五、七生、養子、朝秀長女）あり（靜岡市賀茂郡下田町電一一六）

石川伊助

盛岡商工會議所常議員、盛岡合同運送株取締役、盛岡倉庫株監査役、岩手縣在籍
明一八、六生、岩手、小田重次郎妹

妻　エン

養子　和佐　明一一、一生、岩手、石川金次郎朔

君は岩手縣人石川嘉七の長男にして明治三年五月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す現時前記會社の重役盛岡商工會議所議員にして兼に盛岡土地岩手商會各會社重役盛岡市會議員に擧げらる家族は尙養子和佐（大一二、六生、北海道、小田良藏長女）あり長女フテ（明三四、六生）は岩手縣人小田ツルヨの家籍に入れり（盛岡市仁王宇芽町二電二二六）

石川一郎

東都硫酸販賣、晒粉販賣各株取締役會長、日東硫曹各株專務取締役、大阪アルカリ土地各株常務取締役、日本硫黃、臺灣肥料、高山耕山化學人造肥料、東京硫酸、東洋窒素工業、陶器、帝國人造肥料、中越電氣工業、大日本特許肥料、合同油脂株取締役、關西硫酸販賣各株監査役、東京府在籍
元治元、一生、東京、士、宇津信

母　カネ

妻　フミ

男　器

明二八、九生、福島、關信雄妹
大四、七生

君は東京府人石川卯一郎の長男にして明治十八年十一月五日を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學工科大學を卒業し約二ケ月間同大學工科大學助教授たりしが後實業界に投ず爾來東京電氣會社參事たりし時米國に渡り化學工業の視察をなせり現時大日本人造肥料會社常務取締役の外前揭諸會社の重役たりし經歷に大正運送化學鹽業各會社の重役たりしことあり家族は尙二男潔（大七、四生）三男誠（同八、一一生）六男六郎（同一四、一一生）七男七郎（同一五、一二生）八男八朗（同五、一二生）四男朗（同三七、一生）同妻綾子（同四五、七生、佐賀、相浦長女裕代（昭四、五生）あり妹つね（同二一、一生）は長野民雄長女）及其一子あり妹つね（同二一、一生）は長野民雄長女）及其一子あり

石川岩吉

従四位勳三等功七級、宮內省式部官、高松宮附別當、東京府在籍
明一六、一〇生、廣島、士、三田村良夫三女

妻　サヨ

男　照彥　明四〇、二生、明治大學出身

男　久雄　明四二、五生、明治製菓會社員、東京農大出身

女　しづ子　明四五、一生、日本女大出身

君は舊廣島藩士石川完治の二男にして明治八年二月を以て生れ同三十一年家督を相續す國學院及和佛法律學校を卒業し國學院大學主事兼講師を經て大正四年皇子傳育官に同十四年宮內事務官に任ぜられ高松宮附となり現時式部官にして高松宮附別當たり昭和五年高松宮兩殿下に陪從し歐米各國を巡遊す家族は尙四男誠（大四、六生）五男勉（同八、七生）三女すみ子（同一二、九生）姉フサ（元治元、六生）あり長女幸子（明三七、四生）は大阪府人坂上宗兵衛二男恒次郎に嫁せりA一三（同二七、四生）は滋賀縣人久保元治長男俊治に同雅子（同三五、五生）は東京府人宮本庄七亡長男省一郎に嫁し叔母ちか（同二〇、一一生）は大阪府人宮部文七の養子となり弟次郎（同二三、一生）は同妻キン（同三一、五生、東京、北村茂兵衛長女）と弟三郎（同二九、八生）は同妻千代（同三八、六生、東京、星三郎妹）及其二女を伴ひ各分家せりA四七四一（東京市瀧野川區西ケ原町三五七電小石川一七七七）

参照＝宮本庄七の項

石川市造

地主
東京府在籍
明二五、四生、東京、小島重太郎二女

妻　たつ　明四三、八生

男　熊太郎

男　廣次　大二、九生

女　佐喜子　大六、二生

君は東京府人石川熊次郎の長男にして明治二十三年十月二十一日を以て生れ大正十二年家督を相續す現時地主たり家族は尙二女愛子（大一〇、七生）三女眞佐子（同一二、一〇生）四女富美子（同一五、一生）四男泰雄（昭三、四生）五女美惠子（同五、二生）あり（東京市向島區隅田町一ノ一三八電墨田一三八〇）

石川喜一

松量、白米商
東京府在籍
明二〇、七生、先代幸佐吉長女

母　滿壽

君は東京府人石川誠の長男にして大正五年三月を以て生れ昭和五年家督を相續す松屋と稱し白米商を營む家族は尙姉千鶴子（大三、八生）妹良子（同七、七生）あり A一〇九〇（東京市京橋區木挽町四ノ三ノ六電京橋五三六六）

石川儀三郎

醫學博士、石川耳鼻咽喉科病院、醫師、大阪府在籍
明三五、八生、兵庫、金井熊吉三女

妻　とみ子

女　敏博　昭二、二生

君は香川縣人石川萬次郎の二男にして明治二十九年二月十五日を以て生れ昭和五年分れて一家を創立す醫學博士にして前記病院を經營し醫師たり家族は尙長女隆子（大一四、一生）二男通博（昭三、一二生）あり（大阪市北區南森町一ノ一電北三三八七）

石川吉造

明德村長、中巨摩滿蒜倉庫株取締役、大和組製絲株監査役、製絲業、山梨縣在籍

妻　ともじ　明四四、二生、養父儀吉三女

男　逸　明四四、三生

男　廣德　大二、一二生

君は山梨縣人石川春貞の四男杉山幸男の弟にして明治十一年二月を以て生れ先代ぜの養子となり大正三年

○（東京市芝區高輪西臺町一官舍電高輪六八〇〇）

参照＝坂上宗兵衛の項

石川音次

従五位勳六等、南洋廳法院判事、南洋廳高等法院長兼同廳バラオ地方法院長、石川縣士族
明一七、一一生、石川、木村忠太郎三女

妻　タマ

男　壽治　明四一、一〇生、バラオ產業試驗場技師

女　智壽　明四三、九生、東洋音樂學校選科出身

君は千葉縣人松崎猪三郎の二男にして明治十三年十月十二日を以て生れ先代知賀の養子となり昭和二年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業判事に任じ長崎地方兼同區浦和地方東京地方兼同區宇都宮地方浦和區兼同地方各裁判所判事に歷補し大正十一年南洋廳法院判事に轉じ南洋廳地方法院兼同廳高等法院判事南洋バラオ地方法院長兼同廳高等法院判事となり同十四年獨逸に出張し同年官を辭す翌年歸朝辯護士を開業專ら民事々件を處理し在野法曹の逸材として令名あり昭和九年再び判事に任じ東京地方裁判所判事に補せられ同年南洋廳法院判事に轉じ現職に累進今日に至る閑暇釣魚に趣味を有す家族は尙三男克明（大六、一生）二女禮子（同一二、八生）あり（留守宅）

石川かね

地主
東京府在籍

君は東京府人石川喜兵衛の二女にして明治二年六月十七日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たりA七九一（東京市日本橋區北島町一ノ三三電茅場町八四七）

石川一義

化粧品商
東京府在籍
明二四、一〇生、東京、須賀平右衛門五女

君は東京府人石川伊勢松の長男にして大正八年二月二十四日を以て生れ昭和八年家督を相續す父藥たる化粧品商を營み今日に至る家族は尙姉キミ（明四三、七生）同夫健治（同四一、八生、東京、加藤源次郎弟）ありA一六四七（東京市淺草區材木町一八電淺草一五六四）

石川勝祐

高橋保全株取締役、鳥羽商店愛代表社員、東京府士族
明一四、一一生、東京、高橋福次郎二女

妻　ツル　明四四、一一生、明大在學

男　金繼

女　武子　大三、七生

君は東京府人稻垣勝造の六男にして明治八年十二月十八日を以て生れ同三十三年先代ツルの入夫となり家督を相續す現時鐵道工業會社監査役たり家族は尙二男一男（大八、三生）三女環（同一一、三生）弟清（明一五、四生）同妻千代（同二〇、一生、大阪、尾村茂三郎二女）ありA三五八（東京市澁谷區榮通二ノ二電青山七三三二）

石川鼎

鐵道工業株監査役
兵庫縣士族
明一四、一一生、東京、高橋福次郎二女

妻　ツル　明四四、一一生、明大在學

男　金繼

女　武子　大三、七生

君は兵庫縣士族石川壯次郎の長男にして明治八年三月二十一日を以て生る現時鐵道工業會社監査役たり家族は尙二男一男（大八、三生）三女環（同一一、三生）弟清（明一五、四生）同妻千代（同二〇、一生、大阪、尾村茂三郎二女）ありA三五八（東京市澁谷區榮通二ノ二電青山七三三二）

父　壯次郎　天保一四、二生、現戸主
安政二、一二生、兵庫、士、岡庭百太郎二女

母　ミネ

妻　都　明二〇、一一生、靜岡、大村義樹長女

男　豊　大五、一一生

男　馨　大三、一二生

女　操　大三、一二生

君は兵庫縣士族石川壯次郎の長男にして明治八年三月二十一日を以て生る現時鐵道工業會社監査役たり家族は尙二男一男（大八、三生）三女環（同一一、三生）弟清（明一五、四生）同妻千代（同二〇、一生、大阪、尾村茂三郎二女）ありA三五八（東京市澁谷區榮通二ノ二電青山七三三二）

石川勘兵衛

地主
東京府在籍

父　勘五郎　安政六、一〇生
明二五、三生、東京、小野澤健次郎四女

妻　いく　寛　大三、三生

君は東京府人石川勘五郎の長男にして明治二十二年八月十日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり家族は尙三女律子（大一〇、一二生）二男泰治（同一五、一生）四男潤亮（昭五、四生）四女洋子（同八、五生）弟又之助（明三八、七生）あり姉きよ（同二〇、一二生）は東京府人高城大五郎に妹藤々（同四〇、一一生）は同府人小川亮太郎に同じく（同三三、一二生）は同府人佐藤作次郎長男正明に嫁せりA七一一（東京市豐島區巢鴨五ノ一〇七二電大塚二六〇七）

石川キセ

地主
大阪府在籍
明一三、五生、長女チヨ夫、大阪石川藍松二男

養子　幸次郎　明一九、一二生、養子幸次郎妻

女　チヨ

君は大阪府人外山久太郎の妹にして安政三年三月三日を以て生れ先代芳一死後家督を相續す地主たり家族は尙孫弘芳（大八、八生、養子幸次郎長男）ありA七〇九（大阪市東成區大友町一九二）

石川儀三郎

醫學博士、石川耳鼻咽喉科病院、醫師、大阪府在籍
明三五、八生、兵庫、金井熊吉三女

妻　とみ子

女　敏博　昭二、二生

君は香川縣人石川萬次郎の二男にして明治二十九年二月十五日を以て生れ昭和五年分れて一家を創立す醫學博士にして前記病院を經營し醫師たり家族は尙長女隆子（大一四、一生）二男通博（昭三、一二生）あり（大阪市北區南森町一ノ一電北三三八七）

石川吉造

明德村長、中巨摩滿蒜倉庫株取締役、大和組製絲株監査役、製絲業、山梨縣在籍

妻　ともじ　明四四、二生、養父儀吉三女

男　逸　明四四、三生

男　廣德　大二、一二生

君は山梨縣人石川春貞の四男杉山幸男の弟にして明治十一年二月を以て生れ先代ぜの養子となり大正三年

家督を相續す製絲業を營み傍ら前記各會社の重役にして推されて明穂村長たり家族は尙三男通夫（大五、三生）四男直行（同六、七生）長女利子（同九、三生）三女富代（同一二、三生）あり（山梨縣中巨摩郡明穂村電七八）

參照＝杉山幸男の項

石川久兵衛

名古屋給水㊫取締役、麩久商店、麩製造業、愛知縣在籍

男　久一郎　明二三、八生
婦　と　み　明二四、一生、長男久一郎妻、愛知、恒川鈴太郎養子
男　德太郎　明三四、三生
孫　富美子　大二、二生、長男久一郎長女

君は愛知縣人小川伊三郎の二男にして明治二年六月を以て生れ先代久兵衛の養子となり同二十八年家督を相續し前名常次郎を改め襲名す麩久商店と稱し麩製造業を營み傍ら名古屋給水會社取締役たり義に衆議院議員に當選す家族は尙孫桃太郎（大五、一生、長男久一郎長男）あり二男直二郎（明二八、五生）は分家し二女久江（同二九、九生）は滋賀縣人水谷萱三に三女はま子（同三一、一一生）は愛知縣人伊藤清太郎長男清市に嫁せりA二六八（名古屋市南區熱田中濱町九九電南一〇〇一）

參照＝水谷萱三の項

石川清

日本電氣㊫營業部副部長、總務課長、栃木縣在籍
母　範　子　明元年生、栃木、清水傳助三女
妻　幸　子　明三六、六生、大阪、日野國康姪

君は栃木縣人石川庄三郎の長男にして明治二十四年九月二十五日を以て生る大正七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直ちに住友合資會社に入社間も無く株式會社住友電線製造所に轉じ昭和七年六月更に日本電氣會社に轉じ現時前記の職にあり家族は尙長女昭子（昭二、一〇生）二女禮子（同四、六生）あり（東京市大森區田園調布四ノ二電田園調布三六一）

參照＝日野國康の項

石川欣一郎

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

君は山口縣人赭方清四郎の二男にして明治九年二月を以て生れ大正元年先代クラの養子となり家督を相續す明治三十四年明治大學を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十八年檢事に任じ爾來德島區彙同地方鹽知山區松山區彙同地方彙今治區彙同地方彙鳥取地方彙同區奚區長崎地方彙四區各裁判所檢事長旭川地方裁判所檢事正に補せられ昭和六年七月大津地方裁判所月三重縣安濃津地方裁判所檢事正に轉じ現時その官職に在り家族は尙二男法（大四、九生）三男隆次（同一〇、一一生）四女佐喜子（同一三、一〇生）五女淑子（昭二、八生）ありA一二〇（津市丸之內殿町安濃津地方裁判所官舍）

石川近之進

從四位勳三等、裁判所檢事正、嘉永五、一〇生
妻　シ　ケ　明二一、五生、山口、松浦長藏長女
男　巖　大二、一生
女　豐　子　明四三、二生
女　敏　子　大八、四生

君は山口縣人赭方清四郎の二男にして明治九年二月を以て生れ大正元年先代クラの養子となり家督を相續す明治三十四年明治大學を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十八年檢事に任じ爾來德島區彙同地方鹽知山區松山區彙同地方彙今治區彙同地方彙同區奚區長崎地方彙四區各裁判所檢事長旭川地方裁判所檢事正に補せられ昭和六年七月大津地方裁判所檢事正に轉じ現時その官職に在り家族は尙二男法（大四、九生）三男隆次（同一〇、一一生）四女佐喜子（同一三、一〇生）五女淑子（昭二、八生）ありA一二〇（津市丸之內殿町安濃津地方裁判所官舍）

義父　鳳　藏　嘉永二、六生、
妻　す　め　明六、四生、埼玉、中村信太郎長女
男　薫　明二九、一二生、工學士
男　梓　明三四、六生、三男薫妻、神奈川太郎三女
婦　愛　明四三、一一生、三輪田高女出身
女　榜　明三四、三生、長女、船越鼎太郎三女

石川家は往時より武州松伏領に定住せる舊家にして幕時代は苗字帶刀を許され名主役を勤めたる家柄なり君は先々代翁助の嫡孫にして明治二年一月を以て生れ先代襲叔父鳳藏の養子となり大正三年家督を相續す農業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅千百四十九圓を納む家族は尙孫節子（大一二、七生、三男薫長女）同仁（同一五、一〇生、同長男）あり女美代（明四一、一〇生、三輪田高女出身）は他に嫁せり（埼玉縣北葛飾郡松伏領村電二）

參照＝※田中實の項

石川健

從四位勳三等、檢事、安濃津地方裁判所檢事正、嘉永五、一〇生、山口縣在籍、山口、松浦長藏長女
母　も　と　明一〇、一〇生、青森、士、筬田金之丞四女
妻　あ　き　明三四、一生
男　進　明三四、一生、長男進妻、秋田、坂本吉郎長女
婦　ツ　ヤ　明三七、六生
男　勉　明三七、六生、二男勉妻、青森、新渡稻雄長女
婦　マ　サ　大元、八生
男　强　明三九、一生

君は青森郡士族石川巳濃次郎の長男にして明治八年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續す肥料商を營み傍ら十和田鐵道會社八戶銀行各取締役にして青森縣多額納稅者に列し直接國稅三千九百六十一圓を納む家族は尙孫敏（大一二、一二生、長男進二男）同節子（同一五、九生、同長女）同麗子（昭三、一〇生、同三女）あり二女キヨ（明三五、九生）は岩手縣人大田代德造に嫁し妻妹さん（同二三、二生、青森、古館富之助長女）同夫豐三郎（同二〇、一一生、青森、石田平助三男）は其三子と共に分家せり（青森縣上北郡三本木町）

石川源伊智郎

三井合名會社員、東京府在籍
妻　御　慶　大一〇、二生
男　源　光　明三四、四生、新潟、高橋光威三女

當家は元三州足助町の農家なりしが先々代佐兵衛夙に東京に出で毛織物商を營み先代佐兵衛亦其遺業を繼ぐ君は其長男にして明治二十二年九月を以て生れ同四十五年家督を相續す大正三年東京高等商業學校專攻部領事科を卒業し三井合名會社に入り現時調査課勤務たり親劇に趣味あり家族は尙弟倫太郎（明三四、三生）同妻玉枝（同四四、四生、東京、伊部恭之助妹）あり妹梅子（同三一、六生、御茶の水高女出身）は宮崎縣人野村紀長男法學士紀一に嫁せり（東京市四谷區東信濃町一〇電四谷六三一〇）

石川幸之助

地主、東京府在籍
妻　せ　ん　明二七、一一生、東京、吉田萬吉長女
男　正　勝　大五、一生
女　みつ子　大三、一生

君は東京府人石川源左衛門の五男にして明治二十年九月二十日を以て生れ大正十五年姪すみの後を承けて家督を相續す地主として知られる家族は尙三男孝好（大一〇、七生）五男廣（同一四、九生）六男守孝（昭四、八生）あり兄啓三郎（明九、八生）同妻よね（同一七、七生、東京、栗原喜右衛門二女）は其子女を伴ひ分家し姪すみ（同二六、八生、亡兄源太郎長女）も亦分家せりA九二二（東京市豐島區池袋五ノ二一六）

石川剛

從四位勳四等、第一高等學校教授、東京府在籍
妻　時　明二一、一〇生、東京、士、太田武和四女
男　男　明四四、一生
男　俊　大二、三生
女　妙　子　大七、一生

君は東京商科大學教授商學博士石川文吾の弟にして明治十六年十月六日を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學法科大學在學中文部省在外研究員として佛國に留學を命ぜられ巴里文科大學に入學同四十三年同大學を卒業しドクトル・エス・レットルの學位を受け同年四月歸朝し第一高等學校教授に任ぜられ現に其職に在り其他東京商科大學日本大學等に佛語佛文學を講ず同志と佛蘭西語專修學校を創立し又雜誌「佛蘭西語」を發行佛國文化の紹介に力む（東京市芝區伊皿子町一一電高輪三二〇六）

參照＝石川文吾の項

石川定七

三河屋、鮮魚商、東京府在籍
母　む　め　明七、一生、東京、木村芳太郎二女
妻　壽　明三八、一一生、東京、根本喜兵衛妹
男　敬太郎　大一〇、九生

君は東京府人石川定七の長男にして明治二十七年一月を以て生れ昭和六年家督相續と共に襲名して前名定次郎を改む三河屋と稱し鮮魚商を營む家族は尙長女きよ（昭四、八生）二女きく（同八、二生）（東京市麻布區兵衛町二ノ七三電赤坂五五四）

石川定辰

東北物產商事㊫代表取締役、秋田縣士族、無盡㊫取締役
妻　菊　明二八、一〇生、東京、河合鮫一郎長女
養子　一　郎　明四三、二生、弟房廣長男、安田保善工業學校出身

君は秋田縣士族石川定則の長男にして明治十三年一月を以て生れ同二十五年家督を相續す現時東北物產商事會社代表取締役能代無盡會社取締役たり家族は尙長女淑子（大一五、一〇生）あり弟高定（明二三、一一生）母キヨ（弘化三、五生）は各分家し弟房廣（明一六、一生）は分家伯母キヨの家籍に入れり（東京市小石川區宮下町三三）

石川定俊

從五位、臺灣總督府州事務官、臺北州警務部長、秋田縣士族
父　龍　助　文久三、八生、現戶主
妻　禮　子　明三七、一生、福井、三村三平長女

君は秋田縣士族石川龍助の長男にして明治二十八年三月二十四日を以て生る大正九年北海道帝國大學農科大學農政經濟學科を卒へ更に同十一年東京帝國大學政治學科を卒業す同十二年文官高等試驗に合格し臺灣總督府屬同府州理事官及臺北州七星郡守臺北市助役新竹州內務部地方課長臺中州地方課長等に歷任し昭和四年同府州事務官新竹州警務部長に任じ六年警務局理蕃課長を經て同八年臺北州警務部長となり現在に至る家族は尙長女榮子（大一四、一一生）あり姉キヨ（明二五、九生）は北海道人館脇八十八長男金藏に妹ヒデ（同三三、五生）は滋賀縣人橫江就義に同好江（同三九、一〇生）は北海道人藤田正明に嫁し弟末之助（同一四、五生）同妻はつ系（同二〇、四生、兵庫、福田新太郎四女）は其子女を伴ひ分家し大叔父清（同二三、七生）同妻カヲル（同三四、一二生、秋田、塙觀明長女）は其一子を伴ひ大叔父英美（同二九、七生）同妻ヤス（同三六、一〇生、秋田、原田貞八二女）は其子女を伴ひ各分家せり（臺北市明石町二ノ八）

石川三郎

正七位勳三等功五級、陸軍砲兵大尉、貴族院議員、佐賀縣多額納稅者、農業、佐賀縣在籍
妻　スカヨ　明二一、一生、佐賀、士、江口袈裟一妹
男　岩　良　大四、四生

君は佐賀縣士族石川源藏の三男にして明治十四年五月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す農業を營み直接國稅六百六十一圓を納め縣下の多額納稅者に列す夙に陸軍士官學校同砲工學校高等科を卒業し明治三十五年陸軍砲兵少尉に任じ後同大尉に陞る其間日露戰役に從軍し勳功に依り功五級金鵄勳章を賜ふ後陸軍重砲兵射擊學校同士官學校等の教官に補せられ又衆議院議員佐賀縣會議員に當選する事二回に及ぶ大正十四年貴族院議員に互選せられ昭和七年再選さる家族は尙三男善久（大一二、五生）あり二男元重（同六、八生）は弟鐵一（明二六、五生）の養子となり共に分家し養子光枝（同三七、二生、佐賀、士、石川巖姉）は佐賀縣人井手與七郎に妹フク（同一八、二生）は同縣人北島清三郎弟米三に同スエ（同二三、三生）は同縣人紀伊松三郎四男壽次に嫁せり（佐賀縣小城郡砥川村）

石川次郎

日本陶器㊫取締役、山口縣士族
妻　梅　明二九、三生、岐阜、岸壯一妹

君は山口縣士族德永秀介の二男同晉作の兄にして明治二十年十二月を以て生れ石川タカの養子となり同四十一年家督を相續す大正二年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し現時日本陶器會社取締役たりA四一四（名古屋市東區德川町四ノ一七電東一九八一）

參照＝德永晉作の項

石川治三郎

中泉銀行㊫取締役、石原屋、酒造業、靜岡縣在籍
妻　よ　し　明九、二生、靜岡、池田藤吉二女
男　登　明二五、一一生

婦　く　に　明二九、一二生、長男敬妻、静岡寺尾竹次郎四女
養子　清　人　明一九、五生、長女ます夫、富山長谷川清一弟
女　ま　す　明三五、二生
男　春　平　明四〇、一生、二男春平妻、静岡
婦　千　代　明四二、四生
男　貞　治　大二、六生、養子清人長女
孫　秀　子　大四、三生、養子清人二女
孫　清　子　大六、一〇生、養子清人三女
孫　静　子　大七、四生、長男敬長女
孫　隆　子　大七、四生、長男敬長女

君は静岡縣人石川武平の長男にして明治四年八月を以て生れ同二十一年家督を相續す夙に石旗屋と稱し酒造業を營み傍ら中泉銀行取締役たり曩に同行副頭取に就任す家族は尚孫弘（大九、一〇生、養子清人長男）同德子（同一五、六生、同四女）同益男（昭五、五生、同三男）同功（大九、四生、長男敬長男）同友子（同一一、四生、同二女）同孝（同一三、九生、同二男）同文子（昭三、七生、同三女）同正（同五、二生、同三男）同俊夫（同三、四生、二男春平長男）同好子（同五、三生、同長女）あり弟清（明一八、一〇生）は静岡縣人鵜谷長平に妹いね（同二〇、四生）は同縣士族渡邊邦武長男安次郎に各養子となれり（静岡縣磐田郡中泉町電三四）

石川重男

從四位勳六等、滿洲採金會社員東京府在籍

妻　睦　枝　明三一、四生、東京、上野篤三長女
男　重　維　大一〇、五生
女　和　枝　大八、九生

君は岐阜縣人宇野時三郎の二男にして明治二十一年七月二十五日を以て生れ後石川安太の養子となる大正四年東京帝國大學法科を卒業し大藏屬に任じ同六年露國へ出張財務書記に轉じ後司稅官稅務監督局事務官稅務監督官を歷任し昭和三年臺灣總督府事務官に任じ財務局主計課長となり後總督官房文書課長兼調査課長並審議室勤務を命ぜられ兼て總督府祕書官に任じ祕書課長を命ぜらる昭和六年英國に出張を命ぜられ滯在一年半にして歸朝後官を辭し現時滿洲採金會社員たり家族は尚二女規子（大一三、六生）三女蘭子（同一五、七生、養妹八重子（明三一、八生、養弟祐治（同三四、八生）同妻和子（同三九、八生、岐阜、淺野三秋二女）及其子女あり養妹さかえ（同二九、一生）は愛知縣人川角悌に嫁せり（留守宅「東京市世田谷區代田二ノ六七六電松濤三二）

石川重之

從三位、子爵舊常陸下館藩

妻　き　い　明二二、一一生、岐阜、山下欽一郎姪
男　總　次　大五、五生

當家は石川長門守廣通の嗣子主殿頭忠總の次男播磨守總長の後なり總長父の遺領二萬石を分與せられ別に一家を立つ後世常陸國下館に移り九世を經て總管に至る君は先代總管の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十三年家督を相續し同十七年子爵を授けらる夙に學習院を卒業す家族は尚七女長子（大一二、九生）八女きく（同一四、二生）三男總治（昭二、六生）あり長男總之（明三七、九生）庶子浚（同二七、一一生、生母、芙城、村瀨つる）は各分家し二女久子（同四〇、七生）は東京府人戸田桂子の家籍に入り三女千代（同四二、一二生）は栃木縣人小林藤藏の養子となれり（東京市豐島區池袋二ノ一〇一八）

石川順

從七位勳八等、神田橋郵便局長、日々通信社㊞、中外通信社、日本運送各㊞社長、東京交信社㊞社長東京府在籍

養子　順　之　明三三、一〇生、富山、多古作太郎二男
養子　周　子　明四四、一生、東京、清水外次郎長女
養子　文　江　大八、一生、男爵若王子文健四女

君は舊幕臣石川龍白の長男にして元治元年十二月二十二日を以て生れ同三十年前名龍白を改め同三十二年分れて一家を創立す夙に京都宮原塾東京同人社法律學校に學び郡衙法衙等に勤務し後辭して實業界に入り各種の事業に關與し嘗て東京商業會議所議員に推され又紳綬褒章を授けられ現に神田橋郵便局長にして前記各會社の重役たり著書數種ありA六三六（東京市神田區美土代町一ノ二五電神田二〇三五）

參照＝男爵若王子文健の項

石川正作

日本製紙、東京書籍各㊞社長、東京セロファン紙㊞取締役、東滿洲人絹パルプ㊞監査役

妻　よね　慶應二、一生、香川、士、三井光慶長女、東京女子高師小學師範科出身
男　正　夫　明三六、一一生
婦　雪　子　大島金太郎長女

君は三重縣人石川八郎右衛門の三男にして慶應元年三月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同十九年東京高等師範學校小學師範科を卒業し現時日本製紙會社東京書籍會社各社長の外前記各會社の重役たり讀書の外將棋に達し謠曲囃子等を好む妻よね又謠曲囃子等の趣味あり家族は尚孫幸子（昭五、二生、長男正夫長女）同滿里子（同七、一生、同二女）同正人（同九、一生、同長男）あり長女静子（明二七、七生）は兵庫縣人三村起一に嫁せりA五四四六（東京市小石川區林町一八電大塚四八七三）

參照＝三村起一の項

石川昌

正七位、農學博士、東京帝國大學助教授、農學部勤務、愛知縣士族慶應三、一二生、愛知、木村文右衛門長女

母　も　と　明三五、七生、愛知、福田卯助妹
妻　益　子　明七、五生、愛知淑德高女出身
男　純　昌　昭七、五生

君は愛知縣士族石川昌平の長男にして明治二十六年六月二十一日を以て名古屋市に生れ昭和五年家督を相續す大正六年東京帝國大學農科大學水產學科を卒業後同大學講師を囑託せられ昭和二年米國に留學同三年歸朝す後助教授に任じ現に其職にあり同五年九月農學博士の學位を授けらる弟克昌（明二九、五生、淵美麥魚會社長、淵美電鐵會社取締役）同妻静子は子女を伴ひ分家せりA五一五（東京市目黒區駒場町七八一電青山六一七〇）

石川昌次

臺東製糖㊞社長、新興製糖㊞常務取締役、大永興業、打狗土地各㊞取締役、藏前工業會館㊞監査役東京府在籍

妻　ツ　ル　明四三、二生、森永製菓會社員、經濟學士
男　昌　重　大四、一生、御茶の水高女出身
女　登　代　大七、五生、第二高女在學
女　もゝ　大七、五生、第二高女在學

君は愛知縣士族石川昌煕の二男にして明治十一年一月二十四日を以て生れ同三十年分れて一家を創立す同年東京高等工業學校機械科を卒業し小栗時計工場東京瓦斯會社等に勤務せしが後臺灣製糖界に志し新興製糖斗六製糖打狗土地等の會社を創立し現時臺東製糖會社長たる外前揚各會社の重役たり家族は尚二男昌男（大五四生、東京高校在學）五女千代（同一〇、七生）三男昌家（同一二、六生）あり長女よし（明四四、八生、府立第一高女出身）は東京府人山本鶴一長男高行に二女む め（大二、一二生、御茶の水高女出身）は岐阜縣人高崎覺治二男正男に嫁せりA三一四一（東京市本郷區向ケ岡彌生町電小石川二五〇〇）

參照＝山本鶴一の項

石川昇一

加商㊞代表取締役愛知縣在籍

母　り　ゑ　明五、四生、愛知、石川定五郎長女
妻　こ　ふ　明三〇、八生、静岡、鈴木榮造二女

君は愛知縣人石川松太郎の長男にして明治二十五年十二月を以て生れ大正三年家督を相續す現に加商株式會社代表取締役たり曩に加藤商業會社專務取締役加藤商會取締役共同貿易會社監査役たりしことあり家族は尚長女昌子（大一五、七生）二女澄子（昭四、一生）あり弟輝三（明三〇、七生）は其一子を伴ひ同自三（同三二、一一生、加商株式會社取締役）同妻和子（同三六、四生、東京、山田藤造三女）は其一子を伴ひ各分家せりA一一五二（東京市淀橋區戸塚町一ノ四五八電牛込一二三九）

石川信

地主、埼玉縣在籍

男　孫　二　明二六、二生、大阪高工出身
婦　誠　明三四、三生、二男孫二妻、埼玉石川彌一郎三女

石川家は代々武州熊谷に住し始祖以來既に十五代を經たる舊家なり君實は埼玉縣人原口金二の弟にして元治元年三月を以て生れ先代正一の養子となり明治二十四年家督を相續す同二十年慶應義塾を卒業し直に時事新報記者となり後三井銀行に入り更に北海道炭礦汽船會社に轉じ庶務課長監査役に就任し現時閑地に在り家族は尚孫正雄（大九、一一生、二男琢二長男）同邦子（同一二、七生、同長女）あり長女しゞ（明二九、三生、跡見女學校出身）は埼玉縣人工學博士堀江武夫に三女ふみ（同三四、一生、出身校同上）は同縣人法學士小島祿郎に三女三八子（同四〇、七生）は東京府人伊藤馨に養姪たか（同七、三生）は群馬縣人中島榮十郎二男與三郎に嫁し四男大六（同三六、五生）は同族石川宗三の養子となれり（東京市小石川區白山御殿町一二三電小石川一三三七）

石川眞三

大倉土木㊞常務取締役兼土木技師長、東京府在籍

妻　と　め　明一八、七生、福島、士、加藤寛六郎四女
男　彬　明四〇、一一生

君は東京府人森續二郎の長男にして明治八年六月二十四日を以て生れ先代ときの養子となり同三十年家督を相續す同三十六年東京帝國大學工科大學土木科を卒業後大倉土木會社に入社し果敢土木技師長となり同社取締役を經て其常務取締役に擧げらる曩に太平建築會社取締役を兼ぬA八一九（東京市小石川區原町一一電大塚四七一五）

石川新二

賛產家　東京府士族

母　灼　明一六、七生、東京、羽野知顯四女、東京女學館出身
男　望　大一三、一二生

君は神奈川縣人石川仙之助の三男にして明治二十四年二月を以て生れ同四十四年兄平右衛門の後を承け家督を相續す大正七年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現時横濱取引所支配人たり家族は尚長女信（大一（明四〇、一二生、東京女學館出身）妹浩（大八、五生）あり姉八重（明三九、五生）は熊本縣人平井茂八弟法學士三男に同愛子（同四二、一〇生、東京女學館出身）は山口縣人山村和介長男法學士秀雄に嫁せり（東京市麻布區宮村町六七電赤坂八三六）

石川甚兵衛

蓬萊閣ホテル㊞取締役千葉縣在籍

母　い　ね　安政四、七生、祖父甚兵衛長女
妻　よ　し　明一三、九生、千葉、三門縫之助三女
男　富士雄　明三二、二生
婦　文　子　明三七、九生、長男富士雄妻、東京、原誠一三女
男　順　明三五、三生
婦　美　津　明三九、七生、二男順妻、三重、六平正美妹
女　婦　久　明三七、一二生
女　た　け　明四〇、一二生
女　き　く　明四四、一一生
女　壽　大四、七生

君は千葉縣人先代甚兵衛の長男にして明治六年十一月十日を以て生れ大正八年家督を相續し前名愛一郎を改め襲名す現時蓬萊閣ホテル取締役にして曩に同社專務取締役たりしことあり家族は尚孫正子（大一五、一生、長男富士雄二女）同昌（昭三、七生、二男順二男）あり叔父準吉（明一五、六生）同妻いく（同一九、九生、芙城、青野伊吉長女）は其子女を伴ひ分家せり（千葉縣印旛郡成田町）

石川助五郎

横濱取引所㊞支配人神奈川縣在籍

繼母　ゆ　き　元治元、一一生、静岡、菊地平右衛門二女
妻　滿　明三二、三生、東京、猪俣泰作長女

君は神奈川縣人石川仙之助の三男にして明治二十四年二月を以て生れ同四十四年兄平右衛門の後を承け家督を相續す大正七年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現時横濱取引所支配人たり家族は尚長女信（大一

二、七生)二男榮二(昭四、三生)三男道雄(同五、七生)四男潔(同九、四生)ありA五一〇(横濱市神奈川區松ヶ丘五一電本局五〇七四)

参照‖猪俣泰作※石川清右衛門※南英一の項

石川清右衛門

大和屋シャツ、石川各㊟代表社員
神奈川縣在籍

妻　すぎ　明九、九生、靜岡、杉山市郎妹
男　正七　明二一、八生、大和屋シャツ、石川各㊟代表社員
　　明二五、三生、長男正七妻、東京
婿　ハナ　海邊錦次郎五女
男　交壽　明三三、九生、工學士
婦　悲　明四〇、四生、五男交壽妻、東京猪俣泰作四女
男　和一　明四〇、一一生、京都商工會議所勤務、經濟學士
　　明四四、三生、生母、神奈川、小林りん
庶子　よし
孫　清一　大二、一二生、長男正七長男
孫　俊子　大五、一二生、長男正七四女

君は神奈川縣人中山治兵衛の二男にして安政二年十一月を以て生れ先代清右衛門の養子となり明治二十六年家督を相續し前名文太郎を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫英二(大八、九生、長男正七二男)同謙三(同九、二一生、同三男)同四郎(同一一、八生、同四男)同順吾(同一二、一二生、同五男)同哲夫(同一四、八生、同六男)同稻子(昭四、九生、同六女)同妙子(同六、二生、同七女)同千代子(同四、三生、五男交壽長女)同義和(同五、一〇生、同長男)同益子(同七、一一生、同二女)ありA女まさ(明二三、六生)同夫敬藏(同一八、一生)は其子女を伴ひ分家し三男潔(同二八、一〇生)は神奈川縣人長田久七の養子となり四男久雄(同三〇、四生)三女文(同三一、七生)は共に東京府人吉村金兵衛の家籍に入り庶子林一(同四二、五生、生母、神奈川、小林りん)庶子よし(同四四、三生、生母、同上)同光(大二、三生、生母、同上)同うめ(同四、一生、生母同上)は共に其生母小林りんの養子となれり(横濱市中區辨天通一ノ一五電本局一八三)

石川善太郎

第一相互貯蓄銀行㊟取締役、目黑蒲田電鐵㊟監査役、東京府在籍
妻　その　明一三、六生、埼玉、町田佐一郎二女
男　知十　明四〇、七生、第一生命保險相互會社勤務、慶大經濟學部出身
女　敬子　大五、一〇生

君は島根縣人荒木傳之助の三男にして文久三年七月を以て生れ先代淺五郎の養子となり明治二十年家督を相續す現時第一相互貯蓄銀行取締役にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男消吉(大七、一生)あり長女和子(明三八、六生、女子英學塾出身)は鐵道技師津下四郎に二女文子(同四三、一生)は三井物產會社員小長谷透龍に三女恂子(同四五、六生)は和歌山縣警視小長谷透に嫁せりA三九二一(東京市大森區新井宿四ノ一一〇三電大森一五五五)

参照‖猪俣泰作※石川助五郎※南英一の項

石川太郎

沖繩縣多額納稅者、泡盛商
沖繩縣在籍

妻　かめ子　明一四、八生、沖繩、新城次良四女
男　勝一　明四二、二生
　　明四四、一〇生、二男勝一妻、沖繩、玉那覇有宏長女
婿　千代　明四四、六生
男　勝次郎
女　カメ　大二、一〇生

君は沖繩縣人石川次郎の二男にして明治十年八月十三日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す泡盛商を營む直接國稅百三十七圓を納め縣下の多額納稅者たり(那覇市通堂町二ノ二〇〇)

石川武雄

醫學博士、石川內科醫院長、西浦海濱療院長、醫師、東京府士族
妻　春　明三三、三生、東京、福井源次郎二女、東京女大出身
男　清　大一三、三生

君は東京府士族石川鉤の長男にして明治二十一年六月十七日を以て生れ昭和八年家督を相續す大正二年東京帝國大學醫科大學を卒業漢口同仁會醫院長市立松本病院長を經て現時石川內科醫院長兼西浦海濱療院長たり著に醫學博士の學位を授けられ歐米を視察す家族は尙長女米(大一一、八生)二女絹子(同一五、一生)二男明(昭二、一〇生)三男春雄(同五、五生)三女富士(同七、一〇生)妹幸子(明二七、八生)あり姉てる(同一七、九生)は陸軍中將林彌三吉に嫁せり(東京市赤坂區青山南町一ノ五一電青山一七六九)

参照‖林彌三吉、福井源次郎※椿宣次の項

石川武美

主婦之友社㊟社長
東京府在籍

妻　かつ　明二五、一〇生、岩手、長谷川甚五郎妹
女　惠美子　大四、二生
女　富美子　大五、一一生

君は大分縣人石川又造の二男にして明治二十年十月十三日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す大正六年二月主婦之友社を創立し其社長となり今日に至るA一九九一八(東京市神田區駿河臺鈴木町一八電神田六七六)

石川千代松

正三位勳一等、理學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授
東京府在籍

男　欣一　明二八、三生
婿　えい　明三八、一二生、長男欣一妻、貴族院議員渡邊暢六女
男　鶴二　明三三、六生
嫡　かつ　明四〇、一〇生、二男鶴二妻、靜岡、中村虎之助妹

君は舊幕臣石川潮叟の二男にして文久元年四月十八日を以て生れ明治四十一年兄惟安方より分れて一家を創立す初め外國語學校に學び昆蟲採集に力を盡す後東京大學理學部動物學科に入り同十五年之を卒へ同年同大學准助教授に任じ翌年助教授となる同十八年動物學研究の爲め獨逸に留學し動物學の泰斗ワイスマン教授のもとに勤めドクトル・オヴ・フィロソフィーの稱號を受け歸朝後同二十三年農科大學教授に進み翌年理學博士の學位を授けらる同三十三年帝室博物館天產部長を兼ね同三十九年濠洲に同四十一年歐米に差遣せられ同四十四年帝國學士院會員仰付らる大正十二年スエーデン

國學士院よりリンネ大賞牌を寄贈せられ同十五年米國フキラデルフキア學士院コレスポンデント員に選擧せらる現に東京帝國大學名譽教授たり最近「性とホルモン」の著書あり家族は尙孫陽子(大一四、七生、長男欣一長女)同浩一(昭二、四生、同長男)同貞二(同三、一一生、同二男)同周三(同六、四生、同三男)同誠之(同八、九生、同四男)あり長女きよ(明二六、九生)は理學博士寺尾新に嫁せり(東京市四谷區大番町一九電四谷四〇二八)

参照‖寺尾新※立花貫一郎の項

石川長右衛門

山形縣多額納稅者、農業
山形縣在籍

妻　民　明一二、七生、山形、齋藤繁養母
男　悌藏　明二六、一二生
　　明三一、一生、三男悌藏妻、山形加藤副治郎長女
婿　おきん
女　もと　明三八、一生
男　正吉　大三、一〇生

君は山形縣人石川柔惠の長男にして元治元年八月を以て生れ明治十六年家督を相續す農を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅五千九百十七圓を納む義に莊內林業會社代表取締役たりしことあり大正九年以來衆議院議員に當選すること二回に及ぶ家族は尙孫周(大一二、四生、三男悌藏長女)同慧助(同一五、五生、同長男)あり妹とよの(明六、一生)は山形縣人石川藤治郎長男藤太郎に同のぶ子(同一七、七生)は同縣人石川文右衛門長男文治郎に嫁し四男順吉(同三三、九生)は分家せり(山形縣東田川郡十六合村)

石川鶴吉

從四位勳三等、朝鮮總督府檢事、海洲地方法院檢事正
靜岡縣在籍

養母　きぬ　明元、二生、靜岡、深澤源次郎長女
妻　たか　明二二、二生、養父卯之助長女
男　太郎　明四三、一生
　　大三、七生
男　二郎

君は靜岡縣人鈴木彌右衛門の二男にして明治十二年七月を以て生れ同三十七年先代たかの入夫となり家督を相續す同四十年法政大學專門部法律科を卒業し翌四十一年判檢事登用試驗に合格同年司法官試補となり檢事朝鮮總督府判事同府典獄同府檢事等に歷任し其間平壤覆審法院檢事金州清州各地方法院檢事正に補せられ昭和九年前記現職に轉ず妹こう(明二七、二生)は福島縣人佐藤善九郎に嫁せり(朝鮮黃海道海州郡海州地方法院官舍)

石川貞吉

醫學博士、巢鴨腦病院顧問、醫師
山形縣在籍

妻　繁惠　明一五、七生、山形、士、相馬繁妹
男　吉次郎　明二七、五生
女　睦子　明三九、三生、夔藥高女出身
男　準子　明四一、二生、慈惠會醫大在學

君は山形縣人石川養貞の長男にして明治二年十二月を以て生れ同二十七年家督を相續す同二十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し同四十五年醫學博士の學位を授けらる永く其創設せる巢鴨腦病院長たりしも現時同病院顧問たり家族は尙五男養治(大一一、六生)あり長女貞(明三〇、七生)は兵庫縣人橫田孝史長男千秋に嫁し三男東吾(同三六、七生)は山形縣士族平瀨林右衛門の養子となり(東京市巢鴨野川區田端六三三電小石川四二七)

参照‖平瀨亨三の項

石川哲郎

從四位勳三等、醫學博士、東北帝國大學教授、醫學部勤務
岩手縣在籍

妻　ヒサ　明二一、一生、岩手、佐々木宇太郎二女
男　義哲　明四〇、一一生
女　靜　明四二、一〇生
男　義信　明四四、一二生
女　淑子　大三、三生

君は岩手縣人石川義郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十九年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し大正九年東北帝國大學教授に任じ同年英佛獨各國に留學し現時醫學部勤務にして義に醫學部長に擧げらる家族は尙三女百合子(大一〇)四生)四女信子(同一二、一生)あり(仙臺市北六番町一二三電六七八)

石川とよ

石川商店㊟取締役、木綿麻炭商
兵庫縣在籍

養母　やく　明治元、一一生、養父喜八郎妻、兵庫、小泉いの三女、石川商店㊟取締役

君は兵庫縣人井上政吉の二女にして明治二十六年一月二日を以て生れ先代喜八郎の養子となり昭和六年家督を相續す木綿麻炭業を營み傍ら石川商店取締役たりA九一三(神戸市兵庫區魚棚町一九)

石川登盛

從五位勳四等、朝鮮火災海上保險㊟取締役、福島縣士族
養母　ミツエ　明五、一〇生、岩手、伊藤田鶴衛二女
妻　カツ　明二五、九生、東京、野本福太郎妹
男　章　明四四、七生
女　ゆり　大元、一一生
女　のぶ　大五、一〇生

君は岩手縣人菊地卯太郎の三男にして明治十八年十月を以て生れ先代銀作の養子となり同四十一年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時朝鮮火災海上保險會社取締役たり其間同四十五年岩手縣警部同理事官を經て朝鮮總督府道事務官に轉じ全羅北道第二部長同警察部長朝鮮總督府事務官警務局保安課長同局衛生課長警務局警務課長平安北道知事に補任し後退職して實業界に入り現時朝鮮火災海上保險會社取締役たり家族は尙二男誠(大四、三生)三男靖夫(同七、一一生)四男壽(同一〇、一〇生)あり(京城府蓬萊町四ノ一七一)

石川德一

從五位、遞信局技師、大阪遞信局工務課神戸出張所長
大阪府在籍

妻　琴代　明三二、三生、兵庫、田口品吉長女、神戸三中在學
男　努　大九、五生、神戸三中在學

君は大阪府人にして明治二十九年十一月七日を以て生れ大正七年家督を相續す同十年京都帝國大學工學部電氣工學科を卒業後直ちに電信電話建設局雇となり同十二年三月遞信技師兼臨時電信電話建設局技師に任じ遞信官吏練習所教官を命ぜらる同十四年五月大阪遞信局

技師に轉じ昭和九年四月同逓信局工務課神戸出張所長を命ぜられ現在に及ぶ昭和六年二月電信電話事業研究のため獨米に留學其間瑞西に開催せられし國際電信通信諮問委員會に列席せる事あり（神戸市神戸區下山手通七ノ九五ノ一電元町一二〇〇）

石川德次郎　越前屋、金物商
父　德兵衛　東京府在籍
妻　壽美　慶應元、二生
男　德太郎　明三二、四生、埼玉、矢作治平二女　大七、一二生

君は東京府人先代德太郎の長男にして明治二十七年八月二十日を以て生れ昭和四年隠名藤太郎を改め襲名し翌年家督を相續す越前屋と稱し金物商を營む家族は尙二男德次郎（大一三、一生）弟富治四郎（明四〇、一二生）同光之助（大三、一生）ありA八〇一B二四四（東京市神田區南乗物町一二電神田五二四）

石川留吉　正五位、朝鮮總督府技師、殖産局勤務、東京府在籍
妻　國閑　明二五、一二生、東京、庄司義基二女
男　仁一　大三、三生
女　澤子　明四五、五生

君は東京府人石川作左衛門の二男にして明治十八年二月十七日を以て生れ先代かのの養子となり同二十七年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し同年古河合名會社阿仁鑛業所に入社同五年久原鑛業會社に轉じ日立鑛山に勤務此間米國に出張す同九年更に東京帝國大學大學院に入學し在學の儘同工科大學鑛山學科講師に任じ同十一年朝鮮總督府技師となり殖産局鑛山課に勤務し今日に至る昭和六年北米合衆國及加奈陀に出張す家族は尙三男恒（大七、四生）四男晶（同一一、五生）五男孝作（同一四、二生）あり（京城府朝鮮總督府殖産局燃料選鑛研究所内）

石川寅吉　興文社㊞、專務取締役、日本製紙㊞、取締役、東京書籍㊞監査役　東京府在籍
妻　よし　明三四、七生、東京、鈴木友三郎二女

君は東京府人金子市左衛門の二男にして明治二十七年二月二十日を以て生れ伯父鹿島長次郎の養子となり更に長次郎後妻石川睿々の養子となり同三十四年家督を相續す同四十五年開成中學校を卒業し直ちに出版業に從事す現時興文社專務取締役に就任し傍ら前記諸會社の重役たりA七一六（東京市牛込區南町二五電牛込一七四七）

参照＝鈴木友三郎の項

石川寅治　洋畫家　東京府士族
妻　靜江　明一三、一一生、高知、士、矢野醇長女　大三、四生

君は高知縣士族石川義忠の長男にして明治八年四月五日を以て生れ同四十三年家督を相續す同二十四年本邦洋畫界の恩人たる小山正太郎の不同會に入り研鑽を重ね同三十四年同門の中村不折吉田博滿谷國四郎等と共に太平洋畫會を創設し新人を提撕して美術學校官學派に對抗す文部省美術展覽會に毎回其製作を出品し褒狀三等賞三等賞を得て次で推薦となり大正十三年帝國美術展覽會審査員を命ぜらる義に歐米に遊學し東京高等師範學校講師文部省中等教員檢定試驗委員たりし事あり中等教育圖畫教科書「最新圖畫」の著あり本邦洋畫界の耆宿たり家族は尙三男義夫（大五、八生）四男憲夫（同八、二生）ありA二五七（東京市瀧野川區中里町四二五電小石川一一七六）

石川成秀　從三位勳四等、子爵　舊勢州鳥山藩
妻　むめ　明三三、一生、東京、西島喜見枝姉　從五位
男　成道　大二、一生
女　篤子　大六、四生
女　敦子　大八、八生

當家は陸奥守義家の六男義時の後なり其子義基石川武藏守と稱す戰國の世日向守家成德川氏に仕へ男長門守康通軍功に依り濃州大垣五萬石に封ぜらる後更に勢州鳥山に移り十四代を經て先代成穆に至り同十七年子爵を授けらる君は其長男にして明治十九年七月十六日を以て生れ同三十一年家督を相續し襲爵す即ち義祖義時より三十三世の當主なり同四十二年學習院高等科を卒業後佛國に留學歸朝後宮内省に入り式部官兼主殿官たること多年大正十四年貴族院議員に擧げらる家族は尙四女晴子（大一一、六生）次女壽美子（昭八、一一生）あり弟成清（明二四、一二生、明大商科出身）は埼玉縣人增田啓次郎に同成房（同二八、四生、出身校同上）は三重縣人長谷川治郎兵衛に各養子となれり（東京市澁谷區代々木初臺町五九八電四谷二六四）

参照＝長谷川治郎兵衛の項

石川仁平　川越商工會議所議員、石川組中村製絲所、石川組製絲所各㊞取締役　埼玉縣在籍
妻　タヱ　明二一、八生、東京、鈴木重藏二女
男　秀夫　明四三、九生
女　ナヲ　大二、五生
女　とし　大七、八生

君は埼玉縣人石川幾太郎の弟にして明治十一年八月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして川越商工會議所議員に選ばる義に川越市參事會員帝國發明用品應用會社長たりし事あり家族は尙二男重夫（大一〇、一一生）三男善三（同一二、八生）四男義平（同一四、二生）五男恒平（同一五、一〇生）六男久夫（昭三、九生）あり長女滿喜（明四一、三生）は埼玉縣人增島賴三に嫁せり（川越市北久保一〇五〇電五）

参照＝※白井幸助の項

石川仁平治　埼玉縣多額納稅者、釀造業　埼玉縣在籍
妻　サク　明三〇、三生、東京、淺田榮次郎三女

君は埼玉縣人天羽英次郎の長男にして明治二十五年三月を以て生れ先代宇右衛門の養子となり同三十三年家督を相續す釀造業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅三千六十六圓を納む家族は尙養兄幸次郎（明三、二生）及其子孫あり（埼玉縣北葛飾郡松伏領村）

石川八郎治　碧銀行、碧海貯蓄銀行各㊞監査役、味淋釀造業、愛知縣在籍

母　きみ　嘉永五、四生、愛知、田島五兵衛長女
妻　はつ　明一三、八生、愛知、間瀬長左衛門三女
男　和男　明三八、一二生、名古屋高商出身
婿　春江　大二、七生、長男和男妻、愛知、下鄉寛二郎二女、櫻菊女子學園出身
男　守人　明四三、四生、京大法學部在學
女　いつ子　大五、九生、縣立第一高女出身、櫻菊女子學園在學

當家は大濱町の舊家なり先代八郎治壯年より公共事業に携はり村政郡政に盡瘁せし處勘なからず後組織味淋釀造業に專念し著しき發展を爲し海外輸出の先鞭を爲す明治三十八年隠居して三碧と改名す大正二年陸軍大演習の際賞業功勞者として大正天皇の御召により名古屋離宮にて宮内大臣を經て種々御下問に奉答し優渥なる御沙汰を拜す君は其二男にして明治七年一月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名吉治を改め襲名す夙に名古屋商業學校を卒業して味淋釀造業を營み益々品質を改良し販路を擴張し傍ら前記銀行の重役にして全國酒造組合中央會評議員日本釀造協會評議員中部六縣味淋釀造組合長關西味淋釀造業大會幹事中部六縣酒造組合聯合會理事長愛知縣酒造組合聯合會長西三酒造組合長碧海郡聯合商工會長大濱町商工會長愛知縣滿蒙輸出組合理事日本赤十字社愛知支部商議員大濱町會議員大濱町外三ケ町村學校組合會議員等各種の公職に列す昭和二年十一月陸軍大演習の際釀造場に侍從御差遣の光榮に浴せり家族は尙三女たみ子（大七、一〇生）四女萬龜子（同九、一一生）孫泰彦（昭九、二生、長男和男長男）あり弟又雄（明一三、一二生）は同妻やほ（同一五、一二生、愛知、田島五郎作二女）及其一男一女を伴ひ分家し長女滿千（同四一、七生、縣立第一高女出身）は岐阜縣人小森廉之助に妹のぶ（同二〇、一生）は愛知縣人杉浦茂左衛門に同ゆふ（同二七、九生）は京都府人鳥羽重節に嫁せりA二〇七六B四四八（愛知縣碧海郡大濱町電八）

参照＝※田島道治の項

石川治雄　石川工場、機械製造業　東京府在籍

妻　保代　明三三、一二生、神奈川、藤田長太郎二女
男　久治　大一二、九生

君は東京府人石川平藏の長男にして明治二十九年三月二十五日を以て生れ昭和六年家督を相續す石川工場主にして諸機械製造業を營む家族は尙二男保治（大一四、九生）弟猛雄（明三七、一二生）同浩（同四四、八生）同禮夫（大五、四生）亡叔父萬吉妻きり（明九、三生、滋賀、彌川清三郎姉）從弟武太郎（大四、四生、亡叔父萬吉母男）あり＝A三五八B一五二（東京市芝區三田四國町二ノ二電三田三四四八）

石川氾兵　石川病院長、醫師　東京府在籍
妻　ノリ　安政三、一〇生
玄　明二二、一二生、新潟、中瀧誰吉三女
男　洋平　大二、一生
男　謹　大三、四生
女　達子　大六、一一生、府立第一高女在學

君は新潟縣人藤卷伊三郎の三男にして明治十七年五月二十一日を以て生れ先代達玄の養子となり大正十三年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し醫を營み石川病院長たり家族は尙三男重義（大九、三生）ありA一三七七（東京市板橋區板橋五ノ九二八電大塚五六四三）

参照＝※藤卷太一の項

石川日出鶴丸　正四位勳二等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務、國民生理學會長、富山縣在籍
妻　藤榮　明一四、一生、富山、榮彦二三女
男　大刀雄丸　明四一、三生
女　朝手　大四、三生
女　智慧　大五、一二生

君は富山縣人石川乾の長男にして明治十一年十月を以て生れ明治三郎の跡を承け家督を相續す明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し夙に生理學研究の爲獨露英各國に留學し歸朝後京都帝國大學教授となり生理學第二講座を新設擔任し醫學博士の學位を授けらる現時前記の官職に在り國民生理學會長たり義に大津市に京都帝國大醫學部附屬臨湖實驗所を創設して所長となり後同大學理學部に移管す家族は尙三男威（大九、一一生）ありA五二八（京都市上京區鷹ノ花ノ坊町五五電西陣一九九）

石川彦治郎　石川彦商店、洋服羅紗商　大阪府在籍
母　津爾　文久二、八生、大阪、小南德右衛門養子
妻　ゆき　明二二、四生、大阪、丹羽金次郎長女

君は大阪府人石川鐵藏の長男にして明治十八年四月二十一日を以て生れ同三十四年家督を相續す洋服羅紗商を營み石川彦商店と稱す姉せい（明一五、八生）は大阪府人中井房之助に妹ツル（同四五、一〇生）は同府人榮田新太郎長男安太郎に嫁せりA七五七B一四一（大阪市東區谷町二ノ六電東一〇〇二）

石川彦六　地主　東京府在籍
妻　なか　明七、一二生、先代せい長女
養子　ふみ　明四三、三生、瀧口仙之助長女

君は肇原長三郎の二男にして明治十七年八月五日を以て生れ先代せいの養子となり昭和七年家督を相續す地主たりA一一二五（東京市京橋區靈岸島一ノ一ノ五電京橋一五四九）

石川久成　大日本金粉箔工業㊞取締役、生命保險代理業、大阪府在籍
妻　シカ　明二三、八生、大阪、吉田延太郎長女
男　績三　大九、三生
女　靜枝　大七、六生

君は石川縣人石川久興門の四男にして明治六年一月三日を以て生れ同二十八年家督を相續す現時大日本金粉箔工業會社取締役にして又加奈陀サン生命保險會社代理店を營經す謠曲書畫骨董を趣味とす（大阪市住吉區松崎町二ノ三八電天王寺一六〇八）

石川秀助　六十七銀行㊞取締役　山形縣在籍
妻　經井　明二四、七生、山形、士、朝岡良高二女

男　允　大八、八生
女　靜　明四四、八生
　　稔　大六、九生

君は山形縣士族菅實秀の五男同實の弟にして明治十七年二月を以て生れ同二十七年同縣人石川ますの養子となり家督を相續す夙に實業界に入り現に六十七銀行取締役たり家族は尙四女妙(大一二、二生)五女倶(同一四、三生)六女永(昭二、一生)あり養子雪(明三三、二生、山形、書瀧三三女)は山形縣人金井國之助に嫁せり(鶴岡市家中新町電七〇五二)

石川秀之助

妻　ヒサ　大四、四生
男　克英　明三八、七生、大阪、岡島光三郎
養子　光子　長女

君は大阪府人石川市松の庶子にして明治二十一年七月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時日本信託銀行常務取締役大株代行會社監査役たり家族は尙三男傳雄(大一〇、一二生)四男幾三(同一五、四生)長女富久子(昭二、四生)ありA一八〇一(大阪市住吉區天神森二ノ四電天下茶屋三〇七二)

参照＝濱岩村盛逸の項

石川英雄

妻　秀子　明四〇、二生、愛媛、合田貞五郎
男　俊雄　昭四、三生

君は愛媛縣人石川熊四郎の六男にして明治三十五年三月を以て生れ昭和五年家督を相續す家業を繼ぎ酒造業を營み直接國稅一千一圓を納め愛媛縣多額納稅者たり家族は尙妹雪子(明三九、一生)弟靜逸(同四二、九生)あり(愛媛縣新居郡泉川村電五)

石川等

妻　つる　工學士、日本カーボン株常務取締役、大正電氣製煉所株取締役神奈川縣在籍

明二五、一生、岐阜、九鬼勝巳妹奈良女高師出身

養子　敏功　大八、二生、長野、鳥井耕治三男
　　靜　明四四、八生
　　稔　大六、九生

君は長野縣人石川兵治の四男にして明治十九年二月十八日を以て生れ大正七年兄豊助方より分れて一家を創立す明治四十三年東京高等工業學校電氣化學科を卒業し現時日本カーボン會社常務取締役兼技師長の外前記會社の重役たり昭和五年工學博士の學位を受く(横濱市神奈川區旭ケ丘四五電本局二〇九二)

石川弘三

妻　マツ　前日本電氣會社技師
男　弘文　明四二、四生
男　武彦　明四四、二生
女　ムメ　大三、二生
女　ハルエ　大七、四生

君は東京府人石川宗次郎の長男にして明治十年七月三十一日を以て生れ同三十二年家督を相續す義に日本電氣會社技師にして先年歐米に出張す長女タマ(明三八、一生)は廣島縣人山中增吉弟政吉に二女ウタ(同四〇、一生)は大阪府人中村喜代三に嫁せり(東京市世田谷區玉川奥澤町三ノ八二六)

石川博

母　不二　資産家
妻　シマ　東京府士族
男　文彦　明一九、六生、子爵榎本武英叔母
女　キヨケサ　大阪府多額納稅者、石川吳服店、吳服雜貨商、大阪府在籍

君は東京府士族石川章雄の長男にして大正二年七月十六日を以て生れ昭和八年家督を相續す資産家たり家族は尙姉素子(明四二、五生、樟蔭高女出身)あり(東京市品川區大井庚塚町四九八八)

参照＝子爵榎本武英の項

石川文右衛門

妻　シマ　大阪府多額納稅者、石川吳服店、吳服雜貨商、大阪府在籍
男　文彦　明二〇、八生、大阪、和田澤次郎長女
女　キヨケサ　大五、一二生

君は大阪府人先代文右衛門の長男にして明治十六年四月を以て生れ同三十六年家督を相續し前名文次郎を改め襲名す代々兩替商たりしが明治三十三年の頃洋反物商に轉じ逐年業務を擴張し吳服部を設け組織を變更し

てデパートメントストアとなし更に京都紫野に旭羽二重製織工場を設く同四十三年歐米各國を巡遊して大に資する處あり現に石川吳服店と稱し吳服雜貨商を營み大阪府多額納稅者に列し直接國稅四千七百五十九圓を納む家族は尙三男文博(大一〇、六生)あり母あさ(嘉永四、五生、大阪、杉田與兵衛叔母)は分家し弟常太郎(明二六、二生)は石川氏と稱し別に一家を創立せり(大阪府泉北郡高石町高師之濱一〇七二電濱寺二一五「店舗」大阪市南區西櫓町電南三三二・一四一六・五三一二)

参照＝杉田與兵衛の項

石川文吾

妻　ハナ　從三位勳二等、商學博士、東京商科大學教授兼東京商科大學豫科教授、東京府在籍
男　躬行　明一六、一生、工學博士笠井愛次郎養子
女　益代　明四三、八生
男　馥苗　明四一、六生、佛英和高女及日本女大家政科出身
女　幾久世　大元、一〇生
女　錫代　大三、一〇生
　　大五、一二生

君は東京府人石川儀路朗の長男にして明治十年一月二十五日を以て生れ後家督を相續す同三十年高等商業學校を卒業し直に同校助教授となり大正十一年東京商科大學教授兼同大學豫科教授に任ぜられ今日に至る其間高等商業學校附屬外國語學校助教授東京高等商業學校教授及東京商科大學豫科主事等に歷任す明治三十二年商業學研究の爲白耳義及獨逸に留學し大正十一年商學博士の學位を授けらる同年ホノルルに開かれたる汎太平洋協會第一回商業會議に日本政府代表員として派遣せらる昭和九年三月歐米各國に出張を命ぜられ現に彼地に在り長女識子(明三九、三生、佛英和高女出身)は愛知縣人小笠原勝國に妹和哥子(同一四、六生)は東京府士族元東京市水道局吏小川綾に嫁し弟剛(同一六、一〇生)は分家せり(東京市小石川區江戸川町六電小石川三一七〇)

参照＝石川剛、笠井愛次郎※齋藤恒一※※齋藤恒三※田原良純※立川龍の項

石川逢厚

妻　コセイ　沖縄縣多額納稅者、酒造業
男　逢篤　明四〇、六生、沖繩、石川次郎孫
　　鱒　明三〇、一〇生
　　とし　明三六、三生、沖繩、牧志次良二女

君は沖繩縣人石川龜の長男にして明治六年十月五日を以て生れ同十年家督を相續す酒造業を營み直接國稅三百六十四圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫逢元(大八、一二生、長男逢篤長男)同佳津(同一〇、九生、同長女)同好男(同一五、一生、同二男)同政男(昭三、七生、同三男)同壽萬(生年月同上、同二女)同ゆき(昭五、四生、同三女)同吉子(同八、三生、同四女)同和男(生年月同上、同五男)あり(那覇市通堂町二ノ二八)

石川正弘

母　タネ　地主
男　郎　明一八、四生、大阪、大久保種三郎長女

君は大阪府人石川弘の長男にして大正元年十月十二日を以て生れ昭和四年家督を相續す地主たりA一一六八(大阪市東成區大友町一九一電天王寺四三〇)

石川正義

妻　富子　製藥　東京府士族
男　正和　明三〇、五生、東京、山岸三之助二女
　　昭五、一二生

君は東京府士族澤儀作の長男にして先代やすの孫たり明治二十三年六月二十八日を以て生れ同三十一年家督を相續す製藥業を營む家族は尙長女富美(大一三、一〇生)二女七重(同一四、七生)三女八重(同一五、一二生)ありA四九一(大阪市北區同心町二ノ二九電堀川一七〇四)

石川又八

妻　レン　從七位勳五等、陸軍歩兵中尉、佐賀縣士族
男　郁郎　明二四、一〇生、佐賀、馬場又一妹
　　明三六、五生、慶大法學部政治科出身

婿　ヒサ　明四〇、五生、長男郁郎妻、佐賀堤勝衛妹
男　繁人　明四〇、一生、經濟學士
男　謙壯　明四一、六生、東邦電力會社員、慶大法學部政治科出身
男　巽　明四四、二生、長崎醫大在學
女　キヨケサ　大二、一二生、佐賀高女及實踐專門部出身

當家は鍋島藩龍造寺家臣たる家柄なり先代護助は豪農として知られ數多の名譽職を奉ず君は其の長男にして明治十年六月を以て生れ同三十年家督を相續す夙に大阪高等商業學校に學び曾て郡會議員縣會議員衆議院議員等に選ばる現時窓乃梅酒造會社取締役の外前記會社の多額納稅者に列し直接國稅七百九十二圓を納む養に佐賀縣農工銀行古賀銀行の重役に擧げらる家族は尙六男高明(大五、一〇生、佐賀高校在學)七男邦英(同七、七生)孫昭子(昭四、四生、長男郁郎長女)あり二女志津子(明三四、七生)は佐賀縣人岡康夫に妹タネ(同一七、二生)は同縣人田中丸榮藏に嫁し五男直人(同四五、六生)は同縣人津田正夫の養子となれり(佐賀縣佐賀郡久保田村電八)

石川松太郎

妻　ぬい　石川吳服店、吳服太物商
男　注連造　大阪府在籍
　　明六、七生、養父千太郎長女
　　明三〇、一生
女　富美子　明三五、五生、長男注連造妻、大阪、椿本忠兵衛二女
　　大元、一〇生

君は奈良縣人增田儀平の弟にして明治元年九月を以て生れ大阪府人石川千太郎の養子となり同三十四年分れて一家を創立す石川吳服店と稱し吳服商を營む家族は尙孫圭子(大一二、一生、長男注連造長女)同泰子(昭二、七生、同二女)同俊一郎(同四、二生、同長男)B一七五(大阪市南區心齋橋筋一ノ四五電南四四三)

石川道正

妻　たけ　東京貯蓄銀行株監査役
　　東京府士族
男　郁郎　明八、三生、東京、士、浦田貞良長女

婿　繁人　明四〇、五生、長男郁郎妻、佐賀堤勝衛妹
男　謙壯　明四一、六生、東邦電力會社員、慶大法學部政治科出身
男　巽　明四四、二生、長崎醫大在學
女　キヨケサ　大二、一二生、佐賀高女及實踐專門部出身

當家は鍋島藩龍造寺家臣たる家柄なり先代護助は豪農として知られ數多の名譽職を奉ず君は其の長男にして明治十年六月を以て生れ同三十年家督を相續す夙に大阪高等商業學校に學び曾て郡會議員縣會議員衆議院議員等に選ばる現時窓乃梅酒造會社取締役の外前記會社の多額納稅者に列し直接國稅七百九十二圓を納む養に佐賀縣農工銀行古賀銀行の重役に擧げらる家族は尙六男高明(大五、一〇生、佐賀高校在學)七男邦英(同七、七生)孫昭子(昭四、四生、長男郁郎長女)あり二女志津子(明三四、七生)は佐賀縣人岡康夫に妹タネ(同一七、二生)は同縣人田中丸榮藏に嫁し五男直人(同四五、六生)は同縣人津田正夫の養子となれり(佐賀縣佐賀郡久保田村電八)

石川松太郎

妻　ぬい　石川吳服店、吳服太物商
男　注連造　大阪府在籍
　　明六、七生、養父千太郎長女
　　明三〇、一生
女　富美子　明三五、五生、長男注連造妻、大阪、椿本忠兵衛二女
　　大元、一〇生

君は奈良縣人增田儀平の弟にして明治元年九月を以て生れ大阪府人石川千太郎の養子となり同三十四年分れて一家を創立す石川吳服店と稱し吳服商を營む家族は尙孫圭子(大一二、一生、長男注連造長女)同泰子(昭二、七生、同二女)同俊一郎(同四、二生、同長男)B一七五(大阪市南區心齋橋筋一ノ四五電南四四三)

石川道正

妻　たけ　東京貯蓄銀行株監査役
　　東京府士族
男　郁郎　明八、三生、東京、士、浦田貞良長女

男　潔　明三〇、一二生、芝浦製作所員、工學士
婿　トシ子　明三七、八生、長男潔妻、東京、江浪常吉長女、府立第三高女出身

君は舊幕臣石川道義の二男にして慶應三年十月九日を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に遞信省に奉職し後東京貯蓄銀行に入り勤續三十年に近く現時同行監査役にして養に取締役たり妹せみ(明一〇、三生)は東京府人横田與作に嫁せり(東京市大森區田園調布四ノ二〇〇電田園調布四六二)

石川茂兵衛

母　みよ　日本石綿弊製造株取締役、昭和セメント株監査役、石川茂兵衛商店賣代表社員、神戸米穀肥料取引所取引員、兵庫縣在籍
妻　未枝　嘉永四、九生、祖父茂平次長女
女　君子　明二五、二生、兵庫、小西茂十郎五女
　　明四二、一二生

當家は舊幕時代より兵庫津に於て米穀肥料商を營みたる老舗石川家の分家なり君は先代茂兵衛の四男にして明治十九年八月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名英一を改む同四十一年神戸高等商業學校を卒業し現時日本石綿弊製造會社取締役の外前記諸會社の重役にして養に神戸商業會議所議員同市會議員に擧げられ重要物産會社々長昭和洋灰會社監査役たり事あり謠曲を能くす弟茂(明二三、四生)同妻壽美(同二七、七生)大阪、加納由兵衛長女)は共に分家し三女慶子(大二、九生)は其養子となれりA二二七(神戸市兵庫區江川町四九ノ二電長兵庫一七一)

石川森太郎

妻　採　正位勳六等、大三和商店株代表取締役、和歌山縣士族
男　森　明二一、一生、和歌山、榎本善次郎
　　明三四、六生、明大商科出身
男　正　大二、六生、慶應大學在學
女　重　大六、五生、樟蔭高女在學

君は和歌山縣士族石川善助の長男にして明治十年九月を以て生れ大正二年弟熊太郎の後を承け家督を相續す夙に和歌山縣師範學校を卒業し教職に就き明治三十九

年和歌山縣警部に任官大正十一年大阪府警視に任ぜられ同十三年天滿署長となる同十五年退官し合名會社藤田組に入社後之を辭し大阪商業通信社取締役社長甲陽土地會社代表取締役たりしも現時大三和商店代表取締役たり家族は尙四男太三郎(昭二、九生)五男博司(同四、一一生)あり長女富美子(明三七、二生、宇治山田高女出身)は三重縣人森由藏長男由夫に二女多喜子(同四一、三生、出身校同上)は和歌山縣人水原常一弟譽文に嫁し弟熊太郎(同二四、六生)は同縣人山本クマヨの家籍に入れり(大阪府豐能郡豐中町電一)

石川八十井　三井毛巻製、三井家同族會理事　東京府士族

妻　かつ　明九、七生、東京、士、中松完一長女
男　庸彦　明三六、二生
婦　松子　明四二、九生、長男庸彦妻、熊本下田守誠長女

當家は代々讃岐多度津藩士にして先代純造は維新前藩政の樞機に參画し君は其長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十一年家督を相續す同二十六年帝國大學法科大學政治科を卒業し農商務省に出仕せしが後之を辭して三井銀行に入り經書課主任となり名古屋京都各支店長を經て現時三井家同族會理事三井合名會社參與たり家族は尙孫明子(昭五、一一生、長男庸彦長女)同精一(同九、二生、同長男)あり長女テイ(明三一、九生)は東京府人内田寛一に嫁し弟孝雄(同一七、八生、商船學校出身)妹ミドリ(同八、一〇生、東京府立第四高女教諭)は各分家せりA一二五一四(東京市四谷區仲町二ノ二電四谷三七一二)

參照＝内田寛一、下田守誠の項

石川彌一郎　洋品商　東京府在籍

男　一代　明三七、四生
女　津留　明四一、一生
女　松江　明四二、六生
女　登美子　明四四、二生
女　ゐね子　明四五、三生
女　巳與子　大六、一一生
女　尙子　大八、一〇生

君は東京府人石川久二郎の二男にして明治九年九月十五日を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す洋品商を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅八百二十四圓を納め埼玉縣多額納稅者たり家族は尙孫元一(昭四、五生、二男直行長男)あり長女たけ(明四一、一〇生)は東京府人酒井宗太郎長男良雄に嫁せり(埼玉縣北埼玉郡大越村)

參照＝網野豐次郎、酒井宗太郎の項

石川彌七　地主　東京府在籍

妻　千代　明二〇、一二生、養父彌七長女
男　彌太郎　明四五、一生
女　君　明四〇、一二

君は東京府人佐志田長長衛の弟にして明治十四年九月二日を以て生れ先代彌七の養子となり同四十一年家督を相續し前名久太郎を改め襲名す地主たり家族は尙三女鞠子(大九、七生)あり妹文子(明二六、一一生)は分家せりA一六〇一(東京市本郷區湯島天神町二ノ一電下谷二三三)

石川安太郎　織物問屋業　東京府在籍

妻　えつ　明一六、一〇生、東京、岩本倉藏二女
男　元三郎　昭二、四生

君は東京府人石川梅吉の長男にして明治十二年十二月二十日を以て生れ大正十三年家督を相續す織物問屋業を營む家族は尙妹たか(明三四、一生)あり弟重吉(同二九、一一生)同妻富美(同三七、九生、東京、吉田眞一郎妹)は其一子を伴ひ同彌七(同三八、一二生)は同妻喜世(同四二、一〇生、東京、山田喜助長女)及其一子を伴ひ各分家せりA一一六六六B一八一六(東京市日本橋區橋町一ノ一電長浜花六三九〇・六三九七)

石川康之助　埼玉縣多額納稅者、埼玉酒造㈱專務取締役、武州製絲㈱取締役、農業、鉱金融業、埼玉縣在籍

妻　たね　明一四、三生、埼玉、綿野豊次郎妹
男　直行　明三四、四生、東京農大出身
婦　淑子　明四四、二生、二男直行妻、埼玉長谷川道也長女
男　寺雄　明三七、一生、明大商科出身
男　勝壽　明四〇、二生、北大在學

君は埼玉縣人石川幸三郎の長男にして明治八年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す農業並金融業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅八百二十四圓を納め埼玉縣多額納稅者たり家族は尙孫元一(昭四、五生、二男直行長男)あり長女たけ(明四一、一〇生)は東京府人酒井宗太郎長男良雄に嫁せり(埼玉縣北埼玉郡大越村)

參照＝網野豐次郎、酒井宗太郎の項

石川芳次郎　京都電燈、愛宕山鐵道、三國蘆原電鐵各㈱取締役、南越電氣、酒井電力、大正電氣、關西共同火力發電、鞍馬電鐵道、大聖寺川水電比叡山鐵道各㈱監査役　京都府在籍

妻　貞　明二六、八生、京都、小木貫次郎長女
男　敬介　大二、一一生
女　八千代　大四、一〇生

君は京都府人石川國三郎の長男にして明治十四年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續す同四十三年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し現時京都電燈會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙二男丈二(大六、七生)三男浩三(同一一、一〇生)四男文平(同一四、一一生)五男芳夫(昭四、一生)ありA二八三八(京都市上京區烏丸通今出川上東入電上五九四)

石川芳太郎　正五位勳三等、新潟縣書記官、内務部長、茨城縣在籍

母　ふち　明元、九生、千葉、石橋幾右衛門二女
男　浩　大六、八生

君は茨城縣人石川國三郎の長男にして明治二十一年五月十七日を以て生れ大正七年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し文官高等試驗に合格す福島縣理事官内務事務官地方局勤務社會局事務官兼社會局書記官等に歷任し同十三年歐米に出張を命ぜられ同年十二月歸朝の後青森縣書記官内務部長北海道警察部長三重熊本各縣書記官各内務部長を經て昭和七年新潟縣書記官に任ぜられ内務部長に補せらる家族は尙二男進(大八、一二生)三男潔(同一一、六生)妹けん(明二六、一一生)同夫保(同二五、九生、茨城、糸

賀彦太郎二男)及其三男あり弟秀雄(同三六、一二生)は北海道人山本民藏の養子となれり(新潟市新潟縣内務部長官舍)

石川亮三　山一證券、濱信證券各㈱取締役　東京府在籍

母　コト　慶應二、七生、東京、植村駒吉長女
妻　いそ　明三一、二生、靜岡、島田民藏妹

君は東京府人石川節藏の長男にして明治二十四年十月二十九日を以て生れ大正十年家督を相續す現時山一證券濱信證券各會社の取締役たりA八二二(東京市赤坂區佛馬町二ノ五電青山四〇六五)

石川林四郎　從三位勳三等、東京文理科大學教授、東京府在籍

妻　なを　明一七、三生、靜岡、花島兵右衛門三女
男　立男　大五、一一生
女　雪子　明四四、一生
女　みね　明四五、五生
女　ゆり　大三、八生
女　すみ　大八、四生

君は栃木縣人石川清三郎の四男にして明治十二年十二月を以て生れ大正五年兄角次郎方より分れて一家を創立す明治三十六年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し大學院に入り同四十年第六高等學校教授に任ぜられ同四十二年東京高等師範學校教授となり現時東京文理科大學教授たり大正八年英文學研究の爲英米各國に留學し尙昭和八年歐米各國に出張を命ぜらる著書多し家族は尙二男清和(大一三、七生)三男完郎(同一五、七生)あり(東京市小石川區大塚坂下町一一一電大塚一〇三九)

石川漣平　正四位勳二等功五級、陸軍中將、北白川宮別當、東京府士族

妻　アイ　明一九、一一生、和歌山、玉井房之助長女
男　悌男　明四四、九生
女　信子　大四、九生
女　三枝子　大七、二生

當家は源滿仲の曾孫民部大輔時光の後裔なり君は先代石川儀平の五男にして同六郎の兄なり明治十二年二月二十一日を以て生れ後家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十二年陸軍砲兵少尉に任じ昭和四年陸軍中將に累進す其間第十三師團參謀長陸軍重砲兵學校長砲兵監部附野戰重砲兵第四旅團長陸軍重砲兵學校長陸軍砲工學校長等に歷補し昭和六年豫備役仰付らる同七年宮内省別當仰付られ北白川宮附を命ぜられ今日に至る長女孝子(明四三、二生)は陸軍中將横山彦六長男剣事光彦に嫁し二男忠郎(大二、四生)は玉井家を繼ぎ長兄伍一は夙に清國に渡り日清の役起るや天津に在りて軍事探偵に從事し殉職す時に齡二十九征清九烈の一人として知られ昭和三年從五位を贈らる(東京市世田谷區上北澤町三ノ八七七電松澤三二四)

參照＝石川六郎※横山彦六の項

石川六郎　朝日新聞社㈱東京朝日新聞校閲部長、東京府在籍

妻　なを　明三六、二生、東京、士、關恕長女
男　直行　明四二、九生、長男直行妻、埼玉長谷川道也長女
婦　淑子　明四四、二生
男　寺雄　明三七、一生、明大商科出身
男　勝壽　明四〇、二生、北大在學

君は東京府士族石川儀平の六男にして陸軍中將北白川宮別當石川漣平の弟なり明治十三年三月九日を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十年早稻田大學文學科を卒業し國民新聞社編輯部長同副編輯局長東京朝日新聞社學藝部長を經て昭和四年同社校閲部長となり今日に至る圍碁釣魚を趣味とす(神奈川縣鎌倉郡藤澤町電三七七)

參照＝石川漣平※横山彦六の項

石川六郎　三信鐵道㈱社長、豊川鐵道㈱取締役、東京府在籍

妻　立　明二一、九生、東京、三浦清俊養子
男　太一　大五、四生
女　幸代　大七、九生
女　信子　大七、一生

君は東京府人石川七財の庶子にして明治十年十一月二十五日を以て生れ大正十年甥弘一方より分れて一家を創立す明治三十三年東京高等工業學校電氣科を卒業し後三信鐵道會社に入り機械部に勤務し後三信鐵道會社長及豊川鐵道會社取締役に擧げられ今日に至る家族は尙二男公康(大八、一〇生)五男和男(昭二、四生)あり四男元彦(大一二、九生)は外祖父三浦清俊の養子となれりA二七二(東京市赤坂區新坂町六七電青山五三八一)

石川和吉　地主　東京府在籍

養子　金三郎　明三二、九生、長女イチ夫、東京市川鐵五郎弟
女　イチ　明三三、一生、養子金三郎妻

君は東京府人石川藤藏の二男にして明治八年四月六日を以て生れ同三十九年家督を相續す地主たり家族は尙孫孝子(大一四、四生、養子金三郎長女)あり二女トシ(明四〇、四生)同夫邦久(同三七、三生、神奈川、中村房吉弟)は共に分家せりA七〇三(東京市蒲田區新宿町四一六電蒲田一七)

石河幹明　千代田生命保險(互)取締役、時事新報社名譽主筆、交詢社常議員副長、東京府在籍

妻　さと　明六、四生、茨城、士、關恕長女
男　夫　大元、一二生
女　フジ　明四一、二生

君は舊水戸藩士石河竹之助の三男にして安政六年十月十七日を以て生れ大正四年分家して一家を創立す明治十八年慶應義塾を卒業し時事新報社に入り主筆として健筆を振ひ嘗て歐洲を漫遊せり又慶應義塾理事に任じ德川家評議員を囑託せらる現時千代田生命保險會社取締役時事新報社名譽主筆交詢社常議員副長たり二女豊(明二七、二生)は香川縣人成瀨正恭弟義に三女くに(同三一、九生)は東京府人中村壯吉に四女みつ(同三八、九生)は茨城縣人石河幹正二男幹武に嫁せり(東京市麻布區富士見町九電高輪六〇七一)

參照＝成瀨正恭※男爵松尾義夫の項

石河直太郎　鳥取縣會議員、因幡銀行㈱取締役、濱坂銀行㈱監査役、鳥取縣在籍

父　貞次郎　嘉永二、二生
妻　つな　明二〇、三生、兵庫、西村淑一郎四女
男　大直　大四、一二生
女　露子　大三、一生

君は鳥取縣人石河貞次郎の長男にして明治十年七月を以て生れ同四十三年家督を相續す同三十四年明治法律學校を卒業し現時前記銀行の重役にして鳥取縣會議員に選ばる家族は尙二男敬直(大八、一生)四女直子(同

一五、三生）あり長女律子（明三八、一生）は東京府人田中廉治に二女齋子（同四四、二生）は鳥取縣人石井春平に嫁し弟利三（同一六、一〇生）同妻千代（同二六、四生、長野、矢島喜源次長女）は共に分家し弟四郎（同二一、三生）同六郎（同二六、二生）も亦各分家し同五郎（同二三、九生）は鳥取縣人石河富藏の養子となれり（鳥取縣岩美郡大岩村）

参照＝※吉村信義の項

石河光遵（イシカワ ミツヨリ）　従五位、男爵

祖母　みる子　明二二、四生、東京、大寶陣姉
母　茂子　女　交久元、四生、東京、林小一郎二

舊家は清和源氏の末流石川源太有光の後胤市正光忠の後なり光忠德川氏に仕へ一萬石を食み尾州家に附せらる夫より世々國老として四世忠嘉の時石河と改稱し後三世光是國事に奔走して功あり先々代光燕後を繼ぎ明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる長男光昂之を繼ぎ次で君に至る君は光昂の長男にして明治四十年八月十三日を以て生れ昭和七年家督を相續襲爵仰付けらる家族は尚弟昂式（大四、一一生）同永胤（同六、六生）あり（名古屋市東區自驗町四ノ五）

参照＝※伊東郁二※池田正信の項

石河有鄰（イシカワ ユウリン）（正德）　日本畫家　愛知縣士族

妻　れい　明一六、五生、岐阜、日比與左衛門三女
男　正滿　明四〇、一生

君は愛知縣士族石河正基の三男にして明治三年五月十四日を以て生れ大正五年先代正周の後を承け家督を相續す日本畫家にして號を有鄰と稱す家族は尚三男正利（大四、五生）四男正照（同七、九生）先代正周養母しやう（明八、一〇生、愛知、高木金長女）ありA三三四（名古屋市西區枇杷島町一五〇電西三四二五）

石北熊五郎　上毛銀行㈱常務取締役

妻　タネ　明二三、八生、養父榮吉二女
女　はる子　大三、一生

女　秀子　大六、一〇生

君は群馬縣人小澤作郎の三男にして明治二十一年二月田中廉治に二女齋子（同四四、二生）は鳥取縣人石井春平を以て生れ先代榮吉の養子となり大正十二年家督を相續す現時上毛銀行常務取締役たり家族は尚五女利子（昭二、二生）あり（群馬縣群馬郡澁川町）

石倉小三郎（イシクラ こさぶろう）　従四位勳三等、高知高等學校長　東京府士族

妻　たか　明二一、三生、靜岡、窪田豐作養母、東京音樂學校出身
男　一郎　明四一、六生、經濟學士
女　多美　明四四、六生、津田英學塾出身

君は東京府士族石倉忠德の長男にして明治十四年六月十五日を以て生れ同二十四年祖父忠郎の後を承け家督を相續す同三十七年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し大學院に入る同四十年第四高等學校教授に任ぜられ第七高等學校造士館教授を經て昭和七年高知高等學校長に轉ず其間第八高等學校教授に任じ獨逸語研究の爲二回獨逸に留學せりA一五〇（高知市江ノ口官舍電一二九四）

石倉俊寛（イシクラ としひろ）　従四位勳三等功五級、海軍主計少將、松江市長、松江商工會議所顧問、島根縣士族

養母　ヨシノ　嘉永四、四生、島根、近藤清衛長女
妻　トミ　明一七、一〇生、島根、平林壽之助長女
男　俊雄　明四一、八生
女　美代子　明四三、四生
男　寛治　明四五、六生
　　益隆　大三、七生

君は島根縣人青野林平の三男にして明治十三年二月十八日を以て生れ先代益識の養子となり昭和二年家督を相續す明治三十四年和佛法律學校に學び同年海軍少主計官練習所主計候補生となり同三十六年海軍主計官練習所主計候補生學生教程を卒業し海軍少主計に任じ次で大正十五年同少將に累進し昭和二年豫備役に入る昭和四年同八年再度松江市長に擧げられ傍ら松江商工會議所顧問たり家族は尚四男龍藏（大五、一二生）五男保賢（同七、一一生）二女登喜子（同一〇、七生）六男秀武（同一二、八生）七男孝昭（同一四、六生）八男宏平（昭二、五生）あり（松江市雲賀町五〇八電一三八）

石倉又左衛門　中武銀行㈱取締役、釀造業　埼玉縣在籍

妻　ひろ　明八、四生、埼玉、石川勝治妹
男　豊治　明三一、四生
　　利根川製藏長女
婿　いつ　明三一、六生、長男豊治妻、埼玉
女　繰　明四二、一二生
男　安治　明四五、七生
　　柳　大三、一二生

君は埼玉縣人先代又左衛門の長男にして明治七年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名德太郎を改め襲名す釀造業を營み傍ら中武銀行取締役にして彙に縣下の多額納稅者たり家族は尚五男常治（大七、八生）孫郁子（同九、三生、長男豊治長女）同登久治（同一一、八生、同長男）同富美子（同一三、七生、同二女）同政治（同一五、三生、同二男）同寛治（昭三、四生、同三男）同千代治（同五、二生、同四男）あり長女たね（明二七、一生）は東京府人戸部重吉長男重三に二女ちか（同二九、三生）は埼玉縣人永島清藏に三女岩（同四〇、四生）は同縣人永島榮治に嫁し二男武次（同三三、一二生）は分家し三男正治（同三六、六生）も亦同妻せつ（同三五、四生、埼玉、松本良作長女）を伴ひ分家せり（埼玉縣北足立郡平方町）

石藏利藏　石藏屋、酒造業　福岡縣在籍

母　イシ　明一七、九生
妻　エイ　明四一、一二生
男　利光　昭三、一〇生

君は福岡縣人石藏帝助の二男にして明治三十八年六月八日を以て生れ大正五年祖父利八の後を承け家督を相續す石藏屋と稱し酒造業を營む叔母チヨ（明三〇、三生）は分家せりA三一二一B三八九（福岡市大濱町四ノ六二電七八三）

石黒伊太郎　日本紙工會社員　東京府在籍

妻　ひで　明一六、四生、東京、尾崎忠照三女
男　太郎　大八、一〇生

君は東京府人石黒伊右衛門の長男にして明治九年二月二日を以て生れ同三十四年家督を相續す現時日本紙工會社員たりA八七七（東京市豐島區巣鴨五ノ一一六二）

石黒義平　東海窯業、共同印刷各㈱取締役、增田屋支配人、神奈川縣在籍

妻　トヨ子　明二四、九生、神奈川、感見宗之助五女

女　由岐子　大七、八生、鶴見高女在學

君は神奈川縣人石黒七郎の二男にして明治十七年十月二十七日を以て生れ後ち分れて一家を創立す夙に學業を卒へて實業界に志し同三十八年横濱市中區本町四丁目增田屋に入店爾來勤續すること三十年卓越せる手腕を發揮してよく業容の展開を計り現に其の支配人として廣く内外の信望を集め傍ら前記各會社の重役の任に在りて夫々其の經營の樞機に參畫し圓熟せる手腕德望を稱せらる趣味として圍碁を好むA一二九（横濱市中區本牧和田三五）

石黒九一　三菱電機會社長崎製作所技師　東京府士族

祖母　八重　明一一、八生、東京、吉田文治長女
妻　菊　明三一、一一生、東京、福井菊三郎二女
男　督雄　大八、一二生
女　千鶴子　大七、一〇生

君は故貴族院議員工學博士石黒五十二の長男にして明治二十四年五月五日を以て生れ大正十一年家督を相續す同四年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し現時三菱電機會社長崎製作所技師たり家族は尚二男富治雄（大一一、一生）二女田鶴子（同一二、一〇生）三女豐子（同一四、一〇生）三男敏（昭五、一二生）弟九五（明二八、一生）同妻勝代（同三七、五生、東京、吳大五郎二女）及其三女弟百十一（同四四、三生）あり弟九十九（同三二、二生）は大阪府人浮田田鶴の養子となり姉登喜（同一七、一一生）は三重縣人瀬古孝之助に妹美代子（明三四、二生）は山梨縣人三神吾朗に嫁せり（長崎市片淵町一ノ二八）

参照＝瀬古孝之助、綱井菊三郎※木村久壽彌太※田島繁二の項

石黒恰　石黒保險事務所、保險代理業　東京府在籍

妻　こう　明二八、二生、愛知、石黒新次郎三女
男　一郎　大七、一二生

君は愛知縣人荒井鶴松の長男にして明治二十年七月二十日を以て生れ先代勇次郎の養子となり昭和四年家督を相續す石黒保險事務所と稱し保險代理業を營む家族は尚二男守（大九、一一生）長女久子（同一一、一〇生）二女靜子（同一四、三生）三女清子（同一五、七生）三男和夫（昭三、九生）庶子專一（大六、二生、生母、山梨井上みつ）あり養父石黒勇次郎（明元、九生）と共に分家し（同元、三生、岐阜、近藤佐兵衛長女）と共に分家し庶子俊雄（大四、一生、生母、山梨、井上みつ）は山梨縣人井上ゆくの養子になれりA三二〇B一七八（東京市日本橋區小網町三ノ一八電茅場町三四六四）

石黒七三郎　動七等、山形縣參事會員、東銀行、田口商會、日本エタニットパイプ各㈱取締役、滿洲セメント、山形製紙各㈱監査役、宮内製絲所養代表社員、製絲並兼吳服太物商　山形縣在籍

妻　とと　明一一、四生、山形、川合太兵衛長女

君は山形縣人先代七三郎の長男にして明治七年五月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名眞吉を改め襲名す製絲業及吳服太物商を營み傍ら前記銀行會社の重役に擧げられ推されて山形縣參事會員たり彙に山形縣多額納稅者に列し第百二十五銀行取締役たりしことあり家族は尚弟喜助（明二五、五生）同妻のぶ（同二九、五生、山形、島津五右衛門妹）及其二子同圭助（同三一、四生）同妻とみ（同三三、四生、山形、菅野彌五右衛門二女）及其三子亡叔父喜三郎妻とも（同二、八生、山形、伊藤長太郎養子）及其子女あり妹すけ（同一九、一一生）は山形縣人中村せい養子周助に從妹きち（同二六、九生、亡叔父喜三郎女）あり（東京府北多摩郡砧村電砧三五五）

参照＝石黒陽一の項

石黒正策　東京米穀商品取引所取引員　東京府在籍

妻　とり　明三六、一二生、東京、田口敏平妹

君は石川縣人石黒莊吉の二男にして明治三十年九月五日を以て生れ後分れて一家を創立す現時東京米穀商品取引所取引員たりA一三四〇B四二五（東京市日本橋區小網町二ノ三ノ四電茅場町三四九〇）

石黒大次郎　新潟縣會議員、百三十九銀行㈱專務取締役、農業、新潟縣在籍

妻　タダ　明二二、九生、新潟、殖栗順平長女
男　國男　明四〇、二生
婿　淑子　明四四、一生、長男國男妻、新潟內山省吾二女

君は新潟縣人石黒勘四郎の二男にして明治十五年三月を以て生れ同三十五年家督を相續す同年東京專門學校邦語政治科を卒業し祖業農を繼ぎ刈羽郡農會副會長縣農會議員たる傍ら百三十九銀行專務取締役を兼ぬ彙に縣參事會員衆議院議員等に擧げられ又柏崎米穀取引所理事に就任し屢々南洋濠洲を視察す家族は尚三男信郎（大四、九生）四男武久（同六、六生）三女フサ（同九、七生）五男五郎（同一三、五生）五女テル（昭三、一生）孫克朗（同四、一生、長男國男長男）あり長女アイ一三、三（明四四、四生）は新潟縣人押見文治郎に姉タツ（同通村）

石黒琢磨　松昌洋行㈱代表取締役、祿東汽船㈱取締役、岡山縣在籍

妻　ハマ　明三一、二生、鹿兒島、荻堯二女
男　寛　大九、一〇生

君は岡山縣人石黒涌一郎の三男同陽一の弟にして明治二十四年二月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚長女貞子（大一二、七生）二男隆（同一四、二生）三男潔（昭二、六生）四男毅（同五、二生）あり（東京府北多摩郡砧村電砧三五五）

参照＝石黒陽一の項

石黒爲次郎　前北海道炭礦汽船㈱取締役
東京府在籍
妻　すま　明五、二生、茨城、北越藤太郎養子
大一三、五生、廣岡、森元光太郎養子
二男
君は富山縣人石黒兵藏の二男にして明治二年十一月十一日を以て生れ大正元年兄松太郎方より分れて一家を創立す先是明治三十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し轟に北海道炭礦汽船會社取締役たりA九五七（東京市世田谷區野澤町一ノ二五六**電世田谷二一四一**）

石黒忠助　家主
東京府在籍
母　ハル　慶應元、一生、富山、美田文三郎長女
妻　芳枝　明二九、二生、富山、栗田佐一妹
男　鐵郎　大一一、六生
君は東京府人石黒忠七の三男にして明治十八年九月二十五日を以て生れ同三十九年家督を相續す家主たり家族は尙二男**次郎**（大一五、一一生）三男三郎（昭五、四生）四男數右（同七、八生）三女昌（同九、二生）あり（東京市麴町區中六番町二六**電九段二八二九**）

石黒忠篤　正三位勳三等、前農林次官
東京府華族
父　忠憲　弘化二、二生、現戸主
妻　光子　明二一、三生、男爵穗積重遠妹
男　孝次郎　大五、三生
女　モト子　大元、一二生
君は子爵石黒忠悳の長男にして明治十七年一月を以て生る同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業同年文官高等試驗に合格す同年農商務屬に入り農商務屬農務局事務官山林事務官農商務書記官農商務省參事官農林書記官同副業農政小作各課長等に歷任し大正十三年農務局長に進み昭和二年貴族院議員に轉じ同四年再び農務局長となり同六年農林次官に任ぜられ昭和九年七月齋藤內閣挂冠と共に官を辭す家族は尙三男光三（大八、二生）あり長女シゲ子（明四四、四生）は石川縣士族大幸勇吉長男甫に嫁せり（東京市牛込區揚場町一七

電牛込四九一）
參照＝子爵石黒忠悳、男爵穗積重遠、大幸勇吉※市河三喜※小野塚喜平次※澁澤元治※穗積律之助の項

石黒忠悳　正二位勳一等功三級、子爵、陸軍軍醫總監、樞密顧問官、議定官、宗秩寮審議官、東京府華族
男　篤　明一七、一生、正三位勳三等
君は新潟縣人平野順作の長男にして弘化元年一月十一日を以て生れ幼名を庸太郎と云ふ弱冠より草攘の說を唱へ國事に奔走し後江戸醫學所に入り業成りて教官となり維新後大學に教鞭を執り學生を監督し明治四年陸軍に轉じ一等軍醫軍醫察權助に任じ軍醫制度を創設し果遂軍醫總監に陞り陸軍省醫務局長たり又兼て大學醫學部總理內務省衞生局次長の職にあり同二十八年功三級を賜ひ華族に列し男爵を授けられ大正九年子爵に陞さる明治三十五年貴族院議員に擧げられ議に日本赤十字社々長たりしが現時樞密顧問官議定官宗秩寮審議官たり長女孝（明一五、四生）あり（東京市牛込區揚場町一七**電牛込**

石黒傳六　石川縣多額納稅者、金澤商工會議所副會頭、北陸銀行取締役、冷藏㈱社長、加州鐵道㈱取締役、昭和製氷㈱、金澤電氣軌道㈱、七尾セメント㈱、小屋水力電氣㈱、石川縣在籍、藥種商、石川縣士族
母　こう　安政元、四生、石川、山田嘉兵衞姉
妻　雪子　明三〇、一生、石川、上田計二三女
男　壽　大六、一二生
君は石川縣人先代傳六の長男にして明治二十四年二月を以て生れ同四十三年家督を相續し襲名して前名景太郎を改む大正四年金澤醫學專門學校藥學科を卒業し福久屋と稱し藥種商を營み傍ら前記各會社の重役にして推されて金澤商工會議所副會頭日本放送協會東海支部理事等の要職を兼ね石川縣多額納稅者に列す家族は尙二男安（大九、七生）長女順子（同一三、一〇生）三男德三郎（昭三、九生）あり妹久子（明二六、九生）は石川縣人山田彦三郎に嫁せりA四四八〇B四六〇（金澤市尾張町一一**電二六六**）
參照＝※清水茂松の項

石黒時次郎　正五位勳三等、陸軍技術本部員、富山縣在籍
妻　アヤ　明二七、一〇生、富山、北村久次郎二女
男　貞治　大八、九生
君は富山縣人現戸主石黒七次の弟にして明治十七年三月を以て生る同四十五年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業陸軍技師に任じ陸軍造兵廠東京工廠員を經て現時前記の職にあり二男健次郎（大四、一一生）は大阪府人島川ハルの養子となれり（東京市中野區昭和通三ノ六〇）
參照＝北村久次郎、島川健次郎の項

石黒俊夫　三菱銀行大森支店長
愛知縣在籍
妻　光子　明二七、四生、島根、堀信一妹、神戸女學院出身
男　宏太　大一三、四生
君は愛知縣人石黒禮吉の二男にして明治二十五年一月を以て生れ大正十年兄雅夫方より分れて一家を創立す同六年東京帝國大學法科大學を卒業し三菱銀行に入り京都神戸小樽各支店を經て現時同行大森支店長たり家族は尙長女京子（大一一、一〇生）二男俊吾（同一四、九生）三男英紀（昭八、二生）あり（東京市荏原區中延町一〇八三**電荏原三四九八**）
參照＝※伊東治郎の項

石黒彦三郎　名古屋株式取引所取引員
愛知縣在籍
妻　いち　明六、一生、愛知、落合與七長女
男　定一　明二九、三生
婦　しづ　明三七、七生、長男定一妻、愛知小川正太郎姉
女　しん　明三二、五生
君は愛知縣人石黒平八の長男にして慶應二年一月四日を以て生れ明治四年家督を相續す現時名古屋株式取引

所取引員たり家族は尙孫直彦（大一二、一〇生、長男忠一長男）あり長女ひさ（明二一、五生）は京都府士族竹端全逸弟道義に嫁し養子昌子（大七、一〇生、愛知小川鶴三郎孫）はその養子となり姉うた（文久三、一〇生）は其一子を伴ひ分家し叔母いよ（天保一一、九生）も亦分家し妹つる（明三、五生）は三重縣人矢野資孝に嫁し甥伊三郎（明一九、一〇生、姉うた私生子）は愛知縣人渡邊順次郎に婿貞子（同二三、六生、同上）は同縣人蛭原久四郎に各養子となれりA八〇九B二七四（名古屋市中區南伊勢町二ノ七**電中二九〇**）

石黒英彦　從四位勳三等、岩手縣知事
廣島縣士族
妻　萬千代　明二三、一生、長崎、里口常松長女
男　英毅　明四〇、四生
女　昭子　明四五、二生
男　威次郎　大三、四生
君は廣島縣士族石黒清左衞門の五男にして明治十七年十二月二十日を以て生れ大正九年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す文部內務各屬秋田群馬各縣理事官朝鮮總督府道事務官內務局地方課長に歷任し同十二年歐米各國へ出張す臺灣總督府文敎局長同內務局長奈良縣知事を經て昭和六年十二月岩手縣知事に任ぜらるる家族は尙三男**行彦**（大六、一生）二女美穗子（同八、二生）四男宏彦（同一〇、一〇生）五男彌彦（同一二、一一生）六男榮彦（同一五、三生）三女八千代（昭四、三生）あり（盛岡市內丸縣知事官舍**電一五**）

石黒陽一　松昌洋行㈱取締役、極東汽船㈱監査役、岡山縣士族
母　織緒　元治元、一二生、兵庫、士、坂本一哉妹
妻　ウメコ　明二〇、三生、廣島、吉岡美豊妹
女　春　明四〇、一一生
君は岡山縣士族石黒涌一郎の長男にして明治十四年十一月十二日を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十八年關西大學專門部法科を卒業し現時前記各會社の重役たり父涌一郎（安政元、一生）は弟義郎（明二〇、七生）同琢磨（同二四、二生）同忍（同二六、一生）妹多喜（同二二、一一生）を伴ひ岡山縣人石黒喜平治の養子となり叔父行平（元治元、四生）同妻みね（慶應元、六生）同妻すま（明二一、五生）は京都府士族山內正致長女ひさ（明二一、五生）は分家せり（岡山市天瀨町）
參照＝石黒琢磨の項

石毛竹治郎　安田信託㈱常務取締役
千葉縣在籍
妻　さだ　明二三、七生、千葉、細矢松五郎五女
男　壽一郎　明四四、一〇生
男　毅　大三、一〇生
君は千葉縣人石毛牛治の二男にして明治十九年十月を以て生れ大正二年兄松治郎方より分れて一家を創立す同年東京高等商業學校を卒業し安田信託會社に入り東京支店支配人を經て取締役兼本店支配人就任等で常務取締役となり今日に至るA四六五（東京市中野區桃園町二七**電中野二四三〇**）

石郷岡岩男　正五位勳五等、檢事、東京控訴院檢事、青森縣士族
父　文吉　文久三、八生
妻　ゆき　明三〇、七生、青森、長見精二女
男　克男　大一〇、二生
君は青森縣士族石郷岡文吉の長男にして明治二十一年四月を以て生れ後家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任じ札幌地方兼同區大阪地方兼同區東京區各裁判所檢事を歷補し昭和三年東京地方兼同區裁判所檢事に補せられ現時東京控訴院檢事たり家族は尙長女**久美**（大一二、八生）弟正男（同二六、五生）あり（盛岡市內丸縣知事官舍**電一五**）

石坂繁太郎　呉服商
兵庫縣在籍
妻　す丞　明一一、一生、兵庫、岡本元吉妹
男　正雄　明三〇、一〇生
婦　まさ　明三六、三生、長男正雄妻、兵庫原長次郎三女
男　利雄　明四二、六生
男　正　明四五、一生
女　シズ子　大五、七生
君は兵庫縣人石坂利平の二男にして明治六年三月二十八日を以て生れ後分れて一家を創立す呉服商を營む家族は尙六男四郎（大九、三生）孫富在子（同一四、一生、長男正雄長女）同美知子（昭二、二生、同二女）同勉（同五、五生、同長男）ありA四三七（神戸市兵庫區塚本町五ノ二三ノ二三）

石坂伸吉　正四位勳三等、醫學博士、金澤醫科大學長兼教授、富山縣在籍
妻　蝶　明二二、二生、山形、長澤作彌姉
君は富山縣士族石坂專之介の三男にして同友太郎の弟君は青森縣士族石郷岡平次郎の長男にして文久三年八月一日を以て生る明治十四年東奥義塾を卒へ以來地方自治に貢献する處尠からず町會議員市會議員郡會議員縣會議員等に擧げられ數度弘前市名譽職に推され縣會議長の要職に就く又明治四十一年衆議院議員に選ばる大正七年弘前市長に選任同十五年まで二期間其職にあり更に昭和九年六月市長に選任せられ今日に至る尙政友會青森支部顧問たり（弘前市代官町二二）
參照＝石郷岡岩男の項

石坂橘太郎　家主
東京府在籍
妻　ゆき　明一〇、一生、東京、齋田嵐知妹
男　豊生　明三三、九生
婦　順　明四二、二生、長男豊生妻、三重弓削庇治郎三女
君は東京府人石坂嘉十郎の二男にして文久元年四月十四日を以て生れ明治三十一年分れて一家を創立す家主たり家族は尙孫美奈子（昭四、四生、長男豊生長女）同美都（同八、一〇生、同二女）あり（東京市牛込區矢來町九〇）

石坂繁太郎　呉服商
兵庫縣在籍
妻　す丞　明一一、一生、兵庫、岡本元吉妹
男　正雄　明三〇、一〇生
婦　まさ　明三六、三生、長男正雄妻、兵庫原長次郎三女
男　利雄　明四二、六生
男　正　明四五、一生
女　シズ子　大五、七生
君は兵庫縣人石坂利平の二男にして明治六年三月二十八日を以て生れ後分れて一家を創立す呉服商を營む家族は尙六男四郎（大九、三生）孫富在子（同一四、一生、長男正雄長女）同美知子（昭二、二生、同二女）同勉（同五、五生、同長男）ありA四三七（神戸市兵庫區塚本町五ノ二三ノ二三）

石坂伸吉　正四位勳三等、醫學博士、金澤醫科大學長兼教授、富山縣在籍
妻　蝶　明二二、二生、山形、長澤作彌姉
君は富山縣士族石坂專之介の三男にして同友太郎の弟

なり明治十四年八月を以て生れ先代ヨキの養子となり同十五年家督を相續す同四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し同四十三年獨逸に留學を命ぜられ大正元年金澤醫學專門學校教授に任ぜらるる同三年歸朝し同六年醫學博士の學位を授けられ同十二年金澤醫科大學教授に任じ昭和七年同大學長に進み教授を兼ぬ（金澤市西町三番町電八一九）

参照＝石坂友太郎の項

石坂善次郎

正四位勳二等功三級、陸軍中將
東京府在籍

男　寛一郎　明四三、四生、長男寛一郎妻、東京、野村休太郎長女
婦　春子　明四三、一一生

君は兵庫縣人山本庄五郎の二男にして明治四年八月三日を以て生れ同十五年陸軍々醫總監石坂惟寛の養子となり後分れて一家を創立す同二十三年陸軍士官學校を卒業し翌年陸軍砲兵少尉に任じ大正九年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し參謀本部々員出征第二軍參謀露國駐在員野砲兵第五聯隊長第五師團參謀長露國大使館附武官及重砲兵第一旅團長西比利亞出征軍司令部附參謀本部附由良要塞司令官等に歴補し大正十二年豫備役編入仰付けらる養に遊就館長たり家族は尚三男正義（大四、六生）四女泰子（同一三、四生）孫元雄（昭六一生、長男寛一郎長男）同成子（同八、四生、同長女）あり二女淑子（明三七、一一生、三輪田高女出身）は醫學博士額田豊弟陸軍歩兵大尉坦に三女英子（同四二、四生）は麻井縣人松村知勝に嫁せりA一七〇（東京市品川區五反田五ノ六八電高輪四三三三）

参照＝額田豊の項

石坂泰三

第一生命保險（互）取締役兼支配人
埼玉縣在籍

妻　雪　明二七、六生、愛知、織田一長女
男　一義　大一〇、三生
女　智子　大八、四生

君は埼玉縣人石坂義雄の三男同弘毅の弟にして明治十九年六月を以て生れ大正六年分家す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大學院に入り財政學を專攻す留學早稲田大學講師逓信省爲替貯金局振替貯金課長等を經て第一生命保險相互會社に入り現に同社取締役兼支配人たり家族は尚二男泰介（大一二、九生）三男泰夫（昭三、二生）四男泰彦（同五、二生）ありA九二〇〇（東京市中野區千光前町一四電四谷七〇一）

参照＝石坂弘毅※湊旭江巷一の項

石坂友太郎

正三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學名譽教授、富山縣士族
葬　嘉永二、四生、石川、士、森祐吉
母　叔母
妻　居賀　明一九、九生、高橋順太郎長女
男　正雄　明三八、三生
女　京　明四四、五生、縣立綱岡高女出身
男　道雄　大三、二生

君は富山縣士族石坂惟之介の長男同伸吉の兄にして明治六年一月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し同三十七年藥物學研究の爲獨逸に留學し歸朝後都帝國大學福岡醫科大學教授等に歴任し九州帝國大學名譽教授の名稱を授けらる長女愛（明四一一〇生、奈良女高師出身）は醫學士菊地俊雄に二女郁（同四二、一〇生、福岡縣立高女出身）は貴族院議員江口定條に妹照は醫學博士藤井壽松に嫁せり（福岡市新大工町一一五電二九四二）

参照＝石坂伸吉、江口定條の項

石坂豐一

正五位勳三等、衆議院議員（富山縣選出）、富山縣在籍

妻　ミチ　明一九、六生、東京、竹田復姉、
男　修一　明二八、九生　東京女高師出身、前同校教授
婦　春子　明三五、四生、長男修一妻、貴族院議員二上兵治長女

君は富山縣人石坂嘉右衛門の五男にして明治七年五月三日を以て生れ同三十六年姉ツヤの後を承けて家督を相續す夙に同志社に學び富山縣事務官補同縣婦負郡長同理事官樺太廳事務官兼專賣局副參事に歴任し又宮内省獵場監被仰付大正十三年以來衆議院議員に當選する事三回現に其任にあり立憲政友會に屬す昭和七年文部參與官に任ぜられしも同九年七月齋藤内閣挂冠に際し官を退く蘇に滿鮮蒙古方面を視察し又列國議會同盟會議に參列し歐米各國を歴遊す家族は尚孫誠一（大一一、一〇生、長男修一長男）同幸二（同一四、九生、同二男）あり二男安正（明三一、三生）は富山縣人谷欽太郎の養子となれり（東京市目黒區洗足町一四六八電高輪三六六〇）

参照＝二上兵治※湯河元威の項

石坂初五郎

東京市在原區會議員、地主
東京府在籍

妻　はつ　明八、三生、東京、西村清三郎姉
男　秋太郎　明三一、九生
婦　たけ　明三二、二生、二男秋太郎妻、東京、岸友次郎孫
男　榮三郎　明四〇、五生
女　チエ　明四三、一生
女　ミキ　大二、二生
女　サエ　大四、一二生

君は東京府人石坂鍋次郎の長男にして明治元年六月二十日を以て生れ同十七年家督を相續す地主にして區内より推されて現に在原區會議員たり家族は尚孫君江（大一五、一生、二男秋太郎長女）同京子（昭五、三生同二女）妹多津（明九、九生）ありA五三九（東京市在原區小山町四一三電在原二八七七）

石坂弘毅

正四位勳二等功五級、陸軍少將
埼玉縣在籍

妻　きく　明二二、九生、靜岡、野田洪哉孫
男　公成　大一四、一二生
女　篤子　大二、四生
女　巷子　大五、一〇生

君は埼玉縣人石坂義雄の長男同泰三の兄にして明治十一年三月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十三年陸軍歩兵少尉に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間日露日獨戰役に出征し本郷聯隊區司令官歩兵第六十八聯隊長同第二十二旅團長第八師團司令部附等を歴補す現時豫備役たり家族は尚四女節子（大一二、六生）三男和弘（昭五、五生）あり弟定義（明一三年生）同銀五（同二七、三生、大藏省銀行檢査官法學士）同祿朗（同三〇、一生、横濱正金銀行員法學士）は各分家し妹松江（同一五、九生）は東京府人醫學博士堀江巷一の母にして長女義子（同四四、一生）は醫學博士堀内信に妹貞子は神奈川縣人鈴木朝太郎に嫁せり（東京府北多摩郡武蔵野町吉祥寺一六八五）

参照＝石坂泰三、堀江巷一の項

石坂正信

青山學院名譽院長
東京府士族

妻　田鶴　明九、二生、東京、士、山東宗姉
男　直正　明三〇、七生、青山學院出身
婦　憲子　明三七、二生、長男直正妻、東京藤本泰太郎二女
女　千代　明四〇、四生、東京女子大出身

君は舊田安家の家臣先々代朝和の三男にして萬延元年十月五日を以て生れ先代兄正虎の後を享け家督を相續す年少にして基督教に歸依し米國に留學しジョンスホプキンス大學を卒業しドクトル・オブ・フィロソフィーの學位を受く青山學院が未だ東京英和學校と稱する當時より同校に職を奉じ大正十年同學院長に推されて現時同學院名譽院長たり閑暇讀書に趣味を有す家族は尚孫正明（昭四、三生、長男直正長男）あり長女愛（明三三、一生）は千葉縣人里見四郎吉に嫁せり（東京市世田谷區新町一ノ九〇電世田谷二一四八）

石坂養平

埼玉縣多額納税者、織谷製糸㈱取締役、武州銀行、武州貯蓄銀行、埼玉縣農會長、農業、埼玉縣在籍

母　その　明二六、八生、埼玉、石坂喜平次女
妻　ふみ　大六、二生
男　金衛　明三〇、七生、埼玉、石坂豊人四女

君は埼玉縣人石坂金一郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す同二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し家業農を繼ぐ現に埼玉縣多額納税者にして直接國税七百五十六圓を納め前記銀行會社の重役に擧げられ埼玉縣農會長たり蘇に埼玉縣會議員に當選し副議長等に選ばれ昭和三年推されて衆議院議員に當選す又評論家として知られ著書數種あり家族は尚二男謹之助（大九、二生）四男昭光（昭二、二生）五男進（同五、九生）弟方平（明二八、一二生）同妻敏子（同三八、二生、東京、石坂橘樹長女）及其三子あり（埼玉縣大里郡奈良村）

参照＝※安東昌喬の項

石埼震二

妻　ゆた　明一五、三生、兵庫、柴原政太郎
男　一　明三八、九生
男　保國　明四一、三生
男　三郎　大二、二生
女　しう子　大四、五生
女　いし子　大八、一〇生

君は富山縣人石埼謙の二男にして明治六年五月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學獨法科を卒業し現時大阪陶業會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尚四女すみ子（大一二、七生）あり長女さき子（明四三、一二生）は石川縣士族寺西秀武長男秀人に嫁せり（大阪市住吉區住吉町二〇一一電天王寺三二五）

石崎石三

大阪陶業㈱取締役、日清汽船㈱監査役、大阪府在籍

妻　千代　明一二、一二生
君は新潟縣人石崎龍太郎の四男にして明治十八年十月二十九日を以て生れ同四十三年祖父和三郎より分れて一家を創立す小松屋と稱し東京株式取引所短期實物取引員にして傍ら前記各會社の重役たり蘇に中央證券會社の重役に擧げられ埼玉縣農會長たり蘇に埼玉縣會議員に當選し副議長等に選ばれ昭和三年推されて衆議院議員に當選す又評論家として知られ著書數種あり家族は尚二男謹之助（大九、二生）四男昭光（昭二、二生）五男進（同五、九生）弟方平（明二八、一二生）同妻敏子（同三八、二生、東京、石坂橘樹長女）及其三子あり（埼玉縣大里郡奈良村）

参照＝※安東昌喬の項

石埼震二

妻　ゆた　明一五、三生、兵庫、柴原政太郎
男　一　明三八、九生
男　保國　明四一、三生
男　三郎　大二、二生
女　しう子　大四、五生
女　いし子　大八、一〇生

君は富山縣人石埼謙の二男にして明治六年五月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學獨法科を卒業し現時大阪陶業會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尚四女すみ子（大一二、七生）あり長女さき子（明四三、一二生）は石川縣士族寺西秀武長男秀人に嫁せり（大阪市住吉區住吉町二〇一一電天王寺三二五）

石崎石三

東京乗合自動車、東京麻糸紡績合資專務取締役、國民圖書、大山鋼索鐵道、ラヂウム鑛業、島燐酸各㈱監査役、小松屋株式店、東京株式取引所取引員、東京府在籍

妻　千代　明二二、一二生
君は新潟縣人石崎龍太郎の四男にして明治十八年十月二十九日を以て生れ同四十三年祖父和三郎より分れて一家を創立す小松屋と稱し東京株式取引所短期實物取引員にして傍ら前記各會社の重役たり蘇に中央證券會社の重役に擧げられ埼玉縣農會長たり蘇に埼玉縣會議員に當選し副議長等に選ばれ昭和三年推されて衆議院議員に當選す又評論家として知られ著書數種あり家族は尚二男謹之助（大九、二生）四男昭光（昭二、二生）

石崎喜兵衛

石崎㈱取締役兼酒造部主任
大阪府在籍

妻　シヅ　明二四、一二生、大阪、福本元之助長女、大阪府立清水谷高女出身
男　喜一郎　明四五、七生、關西學院高商部出身

取締役兼支配人たり家族は尚二男泰介（大一二、九生）三男泰夫（昭三、二生）四男泰彦（同五、二生）ありA九二〇〇（東京市中野區千光前町一四電四谷七〇一）

参照＝石坂弘毅※湊旭江巷一の項

石坂友太郎

正三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學名譽教授、富山縣士族
葬　嘉永二、四生、石川、士、森祐吉
母　叔母
妻　居賀　明一九、九生、高橋順太郎長女
男　正雄　明三八、三生
女　京　明四四、五生、縣立綱岡高女出身
男　道雄　大三、二生

君は富山縣士族石坂惟之介の長男同伸吉の兄にして明治六年一月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し同三十七年藥物學研究の爲獨逸に留學し歸朝後都帝國大學福岡醫科大學助教授に任ぜられ同三十七年藥物學研究の爲獨逸に留學し歸朝後都帝國大學福岡醫科大學教授等に歴任し九州帝國大學名譽教授の名稱を授けらる長女愛（明四一一〇生、奈良女高師出身）は醫學士菊地俊雄に二女郁（同四二、一〇生、福岡縣立高女出身）は貴族院議員江口定條に妹照は醫學博士藤井壽松に嫁せり（福岡市新大工町一一五電二九四二）

参照＝石坂伸吉、江口定條の項

石坂豐一

正五位勳三等、衆議院議員（富山縣選出）、富山縣在籍

妻　ミチ　明一九、六生、東京、竹田復姉、
男　修一　明二八、九生　東京女高師出身、前同校教授
婦　春子　明三五、四生、長男修一妻、貴族院議員二上兵治長女

君は富山縣人石坂嘉右衛門の五男にして明治七年五月三日を以て生れ同三十六年姉ツヤの後を承けて家督を相續す夙に同志社に學び富山縣事務官補同縣婦負郡長同理事官樺太廳事務官補同縣婦負郡長同理事官樺太廳事務官兼專賣局副參事に歴任し又宮内省獵場監被仰付大正十三年以來衆議院議員に當選する事三回現に其任にあり立憲政友會に屬す昭和七年文部參與官に任ぜられしも同九年七月齋藤内閣挂冠に際し官を退く蘇に滿鮮蒙古方面を視察し又列國議會同盟會議に參列し歐米各國を歴遊す家族は尚孫誠一（大一一、一〇生、長男修一長男）同幸二（同一四、九生、同二男）あり二男安正（明三一、三生）は富山縣人谷欽太郎の養子となれり（東京市目黒區洗足町一四六八電高輪三六六〇）

参照＝二上兵治※湯河元威の項

石坂初五郎

東京市在原區會議員、地主
東京府在籍

妻　はつ　明八、三生、東京、西村清三郎姉
男　秋太郎　明三一、九生
婦　たけ　明三二、二生、二男秋太郎妻、東京、岸友次郎孫
男　榮三郎　明四〇、五生
女　チエ　明四三、一生
女　ミキ　大二、二生
女　サエ　大四、一二生

君は東京府人石坂鍋次郎の長男にして明治元年六月二十日を以て生れ同十七年家督を相續す地主にして區内より推されて現に在原區會議員たり家族は尚孫君江（大一五、一生、二男秋太郎長女）同京子（昭五、三生同二女）妹多津（明九、九生）ありA五三九（東京市在原區小山町四一三電在原二八七七）

石坂弘毅

正四位勳二等功五級、陸軍少將
埼玉縣在籍

妻　きく　明二二、九生、靜岡、野田洪哉孫
男　公成　大一四、一二生
女　篤子　大二、四生
女　巷子　大五、一〇生

君は埼玉縣人石坂義雄の長男同泰三の兄にして明治十一年三月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十三年陸軍歩兵少尉に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間日露日獨戰役に出征し本郷聯隊區司令官歩兵第六十八聯隊長同第二十二旅團長第八師團司令部附等を歴補す現時豫備役たり家族は尚四女節子（大一二、六生）三男和弘（昭五、五生）あり弟定義（明一三年生）同銀五（同二七、三生、大藏省銀行檢査官法學士）同祿朗（同三〇、一生、横濱正金銀行員法

女　やの　明四三、一生、大阪府立清水谷高女出身
男　正治　大三、六生、大阪帝大工學部在學

君は大阪府人石崎喜兵衛の三男にして明治十九年二月二十三日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名喜四郎を改め襲名す現時「澤の鶴」醸造元石崎會社取締役にして酒造部主任を兼ぬ（大阪市住吉區帝塚山中一ノ五七電天下茶屋二〇五三）

石崎久三郎

石崎商店、安東産材各㈱代表取締役、滿洲杭木㈱取締役、岐阜縣在籍

母　いし　嘉永七、八生、佐藤勘兵衛二女
妻　すみ　明一〇、一〇生、岐阜、林豊吉四女
女　千代　大六、一生

君は岐阜縣人石崎信次郎の長男にして明治八年六月を以て生れ大正四年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして蘇に豆滿江林業安東運送鴨綠江木材朝鮮杭木安東煉瓦各會社の重役たり家族は尚亡弟甚吾妻とく子（明三一、七生、石川、吉川義治長女）及其子女あり弟清四郎（同一七、一一生）同妻榮（同二九、一〇生、長澤紀代司長女）は共に分家せり（滿洲國安東縣市場通二）

石崎健之助

東亞建設工業㈱代表取締役
東京府在籍

妻　トメ　明三六、一生、東京、小山喜太郎妹
男　昭　昭三、三生
女　康子　明四五、三生
女　福子　大四、二生

君は東京府人石崎榮助の四男にして明治二十年七月十六日を以て生れ大正十二年兄龜次郎方より分れて一家を創立す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し現時東亞建設工業會社の代表取締役たり家族は尚三女和子（昭五、四生）あり（東京市四谷區大番町一九電四谷二四九四）

石崎丈太郎

東京府多額納税者、忍商業銀行㈱頭取、足利銀行㈱取締役、忍貯金銀行㈱相談役、東京府在籍

妻　ろく　明九、六生、栃木、石崎多助二女
男　政一郎　明二八、一二生、東大講師、法學士、佛國法學博士
婦　朝子　明三九、七生、長男政一郎妻、東京、鹽原又策長女、聖心女子學院出身
男　條次　明三一、一生、東京音樂學校出身
男　夏夫　明四四、八生、日大在學
男　四郎　大二、九生、早大在學
女　梅代　大五、一生、雙葉高女出身

君は埼玉縣士族田島竹之助の弟にして明治二年五月二十一日を以て生れ先代政藏の養子となり大正四年家督を相續す先代政藏は栃木縣小山町の産少壯東京に出で具さに辛酸を甞め後實業界に入り其豪膽にして機敏なる才能は忽ち斯界に重要視せらるゝに至り又郷里に小山銀行を創立せり君は明治二十八年日本法律學校を卒業し實業界に投じ同三十六年浪速銀行に入り後豐國銀行に轉じ現時前記各銀行の重役にして東京府多額納税者に列す家族は尚五男彰(大七、九生)孫陽子(昭五、四生、長男政一郎長女)あり長女美代(明三二、七生)は東京府人川崎榮助四男計之助に三女竹代(同四一、一〇生、東京女學館出身)は子爵稻垣重厚に嫁せりA九七五七(東京市本郷區駒込西片町一〇ロノ一〇號電小石川五六〇〇)
參照=子爵稻垣重厚、川崎榮助、鹽原又策※伯爵林博太郎※福井源次郎の項

石崎清助
新潟土地建物㈱取締役、東棉拓殖鐵道、中央商會、石油共同販賣所各㈱監査役、新潟縣在籍

養父　甚藏　安政六、五生、新潟、荒木甚七二男、現戸主
養母　カノ　慶應元、一一生、新潟、藤塚八平長女
妻　ハツ　明二一、一〇生、養父甚藏長女
男　政治　大九、四生
女　敏　大三、四生

君は新潟縣人塚野久助の弟にして明治十七年三月を以て生れ同三十九年石崎甚藏の養子となる現に前掲諸會社の重役にして嚢にオリエンタル自動車會社代表取締役たりし事あり又嘗て新潟市參事會員に選ばる家族は尚二男政弘(大一〇、八生)三女澄子(同一二、一生)三男政義(同一五、五生)あり長女セツ(明四三、二生)は東京府人野村茂に嫁せり(新潟縣中蒲原郡新津町)

石崎千二
摩耶鋼索鐵道㈱取締役　岐阜縣士族

養母　濃　安政四、六生、岐阜、士、加納鉦司姉
妻　すゞ　明一〇、一一生、養父貞五郎三女
男　千仭　明二七、七生、醫學博士
婦　正子　明三五、一一生、長男千仭妻、大阪、天野均一長女
男　信夫　明三〇、九生、京都高藝出身
婦　詳子　明三七、三生、二男信夫妻、神奈川、大矢安太郎長女
男　千年　明三五、三生、京都繪畫專門學校出身
男　道也　明四一、三生、京大出身
男　允也　大二、二生

君は岐阜縣士族木村允信の弟にして明治五年七月を以て生れ先代貞五郎の養子となり同十二年家督を相續す夙に土木工學を修め山陽鐵道會社に入り技師となり後阪神電氣鐵道會社に轉じ土木課長及技師長に任ぜられ大正十四年八月阪神國道電軌會社の創立に際し專務取締役に就任次で大阪乘合自動車會社取締役たりしも現時摩耶鋼索鐵道會社取締役たり家族は尚孫圭子(大一二、一二生、長男千仭長女)同博子(同一四、六生、同二女)同光子(同一五、七生、同三女)同浩一(昭二、二生、二男信夫長男)同絢子(同三、九生、同長女)ありA一三八(西宮市川西町一四電一六八)

石崎仙太郎
石崎汽船㈱社長　愛媛縣在籍

父　兵太郎　萬延元、二生、現戸主、石崎汽船㈱相談役
母　ヨシ　明元、七生、愛媛、井手芳太郎二女
妻　茂子　明三二、一生、愛媛、伊藤信雄長女
男　洋一郎　大一一、一二生

君は愛媛縣人石崎平八郎の孫にして明治二十七年二月を以て生る大正四年東京高等商業學校を卒業し更に同校專攻部交通科に入り海運業を研究現時石崎汽船會社の社長たり家族は尚長女美津子(昭四、四生)あり姉チヱ(明二二、一生)は海軍々醫少將醫學士高橋通麿に同トシ(同二五、一生)は吳市長代議士法學士渡邊伍に妹ツヤ(同二八、一二生)は愛媛縣人武内胖吉長男正之輔に嫁し弟榮一(同三八、一生、石崎汽船㈱專務取締役大阪商大出身)同梧郎(同四〇、九生、石崎汽船㈱監査役經濟學士)同錄郎(同四五、五生、京都藥專出身)同七郎(大二、八生、北大在學)は各分家し同隣之助(明三二、一二生、石崎汽船取締役、工學士)同妻俊子(同四一、八生、愛媛、重松寅五郎六女)及弟金四郎(同三五、三生、石崎汽船㈱監査役、法學士)同妻なを(同四二、五生、東京、根岸鐵太郎長女)も亦其二女を伴ひ各分家せり(愛媛縣温泉郡三津濱町電二)
參照=渡邊伍の項

石崎忠八
石崎商店㈱社長、宇和島運輸㈱取締役、第二十九銀行、藤江土地各㈱監査役、藥種商、愛媛縣在籍

母　タダ　慶應二、四生、愛媛、野村幸市二女
妻　ツギ　明二二、一二生、大阪、松原與三吉三女
養子　各介　大五、一二生、愛媛、堀部俊介弟

君は愛媛縣人先代忠八の長男にして明治十六年十月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名虎市を改め襲名す現時藥種商を營み傍ら石崎商店社長の外前掲諸銀行會社の重役たり弟源吉(明二一、八生)は分家せり(宇和島市本町七六電五三・五四・五六)

石崎皆市郎
從五位勳六等、公證人　東京府在籍

妻　加壽惠　明二一、一二生、東京、恩地轍二女
男　和彥　大五、九生

君は鹿兒島縣人石崎榮吉の二男にして明治十四年十一月二十日を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す同四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ同八年臺灣總督府法院判事に任ぜらる爾來臺北臺中各地方法院判事高等法院覆審部臺北地方法院單獨部兼會議部各判官等に歴補す後官を辭して現時公證人たり家

族は尚長女富久子(大九、一生)あり(臺北市東門町一九一ノ二二)

石崎芳吉
正四位勳二等、農林技師、畜産局畜産課長、長崎縣士族

妻　きよ　明一八、一二生、千葉、鳥海才平長女
男　芳郎　明四三、一生
男　茂男　大元、九生
女　萬　大六、五生

君は長崎縣人石崎次郎太の三男にして明治十一年一月一日を以て生れ同二十三年兄喜代松の跡を承け家督を相續す同三十五年東京帝國大學農科大學を卒業し同大學助教授農事試驗場技師農商務技師種畜牧場技師畜産試驗場技師等に歴任し現時農林技師にして畜産局畜産課長たり嚢に所管專門事務研學の爲め歐米に差遣せらる家族は尚三男忠雄(大四、一生)二女鑑(同九、三生)あり養子テフ(明二六、五生、佐賀、峯俊藏養子)は東京府人石田佐太郎に姉イソ(同一〇、三生)は同府人中田敬義に嫁し從妹ミネ(同一四、四生)は神奈川縣人内藤庄吉に弟友吉(同一四、六生)從姉ヲツイ(同八、一生)は各分家せり(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇ノ八電青山八五一)
參照=中田敬義※平野清の項

石崎賴久
從五位勳六等、朝鮮總督府鐵道局參事、京城鐵道事務所長　高知縣士族

妻　美壽惠　明二六、二生、高知、岩瀨義成三女
男　侑　大三、四生
女　節　大元、八生

君は高知縣士族石崎房次の三男にして明治二十年三月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し同六年南滿洲鐵道會社に入り四平街鐵嶺各地方事務所長參事等に歴任し同十四年朝鮮總督府鐵道局參事となり同局庶務課長に補せられ現に京城鐵道事務所長たり家族は尚二男壽(大六、一生)二女和(同一〇、三生)三男康(同一五、三生)兄信輝(明一三、三生、現戸主)同妻五百枝(同二一、四生、高知、岩瀨義成長女)及其子女あり(京城府京城鐵道事務所内)

石澤愛三
東京商工會議所議員、日本自動車㈱社長、日本内燃機㈱取締役、大日本自動車保險㈱監査役、昭和自動車、中央自動車各㈱相談役　東京府在籍

妻　美知　明二三、四生、埼玉、松谷文治長女
男　夏郎　大七、八生

君は舊信州飯田藩の家老石澤謹吾の三男にして澁谷澄の兄大倉發身の弟なり明治十一年八月二十六日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同三十八年早稻田大學政治經濟科を卒業し現時日本自動車會社長たる外前記各會社の重役にして東京商工會議所議員に推され嚢に東京自動車商組合長に擧げらる家族は尚二女壽美(大一四、一生)ありA二二四七(東京市小石川區關口臺町七四電牛込四〇八六)
參照=大倉發身、澁谷澄

石澤吉磨
從四位勳四等、奈良女子高等師範學校教授、山形縣士族

妻　ひて　明一二、一一生、山形、三本秀實長女
養子　清雄　明二八、一〇生、長女梅夫、山形市川鴻一弟
女　梅　明三六、八生、養子清雄妻

君は山形縣士族石澤藤右衞門の長男にして明治八年二月を以て生れ同三十五年家督を相續す同二十九年山形縣師範學校を卒業し奈良女子高等師範學校助教授同教諭を經て同三十五年同校教授に任じ今日に至る(奈良市内侍原町九電一四一三)
參照=市川鴻一の項

石島爲三郎
日清製粉㈱常務取締役、東京製パン㈱監査役、群馬縣在籍

妻　しん　明一一、八生、群馬、砂岡種四郎姉
男　與三郎　明三四、二生
婦　ユキ　明四一、三生、長男與三郎妻、栃木、田中雄作長女
女　とよ　明三二、三生
養子　直輔　明三一、一〇生、四女利子夫、埼玉、小澤謙助弟
女　利子　明三八、一二生、養子直輔妻
男　博通　明三九、一一生、日大商學部出身
女　富美子　明四一、五生、麴町高女出身
女　美代　明四三、二生、麴町高女出身
女　英子　明四四、三生、麴町高女出身

君は群馬縣人石島與左衞門の二男にして明治六年四月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり謠曲俳畫盆栽等に趣味を有す家族は尚孫照子(昭五、六生、養子直輔長女)あり妹ウタ(明九、一生)は同縣人砂岡九平二男兵七に嫁し弟金四郎(同一五、一二生)同妻ふで(同二六、一二生、東京、土橋エマ長女)は共に分家せりA四六三八(東京市麴町區平河町二ノ二九ノ一電九段二五五)

石田伊太郎
從四位勳三等、判事、前橋地方裁判所長、福井縣在籍

妻　ゆる　明二〇、六生、福井、赤尾惣兵衞長女
男　一郎　大元、八生、東京帝大法科在學
女　久子　大四、四生、日本女大家政科在學

君は福井縣人石田善七の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十年家督を相續す明治三十六年和佛法律學校を卒業し同三十八年判檢事登用試驗に合格同四十年判事に任じ爾來四日市區名古屋地方高岡區名古屋區各裁判所判事名古屋地方裁判所部長宮城控訴院部長山形地方裁判所長等に歴補し昭和五年七月前記現職に補せられ今日に至る謠曲大弓テニス圍碁讀書に趣味を有す長女名都子(明四四、五生)は高知縣知事坂間棟治弟判事孝司に嫁せりA二八〇(前橋市北曲輪町官舍電二四二)
參照=坂間棟治の項

石田伊奈二郎
從五位勳四等、海軍豫備少佐、大阪地方海員審判所審判官兼遞信局技師、新潟縣在籍

妻　タマ　明一六、五生、新潟、丸山猪五郎二女
男　修　大一五、五生

君は新潟縣人石田忠作の二男にして明治十七年七月二十日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同四十三年商船學校航海科を卒業し甲種二等運轉士翌年同一等運轉士の各免狀を大正三年甲種船長の免狀を受け北

海丸船長となり爾來三井物産會社の汽船々長を經て同八年海軍豫備大尉に任ぜられ後同十二年遞信局技師兼地方海員審判所審判官に轉じ昭和三年現職大阪地方海員審判官兼遞信技師に任ぜられ大阪勤務たり同四年六月海軍豫備少佐に陞る家族は尙三女惠子（大一三、五生）あり（西宮市神樂町三〇電九五三）

石田宇吉　アサヒグリル、飲食店經營主
大阪府在籍
妻　かや　明二八、一一生、福井、廣松友治郎妹
男　武　大一〇、七生

君は奈良縣人石田百松の四男にして明治二十四年十一月十六日を以て生れ大正十年兄清吉方より分れて一家を創立すアサヒグリルと稱し飲食店を經營す家族は尙二男健二（大一四、一生）ありA九五六B七一（大阪市北區曾根崎新地二ノ二七電北五六五）

石田延藏　嘉門商店社員
大阪府在籍
妻　久　明二六、九生、大阪、高野幸助妹
男　省　三　大六、七生

君は先代延藏の長男にして明治十三年九月二十六日を以て生れ大正四年家督を相續し後前名茂助を改め襲名す現時嘉門商店社員たり家族は尙三男伸三（大一一、一一生）四男基三（同一五、五生）長女昌子（昭四、一一生）五男泉三（同七、一二生）ありA一一六六（大阪市西區江戸堀北通五ノ一二電土佐堀九九一）

石田音吉　從七位勳六等、京都府多額納稅者
東山藥局、度量衡器製作業
京都府在籍
妻　きく　明二一、一一生、兵庫、前田寛一三女、日本女大家政科出身
男　重成　明四三、一〇生
男　秀正　大三、四生
女　スミ　大八、一〇生

君は京都府人先代晉吉の長男にして明治十六年九月を以て生れ大正九年家督を相續し前名梅吉を改め襲名す夙に早稻田大學政治科及京都藥學專門學校を卒業し陸軍二等主計に任官す東山藥局と稱し藥種業並に度量衡器の製作業を營み現時京都府多額納稅者たり曩に京都市會副議長たりしことあり弟勘四郎（明二八、二〇生）は外戚磯貝氏を繼ぎ妹泰子（同四一、一一生）は其養子となり弟晉三（同二〇、九生）同妻つる（同二七、四生）京都、中西定吉三女）は其子女を伴ひ分家し妹よ（同二三、七生）は岐阜縣人馬淵たにの養子となり同トク（同二六、七生）は大阪府人山本恒七長男八太郎に同はは高知縣人西内貞吉に養妹キシ（同二八、三生）京都、佐竹義三二女）は大阪府人葛城治三郎養孫隆次に養子八重（同三五、一生、同四女）は東京府人横田信義に妹ふく（同三六、一二生）は同府人須永秀彌に嫁せりA二八二五（京都市左京區聖護院山王町四四電上一七九二）
參照‖山本恒七の項

石田嘉一郎　家主
京都府在籍
妻　千代　明一九、七生、京都、神田菊之助長女
養子　猛夫　明四一、四生、養子エミ夫、京都澤田長治郎弟
養子　エミ　明四三、三生、養子猛夫妻、京都久板五郎兵衛三女

君は京都府人岡野幸治の長男にして明治十五年八月十七日を以て生れ先代宗兵衛の養子となり同四十一年家督を相續す家主たり家族は尙孫郁雄（昭八、一生、養子猛夫長男）ありA六三三（京都市下京區新町高辻下電下四九五四）

石田嘉隨　越前無盡㈱社長、北國火山灰㈱監査役、福井縣士族
繼母　きく　明二、五生、福井、八田栢之吉妹
妻　志德　明二二、一〇生、福井、加賀山學
男　ふみ子　大一一、二生
女　みよ子　明四三、一〇生
女　大八、一生

君は福井縣士族石田武助の長男にして明治八年九月を以て生れ大正七年家督を相續す現時越前無盡會社長北國火山灰會社監査役にして養に大正製飴會社第九十一銀行勝山倉庫運送會社取締役に舉げらる家族は尙四女ちよ子（大九、六生）弟博（明二五、五生）あり長女キシ（同三二、六生）は福井縣人小深錄に妹やよい（同三〇、七生）は同縣人林一治に嫁せり（福井市日ノ出下町九五）
參照‖加賀山學※岡田啓介※岡田豐の項

石田馨　從四位勳三等、內務省神社局長兼造神宮副使、山口縣在籍
母　ウメ　文久元、五生、祖父宇三郎長女
妻　京　明二七、三生、東京、士、大藏貿四女
男　朗　大九、二生
女　敦　大五、一二生

君は山口縣人石田清の從兄にして明治十八年五月四日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す大正二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格す同年新潟縣理事官に任ぜられ爾來福岡東京各府縣理事官青森縣警察部長內務書記官農商務事務官栃木縣警察部長岡山縣內務部長警視總監官房主事同保安部長京都府內務部長等に歷任し宮崎千葉各縣知事を經て昭和六年內務省神社局長兼造神宮副使に任ぜらる家族は尙二男雄（大一二、六生）あり（東京市澁谷區原宿二ノ一七〇ノ一二電青山五〇五四）
參照‖※坂田幹太の項

石田　勝作　東大阪電氣鐵道㈱取締役、石田商店土地部、金融並貸地貸家業
大阪府在籍

石田　覺三　紙類商
東京府在籍
養父　安五郎　文久元、三生、現戶主
養母　かつ　明元、四生、栃木、須藤啓次郎二女
妻　みよ　明三一、一生、東京、山本長吉二女
男　太作　大五、三生

君は群馬縣人今井郡治の弟にして明治二十三年十二月八日を以て生れ後先代安五郎の養子となる紙類商を營む家族は尙二女秀（大九、三生）四女嘉子（同一四、三生）あり長女須美（同四、二生）は東京府人菊谷正一に嫁せりA八一一（東京市板橋區板橋町五ノ九三〇電板橋五〇）

妻　つた　明一七、一〇生、養父常七庶子

君は兵庫縣人奥村甚三郎の六男にして明治十年六月を以て生れ後石田常七の養子となり同四十二年長男常勝方より分れて一家を創立す石田商店土地部を經營し金融貸地貸家業を營み傍ら前記會社の重役たりA三四〇七B二〇四（大阪市南區長堀橋筋一ノ一四電南三八八三）
參照‖石田常勝の項

石田龜吉　地主
東京府在籍
妻　敏子　明四二、一一生、福岡、小畑恂二女

君は大阪府人古橋友吉の長男にして明治三十四年三月二十日を以て生れ先代清三郎の養子となり大正十五年家督を相續す地主たり家族は尙長女清子（昭三、八生）二女八千代（同五、四生）三女和子（同六、一一生）四女純子（同八、一〇生）あり養妹とし子（大二、四生、東京、鹿谷末吉二女、先代清三郎養子）は大阪府人古橋友次郎に嫁せりA八八五（東京市向島區吾嬬東町七ノ七一電墨田七八八）

石田勘兵衛　京都府多額納稅者、石勘商店㈱代表取締役、千勘、生絲卸商
京都府在籍
男　秀三郎　明四五、二生

君は京都府人尾田泰造の三男にして明治八年十月二十七日を以て生れ先代勘兵衛の養子となり同三十六年家督を相續し前名秀三郎を改め襲名す千勘と稱し生絲卸商を營み傍ら前記會社の重役を兼ね資產家を以て知らる直接國稅六千五百四十二圓を納め京都府多額納稅者に列す長女ナカ（明三四、一〇生）同夫用（同二五、一生、石川、山本興四松弟）は其子女を伴ひ養姉ツタ（同元、一〇生）は各々分家せり（京都市中京區錦小路通室町西入電本局六五六）

石田喜太郎　やなぎ、料理業
兵庫縣在籍
母　きわ　明一七、六生、兵庫、藤原島吉長女
妻　アキ　明三五、三生、兵庫、石田万榮長男　正二　大一一、一生

君は兵庫縣人藤原きわの男にして明治三十七年三月三日を以て生れ大正十一年同府人石田春雄姉アキの入夫となり家督を相續すやなぎと稱し料理業を營む家族は尙長女周（大一三、一生）二女正子（昭元、一二生）養弟春雄（明三九、八生）同妻じよ（同四二、二生、兵庫、藤原重三郎妹）ありA二八七B一七二（神戶市湊東區福原町五三二電湊川二五五九）

石田吉左衛門　京都府會議員、京都市會議長、放光堂、繪具製造業、京都府在籍
妻　ミチ　明元、三生、大阪、長驥甚兵衛二女
養子　宇之丞　明二七、二生
女　ヒデ　大三、一一生、養子宇之丞二男
孫　恒次　大八、一生

君は京都府人先代吉左衛門の長男にして明治三十年一月を以て生れ同十四年家督を相續し前名松太郎を改め襲名す放光堂と稱し繪具製造業を營む現時京都府會議員同市會議長たり養に竹中纖詰製造所取締役深草町長京都府參事會員たりしことあり家族は尙孫忠三（大九、九生、養子宇之丞三男）あり二男寬之助（明三〇、七生）は大阪府人芝田惣兵衛に弟惠三（同三四、八生）は京都府人長驥はるに弟鹿之助（同四、一〇生）は大阪府人芝田キヌに各養子となり同甚四郎（同九、四生）は其二子を伴ひ分家し同辰三郎（同一三、七生）も亦分家せり（京都市伏見區深草直違橋北一丁目電伏見四一）

石田金次郎　資產家
大阪府在籍
妻　貞子　明三三、一一生、大阪、永松平吉二女

君は京都府人石田興七の長男にして明治二十八年十月二十八日を以て生れ大正十一年家督を相續す資產家として知らる養に京興と稱し料理業を營む家族は尙三男二女ありA一二〇九（大阪市天王寺區勝山通一ノ四三電天王寺二一七九）

石田源次郎　石田製陶所、陶器製造業
京都府在籍
妻　ジョ　明一〇、一二生、京都、山上治三郎妹
男　勝之助　明四〇、八生
男　孝造　明四四、一生
女　く　大四、三生

石田家は古くより京都に定住し代々陶器工として子孫相傳へ今日に至れる舊家なり君は先代新助の長男にして明治七年一月を以て生れ同十七年家督を相續す夙に府立第一中學校を卒へ東京美術學校に繪畫を學び祖業を繼ぎ陶器製造業を營む趣味として謠曲を樂しむ家族は尙四男文雄（大七、一生）あり長女しげ（明三二、三生、京都府立第二高女出身）は京都府人安田和三郎長男嘉一に二女みを（同三七、四生、華頂高女出身）は前記安田和三郎三男元七に妹フジ（同一七、三生）は同府人山上九兵衛に嫁せりA四一七（京都市東區大路通澁谷下ル電祇園二〇二二）
參照‖安田嘉一の項

石田　源藏　出石鐵道㈱取締役
兵庫縣在籍
妻　つや　明一八、七生、京都、殿村五兵衛三女
男　益太郎　明四〇、七生
女　友子　明四二、五生
男　磐夫　明四四、一〇生
男　周三　大三、一〇生

君は兵庫縣人石田新平の長男にして明治七年十一月を以て生れ同四十一年家督を相續す現時出石鐵道會社取締役たり家族は尙四男萬夫（大五、九生）五男二三男（同七、五生）六男末男（同八、一二生）六女溫子（昭二、五生）あり長女眞子（明三四、一〇生）は兵庫縣人和田一郎に二女松枝（同三七、一生）は大阪府人高谷俊吉に嫁せり（兵庫縣出石郡出石町電一二五）

石田定右衛門　石田慶賀堂、線香商
大阪府在籍
妻　ジョ　明四、八生、大阪、永本卯之松養子
婦　信　明二八、一生、亡長男貞次郎妻、大阪、赤松熊七四女
孫　弘一　大四、一二生、亡長男貞次郎長男

男　定　明三〇、四生

君は大阪府人石田庄藏の三男にして慶應二年十二月を以て生れ先代定八の養子となり明治十七年家督を相續す線香商を營み石田慶賀堂と稱す家族は尙孫慶二（大九、七生、亡長男貞次郎二男）同常子（昭二、七生、同長女）あり長女コト（明二三、一一生）は大阪府人福島辨次郎二男庄次郎に二女ミヨ（同二六、四生）は同府人中村和助長男幾太郎に養子千代（同一四、七生、東京白井橋三郎庶子）は同府人吉田吉次郎に嫁し三男定次（同三五、二生）は分家せりA七五八B一二二（大阪市東區和泉町一ノ一五〇電話東一八〇三）

石田信之助　埼玉縣多額納稅者、鳩見屋、東京株式取引所取引員、埼玉縣在籍

妻　愛　女　明二六、一〇生、埼玉、船津熊次郎三女

男　一郎　大一〇、一生

女　美智子　大五、一〇生

君は埼玉縣人石田彦一郎の二男にして明治二十二年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現に鳩見屋と稱し東京株式取引所一般短期實物取引員にして縣下の多額納稅者に列す家族は尙二女敏子（大一二、四生）三女照代（同一五、一一生）妹きみ子（同九、七生）ありA五六四二B七一六（埼玉縣北足立郡鳩ケ谷八九「替藥所」東京市日本橋區兜町二ノ二六「替藥」「事務所」同市日本橋區本船町一五電日本橋三九〇五）

參照＝※小山五兵衛の項

石田末松　金物商　東京府在籍

母　きよ　明二二、五生、埼玉、市川善兵衛孫

君は東京府人先代祖父末松の孫にして明治四十四年三月三十一日を以て生れ大正九年家督を相續し同十年前名榮一郎を改め襲名す金物商を營む家族は尙伯母ゑい（明一四、七生）ありA四二七B一五二（東京市日本橋區小傳馬町二ノ五ノ二〇電濱花三〇五〇）

石田祐六　横濱火災海上保險株式會社主事、東京支店長、宮城縣在籍

石田千太郎　從五位勳六等、朝鮮總督府事務官殖產局鑛山課長兼燃料選鑛研究所勤務、愛知縣在籍

妻　不二枝　明三三、三生、東京、竹下頼次郎長女

男　昭二、一生

君は愛知縣人にして明治二十七年八月五日を以て生る大正三年遞信官吏練習所卒業直ちに通信書記補となり同六年遞信屬に任じ同十年文官高等試驗に合格す同十一年朝鮮總督府道屬に轉じ次で道理事官に任じ平安北道內務部地方課長に補せらる爾來朝鮮總督府林野調査委員會事務官江原道平安南道慶尙南道各警察部長等に歷任し昭和八年現職に補せらる家族は尙長女千枝子（大一一、七生）二女千世子（同一四、四生）二男和夫（昭四、四生）三女千賀子（同八、一生）あり（朝鮮總督府殖產局內）

石田專吉　大和屋、漬物商　東京府在籍

妻　キク　明二二、一一生、東京、金子庄吉女

男　司郎　大九、二生

女　靜江　大六、二生

君は東京府人小川長治の叔父にして明治十二年二月一日を以て生れ先代和三郎の養子となり昭和三年家督を相續し大和屋と稱し漬物商を營む家族は尙伯父五郎（大一三、二生）五男光吉（昭二、五生）ありA三六〇（東京市下谷區上野町一ノ一七電下谷一九七〇）

石田太郎吉　家主　京都府在籍

妻　チル　明二九、二生、奈良、堀江三郎妹

男　學　大六、一生

君は宮城縣人石田眞の七男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十二年兄廉方より分れて一家を創立す明治四十五年東京高等商業學校を卒業し現時橫濱火災海上保險株式會社主事にして東京支店長たり家族は尙二女都寡子（大一一、一〇生）三女道子（昭四、一二生）四男尙武（同八、五生）ありA一三〇（東京市大森區馬込町東二ノ九八一電大森一九九九）

參照＝※福島禎三の項

石田太郎　從五位勳六等、朝鮮總督府事務官殖產局鑛山課長兼燃料選鑛研究所勤務、愛知縣在籍

妻　不二枝　明三三、三生、東京、竹下頼次郎長女

男　昭二、一生

君は愛知縣人にして明治二十七年八月五日を以て生る大正三年遞信官吏練習所卒業直ちに通信書記補となり同六年遞信屬に任じ同十年文官高等試驗に合格す同十一年朝鮮總督府道屬に轉じ次で道理事官に任じ平安北道內務部地方課長に補せらる爾來朝鮮總督府林野調査委員會事務官江原道平安南道慶尙南道各警察部長等に歷任し昭和八年現職に補せらる家族は尙長女千枝子（大一一、七生）二男和夫（昭四、四生）あり（朝鮮總督府殖產局內）

石田專吉　大和屋、漬物商　東京府在籍

妻　キク　明二二、一一生、東京、金子庄吉女

男　司郎　大九、二生

女　靜江　大六、二生

君は東京府人小川長治の叔父にして明治十二年二月一日を以て生れ先代和三郎の養子となり昭和三年家督を相續し大和屋と稱し漬物商を營む家族は尙伯父五郎（大一三、二生）五男光吉（昭二、五生）ありA三六〇（東京市下谷區上野町一ノ一七電下谷一九七〇）

石田武亥　奉天商工會議所議員、滿洲銀行、奉天信託各株式取締役、奉天窯業、滿洲瓦斯印刷各株式會社監査役、滋賀縣在籍

妻　秀子　明二一、二生、滋賀、中村耕治四女

女　三惠　大七、八生

君は滋賀縣人石田武平の長男にして明治八年四月を以て生れ同十七年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして奉天商工會議所議員たり姉竹（明三、一〇生）は滋賀縣人神鳥安次郎に妹かゑ（同一〇、三生）は同縣人岡村勝治郎に嫁せり（滿洲國奉天木曾町九電二三〇六）

石田民藏　補償商事、山梨共榮各株式取締役、山五、金物商、山梨縣在籍

婦　ひで　明一六、九生、亡長男幾太郎妻、山梨、田中文輔長女

孫　稜藏　明四一、三生、亡長男幾太郎長男

孫夫　幹夫　明三二、九生、孫愛子夫、山梨、小松千代治弟

孫　愛子　明三五、一一生、孫幹夫妻、亡長男幾太郎二女

孫　正藏　大元、二生、亡長男幾太郎二男

孫　さくよ　大三、九生、亡長男幾太郎三女

孫　都　大五、四生、亡長男幾太郎四女

君は山梨縣人原忠右衛門の三男にして嘉永二年二月を以て生れ石田五郎左衛門の養子となり後家督を相續し

妻　うた　明九、一〇生、京都、高井勘兵衛長女

男　檜次郎　明三一、七生

婦　ナヲ　明三四、三男檜次郎妻、京都、山下彌兵衛長女

君は京都府人先代太郎兵衛の孫にして慶應三年十一月十七日を以て生れ明治十五年家督を相續す家主たり家族は尙孫泰一（大一三、一生、三男檜次郎長男）同晃三（昭二、五生、同二男）あり長女トヨ（明二四、三生）同夫孝三郎（同一六、四生、京都、下川茂一郎弟）妹ウノ（同一三、一一生）同夫德次（同八、二生、京都、奥村政一郎弟）は各分家せり三女奈良江（同三七、一生）は京都府人加波懷義に嫁せりA二六二（京都市上京區今出川通大宮東入上電西陣三二一二）

石田常英　從五位勳六等、朝鮮總督府道技師、殖產局鑛山課技師、慶尙北道產業部山林課長、宮城縣在籍

妻　喜代　明三三、九生、東京、三谷金女三男

男　常彦　大一一、一生、大邱中學在學

君は宮城縣人にして明治二十三年十月二十日を以て生る大正六年東京帝國大學農科大學林學科を卒業爾來山形縣東京府各林業技手山口縣山梨各縣農林技師朝鮮總督府技師兼同水原高等農林學校教授等に歷任し昭和七年朝鮮總督府道技師に任じ慶尙北道產業部山林課長たりしが同年二月林業試驗場技師兼任を命ぜられ今日に至る俳句ゴルフを趣味とす家族は尙長女尙子（昭四、一生）二男常威（同五、八生）あり（朝鮮慶尙北道大邱府上町慶尙北道產業部山林課內）

石田貞吉　洋傘羅紗卸商　大阪府在籍

妻　つね　明二九、六生、滋賀、宮內傘次郎長女

男　莊太郎　大八、二生

君は大阪府人石田貞治郎の三男にして明治二十二年一月を以て生れ大正三年兄六三郎方より分れて一家を創立す洋傘羅紗卸商を營む家族は尙二女衣子（大一〇、一二生）四男信子（同一一、一生）二男誠治（同一三、七生）三男豐敬（昭三、二生）四男貞治郎（同四、三生）ありA二七九B一六五（大阪市東區南久太郎町三ノ二三電船場一二三九）

石田貞二　太洋海運株式會社常務取締役、高千穗商船、大同海運各株式會社取締役

妻　ふみ　明二九、三生、東京、御酒本穗松妹

男　和夫　大七、一二生

君は東京府人石田和三郎の二男にして明治二十年九月二十八日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す太平洋海運會社常務取締役の外前掲各會社の重役にして養に下村汽船會社の重役たり家族は尙長女貞子（大一〇、三生）三男邦夫（同一四、一二生）三女幸子（昭四、九生）庶子貞夫（大一〇、三生、生母、長庫、米岡いと）ありA四五四（神戸市神戸區山本通二ノ七ノ一電葺合二二三〇）

石田藤一　石田商會、朝子商　大阪府在籍

男　稻一　大一四、一生

當家は世々儒中是守に住し先代儀平に至り明治二十七年大阪に在住して朝子商を營む君は其長男にして同二年十二月を以て生れ同三十六年家督を相續し遺業たる帽子商を營む俳句骨董等に趣味を有す姉カネ（慶應三、一生）は大阪府人山內卯之助に嫁せりA二四二八B三三四（大阪市東區瓦町三ノ一〇電因本局一八三）

參照＝山內卯之助の項

石田常藤　家主　兵庫縣在籍

妻　喜代　明三三、九生、東京、三谷金女三男

男　常彦　大一一、一生、大邱中學在學

君は宮城縣人にして明治二十三年十月二十日を以て生る大正六年東京帝國大學農科大學林學科を卒業爾來山形縣東京府各林業技手山口縣山梨各縣農林技師朝鮮總督府技師兼同水原高等農林學校教授等に歷任し昭和七年朝鮮總督府道技師に任じ慶尙北道產業部山林課長たりしが同年二月林業試驗場技師兼任を命ぜられ今日に至る俳句ゴルフを趣味とす家族は尙長女尙子（昭四、一生）二男常威（同五、八生）あり（朝鮮慶尙北道大邱府上町慶尙北道產業部山林課內）

石田貞吉　洋傘羅紗卸商　大阪府在籍

妻　つね　明二九、六生、滋賀、宮內傘次郎長女

男　莊太郎　大八、二生

君は大阪府人石田貞治郎の三男にして明治二十二年一月を以て生れ大正三年兄六三郎方より分れて一家を創立す洋傘羅紗卸商を營む家族は尙二女衣子（大一〇、一二生）四男信子（同一一、一生）二男誠治（同一三、七生）三男豐敬（昭三、二生）四男貞治郎（同四、三生）ありA二七九B一六五（大阪市東區南久太郎町三ノ二三電船場一二三九）

石田德雄　家主　兵庫縣在籍

君は兵庫縣人先代德三郎の長男にして大正三年二月二十六日を以て生れ昭和五年家督を相續す家族は妹玉枝（大五、七生）ありA三八七（神戸市林田區前原町一ノ一三四電湊川三五六四）

石田俊夫　勳七等功七級、金上村長、福島縣會議員、農業、福島縣在籍

祖母　サイ　天保一〇、三生、福島、白幡涉妹

妻　イシ　明六、八生、福島、石本英次妹

男　不二夫　明二三、四生

婦　イク　明二五、四生、長男不二夫妻、福島、瓜生六郎三女

男　功　明二九、一二生

婦　モン　明三四、五生、二男功妻、福島、二瓶寫四三姪

孫　せい子　大二、一〇生、長男不二夫長女

君は福島縣人石田五市の長男にして明治四年十月を以て生れ同二十九年家督を相續す農業を營み推されて前記の公職に在り養に福島縣塗事會員に選ばる家族は尙孫一郎（大九、六生、長男不二夫五男）同二郎（同一一、三生、同六男）同和子（同一三、七生、同三女）同禮子（昭四、二生、同四女）同祿子（大一三、一二生、二男功長女）同昭一（昭二、二生、同長男）同敏（同三、一一生、同二男）あり二女敏子（明四一、七生）は福島縣人八田宗吉長男武に嫁せり（福島縣河沼郡金上村）

參照＝八田宗吉の項

石田富次郎　洋傘防水マント商　兵庫縣在籍
嘉永元、一二生、兵庫、石田孫右衛門四男
父　庄次郎　明二、一一生、兵庫、角田惣次郎長女
妻　みき　長女
男　留三郎　明三五、七生
婿　さめ　明四一、二生、長男留三郎妻、岐阜、石田義太郎三女
君は兵庫縣人先代庄次郎の二男にして明治十二年十二月一日を以て生れ昭和八年家督を相續す洋傘防水マント商を營む家族は尙孫節子（昭三、九生、長男留三郎長女）同留二郎（同六、六生、同長男）同和子（同八、五生、同二女）ありA六八八（神戸市神戸區三宮町二ノ二五七二電三宮一一七一）

石田友一　新潟縣多額納稅者、新潟瓦斯、三條瓦斯各㈱取締役、新發田瓦斯㈱監査役、農業、新潟縣在籍
父　友吉　明四、四生、現戸主
母　キク　明九、八生、新潟、大塚益郎三女
妻　睦　明三六、二生、新潟、山田耕治郎三女
男　友夫　昭二、五生
君は新潟縣人友吉の長男にして明治三十年五月十六日を以て生れ農業を營み傍ら前記諸會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅四千八百五十二圓を納む家族は尙長女キヨ（大一四、七生）二女フミ（昭四、一生）弟三八（明三八、五生）同妻トキ（同三八、一生、新潟、廣川長八妹）あり妹ミヨ（明三二、四生）は新潟縣人岩田正己に同セツ（同三五、六生）は同縣人鶴卷龍太郎に叔母マン（同三二、一〇生）は同縣人折戸濟八長男善治に嫁し叔父友三（同二九、四生）は同妻セツ（同三一、一一生、新潟、廣川長八妹）を伴ひ分家し同友作（同三五、六生）は東京府人中野ヒデの入夫となれり（新潟縣南蒲原郡加茂町電五）
參照＝中野友作、山田耕治郎※大塚傳三郎※齋藤庫之助の項

石田友三郎　蒲原鐵道、城東電氣軌道各㈱取締役、東京府在籍
妻　すみ　明二五、五生、京都、谷口眞治郎妹
男　省三　明四四、九生
男　醇三　大二、八生
女　悅　大四、九生
女　篤　大六、一〇生
女　和　大八、八生
君は兵庫縣人先代孫七郎の長男にして明治十八年十月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名好種を改め襲名す酒造業を營む家族は尙三男完三（大一〇、七生）四女幸（同一四、一〇生）五女得（昭二、六生）あり（兵庫縣武庫郡御影町濱東三七電御影二〇二四）

石田增之助　勳七等、大和種苗農具㈱社長　京都府在籍
妻　まさ　安政五、四生、京都、伊達儀右衛門長女
母　はつ　明一三、二生、養父安藏長女
男　一平　明四四、六生
男　正司　大二、二生
君は京都府人田中忠右衛門の長男にして明治四年十一月を以て生れ同府人石田まさの養子となり同三十三年石田興兵衛方より分れて一家を創立す養に東京關藝商會を經營し後ヤマト種苗農具會社取締役に擧げられ現時同社長たり家族は尙四女絢子（大九、一生）あり長女せつ（明三〇、一二生）は京都府人石田莊藏に五女清美（大一四、一〇生）は大阪府人濱キヨに各養子となり二女てい（明三二、一〇生）は京都府人永島眞三に嫁せり（東京市豐島區目白町三ノ三五二二電牛込一七一五）

石田萬兵衛　石田商店㈱代表取締役、織物商　東京府在籍
曾祖母　スカ　文化九、六生、滋賀、伊藤善助女
祖母　セイ　明一五、一〇生、大阪、鹿海文助二女
妻　萬吉　明四二、一二生
男　友二郎　明四五、五生
當家は元伊勢の農家なりしが後大阪に出で先代萬兵衛に至りて更に東京に移り織物商を營み漸次發展して今日に至る君は群馬縣人白井文平の二男にして明治七年二月を以て生れ一時新井家を嗣ぎしが先代萬兵衛の養子となり大正八年家督を相續し前名吉五郎を改め襲名す同十一年營業を株式組織に變更し現時其代表取締役たり家族は尙三男富三（大四、六生）四男篤四郎（同六、二生）五男吾郎（同一三、三生）あり長女つや（明三六、一生）は東京府人岩見醇平に二女ちよ（同三八、八生、日本橋高女出身）は青森縣人泉山吉兵衛三男千代吉に嫁せりA二一〇（東京市下谷區中根岸二九電根岸二〇〇一）
參照＝鹿海文助※別府鑑の項

石田美喜藏　安全索道商會㈱代表取締役　大阪府在籍
妻　タツ　明二〇、一生、廣島、士、川崎辰巳孫
男　英男　明四二、八生
男　謙次郎　明四三、一一生
女　キミ子　大七、一〇生
君は奈良縣人石田治三郎の三男にして明治九年四月二十三日を以て生れ同四十三年兄治方より分れて一家を創立す現時安全索道商會代表取締役たり家族は尙二女マリ子（大一二、一〇生）三女テル子（昭三、一生）あり（大阪市住吉區住吉町大帝塚電住吉二一四）

石田光太郎　門司商工會議所常議員、福岡縣多額納稅者、石田汽船㈱代表取締役、門司築港㈱取締役、石田根棧橋事務所主、石田旅館、旅館業並物品貸付業、福岡縣在籍
父　平吉　嘉永五、一二生、現戸主、勳四等
母　吉　明一〇、一二生、現戸主、勳四等
君は福岡縣人石田平吉の二男にして明治十五年十月十四日を以て生る現時前記各會社の重役にして傍ら石田組棧橋事務所を設け又石田旅館と稱し旅館業を營み又物品貸付業を營む縣下の多額納稅者にして直接國稅一萬六千百十二圓を納め選ばれて門司商工會議所常議員たり父平吉は門司下關間の航海業を開始し門司に私設水道を敷設し公共事業に盡す所尠からず明治四十一年以來衆議院議員に當選する事二回大正三四年事件の功に依り勳四等に敍し瑞寶章を授けらる家族は尙庶子藥（大一五、一生、生母、中村タキ）兄由太郎（明五、八生）同妻ヒサ（同一五、七生、福岡、石織長太郎妹）及其子女榮兄輝（同一二、五生、福岡、二宮秀弟）同妻さく（同一八、五生、大阪、杉山清次郎妹）及其子女あり

妻　清　明二六、二生、東京、內藤定靜三女
男　陽三　大一五、三生
女　登喜子　大六、一一生
君は靜岡縣人石田仙治の二男にして明治十三年二月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治三十五年東京專門學校邦語政治科を卒業して現時浦原鐵道會社及城東電氣軌道會社取締役にして義に葛飾乘合自動車會社々長たり家族は尙二女武子（大一〇、一生）ありA一六三（東京市本郷區駒込西片町一〇ろノ二〇電小石川四三二九）

石田八藏　島根縣多額納稅者、農業　島根縣在籍
妻　マサ　明二五、七生、島根、藤間權助二女
男　秋二郎　大五、一〇生
女　ヒデ　明四四、六生
女　ノブ　大元、九生
君は島根縣人石田廣太郎の七男にして明治十九年七月を以て生れ先代林太郎の養子となり大正十三年家督を相續す農業を營み直接國稅千四百四十五圓を納め島根縣多額納稅者たり家族は尙三男猶三郎（大七、七生）四男好郎（同九、七生）三女俊枝（同一三、一生）六男薫夫（同一二、三生）七男眞幸（昭三、四生）あり（島根縣安濃郡鳥井村）

石田秀二　上海日本人商業會議所常議員、東華紡績㈱常務取締役、山口縣士族
妻　靜子　明三一、四生、兵庫、横尾孝之亮三女
男　裕　大一三、八生
君は山口縣士族石田幸太郎の二男にして明治三十四年九月を以て生れ大正八年家督を相續す山口高等商業學校を卒業後三井物產會社員東洋棉花會社社員を經て現時東華紡績會社常務取締役なる外養に推されて上海日本人商業會議所常議員にして上海實業界に名あり家族は尙二男正（大一五、三生）三男美（昭三、二生）あり
叔父三春（明四、二生）同妻ヨマ（同一一、二生、福岡中村三次郎妹）は其子女を伴ひ分家せり（上海北四川路施高塔路八八）

參照＝横尾孝之亮※阿部八代太郎の項

石田弘吉　正五位勳五等、判事、長野地方裁判所部長、山形縣士族
妻　とめ　明一七、七生、東京、生駒謙次姉
男　弘中　明四二、六生
女　久子　明三九、一生
女　從　明四四、九生
男　弘正　大三、一生
女　常　大六、一生
君は山形縣士族石田久中の長男にして明治十一年二月を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任ぜられ奈良地方並同區五條區東京地方並同區各裁判所判事に歷補昭和二年八月新潟地方裁判所部長に補せられ轉じて現時前記の職に在り家族は尙男弘忠（昭四、二生）あり妹菊江（明二七、一二生）は山形縣士族五十嵐鷹藏の養子となれり（長野市花咲町長野地方裁判所官舍電一七二二）

石田文次郎　正五位勳三等、法學博士、東北帝國大學教授、兼東北帝國大學教授、法學部勤務、奈良縣在籍
妻　愛　明二九、四生、京都、大森治郎兵衛二女、京都府立第一高女出身
男　直文　昭四、一生
君は奈良縣人石田文四郎の長男にして明治二十五年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す同六年京都帝國大學法科大學獨法學科を卒業して司法官試補となり後判事に任ぜられしも同九年卒業して同法官試補となり後同十二年英米獨佛各國に留學し同十四年歸朝後東北帝國大學教授に任ぜられ法文學部に勤務し民法講座を擔任す昭和九年京都帝國大學教授法學部勤務となり東北帝國大學教授を兼ね今日に至る先是同四年三月法學博士の學位を授けらる家族は尙長女文子（大一〇、一一生）二女雅子（同一五、六生）三女嘉子（昭二、一二生）あり（京都市左京區吉田町京都帝國大學法學部內）

石田孫七郎　家主、酒造業　兵庫縣在籍
母　まさ　文久元、六生、養祖父將夢三女

妻　すみ　明二五、五生、京都、谷口眞治郎妹
男　省三　明四四、九生
男　醇三　大二、八生
女　悅　大四、九生
女　篤　大六、一〇生
女　和　大八、八生
君は兵庫縣人先代孫七郎の長男にして明治十八年十月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名好種を改め襲名す酒造業を營む家族は尙三男完三（大一〇、七生）四女幸（同一四、一〇生）五女得（昭二、六生）あり（兵庫縣武庫郡御影町濱東三七電御影二〇二四）

石田增之助　勳七等、大和種苗農具㈱社長　京都府在籍
妻　まさ　安政五、四生、京都、伊達儀右衛門長女
母　はつ　明一三、二生、養父安藏長女
男　一平　明四四、六生
男　正司　大二、二生
君は京都府人田中忠右衛門の長男にして明治四年十一月を以て生れ同府人石田莊藏に五女清美を養子となり同三十三年石田興兵衛方より分れて一家を創立す養に東京關藝商會を經營し後ヤマト種苗農具會社取締役に擧げられ現時同社長たり家族は尙四女絢子（大九、一生）あり長女せつ（明三〇、一二生）は京都府人石田莊藏に五女清美（大一四、一〇生）は大阪府人濱キヨに各養子となり二女てい（明三二、一〇生）は京都府人永島眞三に嫁せり（東京市豐島區目白町三ノ三五二二電牛込一七一五）

石田萬兵衛　石田商店㈱代表取締役、織物商　東京府在籍
曾祖母　スカ　文化九、六生、滋賀、伊藤善助女
祖母　セイ　明一五、一〇生、大阪、鹿海文助二女
妻　萬吉　明四二、一二生
男　友二郎　明四五、五生
當家は元伊勢の農家なりしが後大阪に出で先代萬兵衛に至りて更に東京に移り織物商を營み漸次發展して今日に至る君は群馬縣人白井文平の二男にして明治七年二月を以て生れ一時新井家を嗣ぎしが先代萬兵衛の養子となり大正八年家督を相續し前名吉五郎を改め襲名す同十一年營業を株式組織に變更し現時其代表取締役たり家族は尙三男富三（大四、六生）四男篤四郎（同六、二生）五男吾郎（同一三、三生）あり長女つや（明三六、一生）は東京府人岩見醇平に二女ちよ（同三八、八生、日本橋高女出身）は青森縣人泉山吉兵衛三男千代吉に嫁せりA二一〇（東京市下谷區中根岸二九電根岸二〇〇一）
參照＝鹿海文助※別府鑑の項

石田美喜藏　安全索道商會㈱代表取締役　大阪府在籍
妻　タツ　明二〇、一生、廣島、士、川崎辰巳孫
男　英男　明四二、八生
男　謙次郎　明四三、一一生
女　キミ子　大七、一〇生
君は奈良縣人石田治三郎の三男にして明治九年四月二十三日を以て生れ同四十三年兄治方より分れて一家を創立す現時安全索道商會代表取締役たり家族は尙二女マリ子（大一二、一〇生）三女テル子（昭三、一生）あり（大阪市住吉區住吉町大帝塚電住吉二一四）

石田光太郎　門司商工會議所常議員、福岡縣多額納稅者、石田汽船㈱代表取締役、門司築港㈱取締役、石田根棧橋事務所主、石田旅館、旅館業並物品貸付業、福岡縣在籍
父　平吉　嘉永五、一二生、現戸主、勳四等
母　吉　明一〇、一二生、現戸主、勳四等
君は福岡縣人石田平吉の二男にして明治十五年十月十四日を以て生る現時前記各會社の重役にして傍ら石田組棧橋事務所を設け又石田旅館と稱し旅館業を營み又物品貸付業を營む縣下の多額納稅者にして直接國稅一萬六千百十二圓を納め選ばれて門司商工會議所常議員たり父平吉は門司下關間の航海業を開始し門司に私設水道を敷設し公共事業に盡す所尠からず明治四十一年以來衆議院議員に當選する事二回大正三四年事件の功に依り勳四等に敍し瑞寶章を授けらる家族は尙庶子藥（大一五、一生、生母、中村タキ）兄由太郎（明五、八生）同妻ヒサ（同一五、七生、福岡、石織長太郎妹）及其子女榮兄輝（同一二、五生、福岡、二宮秀弟）同妻さく（同一八、五生、大阪、杉山清次郎妹）及其子女あり

妹りゥ（同三二、三生）は福岡縣人喜代永政雄に嫁せり（門司市門司西本町電國三八）

石田充親　日本水道、日高電燈各㈱取締役、土木建築請負業、群馬縣在籍
妻　ハヤ　明二九、三生、福井、谷田辰次郎長女
男　丞　昭四、二生
君は群馬縣人石田宇一の長男にして明治十九年十月を以て生れ大正十二年家督を相續す土木建築請負業を營み現時日本水道會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙長女喜代子（大一一、一二生）二女美枝（昭二、一生）三女良子（同三、三生）三男充治（同五、三生）庶子昌子（大一五、二生、生母、東京、大森まつ）の外姉サイ（明一七、三生）弟武三（同二四、七生）同妻ムメ（同二八、五生、栃木、坂本萬年吉三女）は其子女を伴ひ分家せりA四五〇B一一三（東京市神田區仲猿樂町九電九段一二六〇）

石田義男　石田醫院、醫師　東京府在籍
妻　富　明三〇、一〇生、神奈川、山中拾太郎長女
男　武　大九、一二生
君は山梨縣人武井瀧平の四男にして明治二十二年九月二十日を以て生れ同三十八年東京府人石田松五郎の養子となり大正四年家督を相續す石田醫院と稱し內科小兒科を專門とす家族は尙長女幸子（大一二、六生）二女昌子（同一四、一〇生）あり（東京市本所區江東橋四ノ一八電本所三二六八）

石田義太郎　從四位勳四等、大阪鐵道㈱專務取締役、富山縣在籍
妻　登志子　明二五、一〇生、富山、蒲田宇吾三女、千代田高女出身
男　義則　大元、八生、早大在學
男　道夫　大三、一一生、早大在學
女　克子　大六、一一生、兵庫縣立高女在學
君は富山縣人石田則道の二男にして明治十六年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十九年早稻田大學法科を卒業して文官高等試驗に合格す直ちに鐵道院に入り參事となり爾來西部鐵道管理局庶務課勤務高

松出張所長鋼路編知山金澤各運輸事務所長仙臺鐵道局庶務課長鐵道鑛察官大阪鐵道局庶務課長を歷任し大正十五年歐米各國に出張歸朝後鐵道書記官鑛晉局藥務課長に就任し昭和六年退職せり現時大阪鐵道會社專務取締役たり家族は尙四男正明(大九、六生)三女證子(同一一、二一生)あり長女壽美子(明四一、八生)は富山縣人埋幸一弟理二に嫁せり(神戸市須磨區行幸町四ノ七一)

石田理七郎

京都府多額納稅者
京都府在籍
妻　スマ　明一六、二生、大阪、井原榮治叔母
養子　祐次郎　明三四、五生、鳥取、加藤正直弟正七位、特許局事務官、經濟學士
婦　壽　明四一、三生、養子祐次郎妻、滋賀、岡崎傳右衛門三女

君は京都府人石田五兵衛の弟にして明治十年四月三十日を以て生れ同三十年兄五兵衛方より分れて一家を創立す夙に敬神の念厚く近年育英事業に盡瘁し目下給與せる苦學生十數名あり京都府多額納稅者にして直接國稅三千五圓を納む曩に石田商事會社取締役たりし事ありA三九一一(京都市中京區油小路通御池下電本局二〇五)

石田禮助

三井物產㈱取締役兼紐育支店長
靜岡縣在籍
母　ね　ち　嘉永五、一一生、靜岡、依田四郎叔母
妻　ツユ　明二七、七生、東京、中村喜五郎二女

君は靜岡縣人石田房吉の二男にして明治十九年二月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十年東京高等商業學校を卒業し直ちに三井物產會社に入りシヤアトル出張員主席舵船部參事孟買支店長甲谷陀支店長大連支店長を經て現時同社取締役兼紐育支店長たり曩に大連商工會議所議員三秦油房會社取締役たりし事あり(紐育三井物產會社內)

參照‖※大久保忠雄の項

石建國次郎

從五位勳三等、山形縣書記官、警察部長、高知縣在籍
妻　鶴千代　明二八、四生、松本丑太郎二女

君は大阪府人石谷安次郎の長男にして明治十九年三月十二日を以て生れ同三十五年家督を相續す家主たり家族は尙三男堅太郎(大六、一生)四男茂(同八、一一生)孫清(昭八、三生、長男安太郎長男)三女民江(大一一、一生)あり姉ヤス(明一六、八生)弟伊一郎(同二六、三生)長女イシエ(同三七、一〇生)二男太三郎(同四三、四生)は各分家せり弟德一郎(同二二、一〇生)は大阪府人大森スエの入夫となり二女靜江(大二、一〇生)は奈良縣人瀧井次作に嫁せりA三四八(大阪市住吉區阿倍野筋四ノ一〇)

石谷傳市郎

從四位勳三等、第一高等學校教授
鳥取縣在籍
妻　みね　明四五、二生

君は鳥取縣人故貴族院議員石谷傳四郎の弟にして明治十年七月十五日を以て生る同三十八年東京帝國大學理科大學を卒業し承習院教授に任ぜられ次で東京帝國大學副手に轉じ現時第一高等學校教授たり家族は尙養甥貞彥(明四一、一二生、亡兄傳四郎養子、岩手、士、片倉守次三男、現戸主)あり(東京市小石川區丸山町一九)

石谷傳兵衛

東京礦酸㈱取締役、礦酸販賣㈱監査役、福岡縣在籍
母　タツ　安政六、一〇生、福岡、士、大久保正名長女
妻　エイ　明二九、九生、東京、士、武田敬妹
男　貞雄　大一三、六生
女　豐子　大四、一〇生

君は福岡縣人石谷貞平の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙三女慶子(昭三、七生)弟又平(明二二、三生)同妻ふみ(同三二、四生、茨城、會澤等妹)及其子女弟庶之助(同二三、一〇生)同妻ソエ(同三〇、一一生、福岡、士、大久保清十郎五女)及其子女妹ツキ(同三九、二生)あり同ルイ(同三二、四生)は山口縣人伊藤康平に同澤(同三四、三生)は福岡縣人小野光男に嫁せり(東京市江戸川區筑井町一ノ一六五〇電墨田五七三)

石谷伊右衛門

石川縣多額納稅者、金融商會㈱監査役、金融業、石川縣在籍
母　ヒサ　天保七、七生、石川、泉安兵衛長女
養子　伊三郎　明二九、二生、石川、塚本與四郎二男
婦　とよ子　明三九、九生、養子伊三郎妻、石川、石黑與三郎孫

君は石川縣人石谷藤兵衛の長男にして慶應元年三月十五日を以て生れ明治二年家督を相續し前名伊三郎を改む金融業を營み傍ら前記會社の重役にして石川縣多額納稅者に列し直接國稅四千六百十圓を納む家族は尙孫男國嘉(明一六、一一生、北海道、佐々木與兵妹)

石館友作

北海道多額納稅者
北海道在籍
妻　テイ　明四一、四生
女　美代　大二、二生
男　喜夫　大三、八生
女　ふく　大五、二生

君は北海道人石館兵右衛門の二男にして明治五年六月を以て生れ大正五年家督を相續す直接國稅一萬三千四百八圓を納め北海道多額納稅者に列す義に函館貯蓄銀行頭取北海道銀行取締役たり家族は尙五男孝三(大六、一二生)あり長女喜美(明三五、一生)は醫學博士片山國嘉長男國幸に二女はな(同三八、五生)ゆき(同三八、三輪田高女出身)は醫學博士中濱東一郎長男清に嫁し四女ひな(同四四、三生)は東京府人石館彌太郎の養子となれり(函館市汐見町一七電七二七)

參照‖片山國幸、中濱東一郎の項

石谷太一郎

家主
大阪府在籍
妻　ミツエ　明一五、一一生、奈良、東井茂平二女
男　安太郎　明三九、八生
婦　ハマエ　明四二、一〇生、長男安太郎妻、大阪、西野元次郎二女

伊左美(昭二、四生、養子伊三郎二男)同健二(同四、五生、同三男)あり養甥藤美男(明三九、一生、石川、塚本與四郎三男)は分家せり(金澤市上新町八二ノ一電九三七)

參照‖※園山武平の項

石谷市松

地主
兵庫縣在籍
男　藤一　明四五、八生、現戸主
婦　ふさゑ　明四〇、六生、藤一妻、兵庫、岡本宗八妹

君は兵庫縣人石谷藤吉の長男にして弘化四年八月二日を以て生れ明治二十四年家督を相續し昭和七年隱居す地主たり家族は尙孫嘉章(昭三、一生、藤一長男)同和子(同七、三生、同長女)ありA五八〇(兵庫縣武庫郡住吉村垣ノ內二二九)

石谷源十郎

八頭銀行㈱頭取、農業
鳥取縣在籍
父　源藏　安政五、九生
妻　いし　明一〇、四生、鳥取、石谷貞次郎姉
男　源太郎　明三五、七生
婦　節子　明四四、一生、長男源太郎妻、鳥取、荻原鹽造二女
男　隆二　明三八、五生
男　努　明四五、二生

君は鳥取縣人石谷源藏の長男にして明治九年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す農を業とし傍ら八頭銀行頭取に擧げらる曩に縣下の多額納稅者たり長女ひさ(明三〇、五生)は鳥取縣人內田八男長男八司に二女とし(同三二、一〇生)は同縣人福田喜吉に三女志津子(同三九、一一生)は同縣人稻垣金治に四女光子(同四二、二生)は同縣人小谷藤一郎に嫁せり(鳥取縣八頭郡知頭町)

石谷太一郎

家主
大阪府在籍
妻　ミツエ　明一五、一一生、奈良、東井茂平二女
男　安太郎　明三九、八生
婦　ハマエ　明四二、一〇生、長男安太郎妻、大阪、西野元次郎二女

石津龍輔

朝鮮瓦斯電氣、研精企業、早川電力、函館水電、東山土地各㈱取締役、道南電氣㈱監査役、岡山電氣軌道㈱相談役、岡山縣在籍
父　仲治　萬延元、二生、岡山、赤木城造二男、現戸主
男　廉夫　明四二、二生、慶大經濟學部出身
男　俊夫　明四四、五生、早大理工科在學

君は岡山縣人石津仲治の長男にして明治六年六月を以て生る同四十年家督を相續す同四十年東京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尙四男武夫(大五、五生)あり三男行夫(同二、八生)は岡山縣人谷川豐の養子となり妹田鶴惠(明一九、一生)は廣島縣人八木直廉に嫁せり(東京市小石川區小日向臺町二ノ二電大塚五四七二)

石津禀三

正五位勳六等、第六高等學校教授
岡山縣在籍
祖母　次　文久二、八生、岡山、上坂多仲三女
養母　エツ　明三〇、七生、岡山、藤井牧藏三女
妻　龜久　明三〇、七生、岡山、龜山友十二郎二女
女　實子　大八、一生

君は岡山縣人池上利七の二男にして明治二十二年三月を以て生れ先代義三郎の養子となり大正十五年家督を相續す先是同五年東京帝國大學法科大學商業科を卒業し現時第六高等學校教授たり家族は尙二女房子(大一〇、九生)三女芳子(同一四、一生)四女百合子(昭二、二生)あり(岡山市新屋町九)

石塚英藏

正三位勳一等、樞密顧問官
東京府士族
妻　シノフ　明八、一〇生、青森、士、山川德治長女
男　照雄　明三九、一二生、東京農大出身
男　武男　明四一、一生、經濟學士
女　和子　大五、五生
女　惠子　大八、二生

石塚家は代々舊會津藩主に仕へたる家柄なり君は先代和三郎の長男にして慶應二年七月二十三日を以て生れ明治四十四年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治學科を卒業法制局參事官兼書記官に任ぜらる樞密顧問官臺灣總督府參事官關東州民政長官關東都督府民政長官統監府參與官同總務長官朝鮮總督府取調局長官同農工商部長官等に歷任し大正五年東洋拓殖會社總裁被仰付同時に貴族院議員に勅選せらる昭和四年臺灣總督に親任せられ同六年職を辭し同九年三月禮密顧問官に親任ぜられ今日に至る三女幸子(明三五、七生)は東京府人石井忠利長男康に四女文子(同四二、一二生)は同府人藤田佐一郎に嫁せりA二〇〇(東京市牛込區原町二ノ七二電牛込四一)

石塚榮一

家主
東京府士族
妻　みつ　明二五、七生、愛知、星井長五郎妹
男　榮三　大六、三生

君は東京府士族石塚幸次郎の長男にして明治二十四年六月二十六日を以て生れ明治三十二年家督を相續す家主たり家族は尙長女晴子(大一二、六生)二女八重子(大一五、二生)あり弟新市(明三〇、一生)は分家せり(東京市荒川區三河島町三ノ二八四五)

石塚嘉六

神奈川縣多額納稅者、日本香料㈱取締役、横濱帆布㈱監査役、神奈川縣在籍
母　ヒロ　明七、一二生、神奈川、佐久間權藏妹
妻　綾子　明四一、二生、神奈川、岸禮三妹淑德高女出身

君は神奈川縣人大谷金藏の六男にして明治三十二年十月十九日を以て生れ先代彥輔の養子となり昭和六年家督を相續す大正八年青山學院を卒業し現時日本香料會社取締役の外前記會社の重役として知らる直接國稅八百十八圓を納め神奈川縣多額納稅者たり家族は尙養妹茂(大二、一生、新潟、石塚常榮二女、神奈川高女出身)ありA七三一(橫濱市磯子區森町吉濱五五五電長者町五一七九)

參照‖石塚常榮の項

石塚揆一

正五位勳三等、檢事、山口地方裁判所檢事正、新潟縣在籍

妻　眞澄子　明二四、一一生、新潟、大森佐七郎三女、三輪田高女出身
男　精一　大三、二生

君は新潟縣人判事藍澤惟熙の長男にして明治十八年二月二十一日を以て生れ先代ミチの養子となり同三十六年家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同四十五年判事に任じ浦和地方同區各裁判所判事を經て檢事に轉じ爾來東京區同地方宇都宮區同地方各裁判所檢事東京控訴院檢事下關區裁判所山口地方裁判所下關支部檢事福岡地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事名古屋控訴院檢事等に歷補し昭和五年釧路地方裁判所檢事正となり次で盛岡地方裁判所檢事正を經て現時前記の職にあり家族は尙二女月江（大一三、九生）三女みどり（昭五、一生）あり（山口市大附官舍電五七）

石塚喜作

妻　キセ　明二五、一生
男　喜嗣　昭二、八生
女　喜子　大七、一〇生、高山高女在學

君は新潟縣人石塚龜三郎の三男にして明治二十四年六月三日を以て生る大正六年京都帝國大學法科大學を卒業し同九年檢事に任じ名古屋地方奈良地方各裁判所檢事に歷任同十二年判事に轉じ金澤地方七尾區出町區御嵩區各裁判所判事に歷補し現時前記の職に在り家族は尙二男喜英（昭四、二生）三女喜志子（大一〇、六生、高山高女在學）四女彰子（同一三、九生）あり長女シズ（大四、五生、多治見高女出身）は新潟縣人神榮生絲株式會社々員嶋原友之助に姉ハルは京都府人醫學士青木義房に嫁せり（岐阜縣大野郡高山町高山區裁判所內）

石塚粂藏

母　ミホ　慶應三、七生、子爵大久保立姉
妻　昭　明三二、七生、東京、松本楓湖五女

君は東京府人石塚德次郎の長男にして明治十九年二月十七日を以て生れ昭和二年入りて前戶主小蘭の死跡を相續す明治四十一年東京高等工業學校を卒業し現時日本製鋼所常務取締役たる傍ら前記會社の重役として知られるA三〇三三（東京市小石川區戶崎町三電小石川三一一七）

參照＝子爵大久保立の項

石塚佐助

祖母　なか　安政六、三生、東京、小山三右衛門三女
養母　とく　明一三、一生、先々代佐助二女
妻　富子　明四〇、一生、先代佐助長女
男　武　昭三、三生

君は三重縣人水谷久七の三男にして明治三十三年十一月二十四日を以て生れ先代佐助の養子となり昭和三年家督相續と共に前名正太郎を改め襲名す古くより屋號を井筒屋と稱し茶商を營み堅實の商法を以て知らるる家族は尙妹芳子（明四四、六生）同愛子（大二、二生）あり妹歌子（明四一、一〇生）は東京府人森喜助孫朝次郎に嫁せりA四二二B一七八（東京市淺草區茶屋町二電淺草二二三八）

石塚峻

母　きい　慶應元、一〇生、茨城、渡邊佐四郎四女
妻　登與　明三〇、二生、茨城、草間輔二郎五女
男　俊一　大五、六生

君は茨城縣人石塚一太郎の長男にして明治二十一年二月五日を以て生れ大正十一年家督を相續す同二年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し朝鮮總督府勸業模範場技手同府技師同府忠淸南道技師等に歷任し同十五年同府技師となり殖産局に勤務し次で昭和四年歐米各國及印度埃及に出張を命ぜらる歸朝後同五年改良部兼務となり同七年農林局兼總督府官房外事係勤務を經て現職に補せらるる家族は尙二男吉宏（大七、一〇生）三男隆三（同九、九生）長女智惠子（同一一、一一生）あり（京城府朝鮮總督府穀物檢査所內）

石塚瀧三

母　ヤス　安政六、一一生、祖父金次郎長女
妻　ヒサコ　明二四、九生、東京、添田定一姉
男　一正　明四一、一生、日本興業銀行員、經濟學士
女　文子　大元、一一生

君は故神奈川縣多額納稅者石塚八郎右衛門の二男にして明治十二年八月七日を以て生る同三十八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し日本銀行に入り累進して松本門司各支店長に擧げられ同行文書局長を經て現時國庫局長たり家族は尙三男靖二（大八、一二生）四女高子（同一一、四生）兄八郎（明一〇、一〇生、現戶主）同妻シゲ（同一八、三生、神奈川、青木兼吉二女）及其四子弟正之助（同一七、七生）同妻カツ（同二五、一〇生、神奈川、田中正吉孫）及其三子弟泰輔（同三一、二生、東京日本勸業銀行員、法學士）同妻榮（同三一、二生、東京麻生二郎二女）及其四子あり長女京子（同四二、九生、九段精華高女出身）は大阪府人久世信敬に姪藤江（同三七、三生、兄八郎長女）は東京府人山本嘉兵衛に嫁し弟秀夫（同二五、九生）は神奈川縣人青木兼吉の養子となれりA八三二（東京市四谷區大番町七七電四谷三五七七）

參照＝麻生二郎、山本嘉兵衛※坂口康藏※井口春久※西川虎吉の項

石塚長太郎

妻　イネ　明一九、九生、先代石塚重五郎長女
男　守之助　明四〇、四生
婦　鐵　明四〇、六生、長男守之助妻、東京、朝日奈米太郎四女
男　壽茂　明四二、一〇生
女　菊枝　明四四、一〇生
男　茂三郎　大二、一二生
女　壽賀　大五、二生

君は東京府人安藤兼吉の二男にして明治十三年一月三日を以て生れ同三十六年先代重五郎の養子となり家督を相續す農業に從事す家族は尙四男重成（大七、一生）五男良彥（同九、九生）次男莊之助（同一一、五生）孫幾喜（昭九、一生、長男守之助長男）ありA一一九九

（東京市世田谷區三宿町七八電世田谷二八四九）

石塚常榮

妻　キヨ　高柳村長、柏崎銀行、松代電氣各㊟取締役、新潟縣在籍
男　正之介　明一六、一二生、新潟、馬場久助二女
婦　アキ　明三九、一二生
男　徳之十　明三、八生、長男正之介妻、新潟、渡邊退藏五女
女　直　大八、一一生

君は新潟縣人石塚大五郎の二男にして明治十三年八月を以て生れ同四十五年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして高柳村長に擧げらる家族は尙四男英四郎（大六、七生）あり長女廣（明三七、一〇生）は新潟縣人村田與左衛門に嫁し二女茂（大二、一生）は神奈川縣人石塚嘉六先代彥輔の養子となれり（新潟縣刈羽郡高柳村）

參照＝石塚嘉六の項

石塚輝治

ラヂオ商　兵庫縣在籍
養母　ちか　慶應三、八生、兵庫、谷住長藏二女
妻　俊子　明四一、三生、生母、兵庫、神吉みね

君は兵庫縣人神吉晉吉の三男にして明治三十四年十一月二十六日を以て生れ後先代利平の養子となり大正十四年家督を相續すラヂオ商を營む家族は尙長女齊子（昭四、三生）二女貞子（同五、一二生）三女正子（同七、一〇生）あり（神戶市葺合區小野柄通二ノ一〇二電葺合一九六七）

石塚彌太郎

函館商工會議所常議員、北海道多額納稅者、海陸物產問屋業
妻　キミ　明三二、四生、北海道、新榮幸平五女
男　彌一郎　大九、二生

君は神奈川縣人峯尾庄次郎の三男にして明治十七年二月十五日を以て生れ先代彌太郎の養子となり同三十三年家督を相續し前名德次郎を改め襲名す海陸物產問屋業を營み直接國稅三千二百七十四圓を納め北海道多額納稅者に列す推されて函館商工會議所常議員たり家族は尙二男和雄（大一三、一一生）長女澁美子（昭三、五生）あり（函館市東濱町電二七七一）

石塚彌兵衛

地主　東京府在籍
妻　かね　明一五、二生、東京、富岡寅次郎三女
男、紀雄　大三、四生
女　キン　明三九、一二生

君は東京府人石塚增五郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同二十八年家督を相續す地主たり家族は尙三男列治（大五、五生）四男基浩（同八、四生）五女幸子（同一三、二生）あり長女カネ（明三八、一生）は東京府人富岡松雄に四女ふみ（大元、一二生）は同府人寶田信成に各嫁せりA三八五（東京市荒川區尾久町八ノ一三四三）

石堂孫次郎

古物商　大阪府在籍
妻　ミチ　明一八、七生、大阪、內山金之助妹
養子　貞重　明三七、五生、二女富美子夫、大阪、內山重太郎二男
女　富美子　明四三、三生、養子貞重妻

君は大阪府人石堂熊吉の三男にして明治十五年五月十七日を以て生れ同十八年家督を相續す古物商を營む家族は尙孫正巳（昭四、三生、養子貞重長男）あり妹まさ（明一七、四生）は大阪府人荒木仙吉に嫁せり（大阪府堺市大町西二丁二〇電一五三六）

石藤豐太

從五位勳四等、工學博士、日本火藥製造、火藥工業各㊟取締役、高山耕山化學陶器㊟鑑査役、日本導火線㊟顧問、帝國染料製造㊟相談役
養子　虎雄　明三一、一六生、長女清子夫、佐賀、稻富正六四男
女　清子　明四二、一生、養子虎雄妻

君は廣島縣人石藤喜七郎の三男にして安政六年五月を以て生れ明治四十年兄倉太方より分れて一家を創立す

同十二年東京大學理學部を卒業し同大學助教授となり同二十年火藥研究の爲佛國に留學を命ぜられ同二十三年歸朝して海軍大技士に任じ傍ら工科大學教授を兼ね同二十六年陸軍技師に轉じ大阪砲兵工廠火藥製造所長東京砲兵工廠岩鼻製造所長等に補せられ同三十六年工學博士の學位を受く後清國政府に聘せられ上海機器局監督技師として赴任し大正二年末歸朝して實業界に入り現時日本火藥製造會社取締役にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙孫二人ありA二〇七三（東京市小石川區高田老松町三八ノ三電牛込二七三二）

石鍋竹治

石鍋㊟代表社員、製綿業　東京府在籍
母　ツナ　明六、九生、千葉、相川友五郎妹
妻　はな　明三六、四生、埼玉、横山英一妹
男　昭英　昭五、五生

君は東京府人石鍋竹次郎の二男にして明治三十年九月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時石鍋合名會社代表社員にして製綿業を營む家族は尙長女千代子（大一一、一生）三男昇（昭八、六生）及弟石三（明三四、八生）同妻みつ（同三五、一生、埼玉、野崎政太郎三女）及其一子弟藤四郎（同四一、八生）妹代子（同四五、三生）あり弟政治（大五、一一生）は東京府人吉田藤左衛門の養子となれりA一〇六（東京市足立區千住三ノ六二電足立二三〇八）

石野斐夫

從四位勳四等、久留米市長　福岡縣在籍
妻　ミツヨ　明二三、九生、福岡、蒲池源藏四女
男　允一　大三、九生
女　敏子　明四五、一生
女　貞子　大七、九生

君は福岡縣人石野丈一の二男にして明治十五年十一月十五日を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年文官高等試驗に合格翌年通信屬に任じ營視廳屬逓信管理局事務官を經て大正十二年逓信局書記官に任じ逓信省經理局調度課長となり尋で仙臺名古屋各逓信局監督課長兼海事部長等に轉じて昭和二年逓信局長に任じ札幌逓信局長

に補せらる後之を辭し同五年久留米市長に就任同九年重任せり家族は尙三男紀元(大五、二生)三女秀(同一〇、二生)四女博子(同一一、一一生)五女復子(同一三、五生)弟充(明二六、八生)同妻澄子(同三四、一一生、東京、磯江潤三女)及び其一男一女あり(久留米市東町四三二ノ二電一〇三)

參照＝磯江潤の項

石野市興　家主　大阪府在籍

妻　とく　明元、六生、東京、田中みつ妹

男　一興　明四二、三生

養子　十一郎　帶津善尊弟

女　要　明二九、八生、養子十一郎妻

女　清　明三五、七生

君は大阪府人石野市藏の長男にして安政六年七月十日を以て生れ明治十二年家督を相續す家主として知らる長女いし(明二四、四生)同夫仁(同一一、一〇生、埼玉、帶津善尊弟)は其二男を伴ひ分家せりA八二〇〇B四五〇(大阪市西淀川區野里町一〇六三ノ二)

石野要　資產家　東京府在籍

母　もん　慶應元、五生、埼玉、植村よし二女

君は東京府人石野平次郎の六男にして明治三十六年十一月二十二日を以て生れ大正八年家督を相續す資產家たり姉良子(明三五、一生)は東京府人谷口正作に嫁せりA一八二〇(東京市下谷區龍泉寺町一四八電浅草二一四一)

石野敬之　正五位勳五等、農林技師、水產局勤務、東京府在籍

男　英　明四〇、一〇生、北大農學部勤務　農學士

君は千葉縣人石野操助の二男にして明治十三年十月八日を以て生る同三十二年農商務省水產講習所を卒業し同四十五年農商務技手に任じ水產局勤務を命ぜらる大正八年農商務技師に昇進し同十四年農林技師に任ぜられ現時水產局勤務たり大正八年北米合衆國及英領加奈陀に同十二年北米及露領カムチャツカに同十四年再び露領カムチャツカに又翌年米國プリビロフ群島に各出張を命ぜらる家族は尙長女つる子(大一三、四生)あり(東京市澁谷區代々木西原町九二〇)

石野庄一郎　味噌醬油造業　京都府在籍

養父　庄兵衛　明五、八生

養母　スミ　明一三、二生、京都、石川菊治郎妹

エイ　京都、小林卯兵衛長女

妻　しな　明二五、三生、京都、向與三郎長女

女　千代　大五、一生

君は京都府人石野庄兵衛の五男にして明治二十一年五月九日を以て生れ同四十二年先代庄一郎の養子となり大正八年家督を相續す味噌醬油造業として知らる家族は尙二女久子(昭八、四生)弟英太郎(大一三、九生)ありA六六六B二〇四(京都市下京區油小路四條下ル靈下六九九)

石野又吉　正四位勳二等、國大學教授、理學博士、京都帝國大學教授、理學部勤務　京都府在籍

妻　きく　明二二、二生、舊姓寺尾氏、東京女高師技藝科出身、元東京女高師教授

男　俊夫　明三六、二生、正七位、大阪帝國大學助教授、理學士

男　助　明四一、六生、長男俊夫妻、京都帝國大學教授神戸正雄長女、京都府立第一高女高等科出身

婦　ひろ　明四〇、四生、京都帝國大學醫學部助手、醫學士

男　琢二郎　明四〇生、京都帝國大學理工科大學理學部勤務

君は石川縣人石野吉郎右衛門の四男にして明治八年八月一日を以て生れ大正十一年朔直吉方より分れて一家を創立す夙に東京高等師範學校を卒業し同校教諭兼助教授に任じ更に明治四十年京都帝國大學理工科大學理學科を卒業大阪天王寺中學校教頭奈良女子高等師範學校教授等に歷任し大正二年物理學並に數學及物理教授法研究の爲獨英米各國に留學し文部省督學委員京都帝國大學理科大學教授兼奈良女子高等師範學校教授等に歷任大正八年理學博士の學位を受く現時京都帝國大學教授にして物理學講座を擔任し藏に理學部長たり昭和二年歐米に出張を命ぜらる長女君子(明三八、一生、同志社女學校專門部英文科出身)は大阪府人臺北帝國大學助教授今西庄次郎に嫁せりA二三九(京都市上京區塔之段藪ノ下町電上八〇七)

參照＝神戸正雄の項

石野基道　正三位勳五等、子爵、殿掌、掌典　舊公卿家

男　基恒　明三六、二生、正五位、京都武道專門學校助教授

養子　慈榮　明二〇、六生、京都、石野基將長女

當家は權大納言持明院基時の末男權中納言基顯の後なり基礎岐れて一家を成し石野と稱すそれより八世を經て先代基佑に至り明治十七年子爵を授けらる君は其三男にして明治四年四月十一日を以て生れ同二十七年襲爵す夙に學習院中等科を出で同三十年殿掌被仰付現時內匠寮京都出張所に勤務し又掌典たり圍碁謠曲に深き趣味を有す三女和子(明三〇、一二生)は公爵德川圀順に嫁し兄基晉(慶應元、二生)は持明院子爵を相續し其子基揚當主にして姉滿子(文久二、一〇生)は男爵松園信淳の養母たり(京都市上京區一條通猪熊西入如水町六一電西三四三三)

參照＝公爵德川圀順、子爵持明院基揚、男爵松園信淳、本唄利之助の項

石野力藏　山澄商店主代表社員、書畫骨董商　東京府在籍

妻　たま　明二一、四生、東京、坂上晉吉長女

男　享一　明三九、五生

婦　梅子　明四五、二生、長男享一妻、長野清水一德三女

男　政二　昭四〇、一一生

婦　法子　明四四、一〇生、二男政二妻、東京、松島佐助三女

壽子　大七、一〇生

當家の先代力藏は幼時より書畫骨董商山澄家に奉公し長じて獨立開業せしが其後沒落したる主家の暖簾を傳へ山澄と稱し茶道鑑識に於ては第一人者の評あり君は其長男にして明治十一年三月五日を以て生れ昭和二

年家督を相續し前名力太郎を改め襲名す家業を繼承し後組織を合資會社に改め現時其の代表社員たり茶道千家流を能くし宗靜と號す又建築に趣味あり現住店舗は君の設計に成れり家族は尙三男清三(大五、一一生)二女壽子(同七、一〇生)四女君子(同一二、七生)四男長四郎(同一三、九生)五男欣吾(昭二、五生)孫忠(昭六、八生、二男政二長男)庶子常吉(大七、一〇生、生母、東京、横田サト)ありA五一九(東京市日本橋區濱町一ノ一五電浅花四五七五)

石場清一郎　十二銀行㊟常任監査役　富山縣在籍

妻　ヨシ　明七、二生、富山、村澤佐平三女

婦　ヒサ　明二八、八生、富山、阿部逸郎二女

男　英　明四四、一生、亡男讓吉妻、富山中川秀正二男

孫　秀雄　明四四、一生、婦ヒサ養子、富山大五、四生、亡男讓吉長女

孫　孝子

君は富山縣人石場清次郎の二男にして明治二年十二月四日を以て生れ同十二年家督を相續し改名す現時十二銀行常任監査役にして藏に同行本店營業部支配人たり(富山縣上新川郡山室村電一四二九)

石橋伊勢松　人夫請負業　千葉縣在籍

妻　キク　明四、六生、東京、神山長次郎妹

男　勝浪　明二六、四生

男　庄治郎　明二七、一〇生

婦　ひさ　明三二、二生、二男庄治郎妻、東京、內山里吉三女

男　賢三　明三〇、四生

男　宋廣　明四〇、三生

女　八重　明三三、四生

女　竹子　明四一、六生

女　雪子　明四五、三生

君は千葉縣人石橋勝藏の長男にして文久三年十月十七日を以て生れ明治三十八年家督を相續す現時人夫請負業を營む家族は尙孫喜久榮(大一三、一一生、二男庄治郎長女)同武(昭二、七生、同二男)あり長女八重(明三三、四生)は東京府人神山萬藏に二女千代子(同三八、七生)は栃木縣人福田榮吉弟幸彥に嫁せりA六三五B二八二(東京市芝區新橋三ノ一電銀座三一八七)

石橋郁郎　東京瓦斯㊟出納係長　東京府在籍

妻　しげ　明二〇、二生、福田友藏長女

婦　辰江　大五、一二生、靜岡、石橋勇一妹

男　椋二郎　明四一、七生

君は埼玉縣人石橋充平の長男にして明治八年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時南記銀行會社の重役にして推されて埼玉縣會議員たり家族は尙三男章三(大四、一〇生)孫增一(昭二、六生、長男英一郎長男)同敏二(同四、一〇生、同二男)あり長女ちやう(明三、四生)は埼玉縣人村田知義に嫁せり(埼玉縣秩父郡秩父町)

石橋慶藏　瓦斯普請販賣、日本鉸釘各㊟取締役　石橋商店㊟代表社員、東京府士族

男　英一郎　明四〇、二生、長男英一郎妻、埼玉、宮崎鶴五郎三女

婦　玉江　明四一、七生

君は埼玉縣人石橋充平の長男にして明治八年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時南記銀行會社の重役にして推されて埼玉縣會議員たり家族は尙三男章三(大四、一〇生)孫增一(昭二、六生、長男英一郎長男)同敏二(同四、一〇生、同二男)あり長女ちやう(明三、四生)は埼玉縣人村田知義に嫁せり(埼玉縣秩父郡秩父町)

石橋源二郎　福岡縣多額納稅者、二九娘醬油造元　鳥羽屋、酒造業、福岡縣在籍

妻　トウ　明三〇、七生、東京、士、佐久間政數二女

男　紀元　明三三、一一生

君は神奈川縣人石橋覺次郎の長男にして明治十六年十月二日を以て生れ同四十一年家督を相續す現時石橋商店代表社員にして前揭各會社の重役を兼ぬ家族は尙養子玉惠(大一一、三生、神奈川、高木操二女)あり妹エイ(明三四、五生)は鹿兒島縣人山田盛造に嫁せりA一四三五(東京市品川區大井立會町五〇〇電高輪四四三〇)

石橋三郎　紀伊貯蓄銀行㊟雲津支店長　和歌山縣在籍

妻　須賀　明三八、七生、和歌山、多屋秀太郎三生

君は和歌山縣人石橋八九郎の弟にして明治三十二年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時紀伊貯蓄銀行雲津支店長にして藏に石橋合名會社代表社員たりし事あり(和歌山縣海草郡雲津村)

參照＝石橋八九郎※上山市郎兵衛の項

石橋五郎　正四位勳二等、文學博士、京都帝國大學教授兼神戸商業大學教授、文學部勤務、千葉縣在籍

男　源一郎　明三二、一一生

女　ヤス　明四四、二生

君は福岡縣人石橋平平の長男にして明治二年十月二十二日を以て生れ同二十九年先代源次郎の養子となり家督を相續し前名勞祐を改む鳥羽屋と稱し酒造業を營み二九娘の釀造元として知られ直接國稅八百四十三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫清助(大一四、三生、長男源一郎長男)叔母タツ(安政三、六生)ありA一四一(東京市濱小路二六電六五五)

石橋五郎　正四位勳二等、文學博士、京都帝國大學教授兼神戸商業大學教授、文學部勤務、千葉縣在籍

妻　つる　明一七、三生、長野、士、岡本寛長女

男　保雄　明三八、七生、京大經濟學部選科出身

君は千葉縣人石橋保國の長男にして明治九年一月を以て生れ同十二年分れて一家を創立す同三十四年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大學院に入り同三十七年神戸高等商業學校教授に任ぜられ後更に京都帝國大學助教授に任じ同四十年清國に同四十三年歐洲各國に差遣せられ大正八年文學博士の學位を受け「經濟日本地理」其他の著書あり現時京都帝國大學教授にして文學部に勤務し神戸商業大學教授を兼任す謠曲に趣味を有す長女琴子(明三六、七生)は理學博士石橋雅義に二女主子(同四三、一生、兵庫縣立高女同志社女子專門學校各出身)は理學士佐野堤二に嫁せり(京都市上京區吉田二本松町五六)

石橋治郎八　石橋商店㈱導務取締役、製絲業兵庫縣在籍
妻　重、子　明二六、二生、兵庫、山本秋之助二女
女　一江　大四、五生
君は兵庫縣人石橋作太郎の長男にして明治二十一年三月六日を以て生れ姉よしに養子宋吉を迎へ君は同三十四年獨立して一家を創立す現に生絲問屋業石橋商店專務取締役にして傍ら沼津市に於て製絲業を經營すA三六五(横濱市中區南谷田町二〇三九電長者町一七七六)

石橋周也　東京瓦斯副産㈱常務取締役　茨城縣在籍
妻　ひさ　明二五、一生、茨城、士、榎並茂彦長女
男　彌一郎　大七、一〇生
君は茨城縣人石橋安次郎の二男にして明治十九年三月を以て生れ大正十二年兄信之介方より分れて一家を創立す明治四十三年慶應義塾大學部理財科を卒業し現時東京瓦斯副産會社常務取締役たり養に磯部同族會社監査役隅田川精鑑所常務取締役たりし事あり家族は尚長女照子(昭二、一生)二男二郎(同四、七生)ありA五七八(東京市芝區三本榎西町一電高輪四二三一)

石橋正二郎　日本足袋㈱社長、ブリツヂストンタイヤ㈱代表取締役、福岡縣在籍
妻　マサ　明二九、九生、福岡、石田惣三郎長女
男　幹一郎　大九、三生
君は福岡縣人先代德次郎の二男にして明治二十二年二月を以て生れ大正十三年兄德次郎方より分れて一家を創立す現時日本足袋會社長ブリツヂストンタイヤ會社代表取締役たり家族は尚長女安子(大一一、九生)二女ミチ子(同一二、一一生)三女啓子(昭二、四生)四女タマ子(同五、三生)あり(久留米市京町一四一)
參照‖石橋德次郎の項

石橋省吾　正五位勳四等、臺灣總督府法院檢察官、臺南地方法院檢察官長
妻　たま　明二〇、八生、千葉、尾形虞妹
男　富士男　明四五、三生

君は千葉縣人石橋善三郎の三男にして明治二十年二月を以て生れ大正四年先代つねの跡を承け家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科を卒業し司法官試補となり岡崎區裁判所松山富山安濃津各區裁判所及各地方裁判所檢事に歷補し大正八年臺灣總督府法院檢察官臺中地方法院檢察官長高等法院檢察官を經て現時前記の官職に在り家族は尚二男龍雄(大五、一生)三男勇夫(同九、五生)妹ケイ(明三〇、六生)弟余吉(同三三、一二生)同妻貞子(同四一、二生、大阪、米津鹿之助三女)及其一男あり(臺南市竹園町官舍電四)

石橋新次郎　長崎縣多額納稅者、石橋屋本店、呉服商、長崎縣在籍
妻　イカ　明二三、一二生、長崎、貝田官一長女
男　誠次郎　大一〇、四生
女　君子　大六、一生
女　信子　大八、七生
庶子　新市郎　大二、一二生、生母、長崎、松田ツル
君は長崎縣人石橋マツの二男にして明治二十三年十一月十六日を以て生る石橋屋本店と稱し呉服商を營み直接國稅九百四圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尚三女智惠子(大一二、九生)四女澄子(同一四、一〇生)あり叔母ツル(明七、三生)は分家し同カメ(同九、一〇生)は佐賀縣人南川綱吉に嫁せり(長崎市材木町電三〇二三)

石橋長右衛門　松江銀行㈱監査役　島根縣在籍
妻　モト　明一六、一生、島根、布野虎之助五女
男　保人　明四三、一〇生
君は島根縣人石橋助市の長男にして明治十一年十一月を以て生れ同十四年家督を相續す現時松江銀行監査役にして養に雲陽實業銀行取締役たりし事あり長女文子(明三二、六生)は島根縣人竹内千市に四女トミ子(同四〇、六生)は同縣人豊島一雄に姉ハル(同九、三生)は同縣人石橋運市の養子となれり(島根縣簸川郡古志村)

石橋辰次郎　木津川土地建物㈱取締役、辯護士大阪府在籍
妻　やすゑ　明二八、一生、和歌山、松本嘉平四女
男　勇一　大六、三生
君は大阪府人萩堀定治郎の二男にして明治二十二年十一月を以て生れ先代竹五郎の養子となり同四十三年家督を相續す辯護士を業とし傍ら木津川土地建物會社取締役にして養に千日土地建物會社取締役たりA六二〇(大阪市天王寺區大道一ノ四八電天王寺三九二)

石橋庸勳　萬綱、玩具商　東京府士族
母　清　明二四、五生、東京、今井士五郎長女
君は東京府士族石橋千太郎の長男にして大正十二年一月二十三日を以て生れ昭和八年家督を相續す萬綱と稱し玩具商を營む家族は尚姉浪子(大五、一〇生)弟基親(同一五、五生)妹敏子(昭三、三生)ありA一四五四B三六〇(東京市淺草區向柳原二ノ一六電淺草四六一二)

石橋德次郎　久留米商工會議所會頭、ブリツヂストンタイヤ、日本足袋各㈱取締役、久留米工場懇話會長　福岡縣士族
母　マツ　慶應元、八生、福岡、猪方安平長女
妻　カネ　明二五、一生、福岡、木村次兵衛二女
君は福岡縣士族先代德次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名重太郎を改め襲名す現時ブリツヂストンタイヤ日本足袋各會社取締役にして久留米商工會議所會頭に推され又久留米工場懇話會々長たり家族は尚弟慎吉(明四〇、七生)妹梅乃(同三二、一〇生)あり弟正二郎(同二二、二生)は分家し妹タカノ(同三五、一二生)は福岡縣人宮川武に嫁せり(久留米市篠山町二丁目電一二九)
參照‖石橋正二郎の項

石橋甫　從三位勳二等功四級、海軍中將　東京府士族
妻　チヨ　慶應三、一一生、佐賀、金丸清右衛門三女

男　健　明二四、二生、陸軍航空兵少佐
婦　喜代　明三七、一二生、長男健妻、東京萩原義三郎四女
男　誠　明三五、三生、法學士
婦　富子　明四二、六生、二男誠妻、大阪、加藤正男長女
君は石川縣士族石橋良三の三男にして文久二年七月二日を以て生れ明治三十六年海軍少尉に任じ大正三年海軍中將に陞進後退役被仰付其間愛宕高砂磐米利加丸橋立吾妻石見富士各艦長海軍兵學校教頭兼監事長海軍艦政本部第二部長等に歷補す又別に明治四十三年より大正十二年迄商船學校長たりき長女壽子(明二五、八生)は理學士安藤源之助に二女俊(同二七、一生)は海軍少將和田信房に三女治子(同二九、六生)は農學士篠田省吾に四女光子(同三三、三生)は工學士原賢朗に嫁せり(東京市麻布區霞町二二電青山六七五四)
參照‖加藤正男、和田信房の項

石橋八九郎　和歌山商業㈱取締役、內外除蟲菊㈱監査役、石橋㈱代表社員　和歌山縣在籍
母　タミ　慶應元、三生、和歌山、先々代八九郎二女
妻　常　明二一、五生、和歌山、士、寺島良榮二女
男　聽彥　大四、七生
女　富美子　明四四、三生
君は和歌山縣人先代八九郎の長男同三郎の兄にして明治十七年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名松太郎を改め襲名す現時石橋合名會社代表社員にして前記諸會社の重役たり家族は尚三男正文(大一〇、一生)三女千種(同一二、一〇生)四男暉之(同一五、七生)四女多惠子(昭四、七生)妹敏子(明三七、八生)同夫寿三四(同三五、八生、奈良、月尾善右衛門弟)あり妹千代(明一九、七生)は和歌山縣人風山達三に同八重(同二一、一〇生)は同縣人桑邱平三郎に同ユキ(同二八、一生)は同縣人上山市郎兵衛に同秋子(同三四、一〇生)は同縣人上山蕉に養妹シツ(同一九、五生、和歌山、中村六助五女)は同縣人丸田治助三男治市に嫁し弟英夫(同二四、一生)は同縣人宮本春吉の養子となれり(和歌山縣海草郡鹽津村電三)

石橋一郎　丸一石橋彥三郎商店㈱社長、中村呉服店、行田工業各㈱取締役、秋口自動車㈱監査役、滋賀縣在籍
父　彥三郎　安政二、五生、現戸主
妻　さと　明三二、六生、京都、松居庄七妹
男　忠彥　大九、一生
君は滋賀縣人石橋彥三郎の長男にして明治二十七年四月を以て生る現時前記會社の重役たり家族は尚二男秀元輔(大一〇、三生)四男輝夫(同一四、五生)五男俊元(同一五、一一生)あり養弟泰一(同九、一生、丸ヨ石橋彥三郎商店取締役)は分家し姉順(明二五、七生)同夫繁藏(同二一、一〇生、横濱、松本彌太郎弟、丸ヨ石橋彥三郎商店常務取締役)も亦其子女を伴ひ分家せり(滋賀縣犬上郡彥根町電三二七)
參照‖松居庄七の項

石橋孫一　家主　大阪府在籍
母　マスエ　嘉永三、一生、大阪、淺井市右衛門二女
妻　津留　明一三、二生、大阪、高橋與三郎二女
男　孫一郎　明三八、一生、早大高等學院英文科出身
男　芳夫　明四四、一〇生
女　道子　大三、七生、帝塚山學院在學
君は古くより大阪に住し往時農を業とせしが後油商に轉じ維新後郵便局長たり君は先代石橋孫右衛門の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十八年家督を相續す家族は尚三男保夫(大九、二生)あり弟冤(明一三、一生)は同妻トメ(同二三、一〇生、大阪、森本清三郎二女)と共に分家し弟秀員(同二五、一二生)も亦分家し姉トミ(同六、一生)は大阪府人高田邦三郎に妹チヨ(同二〇、八生)は同府人阪東太重郎に同ナラエ(同二三、四生)は同府人池永市郎兵衛に各嫁し同コマ(同一七、一一生)は同府人高田トミエの養子となれりA六六四(大阪市住吉區住吉一〇二五ノ四三電住吉三四四一)

石橋彥一郎　安政二、五生、現戸主
妻　明三二、六生、京都、松居庄七妹
男　彥一郎　大九、一生
君は滋賀縣人石橋彥三郎の長男にして明治二十七年四月を以て生れ明治三十六年家督を相續す同十九年海軍少尉に任じ大正三年海軍中將に陞進後退役被仰付其間愛宕高砂磐米利加丸橋立吾妻石見富士各艦長海軍兵學校教頭兼監事長海軍艦政本部第二部長等に歷補す又別に明治四十三年より大正十二年迄商船學校長たりき長女壽子(明二五、八生)は理學士安藤源之助に二女俊(同二七、一生)は海軍少將和田信房に三女治子(同二九、六生)は農學士篠田省吾に四女光子(同三三、三生)は工學士原賢朗に嫁せり(東京市麻布區霞町二二電青山六七五四)
參照‖加藤正男、和田信房の項

石橋孫一　家主　大阪府在籍
母　マスエ　嘉永三、一生、大阪、淺井市右衛門二女
妻　津留　明一三、二生、大阪、高橋與三郎二女
男　孫一郎　明三八、一生、早大高等學院英文科出身
男　芳夫　明四四、一〇生
女　道子　大三、七生、帝塚山學院在學
君は古くより大阪に住し往時農を業とせしが後油商に轉じ維新後郵便局長たり君は先代石橋孫右衛門の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十八年家督を相續す家族は尚三男保夫(大九、二生)あり弟冤(明一三、一生)は同妻トメ(同二三、一〇生、大阪、森本清三郎二女)と共に分家し弟秀員(同二五、一二生)も亦分家し姉トミ(同六、一生)は大阪府人高田邦三郎に妹チヨ(同二〇、八生)は同府人阪東太重郎に同ナラエ(同二三、四生)は同府人池永市郎兵衛に各嫁し同コマ(同一七、一一生)は同府人高田トミエの養子となれりA六六四(大阪市住吉區住吉一〇二五ノ四三電住吉三四四一)

石橋政太郎　日本畜產工業、田邊合同運送各㈱取締役、石橋商店、石橋商事各㈱代表社員、牛肉商、千葉縣在籍
父　富三郎　文久二、三生、現戸主
男　康司　大六、一生、府立高校在學
女　泰　大三、七生、府中第一高女出身
女　眞　大三、七生、跡見女學校出身
君は千葉縣人石橋富三郎の長男にして明治十六年三月を以て生る牛肉商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尚二男虎之助(大九、三生)三女和子(昭九、一二生)妹わか(大八、八生)あり弟金次郎(明一九、五生)は分家し叔母とめ(同一二、二生)は千葉縣人虎谷清に嫁せりA六八八(東京市荒川區南千住町一ノ三六電淺草八九五)

石橋松藏　正五位勳四等、醫學博士、千葉醫科大學教授、千葉縣在籍
妻　ヒデ　明一一、七生、千葉、石橋玄伯長女、千葉縣立高女出身
養子　豊彥　明三九、二生、東京、岸上鎌吉三男、千葉醫科大學勤務、同大學出身
女　澄江　明四四、四生、千葉縣立高女出身
君は千葉縣人にして明治十六年五月二十日を以て生る

同四十三年九州帝國大學醫學部を卒業し現時千葉醫科大學教授たり病理學を專攻せる同學界の一權威たりA五五〇（千葉市寒川長洲九九一電一〇一七）

石橋安兵衛

下總屋、兩替商
京都府在籍

妻　ヒサ　明一七、八生、福井、山本庄八妹
養子　安郎　明三八、六生、長女德夫、京都、佐野直次二男
女　德　明三八、八生、養子安郎妻
養子　要次　明四三、七生、庶子菊夫、福井、宮本吉三郎二男
庶子　菊　明四四、一一生、養子要次妻

君は京都府人田村藤七の四男にして明治五年二月十一日を以て生れ同十二年先代安兵衛の養子となり翌年家督相續と共に前名竹次郎を改め襲名す下總屋と稱し兩替商を營む家族は尙孫清子（昭五、一二生、養子安郎長女）同安治（同七、八生、同長男）同禮子（同九、一生、養子要治長女）同佳子（同九、四生、養子安郎二女）ありA六九四（京都市中京區寺町通竹屋町下東側電上八九二）

石橋義雄

日本銀行㊟督業局調査役
福岡縣士族

母　タメ　明五、五生、福岡、石橋軍太二女
妻　翠　明三三、八生、福岡、末次久五郎長女
男　一雄　大一〇、四生

君は福岡縣士族石橋儀三郎の長男にして明治二十五年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正三年長崎高等商業學校を卒業して日本銀行に入り同十四年紐育に派遣せられ昭和三年歸朝同四年檢査役となり其後調査局調査役京都大阪各支店調査役を經て現時同行督業局調査役たりA一六五（東京市小石川區竹早町三六電小石川四三三七）

石濱純太郎

龍谷大學、關西大學各講師
大阪府在籍

妻　恭子　明二九、一二生、東京、大城戸宗重二女
男　恒夫　大一二、二生

君は大阪府人石濱豊藏の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十三年家督を相續す同四十四年東京帝國大學文科大學支那文學科を卒業し大正十三年內藤湖南博士の外遊に隨伴せり現に龍谷大學關西大學各講師たり家族は尙三女彌榮子（大九、三生）四女郁子（昭三、六生）三男浩三（同四、九生）四男典夫（同七、一生）五男俊造（同八、九生）あり弟敬次郎（明二三、一一生）正治に嫁せりA九七七（大阪市住吉區千躰町一四電住吉二〇二〇）

石原以波保

鳥取縣多額納稅者、農業
鳥取縣在籍

妻　彌千代　明一八、五生、鳥根、士、西村淵長女
養子　祥枝　大五、一生、弟倉光求三女

君は鳥取縣人石原白高の二男にして明治十四年九月三十日を以て生れ同三十二年家督を相續す農を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅八百七十七圓を納む義に山陽銀行雲陽實業銀行各取締役に擧げられしことあり家族は尙弟劍太郎（明二二、五生）同妻優子（同三〇、三生、鳥取佐藤幸太郎三女）あり姉ゆう（同一三、六生）は鳥取縣人佐伯友光長男友文に妹孝子（同二九、九生）は同縣人山本亮二嫁し弟求（同一五、一一生）は同縣人倉光必明の養子となりり（鳥取縣西伯郡日吉津村）參照＝淺名島嘉吉郎の項

石原育市郎

農林業
德島縣在籍

妻　モク　明一四、六生、德島、士、友成峯三姉
母　優　明三三、八生、德島、士、野々木秀造長女
男　市郎　大一三、三生

君は大阪府人石原六郎の長男にして明治四十四年東京當家の先代石原六郎は養に德島縣多額納稅者に列し農業及林業を營み夙に佛門に入り禪を修め法名を昊鄰と稱し昊朝文庫を起し鄕土志圖書館長たり又公共事業に盡す處尠からず藍綬褒章を賜ふ君は其長男にして明治三十年二月を以て生れ後家督を相續す父業を繼ぎ農林業を營む家族は尙弟二郎（明三三、七生）同妻みち（同三三、一〇生）同彦五郎（同四三、三生）同光六（大一一、一生）妹佐代（明四五、三生）甥隆（大一三、一一生、弟二郎長男）姪茂子（昭三、一生、同長女）あり妹富美（明三六、一一生）は德島縣士族友成峯三の死跡を相續し叔母カメ（同八、八生）は其二女を伴ひ繼祖父泰治郎（安政三、八生、德島、庄野彦十郎弟）は祖母コヲ（嘉永五、六生、德島、須見昱太郎妹）と共に各分家せり（德島縣麻植郡西尾村）

石原彦

安田銀行㊟調査役
東京府士族

妻　千畝　明二九、四生
男　義彦　大一四、一〇生
女　喜美　大八、一生

君は東京府士族石原虎雄の三男にして明治十八年三月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し大正三年第三銀行に入り同行米子支店長より根室銀行支配人代理調査課長となり同行の安田銀行に合併するや安田銀行根室支店長に擧げられ同行函館秋田及本鄕各支店長を經て現時同行調査役たり家族は尙二女和（大九、三生）三男彦之（同一五、一一生）四男眞朋（昭四、一〇生）の外兄乾（明一〇、四生、現戶主）同妻梅（同二一、二生、靜岡、濱中章七郎妹）及其一子並に兄北夫（同一四、八生）同妻アイ（同二五、二生、熊本、瀧下與作二女）及其子女あり（東京市小石川區原町一三はノ二號）

石原榮三郎

愛知縣多額納稅者、かぢ平、石原商店、金物商、愛知縣在籍

妻　かぎ　明一六、一生、愛知、寺田敬三郎姉
男　宗之助　明四三、七生
女　ふさ子　明四二、一生
女　千代子　大八、一生

君は愛知縣人石原平左衛門の叔父にして吉村玉吉の甥なり明治十三年四月を以て生れ大正四年分れて一家を創立すかぢ平と稱し金物商を營み現に縣下の多額納稅者にして直接國稅千七百十二圓を納む家族は尙三男福三郎（大五、一一生）四女富子（同一〇、三生）五女秀子（同一一、三生）あり（名古屋市西區東柳町八二電西三〇一三・三〇一四・四三〇一五）

參照＝石原平左衛門の項

石原圓吉

三重縣會議員、三重沃度製造㊟取締役社長、志摩電氣鐵道、石原滿俺各㊟監査役、三重縣在籍

男　一彦　明三八、五生
婦　登志　明四五、二生、長男一彦妻
男　圓彌　明四〇、一二生

君は三重縣人先代圓吉の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正八年家督を相續し前名彦四郎を改め襲名す現時前記各會社の重役にして三重縣會議員帝國水產會評議員たり嘗に九州化學肥料大洋漁業各會社の重役に就任し又三重縣參事會員同縣會副議長たりし事あり家族は尙孫慣彦（昭七、一二生、長男一彦長男）妹まつ（明一五、三生）あり二女トシ（同三五、一一生）は靜岡縣人渡邊譽五郎に三女正代（同四四、一生）は福岡縣人吉田龍作に嫁し妹さと子（同二三、一一生）同夫彌二郎（同二四、八生、三重、田邊富藏二男）は其三子を伴ひ妹てい（同二九、九生）同夫鍋治（同一八、一一生、三重、橋本藤藏二男）は其子女を伴ひ各分家せり（三重縣志摩郡鳥羽町電一〇・三二六）

石原貫一

從四位勳三等、陸軍二等軍醫正、醫學博士、慶尙北道立醫官兼大邱醫院醫官、大邱醫學專門學校教授、大邱醫院勤務、岡山縣在籍

母　天津　明二一、一二生、岡山、國彌興三郎長女、京都府立第一高女出身
妻　艷野　明四一、一一生、朝鮮殖產銀行京城本店在勤、法學士
男　有彌　明四四、三生、東大經濟學部在學
男　正博　大六、一生
女　澄江　大八、六生
女　博子

君は岡山縣人石原鶴三郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十五年岡山醫學專門學校を卒業し同三十七年陸軍三等軍醫に任じ爾來累進して大正九年陸軍二等軍醫正に任ぜらる其間明治四十二年陸軍々醫學校に入り耳鼻咽喉科を專攻し同校御用掛日本赤十字社病院耳鼻咽喉科主幹心得松本衞戍病院長岡山衞戍病院長に歷補されたるが大正十二年朝鮮總督府道慈惠醫院醫官に轉じ同十四年道立醫院醫官となり大邱醫院醫官兼大邱醫學專門學校教授に任じ現在に及ぶ義に奮逸に留學し其後醫學博士の學位を受く長女禎子（大四、三生、大邱高女出身）は東洋拓殖會社平壤支店員法學士大藤亨壯に妹喜美（明二二、五生）は岡山縣人寺尾雅男長男茂八に嫁し弟述太（同一四、二生）同妻仲（同一九、一〇生、岡山、岡本喜一二女）は其子女を伴ひ分家せり（朝鮮慶尙南道大邱醫院內）

石原喜一郎

家主
大阪府在籍

君は大阪府人石原喜太郎の長男にして明治四十二年三月二十九日を以て生れ昭和六年家督を相續す家主たり家族は尙弟喜八郎（大六、一生）叔母マサ（明一八、七生前戶主祖父喜三郎長女）ありA一一一二（大阪市南區高津一番町七三電戎三二四六）

石原喜久太郎

正四位勳三等、醫學博士
東京府在籍

妻　マツ　明八、七生、島根、故渡邊靖二女
男　嵩雄　明三五、一二生
婦　榮子　明四二、一一生、長男嵩雄妻、和歌山、復本陽長女
女　喜代子　明三九、一生
男　久米雄　明四一、一〇生、千葉醫科大學在學
男　忠雄　明四三、三生、神戶高等商船學校

君は島根縣人石原庄太郎の二男にして明治五年九月二十五日を以て生れ同三十八年兄喜一郎方より分れて一家を創立す同三十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學助手同助教授となり暫ねて侍醫寮御用掛として多年宮廷の衞生事務を擔任し又文部省學校衞生囑託として同省學校衞生制度の施設に盡力す同四十四年學校衞生學徵菌學研究の爲獨墺兩國に留學し大正三年歸朝し同五年醫學博士の學位を受く義に傳染病研究所技師並に東京帝國大學教授たりしも昭和七年退官現時閑地に在り長女紀美子（明三四、一生）は醫學博士中泉正德に嫁せり（東京市中野區櫻山一一電中野二三五六）

石原久吉

正八位勳六等、雜司ヶ谷淺井郵便局長、大正鑛林業㊟常務取締役
岡山縣在籍

妻　ヨシ　明一五、四生、奈良、芳田秀太郎二女
男　君巖　明三九、一二生
女　君世　明四一、四生
男　正二　大二、一〇生
女　美代子　大八、一生

君は岡山縣人石原莊平の二男にして明治八年十二月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治三十四年京都帝國大學理工科大學採鑛冶金科を卒業し現時雜司ヶ谷淺井郵便局長にして傍ら大正鑛林業會社常務取締役たり家族は尙三男達也（大一一、五生、弟卿平（明二五、三生）同妻リヤウ（同三四、九生、秋田、高橋逸郎姉）あり二女さよ子（明四四、三生、成蹊高女出身）は岡山縣人福井甚藏長男孝次に嫁し繼父靜義（嘉永三、四生、岡山、片山景堅弟）は母あさ（同五、五生、石原牧治郎二女）弟房雄（明一六、三生）及び其二男一女を伴ひ分家せり（東京市豐島區雜司ヶ谷五ノ七三一電牛込一六九二）

石原健三

從二位勳一等、樞密顧問官
東京府在籍

妻　ヨシ　明一五、四生、奈良、芳田秀太郎二女
男　君巖　明三九、一二生
女　君世　明四一、四生
男　正二　大二、一〇生
女　美代子　大八、一生

君は岡山縣人石原庫平の三男にして元治元年一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治二十二年帝國大學法科大學英法科を卒業し判事試補に任じ等で司法省參事官試補となり裁判所書記長を經て同二十八年判事に任ぜらる同二十五年茨城縣參事官に轉じ爾來大阪香川岐阜各府縣參事官內務省參事官山梨千葉高知靜岡各縣知事北海道廳長官神奈川縣知事等に歷任し大正四年宮內次官に任じ同十一年貴族院議員に勅選せられ昭和二年樞密顧問官に任ぜらる讀書を好み書畫骨董を愛玩す家族は尙孫佳子（大一四、三生、長男義一長女）同泰（同一五、六生、同二男）同昭（昭三、四生、同三男）同益子（同七、一一生、同二女）あり（東京市品川區五反田町五ノ五七電高輪四七）

石原幸作

從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中尉、臺灣日日新聞社㊟監査役
東京府士族

妻　すみ　明九、一生、東京、豬本普吉四女

君は東京府士族石原忠久の長男にして明治五年四月十日を以て生れ同三十一年家督を相續す夙に獨逸學協會學校專修科を出で現時臺灣日日新聞社鹽役たり藏に一年志願兵となり日露の役に從軍し各地に轉職して功あり中尉に進み勤六等に敍し功五級金鵄勳章を賜ふ父忠久(天保七、一生)は母ハツ(嘉永四、一二生)を伴ひ東京府士族川口卓彌の相續人となれり(臺北市兒玉町四ノ一)

石原越二郎

妻　つじ　明四、一〇生、群馬、工藤甚太郎二女

男　忠　明二八、一〇生

婿　キク　明三一、一生、長男忠妻、群馬、大塚庄次郎三女

男　二郎　明三二、四生

婿　清　明四〇、二生、二男二郎妻、神奈川、田部井芳郎養母

男　寅三郎　明三五、二生

婿　直子　明四二、一生、三男寅三郎妻、群馬、秋池金一郎姉

君は群馬縣士族石原一郎の長男にして文久二年九月を以て生れ明治二十九年家督を相續す現時境倉庫伊勢崎倉庫及伊勢崎製絲各會社の取締役にして兼に群馬中央銀行取締役たり家族は尙孫しげ(大九、一一生、長男忠長女)同やす(同一一、一〇生、同二女)同みつ子(同一四、三生、同三女)同その子(同一五、九生、同四女)同一雄(昭四、八生、同長男)同實(同四、三生、二男)同一郎長男)と弟鉀三郎妻しん(文久三、二生、群馬、長谷川彌平二女)及其子女あり長女ヒデ(明四一、一生)は群馬縣人小林豊三に妹よね(同元、一〇生)は埼玉縣人鹽原治三郎に姪きわ(同二二、七生、亡弟鉀三郎長女)同四女)は群馬縣人橋本喜代太四男政男に同はる(同二八、四生、同五女)は茨城縣人勝本佐太郎に同とめ(同三二、二生、同六女)は三重縣人糸川良三に嫁し六男信五郎(同四四、一生)は群馬縣人石原重松に姪くに(同二六、四生、亡弟鉀三郎三女)は同縣人金井又七に各養子となれりA

石原才助

妻　ウサオ　明二七、五生、林郁太郎二女

男　曉　明四〇、一一生

男　雄　明四五、五生

君は福岡縣士族石原敏功の長男にして明治十三年一月十日を以て生れ同二十七年家督を相續す現時貝島炭礦大阪小型タクシー自動車各會社の重役たり家族は尙三男敏助(大四、三生)四男大雄(昭四、五生)弟宗助(明二〇、一一生、六生)六男友雄(昭四、七生)二女孝子(同一一、六生)六男友雄(昭四、七生)弟宗助(明二〇、一〇生、三井物産會社員)あり妹清(同二五、四生、は福岡縣人篠崎長次郎に嫁し五男信義(大一三、一生)は福岡縣人加藤正己の養子となれり(下關市唐戸町二)

石原鉎治郎

妻　つな　明二一、二生

男　釟次郎　明二六、五生、二男釟次郎妻、岐阜、田中貞次郎三女

婿　とみ　明二五、四生、三男寅三郎妻、岐阜、和田光次郎姪

男　清右衛門　明三〇、七生、三男清右衛門妻、岐阜、和田光次郎姪

婿　はま　明二七、二生

男　清造　明三五、四生、四男清造妻、岐阜、田中貞次郎五女

孫　榮　大八、七生、三男清右衛門長女

君は愛知縣人石原清左衛門の長男にして弘化四年二月を以て生れ元治元年家督を相續す鐵工業及銅鐵商を營み愛知縣多額納稅者に列し直接國稅二千二百鐵商を營み愛知縣多額納稅者に列し直接國稅二千二百二十圓を納む家族は尙孫榮一(大一〇、三生、三男清右衛門長男)同みよ(同一四、二生、同二女)同晴雄(昭二、一生、同二男)同敏雄(大一〇、六生、四男清造長男)同光治(同一一、一生、同三男)あり亡庶子源次郎妻かく(明一五、八生、同三男)あり亡庶子源次郎妻かく(明一五、八生、愛知、犬飼武右衛門長女)は其子女を伴ひ分家し長女つる子(同一九、四生)二女りう(同二三、七生)も亦各分家し五男鉎二郎(同三一、四生)は外祖父田中清吉の養子となれり(名古屋市東區櫻町一ノ五〇電東一七九五)

石原忍

母　レイ　從四位勳三等、醫學博士、陸軍々醫監、東京帝國大學教授、醫學部勤務、東京府士族

妻　琴　文久元、一〇生、愛知、士、金森龍妹

男　啓　明二三、一生、陸軍少將井口五郎長女、府立第三高女出身　大七、一一生

君は故陸軍砲兵大佐石原氏基の長男にして明治十二年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十八年東京帝國大學醫科大學を卒業し陸軍二等軍醫に任ぜられ同四十一年一等軍醫に進み大學院に入り同四十三年陸軍々醫學校教官に任じ大正元年醫學研究の爲獨逸に駐在し歸朝後同三年大學院を卒へ同五年醫學博士の學位を授けらる同十年一等軍醫正に次で軍醫監に陞り豫備役仰付らる翌年東京帝國大學醫科大學教授に任じ眼科學講座擔任今日に至る家族は尙四女美彌子(大一四、一〇生)五女みや子(昭二、四生)あり長女美惠子(明四四、二生)は東京府人佐藤亨弟勉に妹ヒロ(同一九、一〇生)は東京府人水野鉄三に同フジ(同二八、四生、三輪田高女出身)は愛知縣人陸軍三等軍醫正中野織治に同八重(同三一、一生、出身校同上)は同縣人大西庄次郎長男英一に嫁し二女喜美子(大五、四生)は陸軍少將井口五郎に三女壽美子(同一一、三生)は京都府人速水一孔養子篤治郎に弟剛(明一四、一一生、愛知醫專出身)は三重縣人伊藤晉之助に各養子となり弟亮(同一七、四生、醫學博士、海軍々醫少將)同妻藤(同二四、五生、愛知、士、久野知義二女、山形高女出身)は其一男二女を伴ひ同雄(同三四、一生)同妻都枝(同三九、五生、千葉、士、鈴木重雄三女)は其二女を伴ひ各分家せり(東京市中野區宮里町三五電四谷二〇七〇)

參照‖佐藤亨淡小野諒兄の項

石原修

正五位勳四等、醫學博士、大阪帝國大學教授、醫學部勤務、東京府在籍

妻　きよ　明三一、二生、茨城、稻見不二意二女

君は東京府士族石原高の三男同誠の弟にして明治十八年十月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す現時大阪帝國大學教授にして醫學部勤務たり義に醫學博士の學位を授けらる(大阪市北區當安町大阪帝國大學醫學部內)

參照‖石原誠の項

石原脩吉

石原商會代表社員　東京府在籍

妻　マツ　明二三、一〇生、養父万助二女

男　熙造　大二、七生

女　淑江　大三、八生

君は長崎縣士族嘉村敬三の二男にして明治十五年三月を以て生れ東京府人石原萬助の養子となり昭和五年分れて一家を創立す明治四十年早稻田大學商科を卒業し石原商會を經營し現に其代表社員にして兼に關東ゴム調帶會社取締役を兼ね推されて京橋區會議員たること二回同區會議長たり事あり家族は尙二男靖三(大五、六生)五男康吉(同一一、一生)六男信三(同一五、二生)七男令雄(昭二、一一生)二女聰子(同五、七生)あり養妹スヱ(明三五、二生)は東京府人佐久間正吉弟長に嫁せ(東京市京橋區越前堀一ノ二ノ四電京橋六〇七二)

參照‖石原萬助、佐久間正吉の項

石原純

正五位、理學博士、明治大學講師　東京府士族

妻　いつ　明一一、三生、岩手、橋元昌矣姉

男　紘　明四三、八生

女　雅代　明四一、四生

女　綏代　大四、三生

君は東京府士族石原量の長男にして明治十四年一月十五日を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十九年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し大正五年理學博士の學位を授けらる嘗に東北帝國大學理學部教授に任ぜられ退官後專ら著述を業とし又碩學アインスタインの紹介者として知られ曾て獨逸に在りて親しく氏に師事せり本邦に於ける相對性原理の權宿にして「相對性原理」の外「エーテルと相對性原理の話」「アインスタインと相對性理論」等著書多し又短歌に優れアララギ派の歌人として知られ歌集「靈日」あり現時明治大學講師たり家族は尙二男統(大六、一生)三男紘(同八、八生)あり弟謙(明一五、八生、從五位、文學博士、東北帝國大學法文學部教授)は分家せり(東京市杉並區馬橋三ノ三六四)

石原正太郎

妻　なを　明一八、一二生、石川、由雄七平長女

男　重太郎　明三七、九生

養子　信成　明三九、一生、東京、山本和成弟

男　重二郎　明四一、一一生

君は富山縣人石原重太郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す先是明治三十六年東京高等商業學校を卒業し祖業農を繼承し傍ら樺太林業越中鐵道北陸汽船各會社長及び日本電力金澤電氣軌道立山電力會社等の外前記諸會社の重役に擧げらる曾て衆議院議員に當選すること二回に及ぶ家族は尙五男重利(大五、九生)六男重伍郎(同一二、四生)あり姉はつ(同一〇、二生)七男重伍郎(同一二、四生)あり姉はつ(明六、三生)は富山縣人山本新六長男保成に同つね(同九、一生)は同縣人小澤安次郎に妹すゞ(同二四、一生)は富山縣人久々江正藏に嫁し弟重治(同二一、一生)は其子女を伴ひ分家せり(富山縣婦負郡百塚村百塚電富山三三九五)

石原助熊

日本女子大學校教授　東京府士族

妻　よし　明二〇、一生、靜岡、清野勇三女

男　近治　明四五、七生

男　康正　大三、三生

君は東京府士族石原近長の長男なり明治四四年二月を以て生れ大正十年家督を相續す夙に駒場農學校を卒業し農商務省に勤務靜岡縣興津園藝場主任たりしが共後官職を辭し日本女子大學校教授たり義に農林省囑託たり事あり三女三保子(明四二、八生)は兵庫縣人下山英五郎三男常夫に嫁せりA四〇九(東京市麴町區下二番町三八電九段五六六)

石原善三郎

妻　いと　明三二、三生、大阪、島雄瀧藏四女

奈良市長　大阪府在籍

君は大阪府人石原善平の弟にして明治二十一年七月九日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同年早稻田大學法科を卒業し大正四年以來大阪府會議員に當選すること三回同市會議員に當選する事二回に及ぶ昭和二年奈良市街自動車會社々長となり同八年三月大阪電線會社々長を兼ね同年九月奈良市長に推され就任す義に昭和五年衆議院議員に選出せられ又日の丸電線會社專務取締役たりしことあり(奈良市登大路町六三電一六〇)

參照‖石原善平の項

石原清逸

正五位勳五等、營林局技師、東京營林局利用課長、岐阜縣在籍

妻　あい　昭二六、八生、愛知、安藤義賢長女

男　昭一郎　昭四、三生

女　美代子　大四、五生

君は岐阜縣人石原半三郎の四男にして明治十七年十一月を以て生る同四十三年東京帝國大學農林學科を卒業し林務技手山林技手同技師農商務技師を經て大正十三年營林局技師に任ぜられ東京秋田大阪の各營林局利用課長に歷補し現時東京營林局利用課長たり義に支那及英領香港を視察し又南米及歐洲各國に出張せり家族は尙二女眞佐子(大九、四生)四女芳子(同一四、一二生)兄皆三郎(明五、一一生、現戸主)同妻なつ(同一〇、九生、岐阜、林如親姉)及び其二男あり弟續吉(同二二、七生)は岐阜縣士族種田榮治の養子となり姪千代(同三七、一生、兄皆三郎長女)は同縣人川瀨誠吉に嫁せり(東京市淀橋區戸塚町三ノ八八五電牛込四七七〇)

石原善平

日の丸電線株式會社長、銑鐵コークス商、大阪府在籍

母　マツ　文久二、一二生、兵庫、岡本勘左衛門二女

妻　まち　明二六、三生、大阪、津田市松四女

當家は代々廣島縣に住せしが先代藤平に至り大阪に移りて金物商を營み今日の基礎を成せり君は其二男にして明治十九年八月二十一日を以て生れ同四十二年家督を相續し前名藤次郎を改め巢名す夙に家業に從ひ鐵鍛及コークス類を商ひ歐洲事變に際し巧妙なる商略と周密なる考慮とを以て今日の地位を贏ち得たり傍ら日の丸電線會社長たり家族は尚弟孝三郎(明三二、四生)同妻繁子(同三七、一生、大阪、平松繁十郎長女)及其一男二女あり弟善三郎(同二一、七生)妹ユキ(同二五、九生)は各分家せりA三五六七B一九二(大阪市西區立賣堀北通二ノ一七電話新町六八)

參照＝石原善三郎の項

石原宗一郎

母　すゞ　岡崎商工會議所常議員、三龍社㈱監査役、岡崎米穀商組合、岡崎薪炭商組合各組合長、米穀薪炭コークス商、愛知縣在籍

妻　むら　萬延元、四生、愛知、安藤新三郎妹

女　政子　明一八、九生、愛知、天野末藏長女

女　常子　明四二、二生、岡崎高女出身

女　愛子　大三、六生、岡崎高女出身

大六、一二生

君は愛知縣人石原耕七郎の長男にして明治十年九月を以て生れ同四十五年家督を相續す米穀薪炭商を營み前記各會社の重役にして岡崎商工會議所常議員に推さる養に岡崎米穀取引所理事長に擧げられ足助林業大八運輸各會社の重役たりし事あり家族は尚七女勝子(大一一、七生)あり(岡崎市六供町杉本七〇電五四六)

石原璋男

母　フク　千代田組㈱取締役兼雜貨部長

妻　ふみ　明二八、四生、東京、關谷勇二女　長崎縣士族

男　正　大八、二生

女　綾子　大七、一〇生

君は長崎縣士族石原正次の二男にして明治十五年十二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十年慶應義塾理財科を卒業し現時千代田組取締役兼雜貨部長たり

石原寅次郎

妻　トヨ　文久三、八生、東京、士、山添錄三長女

男　襄　明二八、四生、東京、關谷勇二女

男　淳　大八、二生

女　子　大七、一〇生

君は長崎縣士族石原正次の二男にして文久二年五月二日を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十年慶應義塾理財科を卒業し現時千代田組取締役兼雜貨部長たり

大正九年米國に遊ぶ家族は尚二男久(大一〇、一〇生)あり弟鯱四郎(明三〇、一二生)同省吾(同三四、三生)同六朗(同三七、三生)は各分家せりA三五七(東京市澁谷區豊澤町三〇電高輪七一六七)

石原長次

養子　勉　家主　大阪府在籍

明三七、一〇生、大阪、石原政造二男

君は大阪府人石原久之助の三男にして明治十三年五月十六日を以て生れ十八年分れて一家を創立す家主たりA二三〇九(堺市榮橋二)

石原富松

養父　山三郎　從四位勳三等、工學博士、東北帝國大學教授、工學部勤務　宮城縣士族

養母　きし　元治元、一〇生、現戸主　元治元、七生、京都、下野やを長女

妻　しげ　明二四、四生、養父山三郎長女

君は宮城縣人米澤長吉の二男にして明治二十二年七月を以て生れ同四十二年石原家の養子となる大正四年東北帝國大學理科大學化學科を卒業し同校理科大學助教授兼工業專門部教授に任じ同十三年英佛獨に留學を命ぜらる同年工學博士の學位を授けられ現に東北帝國大學教授にして工學部に勤務す養妹アサ(明三一、一一生、鹿島、石川俊姉)は宮城縣人石田常英に嫁せり(仙臺市米ケ袋上町二〇)

石原友曉

養子　俊郎　山平、製材業　東京府在籍　明三六、一二生、京都、村井竹次弟

婿　もと　明四〇、四生、養子俊郎妻、東京　羅永三斗七女

君は京都府士族西村友安の三男にして文久二年五月二十七日を以て生れ石原家の養子となり明治三十三年養姉アイ方より分れて一家を創立す山平と稱し製材業を營む養に湯澤製材會社監査役たりしことあり家族は尚孫清子(昭五、五生、養子俊郎長女)同信子(同六、八生、同二女)あり(東京市深川區木場町一〇一電本所三八三二)

石原寅次郎

妻　トヨ　從四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、同大學金屬材料研究所長事務取扱、岡山縣在籍　明三五、一〇生、熊本、宗像十郎三女

男　襄　大五、一二生、宮城女學校英文專攻科在學

女　淳子　昭九、四生

君は岡山縣人石原銀次郎の三男にして明治二十二年一月を以て生る大正二年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同八年東北帝國大學助教授に任じ同九年理學博士の學位を受け次で同十二年同大學教授に任じ現に同大學金屬材料研究所所長事務取扱たり同十三年英佛獨に留學を命ぜらる家族は尚二女馨子(昭三、一生)の外兄儀七郎(明一五、一一生、現戸主)同妻竹代(同二三、六生、岡山、森山謹一郎長女)及其子女あり(仙臺市米ケ袋中ノ坂通七)

參照＝淡久保甚吉の項

石原直道

妻　勝　高島屋飯田㈱理事、東京本店副支配人、東京府在籍　明二五、一生、東京、士、毛利銓之助二女

男　重雄　明四四、二生

君は東京府士族石原重道の長男にして明治十二年十月十六日を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十六年東京高等商業學校を卒業し後高島屋飯田會社に入り同四十四年ロンドン支店主任となり現に同社理事副支配人にして經理部を擔當す家族は尚二男道雄(大四、一生)三男直一(同六、三生)長女園子(同九、一生)四男文雄(同一一、一生)二女綾子(同一三、六生)三女靜子(昭二、一生)あり姉すゞ(明九、八生)は東京府人堀江正三郎に嫁せりA一六六(東京市小石川區大塚窪町二四電小石川五五四八)

參照＝堀江正三郎の項

石原久

妻　たか　正四位勳三等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府士族　明七、六生、埼玉、士、佐野三綱二女

君は埼玉縣士族石原昌廸の二男にして慶應二年十月を以て生れ明治十七年先代兄春策の後を承け家督を相續す同二十七年東京帝國大學醫科大學助教授に任じ大正四年米國に留學し商科醫學を專攻し翌年同醫科大學教授となり現時同大學教授兼同醫學部勤務三等醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務　東京府士族

妻　ミネ　明二二、三生、佐賀、士、菊池篤忠二女、東京女學館出身

男　正之　大三、三生

君は東京府士族石原亮の二男同修の兄にして明治十二年五月を以て生れ先代二三の養子となり同二十八年家督を相續す同三十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し助手拜命と同時に獨逸各國に留學し生理學を研究す同三十六年京都帝國大學醫科大學助教授に任ぜられ同三十九年歸朝と共に同大學教授に進み現時九州帝國大學教授にして醫學部勤務たり嘗に醫學部長に補せらる同四十年醫學博士の學位を授けられ同四十三年墺洪國に大正十二年歐米各國に差遣せらる家族は尚三男綱夫(大四、一二生)あり(福岡市新大工町四一電一九二九)

參照＝石原修の項

石原政造

父助　久之助　石原時計店、時計貴金屬商　嘉永三、一生、現戸主

母　たつ　大阪府在籍　弘化三、六生、祖父萬助長女

妻　りやう　明一二、三生、東京、松村新太郎長女

男　正信　明三三、五生

婦　知子　明三九、一〇生、長男正信妻、京都、伊藤又次長女

女　潔子　明四一、七生

男　進三　明四五、四生

君は大阪府人石原久之助の二男にして明治十一年一月を以て生る石原時計店と稱し時計貴金屬商を營む父久之助は嘉永三年大阪府多額納稅者たり家族は尚孫實(昭三、一二生、長男正信長男)あり二男勉(明三七、一〇生)は大阪府人石原長次の養子となり妹コウ(同一九、八生)は山口縣人久保田繁亮に嫁せりA七九九〇B八五六(大阪市東區南久寶寺町四ノ七七電船場二三四)

參照＝石原久之助の項

す同二十七年東京帝國大學醫科大學を卒業し同三十二年米國に留學し商科醫學を專攻し翌年同醫科大學助教授に任じ大正四年同大學教授となり現時同大學名譽教授たり同五年醫學博士の學位を授けらる姉せい(文久元、一生)は埼玉縣士族室田武隣先代孝三郎に嫁し同みき(元治元、六生)は同縣士族太田貞巳の母たり(東京市本郷區根津須賀町七)

參照＝太田貞巳の項

石原廣一郎

父　長太郎　石原毛、石原產業海運㈱各代表社員、南洋倉庫㈱顧問、立命館大學理事、京都府在籍

妻　トミ　安政四、五生、京都、深見德左衛門二男、現戸主

男　健三　明二四、一一生、京都、石原彦次郎三女

女　昌榮　大二、一二生

君は京都府人石原長太郎の長男にして明治二十三年一月を以て生る大正二年立命館大學を卒業し現時石原合名會社石原產業海運合資會社各代表社員たるの外南洋倉庫會社の顧問にして義に石原鐵業石原產業兩會社の社長たり事あり家族は尚二女志都子(大九、五生)弟新三郎(明二七、一二生)同妻ミツ(同三二、一〇生、京都、佐々木磯次郎長女)及其一女あり弟儀三郎(同三一、九生)は京都府人高田ノブの養子となり姉ナヲ(同一九、七生)は同府人長谷川半三郎に妹うた(同三五、一一生)は同府人河尻清次郎長男久一に妹滿喜(同三九、三生)は愛媛縣人樋木篤次郎長男馨に嫁せりA三二五八(京都市下京區吉祥院西ノ内町四〇電下二六一四)

參照＝樋木篤一郎の項

石原福次郎

養子　鐵彌　日肥林業、都城魚市場、宮崎林業各㈱取締役、宮崎縣在籍　明二〇、四生、亡長女トキ夫、宮崎、黑岩常平弟

孫　誠　大二、一〇生、養子鐵彌長男

孫　道子　大五、三生、養子鐵彌長女

孫　禰子　大七、三生、養子鐵彌二女

君は宮崎縣人石原松五郎の三男にして文久二年一月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚孫澄子(大一〇、四生、養子鐵彌三女)同悅子(同一二、九生、同四女)あり二女久(明三〇、三生)は東京府人藤田學樹に嫁せり(都城市上町四二五九ノ四電五〇九)

參照＝黑岩常平※江夏岩吉※持永善市の項

石原平左衛門

母　のう　明一二、八生、愛知、羅田卯助叔母　石原商店繊部、かち平、金物商　愛知縣在籍

君は愛知縣人先代平左衛門の長男にして明治四十年七月を以て生れ昭和六年家督を相續し前名誠一郎を改め襲名すかち平と稱し金庫及金物商を營む家族は尚妻千代及長女嘉子(昭九、二生)弟宮松(明四一、一〇生)妹てい(大二、七生)女すゑ(同三、六生)同ひろ(生年月同上)弟平八(同五、五生)あり叔父兵衛(明二七、三生)同重兵衛(同三〇、六生)同榮三郎(同一三、四生)は各分家し姉やす(同三九、六生)は愛知縣人水野專之助二男源次郎に叔母はる(同一七、四生)は同縣人水野富次郎二男佐一に嫁し叔父平七(同二〇、七生)は大阪府人吉村玉吉の養子となれり(名古屋市西區東柳町八二電西三〇一〇・三〇二一)

參照＝石原榮三郎、羅田卯助の項

石原辨造

妻　孝　明四四、五生、岡山、佐藤德太郎長女

男　健一　明三三、一〇生

婦　花　明三六、二生、長男健一妻、兵庫高井藤助三女

男　次郎　明三六、七生

女　茂子　明四一、二生

男　三郎　明四五、一生

女　照子　大四、二生

君は岡山縣士族黑崎富造の三男にして明治七年三月を以て生れ先代健次郎の養子となり同九年家督を相續す石原永壽堂と稱し藥品染料商を營む養に推されて神戸市會議員に當選し現時神戸商工會議所議員たり家族は尚六女富佐子(大一一、一一生)孫幸子(昭二、五生、長男健一長女)あり四女壽美子(大八、一〇生)は岡山縣人伊藤松治郎の養子となれりA一一九二B二三〇(神戸市兵庫區西柳原町八九電兵庫二八七四)

石原誠

妻　ミネ　從三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務　東京府士族　明二二、三生、佐賀、士、菊池篤忠二女、東京女學館出身

男　正之　大三、三生

君は東京府士族石原亮の二男同修の兄にして明治十二年五月を以て生れ先代二三の養子となり同二十八年家督を相續す同三十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し助手拜命と同時に獨逸各國に留學し生理學を研究す同三十六年京都帝國大學醫科大學助教授に任ぜられ同三十九年歸朝と共に同大學教授に進み現時九州帝國大學教授にして醫學部勤務たり嘗に醫學部長に補せらる同四十年醫學博士の學位を授けられ同四十三年墺洪國に大正十二年歐米各國に差遣せらる家族は尚三男綱夫(大四、一二生)あり(福岡市新大工町四一電一九二九)

參照＝石原修の項

石原政造

父助　久之助　石原時計店、時計貴金屬商　大阪府在籍

母　たつ　嘉永三、一生、現戸主　弘化三、六生、祖父萬助長女

妻　りやう　明一二、三生、東京、松村新太郎長女

男　正信　明三三、五生

婦　知子　明三九、一〇生、長男正信妻、京都、伊藤又次長女

女　潔子　明四一、七生

男　進三　明四五、四生

君は大阪府人石原久之助の二男にして明治十一年一月を以て生る石原時計店と稱し時計貴金屬商を營む父久之助は嘉永三年大阪府多額納稅者たり家族は尚孫實(昭三、一二生、長男正信長男)あり二男勉(明三七、一〇生)は大阪府人石原長次の養子となり妹コウ(同一九、八生)は山口縣人久保田繁亮に嫁せりA七九九〇B八五六(大阪市東區南久寶寺町四ノ七七電船場二三四)

參照＝石原久之助の項

石原雅二郎　從四位勳三等、山形縣知事、福岡縣在籍

妻　作　明三三、九生、高知、士、仙石貫女

男　雅　男　大七、九生

君は福岡縣人石原雅廣の二男にして明治二十一年三月六日を以て生れ大正六年家督を相續す同二年文官高等試驗に合格し同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し京都府屬を經て同四年東京府屬警内務屬となる爾來栃木縣理事官特殊財產管理局事務官内務事務官内務書記官兼外務書記官に歷任し昭和二年警察講習所教授兼内務書記官に任ぜられ同四年内務省社會局部長に任じ保險部長に補せられ同七年山形縣知事に任ぜらる大正十二年歐米に同十五年支那に出張を命ぜらる家族は尙二男雅典（大九、四生）三男雅彦（同一四、三生）長女廣子（昭七、一〇生）あり妹ヤエ（明三三、四生）は福岡縣人松尾政之に同タツ（同三八、三生）は佐賀縣士族江口壽市長男東京地方裁判所檢事法學士彌一に同スエ（同四〇、八生）は愛媛縣人宮内長二男地方事務官（佐賀縣勤務）法學士彌に同ハツ（大元、八生）は熊本縣人富永熊次に嫁し弟嘉（明三五、一〇生）は分家せり（山形市縣知事官舍電九）

石原萬助　地主　東京府在籍

母　のぶ　明六、八生、東京、廣岡茂右衛門長女

君は東京府人先代萬助の長男にして明治四十一年七月二十一日を以て生れ大正二年家督を相續し襲名して前名一男を改む地主たり家族は尙弟茂（明四三、二生）あり姉マツ（同二三、一〇生）同夫修吉（同一五、三生、長崎、士、嘉村敬三二男）は其子女を伴ひ分家し從兄金藏（同三〇、一二生、叔母かま私生子）も亦分家し姉スヱ（同三五、二生）は東京府人佐久間正吉の叔父長に嫁せりA一七八九（東京市日本橋區小舟町一ノ三ノ一電**浪花一七六九**）

參照＝石原修吉、佐久間正吉※佐久間藤吉の項

石原操　松山商工會議所會頭、愛媛縣士族　頭取

妻　リン　明一〇、一〇生、愛媛、士、二神雅明妹　明二七、五生、北海道、細野正秀妹

君は愛媛縣士族石原樸の長男にして明治元年八月十一日を以て生れ同十一年家督を相續す同二十四年慶應義塾正科を卒業し現時五十二銀行の頭取にして推きれて松山商工會議所會頭たり姉タケ（慶應元、一〇生）は愛媛縣人原信正に妹シズ（明七、三生）は同縣人日下宗禮に嫁し弟擴（同四、一一生）は分家せり（松山市三番町電**五〇七**）

石原光三　小林富士井銀行、甲州電力各㊖取締役、貿商、山梨縣在籍

母　はる　明四、六生、山梨、山田八十治妹

妻　たかこ　明三一、四生、山梨、岡常貴五女

男　博　雄　大一一、二生

石原家は先代光三土地の舊家石原光邦方より分れて一家を創立し祖先よりの貿商を繼承せるに始まる君は其長男にして明治二十五年三月を以て生れ大正四年家督を相續し商名石光理を改め襲名す父樂を繼承し貿商を營み傍ら前記銀行會社の重役たり養に山梨縣多額納稅者に列す家族は尙長女照子（大二二、三生）三女草子（昭三、一四、一生）二男歲久（同一五、六生）三女（昭七生）の外妹伊久尾（明三七、一生、縣立第一高女出身）亡弟友二妻ます（同二九、七生、山梨、長谷川苗實妹）及其一男一女あり姉文世（同二一、一二生）は同縣人小林八右衛門弟寡堯に同綾子（同三一、一〇生）は同縣人丸茂與七養子松次郎に妹八千子（同三四、二生、縣立第一高女出身）は貴族院議員大橋新太郎三男勇吉に嫁せり（甲府市錄町七）

參照＝大橋新太郎、大橋勇吉、小林八右衛門、長谷川苗實の項

石原峯槌　從五位勳四等、前東亞燈草㊖專務取締役、廣島縣士族

妻　スカ　明一二、一一生、新潟、士、杉村愛仁姉

男　達　郎　明四四、五生

女　喜代子　大三、四生

女　泰　子　大五、三生

君は舊廣島藩士武永讓之助の二男にして明治五年七月を以て生れ先代チヨの養子となり同二十三年家督を相續す同三十四年日本大學法科を卒業し同三十八年文官高等試驗に合格し直に大藏省に入り煙草專賣局主事同副參事同參事宇都宮高崎熊本各地方專賣局長等に歷任せしが大正十四年官を辭し實業界に入り養に東亞煙草中和公司中國葉煙草各會社の重役たりし事あり書畫に實生流謠曲を嗜む家族は尙二男通夫（大一〇、二生）あり（東京市中野區野方町一ノ七八四ノ四電**中野四八九四**）

參照＝杉村愛仁の項

石原門次郎　造船鐵工業　兵庫縣在籍

妻　コウ　明二〇、一〇生、兵庫、松井駒吉二女

養子　貞　子　明四二、三生、兵庫、丸山豊一四女

君は廣島縣人宮川福太郎の二男にして明治十五年十月を以て生れ先代クニの養子となり同二十九年家督を相續す現時造船鐵工業を營み養に神榮土地會社取締役たりしことあり（神戸市湊東區東川崎町三ノ四電**兵庫一八九七**）

石原彌助　田中工業㊖社長　東京府在籍

妻　ゑひ　明二四、七生、長野、篠澤佐太郎養子

男　信　一　明四五、六生、東大在學

女　松　子　大六、一一生、雙葉高女在學

君は東京府人石原近義の二男にして明治十年五月十六日を以て生れ昭和二年兄助熊方より分れて一家を創立す現時田中工業會社社長たり家族は尙二男宏（大九、六生）二女朝江（同一四、八生）ありA二三三（東京市淺谷區千駄ヶ谷五ノ八五六電**四谷一一〇二**）

石原彌太郎　石原商店㊖代表取締役　東京府在籍

母　クマ　文久元、八生、東京、小川元吉妹

妻　あさ　明二一、七生、東京、士、山本忠一姉

男　昭　治　大六、一一生

女　亨　江　大三、二生

女　澄　江　大八、九生

君は東京府人石原彌三郎の長男にして明治十五年十二月十三日を以て生れ昭和二年家督を相續す現に石原商店代表取締役たり家族は尙五女僖江（大一〇、一生）三男久夫（同一一、七生）四男季彦（同一三、一生）あり長女政江（明四二、四生）は東京府人齋藤茂三郎二男次郎に妹しも（同一八、六生）は東京府人藤野新太郎に嫁せり（東京市芝區二本榎西町二）

石原美夫　家主　京都府在籍

母　しな　明二七、一二生、京都、佐藤久嗣三女

君は京都府人石原泰次郎の長男にして大正四年九月十一日を以て生れ昭和五年家督を相續す家主として知られる家族は尙妹ミチ（大六、一一生）同タツ（同一〇、一一生）弟泰二（同一三、一〇生）ありA一一七五三（京都市中京區壬生森町二二電**本局三四七八**）

石部泰藏　東洋葉煙草、八蕙鑛山各㊖取締役　東京府在籍

妻　ミヤ　明七、一一生、山口、士、石部誠中長女

養子　幸　弐　明二八、七生、山口、中村祥平二男

婦　瑛　子　明三五、三生、養子幸弐妻、東京木村謙之助長女

君は山口縣人伊藤彦助の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治二十九年同縣人先代ミヤの入夫となり家督を相續す養に煙草元賣捌業を營みしが現時前記諸會社の重役たり養子復子（明三八、四生、東京、木村謙之助二女）は公爵桂廣太郎叔父新七に嫁せり（東京市麻布區廣尾町一七電**高輪七五九〇**）

參照＝公爵桂廣太郎、木村謙之助の項

石丸英一　岡崎汽船㊖取締役、神戸岡崎銀行㊖監査役、石丸商店、石丸海運各㊖代表社員、兵庫縣在籍

妻　八　重　明三三、六生、東京、堀内廉一三女

男　惠　二　昭四、二生

君は佐賀縣士族石丸忠英の三男にして同忠實岡崎忠雄の弟片野雄二の兄なり明治十九年七月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す明治四十二年早稻田大學商科を卒業し直ちに岡崎汽船事務所に入り同四十三年神戸海上保險會社に轉じ大正六年神戸岡崎銀行營業部長となり同行總務部長を經て現時同行監査役の外岡崎汽船取締役石丸商店並に石丸海運會社の代表社員たり家族は尙三男彰（昭五、一二生）四男要（同八、一生）ありA二五七（神戸市須磨區東須磨寺畑一電**須磨一七四**）

參照＝石丸忠實、岡崎忠雄、片野雄二、堀内廉一※片野久治※草場榮喜※南部麟次郎の項

石丸小一　從四位勳四等、前東亞燈草㊖專務　福岡縣在籍

妻　スナヲ　明二二、八生、福岡、田中利市二女

養子　雄　吉　明三七、一二生、福岡、石丸新十郎二男

婦　文　子　明四二、七生、養子雄吉妻、東京磯島奏平長女

君は福岡縣人石丸多吉の五男にして明治十五年三月を以て生れ大正元年家督を相續す明治四十年京都帝國大學理工科大學を卒業し大阪府立市岡中學校教諭となり旅順工科學堂創設に當り同教授に轉じ旅順工科大學に昇格するや同大學豫科教授同大學教授となりしも現時之を辭す大正十一年米英獨各國に留學を命ぜらる家族は尙孫和子（昭六、一生、養子雄吉長女）あり（大阪府豊能郡豊津村垂水六八〇）

石丸忠實　從四位勳四等、前東亞燈草㊖專務　福岡縣在籍

妻　三枝子　明一七、一生、佐賀、士、石井賢次長女

養子　作　次　女繁子夫

女　繁　子　明四三、九生、養子作次妻

女　千代子　大八、八生

君は佐賀縣士族石丸忠英の長男にして明治六年十二月を以て生れ明和四年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙妹マツ（明二〇、九生）及其養子あり養子ツネ子（同四一、一二生、廣島、伊藤米吉長女）は佐賀縣人中島春治に妹エイ（同一一、五生）は陸軍中將南部麟次郎に同テイ（同一五、四生）は佐賀縣人草場榮喜に同タケ（同二二、一一生）は同縣士族福地春男叔父周二郎に嫁し弟忠雄（同一七、五生）は故貴族院議員岡崎藤吉の養子となり同英二（同一九、七生）は分家し同雄二（同二五、三生）は京都府人片野喜久子の人夫となれり（佐賀市水ヶ江町二一二電**一〇六八**）

參照＝石丸英一、岡崎忠雄、片野雄二、草場榮喜、南部麟次郎の項

石丸貞太郎　眞野土地㊖取締役、神戸湊西銀行㊖監査役、兵庫縣在籍

妻　まさの　明一八、二生、兵庫、末正久左衛門四女、京都府立第一高女出身

男　弘　衛　明三八、七生、和歌山地方裁判所判事、法學士

婦　春　香　大元、一一生、長男弘衛妻、奈良細川信太郎長女、奈良縣立櫻井高女出身

男　時　生　明四三、一〇生、矢作工業會社員工學士

男　忠　夫　大三、一一生、四高在學

君は兵庫縣人石丸甚兵衛の二男にして明治十九年三月を以て生れ前名貞治良を改め昭和六年家督を相續す夙に神戸高等商業學校を卒業し現時眞野土地會社取締役神戸湊西銀行監査役たり家族は尙孫伊佐子（昭八、一生、長男弘衛長女）ありA二一〇二二（神戸市林田區東尻池町二ノ三五電**兵庫一四六四**）

參照＝末正久左衛門の項

石丸一　醫學博士、醫師　大阪府在籍

繼母　ヒサノ　明一五、九生、德島、下村陸太郎三女

妻　淑　明三一、八生、東京、西村直姪

男　匂　大九、一一生

女　麗　大八、一二生

君は大阪府人石丸桂の長男にして明治二十三年八月を以て生れ大正六年家督を相續す同八年京都帝國大學醫科大學を卒業し後醫學博士の學位を承く皮膚科醫師たり家族は尙二女マリ（大一二、六生）二男工（同一三、三生）三女アヤ（同一四、一〇生）の外弟正（同元、一一生）ありA五二二（大阪市東區北濱二ノ八九電**本局三一〇六**）

石丸正雄　合同電氣㊖會計課長　佐賀縣士族

妻　ツタ　明三一、一生、佐賀、本村研一三女

君は佐賀縣士族石丸重喬の孫にして明治二十一年十二月六日を以て生れ同四十三年家督を相續す同四十五年慶應義塾大學理財科を卒業し東邦電力會社に入り後合同電氣會社に轉じ現時同社會計課長たり（大阪府北河内郡友呂岐村）

石見才一
材木商　大阪府在籍

妻　よし　明二二、三生、福井、永瀬作右衞門長女
女　たねを　明四三、一〇生
女　すみ子　大三、一〇生
女　房江　大八、三生

君は福井縣人石見いをの私生子にして明治十五年一月を以て生れ大正六年兄安吉方より分れて一家を創立す材木商を營む家族は尚六女八重（大一〇、一〇生）七女榮子（同一三、八生）あり二女しず子（同元、一〇生）は分家せりＡ一四三八（大阪市此花區四貫島梅香二八電土佐堀五〇八五）

石光季男
食料品雜貨貿易商並米穀商　兵庫縣在籍

妻　シゲ　明二一、一〇生、廣島、井上駿郎長女
男　徹　大二、六生
男　鐵次　大三、七生

君は廣島縣人石光仁左衞門の七男にして明治十六年七月一日を以て生れ同四十四年兄顯太郎方より分れて一家を創立す夙に外國貿易に志し現時食料品雜貨直輸出入商並に米穀商を營む趣味に登山讀書等あり家族は尚三男顯香（大六、一生）四男輝男（同一二、三生）あり長女ミドリ（明四五、五生）は岐阜縣人島本四郎に嫁せりＡ四一七Ｂ一九一（神戸市葺合區旗塚五ノ一八ノ一電葺合三八八八）

石光眞臣
從三位勳一等功四級、陸軍中將、橋本商店㈱取締役、東京府在籍

妻　ツル　明一四、三生、宮城、橋本信次郎妹
男　眞守　明三五、一二生
婦　すゑ　明四五、二生、長男眞守妻、東京　井口吉藏五女
男　敬臣　明三九、一二生
男　正臣　明四一、一二生
女　富喜子　大三、六生

當家は舊熊本藩主細川家に仕へ食祿百石を食みたる家柄なり君は石光眞民の三男にして明治三年五月九日を以て生れ同三十六年甥眞俊方より分れて一家を創立す同二十四年陸軍砲兵少尉に任じ大正八年陸軍中將に累進す其間明治三十年陸軍大學校を卒業し爾來參謀本部々員基隆要塞參謀下關要塞參謀野砲兵第八聯隊長第十師團參謀長參謀本部課長天津駐屯軍司令官憲兵司令官馬政局長官第一師團長等に歷補し大正十四年豫備役編入仰付けらる曾て獨逸に留學を命ぜられ日清役に近衞野砲兵聯隊中隊長として出征し日露役に第十聯隊大隊長旅順要塞參謀同戰時指揮官參謀として殊勳あり功四級金鵄勳章を授けらる長女眞壽惠（明三四、一生、小田原高女出身）は東京府人村田重夫に二女富士子（同四四、六生）は廣島縣人船岡茂に妹マツ（同九、三生）は同府人橋本卯太郎に嫁せりＡ一一一六（東京市世田谷區三軒茶屋町七五電世田谷二〇三六）
參照＝井口吉藏、石光眞俊、橋本卯太郎、橋本信次郎※田中右橋※橋本壽三郎の項

石光眞俊
正五位勳四等、陸軍技師、陸軍造兵廠小倉工廠員、東京府士族

母　サヱ　慶應二、一〇生、熊本、士、宮川房之助三女
妻　滿子　明三〇、八生、岐阜、田中準三養子
男　章利　大三、一〇生
女　慶子　大五、六生
女　廣子　大七、六生

君は熊本縣士族石光眞澄の長男同眞臣の甥にして明治二十一年十一月を以て生れ同二十八年家督を相續す大正五年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し陸軍技師に任じ陸軍造兵廠東京工廠員を經て現時前記の職にあり家族は尚三女敬子（大九、四生）二男俊英（同一一、三生）四女恭子（同一三、七生）あり叔母眞機（明五、一一生）は東京府人詫摩武彥に嫁せり（小倉市陸軍造兵廠小倉工廠氣付）
參照＝石光眞臣、詫摩武彥の項

石村政剛
臥龍軒、西洋料理業　富山縣在籍

妻　りつ　明四二、一生、富山、庭田龍鳳長女
男　如　大一三、一生

君は富山縣人石村祭華の長男にして明治三十六年七月を以て生れ大正十二年家督を相續す昭和二年慶應義塾大學法學部を卒業し家業を繼ぎ西洋料理業を營む家族は尚二男晶（大一五、一生）弟眞一（明四二、九生）同繁（同四四、三生）妹秋子（大一一、一〇生）あり姉たけゐ（明三六、一生）同夫忠次（同三二、一生、山梨、金森寬治弟）は分家し妹なみ（同四一、一生）は東京府人鈴木二眷に嫁せりＡ二三五Ｂ一四七（東京市麻布區森元町一ノ二七）

石村實
鐘紡サービス㈱取締役、鐘淵紡績㈱營業部商務課、棉花受渡係主任兼宣傳係主任、兵庫縣在籍

妻　千代　明一六、八生、京都、井尻小三郎二女
男　衞　大三、一生
庶子　秋子　明四三、一〇生、生母、兵庫、葛原操

君は兵庫縣人石村康の四男にして明治十二年六月二十五日を以て生れ同十九年家督を相續す現時鐘淵紡績會社營業部商務課に勤務し棉花受渡係宣傳係各主任にして傍ら鐘紡サービス會社取締役たり家族は尚三男睦（大七、一二生）長女房江（同一〇、一二生）姉とみ（明元、九生）あり兄一義（同七、七生）は大阪府人曾呂利とらの養子となれりＡ三五九（神戸市須磨區關守三ノ五ノ一電須磨五三四）

石村林吉
大阪株式取引所取引員　大阪府在籍

妻　すみ　明四、一一生、大阪、多田喜平次三女
男　勝一　明三三、一生
婦　玉江　明三八、一一生、長男勝一妻、大阪、武鹿銀次郎四女
男　祐二　明三四、一一生
男　哲三　明三八、九生
女　富美　明四〇、九生
男　芳郎　明四三、四生

君は大阪府人先代勝兵衞の四男にして明治三年五月二十一日を以て生れ同二十七年家督を相續す現時大阪株式取引所短期取引員たり家族は尚孫昭彥（昭五、三生、長男勝一二男）ありＡ七四九（大阪市東區北濱一ノ二六ノ二電本局二九七五）
參照＝武鹿銀次郎の項

石母田正輔
從七位、石卷市長　宮城縣士族

妻　まつ　明二二、二生、北海道、田中イク姉
男　正　大元、九生
庶子　基　明二三、二生、生母、島根、山根ヌイ
婦　テル　明三六、一生、庶子基妻、香川、澤田隆義妹
養子　俊　明四一、八生、亡弟慶三七男

君は宮城縣士族石母田三九郎の長男にして文久元年一月を以て生れ明治二十六年家督を相續す夙に所定の學業を修め大正元年石卷町長に就任以來牡鹿郡會議員石卷町會議員牡鹿郡農會長石卷商工會長等に選ばれ昭和四年石卷町長に再選同八年同町に市制布かるゝや其市長に推されて今日に至る家族は尚三男節（大四、一〇生）四男純（同九、六生）五男達（同一三、五生）孫政子（同一一、一生、庶子基長女）同宣（昭六、三生、同二男）同俊子（同七、一二生、同二女）甥菊三（明二五、一一生、亡弟慶三二男）同妻ヤス（同三三、五生、宮城、西條軍一郎妹）及其子女あり養子イク（明三〇、一生、北海道、白澤莊次郎五女）は島根縣人山根震に姪たまき（同三五、一生、亡弟慶三三女）は宮城縣人大友清重に嫁し甥敏夫（同三七、一〇生、同五男）は分家し同稔（同四二、一二生、同八男）は宮城縣士族大町信及の養子となれり（石卷市住吉町二五電長四三五）

石本惠吉
正四位、男爵、琿春鐵道㈱社長　東京府華族

妻　シヅヱ　明三〇、三生、廣島、士、廣田理太郎長女、學習院女學部出身
男　新　大六、六生

當家は先代新六より家名を揚ぐ新六は舊姫路藩士にして明治二年貢進生として大學南校に學び後陸軍士官學校を卒業して同十二年陸軍工兵少尉に任じ尋で佛國に留學し累進して陸軍中將に陞る其間築城本部長陸軍砲工學校長陸軍總務長官法務局長臨時陸軍建築部本部長輕氣球隊長陸軍次官陸軍大臣等に歷任し日清及日露の役に功あり功二級を賜はり同四十年華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治二十年十二月十五日を以て生れ同四十五年襲爵す大正三年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し現時琿春鐵道會社長たり曩に三井鑛山會社に奉職し又琿春共榮會社を經營す屢々歐米に遊び專ら經濟問題を研究す家族は尚二男民雄（大七、一〇生）あり弟憲治（明二二、二生、南滿洲鐵道會社員、法學士）同妻美子（同二七、一生、大阪、高安三郎長女）は其一子を伴ひ弟五雄（同三〇、六生、正七位、陸軍步兵大尉、陸軍士官學校教官）は同妻勝子（同三八、三生、陸軍大將町田經宇二女）と共に各分家し弟巳四雄（同二六、九生、理學士）同六哉（同三六、九生）も亦各分家し妹總（同三五、四生）は東京府人瀧川政次郎に嫁せり（東京市品川區大井金子町六二八五）
參照＝廣田理太郎、町田經宇の項

石本精一
西宮市會議員、多聞酒造㈱代表取締役、攝津寒天、西宮運送、灘製氷各㈱取締役、兵庫縣在籍

妻　ぶん　明一四、九生、養父清介養子、山口、岡崎省三長女
男　春男　明四〇、三生、攝津寒天會社勤務、甲陽中學出身
婦　ヘチ　明四四、一生、長男春男妻、兵庫　若松五郎兵衞妹
男　二郎　明四一、七生、日本火災保險會社員、同志社高等商業科出身
男　芳雄　大元、八生、四高在學

君は山口縣人志滿淨俊の三男同了淨の弟にして明治十五年三月を以て生れ同三十九年先代清介の養子となり大正六年家督を相續す石本家は西宮の舊家にして代々肥料販賣を業とす君初め西宮肥料米穀會社に勤務し後轉じて八馬家に入り米穀部主任たりしが現時前記各會社の取締役にして西宮市會議員たり家族は尚四男滋（大五、三生）孫通子（昭七、二生、長男春男長女）あり長女倭子（明四三、四生、西宮高女出身）は大阪府人石橋孫一郎に嫁せりＡ二五二（西宮市石在町八電五六七）

石本忠太郎
金融業　大阪府在籍

妻　ヒサ　明二一、四生、大阪、本田卯一妹
男　忠一　大九、一生
女　園　大七、九生

君は大阪府人辻重治郎の二男にして明治八年九月二十五日を以て生れ大正八年先代小鶴の養子となり家督を相續す金融業を營む家族は尚三女和江（昭二、二生）二男忠雄（同五、四生）ありＡ一〇二一Ｂ一〇九（大阪市東區玉造町四二八）

石森喜一郎
地主　東京府在籍

母　みね　明二六、九生、東京、西山喜三郎二女

君は東京府人石森鐵五郎の長男にして明治四十四年九月二十四日を以て生れ昭和七年家督を相續す地主たり家族は尚弟孝明（大三、八生）妹キミ（同六、七生）弟宏保（同一一、一〇生）妹八重子（同一三、一二生）弟昭四郎（昭二、八生）ありＡ九八二（東京市中野區昭和通一ノ二）

石森銀次
正四位勳四等、元鹿兒島地方專賣局長、埼玉縣在籍

妻　甲子　明二七、一二生、宮城、金丸六世妹
男　彰次　大一〇、四生
養子　藤子　明四三、七生、山口、士、岡村秀二郎二女

君は埼玉縣人石森留五郎の五男にして明治十一年一月を以て生る同三十二年和佛法律學校を卒業し文官高等試驗に合格同四十年稅務監督局事務官に任じ稅務官司稅官稅務監督官となり大正十四年專賣局參事に進み仙臺岡山鹿兒島各地方專賣局長に歷任し勅任官の待遇を受く昭和八年官を辭し目下實業に從事す家族は尚三男千代城（大一五、一二生）長女經子（昭五、四生）あり（川越市川越一〇一六）

石森清兵衞
伊勢清、醬油釀造業　東京府在籍

妻　きせ　明九、七生、東京、相澤喜兵衞長女
男　芳太郎　明四〇、九生
養子　東之助　明二五、九生、長女とう夫、東京　堀江恭一弟

女　とう　明三一、八生、養子東之助妻

君は東京府人先代清兵衛の長男にして明治七年十二月二日を以て生れ同四十一年家督を相續し前名嘉助を改め襲名す伊勢清と稱し醤油醸造業を營む家族は尙孫敏郎(大一二、六生、養子東之助長男)あり二女フク(明三四、二生)は東京府人關根三吉長男謙吉に妹アイ(同一九、六生)は同府人石森安太郎に同マス(同二四、一〇生)は埼玉縣人向山小平次長男内藏造に同タケ(同三二、一二生)は東京府人石森四郎弟路九郎に嫁し弟宗二(同二六、九生)は分家せりA二〇八一(東京市中野區本町通一ノ一五電四谷五〇一・中野二一三〇)

參照＝相澤喜兵衛、石森安太郎、關根三吉、堀江巻一※色川三男の項

石森直人

農學博士、東京帝國大學農學部講師、大日本蠶絲學會理事　東京府在籍

祖母　すゞ　安政六、一〇生、東京、村上堅固

妻　はるい　明三一、五生、長野、田中乾長女四女

男　吉郎　大八、二生

君は東京府人安原治部之助の長男にして明治二十三年五月十一日を以て生れ大正十五年祖父文次郎の跡を承け家督を相續す同三年東京帝國大學農科大學を卒業し現時同大學農學部講師にして大日本蠶絲學會理事たり曩に農學博士の學位を授けらる家族は尙二男學(大一〇、八生)ありA三五五(東京市世田谷區北澤二ノ三、八)

石森安太郎

吉野屋、製粉業　東京府在籍

母　ゆき　文久元、一二生、東京、清水桂次郎長女

妻　アイ　明一九、六生、東京、石森清兵衛妹

男　安雄　明四〇、一二生

女　澄　大四、一二生

女　ふさ子　大六、一二生

石森家は東京府中野町の草分とも稱すべき舊家にして代々製粉業を營む君は石森鎌太郎の長男にして明治十六年四月二十二日を以て生れ大正十年家督を相續す祖業を承け製粉業を營み吉野屋と稱す家族は尙三男貞雄(大九、四生)あり妹榮(明三五、一生、三輪田高女出身)は廣島縣士族内藤確介養子政雄に嫁せりA四二〇三B一六五(東京市中野區本町通一ノ一九電四谷一〇四八・中野二一五四)

參照＝石森清兵衛※關根三吉の項

石山賢吉

時事新報社㊟監査役、美術印刷㊟相談役、ダイヤモンド社長　東京府在籍

妻　ハマ　明一六、一二生、新潟、山田彌一郎妹

女　スミ子　大四、一一生

女　美智　大六、三生

君は東京府人石山賢次の長男にして明治五年一月を以て生れ同二十一年家督を相續す夙に應應義塾に學び經濟雜誌ダイヤモンドを發行し現に同社々長にして前記會社の重役を兼ぬ曩に桃源殖產會社取締役たり長女トキ(明四三、三生)は長野縣人原祐三に嫁せりA二六四〇(東京市品川區大井町三一五九電大森一〇七五)

石山憲一

辯護士　愛媛縣在籍

養父　榮太郎　明元、一〇生、現戸主

養母　とめ　明一〇、一生、兵庫、山浦源之助妹

妻　アグリ　明三三、二生、東京、士、内尾直昌從姉、山脇高女出身

男　達郎　大一五、七生

君は愛媛縣人小野安平の五男にして明治二十八年六月を以て生れ同三十三年石山榮太郎の養子となる大正五年法政大學を卒業し辯護士試驗に合格大連取引所に入り庶務課長たりしも後之を辭し同地にて辯護士を開業し今日に至る家族は尙長女泰子(大一〇、九生)二女信子(同一二、一二生)二男敏郎(昭四、一〇生)養弟武一(明三五、五生)同次治(同三七、五生)同末吉(大五、一二生)あり同恒好(明四三、八生)は愛媛縣人稻見磯吉の養子となり同繁松(同三三、八生)は分家せり(大連市桃源臺)

石山信一

正五位勳五等、農事試驗場技師、病理部主任、東京府在籍

妻　さち　明三四、一〇生、長野、北村門之丞長女

君は東京府人石山重遠の長男にして明治二十一年七月を以て生れ大正十年家督を相續す同三年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農事試驗場技手となり同六年同技師に任ぜられ現時病理部主任たり家族は尙長女ユキ(昭三、二生)二女アキ(同五、三生)あり弟乾二(明三〇、二生)は分家し繼母しげ(同元、一一生、東京、日比野與三郎長女)は其家籍に入れり(東京市澁谷區幡ケ谷中町一三九九)

石山末松

新潟商工會議所常議員、新潟運送㈱臨港倉庫、新潟問屋倉庫各㊟取締役、新潟縣在籍

妻　りせ　明一五、五生、養父治四郎三女

男　市松　明三四、一〇生、慶大法學部出身

婦　セツ　明四〇、一〇生、長男市松妻、新潟、五十嵐純藏三女

男　慶治郎　明三七、三生、東大出身

男　賢二郎　明四三、二生、明大法學部出身

男　貫治　大二、四生、東大在學

君は新潟縣人黑川榮松の四男にして明治十三年十月を以て生れ同縣人石山治郎の養子となり同四十二年分れて一家を創立す現に前記各會社の重役にして推されて新潟商工會議所常議員たり家族は尙孫松治(昭三、四生、長男市松長男)同元(同五、三生、同長女)ありA八四八B二四七(新潟市本町通七番町一一五六電三四)

石山靜輔

富士山藍㊟土地㊟取締役、富士山藍電氣鐵道㊟監査役、計理士　東京府在籍

養母　タマ　文久二、九生、埼玉、篠崎平九郎三女

妻　ミヨ　明二〇、七生、養父知親長女

男　茂久　明四三、三生

男　昭久　大三、一一生

君は埼玉縣人篠崎正三郎の二男にして明治十五年七月十三日を以て生れ先代知親の養子となり同二十七年家督を相續す同三十七年東京高等商業學校を卒業し三菱倉庫會社に入社し同社會計主任を經て現時前記各會社の重役たり家族は尙三男良久(大一三、一生)ありA二

妻　さち　明三四、一〇生、長野、北村門之丞長女

君は東京府人石山重遠の長男にして明治二十一年七月を以て生れ大正十年家督を相續す同三年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農事試驗場技手となり同六年同技師に任ぜられ現時病理部主任たり家族は尙長女ユキ(昭三、二生)二女アキ(同五、三生)あり弟乾二(明三〇、二生)は分家し繼母しげ(同元、一一生、東京、日比野與三郎長女)は其家籍に入れり(東京市澁谷區幡ケ谷中町一三九九)

石山末松

妻　りせ　明三四、一〇生、養父治四郎三女

男　市松　明四〇、一〇生、慶大法學部出身

婦　セツ　明四〇、一〇生、長男市松妻、新潟、五十嵐純藏三女

男　慶治郎　明三七、三生、東大出身

男　賢二郎　明四三、二生、明大法學部出身

男　貫治　大二、四生、東大在學

君は新潟縣人黑川榮松の四男にして明治十三年十月を以て生れ同縣人石山治郎の養子となり同四十二年分れて一家を創立す現に前記各會社の重役にして推されて新潟商工會議所常議員たり家族は尙孫松治(昭三、四生、長男市松長男)同元(同五、三生、同長女)ありA八四八B二四七(新潟市本町通七番町一一五六電三四)

石山靜輔

富士山藍㊟土地㊟取締役、富士山藍電氣鐵道㊟監査役、計理士　東京府在籍

養母　タマ　文久二、九生、埼玉、篠崎平九郎三女

妻　ミヨ　明二〇、七生、養父知親長女

男　茂久　明四三、三生

男　昭久　大三、一一生

君は埼玉縣人篠崎正三郎の二男にして明治十五年七月十三日を以て生れ先代知親の養子となり同二十七年家督を相續す同三十七年東京高等商業學校を卒業し三菱倉庫會社に入社し同社會計主任を經て現時前記各會社の重役たり家族は尙三男良久(大一三、一生)ありA二〇三(東京市豐島區長崎東町三ノ五三〇電落合長崎三六六)

石山基弘

從四位、子爵、豫備陸軍三等主計　舊公卿家

母　吉子　明八、一一生、侯爵大炊御門經輝叔母

妻　和子　明三八、一〇生、男爵三井壽太郎長女

當家は左大臣園基晉の末男壬生基起の二男權中納言師香の後なり師香別に一家を立て石山と稱す後六代基正に至り明治十七年子爵を授けらる長男基則其後を繼ぎて陸軍輜重兵大尉たり君は先代基則の長男にして明治三十三年六月十二日を以て生れ同三十七年家督を相續し襲爵被仰付學習院を經て大正十三年東京帝國大學經濟學部を卒業し一年志願兵として軍務に服し豫備陸軍三等主計たり現時川崎第百銀行に奉職す家族は尙伯父基陽(明一八、一生)同妻信榮(同二三、一二生、京都、士、岩室信季姉)及其子女あり妹友子(同三七、四生、女子學習院出身)は兵庫縣人宮崎俊男に嫁し叔父基遂(同二、五生)は姉小路伯爵家を繼ぎ公政と改名し叔母晟子(同一〇、一生)は子爵綾小路護の養母たり(東京市澁谷區代々木山谷町二〇〇電四谷四七六三)

參照＝侯爵大炊御門經輝、伯爵姉小路公政、子爵綾小路護、男爵三井壽太郎※公爵一條實孝※慶光院利敬の項

石腸榮三郎

酒造業　兵庫縣士族

養母　りやう　安政五、四生、兵庫、龍首文七長女

妻　ぬい　明一二、一〇生、養父勝用長女

男　德太郎　明三六、一一生

男　勝次　明三九、一〇生

男　幸三　明四四、二生

男　悅三　大三、五生

君は兵庫縣人阪本惣左衛門の二男にして明治十三年七月を以て生れ先代勝用の養子となり大正二年家督を相續す祖業を承け酒造業を營む家族は尙六男茂(大一〇、三生)ありA四八七(神戸市灘區濱田町四ノ九電御影二四七〇)

石綿一

土木建築請負業　東京府在籍

養母　りせ　慶應元、二生、東京、北川惣五郎妹

妻　せい　明二四、一二生、亡養父金太郎長女

男　秀次郎　明四三、六生

女　きく　大二、一〇生

君は埼玉縣人中村忠次郎の二男にして明治二十四年三月二十八日を以て生れ先代金太郎の養子となり昭和四年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙三男憲二(大六、一一生)四男宰三(同九、一生)二女芳枝(同一一、一生)あり養大伯母なか(天保一三、一二生)は分家し養姉登久(明一二、六生、東京、高崎勝五郎三女)は東京府人鈴木房吉に嫁せりA七〇一B二一七(東京市芝區新橋六ノ七八電芝六二七)

石渡吉治

東信電氣、信濃水電、日本沃度、犀川電力、東洋水力電氣、國際製茶各㊟取締役、譯訪電氣㊟監査役　神奈川縣在籍

父　坦豐　慶應元、一一生、現戸主

母　タマエ　明二、一二生、神奈川、士、吉村善行長女

妻　千潤　明三二、一二生、三重、綾野大助長女、市立宇治山田高女出身

男　昭男　昭六、九生

君は神奈川縣人石渡坦豐の二男にして明治二十二年八月を以て生る大正三年東都帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時東信電氣會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙長女佳子(大一〇、一生、日本女大附屬高女出身)二女和子(同一一、八生)五女宏子(昭四、三生)二男俊男(同七、一一生)あり妹トシ(明二五、二生)は神奈川縣人鈴木百太郎に養妹カツ(同四二、一一生、神奈川、小島克巳長女)は東京府人石塚錄慧に叔母シゲ(同一六、六生)は神奈川縣人吉村冀行長男壽賀太郎に嫁し妹ミヨ(同二七、二生)弟正治(同三〇、八生)は共に同縣士族志村安重の養子となり叔母ユキ(同一三、二生)同夫銀之助(同六、三生、神奈川、高橋廣吉弟)は共に分家せりA二八二七(東京市小石川區大塚町三三電大塚一〇五)

石渡源三郎

桐屋、薪炭商　東京府在籍

妻　はる　明一九、二生、三重、伊藤發太郎姉

養子　三郎　明三四、四生、長女よね夫、千葉小川角藏三男

女　よね　明三四、一一生、養子三郎妻、跡見女學校出身

石渡家は今より約百數十年前千葉縣より江戸に出で炭商を始めし老舗なり君は先代源三郎の孫にして明治五年一月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名幸太郎を改め襲名す夙に組織を繼縣桐屋と稱し薪炭商を營み資產家を以て知らる家族は尙孫昭男(昭三、一〇生、養子三郎長男)同千江子(同三、一〇生、同長女)ありA一一四六(東京市澁谷區代々木初臺町五五五電四谷六三九)

石渡源藏

雜貨商　東京府在籍

妻　ハツ　明一四、九生、埼玉、大竹權次郎長女

男　武夫　大六、三生

養子　嘉一　明三九、一生、長女春夫、東京、本橋元四郎弟

女　春　明四一、四生、養子嘉一妻

君は東京府人石渡源次の長男にして明治十一年九月十七日を以て生れ大正十二年家督を相續す雜貨商を營む家族は尙四男常夫(大一三、二生)孫節子(昭八、九生、養子嘉一長女)ありA六二六(東京市王子區岩淵町一ノ八二七電赤羽三〇九)

石渡信太郎

前九州製鋼㊟取締役　神奈川縣在籍

妻　キミ　明一七、二生、北海道、吉田庄作長女

君は神奈川縣人石渡眞三郎の三男にして明治八年三月十五日を以て生れ大正四年兄秀吉方より分れて一家を創立す明治三十三年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し明治鑛業會社常務取締役大源鑛業會社監査役となり昭和三年之を辭し後九州製鋼會社取締役其他嘉穗鑛業會社取締役に擧げられしも現時之等を退きて閑地に在り先是明治四十四年歐米を視察し又數十回に

耳り支那朝鮮の鑛山調査に赴き殊に朝鮮鑛山開發に力を注げり義に社會局嘱託地方森林會議委員鐵道運輸委員健康保險第一次審査委員明治專門學校講師戸畑市青年團長等を兼務せし事ありA一一四五（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町大町九一二電六七九）

石渡清作

横濱市會議員、洋服商
神奈川縣在籍
安政元、一生、神奈川、川島幸次郎姉
二女　三生、愛知、横井清長衛

妻　はつえ　大三、一一生
男　英清　大八、一〇生
女　敬子　大五、一〇生

君は三重縣人加藤清四郎の三男にして明治二十三年九月十二日を以て生れ同三十八年神奈川縣人石渡政吉の養子となり昭和三年家督を相續す大正元年洋服問屋を開業し横濱市會議員に當選すること二回現に其任に在りA五〇一B一五二（横濱市中區櫻木町五ノ二六電本局四六一三）

石渡莊太郎

正五位勳五等、大藏書記官兼大藏大臣祕書官、銀行檢査官、主稅局國稅課長、東京府士族
安政六、一一生、現戸主
明三一、三生、東京、山田文太郎妹、御茶の水高女出身
大八、八生

父　敏一
妻　久子
男　良一

君は東京府士族石渡敏一の長男にして辰澤延次郎の甥なり明治二十四年十月を以て生れ大正五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業文官高等試驗に合格し直に大藏省に入り稅務監督局屬となり爾來副司稅官司稅官稅務監督局事務官大藏事務官同書記官等に歷任し其間前橋稅務署長大阪東京各稅務監督局間稅部長及臨時土地調査課長等に補せられ現時前記の官職に在り大藏大臣官房祕書課長を兼任す家族は尙三男誠三（大一三、二生）あり（東京市小石川區駕籠町一二一五電大塚九〇三）

參照‖石渡敏一※木村德兵衛※大屋敦※渡邊節の項

石渡譜（ガヾス）

正五位勳四等、陸軍三等主計、判事、小濱區裁判所判事兼陽井地方裁判所小濱支部判事、千葉縣在籍

妻　チヨ　明二一、九生、栃木、鶴見守義長女
男　健一　明四二、一〇生
女　萬千子　大二、八生
女　三千子　大五、一〇生

君は千葉縣人石渡市太郎の三男にして明治十一年七月を以て生る同三十八年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同四十一年判事に任ぜられ爾來長崎地方裁判所判事長崎宮崎甲府各地方裁判所判事水戸區長崎區般原區各裁判所判事兼秋田地方裁判所横手區裁判所判事兼名古屋地方裁判所横手支部長等に歷補し岡崎區裁判所判事兼名古屋地方裁判所岡崎支部判事を經て現時前記の職に在り家族は尙三女八十子（大一〇、三生）兄宗一（慶應元、二生、現戸主）同妻しけ（明元、八生、千葉、吉岡七三郎三女）及三其子女姉ひさ（慶應二、四生）あり壽好子（明三〇、一一生、兄宗一養子）は千葉縣人佐藤恒三の養子となれり（陽井縣盜數郡雲雷村小濱區裁判所內）

參照‖※伯爵平田榮二の項

石渡敏一

正四位勳二等、法學博士、錦鷄間祗候、枢密顧問官、東京府士族
明元、四生、東京、德田幾雄長女
明二四、一〇生
明三二、一〇生、專修大學教授、經濟學士
明三七、一〇生、三男六三郎妻、福島、松浦勇長女
明三四、一生、日本興業銀行員、法學士
明三九、九生、四男忠四郎妻、東京白仁武三女、御茶の水高女出身
明四一、八生、東京火災保險會社員法學士
明四四、三生、慶應義塾大學教授理學士

妻　リラ
男　莊太郎
男　六三郎
婦　ミナ
男　忠四郎
婦　宇都代
男　僖五郎
男　達六郎

君は舊幕臣にして代々將軍家の御船手を勤む先代宗太郎に至り少壯志を立てゝ長崎に遊び航海術を蘭人に學び勝安房の知遇を得て翻達し遂に幕府海軍の船長に昇進せしも維新後退隱し復た出でず君は其の長男にして安政六年十一月を以て生れ明治四年家督を相續す同十七年東京大學法學部を卒業し同十九年歐洲に遊學す歸朝後檢事となり司法省參事官を經て東京控訴院檢事大審院檢事等に歷補し東京帝國大學警察監獄學校等の講師を囑託せられ同三十二年白耳義國に開設の萬國監獄會議に叢證せらる同三十五年司法省民刑局長に任ぜられ後內閣書記官長となる同三十八年法學博士の學位を受け爵で貴族院議員に擧げられ現時枢密顧問官にして錦鷄間祗候たり蘭に東京瓦斯會社長に推され同社の整理に盡せり園基書畫骨董に趣味あり家族は尙孫林太郎（昭三、一二生、三男六三郎長男）同汪子（同四、二生、四男忠四郎長女）同玲子（同七、一一生、同二女）あり二女葉（明二八、一一生、學習院女學部出身）は東京府士族工學士大量敎に三女晉羽（同三六、一〇生、雙葉高女出身）は同府人木村德兵衛五男房五郎に四女珠（同四〇、一生、跡見女學校出身）は烏取縣人遠藤弘長男完太郎に嫁し二男敬二郎（同三〇、三生、法學士）は外成德田家を相續し弟延次郎（慶應元、一一生、實藥家）は東京府人辰澤豊三郎の家督を繼ぎ當主たりA九二七（東京市小石川區林町六七電大塚七）

參照‖石渡莊太郎、大屋敦、木村德兵衛、白仁武、松浦勇の項

泉吉次郎

大阪府多額納稅者、鉛管鉛板製造業、大阪府在籍
明八、六生、大阪、木谷市郎兵衛二女

妻　ハナ

泉家は元泉州に在りて農業を營みしが寛政年間大阪に移り船大工用釘類の製造販賣に從事し泉屋と號せり君は先代吉平の長男にして明治七年一月を以て生れ同十六年家督を相續す夙に組業を承けて鉛管鉛板製造業を營み資產家を以て知られ大阪府多額納稅者に列す家族は尙甥譜之助（大九、四生、分家弟一戊長男）あり姉タカ（慶應二、一〇生）は兵庫縣人上村盛治先代文三郎に嫁し弟明次郎（明一五、六生）同妻タキ（同一九、四生、大阪、諏谷重太郎姪）は共に各分家し同信太郎（同一〇、九生）は其一男一女と共に本家に同居し同信太郎（同一〇、二生）同正一（同一九、一生）も亦分家せりA三八五八三B一四九四二（大阪市西區阿波座三番丁一七電新町八四七）

參照‖上村盛治の項

泉熊次郎

東京洋傘骨原料商、洋傘製造業、東京府在籍
明四、四生、先々代熊次郎長女
明二四、七生、三女ハナ夫、東京安田安太郎弟
明三〇、四生、養子美登

妻　とよ
養子　美登

君は千葉縣人渡邊房吉の弟にして慶應三年十月を以て生れ先代とよの入夫となり明治三十二年家督を相續し前名久吉を改む洋傘製造業を營み兼ねて東京洋傘骨原料會社專務取締役にして義に潮谷商會取締役たりし事あり家族は尙孫員一（大一〇、二生、養子美登長男）同久子（昭四、一二生、同長女）あり同周二（大一一、七生、同二男）は東京府人泉龍雄の死跡を相續せりA四四三B九五（東京市京橋區寶町一ノ五ノ二電京橋六二六）

泉至剛

正四位勳三等、造幣局長
明二八、七生、法學博士松波仁一郎二女

妻　千重子

君は山梨縣人泉文作の二男にして明治十六年六月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し爾來大藏屬造幣局事務官大藏事務官同書記官門司稅關長及び名古屋東京各稅務監督局長に歷任昭和九年造幣局長に任ぜらる家族は尙弟守紀（明三一、二生）あり妹うめよ（同二七、二生）は新潟縣人小川菩に嫁せり（大阪市北區新川崎町官舍電堀川七三）

參照‖小川菩、松波仁一郎※上山英三の項

泉重次良

泉事業組合代表取締役、泉兄弟商事組合取締役、大阪府在籍
明二三、九生、大阪、泉彌市義妹
明四五、一生、農學士
大六、一生、甲南高女出身
大一四、一生、兵庫、山口吉五郎女

妻　圓子
男　清一
女　枝

君は大阪府人米谷猪三郎の長男にして明治十八年五月六日を以て生れ同府人泉清助の養子となり大正二年分れて一家を創立す鴻池家に入り後日本生命保險會社支配人其他會社の重役を經て現時泉事業會社代表取締役にして前記會社の重役たり謠曲に趣味を有す（兵庫縣武庫郡住吉村）

參照‖泉彌市の項

泉信太郎

養產家
大阪府在籍
明一五、五生、兵庫、木谷市郎兵衛四女
明三五、八生、長女キヨ夫、奈良横山榮次四男
明一一、一二生、養子市郎妻

妻　タツ
養子　市郎

君は島根縣人松川俊太の次男にして明治四年五月を以て生れ先代リカの養子となり同十六年家督を相續す同二十九年同志社政治學部を卒業し後第一銀行に入り同四十二年夏に朝鮮銀行に移り同行本浦群山安東縣等各支店長を勤め大正十年五月退職後現職に就任せり（釜山府大廳町一ノ一八）

泉末治

釜山商業銀行專務取締役
島根縣在籍
明一七、九生、京都、士、佐久間丑雄二女
大七、八生、京都、酒井元益庶子
大七、一生、甲南高女出身
大六、一生、兵庫、泉仙之介長女
明四三、八生、兵庫、山口吉五郎長女

妻　光
養子　靜子

君は大阪府人先代吉平の二男にして明治十年十四日を以て生れ大正五年家督を相續す資產家たり家族は尙孫好（昭五、一二生、養子市郎長女）ありA一二一六（大阪市西區阿波堀通五ノ一二）

泉末治

資產家
大阪府在籍
明一五、五生、兵庫、木谷市郎兵衛四女
明三五、八生、長女キヨ夫、奈良横山榮次四男

妻　タツ
養子　市郎

君は大阪府人先代吉平の二男にして明治十年十四日を以て生れ大正五年家督を相續す資產家たり家族は尙孫好（昭五、一二生、養子市郎長女）ありA一二一六（大阪市西區阿波堀通五ノ一二）

泉信太郎

資產家
大阪府在籍
明一五、五生、兵庫、木谷市郎兵衛四女
明三五、八生、長女キヨ夫、奈良横山榮次四男

妻　タツ
養子　市郎

君は島根縣人松川俊太の次男にして明治四年五月を以て生れ先代リカの養子となり同十六年家督を相續す同二十九年同志社政治學部を卒業し後第一銀行に入り同四十二年夏に朝鮮銀行に移り同行本浦群山安東縣等各支店長を勤め大正十年五月退職後現職に就任せり（釜山府大廳町一ノ一八）

泉末治

釜山商業銀行專務取締役
島根縣在籍
明一七、九生、京都、士、佐久間丑雄二女
大七、八生、京都、酒井元益庶子
大七、一生、甲南高女出身
大六、一生、兵庫、泉仙之介長女
明四三、八生、兵庫、山口吉五郎長女

妻　光
養子　靜子

君は島根縣人泉實行の四男にして明治二十四年一月五日を以て生れ昭和四年兄八郎方より分れて一家を創立す現時東京横濱電鐵會社鐵道部調査課長たりA五四四（東京市大森區田園調布二ノ二〇四電田園調布三二九）

泉得一郎

松江商工會議所副會頭、一畑電氣鐵道專務監査役、綿布莫大小雜貨卸商、島根縣在籍
明一五、一〇生、貴谷嘉一郎長女
明三八、八生、長女春野夫、島根
明四一、一生、養子東吉妻
大八、四生

妻　エイ
養子　東吉
女　春野
女　多喜子

君は島根縣人泉友助の長男にして明治十二年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す綿布莫大小雜貨卸商を營み傍ら一畑電氣鐵道會社監査役にして松江商工會議所副會頭に擧げらる家族は尙孫敎子（昭四、四生、養子東吉長女）あり（松江市北堀町三二七電二二四）

泉武次

東京横濱電鐵會社鐵道部長
東京府在籍
明二六、九生、群馬、三井田龜吉五女
大八、四生

妻　いと

君は鹿兒島縣人泉實行の四男にして明治二十四年一月五日を以て生れ昭和四年兄八郎方より分れて一家を創立す現時東京横濱電鐵會社鐵道部調査課長たりA五四四（東京市大森區田園調布二ノ二〇四電田園調布三二九）

泉得一郎

松江商工會議所副會頭、一畑電氣鐵道專務監査役、綿布莫大小雜貨卸商、島根縣在籍
明一五、一〇生、貴谷嘉一郎長女
明三八、八生、長女春野夫、島根
明四一、一生、養子東吉妻
大八、四生

妻　エイ
養子　東吉
女　春野
女　多喜子

君は島根縣人泉友助の長男にして明治十二年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す綿布莫大小雜貨卸商を營み傍ら一畑電氣鐵道會社監査役にして松江商工會議所副會頭に擧げらる家族は尙孫敎子（昭四、四生、養子東吉長女）あり（松江市北堀町三二七電二二四）

泉仁三郎

東洋捕鯨、南洋殖産工業各專務取締役、別府溫泉土地專務監査役、日本勤產火災保險專務相談役、海產物商
大阪府在籍
嘉永六、六生、大阪、曾根又右衛門二女
明一三、一一生、大阪、板倉清次郎二女
明三二、九生
明三七、一一生、長男彦次郎妻、大阪、水野彌兵衛二女
明三四、九生
明三八、四生

母　むめ
妻　こゑん
男　彦次郎
婦　エン
男　英三郎
男　篤三郎

當家は大阪土着の商家にして初代より既に三百餘年を經過し世々海產物商を營み大阪屈指の老師たり君は先代仁三郎の長男にして明治五年十月を以て生れ同三十七年家督を相續し襲名して前名卯三郎を改め祖業を繼ぎて海產物商を營み傍ら前揭各會社の重役を兼ぬ妹龍（明一二、八生）は大阪府人松本益藏に同スヱ（同一七、七生）は同府人城野宗次郎に嫁し同登代（同七、一〇生）は同府人木村庄三郎の死跡を相續し弟吉三郎（同一五、三生）は養弟正治（同二五、七生、大阪、山中フサ私生子）と共に其養子となり弟松太郎（同二二、七生）は同妻はな（同三〇、七生、大阪、大辻富太郎養妹）及其子女と共に弟賢次郎（同二五、三生、工學士）同妻妙子（同三五、一二生、東京、長谷川久雄姉）は其一子を伴ひ各分家せりA二〇五三（大阪市西區靱南通五ノ四電土佐堀一一五六）

泉　增太郎

妻　多免　熊本商工會議所議員、熊本縣多額納稅者、洋服商並保險代理店業
男　一郎　明三〇、七生、洋服部業務主任
婦　文子　明三六、九生、長男一郎妻、熊本河崎貞八長女
男　二郎　明三二、一〇生、保險代理店業務主任、慶應義塾出身
男　三郎　明三四、一二生、東北帝大出身、伯林留學中
男　四郎　明四〇、二生、東京瓦斯電氣會社員、東京帝大出身
女　雪子　明四三、八生

君は熊本縣人泉善九郎の二男にして明治三年八月を以て生れ後兄順太郎の後を承け家督を相續す洋服商並保險代理店業を營み熊本商工會議所議員に擧げられ縣下の多額納稅者に列し直接國稅千十六圓を納む義に熊本物產會社共益社鐵工場各取締役たりしことあり家族は尙孫齋（大一四、三生、長男一郎長男）同耕子（昭二、九生、長女）あり長女シヱ（明三七、五生）は愛知縣人加藤元彥に妹津由（同一六、一生）は熊本縣人石橋安次郎に嫁し弟伊志馬（同九、一〇生）同妻マスヱ（同二二、四生、熊本、渡邊喜三太二女）は其子女を伴ひ分家せり（熊本市中上通町一七電二一八・二二二）

泉　明太郎　泉鉛管會社員

妻　タキ　大阪府在籍
男　寬一　明治三、八生
男　修二　明四五、二生
男　三郎　大三、六生

君は大阪府人泉吉平の四男にして明治十五年六月十二日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現時泉鉛管會社員たり家族は尙四男史郎（大六、一〇生）五男忠雄（同一二、九生）二女ミヨ（同一五、一一生）六男睦雄（昭四、一〇生）あり養子せい（明四一、八生、三重、野村普吉長女）は分家せりA三二三（大阪市西淀川區佃町四一三）

泉　彌市

妻　きく子　大阪酸水素株式會社長、大阪鐵道、富山紡績、呉羽紡績、日印通商、南和電鐵、大阪モータース、勝浦漁業、大阪天王寺土地各株式會社取締役、泉事業、大阪、有信土地、日本蓄音器、泉兄弟商事、グリセリン横田組、泉兄弟商事、グリセリン大阪貿易、中外護謨各株式會社監査役
男　勤一　明四二、一〇生、養父清助長女
男　英二　大二、七生
女　禮　大四、八生

君は大阪府人宮崎彌三郎同彌作の弟にして明治十六年四月二十三日を以て生れ先代清助の養子となり同四十二年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し實業界に入り現に前記諸會社の重役たり同夫重次良（同一八、五生、大阪、妹圓子（明二三、九生）同夫重次良（同一八、五生、大阪、米谷猪三郎長男）は其一子を伴ひ分家せりA三七一（大阪市東區北濱四ノ一五電本局一二一五）

參照‖泉重次良、宮崎彌作、宮崎彌三郎※龜村治郎兵衛※岩田宗太郎※半田寅之助の項

泉　量一　臺灣鐵工所株式會社代表取締役、田中機械製作所株式會社取締役、佐賀縣士族

母　シキ　弘化三、一生、佐賀、士、鴨川龜次郎二女
妻　キミ　明一七、一〇生、東京、須田新八養子
男　一雄　明四二、一生
女　壽美子　明四四、一生
女　富美子　大二、一一生
女　八重子　大七、三生

君は佐賀縣士族泉復作の三男にして明治七年十一月三日を以て生れ後分れて一家を創立す同三十一年東京高等工業學校機械科を大で同四十年米國ペンシルバニヤ大學工科を各卒業し實業界に投じ現時臺灣鐵工所田中製作所各會社の重役にしてカロライジング工業所重寶商會國次製品所各經營主たり義に日本機械製作所代表取締役に擧げらる家族は尙二男正五（大五、二生）五女弘子（昭三、一一生）あり長女榮（明三九、三生）は長崎縣人古藤榮次郎の養子となれり（西宮市廣田四七電一四九四）

泉岡　宗助　大阪府多額納稅者、大江ビルデング株式會社取締役、大阪府在籍

妻　ムメノ　明一三、八生、奈良、士、三木與二女
男　宗三　明三四、九女、慶大出身
婦　知惠　明四一、二生、長男宗三妻、大阪野口泰次長女、樟蔭高女出身
男　宏信　大二、四生
女　チヨ　大六、一一生

君は大阪府人泉岡宗伯の長男にして明治九年一月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名宗平を改む夙に大阪商業學校を卒へメリヤス製造業に從事し後輔洋莫大小會社々長たりしが現時大江ビルデング會社取締役にして大阪府多額納稅者に列し直接國稅九千十五圓を納む義に大阪市會議員同參事會員天王寺區長等に擧げらる土地開拓並に住宅建築に趣味あり就中數寄屋普請を得意とす二女タツ（大三、一〇生）は奈良縣士族三木忠方に弟宗次郎（明一三、三生）は大阪府人城野いとに各養子となれり（大阪市住吉區阿倍野筋二ノ二〇電天王寺二〇四）

參照‖野口泰次の項

泉崎　三郎　從四位勳四等、瀨戸市長　北海道在籍

妻　かう　明二八、一一生、山形、佐藤雄能女
男　晴夫　昭二、三生

君は山形縣士族相浦秀逸の三男にして明治十四年二月十六日を以て生れ先代時藏の養子となり同三十三年家督を相續す同四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し會計檢査院書記となり文官高等試驗に合格香川縣屬簡本縣上益城郡長同天草郡長を經て大正十二年朝鮮總督府道事務官に任ぜられ咸鏡南道內務部長黃海道內務部長等に歷補し後ち官を辭して現時瀨戸市長たり（瀨戸市役所內）

泉澤與三郎　地家主　東京府在籍

妻　は る　明一四、二生、東京、櫻井平次郎長女
男　致吉　大三、四生
女　さく　明三七、九生
女　登代　尺六、五生

君は東京府人先代七郎兵衛の長男にして明治十二年七月七日を以て生れ同四十三年家督を相續す地家主たり弟德三郎（明二三、七生）同妻はな（同二三、八生、東京、高橋經助二女）は其三男一女を伴ひ分家せりA四一五（東京市足立區千住仲町一二〇）

泉田　ゑい　地主　兵庫縣在籍

女　よ ね　明二四、一〇生、亡養子寬治郎妻
孫　武　大九、五生、亡養子寬治郎長男

君は兵庫縣人松村滿太郎の姉にして安政四年八月三日を以て生れ夙に泉田家に入り明治四十二年長女よねの後を承け家督を相續す地主として知らる家族は尙孫敏雄（大一一、六生、亡養子寬治郎二男）ありA六一〇（神戸市神戸區中山手通七ノ一三〇電元町二六一七）

泉田嘉右衛門　岩手縣多額納稅者、農業　岩手縣在籍

母　ハツノ　慶應元、八生、岩手、佐藤卯源治長女
妻　アサヨ　明三三、一生、岩手、横澤榮四郎妹
男　光一　大四、六生
女　カツ　大八、六生

君は岩手縣人泉田平右衛門の二男にして明治二十二年一月を以て生れ大正十年家督を相續す岩手縣多額納稅者に列し直接國稅七百四十七圓を納む義に氣仙水力電氣會社取締役たりし事あり家族は尙二女リツ（昭三、七生）同妻キヨ（同三一、五生）同夫義友（同三五、一二生、岩手、尾形勗弟）あり姉コト（同一七、六生）同夫榮治（同七、五生、岩手、淺野甚助二男）は其三男を伴ひ分家せり（岩手縣氣仙郡世田米村電八）

泉名　永藏　土木建築請負業　埼玉縣在籍

妻　ソノ　明九、一〇生、新潟、山岸昇妹
男　政吉　明一四、一生、大阪、泉谷與一郎
女　ぬい　明二〇、一一生、
女　ちよ　明二五、六生
婦　茂　明三二、一〇生、長男武宣妻、兵庫、中野碩長女
男　廣三　明三七、九生、大阪高商出身

君は埼玉縣人泉名喜平次の二男にして明治二十二年八日を以て生る土木建築請負業を營む家族は尙男喜八（明二一、一生、現戸主）同妻きぬ（同二〇、一一生、埼玉、吉澤鐵五郎長女）及其三男一女男喜次（同三一、一生）同妻キヨ（同三一、五生、新潟、多田重次郎長女）及其四子亡兄七藏妻ハナ（文久元、一生、埼玉、井口半次郎長女）ありA七一八B二五五（東京市本郷區駒込林町九三電小石川五三〇）

泉谷儀三郎　正八位、陸軍三等主計、木綿商　大阪府在籍

妻　鶴子　明三八、一〇生、大阪、柴谷延雄二女
男　和一郎　昭二、二生

泉谷家は先代儀三郎泉州堺より出で絶家泉谷氏を再興して木綿手拭地商を營みたるに創まる君は其長男にして明治三十二年十月三日を以て生れ大正十四年家督相續と共に襲名して前名誠一を改む同九年大阪高等商業學校を卒業し歩兵第三十七聯隊に入營陸軍三等主計となる後父業を承けて木綿卸商を營み市內一流の店鋪たり宗教音樂に趣味を有す家族は尙二男敬二（昭三、一二生）三男順三（同七、七生）妹博子（明三六、一一生、陽丘高女出身）同夫康治郎（同三三、四生、大阪、乾利兵衛弟）及其一子妹靜子（同四〇、七生、樟蔭高女出身）同夫良喬（和歌山、鈴木正雄弟）ありA二六一六B三四九（大阪市東區瓦町三ノ一七電本局二八七八）

參照‖乾利兵衛の項

泉谷末三郎　松泉堂、茶商　大阪府在籍

妻　テイ　明一五、一生、大阪、泉谷與一郎二女
養子　玉潤　明三四、六生、長女倭子夫、大阪廣瀨大信弟
女　倭子　明三四、一一生、養子玉潤妻
養子　時子　明四四、九生、大阪、北田藤太郎四女

君は大阪府人木村直三郎の三男にして明治十年三月一日を以て生れ同三十四年同府人泉谷與一郎の養子となり後分れて一家を創立す松泉堂と稱し茶商を營むA四八五（大阪市南區瓦屋町五番丁一ノ二六電南三〇五三）

泉谷竹之助　時計輸入卸商　大阪府在籍

妻　はな　元治元、一生、大阪、鈴木市兵衛二女
男　武宣　明二五、六生
婦　茂　明三二、一〇生、長男武宣妻、兵庫、中野碩長女
男　廣三　明三七、九生、大阪高商出身

泉谷家は古くより大阪に土着せる舊家にして代々帳綴職を家業とし先代かちに至る君實は和歌山縣人林德左衛門の四男にして安政六年二月を以て生れ泉谷家に入り明治十五年家督を相續す夙に大阪に出で矢口時計店に勤務し後獨立して時計商を開業し堅實なる營業の下に遂に當家今日の產を爲す現に市內一流の店鋪たり五女重子（明三四、九生）は兵庫縣人新田茂兵衛長男茂助に嫁し二男信三（同二七、二生）は其妻喜代子（同三七、一一生、大阪、倉敷政治郎養子）及び其子女と共に分家し三女トク（同二二、二生）三男健三（同三一、一生）も亦各分家せり（大阪市北區常安町一八電土佐堀一二三四）

參照‖新田茂助の項

泉山岩次郎　八戸水力電氣、陸奥電力各株式會社取締役、磐城セメント株式會社監査役、青森縣在籍

妻　まき　明一八、七生、養父吉兵衛長女
女　まさ　明四一、一一生
女　セイ　大元、一二生
女　アツ　大五、二生
女　サタ　大七、一生

君は青森縣人松橋孫助の四男工藤新助の弟にして明治九年十一月を以て生れ同三十四年泉山吉兵衛の養子となり昭和五年分れて一家を創立す現時八戸水力電氣陸奥電力各會社取締役たる外前記會社の重役たり（八戸市本町七十四）

和泉乙三郎

松山商工會議所議員、ウエルス商會社長、愛媛縣在籍

繼母　ヤエノ　明二四、三生、廣島、山本節姉
妻　トメ子　明三八、一一生、愛媛、重松藤太郎三女
男　由市　大一五、一一生

君は故愛媛縣多額納稅者先代乙三郎の長男にして明治二十九年八月一日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名虎吉を改め襲名す大狗屋と稱し縣下の豪商にして現時ウエルス商會社長に任じ推されて松山商工會議所議員たり家族は尙長女道子（昭五、七生）妹トモヨ（明三八、七生）あり弟長美（同三二、一生）は愛媛縣人高城ヤエの養子となり妹マサヨ（同三六、九生）は同縣人森保一に嫁せり（松山市千舟町七二電一三一五）

和泉久太郎

升屋、酒類商
東京府在籍

男　久雄　大一〇、六生
女　ふじ子　大五、五生
女　ゆき　大七、一〇生

君は東京府人先代久太郎の二男にして明治二十年四月二十五日を以て生れ同四十三年家督を相續し前名次太郎を改め襲名す升屋と稱し酒類商を營む家族は尙三女ひさ子（ナ一五、八生）二男豊（昭五、六生）あり妹ふさ（明二三、八生）は群馬縣人岡田徳七二男英に同富喜（同三二、二生）は東京府人岡田徳に同安喜（同三三、七生）は神奈川縣人和泉茂八三男義助に嫁せりA四八（B一五二（東京市品川區北品川二ノ七四電高輪八二）

和泉　榮

大阪ビルブローカー營業主
青森縣在籍

男　太郎　明三七、一〇生
男　永郎　明四〇、一一生
女　八重子　大七、七生

君は青森縣人和泉權太郎の養副子にして丹波川勝家の出なり明治九年九月を以て生れ大正十三年家督を相續す先是明治二十八年東京專門學校政治科を卒業し大阪現株取引會社長を始め大阪ビルブローカーを專業とす家族は尙三男三郎（大九、二生）三女芳子（同一一、三生）あり（大阪市東區北濱二ノ二六電本局二五七）

磯　永吉

正五位勳三等、農學博士、臺北帝國大學教授、理農學部勤務、附屬農場長兼臺灣總督府技師、中央研究所技師、農業部種藝科長
廣島縣士族

父　其三郎　文久三、九生、廣島、士、村上半歳三男
母　ヨシ　明四、二生、祖父永澄長女
妻　たつ　明一八、四生、北海道、仁平信一母
女　愛子　大四、一一生
女　百合子　大八、一一生

君は廣島縣士族磯其三郎の二男にして明治十九年十一月を以て生る同四十四年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し同大學副手となり大正三年臺灣總督府農事試驗場技師等を經て臺北帝國大學助教授に任じ推薦せられ轉いて農學賞を贈らる現時同大學教授兼臺灣總督府技師中央研究所技師にして理農學部勤務同附屬農場長たり義に歐米支那及南洋に出張す家族は尙妹清江（明三七、七生）あり（臺北市臺北帝國大學理農學部内）

磯　悌三郎

正五位勳五等、檢事、小倉區裁判所兼福岡地方裁判所小倉支部檢事
福岡縣在籍

妻　敏子　明二二、九生、岡山、太田朝可二女

君は福岡縣秋月藩文武肝籠磯好詮の孫にして同純夫の三男なり明治十六年二月二日を以て生れ同四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大正三年檢事に任じ爾來神戸地方鹿兒島神戸龍野各區神戸地方福岡地方各裁判所檢事に歷任し現時小倉區裁判所兼福岡地方裁判所小倉支部檢事たり家族は尙二男好邦（大一三、三生）二女昭子（昭三、一生）あり（小倉市京町小倉區裁判所官舍電二一）

磯　實

日本海上保險會社員
兵庫縣在籍

養母　かじ　明一三、七生、兵庫、小池逸平長女
男　博　昭二、五生

君は奈良縣人疋田福太郎の弟にして明治三十四年十二月七日を以て生れ大正十五年先代磯清三郎の養子となり昭和四年家督を相續す日本海上保險會社員たりA一三二（神戸市灘區河原町一三二電御影三八四四）

磯　彌平

貴產家
山梨縣在籍

妻　せう　明一六、四生、山梨、志村眞三長女
男　彌之助　明四四、七生、慶大在學
女　梅代　大四、三生、雙葉高女出身

君は山梨縣人小林林兵衛の弟にして嘉永五年七月を以て生れ先代清五郎の養子となり明治七年家督を相續す責產家にして義に谷村商業銀行取締役に就任せしことあり家族は尙六女奈々子（大一一、一生、光雲高女在學）あり長女しま子（明三三、五生）は東京府人吉川清七に二女しゅん（同三六、八生）は山梨縣人西村三次郎に三女政子（同三九、三生、三輪田高女出身）は東京府人山本重夫に嫁し孫重德（同三三、六生、離緣養子享作長男）は山梨縣人小林喬德の家籍に入れりA一六五〇（東京市杉並區馬橋三ノ四二〇電中野三五一八）

参照‖吉川清七の項

磯　要吉

茨城縣多額納稅者、茨城軌道㈱取締役、常陸碎石㈱監査役、酒造業
茨城縣在籍

妻　しけ　明一二、四生、茨城、小里房次郎長女
男　良男　明四一、八生
男　武雄　明四四、六生
男　滿男　大元、八生
女　登美子　大五、八生

君は茨城縣人磯良右衛門の三男にして明治十四年三月を以て生れ大正三年家督を相續す酒造業を營み傍ら茨城軌道常陸碎石各會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者に列し直接國稅九百二十圓を納む長女壽美子（明三七、三生）は茨城縣人立川雄太郎長男新太郎に二女きよ子（同三九、七生）は東京府人德岡正一に嫁せり（茨城縣西茨城郡西山内村）

磯海國吉

茨城鐵道㈱取締役、磯海工務所長
土木設計及請負業
東京府在籍

妻　千代　明一七、八生、東京、外田重三妹
男　道郎　明四〇、五生、早大理工科出身
男　靜郎　明四二、六生、東武鐵道會社員、經濟學士
女　英子　大五、一生、三輪田高女在學

君は福島縣人磯海金五郎の二男にして明治八年十月十一日を以て生れ同三十五年兄政太郎より分れて一家を創立す先是同三十四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し土木設計請負業を營み北海道鐵道業手に任ぜられ同技手同技師となり大正二年退官し爾來磯海工務所長にして傍ら茨城鐵道會社取締役たり義に東北鐵道殖業會社の重役を兼ぬ家族は尙三女富士子（大九、二生、御茶の水高女在學）六男正久（同一三、一一生）あり二男國被（明三七、一一生、府立三中出身）は兄政夫郎の死跡を相續し長女田鶴（大二、一〇生、三輪田高女出身）は長野縣人高橋亮介に嫁せり（東京市小石川區指ヶ谷町一四七電小石川一九三二）

磯　江潤

京華中學校、京華商業學校、京華高等女學校各設立者兼各校長
東京府在籍

慶應三、一〇生、東京、士、都甲直猪妹
妻　則矩　明二三、五生
男　泰雄

女　親世　明三一、九生、京華高女出身

磯江家は世々伯州天神河の畔江北に住せる郷士にして石州津和野藩磯江氏の宗家たり君は磯江清の弟にして慶應二年十月十日を以て生れ明治十五年叔父金十郎の家督を相續す夙に京都及び九州中津に遊び亞で東都に出で暫學及經濟學を修め私立成立學會（文學士中原貞七設立）及晉學館（東洋大學前身）等の漢文科英語科講師兼幹事たりしが同三十年獨力を以て京華中學校を起し同三十五年京華商業學校を創立して各校長となり今日に至る三女澄子（明三四、一一生、京華高女出身）は福岡縣人三井信託會社幹事法學士石野要夫弟充に四女龍（同三七、五生、出身校同上）は醫學博士石橋長英に嫁せり（東京市小石川區駕籠町一五七電大塚四五六）

参照‖磯江泰雄、石野要夫の項

磯江泰雄

正五位勳四等、專賣局部長、東京府在籍
慶應二、一〇生、現戸主
父　潤　明三二、五生、前宮內次官河村金五郎二女、學習院女學部出身
妻　武子　大八、二生
男　重泰　大六、九生
女　華子　大八、一生

君は東京府人磯江潤の長男にして明治二十三年五月を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し直ちに大藏省に入り專賣局書記大藏事務官等を經て專賣局參事に任ぜられ同局專賣支局事業課長鐵道局事務官臺灣銀行監理官專賣局會理課長專賣課長兼臺灣總督府專賣局參事を歷任專賣局長官官房總務課長に補せられ次で昭和九年專賣局部長に任ぜられ販賣部長に補せらる京華中學校同商業學校同高等女學校の設立者にして別校長たり家族は尙二女朗子（大一〇、一生）三女泰子（同二二、七生）四女規子（昭三、一生）あり（東京市本郷區駒込東片町九七電小石川一六一六）

参照‖磯江潤、河村金五郎※田坂一郎の項

磯貝浩

勳三等、愛知縣農工銀行役、頃取締役、名古屋紡績、大曾根土地㈱取締役、東陽倉庫㈱監査役、大森、魚問屋業、愛知縣在籍

妻　則矩　慶應三、一〇生、東京、士、都甲直猪妹
男　泰雄　明二三、五生

妻　と　み　慶應二、九生、東京、本多巳之助伯爵
男　榮三　明四三、一〇生
男　之三　明四五、四生

君は愛知縣人磯貝安左衛門の二男にして元治元年八月を以て生れ明治五年分れて一家を創立す大森と稱し魚問屋業を營み愛知縣農工銀行頭取たる外前記各會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者に列し義に貴族院議員に互選せられ尙名古屋市會議員名古屋商工會議所議員に擧げらる二女よし子（大七、六生）は愛知縣人舟橋のぶの養子となれりA六〇一五B二五六（名古屋市南區熱田木ノ免町一三四電南一三三九）

磯谷幸次郎

イソガヤ

正三位勳二等、早稻田大學講師
三重縣在籍

妻　てい　明六、六生、三重、士、板垣貸夫妹
男　確也　明二八、一二生、東京電燈會社員法學士

婿　義子　明四〇、一生、長男確也妻、東京町澤政治郎五女、東京女學館出身
男　恒夫　明三一、四生
男　公雄　明三五、一〇生、慶大出身
婿　文子　明四三年生、三男公雄妻
男　武雄　明四一、三生、東京農大出身

君は三重縣士族磯谷俊夫の叔父にして慶應元年十一月を以て生れ大正一一年分れて一家を創立す明治二十二年帝國大學法科大學英法科を卒業し判事試補となり次で判事に任ぜられ東京地方裁判所及長崎控訴院判事東京控訴院部長大審院判事横濱地方裁判所長函館名古屋各控訴院長を經て大正十二年大審院部長に補せらる爾來に出張す昭和三年十一月停年に達し退職法曹會常務理事となりしが同八年末之を辭す「債權法論總論及各論「債權總論大意」等の著書あり現時早稻田大學講師たり長女治子（明三四、一生）は靈業試驗場長兼東京帝國大學教授農學博士平塚英吉に四女静子（同四二、七生）は東京地方裁判所判事林徹に嫁し六男六郎（大四、一二生）は三重縣人沼田龜三の養子となれりA二七七（東京市板橋區板橋町一ノ二五三四電板橋四六）

参照‖平塚英吉、町澤政治郎の項

男　好逢　大五、四生
女　圭子　大三、四生

君は福岡縣秋月藩文武肝籠磯好詮の孫にして同純夫の三男なり明治十六年二月二日を以て生れ同四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大正三年檢事に任じ爾來神戸地方鹿兒島神戸龍野各區神戸地方福岡地方各裁判所檢事に歷任し現時小倉區裁判所小倉支部檢事たり家族は尙二男好邦（大一三、三生）二女昭子（昭三、一生）あり（小倉市京町小倉區裁判所官舍電二一）

磯谷廉介　正五位勳三等、陸軍少將、參謀本部第二部長、東京府在籍

妻　照子　明二七、七生、宮崎、士、肯木宣純二女
女　延子　大四、四生
男　節子　大六、一〇生

君は兵庫縣人磯谷次郎の三男にして明治十六年九月三日を以て生れ大正六年分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十七年歩兵少尉に任じ昭和八年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し歩兵第十三聯隊大隊長參謀本部附歩兵第七聯隊長第一師團參謀長陸軍省人事局補任課長等に歴補し昭和八年參謀本部第二部長に補せられ今日に至る（東京市世田谷區新町三ノ四六七）（世田谷二〇八三）

磯崎精一　第一證券株式會社常務取締役、大阪堂島米穀取引所取引員、大阪府在籍

妻　アイ　明二五、一生、大阪、福井辰藏三女
男　浩二　昭三、三生
養子　雄吉　明四三、九生、兄德三郎四男

君は大分縣人磯崎德三郎の二男にして明治十二年三月を以て生れ大正五年兄德三郎方より分れて一家を創立す夙に大阪堂島米穀取引所仲買人となり現に同取引所正米部取引員にして義に大阪府多額納稅者たりA二六六〇B六一七（大阪市北區堂島濱通一ノ九五電話北一七二）

磯田吉太郎　京都精米、京都電氣工業各株式取締役、撚糸製造業、京都府在籍

妻　たね　明二六、四生、京都、木村嘉十郎五女
男　一夫　大一二、九生

君は京都府人磯田吉之助の長男にして明治二十四年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す撚糸製造業を營み傍ら京都精米京都電氣工業兩會社の取締役にして義に東洋人絹撚絲工場の取締役たり家族は尙長女多美子（大九、六生）弟卓三（同四、一生）同富三（同五、一〇生）あり同菊治郎（明二七、三生）は分家せり（京都市上京區大宮寺之内上三丁目北仲之町五一三電西陣一二三〇）

磯田甚三　大阪米穀商品取引所取引員、大阪府在籍

妻　ヒサ　明二七、三生、大阪、田中祐七二女
男　俊朗　大六、一一生
女　喜代子　大四、一一生

君は大阪府人先代甚七の長男にして明治二十年十一月十三日を以て生れ大正十四年家督を相續す現時大阪米穀商品取引所取引員たり家族は尙二女喜代子（大一一、二生）三男禎造（昭三、七生）あり妹米（明三八、二生）は愛姪登美子（大六、一〇生）に嫁せりA九九一B三五七（大阪市北區堂島濱通一ノ八九電話北三一五）

磯田正朝　新日本火災海上保險、京王電氣軌道、甲州街道乗合自動車各株式取締役、日田金山株式會社査役、大分縣在籍

妻　ふく　明二四、三生、茨城、田中清姉大八、七生、雙葉高女在學
養子　和子

君は大分縣人磯田陸藏の長男にして明治十八年六月を以て生れ大正八年家督を相續す現時前記各會社の重役利太（明三六、一生）妹麻子（同四一、二生）は大正生命保險、京王電氣軌道、甲州街道乗合自動車各株式取締役、大分縣在籍

磯野愛之助　博多銀行、丸文化學工業所、博多土居產業各株式取締役、福岡縣在籍

妻　ツル　明一八、六生、福岡、平位素一長女
婦　テル　明四一、一生、二男英夫妻、福岡古川壽作四女
女　文子　大二、一一生
女　敬子　大八、八生

君は福岡縣人磯野七十郎の長男にして同七平の兄なり明治五年八月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す現時博多銀行取締役の外前記各會社重役たり家族は尙四男幸壽（大五、一生）五男郁三（同一〇、九生）孫隆（昭五、六生、二男英夫長男）あり（福岡市上土居町三三電五〇七七）

參照＝磯野七平の項

磯野銀策　米穀商、東京府在籍

妻　ミヨ　明三〇、二生、東京、森久三郎妹
男　博志　昭三、三生

君は山梨縣人磯野貞一の三男にして明治二十二年七月二十日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す米穀商を營む家族は尙長女和子（昭五、二生）二男光弘（同七、八生）ありA三五〇（東京市深川區佐賀町一ノ二ノ二電話本所一九八）

參照＝※早坂金次郎の項

磯野九一郎　從五位勳六等、樟太鐵鐵道技師、保線係長、新潟縣在籍

母　チエ　慶應元、二生
妻　スエ　明二九、二生
男　好男　昭三、一生

君は新潟縣人磯野儀六の男にして明治二十四年十月を以て生る大正三年東北帝國大學工學專門部土木工學科を卒業し北海道鐵事業手鐵道院技手を經て同十一年樟太鐵鐵道技師に任ぜられ建設係に勤務し同十四年保線係長を命ぜられ車輛係長豊原工場長を兼任せるも現時保線係長を專任し改良工事を兼擔す家族は尙長女綾子（大九、二生、糸魚川高女在學）二女久子（同一〇、一〇生、同上校在學）三女ミヤ子（同一三、五生）四女和子（昭五、一生）の外弟彌忠治（明三三、一二生）同妻キク子（同四〇、一一生）及其子女あり（樟太豊原郡豊原町樟太鐵鐵道事務所内）

磯野敬三　千代田生命保險會社契約課長、東京府在籍

養母　さわ　明一一、六生、滋賀、磯野新一姉
妻　美　明二九、四生、養父元吉養子、本郷伊藏三女
男　昌雄　大五、一一生

君は東京府人磯野重次郎の三男にして明治二十九年九月を以て生れ先代元吉の養子となり大正七年家督を相續す同四年慶應義塾理財科を卒業し現時千代田生命保險相互會社契約課長たり家族は尙二男邦男（大七、一二生）二女ゆり（同一一、八生）三女李子（同一五、一生）四女小百合（昭三、八生）三男昭（同五、五生）ありA三〇九（東京市下谷區谷中坂町一一電下谷一八三九）

磯野小次郎　賣產家、大阪府在籍

父　良吉　明二、三生、現戸主
妻　正　明三七、一生、大阪、久保正治郎長女
男　良太　大一二、一生

君は大阪府人磯野良吉の長男にして明治二十六年二月二十五日を以て生る賣產家たり家族は尙長女富子（大一三、一一生）二女照子（昭二、一生）ありA一〇八五（大阪市北區堂島船大工町三七電北七三九）

參照＝磯野良吉の項

磯野七平　福岡縣多額納稅者、博多土居產業株式會社代表取締役、博多銀行株式會社取締役、許斐工業株式會社監査役、鎗造業、金物商、福岡縣在籍

妻　ツネ　明二五、一〇生、福岡、野村久左衛門二女
男　順一郎　明四五、四生
女　喜美　大三、一生

君は福岡縣人磯野七十郎の三男にして明治十五年五月を以て生れ同三十年家督を相續し前名巻三郎を改む鎗造業金物商を營み傍ら前記銀行各會社の重役にして直接國稅千六百四十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男泰二郎（大七、四生）三男備三郎（同九、一〇生）三女慶子（同一二、一〇生）四女巻子（同一四、一〇生）四男誠四郎（昭五、一生）あり兄愛之助（明五、八生）は其妻子を伴ひ分家し妹イチ（同二〇、一生）は福岡縣人石橋友次郎に嫁せり（福岡市上土居町四五電二一・三一七二）

參照＝石橋友次郎※磯野愛之助の項

磯野潤一　岐阜縣多額納稅者、農業、岐阜縣在籍

母　さだ　慶應三、五生、岐阜、磯野武一從姪
妻　とし　明三三、六生、岐阜、平光圓四郎三女
男　守男　大八、八生
女　靜子　大一一、八生

君は岐阜縣人磯野靜衛の長男にして明治二十六年二月を以て生れ大正五年家督を相續す祖業を襲ひ農業を營み直接國稅九百五十圓を納め縣下の多額納稅者に列し義に蘇原銀行取締役たり事あり家族は尙弟六郎（明三五、七生）あり同四郎（同三〇、一一生）は分家し姉ますゑ（同二四、三生）は岐阜縣人菱田誠也に妹幸（同二八、九生）は同縣人松原純一に同島（同三三、一生）は同縣人原信道に同琴（同四〇、五生）は同縣人堀秀榮に嫁せり

參照＝松原純一の項

磯野新藏　靜岡市會議員、靜岡商工會議所常議員、靜岡縣多額納稅者、三十五銀行、靜岡電氣鐵道各株式會社監査役、靜岡縣醤油同業組合副組合長、醤油釀造業、靜岡縣士族

妻　イク　明一八、一〇生、東京、磯野重次郎長女
男　新一郎　大五、三生
女　ふじ　明四五、五生
女　春　大八、一生

君は靜岡縣人村松政司の弟にして明治十四年五月を以て生れ先代新藏の養子となり大正十五年家督を相續し前名乾を改め襲名す醤油釀造業を營み直接國稅九百九十二圓を納め靜岡縣多額納稅者に列す家業の傍ら現時靜岡市會議員靜岡縣醤油同業組合副組合長たり義に靜岡商工會議所常議員靜岡商工會議所副會頭に擧げられ靜岡瓦斯會社重役たりしことあり家族は尙二男愈二郎（大一〇、一二生）三男悅雄（同一四、八生）あり（靜岡市新通一ノ一電話本所一九八）

參照＝磯野良吉の項

磯野進　大沼電鐵株式會社取締役、北海人造肥料株式會社監査役、小樽物產倉庫各株式會社監査役、海陸物產商運倉庫業、新潟縣在籍

妻　サク　明一〇、八生、新潟、市橋茂十郎三女
男　泰藏　明三二、六生
婦　良子　明四二、八生、二男泰藏妻、石川藤井伊之吉四女
男　雄三郎　明三四、九生
婿　靜　明四〇、五生、三男雄三郎妻、滋賀、神野新平三女
養子　郡治　明三〇、七生、二女マツ夫、新潟吉玉宗次弟
女　マツ　明三七、二生、養子郡治妻
男　四郎　明三九、八生
男　五郎　明四四、一〇生
女　靜　大三、一〇生

君は新潟縣人伊藤清一郎の二男にして明治五年四月を以て生れ先代吉太郎の養子となり同四十三年家督を相續す海陸物產並倉庫業を營む傍ら前記各會社の重役にして義に推されて小樽商工會議所議員同會議所會頭に擧げられ北海道精米會社專務取締役たりし事あり家族は尙六男友彦（大四、一一生）孫恭（同一二、一生、養子郡治長女）同和子（昭二、七生、同二女）あり長女タツ（明二五、五生）は和歌山縣人林政市に嫁し長男義藏（同二八、三生）は分家せり（小樽市色内町五ノ一電話八〇〇・二二三三）

磯野長藏　明治屋株式會社長、滿洲麥酒株式會社代表取締役、鎌倉海濱ホテル株式會社取締役會長、キリンビール、麥酒共同販賣各株式會社專務取締役、磯野貿易社長、神奈川縣在籍

妻　菊　明一九、九生、神奈川、磯野計長女
男　計藏　明四〇、九生
養子　義雄　明二九、三生、長女悅子夫、愛知安藤佐藏六男、明治屋株式會社監査役、磯野合資會社員
女　悅子　明三六、一一生、養子義雄妻
女　春子　明四五、四生
女　直子　大五、一生

君は鳥取縣人三島久平の二男にして同林吉の弟なり明治七年三月を以て生れ同三十六年先代菊の入夫となり家督を相續す同三十年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙四男謙藏（大七、七生）五男昌藏（同八、一二生）六男大藏（同一〇、一生）六女良子（同一三、三生）孫正雄（同一三、九生、養子義雄長男）あり二女福子（明四二、一生、雙葉高女出身）は高橋朝次郎に嫁せりA二二三八六（東京市麻布區廣尾町五七電高輪五五四九）

磯野庸幸　從七位勳五等、陸軍二等主計、横濱商工會議所議員、神奈川縣多額納税者、上信銀行、横濱市街自動車、土地建物管理、ジャパンモーター各㈱取締役、丸二商會、貿易商、神奈川縣在籍

妻　君　明一七、三生、養父國四郎長女、府立第一高女出身、日本女大修業
男　清　大七、五生
女　壽子　明四二、五生、府立第一高女高等科出身

君は神奈川縣人吉田吾山の四男にして上郎清助は君の兄なり明治十一年十月を以て生れ神奈川縣人磯野國四郎の養子となり大正九年分れて一家を創立す明治三十三年横濱商業學校を卒業し横濱正金銀行に勤續十數年後丸二商會を起し貿易商を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして直接國税千四百二十三圓を納め縣下の多額納税者たり昭和九年立憲政友會神奈川支部長に擧げらる曩に神奈川縣會議員衆議院議員等に選ばれ現時横濱商工會議所議員横濱貿易協會副會頭たり家族は尙三男泰夫（大一二、一一生）ありA一〇二五（横濱市中區根岸三ノ一五二電本局七五五二）
參照＝上郎清助の項

磯野鶴太郎　從七位勳六等、明石市長、明石商工會議所顧問、兵庫縣在籍

妻　せつ　明二〇、七生、兵庫、松尾國五郎二女
男　正俊　明四二、一生、函館專賣局事業課長、法學士
女　綾子　大三、一二生、明石高女出身

君は兵庫縣人磯野德太郎の二男にして明治十二年五月二十五日を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十四年兵庫縣巡查を拜命同三十九年同巡查部長に進み同四十三年警察官練習所を修了し爾來兵庫縣警部同警視に累進し大正十二年兵庫縣城崎郡長となり同十四年明石市長に就任し今日に至る又推されて明石商工會議所顧問たり家族は尙二男國德（大一〇、三生）亡弟寅吉妻こま（明三八、三生、兵庫、松村善之助二女）及其二女弟政太郎（同二三、七生）同妻まさ（同二六、九生、兵庫、田中善太郎長女）あり長女壽子（明四四、一〇生、明石高女出身）は京都府人松村德松長男豐太郎に嫁せり（明石市大藏町六丁目電七四四）

磯野直吉　王子製紙會社京都工場長　京都府在籍

母　ゑい　安政三、一生、京都、柴原勘兵衞三女

君は京都府人宮本彌太郎の三男にして明治元年一月三日を以て生れ同二十年四月磯野小右衞門の養嗣子となり後家督を相續す夙に梅津製紙場に入り同二十七年製紙工場視察の爲め歐米諸國に出張三十二年歸朝三十六年梅津製紙場總督主となり同三十九年梅津製紙株式會社設立と共に同工場に入りて取締役に擧げらる大正二年帝國製紙會社取締役となり同六年松江製紙會社創立と同時に取締役を兼ね同十三年梅津製紙會社富士製紙會社に合併するや富士製紙會社に入社京都工場長となる昭和八年同社が王子製紙會社に合併すると共に入りて引き續き京都工場長に就任す（京都市右京區嵯峨上嵯峨八丈電嵯峨二二）

磯野昇　醫師、大阪府醫師會常務理事、淀川土地組合組合長、大阪府士族

妻　ツヤ　明二七、五生、兵庫、城東土地會社々長植木米藏養子、大手前高女出身
男　誠　大四、二生

君は滋賀縣人山元敬藏の三男にして明治十六年一月十七日を以て生れ同二十三年磯野家を相續す醫師たり同四十二年以來同地に開業し大阪府醫師會役員として名聲あり又地方の公共團體に關與し名譽職に擧げらる趣味として圍碁俳句謠曲あり家族は尙二男弘（大六、一〇生）長女綾子（同九、八生）あり（大阪市西淀川區姫島町四六三電土佐堀四六八六）

磯野基三　彌生ゴム工業所㈹代表社員、護謨製造業、岐阜縣在籍

母　こま　明二、九生、岐阜、田中欽一妹
妻　實子　明三四、六生、東京、青木竹雄姉
男　仁　大一一、一一生

君は岐阜縣人磯野彌吉の三男にして明治三十一年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す護謨製造業を營み現時彌生ゴム工業所代表社員たり家族は尙長女美惠子（大一〇、一一生、京華高女在學）二女倶子（同一三、一一生）二男眞（同一五、六生）三男實（昭三、八生）三女基子（同五、五生）四男勇雄（同七、二生）弟百男（明四三、四生）あり妹榮子（同三九、二生）は醫師伊藤榮一郎に嫁せり（東京市向島區寺島町四ノ二〇五電墨田一八九二）

磯野良吉　大濱土地、大阪窯業、大阪窯業セメント各㈱社長、泉北土地㈱監査役、磯野㈴代表社員、大阪府在籍

妻　ツル　明八、三生、京都、青木友三郎二女
男　小次郎　明二六、二生
男　三郎　明二八、八生
婦　富惠　明三九、八生、二男三郎妻、京都木野宗太郎妹
女　貞子　明三三、一二生
男　勝　明三九、一生

君は大阪府人磯野小右衞門の長男にして明治二年三月を以て生れ同十年家督を相續す先代小右衞門は大阪實業會の重鎭にして多年堂島取引所を主宰したり君其後を承け現に磯野合名會社代表社員の外前記諸會社の重役たり家族は尙孫和子（大二、二生、二男三郎長女）あり長女道子（明二四、七生）は東京府士族洋畫家九里四郎に二女豐子（同三一、一一生、府立淸水谷高女出身）は廣島縣人河村秀丸に嫁し養子すゞ（同一四、五生）は庶子武（大五、四生）を伴ひ分家せりA一二二八二（大阪市北區網島町二七電北七三九）
參照＝磯野小次郎の項

磯原淺吉　磯原毛織㈱社長　大阪府在籍

女　サカヱ　明二五、六生

君は奈良縣人卯川周治の三男にして明治二年六月を以て生れ磯原コミツの養子となり同二十一年家督を相續す現時磯原毛織會社々長たり家族は尙孫周春（大四、三生、亡養子寅之助長男）ありA一〇三（大阪市南區南炭屋町一〇電南四一一八）

磯部英一郎　磯部同族㈱取締役社長、北海道瓦斯㈱常任取締役、帝國火藥工業、ボルネオ殖産各㈱監査役　茨城縣士族

母　とき　明九、一二生、東京、勝田權左衞門長女
妻　きみ　明三一、四生、群馬、關根作三郎三女
男　陽一　大一一、一生

君は茨城縣士族磯部保次の長男にして明治二十五年九月を以て生れ昭和三年家督を相續す大正五年慶應義塾大學理財科を卒業し現時磯部同族會社取締役社長の外前記各會社の重役にして曩に大東京自動車共濟火災保險會社等の重役たり家族は尙弟健（大四、六生）同文太（同七、七生）あり妹稻子（明四〇、一〇生）は東京府人高橋彥作に嫁せりA一六二（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町二階堂一五電一四七四）

磯部源四郎　中村土地㈱取締役、名古屋土地、中村電氣軌道各㈱監査役　愛知縣在籍

母　喜登　弘化四、三生、愛知、磯部孫十郎長女
妻　その　明八、四生、愛知、鈴木喜代治郎妹
養子　欽二　明三四、一生、愛知、鈴木喜代治郎三男、大同電力會社員、經濟學士
婦　登子　明四四、八生、養子欽二妻、愛知花井政治郎三女、名古屋市立第三高女出身

君は愛知縣人磯部源藏の長男にして明治三年三月を以て生れ同十二年家督を相續す現時前記各會社の重役たり姉かぎ（慶應三、九生）は外武鈴木喜代治郎に妹りゆう（明八、八生）は愛知縣人今飯田鐮之助に嫁せりA二一四（名古屋市西區志賀町六七電東四七九六）

磯部周次郎　中華園、料理業　福岡縣在籍

妻　ユキ　明六、一生、福岡、宮崎姝右衞門長女
男　明夫　明三六、一〇生
女　スマ子　明三二、九生

君は長崎縣人先代磯部瀧藏の長男にして文久二年一月二十二日を以て生れ明治十六年家督を相續す中華園と稱し料理業を營む家族は尙孫玲子（昭八、一一生、二女スマ子養子、福岡、寺田市三郎三女）あり（福岡市東中州町一三ノ二七七電一〇七一）

磯部淸吉　衆議院議員（京都府選出）、酒造業　京都府在籍

妻　わさ　明一四、二生、京都、保野延次郎妹
男　英太郎　明四〇、八生
女　ゆき　明四三、七生
女　加代　大二、三生

君は京都府人伊藤房二郎の弟にして明治五年五月を以て生れ先代喜左衞門の養子となり同二十五年家督を相續し酒造業を營む昭和三年以來衆議院議員に當選する事三回現に其任に在りて立憲政友會に屬す曩に須知銀行取締役京都府會議員同郡部會議長地方森林會議員等に擧げられたることあり家族は尙二男克次郎（大四、一〇生）三男忠之助（同七、四生）あり養子コハル（明二六、五生、兄房二郎三女）は京都府人木村得一に嫁せり（京都府北桑田郡平屋村）

磯部虎之助　千年殖產、甲寅商事各㈱取締役、愛知開墾㈱監査役、關戶殖產㈴支配人、愛知縣在籍

妻　かい　明一七、一〇生、愛知、貴道文之助二女
養子　鎌一　明三二、七生、長女久夫、愛知、早川菊三郎二男
女　久　明三六、六生、養子鎌一妻
女　道　明四〇、二生

君は愛知縣人磯部久治の長男にして明治三年十二月を以て生れ同十七年家督を相續す幼にして素封家關戶家に入り永年勤續し現時同家關係の前記各會社の重役たり家族は尙孫延吉（大一五、一〇生、養子鎌一長男）あり（名古屋市西區鹽町二ノ六電西二一二八）

磯部房信　クロード式窒素工業㈱專務取締役、長陽曹達㈱取締役、三井鑛業臨時窒素工場建築部主事、東京府士族

妻　ヒサコ　明二五、一二生、山口、大呑共輔長女
男　清　大六、五生

君は靜岡縣人中讀一の弟にして明治十七年四月を以て生れ先代正孝の養子となり同四十五年家督を相續す現時クロード式窒素工業會社專務取締役長陽曹達會社取締役三井鑛業臨時窒業工場建築部主事たり家族は尙長女綾子（大一五、一一生）ありA五七九（東京市淀橋區東大久保一ノ四一二電四谷二二六二）

磯部愉一郎　旭電化工業㈱專務取締役、日本農藥、硬化油販賣、晒粉販賣、グリセリン販賣各㈱取締役、化學鹽業㈱監査役、岡山縣在籍

母　登羅　文久元、六生、岡山、磯部熊太郎姉
妻　よね　明一七、一生、東京、河合德兵衞長女
女　幸子　大二、八生、府立第三高女出身

君は岡山縣人磯部大祐の長男にして明治十四年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十年早稻田大學商科を卒業し直に古河合名會社に入社せしが後之を辭し現時前記諸會社の重役たりA七二六（東京市澁谷區神泉町三二電青山二七二六）

磯部良樹　資產家　東京府在籍

母　良　明六、九生、東京、三浦貞春長女

君は東京府士族磯部正春の四男にして大正三年五月三十日を以て生れ昭和三年十月家督を相續す資產家たり（東京市大森區山王二ノ二〇九二）

磯村貞吉　三田育種場主　東京府在籍

母　やを　明二、一二生、三重、長島萬平三女
妻　喜久　明三四、一〇生、東京、相馬久吉二女
男　春夫　大一五、四生

君は東京府人先代貞吉の二男にして明治三十一年一月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名充吉を改め襲名す同二年慶應義塾大學を卒業し父業を承ぎ三田育種場を經營す家族は尙弟貞博（明四〇、一生）あり同貞雄（同三七、六生）は分家せり（東京市芝區三田四國町二ノ一八號）

参照＝相馬久吉※筧正太郎※中山佐市※橋本新助の項

磯村年

養母　當　正三位勳一等功三級、陸軍大將
妻　薫　東京府士族　安政四、六生、石川、士、生橋金三郎姉
男　武亮　明一三、五生、養父惟亮二女
婦　和代　明三七、二生、長男武亮妻、愛媛士、松平定掘三女

君は滋賀縣士族平田榮の二男にして明治五年九月を以て生れ先代惟亮の養子となり同四十二年家督を相續す同二十七年陸軍砲兵少尉に任ぜられ昭和三年陸軍大將に累進し豫備役に編入さる其間陸軍士官學校教官參謀本部々員陸軍大學校教官大本營參謀第三軍參謀野砲兵第十二同第十六各聯隊長第十八師團參謀長參謀本部課長廣島灣要塞司令官野砲兵第三旅團長射擊學校長浦鹽派遣軍參謀長陸軍砲工學校長第十二師團長東京警備司令官等に歷補し明治四十三年より四十四年に亙り歐洲を漫遊す家族は尙孫尙志（大一三、八生、長男武亮長男）同尙德（昭四、八生、同二男）あり長女俊（明三六、四生）は三重縣人國分新五郎弟新七郎に妹章（同二五、七生）は石川縣人藤田磐養子邁に嫁せりA一二〇（東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ六一六電四谷二四〇九）

磯村豊太郎

妻　ヨネ

養子　文雄　明四三、一一生、大分、磯村盛彌二男

君は大分縣人磯村鶴二の長男にして同雄の兄なり明治元年十一月七日を以て生れ同十九年先代ヨネの入夫となり家督を相續す同二十二年慶應義塾を卒業し新聞記者となり次で慶應義塾講師日本銀行員三井物產會社營業部長同倫敦支店長等を經て現時北海道炭鑛汽船及夕張鐵道各會社長を外前記諸會社の重役たり推されて東京商工會議所常議員にして昭和四年貴族院議員に勅選せらる養子嘉子（明三一、六生、東京、石井鐵三郎長女）は廣島縣人小山靜兵衛二男卓次郎に嫁せりA一七八四五（東京市芝區高輪南町三〇電高輪一二四九）

参照＝磯村增雄、磯村素直の項

磯村增雄

妻　マキ　三菱銀行日本橋通町支店長　大分縣在籍　明二五、九生、福岡、松井伊太郎三女
男　炎　大二、一二生
女　鞆子　大五、三生

君は大分縣士族磯村鶴二の四男同豊太郎の弟にして明治十七年一月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治三十七年慶應義塾商業學校を卒業し英國に遊びたり長女雪枝（明四一、二生）は和歌山縣人田中竹次郎一〇、三生、東京、植野みね養妹）及其一子あり慶二（同三、一〇生）養弟皆藏（同元、三生、石川、川岸彌助弟）は各分家せり（石川縣羽咋郡富來町電一三）

参照＝※佐々波與佐次郎の項

磯村素直

妻　ヨネ　三井生命保險會社本店營業部長　東京府士族
君は大分縣士族磯村眞五郎の長男にして明治十一年四月を以て生れ同三十八年早稻田大學法科を卒業し三井生命保險會社に入り庶務課長を經て現時本店營業部長たり長女雪枝（明四一、二生）は大分縣人磯村豊太郎三三二）

参照＝磯村豊太郎の項

磯村利水

妻　淑子　冷藏、石巻合同汽船、取締役、代表取締役、石巻相模倉庫取締役、磯村石巻無限責任社員、女川汽船相模倉庫合資會社、女川信用販賣組合長、女川利用組合長、女川町商工會長、東京都府在籍　明二五、五生、和歌山、士、林桂妹
男　豊　大二、二生
女　美榮　大四、八生
女　澄　大七、七生

君は山口縣人磯村應の六男にして明治十六年二月十二日を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す同三十九年京都帝國大學工科大學を卒業し現時磯村合名會社無限責任社員たる外前揭各會社の重役たり家族は尙二男章（大一〇、八生）三男清（同一二、一二生）四男繁（昭七、二一生）あり長女鶴代（明四二、一二生）は廣島縣人角倉志朗に嫁せりA一二〇〇（東京市品川區五反田五ノ八七電高輪六三七九）

参照＝林桂※眞鍋十藏の項

磯又三郎

妻　固明　北陸共同電氣㈱監査役、度量衡商並酒造業、石川縣在籍　明四、一生、石川、士、高橋勝人長女
養子　又二　明三〇、一生、分家弟慶二長男
婦　信　明三一、四生、養子又二妻、石川寺井文左衛門妹

君は石川縣人先代又三郎の長男にして文久三年十一月を以て生れ明治二十一年家督を相續し前名周太郎を改め襲名す度量衡商並に酒造業を營む傍ら前記會社の重役にして藏に能州電氣會社長良川銀行頭取高岡電燈會社取締役たりしことあり家族は尙孫彌十郎（大九、九生、養子又二長男）同しづ（同一二、五生、同長女）同とみ（同一四、六生、同三男）同幸（同一五、九生、同三女）同昭（昭三、三生、同四女）亡弟又四郎妻ふじ（明一〇、三生、東京、植野みね養妹）及其一子あり慶二（同三、一〇生）養弟皆藏（同元、三生、石川、川岸彌助弟）は各分家せり（石川縣羽咋郡富來町電一三）

磯貝喜一郎

父　喜助　三井銀行參事　元治元、一一生、現戸主
母　きん　明一二、三生
妻　初惠　明三四、一生、石川、藤岡米造長女、金澤第一高女出身

君は石川縣人磯貝喜助の三男にして明治二十六年一月二十三日を以て生る大正五年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し直に三井銀行京都支店勤務となり爾來若松横濱大阪西神戸及大阪各支店勤務を經て昭和五年同行大阪川口支店次長同七年同支店長となり同九年參事を命ぜられ現在に至る趣味を有す家族は尙長女和枝（大一一、一一生）二女信子（同一四、五生）三女富子（昭二、八生）あり（東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ三八五電青山三一八一）

磯野定次郎

妻　千代　前國際汽船㈱監査役　明二四、八生、福岡、松室安昌妹
男　誠一　東京府在籍　明四三、一一生
男　謙治　大二、九生

君は千葉縣人安藤銀次郎の二男にして明治九年二月十三日を以て生れ先代友吉の養子となり同三十五年家督を相續す同三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す義に臺灣銀行常務監査役國際汽船會社監査役たり事あり家族は尙三男龍正（大五、一生）二女千鶴子（同一〇、五生）あり四男良雄（同六、七生）は千葉縣人安藤甲子太郎の養子となれり（東京市豊島區池袋三ノ一四四九電大塚一九〇五）

参照＝松室安昌の項

磯野八郎兵衛

養母　き　賀商　東京府在籍
妻　喜代　明元、七生、養祖父八郎兵衛長女
男　誠一　明三四、四生、養父儀次郎長女
男　大一〇、二生

君は神奈川縣人椎橋愛之助の三男にして明治二十七年八月一日を以て生れ大正八年先代喜代の入夫となり家督を相續す現時資産を營む家族は尙二女敬（大一四、一生）三女雅子（昭二、二生）二男衛孝（同六、七生）あり

磯部喜右衛門

從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務、富山縣在籍
母　より　安政四、六生、富山、中西清次郎二女
妻　滋　明二三、三生、京都、日下京平長女
男　喜博　大五、一一生
女　喜代　大四、三生

君は富山縣人先代喜右衛門の長男にして明治十四年十一月を以て生れ同十九年家督を相續す同四十一年京都帝國大學醫科大學を卒業し同四十三年同大學醫科大學助教授に任ぜられ爾來長崎醫學專門學校教授長崎醫科大學教授兼附屬醫學專門部教授等に歷任し大正十三年京都帝國大學教授に任ぜられ醫學部に勤務し今日に至る同三年獨逸學博士の學位を受け歸朝し同四年獨逸佛國に留學せり家族は尙二男喜秋（大七、一〇生）あり女孝（明四五、一生）は京都帝大醫學部講師横山哲雄に嫁せり

参照＝※岸上善五郎※安福武之助の項

磯部晋

妻　てい　丸ビル耳鼻科、醫師　明二八、七生、養父榮長女
男　榮次郎　大九、一生
女　かね子　大五、一一生

君は靜岡縣人村尾泰洋の五男にして明治二十一年一月を以て生れ先代榮次郎の養子となり同三十七年家督を相續す大正四年東京帝國大學醫科大學を卒業す醫師にして現時丸ビル耳鼻科を經營す家族は尙三男寧次（大一二、七生）二女和子（昭二、二生）四男健（同四、六生）三女順子（同七、七生）あり

参照＝※安藤狂四郎の項

磯部喜右衛門

A二八二B七六（東京市赤坂區新町一ノ一電青山七九一八）

磯村彌右衛門

妻　芳枝　高槻町長、大阪府會議員、攝津銀行㈱頭取、大阪府在籍　明二九、一生、福井、針田鐵次郎妹
男　義一　大六、一生、京都、淺田操妹

君は大分縣人磯村鶴二の四男同豊太郎の弟にして明治十七年一月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す同三十九年慶應義塾を卒業し新聞記者となり次で慶應義塾講師日本銀行員三井物產會社營業部長同倫敦支店長等を經て現時北海道炭鑛汽船及夕張鐵道各會社長を外前記諸會社の重役たり推されて東京商工會議所常議員にして昭和四年貴族院議員に勅選せらる養子嘉子（明三一、六生、東京、石井鐵三郎長女）は廣島縣人小山靜兵衛二男卓次郎に嫁せりA一七八四五（東京市芝區高輪南町三〇電高輪一二四九）

参照＝磯村增雄、磯村素直の項

磯村增雄

妻　マキ　三菱銀行日本橋通町支店長　大分縣在籍　明二五、九生、福岡、松井伊太郎三女
男　炎　大二、一二生
女　鞆子　大五、三生

君は大分縣士族磯村鶴二の四男同豊太郎の弟にして明治十七年一月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治三十七年慶應義塾商業學校を卒業し英國に遊びたり長女雪枝（明四一、二生）は和歌山縣人田中竹次郎一〇、三生、東京、植野みね養妹）及其一子あり慶二（同三、一〇生）養弟皆藏（同元、三生、石川、川岸彌助弟）は各分家せり（石川縣羽咋郡富來町電一三）

参照＝※佐々波與佐次郎の項

磯村利水

妻　淑子　冷藏、石巻合同汽船、取締役、代表取締役、石巻相模倉庫取締役、磯村石巻無限責任社員、女川汽船相模倉庫合資會社、女川信用販賣組合長、女川利用組合長、女川町商工會長、東京都府在籍　明二五、五生、和歌山、士、林桂妹
男　豊　大二、二生
女　美榮　大四、八生
女　澄　大七、七生

君は山口縣人磯村應の六男にして明治十六年二月十二日を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す同三十九年京都帝國大學工科大學を卒業し現時磯村合名會社無限責任社員たる外前揭各會社の重役たり家族は尙二男章（大一〇、八生）三男清（同一二、一二生）四男繁（昭七、二一生）あり長女鶴代（明四二、一二生）は廣島縣人角倉志朗に嫁せりA一二〇〇（東京市品川區五反田五ノ八七電高輪六三七九）

参照＝林桂※眞鍋十藏の項

磯又三郎

妻　固明　北陸共同電氣㈱監査役、度量衡商並酒造業、石川縣在籍　明四、一生、石川、士、高橋勝人長女
養子　又二　明三〇、一生、分家弟慶二長男
婦　信　明三一、四生、養子又二妻、石川寺井文左衛門妹

君は石川縣人先代又三郎の長男にして文久三年十一月を以て生れ明治二十一年家督を相續し前名周太郎を改め襲名す度量衡商並に酒造業を營む傍ら前記會社の重役にして藏に能州電氣會社長良川銀行頭取高岡電燈會社取締役たりしことあり家族は尙孫彌十郎（大九、九生、養子又二長男）同しづ（同一二、五生、同長女）同とみ（同一四、六生、同三男）同幸（同一五、九生、同三女）同昭（昭三、三生、同四女）亡弟又四郎妻ふじ（明一〇、三生、東京、植野みね養妹）及其一子あり慶二（同三、一〇生）養弟皆藏（同元、三生、石川、川岸彌助弟）は各分家せり（石川縣羽咋郡富來町電一三）

磯貝喜一郎

父　喜助　三井銀行參事　元治元、一一生、現戸主
母　きん　明一二、三生
妻　初惠　明三四、一生、石川、藤岡米造長女、金澤第一高女出身

君は石川縣人磯貝喜助の三男にして明治二十六年一月二十三日を以て生る大正五年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し直に三井銀行京都支店勤務となり爾來若松横濱大阪西神戸及大阪各支店勤務を經て昭和五年同行大阪川口支店次長同七年同支店長となり同九年參事を命ぜられ現在に至る趣味を有す家族は尙長女和枝（大一一、一一生）二女信子（同一四、五生）三女富子（昭二、八生）あり（東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ三八五電青山三一八一）

磯野定次郎

妻　千代　前國際汽船㈱監査役　明二四、八生、福岡、松室安昌妹
男　誠一　東京府在籍　明四三、一一生
男　謙治　大二、九生

君は千葉縣人安藤銀次郎の二男にして明治九年二月十三日を以て生れ先代友吉の養子となり同三十五年家督を相續す同三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す義に臺灣銀行常務監査役國際汽船會社監査役たり事あり家族は尙三男龍正（大五、一生）二女千鶴子（同一〇、五生）あり四男良雄（同六、七生）は千葉縣人安藤甲子太郎の養子となれり（東京市豊島區池袋三ノ一四四九電大塚一九〇五）

参照＝松室安昌の項

磯野八郎兵衛

養母　き　賀商　東京府在籍
妻　喜代　明元、七生、養祖父八郎兵衛長女
男　誠一　明三四、四生、養父儀次郎長女
男　大一〇、二生

君は神奈川縣人椎橋愛之助の三男にして明治二十七年八月一日を以て生れ大正八年先代喜代の入夫となり家督を相續す現時資産を營む家族は尙二女敬（大一四、一生）三女雅子（昭二、二生）二男衛孝（同六、七生）あり

磯部喜右衛門

從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務、富山縣在籍
母　より　安政四、六生、富山、中西清次郎二女
妻　滋　明二三、三生、京都、日下京平長女
男　喜博　大五、一一生
女　喜代　大四、三生

君は富山縣人先代喜右衛門の長男にして明治十四年十一月を以て生れ同十九年家督を相續す同四十一年京都帝國大學醫科大學を卒業し同四十三年同大學醫科大學助教授に任ぜられ爾來長崎醫學專門學校教授長崎醫科大學教授兼附屬醫學專門部教授等に歷任し大正十三年京都帝國大學教授に任ぜられ醫學部に勤務し今日に至る同三年獨逸學博士の學位を受け歸朝し同四年獨逸佛國に留學せり家族は尙二男喜秋（大七、一〇生）あり女孝（明四五、一生）は京都帝大醫學部講師横山哲雄に嫁せり

参照＝※岸上善五郎※安福武之助の項

磯部晋

妻　てい　丸ビル耳鼻科、醫師　明二八、七生、養父榮長女
男　榮次郎　大九、一生
女　かね子　大五、一一生

君は靜岡縣人村尾泰洋の五男にして明治二十一年一月を以て生れ先代榮次郎の養子となり同三十七年家督を相續す大正四年東京帝國大學醫科大學を卒業す醫師にして現時丸ビル耳鼻科を經營す家族は尙三男寧次（大一二、七生）二女和子（昭二、二生）四男健（同四、六生）三女順子（同七、七生）あり

参照＝※安藤狂四郎の項

板井贊次郎

妻　マリ　岩手殖產銀行㈱頭取　明二七、七生、大分、安藤心一郎妹
男　庄作　大六、一生
女　圓　大四、七生

君は大分縣人板井庄次郎の五男にして明治十六年四月を以て生れ大正四年兄勝五郎方より分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し日本勸業銀行に入り松江山形盛岡京都各支店長を經て現時岩手殖產銀行頭取たり家族は尙二女久（大一五、一一生）あり

参照＝※安藤狂四郎の項

板垣金次郎

妻　テル　養產家　京都府在籍　明三、一〇生、福井、針田鐵次郎妹
養子　謙吉　明三八、二生、養子キヌ夫、福井上窪富藏三男
養子　キヌ　明四〇、八生、養子謙吉妻、福井針田清藏長女

君は島根縣人板垣金右衛門の二男同千太郎の弟にして慶應二年四月二十日を以て生れ明治三十六年分れて一家を創立す養產家たり家族は尙孫金（昭四、二生、養

子譲吉長男）同昌子（同七、一生、同長女）ありA三七五（京都市上京區平野宮北町五四ノ三）

板垣金造

仙臺商工會議所副會頭、石卷運輸倉庫株式會社長、仙臺市街自動車株式會社取締役、鹽釜港製氷株式會社監査役、石炭商、宮城縣在籍

妻　しう　明二〇、一生、東京、岡庭フシ美

男　仁　大三、一生

女　綾子　明四四、三生

女　光子　大六、七生

君は宮城縣人板垣甚吉の二男にして明治二十二年六月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す石炭商を營み傍ら前記各會社の重役にして仙臺商工會議所副會頭たり家族は尙二男德（大五、二生）ありA六五九B二一一（仙臺市國分町一三八電一八六）

板垣政一

正四位勳三等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務、福岡縣在籍

妻　ますゑ　明二三、一二生、京都、大槻俊治二女

男　博　大八、三生

女　百合　大二、八生

君は岩手縣士族板垣政德の三男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十一年兄政一方より分れて一家を創立し前名政參を改む同四十年京都帝國大學を卒業し同四十一年京都帝國大學福岡醫科大學の助手となり同四十三年同大學助教授に任じ大正三年生理學研究の爲歐洲各國に留學し同七年同大學教授に任ぜられ同九年醫學博士の學位を受く現に九州帝國大學教授にして醫學部勤務たり昭和六年再び歐米及アフリカへ出張仰付らる（福岡市平尾八九六ノ三電二九八三）

板垣四十六郎

從五位勳五等、臺灣公立中學校長、臺中第二中學校長、高知縣在籍

妻　ユキ　明二四、三生、愛媛、向井裕藏四女

君は高知縣人にして明治十六年二月十九日を以て生る同三十九年東京高等師範學校本科數物化學部を卒業し德島縣立高等女學校愛媛縣師範學校各教諭兼訓導を經て大正八年十月臺灣總督府中學校教諭に任じ臺北中學校勤務を經て同十一年臺灣公立中學校長に補せられ昭和五年五月臺灣公立中學第一中學校教諭を命ぜらる昭和五年五月臺灣公立中學校長に栄進し臺中第二中學校長に補せられ今日に至れり家族は尙長男昌夫二女ミドリ三女マス子二男新二郎あり長女彩子は森菊雄に嫁せり（臺灣臺中市臺中第二中學校內）

板倉勝豪

從五位、子爵、舊備中高梁藩

妻母　惠子　明二四、三生、伯爵酒井忠良妹

當家は足利泰氏の二男澁川義顯より八代頼重初めて板倉と稱す孫侍從勝重德川家康に舉げられ京都所司代となり其子周防守重宗亦父の職を承ぎ並に合名あり下總國五萬石に封ぜらる後世備中高梁二萬石に移り十三世を經て先々代勝弼に至り明治十七年子爵を授けらる君は子爵板倉勝彦の兄にして明治四十三年四月を以て襲爵仰付けらる家族は尙養妹錦子（明四五、四生）あり母刺子（同二〇、九生、養父勝敬（同二三、七生）あり母刺子（同二一、一〇生）は各分家し叔父勝貞（同二五、二生）は東京府人中川末吉の養子となれり（東京市澁谷區穏田一ノ一〇一電青山一一六四）

參照＝伯爵酒井忠良、子爵板倉勝彦、伯爵稲葉順通※子爵內藤信利※子爵大給近孝※酒井忠純※酒井忠孝※西脇健治※益田太郎※安田善次郎の項

板倉勝朝

從四位、子爵、高砂煖房工事株式會社取締役、舊三州重原藩

母　ユキ　明一一、一二生、法學博士春木一郎妹

妻　美與　明三四、五生、東京、士、原六郎四女

男　勝宏　大一三、七生

當家は足利泰氏の後裔板倉伊賀守勝重の二男內膳正重昌の後なり其孫石見守重種兄に代つて父重昭から家督を相續し後奥州磐島三萬石に移封せらる十二代を經て先々代勝達に至り維新の際三州重原に代り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に選ばる長男勝憲其後を繼ぎ東京帝國大學法科大學を卒業し臺灣總督府囑託證券交換所取締役等に擧げられ亦貴族院議員に當選す君は其長男にして明治二十九年一月を以て生れ昭和三年家督を相續し襲爵被仰付大正十一年京都帝國大學法學部を卒業す家族は尙二男勝高（大一五、一一生）あり妹春子（明三五、三生）は岡山縣士族野崎丹斐太郎に同光子（同三八、一二生、女子學習院出身）は千葉縣人日立製作所社員並木晉に伯母信子（萬延元、一〇生）は子爵安部信明先代信順に先代勝憲再從妹幸子（明二八、八生）は子爵上杉勝昭先代勝憲に嫁せり（東京市赤坂區青山南町五ノ八一電青山八二九四）

參照＝子爵安部信明、子爵上杉勝昭、野崎丹斐太郎春木一郎※子爵伊東二郎丸※男爵北畠千畝※北村重昌※原邦造の項

板倉勝豪

從五位、子爵、舊備中高梁藩

妻母　惠子　明二四、三生、伯爵酒井忠良妹

當家は足利泰氏の二男澁川義顯より八代頼重初めて板倉と稱す孫侍從勝重德川家康に擧げられ京都所司代となり其子周防守重宗亦父の職を承ぎ並に合名あり下總國五萬石に封ぜらる後世備中高梁二萬石に移り十三世を經て先々代勝弼に至り明治十七年子爵を授けらる君は子爵板倉勝彦の兄にして明治四十三年四月を以て襲爵仰付けらる家族は尙養妹錦子（明四五、四生）あり母刺子（同二〇、九生、養父勝敬（同二三、七生）あり母刺子（同二一、一〇生）は各分家し叔父勝貞（同二五、二生）は東京府人中川末吉の養子となれり（東京市澁谷區穏田一ノ一〇一電青山一一六四）

參照＝伯爵酒井忠良、子爵板倉勝彦、伯爵稲葉順通※子爵內藤信利※子爵大給近孝※酒井忠純※酒井忠孝※西脇健治※益田太郎※安田善次郎の項

板倉勝朝

從四位、子爵、高砂煖房工事株式會社取締役、舊三州重原藩

母　ユキ　明一一、一二生、法學博士春木一郎妹

妻　美與　明三四、五生、東京、士、原六郎四女

男　勝宏　大一三、七生

當家は足利泰氏の後裔板倉伊賀守勝重の二男內膳正重昌の後なり其孫石見守重種兄に代つて父重昭から家督を相續し後奥州磐島三萬石に移封せらる十二代を經て先々代勝達に至り維新の際三州重原に代り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に選ばる長男勝憲其後を繼ぎ東京帝國大學法科大學を卒業し臺灣總督府囑託證券交換所取締役等に擧げられ亦貴族院議員に當選す君は其長男にして明治二十九年一月を以て生れ昭和三年家督を相續し襲爵被仰付大正十一年京都帝國大學法學部を卒業す家族は尙二男勝高（大一五、一一生）あり妹春子（明三五、三生）は岡山縣士族野崎丹斐太郎に同光子（同三八、一二生、女子學習院出身）は千葉縣人日立製作所社員並木晉に伯母信子（萬延元、一〇生）は子爵安部信明先代信順に先代勝憲再從妹幸子（明二八、八生）は子爵上杉勝昭先代勝憲に嫁せり（東京市赤坂區青山南町五ノ八一電青山八二九四）

參照＝子爵安部信明、子爵上杉勝昭、野崎丹斐太郎春木一郎※子爵伊東二郎丸※男爵北畠千畝※北村重昌※原邦造の項

板倉勝央

從四位、子爵、舊上州安中藩

妻母　喜代　明二八、一一生、東京、西村茂三郎長女

男　勝堯　大七、一生

君は東京府人板倉仲由の三男にして明治三十年二月九日を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年三菱合資會社に入り門司香港大阪小樽各支店長を經て大正七年三菱商事會社に轉じ名古屋支店副長新嘉坡出張所長同支店長大阪支店副長を經て昭和七年門司支店長となり現在に至る家族は尙長女綾子（大一四、二生）三男勝昌（昭二、三生）四男勝定（同五、五生）二女淺子（同七、五生）の外弟勝顯（明二二、一〇生）同妻由子（同三五、一二生、東京、岡野昌誠庶子）及其一男一女あり（門司市本村三菱社宅）

參照＝子爵板倉勝央の項

板倉勝彦

從五位、子爵、舊備中庭瀬藩

當家は源義家の後胤板倉伊賀守勝重の二男內膳正重昌の後なり重昌父の遺領を分ち三州深溝一萬五千石を領し鳥原の亂に追討使となり賊巢を冐して死す其子重矩老中となる嫡孫重良父重矩に先ちて卒し其裔久しく封邑を失せしが天和三年重良の孫越中守重宣再び起用せられて二萬石に封ぜらる後世更に備中庭瀬に移り十一世を經て先々代勝弘青山板倉家より入り明治十七年子爵を授けらる長男勝鍾其後を承け君に至る君は先代勝鍾の三男にして大正二年八月十七日を以て生る同十五年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙弟久勝（大六、一生）叔母益子（明六、三生）あり兄勝豪（同四三、四生）は子爵板倉勝貞の養子となり當主にして姉錦子（同三七、一一生、女子學習院出身）は分家し叔父勝義（同九、一一生）同妻清子（同一七、七生、子爵間部詮信妹）も亦其子女を伴ひ分家し後山後家を繼ぎ大叔母貞（同一六、一〇生）は男爵益田太郎に嫁せり（東京市澁谷區幡ケ谷笹塚町一二三〇）

參照＝子爵板倉勝豪、子爵間部詮信、男爵益田太郎の項

板倉謙太郎

資產家、東京府在籍

妻母　あき　文久三、八生、祖父富藏長女

妻　貞子　明三六、二生、千葉、松本安藏三女

養子　利治　明三四、一二生、父孫吉六男

婦　操　明四〇、一生、養子利治妻、東京佐藤勝太郎妹

男　忠夫　昭六、一一生

君は東京府人板倉彌吉の長男にして明治十四年八月十四日を以て生れ昭和三年家督を相續す資產家として知らる家族は尙孫萬里子（昭五、一〇生、養子利治長女）同千榮子（同七、五生、同二女）あり妹美（明四一、一一生）は大分縣人木下秀明に嫁し弟七郎（同一八、一一生）同與市（同一四、八生）は分家し妹好（同二七、八生）は東京府人鈴木源太郎に二女信江（同三二、九生）は福島縣人今泉廣途に三女靜江（同三七、一〇生）は東京府人角川陳平に嫁せりA五八〇（東京市赤坂區榎町二四電青山二九六三）

參照＝※外山知三の項

坂倉清太郎

京都市、醸千魚株式會社常務取締役、海產物商、京都府在籍

母　とよ　文久二、二生、京都、川嵜善兵衛長女

妻　茂子　明二七、七生、京都、北村治兵衛四女

男　徳次　大四、一二生

女　とし子　大二、一〇生

君は京都府人先代清兵衛の長男にして明治十七年九月二十日を以て生れ昭和五年家督を相續す海產物商を營む現時京都市麩千魚會社常務取締役たり家族は尙二男重和（大七、二生）四女愛枝（同一三、七生）同一四、一二生）三男廣夫（昭二、一〇生）（同三、六生）四男良夫（同四、六生）あり三五、三生）は愛知縣人加藤賢治郎の養子となれり A三〇〇（京都市下京區高倉佛光寺上ル電下一九五一）

坂倉卓造

法學博士、慶應義塾大學教授、東京府在籍

妻　壽賀　明二〇、三生、埼玉、太田元章長女、日本女大出身

男　讓治　明四五、六生、慶應大學經濟學部出身

高子　大七、九生

君は廣島縣人板倉理郎の長男にして明治十七年九月九日を以て生れ大正八年家督を相續す海產物商を營む應義塾政治科を卒業し歐米に留學すること二回東京帝國大學より法學博士の學位を授けらる現時慶應義塾大學教授たり體に時事新報社取締役兼主筆たりしことあり家族は尙二男欣平（大四、一〇生）あり長女英子（明四一、四生、聖心女子學院出身）は佐賀縣人古賀九一長男均一に二女洋子（同四三、一一生、出身校同上）は東京府人淺見勇に嫁せりA一八一（東京市荏原區戸越町四〇三電荏原二五五七）

板倉松太郎

正三位勳一等、法學博士、東京府在籍

妻　彦治　慶應三、四生、山梨、一條寛妹

男　操一　明二四、一二生、東京高工出身

婦　梅枝　明二五、三生、長男操一妻、東京

男　堉雄　明二八、六生、陸軍歩兵大尉

婦　壽子　明三七、二生、二男堉雄妻、東京加藤八太郎五女

男　駿　明三〇、三生、海軍々醫少佐

婦　ヤチヨ　明四〇、六生、山梨、倉本統一妹

男　珪　明三六、九生、東京高工出身

女　實子　明四〇、三生、聖心女子學院出身

孫　鏡　大六、九生、長男操一長女

孫　華子　大八、五生、長男操一二女

君は東京府人板倉平兵衛の長男にして明治元年四月二十三日を以て生れ同四十一年家督を相續す同二十一年帝國大學法學部を卒業し同年判事に任じ甲府地方裁判所判事に補せられ爾來商橋地方京橋區麹町區東京地方各裁判所判事千葉東京各地方裁判所部長東京控訴院判事兼檢事控訴院判事同部長大阪控訴院部長東京控訴院檢事大審院判事同檢事會計監査官懲戒裁判所豫備檢察官大審院部長等に歷補したるが其後退官現時著述家たり君に大正五年法學博士の學位を受け同八年支那政府の招聘に應じ同國に赴き同十一年任務終了歸朝せり家族は尙孫大象（大一二、一生、長男操一長男）同淳（同一四、六生、同二男）同慶三（同一五、三生、同三男）同茂子（昭二、二生、同三女）同綾子（同七、一生、三男駿長女）同清（同九、二生、同長男）あり長女錦子（明二六、一生）は靜岡縣人田代英作弟工學士訂に二女梅子（同三五、一生）は東京府人海軍少佐鈴木光信に三女妙子（同三八、五生、聖心女子學院出身）は千葉縣人子安豊に養子綾子（同四五、二生、千葉、鴻巣幸太郎庶子）は山梨縣人倉本統一に各嫁し四男泰（同三二、一生）は同妻さい（同三九、一生、長野、大竹治吉三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六五（東京市品川區上大崎一ノ八〇四電高輪一五八八）

板倉道

こはぜ釦商、東京府在籍

母　きく　明二一、三生、東京、森川啓太郎養子

君は東京府人板倉市次郎の長女にして明治四十四年十二月を以て生れ昭和三年家督を相續す家族は尙長男昌夫二女ミドリ三女マス子二男新二郎あり長女彩子は森菊雄に嫁せり（臺灣臺中市臺中第二中學校內）

板倉勝豪

從五位、子爵、舊備中高梁藩

妻母　惠子　明二四、三生、伯爵酒井忠良妹

當家は足利泰氏の二男澁川義顯より八代頼重初めて板倉と稱す孫侍從勝重德川家康に擧げられ京都所司代となり其子周防守重宗亦父の職を承ぎ並に合名あり下總國五萬石に封ぜらる後世備中高梁二萬石に移り十三世を經て先々代勝弼に至り明治十七年子爵を授けらる君は子爵板倉勝彦の兄にして明治四十三年四月を以て襲爵仰付けらる家族は尙養妹錦子（明四五、四生）あり母刺子（同二〇、九生、養父勝敬（同二三、七生）あり母刺子（同二一、一〇生）は各分家し叔父勝貞（同二五、二生）は東京府人中川末吉の養子となれり（東京市澁谷區穏田一ノ一〇一電青山一一六四）

參照＝伯爵酒井忠良、子爵板倉勝彦、伯爵稲葉順通※子爵內藤信利※子爵大給近孝※酒井忠純※酒井忠孝※西脇健治※益田太郎※安田善次郎の項

板倉勝朝

從四位、子爵、高砂煖房工事株式會社取締役、舊三州重原藩

母　ユキ　明一一、一二生、法學博士春木一郎妹

妻　美與　明三四、五生、東京、士、原六郎四女

男　勝宏　大一三、七生

當家は足利泰氏の後裔板倉伊賀守勝重の二男內膳正重昌の後なり其孫石見守重種兄に代つて父重昭から家督を相續し後奥州磐島三萬石に移封せらる十二代を經て先々代勝達に至り維新の際三州重原に代り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に選ばる長男勝憲其後を繼ぎ東京帝國大學法科大學を卒業し臺灣總督府囑託證券交換所取締役等に擧げられ亦貴族院議員に當選す君は其長男にして明治二十九年一月を以て生れ昭和三年家督を相續し襲爵被仰付大正十一年京都帝國大學法學部を卒業す家族は尙二男勝高（大一五、一一生）あり妹春子（明三五、三生）は岡山縣士族野崎丹斐太郎に同光子（同三八、一二生、女子學習院出身）は千葉縣人日立製作所社員並木晉に伯母信子（萬延元、一〇生）は子爵安部信明先代信順に先代勝憲再從妹幸子（明二八、八生）は子爵上杉勝昭先代勝憲に嫁せり（東京市赤坂區青山南町五ノ八一電青山八二九四）

參照＝子爵安部信明、子爵上杉勝昭、野崎丹斐太郎春木一郎※子爵伊東二郎丸※男爵北畠千畝※北村重昌※原邦造の項

板倉勝央

從四位、子爵、舊上州安中藩

當家は板倉周防守重宗の二男伊豫守重形の後なり重形兄重郷より分れて上州安中三萬石の城主となるそれより十代を經て先代勝觀に至り明治十七年子爵を授けらる君は其の二男にして明治二十一年十月八日を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵被仰付明治四十四年學習院高等科を卒業す從姉種（文久元、一一生）は東京府人板倉勝温の母たり（東京市淀橋區下落合一ノ五三九）

參照＝板倉勝温の項

板倉勝温

三菱商事會社門司支店長、東京府在籍

母　種　文久元、一一生、子爵、板倉勝央從姉

妻　喜代　明二八、一一生、東京、西村茂三郎長女

男　勝堯　大七、一生

君は東京府人板倉仲由の三男にして明治三十年二月九日を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年三菱合資會社に入り門司香港大阪小樽各支店長を經て大正七年三菱商事會社に轉じ名古屋支店副長新嘉坡出張所長同支店長大阪支店副長を經て昭和七年門司支店長となり現在に至る家族は尙長女綾子（大一四、二生）三男勝昌（昭二、三生）四男勝定（同五、五生）二女淺子（同七、五生）の外弟勝顯（明二二、一〇生）同妻由子（同三五、一二生、東京、岡野昌誠庶子）及其一男一女あり（門司市本村三菱社宅）

參照＝子爵板倉勝央の項

板倉勝彦

從五位、子爵、舊備中庭瀬藩

當家は源義家の後胤板倉伊賀守勝重の二男內膳正重昌の後なり重昌父の遺領を分ち三州深溝一萬五千石を領し鳥原の亂に追討使となり賊巢を冐して死す其子重矩老中となる嫡孫重良父重矩に先ちて卒し其裔久しく封邑を失せしが天和三年重良の孫越中守重宣再び起用せられて二萬石に封ぜらる後世更に備中庭瀬に移り十一世を經て先々代勝弘青山板倉家より入り明治十七年子爵を授けらる長男勝鍾其後を承け君に至る君は先代勝鍾の三男にして大正二年八月十七日を以て生る同十五年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙弟久勝（大六、一生）叔母益子（明六、三生）あり兄勝豪（同四三、四生）は子爵板倉勝貞の養子となり當主にして姉錦子（同三七、一一生、女子學習院出身）は分家し叔父勝義（同九、一一生）同妻清子（同一七、七生、子爵間部詮信妹）も亦其子女を伴ひ分家し後山後家を繼ぎ大叔母貞（同一六、一〇生）は男爵益田太郎に嫁せり（東京市澁谷區幡ケ谷笹塚町一二三〇）

參照＝子爵板倉勝豪、子爵間部詮信、男爵益田太郎の項

板倉謙太郎

資產家、東京府在籍

妻母　あき　文久三、八生、祖父富藏長女

妻　貞子　明三六、二生、千葉、松本安藏三女

養子　利治　明三四、一二生、父孫吉六男

婦　操　明四〇、一生、養子利治妻、東京佐藤勝太郎妹

男　忠夫　昭六、一一生

君は東京府人板倉彌吉の長男にして明治十四年八月十四日を以て生れ昭和三年家督を相續す資產家として知らる家族は尙孫萬里子（昭五、一〇生、養子利治長女）同千榮子（同七、五生、同二女）あり妹美（明四一、一一生）は大分縣人木下秀明に嫁し弟七郎（同一八、一一生）同與市（同一四、八生）は分家し妹好（同二七、八生）は東京府人鈴木源太郎に二女信江（同三二、九生）は福島縣人今泉廣途に三女靜江（同三七、一〇生）は東京府人角川陳平に嫁せりA五八〇（東京市赤坂區榎町二四電青山二九六三）

參照＝※外山知三の項

坂倉清太郎

京都市、醸千魚株式會社常務取締役、海產物商、京都府在籍

母　とよ　文久二、二生、京都、川嵜善兵衛長女

妻　茂子　明二七、七生、京都、北村治兵衛四女

男　徳次　大四、一二生

女　とし子　大二、一〇生

君は京都府人先代清兵衛の長男にして明治十七年九月二十日を以て生れ昭和五年家督を相續す海產物商を營む現時京都市麩千魚會社常務取締役たり家族は尙二男重和（大七、二生）四女愛枝（同一三、七生）（同三、六生）四男良夫（同四、六生）あり三五、三生）は愛知縣人加藤賢治郎の養子となれり A三〇〇（京都市下京區高倉佛光寺上ル電下一九五一）

坂倉卓造

法學博士、慶應義塾大學教授、東京府在籍

妻　壽賀　明二〇、三生、埼玉、太田元章長女、日本女大出身

男　讓治　明四五、六生、慶應大學經濟學部出身

高子　大七、九生

君は廣島縣人板倉理郎の長男にして明治十七年九月九日を以て生れ大正八年家督を相續す海產物商を營む應義塾政治科を卒業し歐米に留學すること二回東京帝國大學より法學博士の學位を授けらる現時慶應義塾大學教授たり體に時事新報社取締役兼主筆たりしことあり家族は尙二男欣平（大四、一〇生）あり長女英子（明四一、四生、聖心女子學院出身）は佐賀縣人古賀九一長男均一に二女洋子（同四三、一一生、出身校同上）は東京府人淺見勇に嫁せりA一八一（東京市荏原區戸越町四〇三電荏原二五五七）

板倉松太郎

正三位勳一等、法學博士、東京府在籍

妻　彦治　慶應三、四生、山梨、一條寛妹

男　操一　明二四、一二生、東京高工出身

婦　梅枝　明二五、三生、長男操一妻、東京

男　堉雄　明二八、六生、陸軍歩兵大尉

婦　壽子　明三七、二生、二男堉雄妻、東京加藤八太郎五女

男　駿　明三〇、三生、海軍々醫少佐

婦　ヤチヨ　明四〇、六生、山梨、倉本統一妹

男　珪　明三六、九生、東京高工出身

女　實子　明四〇、三生、聖心女子學院出身

孫　鏡　大六、九生、長男操一長女

孫　華子　大八、五生、長男操一二女

君は東京府人板倉平兵衛の長男にして明治元年四月二十三日を以て生れ同四十一年家督を相續す同二十一年帝國大學法學部を卒業し同年判事に任じ甲府地方裁判所判事に補せられ爾來商橋地方京橋區麹町區東京地方各裁判所判事千葉東京各地方裁判所部長東京控訴院判事兼檢事控訴院判事同部長大阪控訴院部長東京控訴院檢事大審院判事同檢事會計監査官懲戒裁判所豫備檢察官大審院部長等に歷補したるが其後退官現時著述家たり君に大正五年法學博士の學位を受け同八年支那政府の招聘に應じ同國に赴き同十一年任務終了歸朝せり家族は尙孫大象（大一二、一生、長男操一長男）同淳（同一四、六生、同二男）同慶三（同一五、三生、同三男）同茂子（昭二、二生、同三女）同綾子（同七、一生、三男駿長女）同清（同九、二生、同長男）あり長女錦子（明二六、一生）は靜岡縣人田代英作弟工學士訂に二女梅子（同三五、一生）は東京府人海軍少佐鈴木光信に三女妙子（同三八、五生、聖心女子學院出身）は千葉縣人子安豊に養子綾子（同四五、二生、千葉、鴻巣幸太郎庶子）は山梨縣人倉本統一に各嫁し四男泰（同三二、一生）は同妻さい（同三九、一生、長野、大竹治吉三女）と共に其三子を伴ひ分家せりA一六五（東京市品川區上大崎一ノ八〇四電高輪一五八八）

板倉道

こはぜ釦商、東京府在籍

母　きく　明二一、三生、東京、森川啓太郎養子

君は東京府人板倉市次郎の長女にして明治四十四年十

一月十八日を以て生れ昭和七年家督を相續すこはぜ卸商を營む（東京市日本橋區大傳馬町三ノ一ノ三☎浪花五七三〇）

板倉安兵衛　東京商工會議所議員、商業部副部長、平尾贊平商店㈱專務取締役　東京府在籍

母　コウ　慶應三、五生、東京、平尾贊平姉
妻　鐵子　明二九、九生、靜岡、佐藤九平治妹
男　孝男　大一三、一生
女　喜努子　大七、一生

君は靜岡縣人先代安兵衛の長男にして明治十九年二月十五日を以て生れ同二十一年家督を相續し前名隆太郎を改め襲名す同四十二年東京高等商業學校を同四十四年同校專攻部を卒業し現時株式會社平尾贊平商店專務取締役にして曩に日本興業銀行日本橋支店支配人たりし事あり家族は尙二女よし（大九、三生）三女てい（同一一、二生）四女滿喜（昭二、九生）二男安男（同六、一生）あり弟賢二郎（明二〇、一〇生）は分家せりA四一九（東京市小石川區原町一六☎大塚五五二三）
參照＝平尾贊平※平尾喜三郎※平尾贊之輔の項

板倉保次郎　海產物商　大阪府在籍

母　ふさ　萬延元、一生、祖父清平長女
妻　みつ　明二一、一二生、京都、板倉直次郎長女
男　清保　大三、一一生
女　俊子　明四四、一〇生

君は大阪府人板倉清次郎の二男にして明治十七年十月十五日を以て生れ大正十五年家督を相續す海產物商を營む家族は尙二男總一郎（大一一、九生）ありA四二一（大阪市西區靱中通二ノ一八☎土佐堀三〇三）

板倉理四郎　島根縣多額納稅者、農業　島根縣在籍

繼母　トシ　文久三、七生、島根、士、廣瀨玄銀妹
妻　テツ　明四、一一生、島根、坂本捨次郎長女
男　孝男　明二二、七生
婦　サク　明二五、三生、長男孝男妻、島根黒田ラン孫
男　周吉　明三一、五生
女　律子　明四五、二生

君は島根縣人板倉佐治郎の三男にして明治四年八月を以て生れ先代七次郎の養子となり同四十四年家督を相續す曩に雲陽實業銀行監査役たりし事あり直接國稅八百三十四圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙孫幸雄（大四、一生、長男孝男二男）同哲雄（同六、七生、同三男）同貞行（同一四、六生、同五男）同房子（昭四、八生、同長女）あり長女アキ（明二七、一一生）は島根縣人板倉白に三女千代子（同四一、一二生）は分家養弟隆次郎に嫁し三男季吉（同三四、四生）は同縣人內藤龜三郎の養子となり養弟隆次郎（同四一、四生）は分家せり（島根縣簸川郡鹽冶村）

板津七三郎　醫師　岐阜縣在籍

妻　マス　文久三、一〇生、佐賀、士、高岸マツヨ母
養子　饒　明三〇、三生、長女淸子夫、新潟高野仁作孫、醫學博士
女　淸子　明三七、二生、養子饒妻

君は岐阜縣人板津卯右衛門の二男にして慶應二年七月三日を以て生れ先代嘉藤治の養子となり明治六年家督を相續す同二十一年愛知醫學專門學校を卒業し醫師たり家族は尙孫由基鄕（大一一、一生、養子饒長男）同博之（同一二、三生、同二男）同美佐子（同一五、三生、同長女）同紀美子（昭二、九生、同二女）ありA三一一（名古屋市中區役割町九☎本局一四〇八）

板野孝一　正五位勳四等、朝鮮總督府檢事、大邱覆審法院檢事、兵庫縣在籍

妻　しう　明二三、四生、京都、服部直次郎長女
男　一郎　明四四、一生
女　正枝　大二、三生
女　藤枝　大四、一〇生

君は兵庫縣人板野祖光の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十五年判事に任じ大阪地方兼同區各裁判所判事を經て大正二年朝鮮總督府檢事に轉じ爾來釜山地方法院馬山支廳平壤地方法院同鎭南浦支廳咸興地方法院海州地方法院各檢事淸津地方法院檢事正に歷補し昭和七年現職に轉ず家族は尙二男孝（大九、三生）三女久枝（同一二、一生）三男三郎（同一五、四生）あり（大邱府三笠町大邱覆審法院官舍）

板野友造　衆議院議員（大阪府選出）、辯護士　岡山縣在籍

妻　むめ　明一八、四生、大阪、辻村共之三女

君は岡山縣人板野金治郎の長男にして明治七年五月十八日を以て生れ大正元年家督を相續す明治二十九年關西大學を卒業後明治大學に學び同三十四年判檢事登用試驗に合格して司法官試補に任ぜられ後辯護士となる曩に大阪市會議員同副議長に擧げられ又勞働保險調査會委員國有財產調査會委員被仰付大阪府より衆議院議員に當選すること四回現に其任に在りて立憲政友會に屬す弟春藏（明一六、三生）は同妻春野（同一六、五生、岡山、中山猪三郎妹）と共に分家せりA一九六（大阪市西區江戶堀南通四ノ二二☎土佐堀二二五五）

板野元三　天滿紡績㈱監查役　大阪府在籍

妻　はるゑ　明一五、二生、大阪、士、磯田撲夫長女、堂島高女出身
男　襄太郎　明三四、一〇生、萬年社々員
婦　照子　明四〇、三生、長男襄太郎妻、愛媛、富田榮太郎長女、大洲高女出身
男　敏朗　明三七、三生、關西學院高等科文學部出身
男　通三　明四〇、三生、三越大阪支店員、法學士
女　長江　明四二、三生、プール高女出身

君は兵庫縣士族板野市次の三男にして明治七年十一月二十日を以て生れ同三十四年兄慶三郎方より分れて一家を創立す現時前記天滿紡績會社監査役たり曩に南北綿業會社監査役東洋棉花會社囑託たりしことあり曾て棉花視察の爲め支那佛領印度竝に印度等を旅行せり趣味として園藝を愛好し附近に農園を經營す（大阪府南

河內郡藤井寺岡六三七ノ二二☎藤井寺五九）

板橋金之助　農產種商　東京府在籍

母　たき　明八、一一生、東京、沼野繼之助養妹
妻　うめ　明三五、九生、東京、飯田福次郎三女
男　金藏　昭三、四生

君は東京府人板橋常吉の長男にして明治三十三年五月二十日を以て生る昭和六年先代祖父文吉の後を承け家督を相續し農產種商を營む家族は尙妹いと（明三九、八生）同まつ（同四二、八生）弟壽太郎（同四四、八生）あり（東京市板橋區志村清水町一六六☎板橋一〇五）

板橋權右衛門　種苗商　東京府在籍

妻　たき　明九、二生、小林政吉長女
養子　芳造　明一七、三生、亡父權右衛門四男　現戶主、板橋區會議員
孫　藤一郎　明四三、六生、養子芳造長男
孫　千代子　大四、三生、養子芳造長女

君は東京府人先代權右衛門の長男にして明治三年十一月二十三日を以て生れ明治三十一年家督を相續し前名を改め襲名す同四十年弟芳造を養子となし家督を讓り退隱す種苗商を營む家族は尙孫直次郎（大六、一生、養子芳造三男）同豐子（同九、一二生、同二女）同利次（同一四、一一生、同四男）弟良玄（明一一、三生）及其子好文（大八、二生）ありA四二七（東京市板橋區志村清水町一五七）

板原兵三郎　商業興信所㈱取締役兼神戶支所長　南海遊園㈱取締役、大阪府在籍

妻　なをゑ　明七、一一生、和歌山、山本九十郎長女
男　利秋　明三五、一一生、三井銀行外國營業部大阪支店勤務、法學士
婦　德江　明三九、六生、長男利秋妻、京都鳥居規知二女

君は和歌山縣士族板原兵作の六男にして明治五年十月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同二十七年同志社大學を卒業し同三十八年渡米重要都市の信用告知業を視察研究す現時前記會社の重役にして曩に門司商工會議所會頭同市會議員商業興信所門司支所長たり家族は尙孫正子（大一五、一生、長男利秋長女）同光子（昭三、一生、同二女）ありA三六〇（大阪府豐能郡箕面村櫻井☎櫻井六一）

板部成雄　正五位勳五等、遞信局技師、名古屋遞信局海事部長、佐賀縣在籍

妻　武子　明三一、三生、福島、持地六三郎二女
男　照雄　大一〇、八生

君は佐賀縣人板野六郎の四男にして明治二十一年十一月九日を以て生れ大正五年兄有次郎方より分れて一家を創立す同四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し遞信局技手を經て同技師兼遞信技師に任ぜられ歐米各國に出張す同十三年遞信技師兼遞信局技師に任じ昭和二年管船局船舶試驗所勤務を經て同六年日本大學講師を囑託せられ現時名古屋遞信局海事部長たり家族は尙二男資之（大一二、五生）長女祿子（昭三、七生）あり（名古屋市東區田代町月見坂一〇一☎東一九〇〇）

板谷五郎左衛門　秋田縣多額納稅者、仙北新報社㈱監査役、仙北家禽協會會長、大日本武德會秋田縣支部仙北支所々長、日本度量衡協會秋田縣支部參事、大曲信用組合理事長、農業、商業　秋田縣在籍

母　ウタ　明一六、九生、秋田、藤澤嘉兵衛妹
妻　勝女　明三八、五生、秋田、寺田隆造二女
男　正一　大一四、九生

君は秋田縣人先代五郎左衛門の長男にして明治三十三年三月を以て生れ昭和八年家督を相續し前名孝之助を改め襲名す農及び商を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅二千七百六十五圓を納む現時仙北新報社監査役たる外前掲の各要職にあり家族は尙二男昭二（昭二、五生）長女敏（同四、一生）弟理助（明三五、一生）あり（秋田縣仙北郡大曲町☎一五）
參照＝※香澤源一郎の項

板谷順助　正五位、衆議院議員（北海道選出）　北海道在籍

妻　イク　明一五、二生、貴族院議員板谷宮吉姉
女　榮子　大五、九生、駿河臺女學院在學

君は新潟縣人山田重次郎の從弟にして明治十年三月を以て生れ板谷宮吉の養子となり同四十一年分れて一家を創立す夙に慶應義塾に學び後實業界に入り小樽板谷合名會社員板谷商船會社常務取締役となり海運海陸產物醬油釀造農牧畜倉庫銀行木材業等を營む又小樽商工會議所議員北海道農友會々頭大日本蠶糸會北海道支會副會長たる外板谷商船樺太銀行橫濱生命小樽取引所渡島海岸鐵道洞爺湖電氣鐵道沙流軌道沙流電氣勇拂電燈南洋郵船中央開發各會社の重役に就任し郷黨より推され衆議院議員に當選すること四回現に立憲政友會に屬し齋藤內閣成立と共に鐵道參與官に任ぜられ米穀調査會委員國際觀光委員會委員仰付らる昭和九年七月齋藤內閣桂冠と共に職を辭し現時前記板谷商船渡島海岸鐵道勇拂電燈南洋郵船洞爺湖電氣鐵道樺太銀行等各會社の重役たり（小樽市花園町西一ノ一一☎一一七「別宅」東京市麻布區西町二三☎高輪五五五二）
參照＝板谷宮吉※猪俣安造の項

板谷宮吉　從六位、貴族院議員、小樽名譽市長、北海道多額納稅者、北門貯蓄銀行、樺太銀行各㈱頭取、板谷商船㈱社長、南洋郵船、北海水力電氣各㈱取締役、尾張時計㈱監查役　海運業、北海道在籍

祖母　モセ　弘化元、七生、新潟、加藤庄次郎長女
妻　イト　明二八、一一生、新潟、內藤善太郎長女
男　眞滿　大一四、七生

君は北海道人先代宮吉の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名眞吉を改め襲名す明治四十二年早稻田大學商學部を卒業し海運業を營み傍ら北門貯蓄銀行頭取たる外前記諸會社の重役にして小樽市名譽市長たり直接國稅四萬五百六十五圓を納め北海道多額納稅者に列し推されて貴族院議員たること二回にして北部日本有數の富豪として知らる昭和二年紺綬褒章を授與せらる姉イク（明一五、二生）は其夫順助（同一〇、三生）と共に分家し妹たつ（同二〇、五

生)は北海道人猪俣安造に嫁せり(小樽市東雲町六二電園一一六「別宅」東京市麹町區富士見町二ノ四電九段二〇四〇)
參照=板谷順助、猪俣安造の項

到津公熈　正三位、勳六等、男爵　社家
妻　貞子　明一二、一二生、子爵九鬼隆治姉　京都府立第三高女出身
女　友子　明四三、一〇生
女　喜久子　大五、八生

當家は高魂尊三代の孫宇佐國造菟狹津彦命の後胤宇佐大宮司武雄の裔大宮司宮成公世の三男大宮司公連の後なり元弘三年公連別に一家を建て豐前國企救郡到津庄に居城したるを以て到津と稱す代々宇佐宮の神職として二十一代を經て先代公誼に至り明治五年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は公誼の二男にして明治二年八月を以て生れ米良石操に漢籍を學び學習院に普通學を修む同三十四年襲爵被仰付父の後を享け官幣大社宇佐神宮々司に任ぜられしも現時閑地にあり三女信子(大二、四生)は大分縣人松本博に妹榮子(明六、一〇生)は同縣人松本茂に嫁し弟男士(明五、八生)は男爵宮成公德の死跡を相續し公勳と改名す(大分縣宇佐町南宇佐四四六電二)
參照=子爵九鬼隆治の項

一井源吉　大分縣多額納税者、大分縣農工銀行、國東鐵道各㈱監査役、青莚商　大分縣在籍
妻　シツノ　明九、一〇生、大分、一井辰治郎二女
男　武八　明二七、四生
婦　スキ　明三四、六生、長男武八妻、鹿兒島、坂元常太郎妹
男　妙七　明三六、一二生
婦　ハル子　明三九、三生、四男妙七妻、大分　後藤文吉三女
男　卓雄　明四三、九生
男　周一　大元、一一生
女　スミ子　大六、五生

君は大分縣人一井壽人の二男にして明治七年五月二十五日を以て生れ同二十一年兄德太郎の死跡を相續す青莚商を營む傍ら前記銀行會社の重役に擧げられ大分縣多額納税者にして直接國税千三百十三圓を納む家族は尚七男文雄(大四、三生)孫源市郎(同一〇、一一生、長男武八長男)同美代子(同一三、一生、同長女)同みどり(昭二、四生、同二女)同あつ子(同四、八生、同三女)あり三男孫治(明三四、一〇生)は同妻アサコ(同四一、七生、大分、戶倉直次郎二女)を伴ひ分家し四女サク(同三九、四生)は大分縣人後藤精一に嫁せり(大分縣東國東郡富來町電二一)

一居源治郎　近江ヴエルベット㈱社長　滋賀縣在籍
妻　きく　明一八、六生、滋賀、名內幸次郎長女
男　健一　大五、三生
養子　捨三　大二、三生、滋賀、一居伊三郎九男

君は滋賀縣人一居源三郎の二男にして明治六年三月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す現時近江ヴエルベット會社長たり(滋賀縣坂田郡北鄉里村)

一木喜德郎　正二位勳一等、男爵、法學博士、樞密院議長、議定官、帝國學士院會員、帝室經濟顧問、靜岡縣華族
妻　さへ　明四、七生、養父喜三司長女
男　輌太郎　明二七、二生、從五位勳六等、東京地方裁判所檢事、法學士
婦　靜子　明三四、三生、長男輌太郎妻、愛知、吹原弦彥姉
男　隈二郎　明三〇、一一生、東京美術學校出身
婦　ミドリ　明三四、六生、二男隈二郎妻、仙臺市長澁谷德三郎五女、御茶の水高女出身
男　宣四郎　明四〇、五生
女　徽子　明四一、一二生

君は舊遠州掛川岡田良一郎の二男にして故樞密顧問官岡田良平の弟竹山純平の兄なり慶應三年四月四日を以て生れ先代喜三司の養子となり明治二十二年家督を相續す同二十年帝國大學法科大學政治科を卒業し同二十三年內務書記官に任ぜらる此年休職自費を以て獨逸に留學し同二十六年歸朝復職す翌年法科大學教授に轉任し爾來兼內務書記官兼內務參事官內務參與官等に歷任し同三十二年法學博士の學位を受く同三十三年貴族院議員に勅選せられ同三十五年法制局長官兼恩給局長に任じ大學教授を兼ぬ同四十一年內務次官に任ぜられ大正三年大隈內閣の組織せらるゝや入りて文部大臣となり更に內務大臣に轉ず同六年樞密顧問官に親任せられ樞密院副議長となり宮內省御用掛たりしが大正十四年三月宮內大臣に轉ず重職に在る事多年昭和八年二月之を辭するや特に前官の禮遇を賜り同年特旨を以て華族に列し男爵を授けられ昭和九年五月樞密院議長の顯職に就き次で議定官に補せられ今日に至る帝國學士院會員帝室經濟顧問大日本報德社々長たり家族は尚孫允(昭四、八生、長男輌太郎長男)同友子(同六、五生、同長女)同楠子(大一三、二生、二男隈二郎長女)あり二女シク(明三六、二生、跡見女學校出身)は靜岡縣士族高橋錬に三女家子(同三八、一生、出身校同上)は前貴族院議員尾崎元次郎長男孝一に嫁し三男章三郎(同三三、九生)は醫學博士杉村七太郎の養子となれりA三五二(東京市本鄉區駒込曙町二六電大塚五二五〇)
參照=尾崎元次郎、澁谷德三郎、杉村七太郎、高橋錬、竹山純平の項

一木儀一　正四位勳二等功四級、陸軍軍醫總監、宮崎縣士族
妻　敏子　明一六、二生、神奈川、森久保逸平二女
男　次郎　大元、八生
女　秋子　明四一、一一生

君は宮崎縣士族一木琢二の長男にして明治七年六月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學醫科大學を卒業し同年陸軍二等軍醫に任じ大正十五年陸軍々醫監に累進す其間日露日獨兩戰役に出征し第十六及第十八師團軍醫部々員京都衞戍病院長第十九師團軍醫部長第二師團軍醫部長大阪衞戍病院長第四師團軍醫部長等に歷任し昭和三年陸軍々醫學校長に補せられ同七年軍醫總監に進み四月待命次で豫備役被仰付正四位に敍せらる家族は尚弟吉利(明一三、一二生)同妻まつ(同二三、四生、宮崎、森新太郎妹)及其子女あり長女勝子(同三八、一一生)は兵庫縣人相原安太郎養子信に嫁せり(東京市目黑區自由ケ丘二二八電荏原四一

一三)

一木保太郎　遠州屋、雜穀商　東京府在籍
父　彌三郎　嘉永四、四生
妻　きよ　明三〇、一一生、東京、泉田鎌吉長女
男　保　大六、三生

君は東京府人一木彌三郎の長男にして明治二十三年二月六日を以て生れ昭和六年家督を相續す遠州屋と稱し雜穀商を營む家族は尚二男二郎(大九、三生)長女倭子(同一五、一一生)ありA一一二五B二二八(東京市日本橋區本町二ノ二ノ五電浪花一五六五)

一色信一　日本興業銀行㈱參事、調査課長　愛媛縣在籍
父　耕平　安政六、五生、現戶主
妻　タヾ　明二二、八生、岐阜、士、日比房雄姉
男　洋一　明四三、三生
男　達二　明四四、一〇生

君は愛媛縣人一色耕平の長男にして明治十三年七月を以て生る同四十年慶應義塾法律科を卒業し現時日本興業銀行參事にして調査課長たり家族は尚二女菅子(大一二、一一生)三男耕三(昭二、三生)弟友正(明二九、三生)同妻アヤノ(同三五、三生、愛媛、白石貞治長女)及其子女の外弟丈太郎(同三二、三生)同妻貞(同三八、九生、滋賀、林弘造二女)あり妹カネ(同一六、三生)は愛媛縣人阿部筆一に同富子(同三四、二生)は香川縣人櫛橋雅雄に同操(同三八、二生)は愛媛縣人渡邊豐弘に嫁し弟圭介(同二二、四生)同妻ナカ(同三四、三生、愛媛、兪頭虎次郎長女)は共に其の一男一女を伴ひ分家せりA一七六(東京市大森區鵜ノ木町五六三電田園調布九二九)

一色忠雄　一色活版所㈾監査役　東京府士族
男　秀雄　明三二、五生
婦　彌代　明三六、七生、長男秀雄妻、鳥取、津田信之妹
男　敬三　大三、一一生

君は舊鳥取藩士一色忠秀の二男にして慶應元年五月八日を以て生れ明治十四年家督を相續し前名豹三郎を改む嘗て米國に留學す現時一色活版所監査役にして曩に日本寫眞工業寫美書院各會社の重役たりしことあり家族は尚孫和子(大一五、四生、長男秀雄長女)同忠昭(昭二、一一生、同長男)同俊次(同四、一二生、同二男)あり三男政秀(明四三、六生)は一色曜雄の死跡を相續し二女保子(同四一、七生)同夫熊雄(同三四、一〇生、栃木、宮原義壽弟)は其一子を伴ひ分家せり(東京市澁谷區原宿二ノ一九六電青山一二五四)

一色虎兒　价川鑛道㈱取締役會長、輪西製鐵㈱常務取締役、東京府在籍
妻　ゆり　明二一、五生、靜岡、渡邊壽太郎二女

君は東京府士族一色梅吉の弟にして明治八年十一月十一日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す曩に三井物產會社機械部長代理兼總務係主任を經て日本製鋼所に入り工場次長となり現時前記各會社の重役たり家族は尚義子(昭三、三生)ありA三八三(東京市世田谷區經堂町三九六電世田谷三一七七)

一條實孝　從三位勳三等功五級、公爵、海軍大佐、貴族院議員、舊公卿家
養母　悅子　明一〇、九生、侯爵細川護立姉
妻　經子　明一八、九生、養父實輝二女、女子學習院出身
男　實文　大六、八生、學習院在學

當家は內大臣藤原鎌足十九世の孫攝政關白道家の三男關白左大臣實經より出づ實經第を一條に構へ故を以て一條と稱す五攝家の一たり後內基に至り嗣子なく後陽成院第九の皇子昭良を請ふて家を繼がしむ先代實輝は四條家より入りて當家を繼ぎ明治十七年公爵を授けらる海軍に入り累進して海軍大佐に陞る後東宮侍從長皇后宮大夫宮中顧問官宗秩寮審議官明治神宮々司等に任ぜらる君其後を享く君實は侯爵大炊御門經輝の從兄にして明治十三年三月十五日を以て生れ先代實輝の養子となり大正十三年家督を相續し襲爵す夙に海軍に入り日獨戰役に從軍して殊勳あり功五級金鵄勳章を授けられ又世界大戰に際しては軍令部參謀第三艦隊參謀の要職に在り功を以て勳三等に敍せらる大正八年海軍大佐に任ぜられ翌九年佛國留學を命ぜらる次で在佛帝國大使館附武官に補せられ同十三年豫備役に編入せらる現時貴族院議員にして火曜會に屬す現に國際觀光委員會委員にして昭和三年貴族院を代表して巴里開催萬國議院商事會議に參列す曩に　大正天皇御崩御に付大喪使祭官長被仰付家族は尚養妹智光(明四〇、一〇生、子爵小倉義季妹信州善光寺大本願副上人)あり妹朝子(同三五、六生)は伏見宮博義王殿下に同直子(同四一、一一生)は閑院宮春仁王殿下に各妃とならせられ長女正子(同四三、三生、女子學習院出身)は男爵三井壽太郎長男高陽に二女重子(同四四、三生、出身校同上)は子爵鍋島直庸長男直浩に養姉信子(同一二、四生、侯爵醍醐忠重姉)は故子爵水野忠亮に養妹靜子(同二〇、七生、同上)は男爵木邊孝慈に同圭子(同四四、一一生)は子爵鍋島直和長男直方に同生子(生年月同上)は男爵伊達宗克に嫁し養弟實基(同三四、一生)は男爵を授けられ分家し同實光(同三九、五生)は伯爵佐野常羽の養子となり常光と改名し同實英(同四〇、九生)も亦伯爵南部利淳の養子となり利英と改名し當主たりA一四六八(東京市牛込區市谷鷹匠町一電牛込一〇四)
參照=伏見宮家、閑院宮家、侯爵大炊御門經輝、侯爵醍醐忠重、侯爵細川護立、伯爵佐野常羽、伯爵南部利英、子爵小倉義季、子爵鍋島直和、子爵鍋島直庸、男爵伊達宗克、男爵三井壽太郎、男爵一條實基、男爵木邊孝慈※子爵石山基弘※子爵長岡護孝※男爵北大路實信※男爵鶴殿家勝※慶光院利敬の項

一條實基　從四位、男爵　一條公爵家分家
妻　テス　明三三、八生、英國、ジエコブ、スネヤ長女、ブラヤース・フイールド女學校出身

君は公爵一條實孝先代實輝の長男伯爵南部利英の兄にして明治三十四年一月二日を以て生れ同三十五年一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる大正九年五月渡英翌年再渡英バーミングハム大學經濟科を了へ同十四年歸國翌年再渡英肖像寫眞術研究に從ひ昭和八年五月歸朝同年十二月英國王立寫眞協會特別會員に推され高級肖像寫眞紹介を目ざし同九年一條寫眞場を開設すゴル

フ旅行等に趣味を有すA一三一（東京市麻布區新龍土町一二**電青山二二七三**）
参照＝公爵一條實孝、伯爵南部利英※伏見宮家※閑院宮家※伯爵佐野常羽※男爵木邊孝慈の項

一瀬一二　衆議院議員（埼玉縣選出）
　　農本縣在籍
母　チジ　安政六、二生、北川壽三郎長女
妻　むめ　明一八、七生、埼玉、中島繼次郎二女
男　信一　明四一、八生、商科出身、盛岡市會議員、盛岡商工會議所議員、盛岡瓦斯株式會社取締役、岩手縣多額納稅者、岩手縣各種取締役、岩手縣無盡會社監査役、岩手縣教育會監事
女　貞子　大二、一〇生、香蘭女學校出身
女　嘉子　大六、一生、三田高女出身

君は熊本縣人一瀬彦四郎の長男にして明治十四年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す夙に明治大學を卒へ發國民新聞社長德富蘇峰の門下たる事數年後獨立して大日本新聞社を經營す曩に財團法人青山會館常任相談役ベツカ商會顧問外二三會社の囑託たり衆議院議員に當選すること二回立憲政友會に屬す（東京市芝區白金三光町八八**電高輪五六三七**）

一ノ倉則文　盛岡市會議員、盛岡商工會議所議員、岩手縣多額納稅者、盛岡瓦斯株式會社取締役、岩手縣各種取締役、岩手縣無盡會社監査役、岩手縣教育會監事
妻　ユキ　明二八、八生、岩手、堀合卓爾七女
男　靖雄　大四、五生
女　タカ　大六、四生

君は岩手縣士族一ノ倉貫一の孫にして明治二十四年十一月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す大正二年盛岡高等農林學校を卒業し現時盛岡瓦斯岩手林業各會社取締役たる外前記會社の重役を兼ね岩手縣多額納稅者に列し直接國稅六百四圓を納む昭和四年盛岡市會議員に當選同八年四月再選す又推されて盛岡商工會議所議員にして岩手縣教育會監事に擧げられ曩に盛岡興信會社監査役たり家族は尙二男克雄（大九、一生）庶子榮（昭五、一生、生母、岩手、山形ミツ）あり（盛岡市新庄町第八地割田中三六**電五五九**）

一戸二郎　正五位勳四等、愛媛縣知事
　　東京府在籍
妻　和佐子　明三四、八生、靜岡、竹山純平長女、御茶の水高女出身
男　健司　大一二、二生

君は東京府人西大助の二男にして明治二十七年一月二十日を以て生れ同三十年一戸氏を再興す大正六年京都帝國大學法科大學政治經濟學科を卒業し文官高等試驗に合格爾來臨時産業調査局事務官兼農商務大臣秘書官製絲所副參事農商務事務官農商務書記官社會局事務官同書記官臺灣總督府事務官兼臺灣總督秘書官等に歷任し岐阜縣書記官學務部長社會局書記官勞働部勞政課長を經て昭和七年愛媛縣知事に任ぜらる尙大正九年より同十一年迄歐米各國に出張し昭和六年第十五回國際勞働會議帝國政府代表顧問を命ぜられ渡歐す家族は尙長女美枝子（大一〇、三生）二女小枝子（同一五、三生）あり（松山市出淵町官舍**電三八**）
参照＝竹山純平の項

一戸三矢　從七位勳八等、盛岡市會議員、盛岡瓦斯、九戸水力電氣各種代表取締役、盛岡電燈、花卷温泉電氣鐵道、花卷温泉各種取締役、大洋製氷種取締役、岩手縣士族
妻　ムラ　明九、七生、山内英造長女
男　二郎　明三七、一生、營繕管財局勤務、早稻田大學理工科建築學科出身
男　三平　明四二、一生、日本大學土木科在學
女　美代　大五、五生、盛岡高女出身

君は岩手縣士族興津吉乘の三男にして慶應三年八月を以て生れ明治十三年一戸家の養子となり同年家督を相續す岩手縣技手同技師等に歷任大正七年退職現時盛岡瓦斯水力電氣各會社代表取締役たる外前記諸會社の重役たり專ら盛岡市會副議長たり事あり趣味とする囲碁は初段の技を有す家族は尙六女ミネ（大一〇、二生）あり二女ミヤ（明三〇、一〇生）は盛岡電燈會社技師長故日野杉耕造の未亡人にして三女三重（同三九、一〇生）は縣立水澤農學校教諭農學士奈須川育に嫁し四男正三（大三、一生）は母の實家山内賀野小路一六**電一一五三**）

一戸隆次郎　從四位勳五等、第三高等學校教授
　　岩手縣在籍
妻　信　明二四、四生、岩手、太田孝太郎妹
男　亮一　大六、一二生、同志社中學在學
女　國　大二、一〇生、奈良女高師在學

君は岩手縣人一戸金六の二男にして明治十一年六月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十年京都帝國大學理工科大學物理學科を卒業し同四十五年第三高等學校教授に任じ今日に至る家族は尙二男亮一（大一〇、三生）二女民（同一四、九生）あり（京都市左京區吉田上大路町三四）

一宮銀生　大日本鹽業種專務取締役、同志賀易種取締役、東京府在籍
妻　てい　明三〇、一〇生、神奈川、井田清三三女
男　榮一郎　大一〇、九生

君は東京府士族一宮忠雄の四男にして明治十七年二月を以て生れ大正十三年兄鈴太郎方より分れて一家を創立す現時大日本鹽業會社專務取締役にして前記會社の重役たり曩に東洋冷藏會社取締役たりしことあり家族は尙長女慶子（大九、四生）二女せつ子（昭二、五生）あり A四五一〇（東京市澁谷區穩田三ノ一七一**電青山四七一〇**）
参照＝井田清三、一宮鈴太郎の項

一宮鈴太郎　横濱正金銀行種取締役
　　東京府士族
妻　みさを　大六、一一生、東京、工藤常義妹
養子　鈴子

君は東京府士族一宮忠雄の長男同銀生の兄にして明治三年一月十七日を以て生れ同四十四年家督を相續す夙に獨逸學協會學校に學び實業界に入り横濱正金銀行副頭取となり横濱商工會議所議員に擧げらる現時同行取締役の職にあり家族に弟余五郎（明二一、二生）同妻喜代（同二九、五生、東京、田原利長女）あり妹けい（同一九、八生）は東京府人工藤金三郎に嫁せり A六三四（東京市杉並區阿佐谷六ノ二三〇**電四谷四四七三**）
参照＝一宮銀生、工藤金三郎の項

一宮房次郎　正五位、勳四等、勲五等、共濟火災保險各種役員、取締役、野上工業所種監査役、東亞同文會理事、大分縣在籍
妻　サヨ　明二〇、八生、大分、廣岡利勝二女
男　虎雄　明四二、一〇生
女　小夜子　大二、五生
女　芳子　大八、八生

君は大分縣人一宮彌三郎の五男にして明治十七年九月を以て生れ同四十一年明大三部方より分れて一家を創立す上海東亞同文書院出身にして漢字新聞北京順天時報記者外務省囑託大阪朝日新聞記者盛京時報社長となり大正十一年農商務大臣祕書官に任ぜられ大臣官房祕書課長となる昭和五年內務參與官となり衆議院議員に擧げらるゝ事前後四回に及ぶ現時前記諸會社の重役にして東亞同文會理事を兼ぬ曩に大分日々新聞社長たりし事あり家族は尙三男三郎（大一二、四生）あり二男健次（同六、四生）は廣岡家を繼げり A一一〇（東京市澁谷區青葉町二一**電青山三四〇〇**）

一本文藏　加田屋、瓦商
　　東京府在籍
母　とせ　明六、八生、養祖父文藏長女
妻　モト　明三六、二生、神奈川、一本治平養子

君は靜岡縣人島田保作の三男にして明治二十八年十月を以て生れ大正七年先代文藏の養子となり同八年家督相續と共に前名祐吉を改め襲名す加田屋と稱し瓦商を營むA七四六（東京市京橋區濱町一ノ四ノ一**電京橋一五二九**）

一力次郎　宮城縣多額納稅者、河北新報社々長兼營業局長、辯護士
　　宮城縣在籍
母　くまち　明元、七生、宮城、鈴木春山長女
妻　トミ　明三六、一生、群馬、吉田榮治二女
男　一夫　大一四、九生

君は宮城縣人一力健治郎の二男にして明治二十六年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正六年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し辯護士を業とし傍ら父を扶けて河北新報社副社長となり現時同社長兼營業局長にして直接國稅千二百十二圓を納め宮城縣多額納稅者に列す又健治郎は夙に第二高等學校を卒業して明治三十年獨力河北新報を創刊し爾來專念同社の經營に任じ今日の隆昌を見るに至る家族は尙長女美枝子（大二二、九生）弟五郎（明三五、五生、河北新報副社長兼編輯局長、慶大經濟部出身）あり姉なを（同二二、四生）は宮城縣士族佐藤惟馨養子彥輔に同たり（同二四、七生）は京都帝國大學教授菊池秋雄に嫁せり（仙臺市東一番丁**電二六二**）
参照＝菊池秋雄の項

一龍齋貞山　講談師組合頭取、講談師
（桁井長四郎）　東京府在籍
妻　はな　明一八、七生、東京、鈴木慶藏長女
男　富士彌　大九、九生

君は東京府人桁井金次郎の二男にして明治九年十一月二十六日を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に釋界に入り技を練り現時斯界の元老にして講談師組合頭取たり長女君（大三、六生）は東京府人桑賀一長男一郎に嫁せりA五六〇B一〇〇（東京市神田區旅館町三ノ八**電下谷六三三二**）

市居嘉三郎　大阪商工會議所議員、大阪捻染各種社長、宮內モスリン種取締役、大阪染工賓、市居染工場各種代表社員、大阪府在籍
妻　屋須　明六、九生、養父佐七長女
男　嘉一　明三三、一生、大阪染工社員、慶大經濟學部出身
男　誠一　明四〇、三生、長男嘉一妻、大阪馬場三右衛門二女、芙木高女出身
婦　千重子　明三八、一生、宮川モスリン會社士女

君は大阪府人村田平右衛門の二男市居才一同久治の叔父にして明治九年一月十八日を以て生れ同府人市居佐七の養子となり大正二年分れて一家を創立す養兄久吉と協力して市居染工場の發展に努力し世界大戰に際して大いに家產を興す現時商工會議所議員たり昭和三年多年實業に盡せる功勞に依り勲綬褒章を下賜せらる家族は尙孫嘉雄（昭七、一生、長男嘉一長男）同恒雄（同八、三生、同二男）あり長女千代（明三四、八生、梅田高女出身）は兵庫縣人中村彌兵衛長男曠一に嫁し二男綾一（同三五、二〇生、大阪捻染會社員、慶大出身）は分家せり（兵庫縣武庫郡住吉村大藏一四三八**電御影二五五〇**）
参照＝市居久吉、市居久治、市居才一、中村彌兵衛※肥塚源次郎※中村寅吉※松岡潤吉の項

市居久吉　エル、レイ、ボルト株式會社監査役、市居染工場種代表社員、大阪染工賓、大阪府在籍
妻　ゆき　慶應三、五生、大阪、森川彌三郎姉
男　才一　明二六、四生

市居家は百數十年前より大阪に定住し染物商を營み來れる舊家なり君は先代佐七の長男同嘉三郎の養兄にして慶應三年九月二十七日を以て生れ明治三十五年家督を相續す夙に祖業を繼承し毛織物染色加工業を營み現に市居染工場合名會社大阪染工合資會社各代表社員にして前記各會社の重役を兼ぬ昭和二年紺綬褒章を下賜さる養子嘉三郎（明九、一生）は其妻子を伴ひ二男久治（明三四、九生）は各分家し長女サキ（同二四、一生）は大阪府人中村由松三男儀三郎に二女ひさ（同三一、六生）は長崎縣人肥塚源次郎三男儀三郎に嫁せりA二九四三（大阪市東區德井町一ノ四**電東三〇七五**）
参照＝市居嘉三郎、市居久治、市居才一、肥塚源次郎※中村寅吉※村尾重孝の項

市居久治　市居染工場種無限責任社員
　　大阪府在籍
妻　靜江　明四二、二生、大阪、水谷清三郎長女、大阪府立夕陽丘高女出身
男　亮一　大六、一生、同志社中學在學
女　國　大二、一〇生、奈良女高師在學

君は岩手縣人一戸金六の二男にして明治十一年六月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十年京都帝國大學理工科大學物理學科を卒業し同四十五年第三高等學校教授に任じ今日に至る家族は尙二男亮一（大一〇、三生）二女民（同一四、九生）あり（京都市左京區吉田上大路町三四）

一宮銀生　大日本鹽業種專務取締役、同志賀易種取締役、東京府在籍
妻　てい　明三〇、一〇生、神奈川、井田清三三女
男　榮一郎　大一〇、九生

君は東京府士族一宮忠雄の四男にして明治十七年二月を以て生れ大正十三年兄鈴太郎方より分れて一家を創立す現時大日本鹽業會社專務取締役にして前記會社の重役たり曩に東洋冷藏會社取締役たりしことあり家族は尙長女慶子（大九、四生）二女せつ子（昭二、五生）あり A四五一〇（東京市澁谷區穩田三ノ一七一**電青山四七一〇**）
参照＝井田清三、一宮鈴太郎の項

一宮鈴太郎　横濱正金銀行種取締役
　　東京府士族
妻　みさを　大六、一一生、東京、工藤常義妹
養子　鈴子

君は東京府士族一宮忠雄の長男同銀生の兄にして明治三年一月十七日を以て生れ同四十四年家督を相續す夙に獨逸學協會學校に學び實業界に入り横濱正金銀行副頭取となり横濱商工會議所議員に擧げらる現時同行取締役の職にあり家族に弟余五郎（明二一、二生）同妻喜代（同二九、五生、東京、田原利長女）あり妹けい（同一九、八生）は東京府人工藤金三郎に嫁せりA六三四（東京市杉並區阿佐谷六ノ二三〇**電四谷四四七三**）
参照＝一宮銀生、工藤金三郎の項

市居才一

市居染工場(至代表社員、大阪染工寶社員、大阪府在籍

父　久吉　慶應三、九生、現戸主

妻　つや　明三一、一生、大阪、杉本勘七七女、大阪府立夕陽丘高女出身

男　豊治　大六、九生

君は大阪府人市居久吉の長男同久治の兄同憲三郎の養嗣にして明治二十六年四月を以て生る父を扶け市居染工場代表社員にして大阪染工合資會社出資社員たり蘆に大阪捺染宮川モスリン各會社の重役たりしことあり家族は尚三男德藏(大一一、二生)ありA四四一六(大阪市東區德井町一ノ四電東三〇七五)

參照‖市居嘉三郎、市居久吉、市居久治、杉本勘七の項

市浦　健

日本大學教授、成蹊高等女學校教諭、東京府士族

母　米　明一五、三生、岡山、佐藤長次郎四女

妻　英子　明四一、三生、茨城、井村英次郎長女

當家の始祖は戰國時代池田輝政に仕へたる市浦無解に發し爾來岡山藩士として世襲す君は先代新造の二男にして明治三十七年一月二十四日を以て生れ後家督を相續す昭和三年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し現時日本大學教授成蹊高等女學校教諭たり家族は尚弟繁(明四三、九生)同浩(大一一、三生)妹元子(同二、二生)同典子(同四、七生)あり叔父元治(明九、一二生、東京、市浦新造三男)は分家せりA一七一(東京市澁谷區宇田川町五一電青山七六五三)

參照‖井村英次郎の項

市岡萬次郎

正五位勳四等、遞信局技師、名古屋遞信局工務課長、東京府在籍

妻　久耀　明三〇、二生、京都、西澤勝次郎長女

女　和子　大三、一一生

女　靜子　大六、五生

君は東京都府士族大屋文次郎の長男にして明治十八年七月十八日を以て生れ同四十二年母市岡アイの跡を相續す同四十三年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し遞信管理局技手同技師遞信技師歟遞信局技師京都中央電話局長並交換課長仙臺遞信局工務課長臨時電話建設局技術長仙臺廣島各遞信局工務課長等に歷任し昭和八年名古屋遞信局工務課長となる義に大正七年支那に出張を命ぜられ在官の儘支那政府交通部に奉職し同十一年歸朝次で同十三年英米各國に出張を命ぜらる家族は尚三女澄子(大一〇、一〇生)五女公子(同一五、九生)あり(名古屋市東區布池町名古屋遞信局工務課)

市谷惣兵衛

資產家　東京府在籍

母　わか　安政四、一〇生、埼玉、尾崎宇志松長女

妻　かね　明二二、一二生、埼玉、手島丘次郎二女

男　重治　大六、一〇生

女　靜子　明四五、二生

君は東京府人先代惣兵衛の二男にして明治十七年六月を以て生れ同二十一年家督を相續し後前名惣市郎を改め襲名す資產家たり家族は尚姪りう(明三一、八生、養兄寧長女)あり姉はる(同一〇、一生)同夫寧(同七、九生、埼玉、大熊連之助弟)は其四子を伴ひ分家すA六八六、(東京市四谷區片町二電四谷三〇一二)

市川伊三郎

日出土地株式會社長　東京府在籍

妻　やす　明一三、八生、東京、今泉ひさ妹

養子　敏夫　明四四、八生、神奈川、梅村賢三郎三男

君は東京府人市川新次郎の長男にして明治三年十二月八日を以て生る同四十一年家督を相續す現時日出土地會社々長たり妹とよ(明一八、三生)同夫忠吉(同二〇、一〇生、東京、糸居金次郎二男)は其二女を伴ひ分家し養子登美子(明三六、一二生、東京、野尻宗賢養女)は廢家濱田家を再興せりA七一三(東京市淺草區新吉原京町一ノ六電區淺草二六五二)

市川右團治(右之助)

高島屋、歌舞伎俳優　大阪府在籍

妻　ロク　明二一、六生、大阪、吉積定次郎六女

養子　達雄　大八、二生、京都、五百井秋三郎庶子

君は大阪府人三代目市川右團次の長男にして明治十四年三月二十四日を以て生れ大正五年家督を相續す同十九年三月角座に於て伊藤右之助と稱し「先代萩」の三段目の場に太鼓持を勤め初めて舞臺を踏む同四十二年四代目右團治を襲名披露す親讓りのケレン物を得意とし舞踊又關西第一を以て稱せらる當り役は「吉野山」の又五郎狐「操三番」の三番叟「四谷怪談」のお岩と小平「鯉淵ひ」の花若丸と忠賀之助「法界坊」「忠慶」「自雷也」お染久松七役「六歌仙」「忠信」等あり養妹きぬ(明二六、五生、大阪、森下幸助長女)は大阪府人阪東與三郎に嫁せりA九四七(大阪市天王寺區上本町七ノ五二五九電南六一八)

市川猿之助

二代目澤潟屋、歌舞伎俳優　東京府在籍

妻　ハル　明二一、二生、群馬、竹内進姉

男　政則　明四三、一〇生、藝名、市川段四郎

君は東京府人喜熨斗龜次郎(市川段四郎)の長男にして明治二十一年五月十日を以て生れ大正十年家督を相續す明治二十五年九代目團十郎の門に入り同年四月團子と名乘り歌舞伎座に於て「關ケ原」の千代松に扮し初舞臺を踏む同四十二年京華中學校を卒業し早稻田大學文科に籍講生となる翌年十月同座に於て父の段四郎を襲名すると共に父の前名猿之助を襲ひ「桐一葉」の假面の乙女大野主馬之助木村清藏「鎌髭」の俠小藤太等を勤む大正七年歐米劇場を視察して研究し歸朝後市川左團次一座に加はりしも翌八年自ら春秋座を組織し新富座に於て「法成寺物語」等を上演して好評を博す爾來松竹專屬の中堅俳優として新劇に於ける第一人者を以て目せられ又歌舞伎に進境著しきものを認めらる昭和六年因襲と傳統の歌舞伎に慊らずと之に反逆の烽火を擧げ松竹を脫退春秋座旗擧げ興行を敢行す後再ひ松竹に歸り自重今日に至る新劇歌舞伎の外舞踊の名手にして先代花柳壽緒に師事すること多年新舞踊を開拓して他の追隨を許さず當り役には「寂しき人々」の畫家ブラウン「出發前半時間」の僕丁「どん底」のペーンルと錠前屋「博多小女郎浪枕」の字七「法界坊」の

法界坊「村井長庵巧破傘」の長庵久七「今戸心中」美濃屋善吉「鎌髭」の俠藤太「妖靈星」の高時「天下茶屋」の元右衛門「遠山櫻天保日記」の電庵「生田角天夫」「小栗柳」の長兵衛「父歸る」の賢一郎「心中後日譚」の江藤倉田氏「俊寛」の俊寛「ゴースト」のオスワルド「金井博士父子」の金井博士「蠣」其他あり弟優貞(明二九、一一生、藝名八百藏)同妻きく(同三三、四生)は其二子を伴ひ分家し妹喜三子(同三八、一生)は東京府人神邊金太郎に嫁せりA二三六二(東京市京橋區明石町三一電京橋二四三九)

市川方三

醫師　愛知縣在籍

妻　よしを　明三一、一〇生、岐阜、春日善一八女

男　知介　大一〇、九生

君は愛知縣士族小田木代八の二男にして明治二十三年十二月十八日を以て生れ同三十一年家督を相續す大正四年名古屋愛科大學を卒業し醫師たり家族は尚三男方朗(大一四、一一生)長女妙子(昭二、七生)二女朝子(同五、一〇生)弟啓作(明四三、八生)あり父茂作(嘉永五、一生)は母ぎん(明元、一生、愛知、碓岡十郎二女)を伴ひ分家し二男茂夫(大一三、四生)は愛知縣人小田木ぎんの養子となれりA一〇〇四(名古屋市東區平田町二九電東一〇六七)

市川鎌太郎

洋服商　東京府在籍

妻　ハナ　明一七、一一生、東京、矢崎しか幾母

男　正一　明四〇、五生

婿　駒喜　明四四、一二生、長男正一妻、神奈川、内海三次郎長女

女　美代子　大四、一二生、實踐女學校專攻科出身

君は東京府人市川榮吉の長男にして明治十七年七月八日を以て生れ昭和四年家督を相續す洋服商を營む家族は尚孫博保(昭八、八生、長男正一長男)あり長女田鶴子(明四五、一生、府立第八高女出身)は東京府人今井宏に嫁せりA五六二(東京市品川區北品川一ノ一〇〇電高輪一二八〇)

市川龜吉

玉川屋、薪炭商　靜岡縣在籍

妻　梅　明二一、一二生、養父長太郎長女

男　幸三郎　大九、八生

女　稻子　明四四、五生

大七、三生

君は神奈川縣人田口德次郎の長男にして明治八年一月十日を以て生れ同三十七年先代梅の入夫となり家督を相續す玉川屋と稱し薪炭商を營む家族は尚男龜男(大一三、八生)あり叔父元治(明九、一二生、東京、今泉ひさ弟)同浩(大一一、三生)妹元子(同二、二生)同典子(同四、七生)あり叔父元治(明九、一二生、東京、市浦新造三男)は分家せりA一二三六二(東京市京橋區明石町三一電京橋九段八〇四)

市川喜七

市川商店(株式會社)社長、文房具品輸出入商、東京府在籍

妻　ロク　明一七、一〇生、東京、山内定矩二女

男　君江　明四〇、四生、東京、石井武男長女

男　好邦　昭八、四生

君は東京府人先代喜七の四男にして明治三十四年十一月三十日を以て生れ大正十一年家督を相續し前名又四郎を改め襲名す株式會社市川商店と稱し文房具直輸出入商を營み現に同社々長たり家族は尚妹梅(明四四、一生)同信子(大一〇、八生)あり同りう(明三八、一〇生、跡見女學校出身)は東京府人小溝由太郎長男英一に同鶴(同四二、三生、東京女學館出身)は同府人結城四郎次に嫁せりA一一六九(東京市日本橋區本町三ノ九ノ五電日本橋五二二)

參照‖淡小野寺重太郎の項

市川喜太郎

神奈川縣多額納稅者、呉服商　神奈川縣在籍

妻　たき　明八、二生、辰巳交次二女

男　喜一　明四〇、五生

女　ハナ　明三八、四生

男　貞吉　明四一、九生

女　ヤエ　明四四、八生

君は滋賀縣人先代やすの養子にして明治元年十月十八日を以て生れ同十七年家督を相續す呉服商を營み神奈川縣多額納稅者にして直接國稅一千四十四圓を納む長女ちよ(明三〇、四生)は滋賀縣人塚本貞次郎二男貞三に二女もと(同三三、七生)は東京府人田中交藏に三女タツ(同三六、一生)は同府人岡田祐輔に嫁せり(川崎市砂子町一ノ四九電川崎二四一七)

市川吉太郎

大丸株式會社監査役　滋賀縣在籍

妻　シヤウ　明二一、一生、滋賀、望月良藏長女

養子　榮助　明四一、三生、山形、士、白根澤信彌孫

君は滋賀縣人市川又兵衛の長男にして明治四年七月を以て生れ同二十五年家督を相續す同十五年大阪呉服問屋稻西合名會社に入り販賣部長兼仕入部長副支配人となり同十年勤續四十年にして退店現時大丸監査役たり其間呉服商一番組々長呉服商同盟會創立監事大阪織物同業組合組長に推さるA五〇三(西宮市南郷七九電二三九二)

市川清

正四位勳三等、醫學博士、陸軍二等軍醫、市川眼科病院、醫師　山口縣在籍

母　シケ　文久元、三生、山口、吉松嘉彌太長女

妻　チヨ　明一九、七生、山口、士、井街顯妹

君は山口縣人市川直彥の長男にして明治十一年四月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學醫科大學を卒業し同三十八年陸軍二等軍醫に任ず同四十年京都帝國大學助教授に任ぜられ同四十二年日本赤十字社大阪支部眼科長を囑託せられ歐洲各國に留學し大正四年醫學博士の學位を受け後同教授に進みしも昭和五年退官し現時市川眼科病院を開き醫師たり家族は尚弟禎治(明三一、四生、理學博士、旅順工科大學教授)同妻富美代(同三九、一一生、京都、坂口芳久妹)及其一子あり弟俊彥は同妻テルを伴ひ同知明(同二〇、二生)同妻多賀(同二七、五生、北海道、飛島多三郎四女)は其子女を伴ひ各分家し弟義彥(同二一、八生)は福井縣人玉井マサに同健彥(同二三、五生)は山口縣人藤村志滿に各入夫となり同守治(同二五、一〇生、內務省技師、工學士)は同縣人松尾琢三の養子となり妹マス(同一七、五生)は山口縣士族工學士大阪汽車製造會社支配人出羽政助に同スミ(同一八、八生)は

前衆議院議員古林新治に同ヤス(同二七、一二生)は山口縣人法學士黑川正太郎に同功子(同三六、三生、山口縣立高女出身)は德島縣人醫學博士盛彌壽男に嫁せりA六九〇(京都市上京區小山上總町五ノ二電西陣八二二)

参照＝出羽政助、松尾琢三の項

市川潔

金澤市助役

母　トモ　安政元、一〇生、長崎、士、今井佐平長女

妻　巳可　明二一、二生、愛知、加藤弘吉三女

君は長崎縣士族市川保行の二男にして明治十年四月十九日を以て生れ同三十三年兄保壽の後を承け家督を相續す同三十七年東海日々新聞社編輯長となり關來國民新聞社名古屋支局長扶桑新聞社編輯長北陸毎日新聞社主筆同社取締役となり其間金澤市會議員市會副議長石川縣會議員等に當選昭和五年金澤市助役に就任し今日に及ぶ家族は尚弟龜雄(明一七、一一生)同妻イソノ(同二七、三生、廣島、植木元平二女)及其六子あり妹富久代(同三一、一生)は富山縣人越島茂男に從妹スヽ(同二三、三生)は長崎縣人田中倉壽に叔母ナヲ(慶應二、一生)は和歌山縣人幸田豹之助に嫁せり(金澤市長町六ノ五〇電六三〇)

市川幸七

硝子原料商　東京府在籍

妻　よし　明二一、三生、千葉、和田富次二女

男　幸也　明四四、九生

女　いと　大五、五生

女　文子　大八、一二生

君は東京府人市川彌三郎の二男にして明治十四年七月十二日を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す硝子原料商を營む家族は尚三男榮七(大一一、六生)四男元芳(昭二、一生)ありA一一八七B三〇八(東京市深川區本村町一三三電本所四二八〇)

市川厚一

正五位勳四等、獸醫學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務　茨城縣在籍

父　俊五郎　明元、一一生、現戸主

母　ふく　文久二、一一生、茨城、石本政信長女

妻　朝子　明二七、五生、茨城、鈴木幸一郎長女

男　龍興　大六、三生、廳立札幌二中在學

女　篤子　大八、二生、廳立札幌高女出身

君は茨城縣人市川俊五郎の長男にして明治二十一年四月を以て生る大正二年東北帝國大學農科大學畜產學科を卒業す稿の研究に對し同八年三月獸醫學博士の學位を同年五月帝國學士院賞を授與せられ同九年北海道帝國大學助教授に任じ同十二年國際稿會議に出席を命ぜられ引續き佛獨兩國に留學し昭和三年命に依り英國主催國際稿會議に列席し又同九年五月滿洲國へ出張を命ぜらる現時同大學教授にして農學部勤務たり家族は尚二男篤信(大九、三生)三男健寛(同一一、三生)二女世喜子(大三、一生、茨城、鈴内源七三女)あり弟俊次(明二五、二生)同妻セン(同三二、四生、栃木、上田和三郎八女)は其二女を伴ひ弟英(同三三、七生)同徹(同三六、五生)同妻きう(同四一、八生、宮城、丹野新八長女)は其二子を伴ひ各分家せり(札幌市北五條西十一丁目)

市川鴻一

從四位勳五等、醫學博士、九州醫學專門學校教授、山形縣士族　慶應二、一生、現戸主

父　祐次郎　明四、一一生、山形、今野文藏長女

繼母　その　明三〇、一二生、山形、香坂茂右衛門孫

妻　しけ　博　大一〇、七生

男　博　大一、一生

君は山形縣士族市川祐次郎の長男にして明治十九年六月十二月を以て生る大正二年九州帝國大學醫學專門學校教授を經て同十二年長崎醫科大學助教授に任じ同十五年獨逸に留學し昭和三年歸朝す現時九州醫學專門學校教授たり家族は尚長女龍子(大一二、一一生)二女清子(同一五、九生)三女龍子(昭四、五生)妹ますヱ(同二五、七生)あり弟清雄(同二八、一〇生)は山形縣人石澤吉齋に同信造(同三四、三生)は東京府人田中ナカに各養子となり妹コウ(同三六、八生)は奈良縣人增田榮次郎弟源次郎に嫁せり(久留米市櫛屋町九八)

参照＝石澤吉齋の項

市川左團次

(高橋榮次郎)

五代目高島屋、歌舞伎俳優　東京府在籍

母　はな　萬延元、一生、東京、金井吉五郎三女

妻　とみ　明一八、一〇生、東京、淺利たけ妹

君は東京府人高橋榮三(四代目左團次)の長男にして明治十三年十月を以て生れ同三十七年家督を相續す本名は榮次郎藝名を市川左團次俳名を杏花と稱す夙に五代目高島屋を襲名し明治十七年新富座に於てぼたんと名乘り「助六」の金棒引に初舞臺を勤め爾來「毛抜」の弾正「修善寺物語」の夜叉王「鳥邊山」の半九郎「丸橋忠彌」等の當り役を稱せられ本邦劇界の重鎮たり義に一座を率ゐッヴェイト・ロシアに渡り日本歌舞伎をして廣く同地に知らしむ弟道之助(明二七、五生、市川莚升、歌舞伎俳優)は同妻喜久(同三八、五生、東京、富田富姉)と共に其二子を伴ひ分家せりA二〇六九(東京市神田區駿河臺三ノ六ノ五電神田八四八)

市川濟一

旭紡織㈱取締役兼仙臺工場長　千葉縣在籍

母　ゑし　文久三、一二生、千葉、木村善太郎姪

妻　政　明二七、三生、愛媛、武内常太郎長女

男　浩一郎　大一二、七生

女　秀子　大四、二生

君は千葉縣人市川鶴太郎の長男にして明治十九年六月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學工科大學機械工學を卒業し現時旭紡織會社取締役兼仙臺工場長たり家族は尚二男健二郎(大一四、六生)二女泰子(同七、二生)三女道子(昭二、三生)ありA二八九(東京市品川區上大崎長者丸二六五電高輪三八二五)

市川治平

市川銀行、筑川水力電氣各㈱取締役、山工業、峡西電力各㈱監査役、山梨縣在籍

妻　しけ　明一五、一二生、山梨、中島五郎妹

男　治夫　明四二、四生

男　雄二　明四四、九生

女　正子　大三、七生

君は山梨縣人市川太右衛門の二男同文藏の弟にして明治十年三月を以て生れ先代りつの養子となり同三十七年家督を相續す現時市川銀行取締役の外前記各會社の重役にして義に山梨醬油會社々長たりしことあり家族は尚三男三郎(大七、三生)四男末男(同二〇、三生)あり長女經子(明三九、一二生)は山梨縣人三木宗男に嫁せり(山梨縣中巨摩郡五明村)

参照＝市川文藏の項

市川繁治郎

都南貯蓄銀行㈱監査役　神奈川縣在籍

妻　チヨウ　明四、九生、神奈川、井上金太郎妹

男　英明　明二八、一〇生

婦　マサ　明三七、四生、長男英明妻、神奈川、中村金治妹

男　恒秋　明三三、一一生

婦　ミチ　明四〇、七生、三男恒秋妻、神奈川、鈴木貞良妹

男　隆　明三八、五生

女　ナヲ　明四〇、六生

女　フヂエ　明四二、二生

シズエ　明四三、一二生

女　雪子　明四五、二生

君は神奈川縣人市川孫左衛門の二男にして明治二年五月を以て生れ同十六年家督を相續す現時南記銀行の重役たり義に足柄農商銀行常務取締役たりし事あり家族は尚五男榮(大四、七生)孫良子(昭二、八生、長男英明長女)あり長女ヨシ(明二四、五生)は神奈川縣人田中馬治郎長男忠七に二女ヒサ(同三六、九生)は同縣人相原安太郎長男壽次郎に三女キヌ(同三二、一生)は同縣人鵜田清藏二男敬二に四女タキ(同三五、一〇生)は同縣人田中庄一衛孫眞治に妹ソノ(同六、七生)は東京府人田中三之助に同タイ(同九、一生)は神奈川縣士族神田鉛吉に嫁し二男敬輔(同三〇、一生)は分家し弟宇佐(同一一、二生)は同妻グン(同一七、二生、神奈川岩下繼次郎長女)と共に神奈川縣人永田米松の養子となれり(神奈川縣足柄上郡福澤村)

市川純一

東洋鋼材、三機工業各㈱監査役、三井物產㈱調査課長、千葉縣士族

男　清一　明四二、二生

君は東京府士族近藤晴太郎の長男にして明治八年九月を以て生れ先代清の養子となり同三十六年家督を相續す同二十八年慶應義塾を卒業し三井物產會社に入り孟買神戸各支店勤務本店石炭課長を經て現時同社調査課長にして傍ら南記各會社の重役たり長女民子(明四〇一生)は東京府人水野榮太郎長男復一郎に二女とも(同四〇、一二生)は兵庫縣人淺藤大三郎三男篤二に嫁せりA一五六四(東京市中野區小瀧町三四電四谷四四三九)

市川準一

山一證券、中央製糖各㈱取締役　東京府在籍

母　よし　嘉永六、一生、長野、二木源左衛門三女

妻　千代　明二〇、一〇生、長野、福澤定治郎二女

男　興一　明四三、一一生、第一生命保險會社員、立大出身

女　澄子　大二、一生、府立第八高女出身

女　かつ　大三、一二生、府立第八高女出身

市川家の始祖は源義高にして伯父駿河守信義公より市川姓を賜る七代の孫丹後守信濃國中山城主にして代々信濃國に住し同國の名門なり先代最造は松本市に於て教育土木交通等の業に盡力し明治五年信飛新聞を創刊翌六年松本城の廢業決定に際し單身奔走し之を今日に遺し又初期の縣會議長に推され縣治に盡瘁して其功勞から ず君は其一年當家第二十二代の家督を相續す先是同二十六年横濱に移り同二十八年第七十四銀行に奉職同三十九年同行傍系たる横濱貯蓄銀行の主任となる同四十年同行を辭し横濱米穀株式取引所仲買を開業同四十三年之を廢業し大正三年小池合資會社に入り同六年山一合資會社組織と共に其出資社員となり同十三年理事に推され同十五年組織變更により山一證券會社取締役に就任傍ら前記會社の重役を兼ね數理に通曉し嘗て「端數利子日鑑」を編著し夙で「高級利廻運算器」「利廻計算尺」「複式計算尺」を發明し何れも特許を得たり家族は尚三男馨三(大八、八生)ありA八六〇(東京市大森區池上德持町四八六電池上四五)

市川松蔦

(鈴木鐵彌)　歌舞伎俳優、三代目高島屋　三重縣在籍

妻　幸子　東京、高橋榮次郎(市川左團次)妹

君は三重縣人にして明治十九年九月二十三日を以て生る同二十九年先代市川左團次の門に入り同年九月明治座に市川左喜松と名乘り曾津戰爭の小學校生徒を勤め初舞臺を踏む同三十九年九月同座に於て市川莚若と改名「酒井の太鼓」の鳥居妹椿ケ枝「布引」の葵御前を勤め名題に昇進す同四十五年同座にて三世市川松蔦を襲名し「品川臺場」の娘おてる「不動」に彈正の妹松ケ枝「松田仇討」に久喜萬字のかしく「湯島艷觀」のお七を勤む當り役には「番町皿屋敷」のお菊「鳥邊山心中」のお染の外夕秀等あり左團次の女房役として知らるA七九九(東京市麴町區平河町五ノ二電九段三一二)

市川新治

八十二銀行、昭和倉庫各㈱取締役　長野縣在籍

妻　さち　明二一、一生、松橋長兵衛二女

男　文雄　明四五、二生

男　達雄　大七、一〇生

君は長野縣人市川菊藏の長男にして明治十二年六月二日を以て生れ後家督を相續す明治三十二年六十三銀行に入行漸次昇進して支配人となり昭和五年一月取締役に擧げらる同六年同行の第十九銀行と併合して八十二銀行となるや引續き其取締役に選任せられ昭和倉庫會社取締役を兼ぬ剛毅に趣味あり書畫を愛玩す家族は尚三男敏夫(大一〇、六生)四男道雄(大一四、三生)長女敎子(昭二、九生)二女喜子(同四、一二生)ありA二二五(長野市上千歳町電五〇五)

市川訓

藤田銀行㈱常務取締役　埼玉縣在籍

妻　りう　明一四、二生、東京、士、柳橋久盛長女

男　龍太郎　明三七、三生

男　波男　明四三、一〇生

君は埼玉縣人先代渡江の孫にして明治三年八月を以て生れ同十五年家督を相續す同二十九年慶應義塾理財科を卒業し現時前記銀行の常務取締役たり曩に大正信託會社の重役たり事あり家族は尙四男正吾（大六、一生）五男安男（同八、一二生）あり（大阪府北河内郡枚方町電話五五）

市川壽美藏（太田照造）

六代目升田屋、歌舞伎俳優
東京府在籍
母　ら　く　明一九、二生、東京、丸島わか養
妻　ち　く

君は東京府人市川力藏の三男にして明治十九年七月を以て生れ同三十八年太田敍三郎（先代市川壽美藏）の養子となり同三十九年家督を相續す本名を照造藝名を市川壽美藏俳名を登升と稱す幼にして梨園に入り同二十七年市川高丸と名乘り明治座に於て「織姫糯子」のお酌豆太に扮し初舞臺をなし同四十年同座に於て「曦篋」の花野を勤め大代目壽美藏を襲名す當り役は「歌舞伎物語」の右京「修禪寺物語」のかつら「忠臣藏」の勘平と寺坂吉右衛門「箱根靈驗」の蟹勝五郎等にして蘇に左團次と共に自由劇場を起して新劇の先驅をなし又共にロシアに渡り日本歌舞伎の聲價を知らしむ昭和七年國民文藝會より國民文藝賞を授與さる A六三五（東京市赤坂區新町五ノ三電青山六四八一）

市川末藏

宮崎屋、酒商
東京府在籍
妻　登　里　明一八、二生、養父光成二女
男　豊　次　明四五、三生
女　滝　子　明四一、六生
女　隆　子　大四、一生
女　延　子　大七、五生

君は東京府人大石梅吉の弟にして明治十五年八月を以て生れ同四十年市川光成の養子となり同四十三年家督を相續す宮崎屋と稱し酒商を營む家族は尙四女君子（大一一、一二生）五女壽子（昭三、四生）あり A二九二（東京市牛込區神樂町二ノ一二電牛込一三七九）

市川進

三井物産會社員
東京府士族
母　豊　明二六、一一生、靜岡、士、西虎
妻　國子　明四三、一二生、東京、小島誠長女
男　哲雄　昭八、六生

君は東京府士族市川芳雄の長男にして明治三十四年九月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正十五年早稲田大學商科を卒業し現時三井物產會社員たり父芳雄は曾て三井合名會社用度課長代理たりし事あり家族は尙弟直（大二、一一生）同弘（同一〇、一〇生）妹とし（同七、一二生）あり同きよ子（明三八、一生、御茶の水高女出身）は東京府人上野啓吉長男吉雄に伯母かち（同五、四生）は同府人畑桂之助に嫁し弟昇（同四〇、九生）は其養子となり叔父又彦（同一九、一二生、早大文科出身）は其妻米子（同三〇、七生、東京、西癈寛三郎妹）を伴ひ分家せり（東京市牛込區北町三電牛込三七一〇）

市川清次郎

從三位勳一等功四級、海軍中將
東京府士族
妻　よ　し　明元、一二生、東京、矢島正兵衛養子
男　一　郎　明二二、九生、三菱鑛業會社員
婿　フ　ミ　明三四、一一生、長男一郎妻、福井、士、戸祭文造二女
女　春　江　明二四、四生
男　四　郎　明三五、九生、農學士
婿　ヤ　エ　大二、一生、四男四郎妻、熊本、飯干太加治長女

君は三重縣士族市川達三郎の二男にして慶應元年十月三日を以て生れ伯父清之助の養子となり明治十六年家督を相續す同十八年海軍機關學校を卒業し同十九年海軍機關少尉に任じ大正三年海軍中將に累進し現に退役たり其間海軍省軍務局員艦政本部第二部長第一艦隊機關長横須賀鎮守府機關長海軍機關學校長海軍艦政本部第四部長海軍省機關局長等に歷補す日清日露の役に偉功あり勳一等に敍せられ功四級金鵄勳章を賜はる家族は尙孫和（大一二、二生、長男一郎長女）同澄（同一四、六生、同二女）同輝（昭八、五生、同三女）あり三女小松（明三二、一生）は男爵出羽重芳に嫁し二男二女四女（同三五、一生、原忠三郎）同妻ゑん（同三六、一生、戸祭文造二女）は共に分家せり（東京市大森區田園調布三ノ三三電田園調布五四〇）

市川誠次

旭絹織㈱副社長、日本窒素肥料㈱常務取締役、日本電力、日本水電、朝鮮窒素肥料、五ケ瀬川電力、朝鮮窒素火藥、日本曹達、日本アンモニア、各㈱常務取締役、大倉組、日本簡易火災保險、信越電氣、日本開發、朝鮮鐵業、日本開發、日本醬油各㈱監査役

男　浩　明三五、七生
婿　峻　子　明四〇、七生、長男浩妻、子爵田村丞顯二女、女子學習院出身

君は石川縣士族市川積善の二男にして同茂三郎の兄なり明治五年七月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同二十七年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し現時旭絹織會社副社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙孫恭子（昭四、三生、長男浩長女）同保明（同六、四生、同長男）あり二女久子（明四三、一一生）は東京府人奥村好巻に嫁せり A二一四五九（兵庫縣武庫郡御影町郡家大藏三五電御影二六八一）

參照＝子爵田村丞顯、市川茂三郎の項

市川宗助

資產家
德島縣在籍
妻　マサミ　明二一、三生、小川清五郎長女
男　宗　成　明四二、一生
女　芳　子　大四、六生
女　郁　子　大七、九生

君は德島縣人市川清五郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ同三十五年家督を相續す同四十四年神戸高等商業學校を卒業し會社員にして資產家たり家族は尙二男宗明（大六、二生）三男宗達（昭二、四生）あり（東京市大森區田園調布三ノ五〇電田園調布一一九）

市川太津

資產家
京都府在籍
男　光　三　明四二、六生、現戸主
妻　とみ子　大三、四生

君は滋賀縣人中村孫八郎の二女にして明治十三年一月三十日を以て生る資產家たり長女たま子（明三八、八生）は京都府人服部清之助に嫁せり（京都市上京區大宮通下長者町下ル電西陣一八三六）

市川大治郎

正五位勳三等、海軍少將、海軍航空廠飛行機部長、三重縣在籍
妻　ミ　ツ　明二六、四生、秋田、藤野貞助三女、東京女子美校出身
男　治　大一二、二生
女　ミドリ　大五、八生、神奈川縣立鎌倉高女出身

君は三重縣人市川潭吉の二男にして明治十八年三月を以て生る同三十八年海軍兵學校を卒業し翌三十九年海軍少尉に任じ昭和六年十二月海軍少將に累進す義に大正九年臭族附武官を以て横須賀航空隊附に兼補し爾來專ら海軍航空方面に奉職現時海軍航空廠飛行機部長たり刀劍繪畫を愛好す二男明（大一三、一一生）は出でて本家を相續し長女萬里（大三、四生）は島根縣人海軍大尉朝田肆六に嫁せり A一四二（神奈川縣鎌倉郡鎌倉町小町三九五）

市川辰雄

新潟縣多額納稅者、農業
新潟縣在籍
妻　カ　ネ　明二九、九生、新潟、佐藤友右衛門三女

君は新潟縣人市川友次の長男にして明治二十五年八月を以て生れ大正二年叔父只次の死跡を相續す農を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅二千八百九十三圓を納む議に新潟農商銀行新潟合同貯蓄銀行明愛貯金銀行加茂銀行大和木材會社新潟電氣會社等の重役たりし事あり（新潟縣南蒲原郡加茂町）

參照＝佐藤友右衛門の項

市川中車（橋尾龜治郎）

八代目立花屋、歌舞伎俳優
東京府在籍
妻　美　津　明五、三生、東京、吉田榮次郎養子
養子　直　一　明四三、八生、兵庫、小川保之助庶子

君は東京府人橋尾久兵衛の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治三十四年家督を相續す本名を龜治郎藝名及俳名を中車と稱す幼にして尾上多見藏の門に入り元治元年春尾上當次郎と名乘り伏見稻荷座に於て「鈴木主水」に其子幸次郎を勤め初舞臺をなし同十三年市川團十郎の門に轉じ市川八百藏を襲名し大正七年十月歌舞伎座に於て「馬盥」の光秀を勤め市川中車と改名す當り役は「安宅」の辨慶「地震加藤」の清正「寺子屋」の松王等にして劇界の耆宿として仰がるゝに至る（東京市麻布區飯倉町六ノ一三電赤坂八四九）

市川忠兵衛

東海紙料㈱取締役、靜岡縣在籍
妻　ま　よ　文久二、三生、靜岡、小川惣五郎三女
男　慶太郎　大一二、二生、學習院在學
女　壽　子　大八、六生

君は兵庫縣士族佐々松賢藏の長男同賢の養弟なり明治二十四年六月を以て生れ靜岡縣人市川瀧藏の養子となり大正九年養兄岩次郎方より分れて一家を創立す現時大倉組會計主任にして前記會社の重役を兼ね家族は尙二女寧代子（大一〇、一生）二男謙二（同一三、一二生）三女秀子（昭二、七生）三男建三（同五、三生）あり A四一四（東京市赤坂區臺町六九電青山六三三二）

參照＝佐々松賢の項

市川藤吉

三菱製鐵㈱營業係主任
東京府在籍
妻　い　し　明一四、四生、埼玉、小林島藏長女
男　藤　一　大六、九生

君は埼玉縣人市川榮次郎の二男にして明治十三年一月七日を以て生れ大正六年兄藤七方より分れて一家を創立す現時三菱製鐵會社營業係主任たり家族は尙二女つよ子（大一三、七生）あり A一一二（東京市中野區上ノ原町七）

市川亨

中島商店㈱監査役
東京府在籍
繼母　せ　ん　明一〇、一一生、茨城、湯原新太郎妹
妻　泰　子　明三八、一〇生、三重、藤谷泰三郎二女
男　健　一　大一四、一一生

君は東京府人市川武一の二男にして明治二十八年一月を以て生れ大正三年家督を相續す同十年東京帝國大學法學部英法科を卒業し現時中島商店監査役たり曩に中伊合名會社々員たりしことあり家族は尙長女美惠子（昭四、八生）姪みつ（大四、四生、亡姉靜子三女）あり弟昇一（明三〇、二生）は其一男二女を伴ひ分家せり（東京市小石川區茗荷谷町五六）

市川德三郎

近藤利兵衛商店㈱常務取締役
東京府在籍
妻　よ　し　明二二、六生、東京、飯塚卯太郎二女
男　清　治　大八、五生

君は栃木縣人市川彌平の二男にして明治十年五月を以て生れ同三十年家督を相續す現に近藤利兵衛商店常務取締役にして曩に千葉貯蓄銀行監査役たりし事あり長女喜美子（大元、一一生）は愛媛縣人松岡義雄に嫁せり（東京市日本橋區本石町三ノ四ノ三）

市川春吉

永樂殖產、合同電氣各㈱取締役
福岡縣在籍
妻　コ　マ　慶應元、四生、佐賀、原田市太郎二女
養母　チ　カ　明二二、七生、佐賀、中島源吉妹
男　泰　三　大五、三生
女　知　惠　大三、一生

君は佐賀縣人松尾和市の二男にして明治二十二年四月を以て生れ先代權太郎の養子となり大正十二年家督を相續す現時東邦電力會社理事にして名古屋支店長代理を兼ね傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男祐三（大七、二生）三男晉三（同一〇、三生）四男桂三（同一二、三生）二女英子（同一三、一一生）五男純三（同一五、八生）の外叔母カメ（明三、一生、市川重次郎長女）あり（大阪市住吉區天王寺町二〇三三電天王寺八五）

市川彦兵衛

白米商
東京府在籍
妻　な　か　明二一、三生
男　彦右衛門　大二、三生

君は東京府人先代彦兵衛の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正十五年家督を相續す前名政次郎を改め襲名す現時白米商を營む家族は尙二男邦藏（大四、七生）長女二三子（同一一、三生）二女三四子（同一五、一

生)妹よね(明二六、三生)從弟政次郎(同二六、一〇生、叔母みつ私生子)ありA一五三(東京市四谷區新宿一ノ四九電四谷三二〇一)

市川文藏

妻　ゑん　　勳四等、山梨縣多額納稅者、市川銀行㈱頭取、峽西電力㈱社長、農業、山梨縣在籍

男　共宜　明治三四、九生、亡長男文太郎妻、

婿　昌次　山梨〃志村七右衛門四女

女　孝子　大二、五生

君は山梨縣人市川太右衛門の長男同治平の兄にして元治元年十一月を以て生れ明治十六年家督を繼ぐ農業を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして山梨縣多額納稅者に列し直接國稅千七百十三圓を納む貴衆兩院議員に推されし事あり家族は尙孫登志子(大一三、三生亡長男文太郎長女)あり三女ひさ(明二二、九生)同夫二郎(同一四、八生、山梨、久保田宣朔弟)は共に分家し六男行三郎(同四一、一〇生)七男龍之助(同四四、五生)も亦各分家し四女もと(同二三、五生)は山梨縣人河西豐太郎弟寛一郎に五女交次(同二五、四生)は男爵小澤定雄に六女美香子(同三七、七生)は山梨縣人落合周平長男重德に嫁し弟治平(同一〇、三生)は同縣人市川りつの養子となれり(山梨縣中巨摩郡五明村)

參照‖男爵小澤定雄、市川治平、河西豐太郎の項

市川茂三郎

三菱造船㈱參事　石川縣在籍

妻　ヨシノ　明二〇、四生、福岡、石橋又一五

女　養子　萬里子　大五、九生、福岡、石橋與市長女

君は石川縣人市川堅太郎同誠次の弟にして明治十五年二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し現時三菱造船會社參事たりA九一三(兵庫縣武庫郡御影町篠ノ坪一三八七電御影三六三八)

參照‖市川誠次の項

市川元次郎

中津川銀行㈱取締役　岐阜縣在籍

妻　いか　文久三、五生、岐阜、吉田作助叔母

婿　志賀　明三四、一二生、亡長男俊郎妻、岐阜、吉田經資長女

孫　淨　大一三、七生、亡長男俊郎長男、現戸主

君は岐阜縣人市川忠七の長男にして文久元年九月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隱す夙に中津川銀行取締役に就任し今日に及ぶ家族は尙孫千里(大一二、一生、亡長男俊郎長女)同つたえ(昭二、九生、同二女)同暢(同四、八生、同二男)あり(岐阜縣惠那郡中津町)

參照‖吉田作助の項

市川安平

濱松商工會議所議員、西遠產業㈱取締役、漆器商、靜岡縣在籍

妻　いさ　明一七、六生、靜岡、村松力太郎妹

男　忠平　明四一、一〇生

女　夫巳　大二、一〇生

君は東京府人坪井久七の六男にして明治十二年三月を以て生れ先代安平の養子となり同四十年家督を相續し前名千造を改め襲名す漆器商を營み現時西遠產業會社取締役にして濱松商工會議所議員に擧げらる家族は尙二男義雄(大四、七生)三男秀夫(同六、七生)長女しづ(同一〇、四生)あり(東京市澁谷區青葉町二〇電青山五〇八)

市川要四郎

從四位勳四等、檢査官、會計檢査院第三部第一課長、東京府在籍

妻　つた　明二四、一一生、佐賀、坂井克巳妹

男　大二、一〇生

君は佐賀縣人市川本章の四男にして明治十三年十月を以て生れ大正四年兄藤一郎方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大正元年文官高等試驗に合格し計檢査院書記副檢査官に進み第三部第二課長第參衆議院書記官を經て檢査官に進み第三部第一課長となり今日に至る家族は尙二男義雄(大四、七生)三男秀夫(同六、七生)長女しづ(同一〇、四生)あり(東京市澁谷區青葉町二〇電青山五〇八)

市川龍一

松坂屋㈱本店販賣部長　岐阜縣在籍

養父　喜六　明二、四生、現戸主

養母　捨尾　明二四、一生、滋賀、玉樹節覺妹

妻　靜　明二八、三生、岐阜、松永房次郎長女

男　晃策　大七、六生

君は岐阜縣人川合與一の弟にして明治二十二年十一月を以て生れ現戸主喜六の養子となる現時松坂屋本店販賣部長たり家族は尙養叔母(明三、一〇生)あり同すえの(同二二、一〇生)は岐阜人久保田彌一郎長男信也に嫁せりA二八四(名古屋市中區御器所町地村二七)

市川龍太郎

家主　大阪府在籍

母　なみ　文久三、一〇生、養祖父藤右衛門二女

妻　ユキ　明二七、一二生、奈良、荻田元平妹

男　龍慶　大一二、一生

君は大阪府人市川藤兵衛の長男にして明治二十六年十月を以て生れ大正十三年家督を相續す資產家として知らる家主たり家族は尙長女悅子(昭三、八生)二女敬子(同五、一〇生)二男龍正(同九、五生)あり弟尙文(明四一、二生)は同妻千鶴(大阪、林信次郎孫)及其一子を伴ひ分家しまた妹千惠(同三六、一一生)は大阪府人半田祐三郎に嫁せりA三五三七(大阪市東區岡山町三四一電東二三一七)

參照‖※岡島千代藏の項

市川良一

駿州銀行㈱取締役　靜岡縣在籍

母　よし　明四、二生、市川耕助長女

妻　しげ　明二三、六生、靜岡、牧田新一妹

男　榮一郎　明四三、九生、

女　京子　大元、一〇生

女　登喜子　大三、八生

君は靜岡縣人市川彦次郎の長男にして明治十九年十二月を以て生れ昭和三年家督を相續す夙に駿州銀行取締役に擧げられ現に其任に在り家族は尙二男清三(大一二、一〇生)弟嶽(明三九、五生)妹千枝子(同四一、一

○生)あり(靜岡縣庵原郡由比町)

市河三喜

從四位勳三等、文學博士、東京帝國大學教授、文學部勤務、東京府在籍

妻　晴子　明二九、一二生、男爵穗積重遠妹

男　三榮　大六、一二生

君は東京府人市河三彙の四男にして同三祿の兄なり明治十九年二月を以て生れ大正五年兄三陽方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學文科大學言語學科を卒業し大正元年英米各國に留學し同五年歸朝直ちに東京帝國大學文科大學助教授に任じ同九年同大學教授に進み昭和六年歐米各國に出張す同十二年前置詞「For」の研究論文を提出し文學博士の學位を授けらる現時本邦英文學界の第一人者にして殊に言語學に於ては最高權威を以て稱せらる傍ら多年に亘り昆蟲の蒐集並に研究をなす英語及英文學に關する著書數多あり家族は尙長女三枝子(大一二、七生)あり(東京市牛込區北山伏町二五電牛込一七〇〇)

參照‖男爵穗積重遠、市河三祿※石黑忠篤※澁澤元治※穗積律之助の項

市河三祿

正五位、林學博士、京都帝國大學教授、農學部勤務、研鑽演習林長、京都府在籍

妻　博子　明三二、一生、東京、河合鈍太郎長女

男　三太　大一〇、三生

君は東京府人市河三彙の五男にして同三喜の弟なり明治二十三年十二月を以て生れ明和二年分れて一家を創立す大正三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し同九年林學博士の學位を受く翌十年北米伊獨各國に留學を命ぜられ同十二年歸朝す同年以來京都帝國大學教授兼附屬演習林長たり家族は尙長女三知子(大一四、五生)二女三和子(昭二、八生)二男三次(同四、一一生)三女三保子(同六、八生)あり(京都市下京區下鴨藪倉町四六電上二五八一)

參照‖市河三喜の項

市來乙彦

正四位勳一等、貴族院議員　鹿兒島縣士族

妻　ヨネ　明一六、一一生、鹿兒島、平田武介長女

男　政雄　明三五、二生

男　政安　大三、五生

君は舊鹿兒島藩士市來平太の三男にして明治五年四月を以て生れ後家督を繼ぐ同二十九年帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し叙官職時沖繩土地整理事務局事務官補殖務管理局長稅關事務官兼大藏書記官專賣局書記官大藏省參事官主計局長大藏次官等に歷任し大正七年貴族院議員に勅選せらる同十一年高橋內閣の成るや大藏大臣に親任せらる翌十二年日本銀行總裁仰付けられ昭和三年東京市長に擧げらる同四年originを辭す長女靜子(明四〇、三生、東京女學館出身)は北海道人林清二長男商學士俊一に姉キヨ(慶應三、一二生)は鹿兒島縣士族池田政典に嫁し弟彦吉(明七、九生、中大出身、辯護士)は分家せりA一七四(東京市麻布本村町一六電高輪七〇〇八)

市島龜三郎

妻　マツ　敬三　明四四、五生

男　敬三

君は東京府人市島小右衛門の庶子にして明治十九年六月を以て生れ大正七年家督を相續す旭組と稱し石炭商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙三女典子(大一三、一一生)妻子八重子(同一四、三生、福井、山本文次郎五女)あり長女靜子(明四二、六生)は埼玉縣人藤波芳太郎弟定次郎に二女チヱ(大二、七生)は栃木縣人津久井宣勝に嫁せり

一ノ一電四谷一八〇)

新宿合同運送、旭組商事、東京郊外乘合、日本ヌポーツ各㈱社長、ダットサン自動車㈱業務擔當社員、旭組、石炭商、東京府在籍

妻　ユキ　明二二、四生、福島、田村卯之七女

男　三太　明四四、五生

君は東京府人市河三彙の庶子にして明治十九年六月を以て生れ明和二年分れて一家を創立す大正七年家督を相續す旭組と稱し石炭商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙三女典子(大一三、一一生)妻子八重子(同一四、三生、福井、山本文次郎五女)あり長女靜子(明四二、六生)は埼玉縣人藤波芳太郎弟定次郎に二女チヱ(大二、七生)は栃木縣人津久井宣勝に嫁せりA四一五(東京市澁谷區角筈一ノ一電四谷一八〇)

市島謙吉

日清印刷㈱社長、早稲田大學名譽理事、新潟縣在籍

妻　ユキ　慶應元、一〇生、新潟、泉新平八女

男　昂　明三二、一一生、早稲田中學出身

女　ミツ　明三二、一〇生、日本女大出身

君は新潟縣人市島次郎吉の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治二十年分れて一家を創立す夙に開成學校に入り尋で東京大學文學部に學ぶ曾て小野梓等と立憲改進黨の組織に與り高田新聞新潟新聞讀賣新聞等の主筆となり數次衆議院議員に推され又東京專門學校の創立に參し其講師となる早稲田大學の總督に與ること四十餘年現時同校名譽理事にして日清印刷會社長早稲田大學出版部取締役主幹を兼ね春城と號し著書多し長女シツ(明二二、八生)は重栖健に嫁せりA七四一(東京市牛込區東五軒町三五電牛込二四二一)

市島常七

魚岩、鮮魚商　東京府在籍

妻　勝太郎　明三七、三生

男　竹夫　明四一、一二生、二男竹夫妻、京都、米澤憲長女

婿　静枝　平八郎　大二、五生

君は東京府人渡邊長七の三男にして明治十三年六月を以て生れ養に市島家に入り同四十一年養兄市島藤太より分れて一家を創立す魚岩と稱して鮮魚商たり家族は尙五男善一(大九、九生)は孫幸子(昭五、七生、二男竹夫長女)同彌生(同六、八生、同二女)同三輪子(同八三生、同三女)を伴ひ共に分家し長女和(明三九、九生)は栃木縣人高橋市太郎三男雪太郎に嫁すA一三五B八七(東京市牛込區白銀町二三電牛込三五三七)

市島德厚

新潟縣多額納稅者、第四銀行㈱取締役、新潟縣在籍

妻　隆子　明二六、一一生、子爵松平康春妹

嫡母　ジュン　安政元、四生、新潟、佐藤伊左衛門五女

君は新潟縣人先代德次郎の庶子にして明治二十六年一月を以て生れ大正六年家督を相續し前名初之丞を改む新潟縣下の豪農にして多額納稅者に列し直接國稅三萬四千五百圓を納む蘇に紺綬賞章及同飾版を賜はる先代德次郎は第一期の貴族院議員に擧げらる家族は尙兄龜三郎(明六、四生)弟龜吉(同二七、七生)あり姉レイ(同一二、一一生)は新潟縣人高頭仁兵衛に同ツマ(同一五、四生)は同縣人保坂潤治に妹ミネ(同三三、六生)は東京府人伊東三郎に嫁せり(新潟縣北蒲原郡中浦村「別宅」東京市本郷區駒込林町二九電小石川五七六四)

参照＝子爵松平康春、伊東三郎次侯爵松平康昌次子爵伊東祐淳次子爵松平頼和※子爵森清の項

市瀬　明

長野縣多額納稅者、信濃銀行㊟頭取、長野縣在籍
明二〇、二生、長野、田中太三郎
妻　章　長女
男　岩夫　明三八、四生
養子　敏夫　明三五、一生、長女千代夫
女　千代　明四〇、四生、養子敏夫妻
男　忠夫　明四三、一〇生

君は長野縣人市瀬宗一の二男にして明治十四年五月を以て生れ同十六年家督を相續す現時信濃銀行頭取にして直接國稅五百四圓を納め長野縣多額納稅者たり父宗一（安政元、一生）は母きしの（嘉永六、八生）と共に姉とらゑ（明九、四生）同夫宏次（同一〇、三生、長野、今村優一二男）は其子女を伴ひ各分家し弟勳治（同二一八生）も亦分家せり（長野縣下伊那郡飯田町電九六）

市瀬源助

正五位勳二等功五級、陸軍中將、長野縣在籍
明二五、一生、大分、士、松本鎮
妻　リツ　大三、二生
男　護國　明四五、二生
女　幸　大四、一〇生
女　美智　三郎二女

君は長野縣人市瀬幸太郎の二男にして明治十年一月を以て生る夙に陸軍士官學校を卒業し同三十五年陸軍騎兵少尉に任じ昭和八年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し近衛騎兵聯隊長陸軍省軍務局騎兵課長陸軍省軍務局馬政課長軍馬補充部本部附騎兵第三旅團長等に歷補す現時豫備役たり家族は尙二男忠國（大八、一生）三女眞智（同一三、八生）兄市蔵（明七、四生、現戸主）同妻靜枝（同一二、二生、長野、大平鹿藏長女）及其子女あり姪ちとし（同三四、一〇生）は長野縣人三村靜雄に嫁せり（千葉縣船橋町花輪）

市瀬竹次郎

津紙商
東京府在籍
明二三、七生、長野、牧野末太郎
妻　二女

参照＝子爵松平康昌次子爵伊東祐淳次子爵松平頼和※子爵森清の項

市田巖次郎

京都府在籍㊟取締役
明三五、一二生、京都、市田彌四郎
姉
妻　てる
男　光太郎　大一二、二生

君は京都府人倉貫彦治郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正八年先代てるの入夫となり家督を相續す現時市田商店取締役たり家族は尙長女エイ（大一〇、六生）二男光一（同一四、一生）二女トシ（昭二、四生）三男昌三（同五、二生）ありA一三六六（京都市中京區柳馬場三條上ル電本局三一一七）

市田賢治

帝國法規出版㊟取締役、出版業
東京府在籍
明二一、一二生、岡山、根本時次郎長女
妻　幸枝　昭大三、九生
女　敬子　大二、一生

君は岐阜縣人市田利八郎の二男にして明治二十一年一月を以て生れ同四十五年兄清藏方より分れて一家を創立す出版業を營み帝國法規出版會社取締役たり家族は尙長女良子（大一〇、一生）ありA一〇八六五B一六八六（京都市中京區大尚通七電寄山八二）

市田治一郎

市田商店㊟無限責任社員
京都府在籍
明三八、六生、京都、市田彌五郎
長女、跡見女學校出身
妻　ちか　昭二、一〇生
男　健治　昭二、一〇生

君は東京府人小堀治三郎の長男にして明治三十三年十一月を以て生れ昭和二年先代ちかの入夫となり家督を相續す現時市田商店㊟監査役兼東京營業部長たり家族は尙二男達治（昭四、五生）長女幸子（同六、五生）ありA一三六六〇（東京市小石川區駕籠町二三三電大塚六七四）

市田　周藏

市川商店㊟監査役
京都府在籍
明三五、一生、養父彌三郎二女
妻　ゆき　明三五、一生
男　周一　昭二、一生

君は滋賀縣人山中岩吉の二男にして市田彌三郎の養兄なり明治二十五年四月を以て生れ市田彌三郎の養子となり大正十四年分れて一家を創立す現時市田商店監査役として其の經營の樞機に參與す家族は尙長女キヨ（大一二、一一生）二女キク（同一三、五生）ありA八九〇（京都市柳馬場通三條上ル）

参照＝市田彌吉郎、市田彌三郎の項

市田重太郎

正五位勳五等、遞信局技師、名古屋遞信局工務課勤務、滋賀縣士族
妻　修子　明二八、一一生、滋賀、山村孝之祐妹、縣立大津高女出身
男　洋　大七、八生

君は滋賀縣士族市田貞三の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ同三十四年家督を相續す大正三年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し同四年遞信局技手となり新潟郵便局電話課長を經て同五年通信技師兼遞信局技師に任じ爾來札幌郵便局電話課長福岡郵便局電話課長等に歷補し同十一年東京中央電話局監査課長を命ぜられ後廣島遞信局工務課に轉勤し現時名古屋遞信局工務課市外線路部主任たり義に昭和四年米獨各國に出張を命ぜらる家族は尙二男嵩（大九、一二生）二女蓉子三女啓子あり弟次郎（明二五、二生、同三一、三生、東京、丸橋政藏庶子）及其二男二女ありA一三四（名古屋市東區大杉町四ノ五七）

市田昭之助

市田商店㊟取締役、市田商店㊟無限責任社員、京都府在籍
明二八、一生、京都、市田彌三郎
妻　マチ　長女

参照＝牧田環の項

市田文次郎

大丸㊟監査役、市文、西陣織物呉服商、京都府在籍
明二三、一〇生、京都、市田理三郎妹
妻　カヨ　大二、一二生
男　嘉一郎　明四四、五生
女　滿壽　明四四、六生
女　多滿　大五、五生

君は京都府人先代文次郎の四男にして明治二十年三月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名脩四郎を改め襲名す市文と稱し西陣織物呉服商を營み傍ら大丸監査役たり養に織物商業會社取締役にして京都府多額納稅者たり家族は尙二男修二郎（大七、五生）ありA一〇八六五B一六八六（京都市中京區堺町通御池下ル電本局五四〇五）

市田彌吉郎

家主
京都府在籍
明三、九生、京都、藍井治良助姉
養祖母　つね　明八、一一生、京都、山田嘉三郎二女
養母　シゲ　明四二、五生

君は京都府人市田彌三郎の三男にして同周藏の養弟なり明治三十九年十一月を以て生れ彌枝の入夫となり昭和八年家督を相續す家主たり家族は尙養祖母つね（明四四、八生）同都彌（同四五、五生）ありA五一八一（京都市左京區南禪寺福智町電上一五八七）

市田彌三郎

市田商店㊟專務取締役、京都府在籍
妻　はつ　明一七、三生、京都、市田彌四郎母
男　彌之助　明三六、九生
女　てふ　明三八、八生
男　彌二郎　明四〇、一一生
男　藏　明四三、二生
女　コト　明四三、二生

君は京都府人太田重兵衛の三男にして明治五年一月を以て生れ同三十一年先代シゲの入夫となり家督を相續す呉服商を營み前記各會社の重役たり三男彌吉郎（明三九、一一生）は京都府人市田彌枝の入夫となり養子周藏（同二五、四生）は分家せりA七五五七（京都市中京區柳馬場通三條上ル電本局五五六三）

参照＝市田周藏、市田彌吉郎、市田彌四郎※市田巖次郎の項

市田彌四郎

市田商店㊟無限責任社員
京都府在籍

君は京都府人市田彌十郎の長男にして明治三十八年八月を以て生れ大正四年家督を相續す現時市田商店無限責任社員たり家族は尙弟彌六郎（明四〇、一生）あり母はつ（同一七、三生）は京都府人市田彌三郎に嫁し姉である（同三五、一二生）は分家し市田巖次郎を迎へりA四七二（京都市上京區紫野北船岡町一三ノ二六電西陣三六五〇）

参照＝市田巖次郎、市田彌三郎の項

市田彌兵衛

尼彌、材木問屋業
大阪府在籍
明三〇、三生、大阪、靜佐兵衛二女
男　彌一郎　大一〇、五生

君は大阪府人先代彌兵衛の長男にして明治二十四年十月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名彌三郎を改め襲名す尼彌と稱し材木問屋業を營む家族は尙二男敏治（昭三、五生）長女茂子（同五、一生）あり妹君子（明三二、一〇生）は大阪府人武田元助に嫁せりA二六四九（大阪市大正區三軒家三ノ六六電櫻川一〇五二）

市野瀬　潛

京都商工會議所議員、日本新藥㊟專務取締役、京都府在籍
妻　マサ　明一〇、一一生、京都、織田宇一郎養子
養子　善四郎　明三四、二生、長女柳子夫、東京小林孝三郎弟
女　柳子　明三九、一〇生、養子善四郎妻
女　潤子　明四一、六生
女　滿喜　大五、八生

君は大分縣人市野瀬平太郎の五男にして明治十二年四月を以て生れ同三十九年甥宗愛方より分れて一家を創立す現時日本新藥會社專務取締役にして推されて京都一月を以て生れ昭和二年先代ちかの入夫となり家督を相續す現時市田商店㊟監査役兼東京營業部長たり家族は尙二男達治（昭四、五生）長女幸子（同六、五生）ありA一三六六〇（東京市小石川區駕籠町二三三電大塚六七四）

市田　周藏

市川商店㊟監査役
京都府在籍
明三五、一生、養父彌三郎二女
妻　ゆき　明三五、一生
男　周一　昭二、一生

君は滋賀縣人山中岩吉の二男にして市田彌三郎の養兄なり明治二十五年四月を以て生れ市田彌三郎の養子となり大正十四年分れて一家を創立す現時市田商店監査役として其の經營の樞機に參與す家族は尙長女キヨ（大一二、一一生）二女キク（同一三、五生）ありA八九〇（京都市柳馬場通三條上ル）

参照＝市田彌吉郎、市田彌三郎の項

市田重太郎

正五位勳五等、遞信局技師、名古屋遞信局工務課勤務、滋賀縣士族
妻　修子　明二八、一一生、滋賀、山村孝之祐妹、縣立大津高女出身
男　洋　大七、八生

君は滋賀縣士族市田貞三の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ同三十四年家督を相續す大正三年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し同四年遞信局技手となり新潟郵便局電話課長を經て同五年通信技師兼遞信局技師に任じ爾來札幌郵便局電話課長福岡郵便局電話課長等に歷補し同十一年東京中央電話局監査課長を命ぜられ後廣島遞信局工務課に轉勤し現時名古屋遞信局工務課市外線路部主任たり義に昭和四年米獨各國に出張を命ぜらる家族は尙二男嵩（大九、一二生）二女蓉子三女啓子あり弟次郎（明二五、二生、同三一、三生、東京、丸橋政藏庶子）及其二男二女ありA一三四（名古屋市東區大杉町四ノ五七）

市田昭之助

市田商店㊟取締役、市田商店㊟無限責任社員、京都府在籍
明二八、一生、京都、市田彌三郎
妻　マチ　長女

市田太郎

王子製紙㊟江別工場長
靜岡縣士族
妻　ゆき　明七、三生、大阪、士、牧田環妹
男　親久　明三八、一二生、王子製紙會社鋼路工場勤務、早大商科出身
男　彰　明四一、二生、王子製紙會社苫小牧工場勤務、早大理工科出身
男　三郎　明四二、一一生、三井鑛山會社勤務、早大商科出身

君は大阪府士族市田時助の長男にして明治二年十月を以て生れ同二十三年家督を相續す同四十年富士製紙會社に技士囑託として入社爾來大阪富士第二同第三等各工場長を經て大正七年江別工場長となり昭和八年王子製紙會社に合併さるゝと共に入社し引續き江別工場長たり父ふき（明三七、九生）は大日本紡績會社員安井國三郎に同きよ（大元、一二生、鹽立札幌高女出身）は王子製紙會社員中村清に嫁せり（北海道札幌郡江別町王子製紙會社江別工場社宅電二三）

市田善兵衛

地主
東京府在籍
明二五、三生、東京、小久保松保姉
妻　わか　昭四、三生
男　善一郎　大元、一〇生
女　春子　大三、八生
女　智惠子

君は東京府人先代善兵衛の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正六年家督を相續し前名善次郎を改め襲名す地主たり家族は尙四女壽子（大九、二生）五女玉子（同一一、八生）六女和子（昭二、二生）ありA一三八二（東京市江戸川區西船堀町七四三電東小松川三六）

市田文次郎

大丸㊟監査役、市文、西陣織物呉服商、京都府在籍
妻　カヨ　明二三、一〇生、京都、市田理三郎妹
男　嘉一郎　大二、一二生
男　脩四郎　明四四、五生
女　滿壽　明四四、六生
女　多滿　大五、五生

君は京都府人先代文次郎の四男にして明治二十年三月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名脩四郎を改め襲名す市文と稱し西陣織物呉服商を營み傍ら大丸監査役たり養に織物商業會社取締役にして京都府多額納稅者たり家族は尙二男修二郎（大七、五生）ありA一〇八六五B一六八六（京都市中京區堺町通御池下ル電本局五四〇五）

市田彌吉郎

家主
京都府在籍
明三、九生、京都、藍井治良助姉
養祖母　つね　明八、一一生、京都、山田嘉三郎二女
養母　シゲ　明四二、五生

君は京都府人市田彌三郎の三男にして同周藏の養弟なり明治三十九年十一月を以て生れ彌枝の入夫となり昭和八年家督を相續す家主たり家族は尙養祖母つね（明四四、八生）同都彌（同四五、五生）ありA五一八一（京都市左京區南禪寺福智町電上一五八七）

市田彌三郎

市田商店㊟專務取締役、京都府在籍
妻　はつ　明一七、三生、京都、市田彌四郎母
男　彌之助　明三六、九生
女　てふ　明三八、八生
男　彌二郎　明四〇、一一生
男　藏　明四三、二生
女　コト　明四三、二生

君は京都府人太田重兵衛の三男にして明治五年一月を以て生れ同三十一年先代シゲの入夫となり家督を相續す呉服商を營み前記各會社の重役たり三男彌吉郎（明三九、一一生）は分家せりA七五五七（京都市中京區柳馬場通三條上ル電本局五五六三）

参照＝市田周藏、市田彌吉郎、市田彌四郎※市田巖次郎の項

市田彌四郎

市田商店㊟無限責任社員
京都府在籍

君は京都府人市田彌十郎の長男にして明治三十八年八月を以て生れ大正四年家督を相續す現時市田商店無限責任社員たり家族は尙弟彌六郎（明四〇、一生）あり母はつ（同一七、三生）は京都府人市田彌三郎に嫁し姉である（同三五、一二生）は分家し市田巖次郎を迎へりA四七二（京都市上京區紫野北船岡町一三ノ二六電西陣三六五〇）

参照＝市田巖次郎、市田彌三郎の項

市田彌兵衛

尼彌、材木問屋業
大阪府在籍
明三〇、三生、大阪、靜佐兵衛二女
男　彌一郎　大一〇、五生

君は大阪府人先代彌兵衛の長男にして明治二十四年十月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名彌三郎を改め襲名す尼彌と稱し材木問屋業を營む家族は尙二男敏治（昭三、五生）長女茂子（同五、一生）あり妹君子（明三二、一〇生）は大阪府人武田元助に嫁せりA二六四九（大阪市大正區三軒家三ノ六六電櫻川一〇五二）

市野瀬　潛

京都商工會議所議員、日本新藥㊟專務取締役、京都府在籍
妻　マサ　明一〇、一一生、京都、織田宇一郎養子
養子　善四郎　明三四、二生、長女柳子夫、東京小林孝三郎弟
女　柳子　明三九、一〇生、養子善四郎妻
女　潤子　明四一、六生
女　滿喜　大五、八生

君は大分縣人市野瀬平太郎の五男にして明治十二年四月を以て生れ同三十九年甥宗愛方より分れて一家を創立す現時日本新藥會社專務取締役にして推されて京都

商工會議所議員たりA一四七（京都市東山區古川町三條南三筋目西入ル電話園二五八七）

市橋宇一　勢國屋賣代表社員、米穀問屋業
三重縣在籍

君は三重縣人市橋宇吉の長男にして明治三十三年十一月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正十四年東京商科大學を卒業し父業勢國屋代表社員にして米穀問屋業を營む家族は伺妹いね（明三六、一二生）弟博夫（同四一、二生）同利之（同四四、一生）妹富喜子（大三、一生）弟友彌（同七、七生）あり姉いと（明二九、七生）は三重縣人鹿見八次長男（海軍造船少將滿洲國造船顧問）和太郎に叔母まち（同八、一二生）は同縣人渡邊六三郎に嫁し同せき（同一六、一生）は同夫稻四郎（同一〇、一生、三重、石川貞市弟）と共に叔父稻吉（同一三、一生）は其一子を伴ひ各分家し叔母とも（同一九、六生）は三重縣人伊藤仁吉の養子となれりA三三五B一〇〇（東京市神田區三崎町二ノ四四電九段七四）

市橋輝藏　從四位勳四等、遞信技師、遞信官
練習所勤務、新潟縣在籍

養母　シツ　安政二、一生、新潟、佐藤三郎長女
妻　スミ　明二〇、一二生、鶏飼郁次郎二女
男　輝夫　大二、九生
女　榮　大五、四生
義　大七、九生

君は新潟縣人伊東太吉の三男にして明治十四年五月を以て生れ先代シツの養子となり昭和四年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し遞信技師遞信管理局技師兼遞信局技師兼通信技師臨時電信電話建設局技師兼遞信局技師電信技師等に任ぜられ廣島仙臺各遞信局工務課長を經て昭和七年現官職に轉じ現時遞信省工務局を兼務す嘗て電話事業研究の爲英米兩國に留學を命ぜらる家族は伺四男久智（大一一、二生）あり（東京市芝區二本榎西町二）

市橋友次郎　正五位勳五等、地方技師、大分縣
内務部耕地課長、群馬縣在籍

妻　和子　明二六、一生、群馬、岡田養平長女
男　利夫　大三、一生

君は群馬縣人市橋譽五郎の二男にして明治十四年九月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同四十五年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し大正元年滋賀縣技師となり次で石川宮崎各縣技師に任ぜ秋田福島各縣内務部耕地課長に補せられ昭和八年大分縣に轉じ今日に至る家族は伺二男薫夫（大五、五生）三男三郎（同七、一生）四男瑾夫（同九、一二生）長女ミヤ子（同一二、一〇生）二女日出子（同一四、八生）三女孝子（昭二、四生）ありA一〇六（大分縣廳内務部耕地課内電一二三六）

參照＝淡佐藤忠三郎の項

市橋虎雄　舊江州西大路藩
正四位、子爵

母　伸子　明三、一〇生、東京、松平信安妹
男　浩　明四三、八生
男　武　明四四、一〇生
女　枝　大二、七生

君は鳥取縣人市橋龜藏の長男にして明治十九年二月を以て生れ大正八年家督を相續す先是明治四十二年早稻田大學政治經濟科を卒業し農業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅二千八百三十六圓を納む曩に大正鳥取銀行奬惠銀行各取締役たりし事あり家族は伺四男四郎（大一〇、八生）三女弘子（同一三、六生）五男英治（同一五、一一生）四女昌子（昭三、一一生）妹美代野（明三四、二生）弟寅博（同三八、三生）あり妹よし（同二三、九生）は同夫陽之助（同二一、七生、鳥取、岡本利七三男）と共に分家し弟茂雄（同二六、一〇生）同妻春野（同三六、一生、鳥取、本田岩藏四女）も亦一子を伴ひ分家し三男侃二（大八、三生）は前記陽之助の養子となり姉よし（明一四、一二生）は鳥取縣人伊東誠保に妹登美子（同三五、一二生）は大藏參與官豊田收に嫁せりA二五七三（鳥取縣東伯郡東郷村）

參照＝豊田收の項

市橋保次郎　舊江州西大路藩
正四位、子爵

妻　しげ　文久三、一二生、福井、浦五八郎長女
男　勝二　明二四、九生、福井銀行員、法學士
締　君子　明三二、五生、二男勝二妻、福井東郷秀太郎姪
男　敏雄　明二八、五生、醫學博士
婿　はるえ　明三二、四生、三男敏雄妻、福井東郷秀太郎二女
孫　孝子　大七、一二生、二男勝二長女

君は福井縣人市橋杢兵衛の二男にして元治元年一月を以て生れ明治十六年兄周治の後を承け家督を相續す夙に、福井縣會議員同縣參事會議長に擧げられ又同縣農工銀行取締役たりしも明治三十二年福井銀行頭取に就任以來政界及一切事業會社との關係を絶ち現時福井銀行頭取福井貯蓄銀行取締役兼福井信託會社々長として金融界に貢獻し推されて福井商工會議所議員たり家族は伺孫保（大一〇、二生、二男勝二二男）同榮子（同一三、九生、同二女）同治（同一五、七生、同四男）同典子（昭三、二生、同三女）同保雄（大八、五生、三男敏雄長男）同清（同一〇、二生、同二男）同正（同一一、八生、同三男）同治雄（同一三、五生、同四男）あり長男豫（明一九、七生）は其子女を伴ひ別に一家を創立し長女そと（同二二、二生）は福井縣人上坂巌に姪ちず（同一四、四生、亡兄周治長女）は同縣人松原勘右衛

門長男朝郎に嫁せりA九三八B九三七（福井縣今立郡南中山村電一〇二・鴨四四）

市原龜之助　織物卸問屋業
京都府在籍

妻　やす　明三一、五生、京都、上田安次郎長女
男　季一　大一〇、一一生

君は京都府人城戸政太郎の弟にして明治二十一年四月を以て生れ先代市原なみの養子となり大正十二年家督を相續し織物卸問屋業を營む家族は伺二男肇夫（大一四、二生）三男道三（昭三、三生）長女幸子（同六、三生）四男孝（同七、八生）ありA二三一B一二五（京都市下京區室町通佛光寺上ル電下七〇一〇・七〇一一）

市原重治郎　神奈川縣多額納稅者、東神冷凍製氷株取締役、鶏卵問屋業
神奈川縣在籍

妻　そよ　嘉永六、三生、千葉、横田與平治二女
男　保治郎　明二二、五生
女　まつ　明一五、一〇生
養子　令宣　明二八、六生、三女とめ夫、山梨中山武雄弟
女　とめ　明二四、四生、養子令宣妻

君は神奈川縣人市原重胤の四男にして嘉永六年十二月を以て生れ明治十三年分れて一家を創立す鶏卵問屋業を營み傍ら前記會社の重役にして神奈川縣多額納稅者に列し直接國稅千四百二十二圓を納む家族は伺孫重男（大一四、六生、養子令宣長男）あり二女たけ（明一九、九生）は熊本縣人入江永太郎に嫁せり（横濱市中區花咲町一ノ四電長者町一三六〇）

市原留吉　砂場、蕎麥商
東京府在籍

妻　はん　明二三、四生、東京、藤原造酒藏妹
男　準一郎　大七、一生
養子　巳之助　明三〇、一一生、東京、小林久次郎四男
婿　ヨ子　明三四、一二生、養子巳之助妻、東京、中島五兵衛孫

君は千葉縣人市原治郎作の三男にして明治七年四月を以て生れ同二十八年兄治郎吉方より分れて一家を創立す砂場と稱し蕎麥商を營む家族は伺二男健三郎（大八、三生）三男英男（同一〇、九生）孫幹子（同一二、一一生、養子巳之助長女）同謙一（同一五、一生、同長男）同基伊子（昭三、六生、同二女）同敏江（同五、一二生、同三女）同甫好（同八、二生、同三男）ありA四一一（東京市麹町區元平河町四電九段二一四）

市原宏　三井物産會社員
安政三、五生、群馬、士、江場義行二女
母　かね　明二七、八生、東京、宇津木忠三郎長女
妻　喬子　大八、七生
惠　大一四、一生
女　和惠

君は故朝鮮銀行總裁市原盛宏の長男にして明治十九年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す現時三井物産會社業務課員たり弟直彦（明三二、四生）は分家し姉次惠（同一七、九生）は香川縣人久保田吉律に妹みつ（同二三、一生）は三井銀行經理課長森忠雄に嫁せりA四一八（東京市四谷區大番町四三電四谷四〇八五）

參照＝久保田吉律、森忠雄※大澤幸次郎の項

市原求　市原喞筒製作所、機械製作業、東京府士族
母　よし　慶應元、三生、東京、入山藤兵衛妹
妻　はな　明三二、五生、埼玉、山口嘉三四女
男　正太郎　大一五、一生

君は東京府士族前田黑浦田電鍍會社長市原求の長男にして明治二十五年七月を以て生れ昭和二年家督を相續し製名して前名一郎を改む機械製作業を營み市原喞筒諸機械製作所の代表社員たり家族は伺二男昭雄ありA五五八（東京市日本橋區蠣殼町三ノ二電濱花九六〇）

市原理之　德島日日新報社主兼社長兼主筆
高知縣士族
妻　喜久衛　明三〇、一一生、東京、小林久次郎四男
男　通敏　明三二、五生、從六位、東北帝國大學助教授
男　幹二　明三八、二生、德島專賣局技手
男　敏雄　明四〇、一二生、德島郡耕地課囑託、京大出身

君は高知縣士族市原爲治の三男にして明治八年一月を以て生る曩に土陽新聞社編輯長たりしも現時轉じて德島日日新報社長兼主筆たり長女計子（明四三、九生）は水産試驗場技師宇田道隆に二女德子（大一一、一二生）は東北帝國大學助教授宮津純に嫁せり（德島市富田浦町東富田九一ノ一電二五五九）

市丸八郎　三越㈱銀座支店長
東京府在籍

妻　順　明三〇、四生、熊本、伊佐義基妹
男　陽太郎　大九、三生
女　壽子　大七、一生

君は佐賀縣人市丸嘉五郎の三男にして明治十九年十月を以て生れ明治四年朔章方より分れて一家を創立す明治四十四年山口高等商業學校を卒業し三越に入社し神戸支店長本店調査課員を經て現時課座支店長たり家族は伺二男章三郎（大一〇、一〇生）二女佳子（同一三、三生）ありA一〇七（東京市牛込區矢來町三〇電牛込一八二四）

市村一郎　小林鑄寸㈱常務取締役、山東火柴工廠、鑄寸商、兵庫縣士族
父　梅太郎　萬延元、一生、現戸主
母　羊　明二、二生、奈良、岡田喜久郎長女
妻　節子　明二六、七生、兵庫、小林忠雄姉
男　吉男　大三、八生
女　泰子　大四、一〇生

君は兵庫縣士族市村梅太郎の長男にして明治二十一年五月を以て生る同四十三年神戸高等商業學校を卒業し山東火柴工廠を經營し鑄寸商たり昭和九年二月小林鑄寸會社を設立し常務取締役に就任す家族は伺弟八郎（明三六、一〇生）同東九郎（同三九、五生）あり妹瀧（同二四、三生）は高知縣人山崎清藏に同冬（同二七、一二生）は同縣人古味元厚に同澄（同三〇、二生）は兵庫縣人戸田順也に同美代（同三二、五生）は同縣人中西瀧三郎に同八重（同三四、九生）は高知縣人船本晉に同花（同四一、一〇生）は愛知縣人鳥居龍馬に嫁せり（神戸市神戸區中山手通六ノ六八電元町二八一〇）

市村羽左衛門（錦太郎）

十五代橘屋、歌舞伎俳優
東京府在籍

妻　はる　明一四、一二生、東京、齋藤くめ養子
男　勇　明三八、二生、藝名、市村家橘
婿　スゞ　明四二、二生、長男勇妻、東京、朝岡健養子

君は東京府人和田惣八の孫にして明治七年十一月を以て生れ先代家橘（十四代目坂東家橘）の養子となり同二十六年家督を相續す本名を錦太郎藝名を羽左衛門と稱す明治十四年一月新富座に於て竹松と名乗り「菅原」の菅秀才に初舞臺を勤め同三十六年歌舞伎座に於て「船辨慶」に靜御前及知盛の靈を勤め十五代目羽左衛門を襲名す「お祭り佐七」「忍逢春雪解」の直侍「近江源氏」の盛綱「累」の與右衛門「玄冶店」の與三郎「五人男」の辨天小僧等は其當り役として推賞せらる競馬並に繪畫に趣味を有すA三五三六（東京市芝區西久保明舟町一九電芝一三四五）

市村慶三

從四位勳三等、鹿兒島縣知事
大阪府在籍

養父　貞藏　慶應二、一生、大阪、家村九一郎
二男　繼母　スミ　明一四、八生、京都、黒川傳之助妹
妻　カヅヲ　明一九、一〇生、養父貞藏長女
男　啓一　明四四、八生
女　淑子　大七、一二生

君は京都府人古川專太郎の三男にして明治十七年二月を以て生れ後市村貞藏の養子となり昭和三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格す同四十四年北海道警視となり爾來神奈川縣橘郡長千葉兵庫各縣理事官奈良縣警察部長皇宮警察長內務省參事官兼宮內事務官神奈川縣內務部長警視廳書記官々房主事等に歷任し福井愛媛三重各縣知事を經て昭和六年鹿兒島縣知事に任ぜられ今日に至る家族は尙三男良三（大五、一二生）四女千代子（同一〇、一〇生）養妹富貴（同五、八生）同信子（同九、三生）あり長女道子（明四二、一生、三輪田高女出身）は石川縣人大島弘夫に養妹ジャウ（同二三、九生）は大阪府人家村寛太郎長男清一に同マサ（同二七、四生）は同府人上田由太郎弟富三郎に嫁し養弟省三（同四一、一生）は奈良縣人田村文三郎の養子となり同一二（同四二、二生）は分家せり（鹿兒島市縣知事官舍）

市村瓚次郎

從三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授
茨城縣在籍

妻　キヨ　明五、一一生、東京、士、河野通二女
男　毅　明二五、六生、臺北帝國大學助教授、理學士　明三〇生、二男毅妻、宮城齋藤理助妹
婿　はぎの　明三三、七生、日本齒科醫專出身
男　崇　明四三、七生、四男崇妻、富山、林米五郎三女
婿　文　明三八、八生
男　厚　大二、一生、日本女大附屬高女出身
女　靜子

當家の祖は常州小田氏の家臣にして天正年間主家滅亡の後北條町に住し農を業とし世々名主役を勤めたる舊家なり君は先代庄次郎の長男にして元治元年八月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に渡東嶋小永井小舟の門に學び明治法律學校を經て同二十年東京帝國大學文學部古典講習科を卒業し學習院講師となり同二十五年同校教授に任じ東京帝國大學文科大學助教授を經て同三十八年教授に進み同四十四年文學博士の學位を受く前後五回支那各地に歷遊し東洋史家及支那學者として知られ支那史要東洋史要文教論集支那論集等の著書あり現時同大學名譽教授に推され帝國學士院會員に列す家族は尙孫麗子（大九、九生、二男毅長女）同朝子（同二一、一生、同二女）同理一（同一三、一生、同長男）同京子（同一四、三生、同三女）亡弟虎次郎妻のぶ（明一〇、一一生、茨城、栗原鐵三郎四女）あり七男靖（明四二、四生）は東京府士族河野通靖の養子となり長女貞子（同三五、一一生、三輪田高女出身）は同府人小笠原鎌次郎長男法學士光雄に妹とみ（同八、三生）は茨城縣人長島慎彌に同うた（同一三、一生）は福島縣士族松江豊藤に嫁し三男安（同二七、一一生、拓大出身）は分家し亡弟虎次郎の子女も亦各分家せり（東京市淀橋區諏訪町八〇）

參照＝小笠原光雄の項

市村塘（ツヽミ）

從三位勳三等、第四高等學校名譽教授、石川縣士族

妻　姚　明一四、一〇生、東京、士、櫻井純一長女
男　新　大元、一〇生

君は石川縣士族市村貞吉の男にして明治四年九月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十八年帝國大學理科大學植物學科を卒業し第二高等學校教授を經て第四高等學校教授たりしが昭和七年之を退き同校名譽教授の稱號を授けらる二女貞子（明三二、一一生）は東京府人工學士馬場榮夫に三女章子（同四二、八生）は石川縣人理學士廣根德太郎に妹外喜（同一三、二生）は同縣人陸軍少將福田榮太郎に嫁せり（金澤市母衣町一五電四〇〇四）

參照＝※金森德次郎の項

市村ふじ

平乃家、貿商
東京府在籍

君は東京府人蘆井由之助の五女にして明治十八年五月を以て生れ昭和八年夫爲吉の後を承けて家督を相續す平乃家と稱し貿商を營むA五八一B一七〇（東京市麴町區三番町七電九段九四九）

市村富久

法學博士、辯護士
東京府在籍

妻　たけ　明一六、四生、東京、荒木眞之助妹

君は埼玉縣人市村久平の二男にして明治九年十一月を以て生れ同三十五年分家して同三十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現に辯護士を業とす大正五年法學博士の學位を授けらるA一二一四（大阪市東區高麗橋四ノ三五電本局一三六五）

市村久雄

從四位勳二等、海軍中將
兵庫縣在籍

妻　きよ　明二四、三生、兵庫、梅田利邦妹
男　浩藏　大六、五生
女　菊重　明四五、一生

君は兵庫縣人市村正道の二男にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年家督を相續し同三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和三年海軍少將に累進す其間補縣逐艦長第二十七、二十九、二十二、二十一、一各縣逐隊司令龍田五十鈴各艦長佐世保鎮守府海軍々令部出仕海軍水雷學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員扶桑艦長第一水雷戰隊司令官海軍水雷學校長兼海軍通信學校長等に歷任し昭和九年一月鎮海要港部司令官に補せられ同年七月其職を免ぜらる家族は尙二男健次（大九、一〇生）三男洋三（同一三、一生）三女三和（同一五、八生）あり長女千鶴（明四三、一生）は岡山縣人香西精に嫁せり（明石市鍛冶屋町一六）

市村與市

金城女子專門學校長
愛知縣在籍

妹　ひでの　明一七、三生、岐阜、佐々木靜夫

君は長野縣人市村保三郎の二男にして明治十四年四月を以て生れ大正十二年兄咸人方より分れて一家を創立す夙に京都帝國大學文科大學を卒業し大正十年滬米し てシカゴ大學デュポー大學コロンビヤ大學にて教育學史學を研究し歐米各國印度支那等の學事を視察す現時金城女子專門學校長たり（愛知縣東春日井郡守山町小幡中新田二二二二）

市吉徹夫

山東鑛業㈱取締役、華昌公司㈲代表社員、魯大鑛業公司協理兼專務董事、三菱㈱北平駐在員、北平日本居留民會常務委員、大和倶樂部評議員、體育會評議員
東京府在籍

妻　アイ　明一七、八生、佐賀、士、澁谷祥三妹
男　讓夫　明四二、五生
女　永子　明四四、八生
男　亨　大二、一二生
女　延子　大八、二生

君は福岡縣人市吉傳十の二男にして明治十四年五月を以て生れ大正十年兄重太郎方より分れて一家を創立す明治三十七年早稻田大學英語政治科を卒業し同年九月報知新聞財政記者となり同三十九年四月東京日日新聞社に轉勤經濟記者同四十一年十一月礦山懇話會書記長同四十五年五月三菱合資會社に入社大正六年九月漢口支店副長に就任同七年十月同支店長同八年神戸支店長となる現時三菱合資會社北平駐在員にして兼て前記各會社の重役及公職に在り讀書及スポーツを趣味とす家族は尙三男重夫（大五、六生）四男領介（同一〇、六生）五男元一（同一二、五生）あり（青島龍山路新一號電四五二五）

櫟木幹雄

神戸商工會議所顧問、オリエンタルホテル、神戸海運集會所各㈱取締役、日本郵船㈱神戸支店長
山口縣士族

妻　泰子　安政五、三生、山口、士、二階九一郎二女
男　茂男　明二九、一生、靜岡、依田耕一妹婿
大八、七生

君は舊長州藩士櫟木政之輔の長男にして明治十七年一月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十七年東京高等商業學校を卒業し長崎高等商業學校教諭に任じ同三十八年日本郵船會社に入り爾來營業部副長內航課副參事同主事等に歷任し大正十五年神戸支店長となり今日に至る傍ら前記各會社の重役にして推されて神戸商工會議所顧問たり養に神戸商業會議所特別議員に擧げらる家族は尙二男榮二（大一一、八生）三男幹三（同一一、一生）あり妹チエ（明一九、長野縣人岩波泰雄弟武信に嫁し弟賢（同二一、八生）は山口縣人二階ツネの死跡を相續せりA二五五（神戸市下山手通八ノ三七ノ二七電元町四六七）

參照＝岩波武信の項

櫟原新輔

阪堺土地㈱取締役
大阪府在籍

妻　津屋　明一六、二生、京都、松本傳兵衛妹
男　敏雄　明三九、九生
婿　光子　明四三、九生、長男敏雄妻、大阪莞利兵衛妹
男　純之助　明四四、二生
女　ラク子　大六、二生

君は大阪府人櫟原新輔の長男にして明治十一年九月を以て生れ昭和八年家督を相續し前名恒太郎を改め襲名す以て生れ同四十二年家督を相續す同三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和三年海軍少將に累進す其間補縣逐艦長第二十七、二十九、二十二、二十一、一各縣逐隊司令龍田五十鈴各艦長佐世保鎮守府海軍々令部出仕海軍水雷學校教頭兼海軍艦政本部技術會議々員扶桑艦長第一水雷戰隊司令官海軍水雷學校長兼海軍通信學校長等に歷任し昭和九年一月鎮海要港部司令官に補せられ同年七月其職を免ぜらる家族は尙二男健次（大九、一〇生）三男洋三（同一三、一生）三女三和（同一五、八生）あり長女千鶴（明四三、一生）は岡山縣人香西精に嫁せり（明石市鍛冶屋町一六）

出井兵吉

衆議院議員（埼玉縣選出）、㈱取締役、埼玉縣在籍
道㈱
山口縣士族

妻　つる　明二九、一〇生、埼玉、桑野龍次郎姉
男　治人　明四二、七生
男　正人　大二、八生

君は埼玉縣人出井熊吉の三男にして明治四年六月を以て生れ同三十二年家督を相續す夙に慶應義塾に學び卒業後農業を營み埼玉縣山林會同教育會各副會長に擧げらる養に行田運送倉庫會社長に就任し埼玉縣會議員同副議長同議長に推さる昭和三年以來衆議院議員に當選すること三回立憲政友會所屬にして現に同寓埼玉縣支部長たり家族は尙三男一人（大八、九生）長女千賀（同一五、一一生）あり父熊吉（天保二、八生）母なつ（同四、四生、埼玉、蓮見伴兵衛四女）は共に分家し養妹つま（明三八、三生、東京、淺野まき私生子）も亦分家せり（埼玉縣北埼玉郡須影村）

出石於菟彥

從五位勳五等、警察講習所教授兼內務事務官、警保局勤務
岡山縣士族

妻　テイ　明三二、七生、新潟、川上佐太郎長女、新潟縣立長岡高女出身
男　純彥　大一〇、三生

君は岡山縣士族出石猷彥の三男にして明治二十五年八月を以て生れ昭和九年家督を相續す大正六年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し福岡縣警視廳警視山口栃木神奈川各縣理事官地方事務官茨城宮崎埼玉各縣書記官を經て昭和六年岐阜縣書記官に任じ警察部長を命ぜられしも同七年警察講習所教授兼內務事務官に轉じ警保局勤務を命ぜらる同八年滿洲國及關東州に出張せり家族は尙二男豊彥（大一三、九生）長女垣子（昭二、九生）あり姉節（明二二、九生）は岡山縣士族森義信弟

經次に同信(同一五、二生)は福岡縣士族松浦寛成に同義(同一七、九生)は香川縣人笠井健太郎に嫁し弟誠彦(同二九、二生、東洋文庫研究部員、早稲田大學教授、學習院講師)は分家せり(東京市麹町區三番町六ノ四電九段一五〇七)

出田勘次郎

熊本縣多額納税者、貿商
熊本縣在籍
男　子之吉　明二七、八生、出田金物店㊟監査役
婿　トヨ　明二六、九生、長男子之吉妻、熊本、中島友太郎二女
女　泰子　明四一、一一生
女　俊　明四四、三生
孫　マス　大七、一〇生、長男子之吉長女

君は熊本縣人出田彦太郎の長男同友次郎の兄にして慶應二年五月を以て生れ大正十一年家督を相續す貿商を營み熊本縣多額納税者に列し直接國税千三百二十一圓を納む曩に熊本商業會議所特別議員に推さる家族は尚孫彦吉(大六、三生、長男子之吉長男)同賢吉(同一〇三生、同二男)同慎次郎(同一二、八生、同三男)同昭一郎(昭三、七生、同四男)あり四男猪太郎(明三二、一一生)弟壽兵衛(同一六、九生)は各分家し四女八重(同三四、一一生)は熊本縣人中島友太郎に五女富美子(同四〇、三生)は同縣人荒木正雄に嫁せり(熊本市河原町三六電一八五)

参照＝出田友次郎の項

出田琢磨

住友銀行㊟新居濱支店長
熊本縣士族
母　モスメ　安政六、四生、熊本、士、出田大助長女
妻　政子　明三二、一〇生、福岡、村塚啓太郎長女
男　信夫　大八、九生
男　紺子　明四五、三生

君は熊本縣士族出田信記の二男にして明治十七年一月を以て生る同四十一年長崎高等商業學校を卒業し現時住友銀行新居濱支店長たり家族は尚二男襄(大一一、二生)三男長久(同一五、四生)二女悅子(昭四、九生)兄衛門(明一三、一生、現戸主)同妻ナカ(同二七、一一生、福岡、立花寛正六女)及其二子あり(愛媛縣新居郡新居濱町電話蘭七三)

参照＝立花寛正淡立花寛篤の項

出田友次郎

熊本縣多額納税者、出田金物店㊟代表取締役、雜貨商、熊本縣在籍
母　叔母　明一五、二生、熊本、村上彌三郎
妻　梅　明三八、一生、熊本、出田彦太郎孫
養子　敬七郎　明四二、四生、養子敬七郎妻、熊本、中山喜藤太二女
婿　タエ

君は熊本縣人出田彦太郎の二男同勘次郎同壽兵衛の弟にして明治十四年四月を以て生れ同十八年先代忠次郎の養子となり家督を相續す雜貨商を營み現時出田金物店代表取締役に列し直接國税千百三十一圓を納む家族は尚孫友三郎(昭四、四生、養子敬七郎長男)姉喜久(明五、九生)あり(熊本市河原町一一電㊟二六三・二六四)

参照＝出田勘次郎の項

出塚助衛

衆議院議員(新潟縣選出)、辯護士
新潟縣在籍
妻　タキ　明二四、二生、新潟、北村義雄妹
養子　助太郎　大一四、一二生、新潟、石黑壽太郎四男

君は新潟縣人出塚助太郎の長男にして明治十八年七月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十四年東京帝國大學法科を卒業し後大學院に學び辯護士獨法科を卒業し後大學院に學び辯護士を開業し今日に至る昭和七年郷黨より推されて兼議院議員に當選し現に立憲政友會所屬たり家族は尚弟祐助(明二八、二生)同妻久子(同三四、七生、岐阜、大葉久治姉)あり養子ミタ(同三九、五生、新潟、佐藤祐松養子)は同縣人伊藤伊八郎に妹レン(同二三、一二生)は同縣人石黑壽太郎に嫁せり(新潟市寺裏通二番町)

参照＝大葉久治の項

出原安太郎

廣島縣多額納税者、備後絹絲織物代表社員、呉服商、廣島縣在籍
婿　富子　明三六、五生、亡二男重郎妻、廣島、丸山茂助長女
孫　敬三　大一四、一〇生、亡二男重郎長男

君は廣島縣人出原常太郎の長男にして明治五年十月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す呉服商を營み縣下の多額納税者にして直接國税九百八十六圓を納め傍ら前記會社の重役を兼ね曩に貴品銀行取締役たりしことあり家族は尚孫澄子(昭三、五生、亡二男重郎二女)あり長女ツネヨ(明三六、八生)同夫富貴太(同三二、四生、廣島、平川長十郎孫)は分家せり(廣島縣芦品郡新市町電話四)

参照＝丸山茂助※丸山鶴吉の項

糸岡熊司

羅紗洋服商
大阪府在籍
妻　ヨシエ　明三、三生、奈良、岩田龜吉妹
男　康博　明四二、六生

君は奈良縣人糸岡菊松の兄にして元治元年一月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す羅紗洋服商を營む長女タマエ(明二五、一〇生)二女節子(同三六、一生)は各分家し庶子欣一(同四五、七生)は其生母京都府人古川マサの養子となれりA一六八〇(大阪市東區谷町三ノ一電六六〇八)

糸賀庄治郎

茨城縣多額納税者、茨城農工銀行㊟取締役、農業、茨城縣在籍
妻　サダヲ　明一六、一二生、栃木、白石莊藏妹、東京女學館出身
男　悌治　明四〇、一二生、札幌地方裁判所豫備判事、法學士
男　順二　明四三、一生、東京商大在學
男　宜三　明四五、二生、慶大醫學部在學

當家は土地の豪農にして代々苗字帶刀を許され先代彌惣兵衛に至る君は糸賀豊三郎の長男にして明治九年四月を以て生れ同四十一年伯父彌惣兵衛の後を承け家督を相續す同三十三年東京法學院を卒業し農業を營み傍ら茨城農工銀行の重役を兼ね直接國税千七百八十七圓を納め縣下の多額納税者たり養に石岡銀行取締役に擧げらる謠曲を趣味とす家族は尚五男智男(大九、一生府立五中在學)あり長女孝子(明三六、六生、跡見女學校出身)は茨城縣人穂積大城に姥けん(同八、二生)は同縣人原宇一郎に妹ぬい(同一三、一二生)は同縣士族穂積本助養子竹次郎に嫁し南文一(同一五、八生)は東京府人木南とらに同格之助(同二〇、二生)は栃木縣人

手塚巌吉に各養子となれりA一二六三(茨城縣筑波郡田井村)

参照＝※關謙吉の項

糸賀庄造

大堀共立銀行㊟常務取締役、第九十八銀行㊟取締役、日本晝夜銀行㊟監査役、茨城縣在籍
母　てゝ　萬延元、八生、茨城、川崎平藏二女
妻　きく　明二九、一一生、茨城、川井幸助長女
女　元子　大八、九生

君は茨城縣人糸賀常七の二男にして明治十八年一月を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現時前記各銀行の重役たり養に正隆銀行取締役大建商工會議所議員關東廳經濟調査委員同土地調査委員等に擧げらる家族は尚兄半兵衛(明一六、七生、現戸主)同妻さた(同二二、七生、茨城、吉川倉之助四女)及其七子弟常次郎(同二六、四生)ありA四六〇(岐阜市長良一二電一七〇六)

糸雅俊三

正五位勲五等、商工技師、工務局勤務、埼玉縣在籍
母　すか　安政元、三生、埼玉、横田勇藏三女
妻　ひで　明二一、七生、埼玉、奥貫喜市四女
女　先枝　大四、一生
女　成枝　大六、一一生

君は埼玉縣人糸雅保太郎の二男にして明治十八年五月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正二年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し同七年栃木縣立宇都宮中學校教諭となり同十年農商務技師に轉じ同十四年商工技師に任ぜられ現に工務局勤務にして中央度量衡檢定所福岡支所長たり家族は尚三女幸枝(大九、四生)四女しげる(同一二、二生)弟仁一(明二〇、五生)同妻はる(同三〇、二生、埼玉、新井武平四女)及其子女あり(福岡市藥院堀端中央度量衡檢定所福岡支所内)

糸川龜之助

和歌山縣多額納税者、紀陽織布㊟代表取締役、糸川商事㊟取締役、湯崎温泉文理土地㊟監査役、綿絲商、和歌山縣在籍
男　敏夫　明四二、一生
女　英子　明四四、三生

君は和歌山縣人太田長之助の弟にして明治八年九月を以て生れ先代とくえの入夫となり同二十九年家督を相續す綿絲商を營み傍ら現時前記諸會社の重役にして和歌山縣多額納税者に列し直接國税七百十七圓を納む養子芳一郎(明二一、四生、和歌山、小川伊三郎長男)は其妻子を伴ひ分家し三女信枝(同三四、一一生)四女千代(同三七、二生)も亦分家せり(和歌山市新通五ノ一八電二七)

参照＝糸川芳一郎の項

糸川恭平

豊德驛絡㊟取締役會長
東京府在籍
妻　かめ　明二六、五生、三重、渡邊幸二養母
女　和子　大四、一生、東洋英和女學校出身
女　澄子　大六、一〇生、東洋英和女學校在學

君は三重縣人糸川周藏の二男にして明治十九年十二月を以て生れ昭和四年叔母つゆ方より分れて一家を創立す年少にして英國に就き牛津大學に學び政治經濟學を專攻歸朝後伊藤博文公の知遇を受け朝鮮統監府に奉職せしも公務後官を辭して實業界に投じ現時豊德驛絡會社取締役會長にして養に日本鐵道事業會社專務取締役南洋產業會社取締役たり海外に渡航すること數次中華民國蔣介石氏と親交あり又俳句に長じ个字と號す家族は尚三女麻子(大一四、八生)あり(東京市澁谷區繁國町一一)

糸川正鐵

辯護士
東京府士族
妻　シン　明一四、四生、鹿兒島、士、故從三位錦鄕間祇候川路利恭長女、御茶の水高女出身
男　正三　明三八、七生、慶應大學經濟學部出身
女　鐵　明四二、七生、御茶の水高女出身
花　明四四、八生、聖心女子學院出身

君は東京府士族糸川立達の長男にして明治二年十月を以て生れ同三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し辯護士となり訴訟事務に從事し令名あり傍ら現時シネマ銀座を經營す養に東京市會議員に擧げらる謠曲を趣味とす養妹はつ(明一四一二生、東京、糸川鐵之助長女)は北海道人工學士福岡常治郎に嫁せりA九六四(東京市芝區新堀町三電三田三七〇三)

参照＝※淺野利愛の項

糸川芳一郎

和歌山商工會議所議員、糸川商事㊟社長、三谷屋㊟取締役、大阪三品取引所取引員、和歌山縣在籍
妻　婿美子　大七、一二生
男　誠一　大六、三生
女　潤　明三二、八生、養父龜之助二女

君は和歌山縣人小川伊三郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ和歌山縣人糸川龜之助の養子となり大正六年分れて一家を創立す三谷屋と稱し大阪三品取引所一部取引員にして現に糸川商事會社長たり又和歌山商工會議所議員に擧げらる(大阪市東區唐物町二ノ三六電船場六九〇)

参照＝糸川龜之助の項

糸園又五郎

中津市會議員、中津商工會議所副會頭、大分縣多額納税者、呉服太物商、大分縣在籍
養父　辰次郎　安政四、三生、現戸主、豊中製絲㊟取締役
妻　ナカ　明一九、六生、大分、宇佐美貫一妹
男　恒吉　明三四、一二生、長男恒吉妻、和歌山、佐々木政二郎二女
婿　ミチ　大二、八生

君は大分縣人秋吉菊之助の弟にして明治十年九月を以て生れ同三十二年現戸主辰次郎の養子となる呉服太物商を營み直接國税六百八十九圓を納め縣下の多額納税者に列し推されて中津市會議員中津商工會議所副會頭たり養に同市參事會員に擧げられ耶馬渓鐵道會社監査役たりし事あり家族は尚四女春子(大九、二生)五女富子(同一一、四生)孫和子(昭五、八生、長男恒吉長女)の外養弟朝郎(明三二、一生)同妻アキ(同三九、一〇生、大分、久家常藏三女)同欣二(同三四、三生)同妻

ミツ（同四三、一生、大分、跡田直一三女）同和三郎（同四四、八生）養妹敏子（大三、三生）養弟辰雄（同七、七生）あり養姉コト（明一九、八生）は大分縣人武内善治に養妹シゲ（同三六、七生）は同縣人佐藤定雄長男弘に同孝（同三八、五生）は同縣人跡田顯八に嫁せり（中津市古博多町一五八〇電四「別宅」同市豊田町七二五電一六一）

参照＝跡田直一の項

糸永文吉

日本建機㈱取締役、日本鋼鐵家具㈱監査役、大分縣士族

妻　テイ　明一九、三生、東京、田島勝次郎長女

君は大分縣士族糸永臺博の二男にして明治二十一年二月を以て生れ同四十一年兄新の後を承け家督を相續す夙に實業界に入り現時日本建機會社取締役の外前記會社の重役にして曩に三建工業會社長たりし事あり弟辰三（明二五、四生）同元造（同三〇、一二生）は各分家せりA二七三（東京市豊島區西巣鴨四ノ一八三電大塚二一〇二）

糸嶺篤弼

沖縄縣多額納稅者、沖縄興業銀行㈱監査役、沖縄縣在籍

養母マカヤト　明四、一二生、沖縄、士、鉢嶺清全長女、現戸主

男　篤温　大一〇、五生

君は沖縄縣人糸嶺篤の養孫にして明治二十四年七月四日を以て生れ同三十三年當家に養子となる現時沖縄興業銀行監査役にして直接國稅百十圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尚二男篤正（大一二、八生）長女惠美子（同一五、一二生）庶子登美（同九、一一生、生母仲宗根カマト）同篤順（同一三、九生、生母同上）あり（那覇市久米町一ノ二）

絲原武太郎

貴族院議員、島根縣多額納稅者、松江銀行㈱頭取、簸上鐵道㈱社長㈱監査役、雲陽電氣㈱取締役、農業、島根縣在籍

妻　律　明二〇、一一生、島根、木佐德三郎五女

男　義隆　大八、九生

女　壽子　明四二、八生

女　幸子　大元、一二生

君は島根縣人江角勝太郎の二男にして明治十二年十一月を以て生れ先代太郎の養子となり同四十四年家督を相續し前名衣郎を改め襲名す農業及製炭業を營み直接國稅四千四百二十四圓を納め縣下の多額納稅者にして大正十四年貴族院議員に互選せらるゝ事二回現に其任にあり現時松江銀行頭取簸上鐵道會社の重役として知らる曩に藍綬褒章を賜はる家族は尚二男清久（大一一、五生）三男邦之（同一三、一〇生）あり長女道子（明四一、二生）は島根縣人佐久右衛門長男祥道に三女吉子（同四三、一二生）は同縣人絲原諒に嫁せり（島根縣仁多郡八川村電三成一〇）

参照＝木佐德三郎、三島祥道の項

稲生豊作

慶應義塾大學醫學部附屬病院藥局長、藥劑師、東京府在籍

母　よね　明三一、一生、一柳直義二女

妻　はな　松長女　大七、七生、神奈川、清水彌三郎

男　豊滿　大七、七生

君は東京府人稲生豊次郎の二男にして明治十九年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す同四年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し現時慶應義塾大學醫學部附屬病院藥局長たり家族は尚長女雪枝（大九、八生）二女彌生（同一一、三生）二男正春（同一四、一生）同五郎（同二八、六生）同六郎（同三八、八生、秋田、御園哲也二女）及其子女弟六郎（同二九、一〇生）同妻ドルシー・ハッソン（同三〇、五生、英吉利、フランシス・ハッソン長女）あり姉はつ（同一六、一一生）は子爵大浦兼一に嫁せりA三八二（東京市四谷區内藤町一電四谷五四七六）

参照＝子爵大浦兼一の項

稲垣市兵衛

池田家、酒類商

妻　郁　東京府在籍　明一三、七生、東京、渡邊六兵衛

男　道太郎　明三三、八生、成蹊專門學校出身

男　郁二郎　明三七、八生、慶大高等部出身

女　民　明四二、六生、日本女大出身

君は東京府人稲垣豊次郎の二男にして明治十四年家督を相續す同四十年東京帝國大學醫學部附屬病院藥局長女雪枝（大九、八生）二女彌生（同一一、三生）二男正春（同一四、一生）同五郎（同二八、六生）同六郎（同三八、八生、秋田、御園哲也二女）及其子女弟六郎（同二九、一〇生）同妻ドルシー・ハッソン（同三〇、五生、英吉利、フランシス・ハッソン長女）あり姉はつ（同一六、一一生）は子爵大浦兼一に嫁せりA三八二（東京市四谷區内藤町一電四谷五四七六）

参照＝子爵大浦兼一の項

稲垣重厚

正五位、子爵、舊江州山上藩

母　元子　明四一、一〇生、子爵黄邊英綱叔母

妻　竹代　明五、一〇生、子爵黄邊英綱叔母

當家は稲垣平右衛門長茂の二男若狭守重太の後なり重太別に一家をなし江州山上一萬三千石に封ぜらるそれより十代を經て先代太祥に至り明治十七年子爵を授けらる同二十五年以來貴族院議員に當選する事六回に及び研究會に屬し又宮内省華族局御用掛となる多技にして殊に南畫は闌圍と號し斯界に重きをなせり君は太祥の長男にして明治三十二年一月を以て生れ大正十二年東京帝國大學文學部社會學科を同十五年同法學部英法科を卒業し昭和七年家督を相續し襲爵被仰付音樂に趣味を有す家族は尚姉冬子（明二九、八生）あり姉夏子（同二七、六生）は石川縣人岡榮一郎に嫁せり（東京市小石川區關口臺町七四電牛込一五九八）

参照＝子爵黄邊英綱、石崎丈太郎、大谷勝眞※子爵永井尚敏の項

稲垣重太郎

從五位、勳六等、兵庫縣書記官、警察部長、鳥取縣在籍

妻　つね　明五、一〇生、鳥取、松田利三郎養子

男　泰博　明三〇、三生、東京、池定博妹

君は鳥取縣人稲垣博愛の長男にして明治二十六年四月を以て生れ大正九年家督を相續す同六年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し長野縣理事官となり爾來宮内事務官内省參事官宮室林野管理局事務官兼宮内事務官岡山地方事務官等に歷任し北海道廳部長警察部長富山縣長秋田縣書記官警察部長北海道廳書記官警察部長等を經て昭和九年現職に轉ず家族は尚二男剛（大一五、七生）弟英吉（同四一、九生）妹翠（大四、三生）あり（兵庫縣警察部長官舍）

稲垣庄三郎

京都府多額納稅者、稲垣商店、呉服商、京都府在籍

妻　ウタ　明一四、一〇生、京都、稲垣藤兵衛從姉

君は京都府人中村喜三郎の二男にして明治十二年一月を以て生れ先代エキの養子となり同三十九年家督を相續す稲垣商店と稱し呉服商を營み京都府多額納稅者に列すA一一三八B一七六四（京都市中京區室町通御池下ル電本局四〇〇四）

参照＝稲垣藤兵衛の項

稲垣信一

染呉服商、京都府在籍

妻　ふさ　明二七、一生、滋賀、芝田孫右衛門長女

女　定子　大八、八生

君は京都府人稲垣量三の五男にして明治二十年十二月を以て生れ大正二年兄謙三郎方より分れて一家を創立す染呉服商を營むA七二六B二〇四（京都市中京區室町通六角下ル電本局一三二五）

稲垣末吉

稲垣末吉鍊銅工場、鍊鐵業、東京府在籍

妻　しま　明一二、四生、三重、北村勘十良三女

男　菊太郎　明四四、七生

男　ゑい　大二、六生

君は三重縣人稲垣伊兵衛の五男にして明治十年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す前記工場を經營し鍊鐵業を營む二女長（明四二、七生）は東京府人稲垣邦太郎の家籍に入れりA八三三B一〇〇（東京市京橋區月島西河岸通六ノ八電京橋六三四三）

稲垣征夫（イクヲ）

從五位、拓務書記官、朝鮮部第二課長兼殖産局交通課長、南滿洲鐵道株式會社監理官、長野縣士族

妻　文子　皓三　明治五、五生、東京雙葉高女出身　昭二、二生

君は長野縣士族にして明治三十年一月を以て生る大正十年東京帝國大學法學部英法科を卒業し文官高等試驗に合格農商務屬を經て昭和五年拓務書記官に任ぜられ殖産局第一課長農林課長東洋拓殖株式會社監理官を經て現時朝鮮部第二課長にして殖産局交通課長滿鐵監理官を兼ぬ柔道（四段）ボート野球ゴルフ闘碁將棋等に趣味を有す家族は尚二男舜三（昭三、一二生）三男雄三

妻　ツネ　明五、一〇生、東京、神藤濱藏四女

養子　鑒次郎　明二四、七生、三女キミ夫、東京松井安五郎二男

女　キミ　明二七、六生、養子鑒次郎妻

君は東京府人稲垣與兵衛の長男にして慶應二年七月二十七日を以て生れ明治三十七年家督を相續す種金と稱して糧荷商を營む曩に東洋青物市場の監査役たりしことあり家族は尚孫金二（大四、二生、養子鑒次郎長男）同安三（同六、二生、同二男）同鉦三郎（同八、一生、同三男）同義夫（同一二、一生、同四男）同錠吾郎（昭二、一一生、同五男）あり四女トミ（明三二、一生）弟八左衛門（同一五、六生）同彦太郎（明四、九生）は各分家し妹いき（同一三、二生）は東京府人照井國太郎に嫁せりA五〇三（東京市中野區本町通三ノ一五電中野二一一五）

稲垣三郎

正四位、勳一等、功二級、陸軍中將、別當、閑院宮附、島根縣在籍

妻　テウ　明一一、四生、東京、藤森吉兵衛養子

男　武雄　明二七、七生

婦　數子　明三七、一〇生、長男武雄妻、東京、長澤光男姉

〃　女　德子　明四三、一生

女　澄子　大七、四生

君は島根縣人稲垣了齋の長男にして明治三年五月六日を以て生れ同三十年家督を相續す同二十五年騎兵少尉に任じ累進して大正八年陸軍中將に陞る其間參謀本部々員皇族附武官騎兵第一聯隊長印度駐在武官英國大使館附武官騎兵第一旅團長國際聯盟帝國陸軍代表等に歷補し後豫備役に編入せらる昭和三年七月閑院宮御用掛を經て同宮家附別當校仰付現在に及ぶ家族は尚四男男四郎（大一一、二生）孫敬雄（昭二、七生、長男武雄長男）同禮子（同三、九生、同長女）あり二男正武（明三二、二生）は外祖父藤森吉兵衛の養子となり弟豊（同一四、三生）もまた大阪府人岡田鴻三郎に各養子となり男操（明一五、一〇生、離縁養弟久三郎長男）同妻千代（同二九、三生、東京、大生壇城妹）は其三子を伴ひ分家せり（東京市澁谷區瑩通二ノ四四電青山八四八）

稲垣庄三郎

從五位、勳六等、兵庫縣書記官、警察部長、鳥取縣在籍

妻　つね　明五、一〇生、鳥取、松田利三郎養子

男　泰博　明三〇、三生、東京、池定博妹

君は鳥取縣人稲垣博愛の長男にして明治二十六年四月を以て生れ大正九年家督を相續す同六年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し長野縣理事官となり爾來宮内事務官内省參事官宮室林野管理局事務官兼宮内事務官岡山地方事務官等に歷任し北海道廳部長警察部長富山縣長秋田縣書記官警察部長北海道廳書記官警察部長等を經て昭和九年現職に轉ず家族は尚二男剛（大一五、七生）弟英吉（同四一、九生）妹翠（大四、三生）あり（兵庫縣警察部長官舍）

稲垣潤太郎

從五位、勳六等、兵庫縣書記官、警察部長、鳥取縣在籍

妻　ゑい　明三一、一生、神奈川、清水彌三郎長女

男　郁二郎　明四四、七生

君は東京府人稲生豊次郎の二男にして明治十九年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す同四年東京帝國大學醫學部附屬病院藥局長女雪枝（大九、八生）二女彌生（同一一、三生）二男正春（同一四、一生）同五郎（同二八、六生）同六郎（同三八、八生、秋田、御園哲也二女）及其子女弟六郎（同二九、一〇生）同妻ドルシー・ハッソン（同三〇、五生、英吉利、フランシス・ハッソン長女）あり姉はつ（同一六、一一生）は子爵大浦兼一に嫁せりA三八二（東京市四谷區内藤町一電四谷五四七六）

参照＝子爵大浦兼一の項

稲垣金四郎

種金、種苗商、東京府在籍

君は東京府人稲垣美郷の二男にして明治七年四月を以て生れ先代市兵衛の養子となり同三十年家督を相續し前名六郎を改め襲名す池田屋と稱し酒類商を營む（東京市淺草區新福富町七）

参照＝渡邊六兵衛の項

稲垣市郎

地主、東京府士族

父　三郎　慶應二、八生

母　ミネ　明八、七生、東京、丸山源藏二女

妻　よし子　明四一、三生、千葉、小池清四郎長女

男　新　昭二、一二生

君は東京府士族稲垣三郎の長男にして明治三十四年一月十六日を以て生れ昭和三年家督を相續す地主たり家族は尚長女知子（昭五、一生）二女扉子（同六、一〇生）三女亘子（同九、一生）ありA五〇五（東京市牛込區市谷富久町一四電四谷二九）

稲垣清

正四位、勳三等、功四級、陸軍中將、東京府在籍

妻　喜美尾　明一七、一生、東京、士、岩根榮一姉

男　健一　明四〇、八生、陸軍二等軍醫

男　茂雄　明四四、六生、明大商科出身

女　歌子　大四、六生、實踐高女出身

君は東京府人稲垣道生の長男にして明治八年六月を以て生れ同二十六年家督を相續す同二十九年陸軍士官學校を卒業し同三十年陸軍歩兵少尉に任じ大正十五年陸軍中將に累進し豫備役に編入せらる其間明治三十五年陸軍大學校を卒業し陸軍士官學校同歩兵學校各教官若松聯隊區司令官歩兵第二十四聯隊長第十二師團參謀長歩兵第十三旅團長第十八師團司令部附等に歷補す家族は尚三男寛（大九、九生）六女庸子（同一二、五生）あり長女愛子（明三五、一二生）は福岡縣人商學士木内勝次に三女喜代子（同三八、三生）は福岡縣人文學士法學士高市慶雄に四女美智子（大元、一〇生）は愛媛縣人文學士法學士高市慶雄に四女美智子（大元、一〇生）は和歌山縣人赤桐貞次に嫁せり（東京市杉並區阿佐ケ谷三ノ五〇五）

稲垣金四郎

種金、種苗商、東京府在籍

(同六、一生)四男惠三(同九、一生)あり(東京市淀橋區十二社三〇〇電四谷二七二二)

稲垣孝照　從四位勳二等功五級、陸軍中將、第三師團司令部附、愛媛縣士族
明二四、二生、兵庫、小林吉右衛門長女
男　孝正　大三、三生
女　春枝　大四、四生

君は愛媛縣士族稲垣孝德の長男にして明治十一年九月を以て生れ同二十六年家督を相續す同三十四年陸軍歩兵少尉に任じ昭和八年陸軍中將に累進す其間日露戰役に從軍し**登極**天皇附武官**龍**本地方幼年學校長中央幼年學校訓育部長士官學校豫科訓育部長名古屋聯隊區司令官近衛師團司令部附日本大學服務歩兵第三十八聯隊長第十師團司令部附歩兵第十旅團長陸軍士官學校長等に歴補し昭和九年現職に轉ず長女照子(明四四、七生)は**鶴**岡縣人小幡靖に嫁す(名古屋第三師團司令部留守部内)

稲垣武二　住友信託㈱本店檢査役
妻　しか　兵庫縣在籍
男　哲也　明二〇、一〇生、兵庫、三澤清次郎長女、四生
女　政子　明四〇、四生
女　郁子　大二、二生
大四、一〇生

君は兵庫縣人稲垣久太郎の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正五年家督を相續す現時住友信託會社檢査役にして義に同社副支配人たり家族は尚二男眞也(大七、七生)四女節子(同一〇、一一生)ありA二一八(兵庫縣武庫郡御影町郡家地藏元六五ノ一)

稲垣爲三郎　京都拓殖㈱取締役、第一工業製藥㈱監査役、稲垣㈱無限責任社員
母　クニ　京都府在籍
妻　さた　慶應三、六生、京都、井澤治助養叔母
男　泰夫　明二九、七生、京都、森治兵衛長女、京都市立第一高女出身
大六、八生

君は京都府人稲垣貞治郎の二男にして明治二十二年十二月を以て生れ同三十九年家督を相續す夙に京都府立第一商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尚長女明子(大九、一一生)二男博三(同一三、四生)四男恭三(昭五、六生)弟玄三郎(明二六、七生、三井物産會社員、慶應義塾出身)同妻千智子(同三五、一〇生、大阪、山中吉兵衛二女、大阪府立梅田高女出身)及其子女ありA四七九(京都市中京區兩替町通三條上ル電本局三〇六五)
參照＝※今西與兵衛※大川金七の項

稲垣丹次郎　地主
妻　こう　東京府在籍
養子　順造　明三五、九生、養父喜右衛門長女明三六、六生、養子ゑつ夫、神奈川、栗田傳兵衛三男
養子　ゑつ　明三六、三生、養子順造妻、千葉田島開三郎長女

君は東京府人二葉甚藏の二男にして同喜太郎の弟なり明治元年十一月を以て生れ先代喜右衛門の養子となり同四十一年家督を相續す地主として知られ曩に東京株式取引所取引員にして稲垣株式店を經營せし事あり家族は尚孫喜久枝(昭四、一生)同二女ありA二七三一(東京市葛飾區金町一ノ一一五一電新宿一五六)
參照＝栗田傳兵衛、二葉喜太郎の項

稲垣長次郎　正四位勳三等、醫學博士、稲垣內科小兒科醫院主、醫師
妻　八重　愛知縣在籍
男　長典　明二〇、一生、東京、士、山口辰彌二女、學習院女學部出身
女　定子　大元、九生、北海道帝大農科在學
女　和子　大三、七生、女子學習院高等科在學
大七、一一生、女子學習院在學

稲垣家は遠く足利時代より愛知縣下櫻井郷に定住し累代醫を勤め苗字帶刀を許されたる素世地主農として大庄屋を勤め苗字帶刀を許されたる素封家なり君は先代禮治の長男にして明治八年二月を以て生れ同三十七年東京帝國大學醫科大學を卒業し次で獨逸に留學する事四箇年同四十一年論文を提出して醫學博士の學位を授けらる曩に臺灣總督府臺北醫院長たりしが後官を辭し京橋區內に稲垣內科小兒科醫院を經營して今日に及ぶ家族は尚弟長止郎(明一八、一生、三菱重工業株式會社參事、工學士)同妻幹子(同二八、一生、東京、士、野口保興長女)及其二子弟長悟郎(同二四、一〇生、法學士)同妻照代(同三二、一一生、愛知、太田穂九郎二女)あり長女鑒子(同四一、六生、女子學習院出身)は小野田セメント會社長笠井眞三長男工學士康一に二女廣子(同四四、二生)は臺灣農科大學教授足立仁弟農學士忠に養子たま(同三二、三生、愛知、糟谷廉一妹)は愛知縣人中川惣左衛門に妹しげ(同一二、一一生)は同縣人原田鈔太郎に嫁せりA一八二〇(東京市大森區新井宿一ノ二二七二電大森七五二)
參照＝原田鈔太郎の項

稲垣鉄五郎　家主
妻　ろく　東京府在籍
男　重造　明五、四生、東京、安藤平三郎妹明三四、四生
婦　ホセフイーナ　明四二、六生、二男重造妻、屬西哥它ルイスゴンサーガポルテイー二女
男　三郎　明三六、八生
婦　トミ　明四四、三生、三男三郎妻、千葉高澤喜藤次二女

君は東京府人稲垣清吉の長男にして慶應二年十一月九日を以て生れ明治十六年家督を相續す家主たり家族は尚孫哲哉(昭七、三生、三男三郎長男)同明子(同九、一生、同長女)同治子(同九、一生、同二女)あり六女保子(明三八、八生)は岩手縣人齋藤誠二に嫁せりA九五三(東京市豊島區巣鴨六ノ一四五五電大塚八八一)

稲垣藤一郎　家主
母　とく　愛知縣在籍
妻　萬延元、五生、愛知、兒玉半右衛門三女
男　藤政　大三、九生

君は愛知縣人先代稲垣藤吉の長男にして明治二十二年一月を以て生れ同四十一年家督を相續す家主たり家族は尚二男三郎(大一五、一一生)あり(名古屋市東區富士塚町二ノ一二)

稲垣藤兵衛　資產家
母　アキ　京都府在籍
男　晋三　明三、八生、養祖父藤作二女
大五、六生

君は前京都商工會議所會頭故稲垣恒吉の長男にして明治二十五年三月を以て生れ先代藤兵衛の養子となり同三十一年家督を相續す曩に稲垣合名會社々長たり養祖母エキ(天保一二、二生、京都、山本伊兵衛五女)は分家し其養子庄三郎當主にして從姉ウタ(明一四、一〇生、伯父貞二郎長女)は前記エキの養子となれりA一八一六(京都市上京區竹屋町通豬の熊東入電西陣五五二)
參照＝稲垣庄三郎の項

稲垣利恭　萬恭堂、書畫骨董商
妻　まん　東京府在籍
男　利喜太郎　明二一、一〇生、東京、稲垣榮次郎二女
女　芳子　大一二、三生
女　康子　大三、六生
大七、一生

君は東京府人青木芳齋の三男にして明治十三年十月を以て生れ同四十一年先代まんの入夫となり家督を相續す萬恭堂と稱し書畫骨董商を營む家族は尚五女利子(昭五、三生)ありA四三六B二二五(東京市本郷區湯島天神町二ノ三〇電下谷四八三)

稲垣友枝　稲垣商會主、機械商
妻　みね　兵庫縣在籍
養子　俊子　明一六、五生、兵庫、高島太介二女
大七、一生

君は東京府人稲垣喜多藏の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十八年京都帝國大學理工科大學機械科を卒業し現時稲垣商會と稱し大阪に於て機械輸入及製造業を營む家族は尚三女房子(大一〇、一生)あり長女郁子(明四二、一〇生)は兵庫縣人京都帝國大學工學部助教授津枝正介に嫁せりA一七一(兵庫縣武庫郡御影町榎本一三一八電御影四〇四三)

稲垣長昌　從三位、子爵
舊志州鳥羽藩

稲垣茂一　正五位勳五等、朝鮮總督府編修官
母　コトラ　兼同視學官、學務局編輯課長
妻　シゲ　香川縣在籍
男　宏　明四五、六生
女　昭子　萬延元、六生、香川、木村敎次郎二女
明二一、二生、東京、穴倉喜代松長女

君は香川縣人稲垣辨藏の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十六年香川縣師範學校を同四十一年東京高等師範學校本科國語漢文科を各卒業し東京市明石小學校長を經て同四十三年文部屬となり大正六年東京高等師範學校敎諭を歴任し爾來奈良縣女子師範學校敎諭を歴任し昭和三年朝鮮總督府編修官兼同學校各校長等に歴任し昭和九年朝鮮總督府編輯課長に轉じ今日に至る家族は尚四男懋(大六、一〇生)二女倭子(同九、三生)三女道子(同一一、二生)四女富子(同一三、一生)五男徹(同一五、四生)六男衛(昭三、六生)弟規矩郎(明三〇、八生)あり妹やすえ(同二七、一〇生)は香川縣人佐々木豊に嫁せり(京城府朝鮮總督府學務局編輯課內)

稲垣洋一郎　樺太養狐㈱取締役、田中車輛製作所東京代表者、東京府在籍
妻　良　明二〇、二生、東京、竹內市太郎妹
男　幾太郎　明二七、三生、大日本製糖㈱技師農學士
婦　禰惠　明三七、八生、長男幾太郎妻、茨城、菊池輝男妹
女　美智子　明四三、八生

君は廣島縣士族松本政介の三男にして明治元年十月十五日を以て生れ同十八年岡山縣人稲垣平衛の養子となり同二十九年分れて一家を創立す明治二十四年慶應義塾を卒業し三井銀行に入社名古屋支店次長に進みしも後磷酸肥料會社支配人となり同四十二年横濱電氣鐵道會社理事に轉じ現時樺太養狐會社取締役田中車輛製作所東京代表者たり義に日本ティプ紡績會社重役たりし事あり家族は尚孫宏(大一五、一生、長男幾太郎長男)同美穂子(昭六、四生、同長女)あり長女敎子(明二九、七生、府立第三高女出身)は東京府人法學士西村活郎に二女精子(同三二、二生、出身校同上)は靜岡縣人法學士岩城茂に三女公子(同三七、四生、聖心女子學院出身)は岡山縣人渡邊馬太郎長男一彦に嫁せり(東京市芝區二本榎町二電高輪四八六)

稲掛傳之助　資產家
妻　とよ　大阪府在籍
男　傳三郎　明四五、三生、關西學院出身
女　明一四、三生、兵庫、鍛治喜七三

君は大阪府人稲掛傳兵衛の長男にして明治十三年八月十一日を以て生れ同四十四年家督を相續す資產家たり家族は尚二男傳次郎(大四、六生、和歌山高商在學)あり二女ヒサエ(明四三、八生)は兵庫縣人醫學士鍋島秀雄に嫁せりA三二八(大阪市西區阿波堀通五ノ四九電新町二九九〇)

稲勝清三郎

天龍木材㊣專務取締役、天龍製鋸村中木材商事㊣取締役、材木商
妻　せい　静岡縣在籍　明一二、七生、静岡、野崎藤太郎妹
男　正太郎　明三四、四生、天龍木材㊣東京支店員、早稲田大學專門部政治經濟科出身
婿　なか　明三八、一二生、長男正太郎妻、静岡、池田保平長女
男　孝　明四〇、一一生、慶應義塾高等部出身
女　千代　明四二、七生
男　正弘　大二、二生
女　貞子　大七、五生

君は静岡縣人鈴木豊松の兄にして明治五年九月を以て生れ先代清三郎の養子となり同三十一年家督相續と共に前名熊太郎を改め襲名す現時天龍木材會社專務取締役にして天龍製鋸村中木材商事各會社の重役を兼ぬ家族は尚四女房子(大九、一〇生)孫哲夫(昭三、二生、長男正太郎長男)同富士夫(同五、一生、同二男)あり(静岡縣磐田郡掛塚町電一五)

参照＝池田保平の項

稲川興一

從四位勳三等、海軍造艦少將、松尾工場㊣取締役、神戸製鋼所㊣顧問、東京府士族
妻　トシ　明二〇、一生、佐賀、伊丹誠一二女
男　達　大三、一生

君は東京府士族稲川豐の長男にして明治九年六月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し海軍に職を奉じ造船中技士に任ぜられ累進して造機少將に進む其間明治三十九年英國駐在仰付けられ同四十四年造船監督官となり大正四年艦政本部出仕を命ぜらる同六年東京帝國大學工科大學講師を囑託せられ同十一年海軍大學校教官海軍技術研究所研究部長等に歴補し後軍職を退き現時松尾工場會社取締役にして神戸製鋼所顧問を兼ぬ家族は尚二男徹(大六、四生)あり長女シヅ(明四二、一一生、御茶の水高女出身)は佐賀縣人水町雄次長男秀雄に二女カヅ(明四四、一一生、府立第三高女出身)は東京府人茂見義夫長男義勝に嫁せりA二三五(東京市淀橋區十二社二六一電四谷五六四三)

参照＝水町雄次※岩松玄十の項

稲越房吉

稲越鑄造所㊣社長、東京府在籍
妻　せい　明二一、二生、東京、中村泰藏妹
男　兼房　明三八、八生
婿　マサ　明四五、四生、長男兼房妻、新潟、川瀬文藏四女
孫子　孝一　明三六、一二生、二女千代夫、新潟、山内醒一郎弟
女　千代　明四三、一〇生、養子孝一妻
女　美津子　大八、一生

君は東京府士族金田直道の四男にして明治十四年八月十三日を以て生れ先代石之助の養子となり大正九年家督を相續す現時稲越鑄造所社長たり家族は尚三男實(大一一、七生)六女すみ子(同一四、八生)孫豊(昭五、九生、長男兼房長男)同治代(同八、一生、同長女)同和子(同六、三生、養子孝一長女)同眞(同八、八生、同長男)ありA一〇三〇(千葉縣東葛飾郡市川町電二三七)

稲澤清起智

飛島組㊣常務取締役、横須賀埋立土地、雄谷川電力各㊣取締役、鎌倉山住宅、日本自動車道各㊣監査役、辯護士、磯井縣在籍
母　つね　慶應二、二生、磯井、向川善四郎長女
妻　トシ　清英二女
男　仁平　大五、七生

君は磯井縣人稲澤清兵衛の二男にして明治二十四年三月を以て生れ同三十一年家督を相續す大正六年明治大學法科を卒業し判事となる現時辯護士にして前記各會社の重役たり姉タマノ(明一九、九生)は廣島縣人上岡和作弟謙市に嫁せりA六〇二(東京市牛込區白銀町二八電牛込二〇四五)

稲澤麟藏

住友銀行㊣檢査役、磯島縣士族
母　ソノ　安政元、五生、佐久間太郎左衛門長女
妻　トシ　明二六、一〇生、故貴族院議員關清英二女
男　仁平　大五、七生

君は磯島縣士族稲澤隆藏の三男にして明治十五年六月を以て生れ同四十一年兄二郎の後を襲ひ家督を相續す同三十八年東京高等商業學校を卒業し直に住友銀行に入り神戸倫敦各支店副支配人川口横濱各支店長を經て昭和二年神戸支店長に進みしが現時同行檢査役たり義に同行運系銀行たる百六銀行平和銀行の各監査役たり事あり家族は尚二男光平(大一一、八生)あり妹千代(明二一、三生)は林學博士金平亮三に嫁し姉英子(同六、一〇生)は磯島縣人故持地六三郎の未亡人たりA四二〇(東京市品川區大井出石町五〇五〇電大森二四二三)

参照＝金平亮三※片山拓の項

稲田勝

稲田家旅館、旅館業、大阪府在籍
繼母　さと　明三、一〇生、大阪、荒田喜一妻
妻　しづこ　明四二、一二生、兵庫、三村庄之助二女
男　正幸　昭三、三生

君は大阪府人稲田林之助の長男にして明治三十八年一月五日を以て生れ大正十二年家督を相續す稲田家旅館と稱し旅館業を營む家族は尚二男耕造(昭七、一二生)あり(大阪市南區大和町四五電南七二五八)

稲田競

正五位勳四等、判事、大審院判事、三重縣在籍
母　ならへ　慶應元、八生、養祖父彦作長女
妻　貞　明二九、一〇生、三重、山本修一妹、三重縣立阿山高女出身
男　穣一　大五、九生、愛知縣立第一中學出身
女　美榮　大七、一〇生、三輪田高女在學

君は三重縣人稲田久郎の二男にして明治十六年十二月を以て生れ同四十二年東京帝國大學を卒業し同四十五年判事に任じ爾來長崎區同地方各裁判所判事長崎控訴院判事宮崎長崎各地方裁判所部長等に歴補し大正十四年長崎控訴院部長に補し昭和三年名古屋地方裁判所部長同五年名古屋控訴院部長となり現時前記の官職に在り同二年陪審制度視察を命ぜられ歐米各國に出張す家族は尚二男久也(同一一、二生)二女美穣(同

一四、一二生)兄節(明一四、一一生、現戸主)同妻みさ(同二九、八生、三重、士、瀧惣之助長女)及其子女あり(東京市牛込區赤城下町三四)

稲田定治郎

陶磁器商、大阪府在籍
養父　政吉　安政元、七生
妻　ヨネ　明一七、七生、大阪、田村伊三郎長女
男　政一　明三六、一二生
婿　トクエ　明四〇、一生、長男政一妻、大阪、永田桑七六女
男　定勝　明三八、九生
婿　奈美子　明四〇、一生、二男定勝妻、兵庫、淡路芳藏三女
女　千代　明四〇、六生

君は大阪府人武中定七の長男にして明治十年十一月を以て生れ稲田政吉の養子となり大正十年家督を相續し陶磁器商を營む家族は尚孫純郎(昭四、三生、長男政一長男)あり三男政治郎(明四三、一生)は大阪府に於て廢家武中氏を再興し二女ヒサ(同四四、九生)は兵庫縣人石川勝治孫豊一に嫁せりA三〇三(大阪市西區立賣堀南通一ノ三八電靭町六五六)

稲田三之助

從三位勳二等、錦鑑問祗候、早稲田大學教授、理工學部勤務、愛知縣在籍
妻　安　明一三、九生、鹿兒島、士、加納謙四女
男　龍一　大二、三生
女　富士子　大四、二生

君は愛知縣人稲田見龍の三男にして同龍吉の弟同進の兄なり明治九年五月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す明治三十三年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し通信技手となり等で遞信局技師に任じ新潟郵便局工務課長を命ぜらる同四十一年英米佛獨各國に留學を命ぜられ同四十三年遞信技師に任じ大正十年無線技術委員會の爲巴里に出張し引續きワシントン會議臨員を命ぜらる爾來通信局工務課長を經て工務局長となり後退官し錦鑑問祗候仰付けらる現時早稲田大學教授にして理工學部勤務たり家族は尚二男謙二大一〇、八生)三男三吉(同一四、三生)ありA四七五(東京市麻布區笄町一七六電青山五二〇〇)

参照＝稲田龍吉、稲田進の項

稲田實之助

大阪アルミニューム製作所㊣專務取締役、兵庫縣在籍
妻　はるゑ　明一七、七生、長崎、松本永五郎妹、堂島高女出身
養子　新太郎　大六、二生、弟禮之助長男
養子　忠治　明一八、四生、養子忠治妻
女　かつ　明二六、八生、亡二男正作妻、芦城、佐川貞一郎二女
婿　コムメ

君は兵庫縣人稲田淺五郎の長男にして同禮之助の兄なり明治十八年十月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十年大阪高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚姉みさ(明一四、一一生)あり(大阪府泉北郡濱寺町船尾電一七)

参照＝稲田檀之助の項

稲田信左衛門

久慈商事㊣代表取締役、茨城無盡㊣取締役、金融業、茨城縣在籍
妻　とめ　慶應三、六生、茨城、士、大内長妹
男　豊三　明二八、一〇生
養子　忠治　明二九、五生、四女かつ夫、芦城
女　かつ　明三八、四生、養子忠治妻
婿　コムメ　明二六、八生、亡二男正作妻、芦城、佐川貞一郎二女

君は茨城縣人先代信左衛門の三男にして同善九郎の弟同卓の叔父なり萬延元年三月を以て生れ明治十二年家督を相續し襲名す金融業を營み傍ら前記各會社の重役にして嘉に茨城縣多額納稅者に列す家族は尚孫みのる(大一一、四生、亡二男正作長女)あり長女ゆき(明二四、一生)は東京府人青山貫に嫁し姉ため(嘉永五、八生)は分家せり(茨城縣久慈郡太田町)

稲田進

從四位勳三等、醫學博士、岡山醫科大學教授、附屬醫院長、愛知縣在籍
妻　スミ　明二五、二生、醫學博士大西克知長女
男　榮　大三、一生

君は愛知縣人稲田見龍の四男にして同龍吉同三之助の弟なり明治十八年二月を以て生れ大正十一年兄宜四郎方より分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し同校醫化學教室に勤務し大正七年北里傳染病研究所講師同十年慶應醫科大學助教授同十年目本赤十字社山口支部病院長同十一年朝鮮總督府醫官京城醫學專門學校教授に歴任し同十三年より同十五年に亘り海外に留學す現時岡山醫科大學教授たり家族は尚二男邁五(大五、二生)三男正美(同九、一生)四男靈(同一一、六生)五男實(同一三、一〇生)六男豊(同一五、一二生)七男七郎(昭五、四生)あり(岡山市小橋町一〇一)

参照＝稲田三之助、稲田龍吉の項

稲田善助

乾物商、大阪府在籍
養母　あさ　明一七、一生、大阪、稲田和三郎長女
妻　美代　明三七、五生、養父善助長女
男　豊　明三七、五生、養父善助長女

君は大阪府人稲田卯三郎の三男にして明治三十六年八月を以て生れ先代善助の養子となり昭和九年家督を相續し前名德三郎を改め襲名す乾物商を營む家族は尚長男靖雄の外妹ふさ(明四〇、七生)同夫富三郎(同四〇、五生、奈良、柳原良造三男)及び叔母シカ(同二〇、三生)ありA三六三(大阪市北區市之町六電北三七四〇)

稲田善兵衛

山形商業銀行、山形電氣㊣取締役、山形電工業㊣監査役、折紙商、山形縣在籍
妻　スミ　明二五、二生、醫學博士大西克知長女
男　榮　大三、一生

君は山形縣人先代善兵衛の長男にして明治三十九年十月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名源太郎を改め襲名す折紙商を營み傍ら前記銀行諸會社の重役たり家族は姉良(明二三、三生)同夫利吉(同一八、九生、山形、五十嵐利左衛門二男)及其三男三女叔父善吉(同九、一〇生)あり姉ゐい(同二五、六生)は山形縣人伊藤源助弟隆に同幸(同二八、二生)は長野縣人土屋義幹に同イタ(同二九、一〇生)は山形縣人渡邊源吉に叔母サダ(同一六、一生)は同縣人坂野久兵衛長男久太郎に嫁し叔父和吉(同五、一一生)同妻シゲ(同一二、六生、山形、稲田善三郎三女)は其一男一女と共に分家し同德之助(同三、一二生)同龍吉(同八、一生)は共に山形縣人稲田善三郎の養子となれり(山形市旅籠町六七八電三六)